



講義内容  
2012

仏教学部

文学部

# 講 義 内 容

## 目次案内

### 専門教育科目

1. 仏教学部 … (2)  
    禅学科・仏教学科
  2. 文学部
- (1) 国文学科 … (5)
  - (2) 英米文学科 … (8)
  - (3) 地理学科 … (10)
  - (4) 歴史学科 … (13)
  - (5) 社会学科 社会学専攻 … (17)
  - (6) 社会学科 社会福祉学専攻 … (19)
  - (7) 心理学科 … (22)

※科目の並び順は、科目名の 50 音順、担当教員氏名の 50 音順でソートされています。

※全学共通科目、「日本語」・「日本事情」科目、随意科目、教職課程・資格講座科目は、別冊になっています。

(この冊子は平成 24 年 3 月 1 日現在の情報を元に作成しています。)

## 1. 仏 教 学 部

科目名	担当者名	履修コード	ページ
イスラム教概論	山崎 和美	008801	3
インド哲学史	金沢 篤	004401	4
インド仏教史	池田 練太郎	001701	4
インド仏教思想史	松本 史朗	004201	5
インド仏教文化史	金沢 篤	003801・003802	5
演習Ⅰ 演習Ⅱ	飯塚 大展	010501・010502	6
演習Ⅰ 演習Ⅱ	池上 光洋	011841・011842	6
演習Ⅰ 演習Ⅱ	池田 練太郎	009101・009102	7
演習Ⅰ 演習Ⅱ	石井 清純	011501・011502	7
演習Ⅰ 演習Ⅱ	石井 公成	009801・009802	8
演習Ⅰ 演習Ⅱ	石井 修道	009701・009702	8
演習Ⅰ 演習Ⅱ	岩永 正晴	009201・009202	9
演習Ⅰ 演習Ⅱ	奥野 光賢	010201・010202	9
演習Ⅰ 演習Ⅱ	片山 一良	010401・010402	9
演習Ⅰ 演習Ⅱ	金沢 篤	011201・011202	10
演習Ⅰ 演習Ⅱ	木村 誠司	011871・011872	10
演習Ⅰ 演習Ⅱ	熊本 英人	010301・010302	11
演習Ⅰ 演習Ⅱ	佐藤 秀孝	011401・011402	11
演習Ⅰ 演習Ⅱ	角田 泰隆	011851・011852	12
演習Ⅰ 演習Ⅱ	程 正	011831・011832	12
演習Ⅰ 演習Ⅱ	永井 政之	010601・010602	13
演習Ⅰ 演習Ⅱ	長谷部 八朗	010101・010102	13
演習Ⅰ 演習Ⅱ	藤井 淳	011861・011862	14
演習Ⅰ 演習Ⅱ	松田 陽志	011821・011822	14
演習Ⅰ 演習Ⅱ	松本 史朗	010701・010702	15
演習Ⅰ 演習Ⅱ	村松 哲文	011811・011812	15
演習Ⅰ 演習Ⅱ	吉津 宜英	010901・010902	16
演習Ⅰ 演習Ⅱ	吉村 誠	011601・011602	16
演習Ⅰ 演習Ⅱ	四津谷 孝道	011701・011702	17
外国語禪書講読	古山 健一	004101	17
外国語仏書講読	木村 誠司	007001	18
漢詩作法	須山 長治	007511	18
教化法	永井 政之	006451	19
キリスト教概論	土居 由美	007301	19
原始仏教	片山 一良	005301	20
現代哲学概説	久保 陽一	006901	20
坐禅Ⅰ	角田 泰隆 岩永 正晴	000401	21
坐禅Ⅰ	永井 政之 松田 陽志	000501	21
坐禅Ⅱ 坐禅Ⅰ	佐藤 秀孝 松田 陽志	009001・009002	22
サンスクリット語上級	金沢 篤	008001	22
サンスクリット語初級	金沢 篤	007901	23
宗教学概論	長谷部 八朗	006811	24
宗教学概論	矢野 秀武	006801	25
宗教教育	小山 一乗	007101・007102	26
宗教史	長谷部 八朗	003301	27

科目名	担当者名	履修コード	ページ
宗教哲学	河谷 淳	006001	28
宗教法概説	村上 興匡	007201	29
宗典	角田 泰隆	000701	29
宗典	松田 陽志	000601	30
浄土学概論	曾根 宣雄	005601	31
書道	綾部 宏行	007801	32
真言学概論	藤井 淳	005401	32
神道概説	嵐 義人	005801	33
心理学概論	間島 英俊	070901	34
青少年指導演習	渡邊 浩司	006701・006702	35
青少年問題研究	讃岐 真佐子	006601・006602	36
禅学特講Ⅲ	清野 宏道	004701	37
禅学特講Ⅳ	伊藤 良久	004801	38
禅思想概説 禅学研究Ⅰ	石井 修道	000901・000902	38
禅心理学	池上 光洋	008911	39
禅籍講読Ⅰ	程 正	002501	39
禅籍講読Ⅱ	佐藤 秀孝	002601	40
禅籍講読Ⅲ	岩永 正晴	002701	40
禅美術	村松 哲文	006101・006102	41
チベット語上級	木村 誠司	008401	41
チベット語初級	松本 史朗	008301	42
チベット仏教史	四津谷 孝道	001901	43
中国古典語Ⅰ	吉村 誠	003511	44
中国古典語Ⅱ	小川 隆	008511	44
中国禅宗史	石井 修道	002301	45
中国哲学史	前川 亨	007401	46
中国仏教史	吉村 誠	002001	47
中国仏教思想史	吉津 宜英	004301	47
中国仏教文化史	程 正	003901・003902	48
朝鮮仏教史	石井 公成	002101	48
哲学概説	杉田 正樹	007601	49
日用経典	飯塚 大展	003401	49
日本禅宗史	佐藤 秀孝	002401	49
日本哲学史	久保 陽一	007411	50
日本仏教史	飯塚 大展	002201	51
日本仏教文化史	藤井 淳	004001・004002	51
パリー語上級	古山 健一	008201	52
パリー語初級	片山 一良	008101	52
パリー仏教史	矢島 道彦	001801	53
仏教・禅教団論 禅学研究Ⅲ	熊本 英人 吉津 宜英	001101・001102	54
仏教・禅教団論 仏教研究Ⅲ	熊本 英人 吉津 宜英	001501・001502	55
仏教学入門 禅学序説 仏教学序説	岩永 正晴	000101・000102・ 000103	56
仏教学入門 禅学序説 仏教学序説	片山 一良	000201・000202・ 000203	56
仏教漢文入門	石井 公成	000331	57
仏教漢文入門	須山 長治	000311	57
仏教漢文入門	須山 長治	000321	58

仏教学部

科目名	担当者名	履修コード	ページ
仏教漢文入門	吉村 誠	000341	58
仏教漢文入門	吉村 誠	000351	59
仏教語・禅語解説 仏教研究Ⅱ	奥野 光賢 程 正	001401・001402	59
仏教語・禅語解説 禅学研究Ⅱ	程 正 奥野 光賢	001001・001002	60
仏教思想概説 仏教研究Ⅰ	池田 練太郎	001301・001302	60
仏教特講Ⅰ	新井 一光	004901	61
仏教特講Ⅱ	山本 元隆	005001	61
仏教特講Ⅲ	徳野 崇行	005101	62
仏教特講Ⅳ	渡邊 幸江	005201	63
仏教美術	村松 哲文	006201・006202	63
仏教文献学	堀川 貴司	008901	64
仏教民俗学	佐藤 憲昭	006301・006302	65
仏典・禅籍解説 禅籍講読Ⅳ	松田 陽志 四津谷 孝道	002801・002802	66
仏典・禅籍解説 仏典講読Ⅳ	四津谷 孝道 松田 陽志	003201・003202	67
仏典講読Ⅰ	藤井 淳	002901	68
仏典講読Ⅱ	奥野 光賢	003001	68
仏典講読Ⅲ	飯塚 大展	003101	69
ラテン語	上野 勝広	028101	70
真宗学概論	休講		
新宗教概説	休講		
禅学研究Ⅳ	休講		
禅学特講Ⅰ	休講		
禅学特講Ⅱ	休講		
中国文学	休講		
日蓮教学概論	休講		
仏教研究Ⅳ	休講		

## 2. 文学部

## (1) 国文学科

科目名	担当者名	履修コード	ページ
演劇概論	阿部 由香子	016601	73
漢文学	和田 和子	012901	74
漢文学	和田 和子	013001	74
基礎国語学	高田 智和	012101	75
基礎国語学	原 裕	012201	75
基礎国文学 I	近衛 典子	012501	75
基礎国文学 I	櫻井 陽子	012301	76
基礎国文学 I	湯浅 幸代	012401	76
基礎国文学 II	岡田 豊	012601	77
基礎国文学 II	勝原 晴希	012801	77
基礎国文学 II	高田 知波	012701	78
近世文学研究 II	川元 ひとみ	014801	78
近代文学研究 I	榎本 正樹	014901	79
近代文学研究 II	高田 知波	015001	79
国語学研究 II	木村 一	014001	80
国語学史	木村 一	013801	80
国語学特講 I	山本 真吾	015101	81
国語学特講 II	高田 智和	015201	81
国語国文学演習 I	岡田 豊	018901	82
国語国文学演習 I	勝原 晴希	019101	82
国語国文学演習 I	近衛 典子	018701	83
国語国文学演習 I	櫻井 陽子	018501	83
国語国文学演習 I	高田 知波	019001	84
国語国文学演習 I	田中 徳定	018601	84
国語国文学演習 I	土井 光祐	018001	85
国語国文学演習 I	中嶋 真也	018101	85
国語国文学演習 I	松井 健児	018301	86
国語国文学演習 I	湯浅 幸代	018401	86
国語国文学演習 II	岡田 豊	020201	87
国語国文学演習 II	勝原 晴希	020401	88
国語国文学演習 II	川島 淳史	020551	88
国語国文学演習 II	近衛 典子	020001	89
国語国文学演習 II	櫻井 陽子	019801	89
国語国文学演習 II	高田 知波	020301	90
国語国文学演習 II	田中 徳定	019901	90
国語国文学演習 II	土井 光祐	019301	91
国語国文学演習 II	中嶋 真也	019401	91
国語国文学演習 II	松井 健児	019501	92
国語国文学演習 II	湯浅 幸代	019601	92
国語国文学演習 III	岡田 豊	021401	93
国語国文学演習 III	勝原 晴希	021601	93
国語国文学演習 III	近衛 典子	021201	94
国語国文学演習 III	櫻井 陽子	021001	94
国語国文学演習 III	高田 知波	021501	94
国語国文学演習 III	田中 徳定	021101	95

国文学科

科目名	担当者名	履修コード	ページ
国語国文学演習Ⅲ	土井 光祐	020601	95
国語国文学演習Ⅲ	中嶋 真也	020701	95
国語国文学演習Ⅲ	松井 健児	020801	96
国語国文学演習Ⅲ	湯淺 幸代	020901	96
国語史	山本 真吾	013701	97
国文学史ⅠA (古典) 国文学史Ⅰ (古典)	鈴木 裕子	013301・013302	98
国文学史ⅠB (古典) 国文学史Ⅰ (古典)	蘭部 幹生	013401・013402	99
国文学史ⅡA (近現代) 国文学史Ⅱ (近現代)	小林 治	013501・013502	100
国文学史ⅡB (近現代) 国文学史Ⅱ (近現代)	松田 直行	013601・013602	101
国文学特講Ⅰ	兼岡 理恵	015301	102
国文学特講Ⅹ	牧野 節子	016201	102
国文学特講Ⅺ	榎本 正樹	016301	103
国文学特講Ⅱ	渡部 泰明	015401	103
国文学特講Ⅲ	渡部 泰明	015501	104
国文学特講Ⅳ	三澤 裕子	015601	105
国文学特講Ⅴ	佐藤 武光	015701	106
国文学特講Ⅵ	津島 知明	015801	107
国文学特講Ⅶ	竹内 正彦	015901	107
国文学特講Ⅷ	閻 小妹	016001	108
国文学特講Ⅸ	倉田 容子	016101	109
児童文学	牧野 節子	016901	110
上代文学研究Ⅱ	中嶋 真也	014201	110
書道概論	金子 大蔵	017401	111
書道史	那須 隆吉	017301・017302	111
書道実習Ⅰ	金子 大蔵	017501	112
書道実習Ⅱ	那須 隆吉	017601	112
書道実習Ⅲ	那須 隆吉	017701	113
西洋思想史	河谷 淳	016701	113
中国文学 中国歴史文学	田熊 信之	016401・016402	114
中古文学研究Ⅱ	松井 健児	014401	115
中世文学研究Ⅱ	田中 徳定	014601	115
東洋思想史	末木 恭彦	016801・016802・ 016803	116
日本語文法入門	土井 光祐	021051	117
日本語文法入門	原 裕	021061	117
日本史概説	松本 信道 菅野 洋介 岩崎 孝和 浅倉 直美	043711	118
日本文化史	廣瀬 良弘	047111・047112	118
日本民俗学	谷口 貢	017101・017102・ 017103	119
比較文学	畑中 千晶	017001	119
美術史概説	北野 良枝	017801・017802・ 017803	120
編集実務	小檜山 範男	017201・017202	121
民間信仰論	谷口 貢	017901・017902・ 017903	122
有職故実	近藤 好和	016501	122
近世文学研究Ⅰ	休講		

科目名	担当者名	履修コード	ページ
国語学研究 I	休講		
上代文学研究 I	休講		
中古文学研究 I	休講		
中世文学研究 I	休講		



## (2) 英米文学科

科目名	担当者名	履修コード	ページ
アメリカ文学演習Ⅰ	佐藤 江里子	027401	125
アメリカ文学演習Ⅱ	梶台 七重	027501	126
アメリカ文学演習Ⅲ	松本 昇	027601	126
アメリカ文学演習Ⅳ	古富 猛	027701	126
アメリカ文学演習Ⅴ	佐藤 千春	027801	127
アメリカ文学史	佐藤 千春	025201	127
アメリカ文学特講Ⅰ	東 雄一郎	026401	128
アメリカ文学特講Ⅱ	馬場 聡	026501	129
アメリカ文学特講Ⅳ	梶台 七重	026701	130
アメリカ文学特講Ⅴ	林 明人	026801	131
イギリス文学演習Ⅰ	河崎 征俊	026901	131
イギリス文学演習Ⅱ	川崎 明子	027001	132
イギリス文学演習Ⅲ	高野 正夫	027101	132
イギリス文学演習Ⅴ	大淵 利春	027301	133
イギリス文学史Ⅰ	河崎 征俊	025301	133
イギリス文学史Ⅱ	加藤 光也	025401	134
イギリス文学特講Ⅰ	石原 孝哉	025601	134
イギリス文学特講Ⅱ	高野 正夫	025701	135
イギリス文学特講Ⅲ	濱口 真木	025801	135
イギリス文学特講Ⅳ	落合 真裕	025901	136
イギリス文学特講Ⅴ	モート、セーラ	026001	136
イギリス文学特講Ⅵ	西原 克政	026101	137
英語演習 作品講読Ⅰ	加藤 光也	023201・023202	137
英語演習 作品講読Ⅰ	唐澤 一友	023101・023102	138
英語演習 作品講読Ⅰ	川崎 明子	023401・023402	138
英語演習 作品講読Ⅰ	佐藤 真二	023301・023302	138
英語学演習Ⅰ	ピアス、D. M.	029101	139
英語学演習Ⅰ	三浦 弘	029001	140
英語学演習Ⅱ	唐澤 一友	029201	141
英語学演習Ⅲ	町田 尚子	029301	142
英語学演習Ⅳ	狩野 晃一	029401	143
英語学概論	佐藤 真二	024701	144
英語史	唐澤 一友	025501	145
英語表現法	川崎 明子	025101	146
英語表現法	河崎 征俊	024901	146
英語表現法	佐藤 千春	025001	147
英語表現法	モート、セーラ	024801	147
英作文演習	東 雄一郎	028801	148
英作文演習	馬場 聡	028901	149
英米思想史	麻生 享志	028501	150
英米文化	広川 治	028301	150
演劇演習 (イギリス・アメリカ)	広川 治	026301	151
演劇特講 (イギリス・アメリカ)	落合 和昭	026201	152
オーラル・イングリッシュ	シャープ、J.	029901	153
オーラル・イングリッシュ	シャープ、J.	030001	154
オーラル・イングリッシュ	ダーリン、M.	029701	155
オーラル・イングリッシュ	マーティン、S. F.	029601	156
オーラル・イングリッシュ	レイン、R. V.	029801	157

科目名	担当者名	履修コード	ページ
外国文学	武田 利勝	028401	157
ギリシャ語	長谷川 岳男	028201	158
現代美術	矢野 陽子	028601・028602	159
作品講読 作品講読Ⅱ	東 雄一郎	024201・024202	160
作品講読 作品講読Ⅱ	加藤 光也	023901・023902	160
作品講読 作品講読Ⅱ	川崎 明子	024001・024002	161
作品講読 作品講読Ⅱ	佐藤 千春	024101・024102	161
3年次ゼミ	東 雄一郎	030801	162
3年次ゼミ	加藤 光也	031201	162
3年次ゼミ	唐澤 一友	030181	163
3年次ゼミ	川崎 明子	031191	163
3年次ゼミ	河崎 征俊	030201	164
3年次ゼミ	佐藤 真二	031101	164
3年次ゼミ	佐藤 千春	030901	165
3年次ゼミ	高野 正夫	030401	165
3年次ゼミ	モート. セーラ	030601	166
時事英語	唐澤 一友	027901	166
商業英語	秋葉 滋	028001	167
スピーチ・アンド・コミュニケーションⅠ	マーティン. S. F.	023701	168
スピーチ・アンド・コミュニケーションⅠ	マーティン. S. F.	023801	169
スピーチ・アンド・コミュニケーションⅠ	モート. セーラ	023501	170
スピーチ・アンド・コミュニケーションⅠ	レイン. R. V.	023601	171
スピーチ・アンド・コミュニケーションⅡ	シャープ. J.	024301	172
スピーチ・アンド・コミュニケーションⅡ	シャープ. J.	024401	173
スピーチ・アンド・コミュニケーションⅡ	ダーリン. M.	024601	174
スピーチ・アンド・コミュニケーションⅡ	モート. セーラ	024501	175
TOEIC (R)・TOEFL (R) 講座	富士川 美紀	029511	176
TOEIC (R)・TOEFL (R) 講座	富士川 美紀	029531	177
TOEIC (R)・TOEFL (R) 講座	レイン. R. V.	029521	178
日本文化史	廣瀬 良弘	047111・047112	178
翻訳演習	高野 正夫	026611	179
4年次ゼミ	東 雄一郎	031251	179
4年次ゼミ	加藤 光也	031281	180
4年次ゼミ	唐澤 一友	031291	180
4年次ゼミ	川崎 明子	031331	180
4年次ゼミ	河崎 征俊	031211	181
4年次ゼミ	佐藤 真二	031271	181
4年次ゼミ	佐藤 千春	031261	181
4年次ゼミ	高野 正夫	031231	182
4年次ゼミ	モート. セーラ	031241	182
ラテン語	上野 勝広	028101	183

## (3) 地理学科

科目名	担当者名	履修コード	ページ
G I S実習	田中 靖	039551	187
アジア地誌	江口 卓 高橋 健太郎	034401	188
アメリカ地誌	石井 久生	034501	189
応用地理学	高木 正博	038501	190
外国地誌特講	湯田 ミノリ	034301	190
外書講読	佐藤 哲夫	035001	191
環境地理学	鈴木 重雄	038301	192
気候学	江口 卓	040101	193
気候学実習	江口 卓	040201	194
景観地理学	須山 聡	041311	195
経済地理学	矢延 洋泰	034701	196
計量地理学	土'谷 敏治	038601	197
計量地理学実習	土'谷 敏治	040801	198
交通地理学	土'谷 敏治	032901	199
産業地域論	須山 聡	034801	200
自然地理学実習 (地図学実習含む)	江口 卓	031801	201
自然地理学実習 (地図学実習含む)	江口 卓	037801	202
自然地理学実習 (地図学実習含む)	鈴木 秀和	031901	202
自然地理学実習 (地図学実習含む)	鈴木 秀和	037601	203
自然地理学実習 (地図学実習含む)	高木 正博	031701	203
自然地理学実習 (地図学実習含む)	田中 靖	037701	204
自然地理学入門 地域環境研究概説	田中 靖 鈴木 秀和 高木 正博 江口 卓	038201・038202	205
社会地理学	伊藤 修一	034901	206
人口地理学	鄭 美愛	035101	207
人文地理学実習 (地図学実習含む)	小田 匡保	032301	208
人文地理学実習 (地図学実習含む)	小田 匡保	038001	208
人文地理学実習 (地図学実習含む)	須山 聡	032201	209
人文地理学実習 (地図学実習含む)	高橋 健太郎	037901	210
人文地理学実習 (地図学実習含む)	土'谷 敏治	038101	211
人文地理学実習 (地図学実習含む)	橋詰 直道	032101	211
人文地理学入門 地域文化研究概説	櫻井 明久 土'谷 敏治 小田 匡保 佐藤 哲夫 橋詰 直道 須山 聡 高橋 健太郎	032501・032502	212
水文学	鈴木 秀和	040301	213
水文学実習	高木 正博	040401	213
図学実習	吉田 健洋	039801	214
生物地理学	渋谷 園実	040701	214
測量学	田中 靖	040901	215
村落地理学	高橋 健太郎	032701	216
第四紀学	鈴木 毅彦	041101・041102	217

科目名	担当者名	履修コード	ページ
地域概論	櫻井 明久	033301	217
地域環境演習 E	田中 靖	041801	218
地域環境調査法 (現地調査含む) B	江口 卓	039101	219
地域環境調査法 (現地調査含む) D	高木 正博	039301	220
地域環境調査法 (現地調査含む) F	鈴木 秀和	039501	220
地域計画論	佐藤 哲夫	038701	221
地域研究論	佐藤 哲夫	033351	222
地域調査入門 A	小田 匡保	034011	223
地域調査入門 B	高橋 健太郎	034021	223
地域調査入門 D	須山 聡	039611	224
地域文化演習 E	佐藤 哲夫	036001	225
地域文化演習 F	高橋 健太郎	036101	226
地域文化調査法 (現地調査含む) A	櫻井 明久	033401	227
地域文化調査法 (現地調査含む) B	須山 聡	033501	228
地域文化調査法 (現地調査含む) C	土谷 敏治	033601	229
地域文化調査法 (現地調査含む) D	橋詰 直道	033701	230
地球物理学	柳田 誠	040501	230
地形学	大上 隆史	039901・039902	231
地形学実習	清水 長正	040001	231
地図学	野々村 邦夫	038901	232
地理学演習	江口 卓	042301	233
地理学演習	小田 匡保	036401	234
地理学演習	櫻井 明久	036701	234
地理学演習	佐藤 哲夫	036201	235
地理学演習	鈴木 秀和	042001	236
地理学演習	須山 聡	036301	236
地理学演習	高木 正博	042201	237
地理学演習	高橋 健太郎	036501	238
地理学演習	田中 靖	042501	238
地理学演習	土谷 敏治	036801	239
地理学演習	橋詰 直道	036601	240
地理学特講 I	橋詰 直道	041201	240
地理学特講 II	須山 聡	035301	241
地理学特講 III	澤渡 貞男	035401	242
地理学特講 IV	山縣 毅	035501	243
地理学特講 V	平井 史生	041301	244
地理情報論	王尾 和寿	038401	245
都市地理学	橋詰 直道	032801	246
土壌地理学	漆原 和子	040601	246
日本地誌	橋詰 直道	034201	247
文化生態学	中俣 均	032601	248
文化地理学	小田 匡保	033101	249
ヨーロッパ地誌	岩間 信之	034601	250
リモートセンシング	田中 靖	038801	251
歴史地理学	小田 匡保	033001	252
歴史地理学実習	小田 匡保	035201	252
現代地理学特論	休講		
地域環境演習 A	休講		
地域環境演習 B	休講		
地域環境演習 C	休講		

地理学科

科目名	担当者名	履修コード	ページ
地域環境演習D	休講		/
地域環境演習F	休講		/
地域環境調査法（現地調査含む）A	休講		/
地域環境調査法（現地調査含む）C	休講		/
地域環境調査法（現地調査含む）E	休講		/
地域調査入門C	休講		/
地域調査入門E	休講		/
地域調査入門F	休講		/
地域文化演習A	休講		/
地域文化演習B	休講		/
地域文化演習C	休講		/
地域文化演習D	休講		/
地域文化調査法（現地調査含む）E	休講		/
地域文化調査法（現地調査含む）F	休講		/

## (4) 歴史学科

科目名	担当者名	履修コード	ページ
外国考古学概説	飯島 武次	044401・044402	255
外国史学基礎演習 東洋史学基礎演習 西洋史学基礎演習	大城 道則	043521・043522・ 043523	255
外国史学基礎演習 西洋史学基礎演習 東洋史学基礎演習	佐々木 真	055631・055632・ 055633	256
外国史学基礎演習 西洋史学基礎演習 東洋史学基礎演習	高田 良太	055621・055622・ 055623	257
外国史学基礎演習 東洋史学基礎演習 西洋史学基礎演習	中村 淳	043511・043512・ 043513	258
ギリシャ語	長谷川 岳男	028201	258
記録史科学Ⅰ	松本 信道 久保田 昌希 鈴木 雅晴	046301	259
記録史科学Ⅱ	熊本 史雄 小泉 雅弘	044811	260
考古学演習Ⅰ	飯島 武次	054601	261
考古学演習Ⅰ	酒井 清治	054501	261
考古学演習Ⅰ	寺前 直人	054611	262
考古学演習Ⅱ	飯島 武次	056001	262
考古学演習Ⅱ	酒井 清治	055901	263
考古学演習Ⅱ	寺前 直人	056101	263
考古学各説Ⅰ	近藤 英夫	052311	264
考古学各説Ⅲ	三宅 俊彦	052511	265
考古学基礎演習	寺前 直人	043531	266
考古学史	小柳 美樹	045601	266
考古学実習(実測)	杉山 浩平	045911	267
考古学実習(写真)	塚原 明生	045701	267
考古学実習(情報)	小柳 美樹	046101	268
考古学実習(測量)	古庄 浩明	045801	268
考古学特講Ⅰ	酒井 清治	052711・052712	269
考古学特講Ⅲ	小林 謙一	052911・052912	270
考古学特講Ⅴ	寺前 直人	053011・053012	271
考古学特講Ⅶ	矢野 和之	053031・053032	271
考古発掘実習	酒井 清治 飯島 武次 寺前 直人	046201	272
古文書研究Ⅰ	廣瀬 良弘	046401	272
古文書研究Ⅱ	湯浅 隆	046501	273
西域美術史	松平 美和子	053101・053102	273
史学概論	佐々木 真	043601	274
西洋史概説	大城 道則	044111	275
西洋史学演習Ⅰ	大城 道則	054711	275
西洋史学演習Ⅰ	佐々木 真	054301	276
西洋史学演習Ⅰ	高田 良太	054721	276
西洋史学演習Ⅰ	伏島 正義	054401	277
西洋史学演習Ⅱ	大城 道則	056211	277
西洋史学演習Ⅱ	佐々木 真	055701	278
西洋史学演習Ⅱ	高田 良太	056221	278

歴史学科

科目名	担当者名	履修コード	ページ
西洋史学演習Ⅱ	伏島 正義	055801	278
西洋史各説Ⅱ	庄司 啓一	051101	279
西洋史各説Ⅳ	白川 耕一	051301	280
西洋史特講Ⅰ	伏島 正義	051401	281
西洋史特講Ⅲ	佐々木 真	051601	281
西洋史特講Ⅴ	大城 道則	051801	282
西洋史特講Ⅶ	高田 良太	051821	283
西洋史文献史料講読Ⅱ	伏島 正義	045201	283
西洋史文献史料講読Ⅳ	佐々木 真	045221	284
西洋史文献史料講読Ⅵ	大城 道則	045241	284
西洋史文献史料講読Ⅷ	井上 文則	045261	284
西洋史文献史料講読Ⅹ	菊池 紘一	045281	285
西洋史文献史料講読Ⅺ	高田 良太	045291	285
西洋史文献史料講読Ⅻ	土方 史織	045311	286
西洋文化史	田中 佳	046911・046912	286
世界史概説	井村 行子	044201・044202	287
世界史概説	小林 惣八	056501・056502	287
中国文学 中国歴史文学	田熊 信之	016401・016402	288
哲学史	山口 祐弘	053201	288
東洋史概説	杉山 清彦	043911	289
東洋史学演習Ⅰ	中村 淳	054101	289
東洋史学演習Ⅱ	杉山 清彦	055611	290
東洋史学演習Ⅲ	中村 淳	055501	290
東洋史各説Ⅰ〔古代史〕	山口 洋	048511	291
東洋史各説Ⅲ〔中世史〕	石田 肇	048711	292
東洋史各説Ⅳ〔近世史〕	宮壽 洋一	048811	292
東洋史各説Ⅴ〔近・現代史〕	長谷部 圭彦	048911	293
東洋史特講Ⅱ〔中世史〕	中村 淳	049611	294
東洋史特講Ⅲ〔近世史〕	上田 裕之	049711	295
東洋史特講Ⅳ〔近・現代史〕	藤谷 浩悦	049811	295
東洋史特講Ⅴ〔アジア諸民族史〕	野田 仁	049911	296
東洋史特講Ⅵ〔アジア諸民族史〕	四日市 康博	050011	297
東洋史文献史料講読Ⅳ	中村 淳	045021	298
東洋史文献史料講読Ⅵ	豊岡 康史	045041	298
東洋史文献史料講読Ⅷ	田中 靖彦	045061	299
東洋史文献史料講読Ⅹ	石川 重雄	045081	299
東洋史文献史料講読Ⅻ	上田 裕之	045111	300
日本近世史	中野 達哉	047511	300
日本近代史	熊本 史雄	047611	301
日本考古学概説	酒井 清治	044301・044302	302
日本古代史	瀧音 能之	047311	302
日本史概説	小泉 雅弘	056401・056402	303
日本史概説	野尻 かおる	056301・056302	304
日本史概説	松本 信道 菅野 洋介 岩崎 孝和 浅倉 直美	043711	304
日本史学演習Ⅰ	久保田 昌希	054001	305
日本史学演習Ⅱ	熊本 史雄	053901	305
日本史学演習Ⅲ	小泉 雅弘	053701	306

科目名	担当者名	履修コード	ページ
日本史学演習Ⅰ	瀧音 能之	053601	306
日本史学演習Ⅰ	中野 達哉	053401	307
日本史学演習Ⅰ	廣瀬 良弘	053501	307
日本史学演習Ⅰ	松本 信道	054701	308
日本史学演習Ⅰ	湯淺 隆	053801	308
日本史学演習Ⅱ	久保田 昌希	055401	308
日本史学演習Ⅱ	熊本 史雄	055301	309
日本史学演習Ⅱ	小泉 雅弘	055101	309
日本史学演習Ⅱ	瀧音 能之	055001	309
日本史学演習Ⅱ	中野 達哉	054801	310
日本史学演習Ⅱ	廣瀬 良弘	054901	310
日本史学演習Ⅱ	松本 信道	056201	311
日本史学演習Ⅱ	湯淺 隆	055201	311
日本史学基礎演習	熊本 史雄	043311	312
日本史学基礎演習	小泉 雅弘	043411	312
日本史学基礎演習	中野 達哉	043541	313
日本史学史	湯淺 隆	045301	313
日本史史料講読Ⅰ	瀧音 能之	044501	314
日本史史料講読Ⅱ	小松 寿治	044601	314
日本史史料講読Ⅲ	中野 達哉	044701	315
日本史史料講読Ⅳ	小泉 雅弘	044801	316
日本史特講Ⅰ〔古代〕	宇佐美 正利	047701	316
日本史特講Ⅱ〔古代〕	古谷 紋子	047801	317
日本史特講Ⅲ〔中世〕	今野 慶信	047901	317
日本史特講Ⅳ〔中世〕	吉田 政博	048101	318
日本史特講Ⅴ〔近世〕	滝口 正哉	048201	318
日本史特講Ⅵ〔近世〕	出口 宏幸	048301	319
日本史特講Ⅶ〔近代〕	熊本 史雄	048401	320
日本中世史	久保田 昌希	047411	321
日本仏教史	松本 信道	046601・046602	321
日本文化史	廣瀬 良弘	047111・047112	322
日本民俗学	谷口 貢	017101・017102・ 017103	322
美術史概説	北野 良枝	017801・017802・ 017803	323
仏教美術	村松 哲文	006201・006202	323
有戦故実	近藤 好和	016501	324
ラテン語	上野 勝広	028101	325
歴史地理学	小田 匡保	033001	326
考古学各説Ⅱ	休講		
考古学各説Ⅳ	休講		
考古学特講Ⅱ	休講		
考古学特講Ⅳ	休講		
考古学特講Ⅵ	休講		
考古学特講Ⅷ	休講		
西洋史各説Ⅰ	休講		
西洋史特講Ⅱ	休講		
西洋史各説Ⅲ	休講		
西洋史特講Ⅳ	休講		
西洋史特講Ⅵ	休講		



歴史学科

科目名	担当者名	履修コード	ページ
西洋史特講Ⅶ	休講		/
西洋史文献史料講読Ⅰ	休講		/
西洋史文献史料講読Ⅲ	休講		/
西洋史文献史料講読Ⅴ	休講		/
西洋史文献史料講読Ⅶ	休講		/
西洋史文献史料講読Ⅸ	休講		/
東洋史各説Ⅱ	休講		/
東洋史各説Ⅵ	休講		/
東洋史特講Ⅰ	休講		/
東洋史文献史料講読Ⅰ	休講		/
東洋史文献史料講読Ⅱ	休講		/
東洋史文献史料講読Ⅲ	休講		/
東洋史文献史料講読Ⅴ	休講		/
東洋史文献史料講読Ⅶ	休講		/
東洋史文献史料講読Ⅸ	休講		/
東洋史文献史料講読Ⅺ	休講		/
日本史特講Ⅷ	休講		/

# (5) 社会学科

## 社会学専攻

科目名	担当者名	履修コード	ページ
外書講読演習	山田 信行	058281	329
家族とジェンダーの社会学A	松信 ひろみ	058451	329
環境社会学	品田 知美	058751	330
環境心理学	林 久美	073401	331
基礎文献講読演習	片岡 栄美	058091	332
基礎文献講読演習	深澤 弘樹	058061	333
基礎文献講読演習	松信 ひろみ	058081	333
基礎文献講読演習	山田 信行	058071	334
行政法	鷄徳 啓登	058501	334
経済原論	福田 慎	117501	335
現代社会学理論研究	岩瀬 庸理	058881	336
国際社会学論	山田 信行	058671	336
災害社会学	小嶋 直子	058741	337
産業心理学	大谷 華	073601	337
産業と変動の社会学	山田 信行	058371	338
質的調査法演習	深澤 弘樹	058241	339
児童心理学	澤田 匡人	073501	340
市民社会学論	李 妍炎	058311	340
社会階層論	片岡 栄美	058621	341
社会学演習 I	牛島 千尋	061501	341
社会学演習 I	片岡 栄美	060801	342
社会学演習 I	坪井 健	061301	342
社会学演習 I	深澤 弘樹	061101	343
社会学演習 I	松信 ひろみ	061511	344
社会学演習 I	山田 信行	060901	344
社会学演習 I	李 妍炎	061401	345
社会学演習 II	牛島 千尋	062101	345
社会学演習 II	坪井 健	062001	346
社会学演習 II	深澤 弘樹	061801	346
社会学演習 II	松信 ひろみ	062311	347
社会学演習 II	山田 信行	062201	347
社会学演習 II	李 妍炎	062301	348
社会学概論	坪井 健	057501	349
社会学基礎研究	山田 信行 坪井 健 深澤 弘樹 牛島 千尋 李 妍炎 松信 ひろみ 片岡 栄美	057701	350
社会学原論	橋爪 敏	060001・060002	350
社会学古典研究	山田 信行	058221	351
社会学史	李 妍炎	058401	351
社会学特殊講義C	深澤 弘樹	058851	352
社会学特殊講義D	明戸 隆浩	058861	353

社会学科 社会学専攻

科目名	担当者名	履修コード	ページ
社会参加実習	李 妍炎	058261	354
社会心理学A	坪井 健	058331・058332	354
社会心理学B	坪井 健	058341・058342	355
社会政策	光岡 博美	091001	355
社会調査	牛島 千尋	057601	356
社会調査実習	二方 龍紀	060321	357
社会調査実習	松信 ひろみ	060301	358
社会調査実習	三田 知実	060311	359
社会統計学演習	片岡 栄美	060201	360
宗教人類学	佐藤 憲昭	075001・075002・ 075003	361
宗教文化論A	芳賀 学	058641	362
宗教文化論B	芳賀 学	058651	362
情報処理実習	軽部 幸浩	057801	363
情報処理実習	軽部 幸浩	057901	364
情報処理実習	軽部 幸浩	058001	365
政治社会論	岩瀬 庸理	058611	366
統計学基礎演習A	池田 心豪	058021	366
統計学基礎演習A	片岡 栄美	058011	367
統計学基礎演習A	二方 龍紀	058031	367
統計学基礎演習B	池田 心豪	058121	368
統計学基礎演習B	片岡 栄美	058111	368
統計学基礎演習B	二方 龍紀	058131	369
都市社会学A	牛島 千尋	058351	369
都市社会学B	牛島 千尋	058361	370
犯罪と逸脱の社会学A	作田 誠一郎	058711	370
犯罪と逸脱の社会学B	作田 誠一郎	058721	371
比較社会論	李 妍炎	058321	371
文化社会学A	片岡 栄美	058431	372
マス・コミュニケーション論A	深澤 弘樹	058411	373
民法	大宮 隆	058551	373
労働法	藤本 茂	098801	374
老年心理学	針金 まゆみ	073701	375
異文化コミュニケーション論	休講		
家族とジェンダーの社会学B	休講		
雇用と労働の社会学	休講		
社会学特殊講義A	休講		
社会学特殊講義B	休講		
文化社会学B	休講		
マス・コミュニケーション論B	休講		

# (6) 社会学科 社会福祉学専攻

科目名	担当者名	履修コード	ページ
医学一般	小林 臻	066221	379
医療福祉論	宮本 博司	065821・065822	379
介護概論	金 美辰	066301	380
介護概論	金 美辰	066311	380
介護技術	金 美辰	066401	381
介護技術	金 美辰	066411	381
家族とジェンダーの社会学A	松信 ひろみ	058451	382
家族療法	和田 のり恵	064701	382
家庭福祉論	武山 梅乗	065101・065102	383
環境心理学	林 久美	073401	383
行政法	鶏徳 啓登	058501	384
経済原論	福田 慎	117501	385
権利擁護と成年後見制度	徳田 暁	063421	386
公的扶助論	伊藤 秀一	065321・065322	387
児童福祉論	村田 一昭	065621・065622	388
司法福祉論	三澤 孝夫	063441	389
社会学（福祉）	武山 梅乗	066151・066152	389
社会政策	光岡 博美	091001	390
社会調査の基礎	東條 光雅	063461	390
社会福祉援助技術演習Ⅰ	荒井 浩道	067641	391
社会福祉援助技術演習Ⅰ	川上 富雄	067681	391
社会福祉援助技術演習Ⅰ	讃岐 真佐子	067671	392
社会福祉援助技術演習Ⅰ	長尾 譲治	067651	392
社会福祉援助技術演習Ⅰ	村田 一昭	067661	393
社会福祉援助技術演習Ⅱ	荒井 浩道	068041	393
社会福祉援助技術演習Ⅱ	川上 富雄	068081	394
社会福祉援助技術演習Ⅱ	讃岐 真佐子	068071	394
社会福祉援助技術演習Ⅱ	長尾 譲治	068051	395
社会福祉援助技術演習Ⅱ	村田 一昭	068061	395
社会福祉援助技術各論ⅠA	荒井 浩道	063401	396
社会福祉援助技術各論ⅠB	荒井 浩道	063501	396
社会福祉援助技術各論ⅡA	川上 富雄	063601	397
社会福祉援助技術各論ⅡB	川上 富雄	063701	398
社会福祉援助技術現場実習Ⅰ	川上 富雄	067141	399
社会福祉援助技術現場実習Ⅱ	荒井 浩道	067241	399
社会福祉援助技術現場実習Ⅱ	伊藤 秀一	067251	400
社会福祉援助技術現場実習Ⅱ	桐原 宏行	067261	401
社会福祉援助技術現場実習Ⅱ	東條 光雅	067271	402
社会福祉援助技術現場実習Ⅱ	長尾 譲治	067281	402
社会福祉援助技術現場実習Ⅲ	長尾 譲治 東條 光雅 伊藤 秀一 桐原 宏行 荒井 浩道 川上 富雄	067621	403

社会学科 社会福祉学専攻

科目名	担当者名	履修コード	ページ
社会福祉援助技術総論	荒井 浩道	063301	404
社会福祉学特講Ⅰ〔児童〕	山本 哲也	064101	405
社会福祉学特講Ⅲ〔障害児・者〕	佐藤 将朗	064301	406
社会福祉学特講Ⅳ〔相談・援護〕	青山 宗雄	064401	407
社会福祉学特講Ⅴ〔福祉事務所〕	船水 浩行	064501	408
社会福祉基礎演習	伊藤 秀一	069001	408
社会福祉基礎演習	桐原 宏行	069101	409
社会福祉基礎演習	東條 光雅	068901	409
社会福祉原論	伊藤 秀一	062801・062802	410
社会福祉専門演習Ⅰ	荒井 浩道	070011	411
社会福祉専門演習Ⅰ	伊藤 秀一	069501	411
社会福祉専門演習Ⅰ	川上 富雄	070001	411
社会福祉専門演習Ⅰ	桐原 宏行	069801	412
社会福祉専門演習Ⅰ	佐藤 光正	069701	412
社会福祉専門演習Ⅰ	東條 光雅	069601	413
社会福祉専門演習Ⅰ	長尾 譲治	069901	413
社会福祉専門演習Ⅱ	荒井 浩道	061911	413
社会福祉専門演習Ⅱ	伊藤 秀一	070401	414
社会福祉専門演習Ⅱ	川上 富雄	070201	414
社会福祉専門演習Ⅱ	桐原 宏行	070601	414
社会福祉専門演習Ⅱ	佐藤 光正	070301	415
社会福祉専門演習Ⅱ	東條 光雅	070101	415
社会福祉専門演習Ⅱ	長尾 譲治	070501	416
社会福祉発達史	堀 千鶴子	063901・063902	416
社会保障論	長尾 譲治	065001・065002	417
就労支援サービス	桐原 宏行	065441	418
障害者福祉論	桐原 宏行	065421・065422	419
情報処理論	軽部 幸浩	063001	420
情報処理論	軽部 幸浩	063101	421
情報処理論	軽部 幸浩	063201	422
女性福祉論	堀 千鶴子	065701・065702	423
心理学（福祉）	高橋 良博	066521・066522	424
心理検査法	稲富 正治	066601	424
精神医学（福祉）	浅野 誠	063481	425
精神科ソーシャルワーク論	佐藤 光正	064921	426
精神科リハビリテーション学	城田 晴夫	068501	426
精神保健学	坂村 雄	066701	427
精神保健福祉援助演習	佐藤 光正	068601	427
精神保健福祉援助技術各論	上野 容子	067001	428
精神保健福祉援助実習	佐藤 光正	068701	429
精神保健福祉論Ⅰ	佐藤 光正	066801	430
精神保健福祉論Ⅱ	進藤 義夫	066901	430
ソーシャルワーク演習	川上 富雄	067121	431
地域福祉論	川上 富雄	065901・065902	432
犯罪と逸脱の社会学A	作田 誠一郎	058711	433
犯罪と逸脱の社会学B	作田 誠一郎	058721	433
福祉行財政と福祉計画	笹部 昭博	064821	434
福祉サービスの組織と経営	波多野 実	064841	434
法学（福祉）	鶏徳 啓登	062901	435
保健福祉論	山本 哲也	065201・065202	436

科目名	担当者名	履修コード	ページ
民法	大宮 隆	058551	437
リハビリテーション論	佐藤 将朗	064901・064902	437
老人福祉論	東條 光雅	065521・065522	438
労働法	藤本 茂	098801	439
外書講読	休講		
家族とジェンダーの社会学B	休講		
国際社会福祉論	休講		
社会福祉学特講Ⅱ	休講		
精神保健福祉実習A	休講		
精神保健福祉実習B	休講		
精神保健福祉実習指導Ⅰ	休講		
精神保健福祉実習指導Ⅱ	休講		

## (7) 心理学科

科目名	担当者名	履修コード	ページ
演習	有光 興記	076611	443
演習	茨木 博子	075901	443
演習	小野 浩一	076301	444
演習	鈴木 常元	076621	444
演習	谷口 泰富	076401	445
演習	茅原 正	076001	445
演習	永田 陽子	076201	445
演習	間島 英俊	076501	446
演習	八巻 秀	076601	446
カウンセリング	茨木 博子	074701	447
学習心理学	久保 尚也	072001	448
家族とジェンダーの社会学A	松信 ひろみ	058451	449
環境心理学	林 久美	073401	449
キャリア教育入門	長谷川 茂	070971	450
行政法	鶏徳 啓登	058501	450
経済原論	福田 慎	117501	451
健康心理学	稲松 信雄	073901	452
コンピュータ実習	小野 洋平	071201	453
コンピュータ実習	深堀 友寛	071301	454
コンピュータ実習	堀 直人	071101	455
産業心理学	大谷 華	073601	456
産業と変動の社会学	山田 信行	058371	456
児童心理学	澤田 匡人	073501	457
児童福祉論	村田 一昭	065621・065622	458
社会心理学	有光 興記	072101	459
宗教心理学	加藤 博己	073801	460
宗教人類学	佐藤 憲昭	075001・075002・ 075003	461
宗教文化論A	芳賀 学	058641	462
宗教文化論B	芳賀 学	058651	462
障害者福祉論	桐原 宏行	065421・065422	463
情報処理 I	久保 尚也	074801	464
情報処理 II	軽部 幸浩 堀内 正彦	074901	465
人格心理学	鈴木 常元	071901	466
心理学概論	間島 英俊	070901	467
心理学基礎実験	谷口 泰富 深堀 友寛 桑原 正修 小野 洋平 堀 直人	071401	468
心理学基礎実験	谷口 泰富 深堀 友寛 桑原 正修 小野 洋平 堀 直人	071501	468
心理学基礎実験	谷口 泰富 深堀 友寛	071601	468

科目名	担当者名	履修コード	ページ
	桑原 正修 小野 洋平 堀 直人		
心理学研究法	堀 耕治	071701	469
心理学実験演習Ⅰ	小室 央允	072601	470
心理学実験演習Ⅱ	久保 尚也	072701	470
心理学実験演習Ⅲ	中澤 世都子 深堀 友覚	072801	471
心理学実験演習Ⅳ	堀 直人	072901	471
心理学実験演習Ⅴ	堀内 正彦	073001	472
心理学実験演習Ⅵ	軽部 幸浩	073101	473
心理学特殊演習	有光 興記	075811	474
心理学特殊演習	茨木 博子	075101	474
心理学特殊演習	鈴木 常元	075821	475
心理学特殊演習	谷口 泰富	075601	475
心理学特殊演習	永田 陽子	075401	476
心理学特殊演習	間島 英俊	075701	476
心理学特殊演習	八巻 秀	075831	477
心理学特講Ⅰ	永房 典之	074201	477
心理学特講Ⅱ	坂入 洋右 中塚 健太郎 谷木 龍男	074301	478
心理学特講Ⅲ	萩原 滋	074401	478
心理学入門	永田 陽子 小野 浩一 谷口 泰富 茅原 正 間島 英俊 有光 興記 鈴木 常元 八巻 秀 茨木 博子	070951	479
心理検査法Ⅰ	丸居 飛鳥 佐藤 尚代	074501	480
心理検査法Ⅱ	稲富 正治 中澤 世都子	074601	481
心理統計学	倉住 友恵	071001	482
精神医学	吉川 麻衣子	074101	483
生理心理学	谷口 泰富	072301	483
禅心理学	茅原 正	071801	484
認知心理学	永田 陽子	072401	484
発達心理学	間島 英俊	072501	485
犯罪と逸脱の社会学A	作田 誠一郎	058711	486
犯罪と逸脱の社会学B	作田 誠一郎	058721	486
比較行動学	入江 尚子	074001	487
マス・コミュニケーション論A	深澤 弘樹	058411	488
民法	大宮 隆	058551	488
臨床心理学	八巻 秀	072201	489
老人福祉論	東條 光雅	065521・065522	489
労働法	藤本 茂	098801	490



心理学科

科目名	担当者名	履修コード	ページ
老年心理学	針金 まゆみ	073701	491
家族とジェンダーの社会学B	休講		/
雇用と労働の社会学	休講		/
心理学実験演習Ⅶ	休講		/
心理学実験演習Ⅷ	休講		/
心理学実験演習Ⅸ	休講		/
マス・コミュニケーション論B	休講		/

# 專 門 教 育 科 目

## 1. 仏 教 学 部

禪 学 科 ・ 仏 教 学 科



履修コード	008801
科目名	イスラム教概論
担当者名	山崎 和美

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>現代の国際社会における平和的共存、異文化理解、宗教間対話といった諸問題を考える上で、13億人以上の信徒を持ち、世界中に広がっているイスラムに関する正しく客観的な理解は必要不可欠です。この講義では、イスラムの教義や世界観について知ると共に、ムスリム（イスラム教徒）の人々の日常生活や文化など現実の姿を、偏見を持つことなく理解することを目的とします。イスラムと関わりの深い中東の歴史、政治、社会、文化について基本的知識を持つことも目標です。</p> <p>国際社会について考える場合、日本では欧米を中心に考えてしまう傾向があります。従って、中東、イスラム諸国をはじめ、欧米以外のアジア・アフリカ諸国に関しても、興味関心を抱き、理解しようという姿勢を養うことを目指します。</p> <p>国際社会に関するニュースに常に着目し、イスラム諸国だけでなく世界全体に関する時事問題を読み解くための教養を身につけることも目的です。さらに、その問題に関して自らの見解を述べ、文章化する能力を養えれば、と思います。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	以下の内容の予定ですが、若干変更する場合があります。
----------	----------------------------

#### 前期

A:イスラム世界全般（イスラム世界とは？、文化、芸術の多様性、イスラムの歴史、イスラムの世界観、宗教儀礼と日常生活、イスラム復興運動とは？）  
 B:イスラムの教義（クルアーンとハディース、イスラム法（シャリーア）とイスラム法学者、六信五行、イスラムの各宗派、イスラム神秘主義とスーフィー、聖者と聖者廟参詣、女性と婚姻、ヴェール）

#### 後期

C:イラン社会（「近代化」の時代、イラン革命と現代、イラン型大衆運動への女性参加と教育、映画に見る女性と若者）  
 D:国際関係（パレスティナ、ヨルダンとレバノン、チェチェン、アフガニスタン、イラク）

準備学習	下記記載の参考書5冊（『面白いほどよくわかるイスラム』『現代イラン 神の国の変貌』『シーア派 台頭するイスラム少数派』『コーカサス 国際関係の十字路』『〈中東〉の考え方』）を読んだ上で授業に参加すれば、授業内容をより深く理解できます。
------	---

履修上の留意点	日頃から、新聞・雑誌、インターネット、海外テレビ・ラジオのニュースなどに触れ、イスラム諸国について関心を持つように心がけてください。
---------	--

成績評価の方法	<p>① 文章執筆の訓練のため、授業に関するコメントを記して下さい。 短くてよいので、授業で何を学んだか、そのことについて自分はどうか考えるか、論述して下さい。</p> <p>② 夏休み明けに、前期の内容に関するレポートを提出してもらいます。 上記、「講義の内容」のA（イスラム世界全般）から1項目、B（イスラムの教義）から1項目、「参考書」から1冊を選び、授業で学んだことを整理した上で、自分の考えを論述して下さい。</p> <p>③ 後期の定期試験時に、後期の内容に関するレポートを提出してもらいます。 上記、「講義の内容」のC（イラン社会）から1項目、D（国際関係）から1項目、「参考書」から1冊を選び、授業で学んだことを整理した上で、自分の考えを論述して下さい。</p> <p>④ コメントと出席率、レポートから、総合的に評価します。</p>
---------	---

教科書/テキスト	教科書は指定しません。
----------	-------------

参考書	教科書は指定せず、授業中に必要な資料、および参考文献表を適時配布します。なるべく参考文献を読んだ上で授業に臨むようにして下さい。 特に、次の5冊の参考書については、ぜひ読んでください。
-----	---

塩尻和子監修・青柳かおる著『面白いほどよくわかるイスラム』日本文芸社、2007年  
 桜井啓子『現代イラン 神の国の変貌』岩波書店、2001年  
 桜井啓子『シーア派 台頭するイスラム少数派』中央公論新社、2006年  
 廣瀬陽子『コーカサス 国際関係の十字路』集英社、2008年  
 酒井啓子『〈中東〉の考え方』講談社現代新書、2010年

履修コード	004401
科目名	インド哲学史
担当者名	金沢 篤

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	仏教を産んだインドのヴェーダ体制の内実を探り、宗教・哲学の変遷を概観する。
授業スケジュール	定評ある以下の教材に沿って、ヴェーダ時代より中世に到るまでの主だったトピックを通史的に概説する。併せて、インド哲学研究の方法論・問題点なども検討する。 ◎インド哲学史・序論 (1~3) インド哲学史とは? インド哲学研究の方法論 ◎ヒンドゥー教と仏教 (4~15) ヒンドゥー教 (ヴェーダ体制) の成立 ヒンドゥー教 (ダルマと業理論) の概要 仏教の成立: 仏教出現の意義 ◎ヒンドゥー教 (ヴェーダ体制) の変容と展開 (16~20) 仏教哲学とバラモン哲学 ◎インド哲学各論 (21~) 正統バラモン哲学諸派 ◎インド哲学・結び
準備学習	日本人にとって身近な仏教がインドに起源を持つものであることを深く自覚し、インド的なるものに関心を向け、それらに積極的にいかかわってみる。
履修上の留意点	日頃よりインドに関心の目を向け、主体的に常にながしかな問題意識をもって授業に参加することが望ましい。
成績評価の方法	数回のレポートと年度末の筆記試験など。
教科書/テキスト	早島鏡正他著『インド思想史』(東京大学出版会)
参考書	講義の中で適宜紹介する。

履修コード	001701
科目名	インド仏教史
担当者名	池田 練太郎

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) インド仏教史を、単に仏教の歴史だけに限定して扱うことはできない。それは、思想や文化などさまざまな面と深く関連しつつ展開したものである。しかし、仏教学部には、インド仏教の思想史や文化史に関する科目も開講されている。それゆえ本講義では、仏教の多様な側面も視野に入れながら、教団史を中心に可能な限り歴史的な展開に主眼を置いて解説する。 (到達目標) インド仏教史についての知識を身につけるとともに、仏教変遷の流れを広い視野で把握することを旨したい。
授業スケジュール	第1~2回: 仏教成立以前のインド 第3~5回: ゴータマ・ブッダと仏教興起 第6~8回: 初期の仏教教団 第9~12回: 教団の分裂と部派の出現 第13~14回: マウリヤ王朝時代の仏教 第15回: 理解度の確認 第16~18回: 部派仏教の展開 第19~21回: 大乘仏教の興起 第22~24回: グプタ朝時代の仏教 第25~27回: グプタ朝分裂以後の仏教 第28回: パーラ王朝と密教 第29回: 仏教の衰退 第30回: 近代インドにおける仏教の復興
準備学習	事前に教科書を読んで授業に臨むこと。また授業を通して得た知識を、歴史の流れ全体の中に位置づけながら理解するよう、復習にも力を入れること。
履修上の留意点	インド仏教の歴史に重点を置きつつ、仏教の思想や文化等さまざまな側面にも目を向けて、「仏教」を総合的にとらえる姿勢で臨んでほしい。
成績評価の方法	前期に行う小テスト(20%)と年度末におこなう筆記試験(80%)によって評価する。
教科書/テキスト	佐々木教悟・高崎直道他著『仏教史概説 インド篇』平楽寺書店、2,100円、ISBN 4-8313-0114-0
参考書	平川彰著『インド仏教史』(上・下)、春秋社、各2,940円、ISBN 4-393-11811-1、4-393-11812-X

履修コード	004201
科目名	インド仏教思想史
担当者名	松本 史朗
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	仏教以前のインド思想・原始仏教・部派仏教・初期大乘仏教・中期後期大乘仏教の順で、インド仏教の思想的展開を概説することによって、仏教思想の特質を明らかにするのが、本講義のねらいである。この授業によって、仏教思想の基本的理解を得ることが、到達目標である。
授業スケジュール	講義の内容・スケジュールは、ほぼ次の通りである。 (1回) インド思想概説 (2回) ヴェーダ思想 (3回) ウパニシャッド思想 (4回) ジャイナ教 (5回) 原始仏教と釈尊 (6回) 縁起説の意義 (7回) 四諦説の意義 (8回) 涅槃の意義 (9回) 禪定の思想 (10回) 無我説の意義 (11回) 法の分類 (12回) 『ミリンダ王の問い』 (13回) 部派仏教のアビダルマ哲学 (14回) 大乘仏教の成立と意義 (15-21回) 大乘経典の思想 (『般若経』 『十地経』 『法華経』 『性起経』 『如来蔵経』 『涅槃経』 等の思想) (22回) 中観派の空思想 (23-26回) 如来蔵思想の展開 (27回) 瑜伽行派の唯識思想 (28回) 仏教論理学の思想 (29-30回) チベット仏教への導入
準備学習	梵語に関する基礎知識を学習しておくことが望ましい。
履修上の留意点	高度に思想的内容について講義し、厳正な試験を行なうので、安易な気持ちで履修することは、避けられたい。また出席回数が少ないものは、試験で合格することは困難である。初回の授業には必ず出席すること。
成績評価の方法	年度末の試験(80%)と平常点(20%)により、成績を評価する。
教科書/テキスト	早島鏡正他著『インド思想史』(東京大学出版会)3600円 ISBN 978-4-13-012015-9
参考書	

履修コード	003801 003802
科目名	インド仏教文化史
担当者名	金沢 篤
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	インド生まれの仏教を、広範で多岐多彩なインド文化の史的展望の中でとらえてみたい。
授業スケジュール	神や人間などが織りなす奇想天外なインド的物語世界の解読を皮切りに、仏教の出現と展開と衰頹にまつわる文化的トピックを論究する。 ◎インド仏教文化史とは?(1~3) 日本人、日本文化と仏教 ◎文化的側面より見たインド仏教とその展開(4~8) 他宗教と仏教の比較の視点から ◎仏教の起源と仏教出現の背景(9~15) 仏教哲学の成立 ヒンドゥー教と仏教 仏教の独自性 ◎仏教の変容と展開(16~22) 哲学から宗教へ 仏教哲学の革新と宗教理論の確立 ◎インド仏教文化史・むすび(23~)
準備学習	自分の生活の中に仏教的な要素を探り、その意味を自分なりに考えてみる。
履修上の留意点	仏教や古今のインド文化に熱い関心を持つ学生諸君の主体的取り組みを期待する。
成績評価の方法	年度末試験などで総合的に判断する。
教科書/テキスト	渡辺照宏著『仏教(第二版)』(岩波新書)740円
参考書	教場で適宜紹介する。

履修コード	010501	010502
科目名	演習I	演習II
担当者名	飯塚 大展	

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	一休宗純の偈頌集である『狂雲集』を読解する。
授業スケジュール	一休宗純の生涯 (『東海一休和尚年譜』の読解、1~10)、『狂雲集』概説 (11~15)、『狂雲集』の読解 (16~30)
準備学習	柳田聖山『一休 『狂雲集』の世界』 (人文書院、1980年刊行) を読了していることが望ましい。
履修上の留意点	ゼミでの発表を重視する。
成績評価の方法	あらかじめ『狂雲集』の報告担当者を決め、その報告に基いて討議する。その発表及びゼミでの問題提起等を以て評価する。
教科書/テキスト	教科書は用いない。テキストは適宜配布する。
参考書	参考書は概説の際に提示する。

履修コード	011841	011842
科目名	演習I	演習II
担当者名	池上 光洋	

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 江戸時代の学僧・面山瑞方(1683-1769)が、修行時代にふれた師の言行を記録した『見聞宝永記』を講読する。 本書は、江戸期の参学のありさまをいきいきと伝えるとともに、現代にも通じる様々な話題を提供してくれる。ゼミでは、先人の仏道に対する真摯な姿勢を、共に学んでいきたい。 (到達目標) 1~2年次に学んだ知識を活用し、さらに、自ら調べ、表現する力を身につけてほしい。 具体的には、まず、テキストを読むための基礎作業として異本校合を実践し、それを習慣づけてもらいたい。普段我々が目にする印刷物でも誤字・脱字を見かけることがあるが、人の手で次々に書き継がれてゆく写本では、誤記等の可能性はより高くなる。ゼミで用いるテキストは、駒澤大学図書館所蔵の江戸期の写本を使用する。同書には数種の異本が存在するので、それらを対校しつつ本文を確認してほしい。次いで読解の作業にうつるが、その際には自らの信念や思い込みによらず、各種工具類を用いながら、原典を虚心にかつ丹念に読み込んでいってもらいたい。その上で、自分の見解をまとめ、発表してほしい。
授業スケジュール	まず自主的に調査・研究を進めるための方法を教示した後、分担を割り振り読み進めていく。 第 1~3回： 導入 第 4~8回： 『見聞宝永記』 「後序」 講読 第 9~30回： 『見聞宝永記』 本文講読
準備学習	テキストは漢文体(訓点付き)であるので、漢文読解の基本を再確認しておくこと。 ゼミでは分担で本文を読み進めていく。担当に当たった場合は異本校合、語彙注釈、現代語訳を施した資料を作り、人数分コピーしてくる。そのための下準備を十分行うこと。また、担当でない場合も本文に目を通し、各自の意見をまとめてくること。
履修上の留意点	ゼミなので毎回必ず出席すること。
成績評価の方法	演習科目なので平常点により評価する。
教科書/テキスト	駒澤大学・図書館のホームページより、各自で印刷してくること。詳細はゼミの初回に説明する。
参考書	中野東英(著)、中野東禅(監修)『損翁禅話—面山和尚が見た、本師の108逸話—』 (四季社 2006/12) ISBN 4-88405-437-7 鏡島元隆(訳注)『日本の禅語録・18』 『卍山・面山』 (講談社 1978/01) 『永福面山禅師宝物集』 (永福会 2008/09) その他、演習中に随時紹介する。

履修コード	009101 009102
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	池田 練太郎

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 古来、仏教における入門的な論書として重んじられてきた世親 (Vasubandhu) の著作『阿毘達磨俱舍論』(Abhidharmakosabhasya) を、サンスクリット語の原典と玄奘による漢訳を用いて講読する。 (到達目標) テキストの講読を通して、仏典を正確に読解する力を身につけるとともに、仏教の重要な術語や概念を理解し、仏教に関わる諸問題について自ら考察する姿勢を養いたい。
---------------------	--

授業スケジュール	第1～3回：説一切有部の思想と『俱舍論』の概説 第4～14回：玄奘訳『俱舍論』の講読 第15回：前期のまとめ 第16～29回：サンスクリット語『俱舍論』の講読 第30回：1年間のまとめ
----------	--

準備学習	講読箇所を和訳・解釈し、さらに関連する問題や資料についてできる限り広く調べ、それらを配布資料として準備すること。
------	--

履修上の留意点	当番制で和訳し、内容を解説してもらいが、担当でない者も予習をして授業に臨んでほしい。なお、関連する問題について発表してもらうことも考えている。
---------	---

成績評価の方法	授業における読解等の平常点によって評価する。
---------	------------------------

教科書／テキスト	テキストは最初の授業のさいに説明し、プリントを配布する。
----------	------------------------------

参考書	必要に応じて適宜紹介する。
-----	---------------

履修コード	011501 011502
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	石井 清純

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	平成24年度の新規募集は行わない。
---------------------	-------------------

授業スケジュール	第1回 演習内容説明。第2～4回 PCの基本操作、ネットワークの基礎知識。第5～8回 オペレーションシステムおよび基本アプリケーション操作。第9回 第1課題作成。第10回～15回 第1課題発表。第16回 第2課題作成。第17回～30回第2課題発表。
----------	--

準備学習	PCを使用するので、基礎的な操作を習得していることが望ましい。
------	---------------------------------

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	課題の発表を点数化し、それに平常点を付加して判定する。
---------	-----------------------------

教科書／テキスト	YeStudyにて配布。
----------	--------------

参考書	
-----	--



履修コード	009801 009802
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	石井 公成

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>中国華嚴宗第三祖とされる法蔵(643~712)の菩薩戒觀を示す『梵網經菩薩戒本疏』を研究します。華嚴教学は、ひと粒の塵の中にあらゆる方角の無数の国土が入り、その国土の中のひと粒の塵の中にまた全世界が入っている、といった無限に融合しあう理想の宗教的境地を説くものです。ただ、法蔵は一方で、菩薩戒の經典である『梵網經』の注釈である『梵網經菩薩戒本疏』を著し、制約の多い中国社会の中で菩薩として生きようとする人たちのために、絶対に死守すべきことと、状況によっては守れなくても仕方がないことを区別し、きわめて現実的な規範を示そうとしました。</p> <p>演習では、『梵網經菩薩戒本疏』を取り上げ、法蔵の他の著作のうち、上記のような理想的境地を描いた箇所や、殺人その他の悪行や懺悔に関する記述と比較しながら検討します。授業では漢文読解の練習となるよう、一字一句にこだわり、コンピュータ検索も利用しつつ徹底的に厳密に読んでいきます。</p>
授業スケジュール	<p>第1段階：授業方針の説明。菩薩戒と『梵網經』に関する説明と研究史の紹介。法蔵および『梵網經菩薩戒本疏』の概説。</p> <p>第2段階：『梵網經菩薩戒本疏』の講読。</p> <p>第3段階：法蔵以外の『梵網經』注釈との比較。</p> <p>第4段階：東アジア世界における菩薩戒の意義。</p>
準備学習	菩薩戒は、日常生活に関するものであるため、厄介な問題にぶつかる。その代表は、安楽死の問題、臓器移植の問題、テロリストを殺してよいかといった問題などである。こうした問題について調べ、考えておくこと。
履修上の留意点	初めはこちらが読むが、慣れてきたら1~2行づつ当てて読んでもらうため、積極的に参加することが必要である。最初は読めなくてかまわないが、向上しようという姿勢を望みたい。漢文読解に関しては援助する。
成績評価の方法	年間に10回以上授業中に不定期に行なう小レポートによって評価し、授業への取り組みぶりも考慮します。中間試験・期末試験はおこないません。
教科書/テキスト	コピーを配布します。
参考書	

履修コード	009701 009702
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	石井 修道

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>演習のテキストとして禪の究明に欠かせない『景德伝燈録』を選んだ。1004年に完成した『景德伝燈録』は、それ以前の禪とは何かを知る上でも必読の本であるし、それ以降の禪を学ぶ上には欠くべからざる指針の本である。また、道元禪師が暗記するまで読まれたことは間違いないので、道元禪師の研究をする上でも必読の本である。</p>
授業スケジュール	『景德伝燈録』30巻は、世に「一千七百の公案」と呼ばれる。この演習はその一つ一つを丁寧に読む。なお今年度は巻14以降の石頭系の著名な禪者を読む。
準備学習	中国の禪に関する著書は多くあるので、図書館で調べて、購入可能ならば購入するほうがよい。個人的にも相談に応じる。
履修上の留意点	<p>元版の序文によると、367,917字で刻まれたという。それを編集し、書写し、さらに一字一字を刻した人の苦勞を思う時、まず我々はその一字一字を辞典を使用して確かめることから出発し、意味を考え、そして意図を探りたいものである。一年間で学べる分量はわずかであるが、禪者一人一人を禪宗史の上でどのように学問的に追求したらよいかを学んで、他の研究に活用できるように身につくまでまなびたい。</p> <p>できる人は中国語の発音まで調べてくること。</p>
成績評価の方法	演習は当番が担当する。また、その年度内に読んだ禪者の中から興味ある人を一人選び、その伝記と思想の特色をレポートに書いて最終授業の時に提出する。400字詰10枚程度(ワープロ可)。
教科書/テキスト	台湾の版元より取り寄せ(1500円程度)
参考書	<p>入矢義高監修『景德伝燈録三』『同 四』(禪文化研究所)各8,500円</p> <p>入矢義高監修『禪語辞典』(思文閣出版)9,785円</p> <p>石井修道『中国禪宗史話』(禪文化研究所)3,675円、絶版なので古書購入のこと</p>

履修コード	009201 009202
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	岩永 正晴
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	江戸時代中期の曹洞宗僧侶が著わした『正法眼蔵』注釈書を対象として演習を行う。各注釈書の背景にある教養や、注釈態度・目的などの調査分析を通して古人の参究の成果を学ぶと共に、演習参加者自身の研究に必要な知識や方法を修得して貰いたい。
授業スケジュール	今年度も前年度に引き続き、『正法眼蔵』参究の初学者がまず始めに参照すべき書として伝承されてきた『正法眼蔵聞解』（斧山玄トツ述）を中心に演習を行う。 ○第1回 授業の概要の説明 ○第2回～第3回 『正法眼蔵』及び『正法眼蔵聞解』の解題。参考書等の説明。 ○第4回～第30回 履修者による演習。
準備学習	高校生の頃に学んだ古文や漢文の復習をしておいて下さい。自分が担当ではない部分についても、予習をして授業に臨んで下さい。
履修上の留意点	大学での学習・研究の中でも、演習が担う役割は極めて大きいと考えるので、積極的に参加して貰いたい。また我々は仏教を学ぶのであるから、私も含めた参加者全員が互いに協力し励まし合って学んで行きたい。
成績評価の方法	平常点（70点）と、学年末提出のレポート（30点）で評価する。
教科書／テキスト	『正法眼蔵註解全書』所収本の必要箇所をコピーして配布する。
参考書	『永平正法眼蔵菟書大成』17（大修館書店）・鏡島元隆『道元禪師とその門流』（誠信書房）・河村孝道『正法眼蔵の成立史的研究』（春秋社）など。但し以上は入手が困難であろうから、図書館を活用して貰いたい。その他は随時紹介する。

履修コード	010201 010202
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	奥野 光賢
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	経自らが「諸経の王」と称しているように、あまたある大乘經典の中で東アジア世界に最も流布した經典が『法華経』である。本演習では鳩摩羅什訳『妙法蓮華経』を中国・日本で著された各種法華経注釈書にも目を配りながら講読し、法華思想の考究に及びたい。
授業スケジュール	開講から数回程度は予備知識確認のため概説的授業を行なう。以後、直ちに講読に入る。今年度はいわゆる「法華七喻」といわれる箇所を重点的に講読する予定。
準備学習	参考書として示した2書のうち、いずれか1冊を読んでおくことを強く希望する。
履修上の留意点	予習をしっかりとなし、授業への主体的参加を望みたい。
成績評価の方法	純然たる演習科目なので平常点のみによって評価する。
教科書／テキスト	岩波文庫本『法華経』全3冊を教科書として使用するので各自用意すること。その他の授業で用いる注釈書は授業において適宜配布する。
参考書	参考書はあまたある。それらは授業において適宜指示するが、さしあたっては次の2書をあげておく。①田村芳朗『法華経』（中公新書）、②菅野博史『法華経入門』（岩波新書）

履修コード	010401 010402
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	片山 一良
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	釈尊によって説かれた原初の教えを「原始仏教」と呼ぶ。その基本的な教えをパーリ仏典（原始仏教聖典）によって正しく理解し、「大乘仏教」の根本的思想を把握するための足がかりを築きたい。
授業スケジュール	聖典語とされるパーリ語で書かれた仏典を読む。詩（偈）と散文からなる『如是語(経)』(Itivuttaka)を扱い、五蘊・縁起・四諦・中道の教えについて考えたい。また、前期・後期に各一回、各自の研究課題に基づく発表の機会を設けたい。
準備学習	予習と復習が求められる。
履修上の留意点	受講者はパーリ語初級程度の知識をそなえていることが望まれる。
成績評価の方法	平常点による。
教科書／テキスト	PTS本 (Itivuttaka) を使用。コピー配布。
参考書	南伝大蔵経第23巻、片山一良『ブッダのことば パーリ仏典入門』（大法輪閣）。
その他	授業は講読、討論を主とする。

履修コード	011201 011202
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	金沢 篤
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	仏教の成立・展開にも大きく関わった、インドの思想史・文化史的背景を伺う種々文献資料や、いわゆる正統バラモン哲学の基礎的な文献資料を原典で読む。
授業スケジュール	決定したテキストを順を追って講読する。
準備学習	演習で用いるテキストは教場で相談の上、決めるが、サンスクリット語初級程度の語学力を身につけておく。また仏教史とインド哲学史に関する基礎的な知識をチェックしておく。
履修上の留意点	テキストなど詳しいことは、教場にて適宜指示するが、受講者は、サンスクリットの初級程度の知識を有していることが望ましい。また、自分の個人的学問的関心を常時尖鋭化し、文献渉猟と言葉によるプレゼンテーション技術の習得を心がけて欲しい。
成績評価の方法	成績評価は、出席点を含む平常点をもってする。
教科書／テキスト	
参考書	

履修コード	011871 011872
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	木村 誠司
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	仏教の論理的側面を考察することを狙いとする。使用する中心文献は、仏教の最も基本的な著作の1つ『俱舎論』である。本書には、様々なインド思想の影響も濃厚に見られる。本書を通じて、仏教、特に、インド仏教を理解するためには、他のインド思想の知識が不可欠であることが実感出来るはずである。しかも、そこで繰り広げられる論述には、およそ、神秘的・不可解な要素などない。極めて、論理的な論が展開されている。本授業では、インド思想全般と仏教との関わりを、まず、知ってもらう。しかる後に、仏教以外のサーンキヤやヨーガのテキストを講読し、最後に『俱舎論』『定品』『随眠品』などとの比較を行う。授業中は、出席者との活発な議論を期待する。場合によっては、各自にテーマを与え、授業内で発表してもらう。
授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. インド思想全般における仏教の立場 1</li> <li>2. インド思想全般における仏教の立場 2</li> <li>3. インド思想全般における仏教の立場 3</li> <li>4. インド思想全般における仏教の立場 4</li> <li>5. インド思想全般における仏教の立場 5</li> <li>6. サーンキヤ思想と仏教 1</li> <li>7. サーンキヤ思想と仏教 2</li> <li>8. サーンキヤ思想と仏教 3</li> <li>9. サーンキヤ思想と仏教 4</li> <li>10. サーンキヤ思想と仏教 5</li> <li>11. サーンキヤ思想と仏教 6</li> <li>12. サーンキヤ思想と仏教 7</li> <li>13. サーンキヤ思想と仏教 8</li> <li>14. サーンキヤ思想と仏教 9</li> <li>15. サーンキヤ思想と仏教 10</li> <li>16. ヨーガ思想と仏教 1</li> <li>17. ヨーガ思想と仏教 2</li> <li>18. ヨーガ思想と仏教 3</li> <li>19. ヨーガ思想と仏教 4</li> <li>20. ヨーガ思想と仏教 5</li> <li>21. ヨーガ思想と仏教 6</li> <li>22. ヨーガ思想と仏教 7</li> <li>23. ヨーガ思想と仏教 8</li> <li>24. ヨーガ思想と仏教 9</li> <li>25. ヨーガ思想と仏教 10</li> <li>26. 『俱舎論』の記述 1</li> <li>27. 『俱舎論』の記述 2</li> <li>28. 『俱舎論』の記述 3</li> <li>29. 『俱舎論』の記述 4</li> <li>30. 『俱舎論』の記述 5</li> </ol>
準備学習	特にないが、勿論、サンスクリット語やチベット語の知識があれば、ベターである。
履修上の留意点	特にない。
成績評価の方法	授業内で、テキストの講読や発表を行ってもらうので、評価は平常点で行う。平常点100%。
教科書／テキスト	すべてコピーで配布する。
参考書	

履修コード	010301 010302
科目名	演習I 演習II
担当者名	熊本 英人

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 今日の仏教の様相は、明治維新から始まったといっても過言ではない。近代における仏教の諸問題を曹洞宗の場合を中心にみていく。特に、教団を視点においてその変容や機能を文献から読み取る。あわせて、一宗の宗学がどのように展開していったかにも触れ、教義と現実との関係について検討する。 (ねらい) 近代仏教の歴史・思想を学び、自らの研究課題を明確にする。
---------------------	---

授業スケジュール	明治維新を境に、仏教とそれを取り巻く環境は大きく変わった。近世の仏教批判、明治維新期の混乱と、その後の僧侶や寺院のあり方の変化、そして、近現代において、仏教はどのように社会と関わってきたか。禪はどのようにとらえられてきたか。また、禪宗は何を伝えようとしたか。このような視点を前提として、今年度は、道元の『正法眼蔵』を、曹洞宗はどう扱い、一般人はどう読んだか、曹洞宗僧侶や仏教研究者が道元禪を読み解いた作品・研究を分析する。
----------	---

準備学習	特になし
------	------

履修上の留意点	適宜、小レポートを課す。
---------	--------------

成績評価の方法	平常点(50%)及び期末レポート(50%)。
---------	------------------------

教科書／テキスト	テキストおよび参考資料は、必要に応じてコピーで配布する。
----------	------------------------------

参考書	演習の中で随時紹介する。
-----	--------------

その他	演習IIについては、卒業論文の指導にも配慮して講座を進める。
-----	--------------------------------

履修コード	011401 011402
科目名	演習I 演習II
担当者名	佐藤 秀孝

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	日本禅宗の草創期の禅僧、とくに鎌倉・南北朝時代に活躍した永平道元(1200-1253)から瑩山紹瑾(1264-1325)やその弟子たちに至る初期曹洞宗教団の祖師方の伝記史料その他を読み進めたい。具体的には江戸時代の僧伝や禅宗灯史が成立する以前の、より素朴な中世撰述史料などをテキストとして演習する。演習を通して史料の読解力を養うだけでなく、禅僧たちの生きざまを通して彼らが目指した禅宗叢林のありかたなど、中世禅宗の息吹きを感じてもらいたい。
---------------------	--

授業スケジュール	はじめに初期曹洞宗に関して、歴史的な概要や現存する史料について口述し、その後、特定の伝記史料について演習する。その際、学生が輪番形式で割り当てられた箇所について書き下し文と語句の説明と訳文を作って史料を発表してもらおう。
----------	--

準備学習	中世曹洞宗の歴史をある程度理解し、また漢文の読解を深めておくこと。
------	-----------------------------------

履修上の留意点	史料の多くが漢文ないし漢字仮名交じり文で表現されており、しかも独特の禅宗用語や中世用語が用いられていることから、漢文(とくに禅宗漢文)や日本禅宗史の素養を深めておいて欲しい。
---------	---

成績評価の方法	担当した演習箇所の内容と出席日数を換算して成績を評価するが、授業時間内の態度や意気込みなども総合的に加味したい。
---------	--

教科書／テキスト	特定の教科書は使用しない。『三大尊行状記』や古写本『建誓記』などの内容を、『曹洞宗全書』『史伝下』や『続曹洞宗全書』『寺誌・史伝』その他当該資料よりプリントして配布する。
----------	---

参考書	大久保道舟『道元禅師伝の研究』や竹内道雄『道元』(人物叢書)など道元に関する研究書、東隆貞『瑩山禅師の研究』など瑩山に関する研究書。『永平寺史』など初期の曹洞宗に関する研究書。
-----	--

その他	演習では毎時間、担当者を割り当てて調べてきた成果を発表してもらい、それを教員が改めて内容を検討していく。
-----	--

履修コード	011851 011852
科目名	演習I 演習II
担当者名	角田 泰隆
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	道元禪師の歴史的研究(道元禪師の伝記並びにその時代の諸研究)、書誌〔文献〕的研究(著作の成立等に関する研究)、思想的研究(著作の内容に関する研究)の研究方法を身につける。
授業スケジュール	最初に、『正法眼蔵』の研究方法について概説し(1~3)、その後、『正法眼蔵』『即心是仏』巻の研究をする。前期は、図書館を利用した自主研究の時間とし、研究ノートを作成してもらう(4~15)。この間は、図書館あるいは研究室にて個々に指導する。後期(16~30)は、演習形式で『即心是仏』巻を読む。
準備学習	用語解説、出典調べ等、詳細に行って研究ノートを作成し、授業に臨むこと。
履修上の留意点	研究ノートの作成方法については、授業にて詳細を説明するが、用語の意味調べ、出典調べ、訳文の作成等、根気よく研究することが必要となる。また、図書館での自主研究では、静粛に学習するよう特に留意していただきたい。
成績評価の方法	研究ノートの評価70%、平常点30%とする。
教科書/テキスト	なし
参考書	授業において紹介する。

履修コード	011831 011832
科目名	演習I 演習II
担当者名	程 正
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この講義は、中国初期禅宗史を研究するための基礎的な知識と技能の習得をそのねらいとする。本年度は、黄檗希運述『宛陵録』の輪読を行う予定である。本書は848年に宛陵へ赴任した居士裴休が黄檗希運に問法した内容を筆録整理したものとされ、中国禅宗、特に臨済禅の基礎を築いた黄檗の心を伝えたものとして、後世に愛読された。このテキストを読むことによって、五家の時代に入る中国禅宗における禅思想の変遷の一端を明らかにしていきたい。
授業スケジュール	具体的には、入矢義高氏の校訂したテキストをワープロに起こし、書き下し、引用に関しては出典を探し、内容を理解するという作業を繰り返す予定である。最初の3、4回は、『宛陵録』に関する従来の研究成果などの紹介に当て、その後は、テキストを適当な分量に区切って参加者全員に配分し、参加者は輪番でそれぞれの担当箇所について資料を作成し発表を行う予定である。
準備学習	それぞれの担当する内容について予め発表資料を作成すること。担当でないときでも、テキストの内容に目を通すこと。
履修上の留意点	出席点を評価に入れるので、欠席しないこと。
成績評価の方法	授業における発表、出席点により評価。但し、出席や発表の状況によっては、個別に課題レポートを課すこともあり得る。
教科書/テキスト	入矢義高『伝心法要・宛陵録』(禅の語録8)(筑摩書房、1969年)
参考書	適宜に紹介する。

履修コード	010601 010602
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	永井 政之

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	中国禅宗を「立体的」に捉えようと苦心しています。そのためには、さまざまな史料を多角的に読むことが必要だと考えていますし、辛抱よく訓練すれば、必ずや歴史に生きた禅僧のナマの姿が分ってくると信じています。そんな問題意識のもと、ここ数年と同じように北宋を代表する禅者の一人、慧洪（1071～1128）の著わした『林間録』を読みます。北宋を代表する禅者の一人である慧洪は、その生涯において4度の下獄を経験するほどの波乱の人生を送ります。一方、その著作『石門文字禅』は「五山文学」の世界に大きな影響をあたえました。かくしてその評価はさまざまとなりますが、彼が「あるべき教え」と「人」を模索し続けたことは疑いありません。その集約が『林間録』にあります。 時には皮肉を込め、時には慨嘆しつつ語られる北宋禅の世界は、「灯史」に限定されない生き生きとした様相そのものを語っているのではないのでしょうか。 漢文の読解能力を高めるとともに、勉強のための方法論の確立を目指します。
---------------------	--

授業スケジュール	(1～3) 中国禅宗史の概説(3～) 毎時間、当番が発表用のペーパー(『林間録』を訓読し注を付したものを)を配布し、読みすすめます。
----------	--

準備学習	中国禅宗の梗概を参考書(たとえば『講座 禅3 禅の歴史 中国』筑摩書房)などを手がかりに学んでおいて下さい。また漢和辞典等を手元に置いて下さい。
------	--

履修上の留意点	それぞれ担当する内容については、発表資料の作成などの予習は不可欠です。また自分の担当ではなくても、「自分だったらこう読む」と予習してください。
---------	---

成績評価の方法	評価は当番に当たった際の発表や、ふだんの履修態度を総合的に評価します。
---------	-------------------------------------

教科書/テキスト	テキストは江戸時代の本版本をコピーして使用します。返り点や送りがなも付されているので、比較的読みやすいと思います。
----------	---

参考書	参考書については授業中に適宜指示しますが「漢和辞典」は必ず用意してください。
-----	--

履修コード	010101 010102
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	長谷部 八朗

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 仏教をはじめとしたさまざまな宗教の儀礼分析を中心に行なう。できるだけ具体的な実践例を取り上げ、教えや文化的背景などと関連つけて儀礼の意味や役割・機能を探る。 (到達目標) 本演習を通して、主体的な研究への取り組み方を学び、卒業論文作成へと発展させる能力の習得をめざす。
---------------------	--

授業スケジュール	上記に関する文献や調査資料をもとに履修者に研究テーマを決めさせ、調べた内容を順次発表してもらう。
----------	--

準備学習	発表者は十分な時間的余裕をもって準備に取り掛かること。他の受講者は各授業時の発表テーマについて予め予習しておくこと。
------	--

履修上の留意点	発表を中心に進めるので、発表者は配布資料に工夫を凝らし、判りやすい発表を心掛け、他の受講者は積極的に討論に参加して欲しい。
---------	---

成績評価の方法	平常点で評価する。
---------	-----------

教科書/テキスト	
----------	--

参考書	授業中に適宜紹介する。
-----	-------------

履修コード	011861 011862
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	藤井 淳
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	その後の日本仏教の流れを決定づけた弘法大師空海『弁顕密二教論』をインド・中国仏教との関係を踏まえながら読解します。学生の関心に合わせて奈良時代・平安初期の南都六宗の仏書や法然上人『選択本願念仏集』を読解し、『弁顕密二教論』との影響関係について考察します。
授業スケジュール	演習は皆さんが今まで先生から知識を一方的に受けてきた授業と異なり、自ら疑問を持ち、それをさまざまな資料(本・ネットなど)によって調べ、それでも分からないことがあればどう解決すればよいのか(どの能力を身につけるのが必要か、誰に聞けばよいのか、何を調べればよいのか)を考える授業です。これを実践して身につけていくことで、将来問題に出会ったときに自ら解決することができるようになります。五月ぐらいまでは演習を進める上で必要となる準備のために、テキストの読み方や資料の調べ方について指導します。その後、皆さんが調べたことを発表してもらい、それを私が指導します。先に発表する先輩を見本にしなが、全員に順番に発表してもらいます。
準備学習	弘法大師空海についてほとんど知識のない場合は、一つのきっかけとして『空海の風景』〈上〉〈下〉(司馬 遼太郎、中公文庫)を読んでおくのがよいでしょう。
履修上の留意点	履修にあたっては漢文の基本的な読解力が必要です。
成績評価の方法	理解を確認するために数回小テストを行いますが、基本的には授業への参加・発表内容で評価します。
教科書/テキスト	教科書は指定しません。プリントを配布します。
参考書	『空海の思想的展開の研究』(藤井淳、トランスビュー、2008年4月刊行/ISBN:978-4-901510-58-5)『弁顕密二教論の解説』(那須政隆、成田山仏教研究所)前者は高額ですので適宜貸し出します。
その他	日本の仏教を将来にわたってより深く研究または理解しようと思う人は、必ずサンスクリット語(他にはパーリ語・チベット語・中国語)の知識が必要になります。大学時代は最低でもサンスクリット語の習得に努めて下さい。

履修コード	011821 011822
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	松田 陽志
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 曹洞宗において江戸時代は、宗義・宗旨の内容・意義や教団としての枠組みが全面的に見直され、新たな意義付けや体制の構築が盛んに論じられた時期である。中でも多くの議論が展開される、嗣法制度改革をめぐる内容を、関連資料を読解しながら具体的に検討する。 (到達目標) 江戸時代の版本を訓読し、内容解釈する手法を修得する。江戸期曹洞禅者の嗣法に関わる議論を整理して理解し、自らの問題意識を高めること。
授業スケジュール	嗣法制度改革の経緯と円山道白(一六三六～一七一五)の嗣法論を関連資料を読解することで検討する。また天桂伝尊(一六四八～一七三五)の『正法眼蔵弁註』と対照させながら、嗣法相続の意義にかかわる当時の議論を理解する。  第1～3回:江戸期の曹洞宗学の展開について(講義)、第4～10回:『宗統復古志』(以降、演習講読)、第11回～12回:『正法眼蔵』「面授」跋文、第13回～28回:『洞門衣柳集』と『正法眼蔵弁註』
準備学習	・読解する資料の訓読を漢和辞典で確認しておくこと。 ・積極的に図書館を利用し、辞書や参照すべき文献をできるかぎり探索すること。
履修上の留意点	漢和辞典を持参すること。事前に予習を行い、受講者で分担して訓読と内容解釈を発表する。発表にあたっては、図書館で辞書や関連文献をできる限り探索して発表資料を自ら作成し、わかりやすい発表ができるように工夫すること。 発表にあたっていなくても、不明な点があったら必ず質問して、授業時間内に解決すること。
成績評価の方法	平常点及び学習態度・発表内容に基づいて評価する。
教科書/テキスト	使用する文献資料はコピーして配布する。
参考書	図書館やWebなどの利用方法を含めて、随時紹介する。

履修コード	010701 010702
科目名	演習I 演習II
担当者名	松本 史朗

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	インドの大乗仏教の基本的概念・教理を理解するために、中観派の重要なテキストである『明句論』Prasannapadaを、サンスクリット語（梵語）の原典で読む。中観思想の基本を習得することが到達目標である。
---------------------	---

授業スケジュール	梵語原典を履修者に和訳してもらう。 （第1回）テキストの説明 （第2－8回）基礎的知識の習得 （第9－15回）教義内容の正確な把握 （第16－30回）高度な文献学的方法の習得
----------	---

準備学習	サンスクリット文法の学習とデーヴァナーガリー文字の習得
------	-----------------------------

履修上の留意点	テキストは、サンスクリット語なので、サンスクリット語初級を修了した語学力を要する。またテキストはデーヴァナーガリー文字で書かれているので、その習得も必要である。
---------	--

成績評価の方法	成績評価は、平常点（原典読解力）のみによる。
---------	------------------------

教科書／テキスト	Bibliotheca Buddhica本を使用。初回の授業で指示する。
----------	--------------------------------------

参考書	
-----	--

履修コード	011811 011812
科目名	演習I 演習II
担当者名	村松 哲文

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本演習は、禅美術・仏教美術の研究を志す学生を対象とする。美術史を研究してゆく上で必要なことは、漢文読解の能力と美術品観賞の眼力である。授業では、『七大寺巡礼私記』あるいは『魏書』釈老志などを輪読しながら、適時受講者による発表を行ってもらう。また、美術館・博物館の見学を通じて美術品の基礎的な観賞法をトレーニングしてゆく。
---------------------	--

授業スケジュール	発表では、各自担当分の読み下しと現代語訳を用意してくること。また輪読の合間に、受講者が興味を抱いている研究課題について随時報告をしてもらう。さらに卒業論文の構想を発表する機会を設けたいと考えている。
----------	---

準備学習	漢和辞典を必ず入手して、引き方を身につけておくこと。
------	----------------------------

履修上の留意点	美術品の観賞は経験がものを言うので、時間のゆるす限り実物を観る機会を多くつくること。
---------	--

成績評価の方法	発表内容と出席率などによる総合評価。
---------	--------------------

教科書／テキスト	プリントで配布する。
----------	------------

参考書	漢和辞典を用意すること。その他は適時紹介する。
-----	-------------------------



履修コード	010901 010902
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	吉津 宜英

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	東アジアにおける中道思想論 仏教の実践の原点は『律蔵』『大品』での五比丘への説法、初転法輪に見られるように苦楽の二辺を離れた中道にあると思います。また釈尊が重要な場面で強調した自洲と法洲の水平対等のあり方も中道の内容を規定する姿勢と考えます。ところで大乘になると空が強調され、一切の法の階層性が空じられて、例えば「生死即涅槃」「煩惱即菩提」に類する相即観が説かれます。そのような相即観は「不二」とも表現され、例えば吉蔵の三論教学には「不二中道」の用例も見えます。私は中道に不二の意味を読み込むことは中道の原意から逸脱すると考えています。東アジアの諸教学に中道の諸形態を探りたいというのが私の課題です。
---------------------	---

授業スケジュール	前期の第1回目はガイダンスと自己紹介です。5月の第一週までは、小発表のやり方や論文の書き方の説明をします。5月の二週目から皆さんに小発表をお願いします。毎週2人か3人ずつ当たります。その順序は私に任せて下さい。年間で1・2回、15分前後の発表です。レジュメは必ず用意して下さい。レジュメの印刷は私の研究室に来て下されば、事務所でプリントします。発表の司会が務めます。発表が終わったら、質疑と討論に移ります。出来れば自主的に挙手して、意見を述べたり、質問して下さい。挙手が無い場合は私が順次指名しますので、意見・質問・感想などを述べ、発表者はそれに応答して下さい。この討論の部分にこの演習の重要性があります。毎回の発表者の発表内容こそは私のゼミのテキストと考えています。それをみんなで討論しながら、分析し、考察するわけです。それにより、発表者は新しい課題を見出すでしょう。また討論により他の方々もそのテーマに関しての認識を深め、自分の意見の形成に役立つと思います。後期の第1回目、後期の最終回、また所要所では私の小発表も入ります。
----------	--

準備学習	いつも、何かについて、何故だろうと考える習慣を付けて下さい。
履修上の留意点	発表者は発表内容の説得力を身に付けて下さい。聴く側の人は発表者の発表内容をよく理解することが大切です。また出来るだけ積極的に演習の討議に参加して、質問することが発表と同様に自分の論理性を高めるものであることを分かってほしいと思います。
成績評価の方法	小発表の内容と、毎週の質疑応答に積極的に参加することを評価の第一のポイントにします。次に演習Ⅰの受講者には1月15日締め切りで5枚以上(400字原稿用紙換算、ワープロによる作成が望ましい)の小論文の提出を求めます。小発表と小論文のテーマは異なってもかまいません。以上の小発表と小論文、そして質疑応答への積極的な参加を勧奨し、総合的に評価します。
教科書/テキスト	別にあります。
参考書	別にあります。

履修コード	011601 011602
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	吉村 誠

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 東アジアの唯識思想および如来蔵思想について研究し、卒業論文の指導を行う。また、高僧伝、仏教説話、如来・菩薩の信仰、儒教・仏教・道教の交渉などについても、研究・指導する。 (到達目標) 経典・論書・伝記などを精読し、資料を正確に読み解く力を身につける。また、随時研究発表を行い、卒業論文につながる研究テーマを発見する。
---------------------	--

授業スケジュール	本年度は、東アジアにおける唯識思想の展開について研究する。また各自の研究を指導し、卒業論文の中間発表を行う。 (前期) (1) 中国唯識の諸学派 (2~4) 地論学派の思想 (5~7) 撰論学派の思想 (8~10) 『続高僧伝』を読む (11~14) 4年生の研究発表 (15) まとめ (後期) (1~5) 唯識学派の思想 (6~7) 東アジアの仏性論争 (8~10) 『続高僧伝』を読む (11~14) 3年生の研究発表 (15) まとめ
----------	---

準備学習	・インド仏教史、中国仏教史を履修しておくことが望ましい。 ・漢文訓読の予習をして授業に臨むこと。意味が分からない語句は、必ず漢和辞典や仏教辞典で調べておくこと。
------	---

履修上の留意点	・仏教漢文入門の単位を取得していること(編入生を除く)。 ・資料の読解方法はもちろんのこと、学問的思考方法や研究方法を身につけるためには、学習の継続が必要不可欠である。毎回、休まず出席すること。 ・卒業論文で唯識思想の研究を希望する者は、中国古典語Ⅰも履修すること。
---------	---

成績評価の方法	平常点50%、研究発表やレポートなど課題の成績50%を原則とする。
教科書/テキスト	横山紘一『唯識思想入門』第三文明社、1976年。
参考書	授業中に随時紹介する。

履修コード	011701 011702
科目名	演習I 演習II
担当者名	四津谷 孝道

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) この授業では、チベット語文献を講読する。主に大乘仏教の中観思想に関する文献を扱うが、その他、希望があれば歴史書を扱うこともある。 (到達目標) チベット語文献を通して仏教、とりわけ大乘仏教の中観思想に関する理解を深めることを目標とする。
---------------------	--

授業スケジュール	第1回～第2回：オリエンテーション 第3回～第30回：テキストの講読
----------	---------------------------------------

準備学習	チベット語に関する基本的な知識が前提とされる。
履修上の留意点	授業の内容は一続きのものであるため、継続的に出席すること。
成績評価の方法	平常点のみ
教科書／テキスト	最初の授業において指示する。
参考書	特になし
その他	特になし

履修コード	004101
科目名	外国語禪書講読
担当者名	古山 健一

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	外国人が外国語（主として英語）で著した、禅思想を主題とする書籍、または禅思想に大きな関心を寄せている著者の仏教書を講読する。特にこの授業では、禅学を専門分野としない海外の学僧ないし仏教研究者が著した書籍をとりあげ、「禅」に対する理解を、より広く多角的な視野のもとに涵養することを期す。
---------------------	--

授業スケジュール	ブッタタート比丘による以下の所論を講読する。
----------	------------------------

- ①『菩提樹の心髄—空性に関するブッダの教え』（Buddhadasa Bhikkhu . Heartwood of the Bodhi Tree . The Buddha's Teaching on Voidness . Trans. Dhammicayo . Boston : Wisdom Publications , 1994 . / ISBN-13: 978-0861710355 / 言語：英語）
- ②『縁起—實際的に依他的な生起』（Buddhadasa Bhikkhu . PATICCASAMUPPADA , Practical Dependent Origination . Trans. Steve Schmidt . Bangkok : Visuddhimagga Fund . 1992 . / ISBN-13 : 978-6160303113 / 言語：英語）を講読する。

本書の著者ブッタタート（ブッダダーサ）比丘は、前世紀におけるタイの高名な学僧の一人である。彼は、上座部仏教僧でありながらも、若い頃より中国禅に関心を寄せ、禅籍のタイ語訳にも携わったことがある。彼はまた、上座部仏教の伝統教学にとらわれない自由な立場での仏教を論じ、禅思想からの刺激と着想を得て独自の涅槃論を展開したことで知られている。ブッタタートの独創的な思想は、タイの開発僧らの実践理論にも影響を与えたと言われている。授業では、上に挙げた2書のうち、禅と空性について論じている章節をとりあげて講読する。

準備学習	特になし。
履修上の留意点	英語に自信がなくても履修可能である。英文法や語彙など英語の初歩的な事柄も含めて、丁寧に解説してゆく。授業は演習形式で進めてゆくので、できうる限りテキストの和訳（下訳）をおこなった上で授業に臨むこと。
成績評価の方法	授業への出席状況と学習意欲により評価する（定期試験は実施しない）。
教科書／テキスト	英和辞典またはその機能を有する電子辞書（収録語数が十万語以上であるものが好ましい）。講読に用いるテキストは初回授業で配布する。
参考書	初回の授業において指示する。
その他	初回の授業で受講と成績評価についての説明をおこなうので必ず出席すること。

履修コード	007001
科目名	外国語仏書講読
担当者名	木村 誠司

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	中国・日本の仏教では馴染みの薄い「仏教論理学」関連の英文を講読する。体質の違う仏教の姿をしることで、彼我の仏教の本質が浮き彫りになる。それを、英文を通じて、実感してもらうことが狙いである。中心とするテキストは、この分野の古典的名著、シチエルバツキー著 Buddhist Logic である。
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Buddhist Logicと作者シチエルバツキー</li> <li>2. 仏教論理学の体質に関する英文ペーパー</li> <li>3. 仏教論理学の実態—『真理綱要』の英文説明</li> <li>4. Buddhist Logic緒言 1</li> <li>5. Buddhist Logic緒言 2</li> <li>6. Buddhist Logicイントロダクション 1</li> <li>7. Buddhist Logicイントロダクション 2</li> <li>8. Buddhist Logicディグナーガの生涯 1</li> <li>9. Buddhist Logicディグナーガの生涯 2</li> <li>10. Buddhist Logicダルマキールティの生涯 1</li> <li>11. Buddhist Logicダルマキールティの生涯 2</li> <li>12. Buddhist Logicダルマキールティの作品 1</li> <li>13. Buddhist Logicダルマキールティの作品 2</li> <li>14. Buddhist Logic『量評釈』の章の順序 1</li> <li>15. Buddhist Logic『量評釈』の章の順序 2</li> <li>16. Buddhist Logicダルマキールティの後継者達 1</li> <li>17. Buddhist Logicダルマキールティの後継者達 2</li> <li>18. トリパティのシチエルバツキー批判</li> <li>19. シュタインケルナーのシチエルバツキー批判</li> <li>20. ムケルジーの仏教論理学観 1</li> <li>21. ムケルジーの仏教論理学観 2</li> <li>22. ウエイマンの仏教論理学観</li> <li>23. 服部正明氏のディグナーガ論</li> <li>24. ルエッグの2種の否定</li> <li>25. スタールのインド定義論</li> <li>26. トムティルマンズのプラマーナ論</li> <li>27. 小野田俊蔵氏のチベット仏教論理学</li> <li>28. 梶山雄一氏の『論理の言葉』英訳本 1</li> <li>29. 梶山雄一氏の『論理の言葉』英訳本 2</li> <li>30. 梶山雄一氏の『論理の言葉』英訳本 3</li> </ol>
----------	---

準備学習	特になし。
履修上の留意点	特になし。
成績評価の方法	授業中、実際に、テキストを読んでもらって評価する。平常点100%。
教科書／テキスト	すべてコピーで配布する。
参考書	

履修コード	007511
科目名	漢詩作法
担当者名	須山 長治

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	漢詩を学習してゆく。中国では、詩は志の之く所なり、といわれる。ものに感じて心が動き、志となったものを言葉にあらわす、すばらしい世界である。古代中国の詩がどういったものであり、それがどのような時代を経て、李白や杜甫といった唐代の詩人たちの作品になっていくか。多くの詩を鑑賞しながら、一般的な知識(文学史や韻・平仄等)も確認してゆき、一年をかけて詩が「言志」といわれる所以を考察していきたい。
---------------------	--

授業スケジュール	前期は、①②導入・漢詩全般について。③～⑤詩経。⑥⑦楚辞。⑧⑨戦国時代の詩。⑩～⑫漢の時代の詩。⑬～⑮三国時代の詩。後期は、①②魏志倭人伝。③～⑤魏晋南北朝の詩。⑥唐詩全般。⑦⑧初唐の詩。⑨⑩盛唐の詩。⑪⑫中唐の詩。⑬⑭晩唐の詩。⑮まとめ。以上の、中国の壮大な詩の流れを学習する。具体的には『詩経』『楚辞』『文選』『玉台新詠』から選び、『三体詩』や『唐詩選』を使って講義を進めてゆく。いずれも鑑賞が主となるが、漢詩の細かい作法をもとに作詩にも言及したい。
----------	---

準備学習	特になし。
履修上の留意点	積極的にノートをとる姿勢を求める。 漢和辞典を持参すること。
成績評価の方法	出席を重視し、学年末のレポート提出によって評価する。
教科書／テキスト	プリントを配布する。
参考書	『三体詩』一～四 村上哲見 中国古典選 朝日新聞社 『唐詩選』上中下 前野直彬 岩波文庫 その他、講義中その都度紹介する。

その他	特になし。
-----	-------

履修コード	006451
科目名	教化法
担当者名	永井 政之

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この講座は、現代仏教教団における伝道や教化について、そのノウハウを習得するためのものではありません。 むしろ仏教が社会とかかわりにおいてどのように「教え」を広めていったかを歴史の中で検証しつつ、民衆がその「教え」をどのように受け止めていったかを考えようとするものです。問題は多岐にわたりますので粘り強く受講してください。 「教化」と自らの生き方が不離のものであることを確認していただきたいと思います。
授業スケジュール	はじめに「教化」の意味を考えつつ問題の所在を考えます(1~2)。ついで初期仏教と民衆(3~4)、大乘仏教と民衆(5~6)、初期中国仏教と民衆(7~8)、初期禅宗と民衆(9~11)、唐代の禅と民衆(12~15)、宋代の禅と民衆(16~20)、明代以降の禅と民衆(21~23)、両祖【道元・瑩山】と民衆(24~27)、余論(28~30)の順で講義を行います。
準備学習	すでに学習したブツダの伝記や、中国・日本の仏教について、概略でも結構ですから復習してから授業に臨んで下さい。
履修上の留意点	単に講義をするだけでなく原史料を扱うことも少なくないので、必ず「漢和辞典」を用意すること。
成績評価の方法	年度末に筆記試験を行い、また普段の受講態度などをふくめて総合的に判断します。
教科書/テキスト	テキストはありません。参考資料は、必要に応じてコピーで配布します。
参考書	講義の中で随時紹介します。

履修コード	007301
科目名	キリスト教概論
担当者名	土居 由美

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義では、仏教・イスラームと共に世界三大宗教の一つに位置付けられるキリスト教について、その聖典である旧・新約聖書を軸としつつ、歴史・風土・文化的側面なども踏まえながら、多様な側面から学ぶ。
授業スケジュール	概ね以下の内容を扱う。尚、各講義に用いる時間数は、毎回の授業の状況に応じて調整してゆく予定。 [前期] 1. 導入・アンケート、2. 授業の方法(宗教学的方法・神学的方法について) 3. 一神教とキリスト教、4. 旧約聖書(成立・構成・歴史・風土)、5. 旧約聖書(基本的世界観・神観・人間観/3回程度を予定)、6. 旧約聖書(モーセ五書と律法/数回を予定)、7. 旧約聖書(預言者(書))、8. 旧約聖書(諸書/2回程度を予定) [後期] 1. 導入・新約聖書(成立・構成)、2. 新約聖書(ナザレのイエスの登場・背景)、3. 新約聖書(イエスの活動と思想/マルコ福音書/2回程度を予定)、4. 新約聖書(イエスの思想と活動/マタイ福音書・ルカ福音書3回程度を予定)、5. 新約聖書(イエスの活動と思想/ヨハネ福音書・ヨハネ文書/2回程度を予定)、6. 新約聖書(原始キリスト教の形成/使徒言行録)、7. 新約聖書(原始キリスト教の形成/パウロの書簡/2回程度を予定)、8. その他の文書(黙示録等)
準備学習	授業は基本的に聖書の内容に沿って行われるので、授業毎に扱われる聖書の箇所にも前もって目を通しておいて下さい。 また、授業内で扱った箇所について、考えるべきポイントを幾つか提示しますので、それについて復習を兼ねて各自考察を重ねる習慣をつけて下さい。
履修上の留意点	講義は、適宜視聴覚教材なども用いながら進め、また、リアクションペーパーを用いて、授業への質問やコメントを提出する機会を設ける予定。従って、毎回の講義への積極的な取り組みが進められる。
成績評価の方法	以下の割合で総合的に評価する (出席30%、授業へのコメント10%、学年末のレポート60%)
教科書/テキスト	特に用いない。授業中にプリントを配布する。
参考書	講義内容に応じて、適宜授業中に指示する。

履修コード	005301
科目名	原始仏教
担当者名	片山 一良
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	原始仏教とは仏教の源泉である。いわゆる大乘仏教も小乗仏教も、あるいは上座部仏教もすべてここより発している。その教えとは何か、すなわち釈尊の智慧と慈悲による教えとは何か、をパーリ仏典(原始仏教聖典)の言葉より明らかにしたい。また、教えの根幹をなす「寂靜」、あるいは「禪」に触れつつ、我々の身近な問題についても考えたいと思う。
授業スケジュール	前半は仏伝を紹介しつつ、教えの基本となる縁起・四聖諦について、後半はパーリ仏典を読み、教えを確認しつつ、仏法について講じる。とくに前半は仏の伝統、波羅蜜行、誕生、修行・苦行、成道、説法、入滅について概観し、後半は『転法輪経』『無我相経』などを読み、八正道、三学の実践を、さらに慈悲の教えをも見ることにしたい。なお、毎回、『ダンマパダ』(法句)から、仏の真理の言葉を紹介したいと思う。
準備学習	従来の「仏教」に対する先入見を除き、心を静めてほしい。
履修上の留意点	パーリ仏典(原始仏教聖典)を直接に読むことを勧めたい。たとえば、『パーリ仏典・中部』の第61「アンバラッティカ・ラーフラ教誡経」、第62「大ラーフラ教誡経」など。
成績評価の方法	レポート(夏期)および年度末テストによる。
教科書/テキスト	とくに使用しない。随時、資料プリントを配布する。
参考書	片山一良『ブッダのことば パーリ仏典入門』(大法輪閣)、『ダンマパダ 全詩解説』(大蔵出版)など。

履修コード	006901
科目名	現代哲学概説
担当者名	久保 陽一
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	世界の原理は古代ギリシア哲学では「自然」に、中世キリスト教哲学では「神」に、近代哲学では「人間」に認められた。だが19世紀後半以後のいわゆる現代哲学では、近代哲学を前提している点では共通しているものの、共通の積極的原理を見出すことは難しい。一方では、人間の本来のあり方を問うた、生の哲学や実存主義、他方では、認識や言語のあり方を探求した、新カント派、現象学、解釈学、分析哲学、また社会的変革をめざしたマルクス主義が並立している。そこで、講義では、近代哲学の諸問題を概観した後で、その諸問題を批判的に展開した現代哲学を概説する。
授業スケジュール	1~8 近代哲学の諸問題(自然観、認識論、実践哲学、歴史観) 9~14 マルクス主義、生の哲学 15 理解度の確認 16~29 現象学、ハイデッガー、分析哲学、物語の哲学 30 理解度の確認
準備学習	次回に取り上げる授業内容は予告するので、それについて教科書の該当箇所目を通しておくこと。
履修上の留意点	ノートをよく取ると同時に、自分の問題に引きつけて考えていくという積極的な姿勢が望ましい。
成績評価の方法	試験(前期と後期)と夏休みレポート(8割)、平常点(2割)によって評価する。
教科書/テキスト	久保・河谷編『原典による哲学の歴史』(公論社)3,200円 ISBN4-7714-2002-5
参考書	久保陽一『ドイツ観念論への招待』(日本放送出版協会) 久保陽一『生と認識』(知泉書館)

履修コード	000401
科目名	坐禅I
担当者名	角田 泰隆 岩永 正晴
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	仏教学・禅学は、共に坐禅に基づく智慧の宗教の知的営為である。しかしこれは、単に相対的知解の究明にのみ終始するのではなく、その究極は不曾染汚の行持である坐禅の、不断の実修にこそ、その重心があることを忘れてはならない。無偏無党の坐禅なくして正遍知による見極めはありえない。従って、坐禅が、常に学問する者の上に正しく位置づけられて行くのでなければ、真の仏教学・禅学とは言えない。かかる道元禅師の正伝の坐禅を実修して、自他の見を超えた無所得無所悟の仏法を行持することに勤めて行く。
授業スケジュール	全時間、坐禅実習・経行・講義を行い、前期（1～15）は『正法眼蔵坐禅儀』と『経行軌』について、後期（16～30）は『普勸坐禅儀』について講じ、道元禅師正伝の仏法を明らかにする。
準備学習	テキストの『坐禅講本』の「坐禅の実際とその心得」の第一章「坐禅の心得」と第二章「坐禅作法」をよく読んで授業に臨むこと。直堂当番に当たった者は、前回の直堂当番からきちんと進退作法を引き継ぎ、第三章「直堂の進退」を読んで確認しておくこと。
履修上の留意点	<p>仏教を学ぶ者の基本であるから、自らの節度ある生活を心掛け、実習に臨んでは次のことを堅く守ること。</p> <p>(1) 新学期最初の授業は、坐禅堂における進退・作法と席次など必要事項を指示するので、必ず出席すること。</p> <p>(2) 時間厳守：始鈴10分前に全員入堂し、坐禅に入ること。遅刻・早退は全て欠席とする。</p> <p>(3) 私語・懈怠の厳禁：坐禅堂のある禅研究館の四階では、一切の私語をせず、毎時間、懈怠を戒めて真摯に精励すること。</p> <p>(4) 威儀厳正：仏制に順じて虚飾を避け、正服を基本に清楚な服装を心掛け（夏季は白のYシャツ可）、堂内の進退は作法に随い、身のすまいを正して厳肅に勤めること。</p> <p>(5) 直堂の当番：直堂を、毎時間2名（前策と後策）ずつ勤めるが、当番に充った者は、責任をもって、予め講本の作法をよく読んで理解し、前回の担当者からよく習って進退・作法を確認して行うこと。無責任なため叱責されるなど、全員に迷惑をかけぬよう注意すること。</p>
成績評価の方法	<p>(1) 全時間の「3分の2」以上の出席と、毎時間、真摯に実習したかを点検し、総合判断して評価を決める。</p> <p>(2) 追試・再試等による救済措置は、全く無い。</p>
教科書／テキスト	『坐禅講本』（更生社）2,266円
参考書	『坐禅用心記』『普勸坐禅儀不能語』
その他	授業は、40分間の坐禅、10分間の経行、40分間の講義の形式で行う。

履修コード	000501
科目名	坐禅I
担当者名	永井 政之 松田 陽志
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	仏教学・禅学は、共に坐禅に基づく智慧の宗教の知的営為である。しかしこれは、単に相対的知解の究明にのみ終始するのではなく、その究極は不曾染汚の行持である坐禅の、不断の実修にこそ、その重心があることを忘れてはならない。無偏無党の坐禅なくして正遍知による見極めはありえない。従って、坐禅が、常に学問する者の上に正しく位置づけられて行くのでなければ、真の仏教学・禅学とは言えない。かかる道元禅師の正伝の坐禅を実修して、自他の見を超えた無所得無所悟の仏法を行持することに勤めて行く。
授業スケジュール	全時間、坐禅実習・経行〔きん/ひん〕講義を行い、前期は『正法眼蔵坐禅儀』と『経行軌』について、後期は『普勸坐禅儀』について講じ、道元禅師正伝の仏法を明らかにする。
準備学習	テキストの『坐禅講本』の「坐禅の実際とその心得」の第一章「坐禅の心得」と第二章「坐禅作法」をよく読んで授業に臨むこと。直堂当番に当たった者は、前回の直堂当番からきちんと進退作法を引き継ぎ、第三章「直堂の進退」を読んで確認しておくこと。
履修上の留意点	<p>仏教を学ぶ者の基本であるから、自らの節度ある生活を心掛け、実習に臨んでは次のことを堅く守ること。</p> <p>(1) 新学期最初の授業は、坐禅堂における進退・作法と席次など必要事項を指示するので、必ず出席すること。</p> <p>(2) 時間厳守：始鈴10分前に全員入堂し、坐禅に入ること。遅刻・早退は全て欠席とする。</p> <p>(3) 私語・懈怠の厳禁：坐禅堂のある禅研究館の四階では、一切の私語をせず、毎時間、懈怠を戒めて真摯に精励すること。</p> <p>(4) 威儀厳正：仏制に順じて虚飾を避け、正服を基本に清楚な服装を心掛け（夏季は白のYシャツ可）、堂内の進退は作法に随い、身のすまいを正して厳肅に勤めること。</p> <p>(5) 直堂の当番：直堂を、毎時間2名（前策と後策）ずつ勤めるが、当番に充った者は、責任をもって、予め講本の作法をよく読んで理解し、前回の担当者からよく習って進退・作法を確認して行うこと。無責任なため叱責されるなど、全員に迷惑をかけぬよう注意すること。</p>
成績評価の方法	<p>(1) 全時間の「3分の2」以上の出席と、毎時間、真摯に実習したかを点検し、総合判断して評価を決める。</p> <p>(2) 追試・再試等による救済措置は、全く無い。</p>
教科書／テキスト	『坐禅講本』（更生社）2,266円
参考書	『坐禅用心記』『普勸坐禅儀不能語』
その他	授業は、40分間の坐禅、10分間の経行、40分間の講義の形式で行う。

履修コード	009001 009002
科目名	坐禅II 坐禅I
担当者名	佐藤 秀孝 松田 陽志

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	曹洞宗の坐禅の実践。
授業スケジュール	前半の実習時間は坐禅と経行(きんひん)の実習となる。経行の後は瑩山紹瑾禅師の『坐禅用心記』を講じる。 実習要領および履修に当たっての心構えは、すべて「坐禅I」に同じ。
準備学習	特になし。
履修上の留意点	科目の性格上、遅刻は一切認められない。 実習に臨むに際しては、服装・言動など常に厳粛・整齊であることを要求するので、予めよく承知しておくこと。 なお、学年度最初の授業では、席次(単)の決定や必要な諸注意を行うので、履修する者は必ず出席すること。
成績評価の方法	授業実施回数に対する出席回数をもって機械的に判定する。レポート提出等による救済措置は一切行わないので注意すること。 また坐禅堂の内外における服装や態度に著しく適正を欠くと思われる場合や、講本の忘失などは厳しく減点の対象とする。
教科書/テキスト	『坐禅講本』(更正社)
参考書	

履修コード	008001
科目名	サンスクリット語上級
担当者名	金沢 篤

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	仏教などのインド起源の宗教・哲学や文化・歴史を本格的に学ぶために不可欠の語学であるサンスクリット語の上級篇。
授業スケジュール	定評ある下記の教本をテキストに、サンスクリット語に関係の深いデーヴァナーガリー文字に習熟し、サンスクリット文法を改めて確認すると共に、サンスクリット文解読のための実際的な力を養う。演習形式。 ◎インド古典語とサンスクリット(1~2) サンスクリット文法とインドの種々文字 ◎「ナラ王物語」(『マハーバーラタ』のサンスクリット文)の講読(3~) 輪読形式で文法的事項に配慮しつつとにかく読み進める ◎「ヒトバデーシャ」(サンスクリット散文)の講読
準備学習	サンスクリット語初級の文法書(ゴンダ著など)をしっかりと読み込んでおく。やり残した練習問題などもすべてやり終えておく。一日も早くデーヴァナーガリー文字が読めるようになるよう、文法書などを通じて、文字の勉強を開始しておく。教科書となるランマンの『サンスクリット読本』(A Sanskrit Reader)の入手を考えておく。
履修上の留意点	サンスクリット語初級程度の修了者であることが望ましい。
成績評価の方法	成績評価は、出席点を含む平常点をもってする。
教科書/テキスト	ランマン著『サンスクリット読本』(Charles R. Lanman, A Sanskrit Reader) OUP
参考書	辻直四郎著『サンスクリット文法』(岩波書店)

履修コード	007901
科目名	サンスクリット語初級
担当者名	金沢 篤
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	仏教などインド起源の宗教・哲学や文化・歴史を本格的に学ぶために不可欠の語学であるサンスクリット語の入門。
授業スケジュール	<p>定評ある下記の初等文法書に沿って、サンスクリット語の特徴・概要を知ると共に、適宜練習問題などをふんだんに実習して、サンスクリット文解読のための実際的・基礎的な力を養う。</p> <p>◎サンスクリットとは？ (1～3)</p> <p>◎サンスクリット文法の概容 (4～10) 文字・音論・曲用・活用などの基礎的文法事項を学ぶ</p> <p>◎サンスクリット文法の実践的学習 (11～20) 短文からなる練習問題を用いてサンスクリット文法の理解に徹する</p> <p>◎サンスクリット文法知識の実際的活用 (20～) 『ヒトパデーシャ』などの物語からの撰文を用いて実際的な知識を習得する</p>
準備学習	日本人にとって身近な仏教がインドに起源を持つものであることを深く自覚し、その仏教の教理などを伝えるお経などの仏典の多くがサンスクリット語とそれに関わるインドの古典語で書きあらわされていることを改めて思い起こし、その基礎となるサンスクリット語を学習するのだという意欲を高めて欲しい。サンスクリット語と同系統の言語を代表し、すでになじみである等の英語の学習の手順などを想起しておく。ローマ字と、各種品詞など文法用語を改めて確認しておきたい。
履修上の留意点	予習・復習を怠らず、常に主体的・積極的に授業に参加することが望ましい。
成績評価の方法	平常点と期末・年度末の筆記試験。
教科書／テキスト	J・ゴンダ著『サンスクリット語初等文法』（春秋社）
参考書	辻直四郎著『サンスクリット文法』（岩波書店）



履修コード	006811
科目名	宗教学概論
担当者名	長谷部 八朗

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 宗教学とはどのような学問か、それが個人や社会に対して成しうるあるいは成すべき役割・意義を、さまざまなトピックを取り上げて考える。 (到達目標) 宗教学の基礎理論の習得をめざしている。古典的な文献をはじめ、関係所説を解説するのに加えて、なるべく宗教の具体相を紹介しながら授業を進め、受講生の興味を引き出したい。
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>1、宗教学の性格</li> <li>2、宗教学の歴史(1)</li> <li>3、宗教学の歴史(2)</li> <li>4、「宗教」概念の捉え方(1)</li> <li>5、「宗教」概念の捉え方(2)</li> <li>6、宗教の類型(1)</li> <li>7、宗教の類型(2)</li> <li>8、宗教者の類型(1)</li> <li>9、宗教者の類型(2)</li> <li>10、宗教儀礼の諸形態(1)</li> <li>11、宗教儀礼の諸形態(2)</li> <li>12、修行の形と心理</li> <li>13、体験修行と現代人</li> <li>14、宗教と救い(1)</li> <li>15、宗教と救い(2)</li> <li>16、シャーマニズム</li> <li>17、アニミズムと自然観</li> <li>18、宗教と呪術</li> <li>19、日本人の宗教観(1)</li> <li>20、日本人の宗教観(2)</li> <li>21、死生観の諸相(1)</li> <li>22、死生観の諸相(2)</li> <li>23、人生儀礼(1)</li> <li>24、人生儀礼(2)</li> <li>25、消費社会と宗教</li> <li>26、情報化社会と宗教</li> <li>27、宗教の社会参加</li> <li>28、若者と宗教</li> <li>29、高齢化社会と宗教</li> <li>30、総括</li> </ol>
----------	--

準備学習	前回の授業内容を踏まえて進めるので、前回とったノートを復習して授業に臨むこと。
履修上の留意点	
成績評価の方法	年度末試験の成績80%、小論文10%、平常点10%とする。
教科書／テキスト	使用しない。
参考書	『宗教学ハンドブック』（世界書院） その他、授業中に紹介する。

履修コード	006801
科目名	宗教学概論
担当者名	矢野 秀武

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 宗教学は、諸宗教の多様な歴史や特質を明らかにし、また諸宗教が共有する特質をも考察する学問である。これに即し前期は、世界の諸宗教に関する基礎知識の習得を中心とし、後期はそのような知識を用いて宗教の共通性を捉える宗教学的なものを見方を身につけることを中心とする。</p> <p>(到達目標) 特定の信仰を持っている人、宗教には興味があるけれど信仰をもっていない人、宗教や信仰など自分には関係ないし必要もないと思っている人など、宗教については様々な立場からの理解や意見がある。宗教学は、これらの様々な意見を橋渡しする学問である。これを踏まえ本稿では、宗教伝統や宗教的現象について、無批判に肯定するのではなく、闇雲に批判し遠ざけるのでもない、そういった多面的な視点から宗教を理解できるようにすることを目標とする。より具体的には、諸宗教の多様性を理解すること、宗教の共通性を捉えること、宗教的な感性や思考や行動は、人間の営みの様々な領域において（無信仰と自認する人にさえ）見られるということ、これらを理解することが到達目標となる。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業概要</li> <li>2. 宗教学の歴史</li> <li>3. 宗教の多様性</li> <li>4. 宗教の種類</li> <li>5. ユダヤ教</li> <li>6. キリスト教1 歴史</li> <li>7. キリスト教2 思想</li> <li>8. キリスト教3 アメリカ社会とキリスト教</li> <li>9. イスラーム1 特質</li> <li>10. イスラーム2 信仰</li> <li>11. イスラーム3 イスラームのイメージ</li> <li>12. 神道</li> <li>13. 新宗教</li> <li>14. レポート・書く技術</li> <li>15. まとめ</li>   <li>16. 概説・宗教の見方</li> <li>17. 聖と俗</li> <li>18. 聖なる時空</li> <li>19. 中心のシンボリズム</li> <li>20. 儀礼とは</li> <li>21. 祭りの宗教性</li> <li>22. 呪術・まじない</li> <li>23. 神秘体験</li> <li>24. 妄信の心理学</li> <li>25. カルト問題</li> <li>26. 信仰を持つとは1</li> <li>27. 信仰を持つとは2</li> <li>28. 宗教と心理的發展</li> <li>29. 宗教とは、宗教学とは</li> <li>30. まとめ</li> </ol>
----------	---

準備学習	宗教学の入門書（以下の参考書欄を参照）などを読んでおくと、本講義がより分かりやすくなる。
------	--

履修上の留意点	レポートや試験形式、その他授業の基本的な約束事は、初回の授業でプリントを配布し、解説する。
---------	---

成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平常点（授業時のコメントシートの内容・授業への参加意欲等）20%、</li> <li>・前期レポート（夏休み前に課題を提示・後期初回に提出）30%、</li> <li>・後期の定期試験期間における筆記試験50%。</li> </ul>
---------	---

教科書／テキスト	なし
----------	----

参考書	<p>宗教学の入門書（いずれも授業時に使用するものではない）。</p> <p>石井研士 『プレステップ宗教学』 弘文堂、1890円、2010年。</p> <p>井上順孝 『フシギなくらい見えてくる！ 本当にわかる宗教学』 日本実業出版社、1575円、2011年。</p> <p>釈徹宗 『ゼロからの宗教の授業』 東京書籍、1575円、2009年。</p>
-----	---

その他	なし
-----	----

履修コード	007101 007102
科目名	宗教教育
担当者名	小山 一乗

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>用語「宗教教育」の教授概念には現今、宗教一般知識教育、宗教的情操教育、宗派信仰教育、対宗教安全教育、宗教的寛容教育の五があり、論者は、先入観的に、いずれか一の義で解釈し、他は棄却してしまっているという傾向が重大問題としてある。当事態を解説・講義する。当事態の史的背景にある宗教教育改革を企図する対日米国占領政策のねらいに、米国流の宗教教育施策があったこと、また、日本国憲法20条の規定不備や教育基本法9条の補完規定の不徹底に起因する事後の紆余曲折事態が宗教教育論を迷走させた経緯を解説し講義をする。さらに新「教育基本法」の改正点について講義をする。その上で、あらためて「宗教の定義」の諸相を概観する。関係法規は宗教の定義を他に委ねている。</p> <p>本講義は、決して、或る特定の宗教・宗派を価値ありとして判定して促進したり、または、価値なしと判定してそれを抑制したりするというそのような内容・方法を専らに考えるというような、とかくありがちないわゆる宗派信仰への導入をのみ考えるという狭義の宗教教育を構想する講義ではない。端的には自覚的寛容の態度育成の方途を構想する。種々の宗教と称されている現象事例を取り上げる。</p> <p>具体的には、身振り・音声・文字等の各教材、マルチメディア等を用いて、様々な題材を取りあげる。いわゆる神仏習合を彷彿とさせる広義の伊勢音頭、各地の民謡、歌謡曲、唱歌、教え歌、演歌、浪曲、説話、写真、古典音楽、詩、書など様々なジャンルの現象を観る。日常の實際生活の深層・表面層で、宗教的事柄が隠れたカリキュラム又は顕れたカリキュラムとして、人間形成に関与している諸相を考察する。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>予定は、前期では、(1~2回)用語「宗教教育」の教授概念5類型、(3~4回)宗教的情操教育の成立をめぐる対立的2見解、(5~6回)学校教育法にみえる用語考「目的・目標」、「判断力・批判力」、「選択・決定」、(7~8回)教育観の分類:「開発・注入」「本覚・始覚」、(9~10回)「宗教の様々な分類」、「宗教の定義集」、あなたの定義を考える端緒、(11回)日本国憲法・教育基本法・初期社会科学習指導要領の相互補完関係(旧教育基本法第9条立法制定審議の推移の検証)、(12~13回)対日米国占領教育改革政策が胚胎していた異文化理解問題の史実宗教教育と宗教科教育(教育職員免許法に規定)との差異検討(一だれでもの国語教育と、誰でもではない国語科教育との比較からの援用論)</p> <p>後期は、(14回)命題「法は風土の産物」(モンテスキュー『法の精神』)考、世界各国の風土、風習、習慣、慣習、法、(15回)比較法各国の宗教教育、(16回)これからの宗教教育の教授概念検討(不均衡是正)政策・法律論議「何を教えることができないのか」の禁止事項教授概念論議、「何を教えることができるのか」の肯定的事項、(17~18回)シェラーの教授概念検討(意図的用法・成功的用法、行動的解釈・非-行動的解釈、事実的言明文・規範的言明文、(19~27回)宗教教育の指導計画(児童生徒の疑問態、国内外の種々の歌、種々の年中行事(節分、雛祭り、七夕など)、合格祈願、日常用語になった仏教用語(挨拶・会釈・我慢・玄関・工夫・覚悟・油断・娑婆等)、医療現場のターミナル・ケア等、通過儀礼(入学式、卒業式、入社式、成人式、結婚式、等)等考察、(28~29回)自由討議(これからの宗教教育のあり方)、(30回)まとめ</p>
----------	--

準備学習	<p>次の事項に関連することを、各自なりに、考えておいてください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 用語「宗教教育」に関して、最新版の六法全書で、日本国憲法二〇条での脈絡、旧教育基本法(昭和二二年三月三十一日公布・施行)九条及び新教育基本法(平成一八年一二月二二日公布・施行)一五条での脈絡のそれぞれにおいて、法的思考から、いかに、教育的思考を喚起するのか、について、可能な限り、考えておくように。</li> <li>(2) 宗教とは(定義)、教育とは(定義)、宗教教育とは(定義)を、考えてみてください。</li> <li>(3) 家庭教育、学校教育、地域社会における教育の特性を考えてみてください。</li> <li>(4) 童歌、童謡、歌、演歌、踊り、民謡、音頭、地域芸能、御詠歌、賛美歌、声明等に傾聴しておいてください。</li> <li>(5) 少子化と、祭詞相続問題・財産相続問題。少子化と寺院経営問題を考えてみてください。</li> <li>(6) 神社・寺院等の後継者問題(神社・寺院等における家庭教育の問題とこれからの課題)</li> <li>(7) 人間として形が成るその種子が、先天的に潜在していると考えますか。それとも、先天的には潜在せず、後天的に、経験等によって、獲得されるものと考えますか。</li> <li>(8) その他</li> </ol>
------	--

履修上の留意点	宗教教育という用語への偏見・先入観をいったんは払拭して欲しい。教場の一時的移動指示掲示に注意すること。宗教学、宗教人類学等の関連授業科目を積極的に受講することを是非すすめたい。
---------	--

成績評価の方法	レポート(夏季休暇後及び学年末提出、その他中間で適宜にレポート提出を求める)を基本的に評価する。出席も尊重する。
---------	--

教科書/テキスト	教材は適宜プリントを配布する。
----------	-----------------

参考書	『仏教・キリスト教・イスラーム・神道どこがちがうか』(大法輪閣、¥1,600)
-----	---

その他	講義形式で実施する。資料整理用のA4版ファイル表紙を用意すること。詳細は授業にて。
-----	---

履修コード	003301
科目名	宗教史
担当者名	長谷部 八朗

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 本講義では、日本宗教史を、仏教を中心に修験道・神道・キリスト教なども視野に入れて多角的に論じる。なるべく民衆側の視点に立って進めたい。時代的には近世までを扱う予定である。 (到達目標) 本講義は、日本における宗教の歴史を広範に学び、その基礎的な知識を習得することを目標としている。それも単に宗教的な知識を学ぶだけでなく、宗教と社会を結ぶさまざまな時代相を知ること、改めて日本の歴史に対する関心を喚起できればと考えている。
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>1、宗教史という学問の性格について、</li> <li>2、宗教史研究の対象と方法</li> <li>3、日本宗教史研究の成果と課題</li> <li>4、民衆宗教史の捉え方</li> <li>5、古代の神祇信仰</li> <li>6、仏教伝来</li> <li>7、律令体制と仏教(1)</li> <li>8、律令体制と仏教(2)</li> <li>9、山岳宗教</li> <li>10、密教(1)</li> <li>11、密教(2)</li> <li>12、中世と宗教(仏教-1)</li> <li>13、中世と宗教(仏教-2)</li> <li>14、中世と宗教(仏教-3)</li> <li>15、中世と宗教(神道-1)</li> <li>16、中世と宗教(神道-2)</li> <li>17、修験道の形成と発展(1)</li> <li>18、修験道の形成と発展(2)</li> <li>19、神仏習合の諸形態(1)</li> <li>20、神仏習合の諸形態(2)</li> <li>21、徳川幕府の宗教政策(1)</li> <li>22、徳川幕府の宗教政策(2)</li> <li>23、近世と宗教(仏教-1)</li> <li>24、近世と宗教(仏教-2)</li> <li>25、近世と宗教(神道-1)</li> <li>26、近世と宗教(神道-2)</li> <li>27、近世と宗教(キリスト教)</li> <li>28、近世と宗教(庶民信仰)</li> <li>29、幕末の世相</li> <li>30、総括</li> </ol>
----------	--

準備学習	前回の授業内容を踏まえて進めるので、前回とったノートに目を通して授業に臨むこと。
履修上の留意点	
成績評価の方法	年度末試験の成績80%、レポート10%、平常点10%とする。
教科書/テキスト	使用しない。
参考書	授業の中で適宜紹介する。

履修コード	006001
科目名	宗教哲学
担当者名	河谷 淳
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	宗教がなにかを「信じる」ことであり、哲学が既存の世界観を「疑う」ことだとすれば、両者は互いに対立するように見えるかもしれない。だが、古代ギリシア以来の西洋思想史を概観してみるならばそうした理解は必ずしも正しいとは言えない。宗教哲学とはそうした信と知が交錯する地点に位置づけることができる。この授業では主にキリスト教的哲学を題材として取り上げはするものの、教義の解説を目指すのではなく、「信じる」という人間の営みがどのような地平において成立するのかについて哲学の側から考えることを主要な目的とする。また、西洋哲学史の概略や基本的な哲学用語についても理解を深めてもらえるよう配慮したい。
授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 序論: 宗教哲学とは何か</li> <li>2. 神話と哲学: ギリシア神話 (1)</li> <li>3. 神話と哲学: ギリシア神話 (2)</li> <li>4. 神話と哲学: ギリシア哲学 (1)</li> <li>5. 神話と哲学: ギリシア哲学 (2)</li> <li>6. 宗教と言語: 論理実証主義による宗教批判 (1)</li> <li>7. 宗教と言語: 論理実証主義による宗教批判 (2)</li> <li>8. 信念と合理性との対立</li> <li>9. 信念と合理性との相補的關係 (1)</li> <li>10. 信念と合理性との相補的關係 (2)</li> <li>11. 信念と合理性との相補的關係 (3)</li> <li>12. 神義論: 神の存在と悪の存在の両立可能性</li> <li>13. 神義論: 自由意志論 (1)</li> <li>14. 神義論: 自由意志論 (2)</li> <li>15. 前期授業内容の理解度の確認</li> <li>16. 神の存在証明: 宇宙論的証明 (1)</li> <li>17. 神の存在証明: 宇宙論的証明 (2)</li> <li>18. 神の存在証明: 目的論的証明 (1)</li> <li>19. 神の存在証明: 目的論的証明 (2)</li> <li>20. 神の存在証明: 存在論的証明 (1)</li> <li>21. 神の存在証明: 存在論的証明 (2)</li> <li>22. 倫理と宗教との相補的關係: カント倫理学 (1)</li> <li>23. 倫理と宗教との相補的關係: カント倫理学 (2)</li> <li>24. 倫理と宗教との相補的關係: カント倫理学 (3)</li> <li>25. 「天使」の哲学 (1): 天使とは何か</li> <li>26. 「天使」の哲学 (2): 天使の存在可能性</li> <li>27. 「天使」の哲学 (3): 天使の存在と心の独立存在可能性</li> <li>28. 「天使」の哲学 (4): 天使の倫理学</li> <li>29. 30. まとめと理解度の確認</li> </ol>
準備学習	教科書の対応箇所あるいは授業中に紹介した参考文献について目を通しておくことが望ましい。
履修上の留意点	
成績評価の方法	中間試験 (前期最終授業日に実施) と期末試験 (それぞれ40点満点) ならびに平常点との総合点で評価する。
教科書/テキスト	上枝美典『「神」という謎-宗教哲学入門-』[第2版]、世界思想社
参考書	

履修コード	007201
科目名	宗教法概説
担当者名	村上 興匡

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>信教の自由によってどんな宗教を信じるかということが個人の権利として認められている一方、宗教団体は社会の中で一定の公的な責任を果たすべきだとされる。オウム真理教事件をきっかけとして、その責任をより果たすよう宗教法人法が改正された。ここ数年の公益法人制度見直し論でも、宗教法人は無関係であるとはいえない。</p> <p>こうした宗教をめぐる法的環境の変化の背景には、日本人の宗教に対する意識やつきあい方的変化が存在している。法律の条文の解釈に終始するのではなく、宗教と法制度についての基礎的な考え方について学ぶとともに、背景となる社会変化と宗教との関係に踏み込んで考察する。講義だけでなくビデオ映像などをできるだけ利用したい。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>背景となる近代以降の社会変化について目配りしながら、できるだけ具体的な事件、裁判等についてみることで、信教の自由、政教分離、宗教団体の公益性等、幅広く宗教と法律とをめぐると問題についての基本的な考え方について学ぶ。</p> <p>前期は、明治以降の社会変動と日本人の宗教行動・意識の変容を扱いながら、憲法における宗教の扱い、宗教法人、宗教法人法の枠組みについて学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代日本人の宗教への態度：宗教を信じる人3割→結婚式の過半数がキリスト教</li> <li>・信教の自由と公的な場での宗教の制限</li> <li>・教育現場での宗教の取り扱い：「こころの教育」の必要性和宗教教育の禁止</li> <li>・明治以降の宗教法制度の変遷と宗教ブーム</li> </ul> <p>後期は、海外との法制度における宗教・宗教団体の扱いの相違、信教の自由、政教分離の具体的な裁判・問題を扱う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各国の宗教法制度とカルト対策</li> <li>・宗教法人の管理運営と公益性</li> <li>・宗教的団体に関連した裁判事例 (墓地、税金、子ども、信者の人権、代表権争い等々)</li> </ul>
----------	---

準備学習	過去に問題になった事例だけではなく、現在起こっている問題を積極的に取り上げたいと考えている。宗教に関わる問題に関連した事件、報道がなされたときには、適宜それを取り上げて解説する。いくつが主要なテーマを、講義の流れの中であらかじめあげておくので、ただ講義を聴くだけでなく、実際に起こった事件について、関連する新聞資料などを調べるなど、積極的に事前学習を進めること。
------	---

履修上の留意点	
成績評価の方法	試験とレポート。授業時に数回ミニレポートを課し、評価の一部に加える。
教科書/テキスト	授業の中で、適宜、プリントを配布する。
参考書	授業の中で、適宜紹介する。

履修コード	000701
科目名	宗典
担当者名	角田 泰隆

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	宗典とは、曹洞宗の典籍を言うが、この授業では特に曹洞宗の両祖である道元禪師と瑩山禪師が著した典籍の中から重要であると思われる説示を取り上げて解説し、曹洞宗の思想の特徴を習得してもらうことを目標とする。
---------------------	--

授業スケジュール	はじめに、曹洞宗の一仏両祖（釈尊・道元禪師・瑩山禪師）について概説し（1～3）、その後、道元禪師の著作（『正法眼蔵』・『弁道話』・『永平広録』・『学道用心集』・『典座教訓』等）、瑩山禪師の著作（『伝光録』『洞谷記』等）の中から重要と思われる説示を取り上げて講義する（4～30）。
----------	---

準備学習	特になし
履修上の留意点	教科書は用いず毎回資料を配付して講義するので、講義の内容を配付資料あるいはノートにしっかりと記録すること。（定期試験には配付資料と自筆ノートの持ち込みを許可する）配付資料はYeStudyからダウンロードできるようにするので、授業を欠席した学生は、印刷して各自学習すること。

成績評価の方法	定期試験の成績60%、レポート（年1回出題）10%、平常点30%とする。
教科書/テキスト	なし。毎回、資料を配布する。
参考書	角田泰隆著『禅のすすめ―道元のことば』NHK出版、970円、ISBN 978-4-14-084159-4 ほか講義の中で、紹介する。

履修コード	000601
科目名	宗典
担当者名	松田 陽志

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 日本曹洞宗の開祖道元禅師の行実(伝記)と教説を、『正法眼蔵』をはじめとする著述や伝記資料に基づいて概説・講読する。特に道元禅師の仏道を求める視点と姿勢について考える。 (到達目標) 先学の研究者の論点や解釈を知ること、道元禅師の生き方と教えを、自分が把握することの意味を考えること。
---------------------	---

授業スケジュール	道元禅師の伝記・著作資料・思想内容の三分類により、各資料を随時配付する。 第1回: ガイダンスと伝記資料『三大尊行状記』 第2回: 伝記資料『御遺言記録』『建誓記』『伝光録』 第3回: 著作『正法眼蔵随聞記』・道元禅師の父親(実父)について① 第4回: 道元禅師の父親(実父)②、母親について 第5回: 著作『永平広録』、出家の道心①—『正法眼蔵随聞記』— 第6回: 出家の道心②—『学道用心集』— 第7回: 出家の道心③—比叡山を下りる経緯— 第8回: 出家の道心④、著作『学道用心集』 第9回: 威儀即仏法・作法は宗旨①—『永平御遺言記録』— 第10回: 威儀即仏法・作法は宗旨②—『正法眼蔵』「遍参」「洗淨」— 第11回: 能忍と宋西—戒律主義— 第12回: 明全と道元①—『正法眼蔵随聞記』— 第13回: 明全と道元②—『伝光録』— 第14回: 入宋と新到列位是正の問題① 第15回: 予備 第16回: 新到列位是正の問題② 第17回: 典座との出会い—『典座教訓』①— 第18回: 典座との出会い—『典座教訓』②—、著作『永平清規』 第19回: 諸山歴遊、竜樹身現円月相—『正法眼蔵』「仏性」— 第20回: 如浄との面授①—『正法眼蔵』「面授」— 第21回: 如浄との面授②—『三大尊行状記』—、著作『宝慶記』 第22回: 如浄との面授③—『正法眼蔵』「行持」「仏経」「看経」— 第23回: 如浄との面授④—『正法眼蔵』「三昧王三昧」「大悟」— 第24回: 嗣法相続から帰国、興聖寺の創建 第25回: 著作『普勧坐禅儀』、『(真字)正法眼蔵』 第26回: 永平寺から鎌倉行化、示寂—『永平広録』— 第27回: 著作『(仮字)正法眼蔵』① 第28回: 著作『(仮字)正法眼蔵』② 第29回: 滅後の教団 第30回: 予備
----------	--

準備学習	授業前に前回の配布資料を読んで内容を思い出ししておくこと。 授業で取り上げた参考文献を図書館などで確認しておくこと。
------	---

履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・できるだけ教場の前に座ること。</li> <li>・私語厳禁。</li> <li>・毎回出席し、配布する資料を整理・保存しておくこと。</li> <li>・資料の余白等を活用し、重要だと考える内容をまとめておくこと。</li> <li>・授業中に小テスト(4回実施予定)を行うので、授業で取り上げる重要かつ基本的な述語(人名、著作名など)を自分で整理して把握すること。</li> <li>・小テスト終了後は、不正解の箇所を必ず復習しておくこと。</li> </ul>
---------	---

成績評価の方法	平常点(20%)と授業内に行う小テスト(20%)及び年度末試験(60%)によって評価する。
教科書/テキスト	毎回資料を配布し、資料にしたがって講義する。
参考書	配布資料や授業の中で、随時紹介する。

履修コード	005601
科目名	浄土学概論
担当者名	曾根 宣雄

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 仏教は、「悟りの仏教」と「救いの仏教」に大別することができる。このうち浄土教は、阿弥陀仏の救済を願う「救いの仏教」である。この授業では、浄土宗の宗祖法然が撰述した『選択本願念仏集(選択集)』を中心に、その教えの特徴について学ぶ。 (到達目標) この講義の到達目標は、浄土教の基本思想を正しく把握することである。「悟りの仏教」に対して何故に「救いの仏教」が出現し発達したのかという視座に立ちつつ、具体的にはその人間観を踏まえながら「教判・念仏・三心・阿弥陀仏及び極楽浄土」等について学び、その教学の特徴を捉え、浄土教に対する知識の習得を目指す。
---------------------	---

授業スケジュール	【前期】 1. 浄土教とは 2. 浄土教の祖師 3. 浄土教の人間観 4. 法然の浄土宗開宗① 5. 法然の浄土宗開宗② 6. 法然教学における『選択集』 7. 『選択集』第一章① 聖道浄土二門判 8. 『選択集』第一章② 浄土三部経 9. 『選択集』第二章① 正行と雑行 10. 『選択集』第二章② 二行の得失 11. 『選択集』第三章① 阿弥陀仏論 12. 『選択集』第三章② 四十八願 13. 『選択集』第三章③ 念仏の選択 14. 『選択集』第三章④ 念声は一 15. 前期のまとめ  【後期】 1. 『選択集』第四章 三輩念仏往生 2. 『選択集』第五章・第六章 念仏利益・末法と念仏 3. 『選択集』第七章 光明撰取 4. 『選択集』第八章① 三心 5. 『選択集』第八章② 二河白道の譬え・往相と還相 6. 『選択集』第九章・第十章 四修と化仏讃嘆 7. 『選択集』第十一章 雑善と念仏 8. 『選択集』第十二章 釈尊の付属 9. 『選択集』第十三章・第十四章 念仏多善根・諸仏の証誠 10. 『選択集』第十五章 諸仏の護念 11. 『選択集』第十六章 八種選択 12. 『選択集』のまとめ 念仏と諸行 13. 阿弥陀仏と極楽浄土① 14. 阿弥陀仏と極楽浄土② 15. 後期のまとめ
----------	---

準備学習	『選択集』の該当箇所については、書き下し文で良いので一読しておくこと。毎回レジュメを配布するので、前回の授業内容について復習して臨むこと。
------	---

履修上の留意点
---------

成績評価の方法	試験60%、レポート20%、平常点20%
---------	----------------------

教科書/テキスト	1) 法然 2) 選択本願念仏集 3) 浄土宗 4) 1000円 5) ISBN4-88363-224-5 C3015
----------	--

参考書	1) 石井教道著 2) 選択集全講 3) 平楽寺書店 4) 8190円 5) ISBN4-8313-0179-5 C0015
-----	---



履修コード	007801
科目名	書道
担当者名	綾部 宏行

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	「書道」は素晴らしい東洋文化である。文学であり美学であり、「道」としての精神性も求められる。その「書道」を、講義と実習により追求してゆく。
授業スケジュール	-前期- 1. 書道入門 2. 自分の名前を書こう (全員に手本を書きます) 3. 行書入門 4. 草書入門 5. 楷書入門 6. 実用書入門 -後期- 1. 王羲之を学ぼう 2. 顔真卿を学ぼう 3. 空海を学ぼう 4. 墨跡を学ぼう 5. 書と禅 6. 書道史と書論
準備学習	行書・草書の基本を予習しておくと共に、書道具についても予習されたい。
履修上の留意点	実習科目であるので、半紙が書ける程度の道具を準備されたい。(道具は手持ちのものでかまいません。また初回に丁寧に説明しますので、ない者でも大丈夫です。)
成績評価の方法	成績は、提出物(書作品)や、レポート、出席等の平常点等を勘案して評価する。
教科書/テキスト	特にテキストはなし。
参考書	
その他	本講座では必ずしも上手な書のみを期待しない。自分なりに味わいのある書を心がけて欲しい。

履修コード	005401
科目名	真言学概論
担当者名	藤井 淳

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義は歴史と教理をバランスよく扱い、概説と読解を交互に行う。前期はインド・中国における密教を中心に、後期は弘法大師空海を中心に扱う。前後期ともに三回に一回の割合で『大日経疏』『弁顕密二教論』といった漢文文献を読解していく。読解には漢文の基礎的知識が必要で、十分な予習が必要とされる。時間に余裕があれば、課外授業として密教寺院を訪れ、護摩などの儀礼を見ていきたい。
授業スケジュール	(1) イントロダクション (2) 密教と弘法大師空海 (3) 密教史 概説 (4) 『大日経疏』読解 (1) (5) 密教史 インド密教 『大日経』と『金剛頂経』 (6) 密教史 インド密教/中国密教 金剛智三蔵と不空三蔵 (7) 『大日経疏』読解 (2) (8) 密教史 中国密教 善無畏三蔵と一行禪師 (9) 密教教理 曼荼羅と儀礼 (10) 『大日経疏』読解 (3) (11) 密教史 真言宗史 (12) 密教教理 真言・陀羅尼 (13) 『大日経疏』読解 (4) (14) 前期まとめ (15) 課外授業等 (16) 後期イントロダクション (17) 弘法大師の生涯 概説 (18) 弘法大師の生涯 南都仏教との関わり (19) 『弁顕密二教論』読解 (1) (20) 弘法大師の生涯 入唐留学と恵果和尚 (21) 弘法大師の生涯 伝教大師との関わり (22) 『弁顕密二教論』読解 (2) (23) 弘法大師の教え 顕密二教判 (24) 弘法大師の教え 即身成佛 (25) 『弁顕密二教論』読解 (3) (26) 弘法大師の教え 法身説法 (27) 弘法大師の教え 十住心教判 (28) 『弁顕密二教論』読解 (4) (29) 後期まとめ (30) 課外授業等
準備学習	参考書を読んでおいてほしい
履修上の留意点	展覧会や寺院訪問に基づいてのレポートを提出してもらう。単位取得には積極的に授業に参加する態度が必要とされる。Yestudyを用いて資料の配布等を行うのでYestudyを使えるようになっておくこと。
成績評価の方法	基本的には授業への参加姿勢・レポートで評価する。ただし履修人数が多い場合には試験を行う。
教科書/テキスト	参考書を教科書に準ずるものとして扱う。
参考書	渡辺昭宏、宮坂有勝『沙門空海』(ちくま学芸文庫)1155円 ISBN:978-4480080561 金岡秀友『密教の哲学』(講談社学術文庫)絶版 ISBN:978-4061588844

履修コード	005801
科目名	神道概説
担当者名	嵐 義人

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>授業概要 わが国固有の宗教である「神道」について、基本的な事項につき概観することを目的とする。ただ、仏教との対比、ならびに神道の祭式・作法については主たる講義対象とはしない。</p>
---------------------	--

到達目標(ねらい)

授業の狙いとしては、次の三つの目標掲げる。一つは、神道史的理解であり、カミ観・神祇制度・神道思想についての歴史の変遷を大掴みできるように、約半分の時間を神道史を核とする講義に充てる。二つ目は、神道を生み、それを今日にまで継承させた種々の環境について理解するよう、風土や生活、そして日本人そのものの特質を学ぶ神道風土論の講義で構成する。三つ目は、神職のための神道ではなく、一般日本人にとっての神道の視点から、神々をどのように捉え、どのような関係の中で生活しているのかを学ぶ神道を基礎とした日本文化論を講ずる。この講義は、真面目に受講さえすれば、余程の神道否定論者でない限り、上記三つの理解は容易であると考えられる。したがって、各時間の基本事項の理解を以て到達目標とする。

授業スケジュール	<p>第1回 (導入) 講師の自己紹介。神道系大學。神職について。単位と予習・復習。  第2回 (風土Ⅰ) わが国風土の特質。温暖・湿润。大地・風・魚・鳥・文化の聚まる国。  第3回 (風土Ⅱ) わが国固有の動植物の特徵。日本人の特質。米の文化。  第4回 (生活Ⅰ) 生活の中の神道。武道・芸ごとと神道。年中行事。参詣から鉄道へ。  第5回 (生活Ⅱ) 神社参拝。祭り。お助け神と崇り神。パワースポット。占い。  第6回 (生活Ⅲ) はれ・け論。お祓い。みそぎ。明き・淨き・正しき・直き心。  第7回 (歴史Ⅰ) 磐座(いわくら)。神籬(ひもろぎ)。神々と日本神話。  第8回 (歴史Ⅱ) 祝詞(のりと)。神楽歌(かぐらうた)。言霊(ことだま)。  第9回 (歴史Ⅲ) 律令神祇制度(りつりょうじんぎせいど)。  第10回 (歴史Ⅳ) 延喜式と神宮儀式帳。二十二社。一宮(いちのみや)・二宮。総社。  第11回 (歴史Ⅴ) 武士と産土神(うぶすながみ)。起請文(きしょうもん)。  第12回 (歴史Ⅵ) 末法・元寇・伊勢神道。両部神道。神皇正統記。古事記最古の写本。  第13回 (歴史Ⅶ) 熊野詣で。吉田神道と宗源宣旨(そうげんせんじ)。伊勢神宮の再興。  第14回 (歴史Ⅷ) 江戸時代の神道制度。山王一実神道。儒家神道。白川神道。  第15回 (質問と発表) 事前提出の質問票・発表題目により発表者を指名し、質問発表する。  第16回 (カミとは) 前期の講義を振り返りつつ、神道の本質究明への狙いをつける。  第17回 (歴史Ⅸ) 国学と神道。塙保己一の事業と信心。  第18回 (歴史Ⅹ) 近代の神祇制度と神社行政。植民地における神社参拝。  第19回 (歴史Ⅺ) 戦後の神道界。神道指令。伊勢神宮林の危機。靖国問題。  第20回 (宗教Ⅰ) 山林科擧と修験道。道教と神道。儒教と神道。仏教と神道。  第21回 (宗教Ⅱ) 神仏習合。神仏分離。神社合祀。氏子と神社。  第22回 (日本文化Ⅰ) 神道に日本文化の基本を見る。外国人の眼に映った日本—賛美論。  第23回 (日本文化Ⅱ) 外国人の眼に映った日本—批判説。  第24回 (日本文化Ⅲ) 日本語の特質。日本人の耳・声・歌。日本人の会話。  第25回 (神々Ⅰ) 天照大御神。須佐之男命。大國主命。  第26回 (神々Ⅱ) 高御産巢日神。建御雷之神。大物主神。木花之佐久夜毗売。山佐知毗古。  第27回 (神々Ⅲ) 豊宇氣比売神。豊玉毗売。玉依毗売。  第28回 (神々Ⅳ) 八百万の神。宮中三殿の神。野の神。屋敷神。船霊。  第29回 (質問と発表) 前期と同様。  第30回 (まとめ)</p>
----------	--

準備学習	特になし。
------	-------

履修上の留意点	<p>前期・後期の期末に行う〈質問〉と〈発展〉への積極的授業参加を高く評価したい。これによって本授業への取り組みの程度が把握できると考える。そのためには授業時に気づいた疑問や確認したい内容などを掘り下げる姿勢が大事であろう。この授業の履修に当たっては、一つひとつ理解するための努力を惜しまない心懸けで臨んでほしい。</p>
---------	---

成績評価の方法	<p>試験(ペーパーテスト)のほかレポートを課し、合わせて70%の評価とする(レポートは25%を目安とする)。平常点は30%を配点し、質問・発表を重視する。ペーパーテストは、語彙、事象、思想等を数問ずつ問い、レポートは各自が理解した神道観について問うこととしたい。</p>
---------	--

教科書/テキスト	使用しない。必要に応じてプリントを配布する。
----------	------------------------

参考書	<p>阪本是丸・石井研士編『プレステップ 神道学』弘文堂刊。本体1800円。ISBN978-4-335-00079-9。</p>
-----	--

履修コード	070901
科目名	心理学概論
担当者名	間島 英俊

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	心理学は人間の心の理解を科学的に究明する学問のひとつである。研究方法はさまざまであるが、その目的は同じである。この講義では、諸君らがその目的を考えるために、心理学の各領域の基本的事実を、わたしたちの日常生活の中から説明していきます。 この科目は1年生の必須科目であるので、1、2年次履修可能な専門の選択科目並びに2年次必須の心理学研究法への基礎知識の習得を到達目標とする。
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 心理学概論を学ぶこと全般について</li> <li>2 ひととなりを考える：パーソナリティ心理学 <ol style="list-style-type: none"> <li>2-1 パーソナリティの定義、アクティビティ1, 2</li> <li>2-2 パーソナリティ・テストの実施・解釈：アクティビティ3, 4</li> <li>2-3 パーソナリティ理論 アクティビティ5, 6, 7, 8</li> <li>2-4 人物評価：プロファイリング 自己評価・理解 アクティビティ9</li> </ol> </li> <li>3 自己へのタイムトラベリング：発達心理学 <ol style="list-style-type: none"> <li>3-1 発達の定義 アクティビティ1, 2, 3</li> <li>3-2 発達段階 アクティビティ4、ピアジェの認知発達段階、エリクソンのライフサイクル</li> <li>3-3 遺伝か環境か：成長、成熟、学習(経験)</li> <li>3-4 知能 知能の定義 知能の測定・解釈 アクティビティ5</li> </ol> </li> <li>4 “こころ”のゆきつまり：臨床心理学 <ol style="list-style-type: none"> <li>4-1 正常と異常について アクティビティ1 シャイな私って？</li> <li>4-2 青年期の適応 成熟した人格とは</li> <li>4-3 対人恐怖意識 対人不安 孤独感</li> <li>4-4 青年期の精神障害と自己体験</li> </ol> </li> <li>5 ものをものとする：知覚心理学 <ol style="list-style-type: none"> <li>5-1 みること・きくこと アクティビティ1, 2, 3, 4</li> <li>5-2 みるためのメカニズム ものがみえるための神経システム</li> <li>5-3 きくためのメカニズム ものがきこえるための神経システム</li> <li>5-4 みるための処理モデル(1)－「データ駆動モデル」、「概念駆動型モデル」 アクティビティ6</li> </ol> </li> <li>6 学ぶこと・考えること・覚えること：学習心理学。認知心理学 <ol style="list-style-type: none"> <li>6-1 学ぶことは ひとの行動・種類</li> <li>6-2 学習に関する諸学説：連合理論(刺激-反応理論；Stimulus-Response理論)</li> <li>6-3 学習に関する諸学説：認知理論(記号-意味理論；Sign-Significate理論)</li> <li>6-4 社会的学習(social learning)</li> <li>6-5 覚えることとは 記憶の3段階説 アクティビティ1, 2, 3</li> <li>6-6 忘れることとは</li> <li>6-7 記憶を測るもの アクティビティ4</li> <li>6-8 考えることとは 言語発達</li> <li>6-9 推理と問題解決 創造性 アクティビティ5</li> </ol> </li> </ol>
----------	--

準備学習	教科書は下記に指定したものを使用しますが、学問的つながりからすべて教科書通りには講義をしません。基本は講義前に配布する講義内容を骨子としますので、事前にその日の講義予定項目については教科書にて十分な予習をしてきてください。また教える的確さならびに理解度を確認するため、抜き打ち的に単元途中または終了後に小テストを実施しますので復習もまたしてください。
------	---

履修上の留意点	毎年、朝1講時から講義開始をしています。講義はもとよりシラバスにも記載しているように、講義内にてアクティビティや実験・調査が実施されている場合があるので、不参加にならぬよう遅刻はないように願います。 この講義は卒論、修論のデータ収集に講義の震度や時間数を調整しながら率先して協力をしていきますので理解願いたい。 調査・実験協力者となることにより、次に諸君らの卒論における実施者としての姿勢に備えるためです。それと同時に「実験参加カード」を配布し、その参加ポイント数により成績評価に反映されます。
---------	---

成績評価の方法	3分の2以上の出席は必須です。基本的には最終講義時間にて実施される授業時間内試験(定期試験と同価値)にて8割、残り2割は実験・調査参加(1割)並びに課題(1割)により評価される。
---------	---

教科書/テキスト	根本和雄・小島康次編著「理解とふれあいの心理学」ミネルヴァ書房¥2500
----------	--------------------------------------

参考書	参考書は特に指定しないが、講義に参考になる書物については、都度紹介します。
-----	---------------------------------------

その他	講義内容、資料はその都度配布しますが、配布当日欠席した者への後日配布はしないので、休んだ分は友人に依頼してもらおうかコピーにて補充のこと。
-----	---

履修コード	006701 006702
科目名	青少年指導演習
担当者名	渡邊 浩司

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)</p> <p>青少年とは概ね小学生から比較的若い成人まで(7, 8歳から30歳前後)を指す。この時期は人の心理社会的発達上最も重要な期間であると言える。この授業では青少年への理解とその指導の実践について、おもに心理学的見地から理論と方法そして実践を学ぶ。</p> <p>(到達目標)</p> <p>この授業のねらいはコミュニケーションスキルの習得、向上にある。指導という行為はコミュニケーションの一形態である。効果的な指導を行うために必要とされるのはコミュニケーションスキルとなる。さらにスキルの習得、向上に不可欠なのが対人理解である。対する相手の状況状態を正しく理解することが良好なコミュニケーションへとつながる。</p> <p>すなわち、理解を伴った技術の習得が到達目標となる。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>下記の内容それぞれについて2~3回かけて授業を行う。原則記載順に進めるが状況に応じて変更もある。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 体験的学習の意義について</li> <li>2. 対人援助・指導の実践について</li> <li>3. 発達論から見た青少年期について</li> <li>4. 人を理解することについて</li> <li>5. 人とかかわることについて</li> <li>6. 「ことば」の持つ力について</li> <li>7. 話の聴き方と伝え方について</li> <li>8. 個々人の特異性と一般性について</li> <li>9. 事例研究</li> <li>10. まとめ</li> </ol>
----------	--

準備学習	<p>参考図書あるいは他書を利用してライフサイクル論の概略について触れておくこと。</p> <p>毎回授業の最後に次回授業の予定をお知らせするので予習をしておくこと。</p>
------	---

履修上の留意点	<p>演習科目なので実習を含んだinteractiveな授業となる。遅刻や欠席のないよう心掛けること。</p> <p>主体的な参加態度を望む。</p>
---------	---

成績評価の方法	<p>平常点40%、レポート60%(年2回30%づつ)とする。</p>
---------	-------------------------------------

教科書/テキスト	<p>適宜指示します。</p>
----------	-----------------

参考書	<p>馬場礼子, 永井徹 共著『ライフサイクルの臨床心理学』、培風館、2310円、ISBN-13: 978-4563056100</p>
-----	--

相川充著、『人づきあいの技術—ソーシャルスキルの心理学 (セレクション社会心理学)』、サイエンス社、1890円、ISBN-13: 978-4781912332

履修コード	006601 006602
科目名	青少年問題研究
担当者名	讃岐 真佐子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 「青少年」つまり児童期から青年期(小学生～20代前半頃)に生じ得る諸問題について、実際の事例や講師の約20年余にわたる臨床心理士としての経験を基に、主に発達の、臨床心理学的視点から学ぶ。</p> <p>(到達目標) この時期の青少年に起こり得る諸問題を、発達や事例に則して生き生きと学ぶことを通し、具体的に理解する力を培うことを目標とする。現代は不適応状態や問題が長引く傾向にあり、またその質的側面も、従来の自己葛藤型から漠然とした無気力型へ、さらに言語で訴えるよりも身体症状として現す等、様々な変化が見られるように思う。このような諸変化の中、この授業では不登校、いじめ、非行、ひきこもり等々のテーマを取り上げ、複数の観点からこれらを詳細に学んでいく。また適宜視聴覚教材も用いて、現代の青少年を取り巻く家族や社会への理解も深めたいと思う。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>(1) 導入 : この一年間の講義の進め方、「問題」の二面性について</p> <p>(2) 現代の青少年が抱える「諸問題」の特徴について</p> <p>(3～5) カウンセリングの定義、及び「ことばの多義性」を巡って</p> <p>(6) 青少年を取り巻く家族、社会を理解するためのビデオ教材視聴—その①(孤立する高齢者を巡って)</p> <p>(7) 「不登校」の名称に関する歴史の変遷</p> <p>(8～9) 「不登校」の事例</p> <p>(10～11) 児童期から青年期の心理に関する講義 一特にいわゆる「いじめ」を中心として</p> <p>(12～13) 「いじめ」の事例</p> <p>(14) 青少年を取り巻く家族、社会を理解するためのビデオ教材視聴—その②(家族間の「虐待」をめぐる)</p> <p>(15) 前期のまとめ、「夏休みレポート」について</p> <p>(16) 戦後日本における非行の歴史の変遷について</p> <p>(17) 非行における、いわゆる“切れる”ことを巡って(論文購読)</p> <p>(18～19) 「ひきこもり」について、ビデオ教材視聴も交えて学ぶ</p> <p>(20～21) 青少年期における、自身の心と身体への様々な違和感としての「対人恐怖」や「摂食障害」について事例を基に学ぶ</p> <p>(22) 青少年を取り巻く家族、社会を理解するためのビデオ教材視聴—その③</p> <p>(23～26) 思春期以降に起こりうる様々な心の危機、その対応について(視聴覚的素材も用いる)</p> <p>(27～29) 思春期以前に起こりうる様々な心の危機(「発達障がい」も含む)、その対応について(視聴覚的素材も用いる)</p> <p>(30) 全体のまとめ、定期試験について</p> <p>・ただし上記内容は、その時の授業の流れや重点の置き方によって臨機応変に若干変更や前後することもあり得る。</p>
----------	---

準備学習	<p>準備学習は特に必要ないが、下記の「履修上の留意点」でも記したように、毎回授業の最後には、その日の感想や質問などを書いて提出してもらう。これは次回授業への大切な「橋渡し」となる作業であり、“おざなり”の感想や白紙提出は、当授業参加への意欲なしとみなす。</p>
------	--

履修上の留意点	<p>授業は講義中心となるだろうが、その日の内容への感想や質問を毎回書いて提出してもらう。そして必ず次回授業の最初に、前回の感想等で受講生全員で共有したい内容や、講師の心に残ったものを読み上げ(氏名は読まず、匿名性を保持する)、また質問などに適宜答えていきたいと思う。この毎回の作業を通して、受講生同士のフィード・バックも(間接的ではあるが)自ずと進んでいくように思う。また授業態度や毎回の感想・質問などの平常点も重視する。</p>
---------	--

成績評価の方法	<p>定期試験の成績60%、夏休みレポート10%、平常点30%</p> <p>また定期試験において、この授業で学んだ内容をほとんど記さず、ネットで調べたような内容をただ単に暗記、記述したような場合は(毎年、複数の者が全く同じ文章を記述)、大幅な減点もしくはその箇所を評価対象外とする。</p>
---------	--

教科書/テキスト	<p>必要な資料は適宜配布する</p>
参考書	<p>岩宮恵子著『生きにくい子どもたち』岩波書店 現代文庫、840円</p> <p>河合隼雄著『カウンセリングを語る(上下)』講談社+α文庫、890円</p> <p>河合隼雄著『大人になることのむずかしさ』岩波書店、1785円</p> <p>河合隼雄著『日本人の心のゆくえ』岩波書店、1700円</p> <p>小川捷之・村山正治編『学校の心理臨床』心理臨床の実際2 金子書店、4200円</p>

履修コード	004701
科目名	禅学特講III
担当者名	清野 宏道

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>【講義概要】 道元禅師の教えは様々な仏教思想を受容した上に成り立っていると云えます。従って、禅師の思想を正しく理解しようとするならば、種々の経論や伝統的な仏教教理を踏まえる必要があるのです。本講義では『正法眼蔵』を中心として道元禅師の思想形成とその展開について学びます。</p>
---------------------	--

【到達目標】  
本講義の最終目標は、種々の経典・教理の特徴を理解した上で『正法眼蔵』など道元禅師の著述を正確に読み解き、その思想の大綱を把握することです。  
そのため、第一に道元禅師が用いている経典や論書を通して伝統的な仏教思想・教理の特徴を理解します。  
第二に、それを通して漢文に慣れて頂きます。  
第三に、道元禅師の思想に対する現在の研究課題を把握し、『正法眼蔵』全体の思想的な特徴を捉えます。  
第四に、それらの諸思想が成立した背景を探り、その展開状況を把握することを目指します。

講義の到達目標は以上の通りですが、受講者各位は本講義を通して卒業論文に繋がる研究テーマを見つけること。仏教に対する見識を養うと共に自分自身の思想を成熟させ、人生観を確立することを目標として頂きたい。

授業スケジュール	<p>〔前期〕</p> <p>第1回～第2回 経典の成立</p> <p>第3回～第5回 『大品般若経』の構造と空思想</p> <p>第6回～第8回 『大般涅槃経』の教説と仏性思想</p> <p>第7回～第10回 『妙法蓮華経』の構成と経説</p> <p>第11、12回 隋唐の仏教（華嚴・法相・律・浄土・禪）</p> <p>第13回～第15回 天台教学の体系と展開</p> <p>〔後期〕</p> <p>第16回 禅宗の特色</p> <p>第17回 道元禅師の生涯と著述</p> <p>第18回 道元禅師が受用した仏教典籍</p> <p>第19回～第24回 道元禅師と『妙法蓮華経』</p> <p>第25回～第28回 道元禅師と天台教学</p> <p>第29回 道元禅師と各種の仏教学</p> <p>第30回 道元禅の現代的展開</p>
----------	--

理解度を確認するため、定期試験以外に講義内で複数回レポートや小テストを行い、評価の対象とします。

準備学習	1年次の必修科目である「仏教と人間」は本講義の基礎となるため、しっかりと復習しておいて下さい。また、講義の中で紹介する参考書などをなるべく多く読んで下さい。
------	--

履修上の留意点	本講義専用のノートを準備し、講義内容をしっかり書き取って下さい。また、本講義では質問に答える形で受講者にも発言してもらいます。私語厳禁。
---------	--

成績評価の方法	平常点 (30%) ・講義中のレポートや小テスト (20%) ・夏期休業中のレポート (20%) ・学期末試験 (30%) を総合して評価します。
---------	---

教科書/テキスト	特に指定しません。講義時にプリントを配布します。
----------	--------------------------

参考書	講義中に告知します。
-----	------------

履修コード	004801
科目名	禅学特講IV
担当者名	伊藤 良久

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義では、日本曹洞宗教団史の概要について理解することを目標とする。中でも太祖瑩山禪師の生涯や思想をはじめ、その弟子や法孫達の活躍、そして全国展開にいたる流れを学ぶ。特に、瑩山禪師によって開創された總持寺や永光寺など、教団展開の拠点となった寺院の歴史についても詳しく講じていきたい。
---------------------	---

授業スケジュール	第1回：曹洞宗教団史概観、第2～3回：道元禪師の生涯と興聖寺・永平寺、第4回：道元禪師滅後の永平寺僧団、第5回：徹通義介禪師と大乘寺、第6～10回：瑩山禪師の生涯と思想、第11回：瑩山禪師の世寿58歳説と62歳説、第12回：瑩山禪師と大乘寺、第13～15回：永光寺の開創、第16～19回：總持寺の開創、第20～22回：瑩山禪師の弟子達、第23～26回：永光寺と總持寺の輪住制度、第27～28回：明峰派と峨山派の展開、第29～30回：教団の発展と禅思想の展開。
----------	---

準備学習	瑩山禪師伝や、曹洞宗教団史に関する研究書に目を通しておくことが望ましい。
------	--------------------------------------

履修上の留意点	現在曹洞宗寺院は各地に存在しているが、どのように全国に広がっていったのか、教団展開の淵源やその時代に生きた祖師方の思想を常に意識すること。
---------	---

成績評価の方法	出席等の平常点とレポート課題によって評価する。
---------	-------------------------

教科書／テキスト	必要に応じて資料を配付する。
----------	----------------

参考書	『瑩山禅』全12巻（山喜房仏書林）、その他は随時紹介する。
-----	-------------------------------

履修コード	000901 000902
科目名	禅思想概説 禅学研究I
担当者名	石井 修道

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この講義は中国禅宗史の知識をふまえて、「禅とは何か」を概観するものである。近年の禅宗史では、敦煌文献や『祖堂集』等の利用によって、従来の初期禅宗史は全面的に書き換えられた。一方で、1000年以上にわたって『景德伝燈録』（1004年成立）等に基づいて、禅の歴史は刻まれてきた。たとえば、禅宗の開祖の達磨と梁の武帝との問答は、禅宗史では歴史的な史実ではないと結論されている。道元禪師はもちろん敦煌文献等を知らない。それでは伝世資料に基づいた禅思想が意味ないかと言うと、先にいうように既に1000年以上の歴史が刻まれているのである。この授業では道元禪師の著である『正法眼蔵行持』を学ぶのに、必要な資料についてしっかりとその性格を把握することから始めたい。その上で、禅宗史の意味するものと、道元の意図するものとを合わせ学ぶことによって、禅思想を学んで行きたい。
---------------------	--

授業スケジュール	教科書の『道元禪師 正法眼蔵行持に学ぶ』を利用しながら講義を進めたい。『行持』は、上下2巻でできていて、下巻より先に撰述されたと思われる。下巻は菩提達磨・芙蓉道楷・天童如浄がその中心をしめる。特に芙蓉道楷・天童如浄は、道元禪師の思想を考える上で重要であり、禅宗史では深く学ぶことができないので、時間を費やして学んで行きたい。禅宗史と同じ禅者を扱うに当たっても、原典が示されているので、漢文文献になれることも同時に果たしたい。『行持』には多くの禅者が取り上げられているので、30回では終われないかもしれないが、出来るだけ多くの禅者を取り上げたい。
----------	--

準備学習	前の年度で中国禅宗史を学んだことになっているので、何度も前年度の関連の書を読み返すこと。
------	--

履修上の留意点	教科書の『道元禪師 正法眼蔵行持に学ぶ』を読み、予備知識を付けておく。
---------	-------------------------------------

成績評価の方法	夏期休暇後に提出された教科書の感想文（400字詰め5枚程度）のレポート20点と学年末の筆記試験80点で評価する。成績にはある程度出席数を考慮する。
---------	---

教科書／テキスト	石井修道『道元禪師 正法眼蔵行持に学ぶ』（禅文化研究所）2,415円
----------	------------------------------------

参考書	石井修道『中国禅宗史話』（禅文化研究所）3,675円、絶版なので古書のみ 小川 隆『語録のこぼれ』（禅文化研究所）2,415円 『禅学大辞典』（大修館書店）、入矢義高等『禅語辞典』（思文閣書店）。
-----	--

履修コード	008911
科目名	禅心理学
担当者名	池上 光洋

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 仏教学部では「坐禅」が必修科目として存在するが、本講ではその坐禅(只管打坐)に対する理解を深め、よりよい状態で実践できるよう周辺諸科学の成果を学んでいく。また“禅”を取り巻く様々な問題にもふれてゆきたい。</p> <p>(到達目標) まず第一に、道元禅師の只管打坐の特徴を第三者にわかりやすく説明できるようになってほしい。具体的には、宗学的視点から道元禅の特徴を把握し、他の瞑想法との違いを明確に押さえてもらいたい。また、科学的知見からも説明できるよう、坐禅の医学的・生理心理学的研究成果を学んでほしい。</p> <p>第二に、現在実践されている禅のさまざまな文化(修行・葬祭等)について説明できるよう、周辺諸科学の成果を学んでほしい。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>まず道元禅師の坐禅観をおさらいした後、坐禅の医学的・生理心理学的研究成果を学んでいく。その後、禅に関するさまざまな話題を概観したい。また只管打坐との対比のため、各種瞑想法も実践する予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前期導入</li> <li>2～3. 道元禅師の坐禅観</li> <li>4～5. 「禅心理学」の発展と課題</li> <li>6～8. 坐禅の脳波的研究</li> <li>9～10. 坐禅と姿勢</li> <li>11～12. 坐禅と呼吸</li> <li>13～14. 坐禅の神経科学的研究</li> <li>15. 理解度の確認</li> <li>16. 後期導入</li> <li>17～18. 魔境(禅病)</li> <li>19～20. 変性意識状態</li> <li>21～23. 修行者の心理的発達</li> <li>24～25. 叢林(修行)生活</li> <li>26～27. 読経</li> <li>28～29. 葬祭</li> <li>30. まとめ</li> </ol>
----------	--

準備学習	坐禅や瞑想などを日常的に実践し、さまざまな疑問をもって授業に臨んでもらいたい。また、学部の授業では接することの少ない医学や心理学などの情報にも、普段から注意を払ってほしい。
履修上の留意点	専用のノートを用意すること。
成績評価の方法	定期試験80%、小テスト(不定期)20%。
教科書/テキスト	特になし。
参考書	講義中に随時紹介する。

履修コード	002501
科目名	禅籍講読I
担当者名	程 正

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	禅籍講読Iは、中国初期禅宗の文献を適宜取り上げて講読し、それぞれの禅思想の特色を明らかにするものである。
---------------------	--

授業スケジュール	取り扱う禅宗文献は、主に初祖とされる菩提達摩から、五家の成立以前までのものとする。具体的には、まず禅籍全般(3～4回)について説明し、それから達摩の語録とされる『二入四行論』(9～10回)、東山法門のテキストである『修心要論』(4～5回)、六祖慧能の語録とされる『六祖壇経』(6～7回)などの禅籍を順次取り上げて、解題を行ってから、それぞれの思想的特色を講義していきたい。
準備学習	特になし。
履修上の留意点	講義内容を必ずノートすること。配付資料とノートに基づいて復習すること。出席点を評価にしているので、欠席しないこと。
成績評価の方法	夏休みの課題レポート(20%)、期末試験(60%)、出欠点(20%)の三つを総合的に評価する。
教科書/テキスト	プリント配布。
参考書	適宜に紹介する。



履修コード	002601
科目名	禅籍講読II
担当者名	佐藤 秀孝

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	最初に講義形式で中国・日本における禅宗清規の歴史を概観し、ついで『景德伝燈録』に所収される「禅門規式」を講読し、唐代の百丈懷海(749-814)が理想とした禅宗清規成立期の精神を窺う。つぎに鎌倉期に渡来した臨済宗の蘭溪道隆(大覚禪師、1213-1278)の「坐禅儀」を講読し、同時代に活動した曹洞宗の永平道元(1200-1253)の「普勸坐禅儀」などと比較する。価値観が現代とはかなり異なっているが、禅宗における修行生活の意義を読み解くことによって、中国・日本の禅僧が理想とした叢林のありようを窺いたい。
---------------------	--

授業スケジュール	第1回から第5回は中国・日本における禅宗清規の歴史について概観する。第6回から第16回は『景德伝燈録』に所収される「禅門規式」を講読する。第17回から第20回は中国・日本で撰述された坐禅儀について概観する。第21回から最終回までは蘭溪道隆の「坐禅儀」を講読し、道元の『普勸坐禅儀』や瑩山紹瑾の『坐禅用心記』などと比較検討する。ただし、回数はあくまで目安なので、講義・講読の進行状況によって多少変更する可能性が存する。
----------	--

準備学習	禅宗の清規や坐禅あるいは日常生活について、関連する書籍や情報資料を読むなどの努力をしてほしい。
------	---

履修上の留意点	禅の文献はその多くが漢字で書かれた史料なので、漢文に慣れる努力をしてもらいたい。出席と授業中の対応も重視するので、積極的に授業に取り組む努力をしていただきたい。参考文献や配布資料は日頃から目を通しておくこと。
---------	--

成績評価の方法	学年末の試験と出席点に基づいて成績評価を行う。ただし、授業中の読解状況やレポート提出なども考慮する。
---------	--

教科書/テキスト	テキストはコピーしたものを配布する。
----------	--------------------

参考書	鏡島元隆等編『訳注禅苑清規』(曹洞宗宗務庁刊)などを講義の中で適宜に指示する。
-----	---

履修コード	002701
科目名	禅籍講読III
担当者名	岩永 正晴

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この科目は日本禅宗初期の典籍を講読するものである。また禅学科の選択必修科目であるので、これまで広く読まれてきた基本的な典籍を講読しなければならないと考える。よって本年度は道元禪師撰『学道用心集』を取り上げることとする。『学道用心集』は明治18年に定められた曹洞宗大学林専門学本校の授業科目でも宗部正講の初級に定められており、曹洞宗旨を学ぶためには必須の基本的な典籍とみなされてきた。この科目の目的に添うものと思う。
---------------------	---

授業スケジュール	第1回 授業の概要の説明 第2回～第4回 『学道用心集』の解題(著者、成立、流布等の解説)。 第5回以降 『学道用心集』の講読。
----------	--

準備学習	漢文で書かれた典籍を講読するので、漢文に慣れる努力をして、積極的に授業に望んで貰いたい。
------	--

履修上の留意点	紹介する参考書等は積極的に読んで貰いたい。
---------	-----------------------

成績評価の方法	学年末に実施する試験(定期試験、70点満点)と平常点(30点満点)によって成績評価を行う。
---------	---

教科書/テキスト	テキストはコピーしたものを配布する。
----------	--------------------

参考書	授業中(第2回～第4回)にリストを配布し紹介する。主なものとしては、『道元禪師全集』第5巻(春秋社)、角田泰隆『道元入門』(大蔵出版)、大本山永平寺編『学道用心集の参究』(国書刊行会)、篠原寿雄『学道用心集—学習と修行のこころえ—』(大東出版)、『道元禪のあゆみ1』(吉川弘文館)等。
-----	--

履修コード	006101 006102
科目名	禅美術
担当者名	村松 哲文

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>禅宗では、はじめ偶像を崇拜せず、自己の内面に仏性を悟ることを旨としていた。そのため偶像や仏画などが制作されることはなかったが、宋代になると僧侶たちが余暇に水墨画を描くようになり、これが宮廷の庇護を受けるなどして職業画家まで出現するようになる。描かれた題材は、山水・花鳥・祖師などで、これらを総称して禅絵画という。日本では、留学僧によって鎌倉時代に禅絵画が伝わり、ついには日本独自の水墨画を完成させた。</p> <p>本講義では、絵画を中心に話を進めるが、彫刻や墨蹟、庭園などについても触れてゆきたい。そして、作品に見え隠れする制作者の宗教性と美意識を考察したい。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	講義ガイダンスと宋代の社会と仏教 (1~3)、北宋の絵画 (4~7)、南宋の絵画 (8~11)、元の絵画 (12~15)、鎌倉時代の絵画 (16~19)、室町時代の絵画 (20~23)、枯山水の庭園 (24~25)、頂相彫刻 (26~28)、禅宗の建築と美意識 (29~30)
----------	--

準備学習	図書館に行き、禅美術関連の書籍を何冊か読んでおくと、講義内容が理解しやすいと思うので、時間のあるときに是非通読しておいてほしい。
------	--

履修上の留意点	講義内容を留めるのみならず、講義の際に映すスライドなどももしっかり観察すること。また美術館・博物館に行き、実物を観察する機会を多くつくること。
---------	---

成績評価の方法	定期試験、出席率、レポートなどで総合的に評価する。
---------	---------------------------

教科書/テキスト	プリントを配布する。
----------	------------

参考書	参考書・参考論文などは講義中に紹介する。
-----	----------------------

履修コード	008401
科目名	チベット語上級
担当者名	木村 誠司

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	チベット語の仏教文献を読めるようになるのが狙いである。チャンキヤの『宗義書』『毘婆沙師』章を読む。本書は、その種の文献の白眉ともいえる。内容は、理路整然としているが、初学者にとっては、かなりハードルの高いものである。背景にある文献やその扱いは、丁寧に説明し、文法的な解説も行うので、ペースはゆっくりである。出席者には、自分なりの万全な予習を期待する。
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. チベット語仏教文献読解のために</li> <li>2. 「毘婆沙師」とは何か</li> <li>3. チャンキヤ「毘婆沙師」の基本的考え 1</li> <li>4. チャンキヤ「毘婆沙師」の基本的考え 2</li> <li>5. チャンキヤ「毘婆沙師」の基本文献 1</li> <li>6. チャンキヤ「毘婆沙師」の基本文献 2</li> <li>7. チャンキヤ「毘婆沙師」の基本文献 3</li> <li>8. チャンキヤ教理「二諦」説 1</li> <li>9. チャンキヤ教理「二諦」説 2</li> <li>10. チャンキヤ教理「二諦」説 3</li> <li>11. チャンキヤ教理「二諦」説 4</li> <li>12. チャンキヤ教理「蘊・処・界」 1</li> <li>13. チャンキヤ教理「蘊・処・界」 2</li> <li>14. チャンキヤ教理「蘊・処・界」 3</li> <li>15. チャンキヤ教理「有漏・無漏」 1</li> <li>16. チャンキヤ教理「有漏・無漏」 2</li> <li>17. チャンキヤ教理「有漏・無漏」 3</li> <li>18. チャンキヤ教理「五位」説 1</li> <li>19. チャンキヤ教理「五位」説 2</li> <li>20. チャンキヤ教理「五位」説 3</li> <li>21. チャンキヤ教理「三時」説 1</li> <li>22. チャンキヤ教理「三時」説 2</li> <li>23. チャンキヤ教理「三時」説 3</li> <li>24. チャンキヤ教理「三時」説 4</li> <li>25. チャンキヤ教理「外界対象の考察」 1</li> <li>26. チャンキヤ教理「外界対象の考察」 2</li> <li>27. チャンキヤ教理「外界対象の考察」 3</li> <li>28. チャンキヤ教理「外界対象の考察」 4</li> <li>29. チャンキヤ教理「外界対象の考察」 5</li> <li>30. 他の「宗義書」の紹介</li> </ol>
----------	--

準備学習	特にないが、毎回の予習・復習は必ず行ってもらいたい。
------	----------------------------

履修上の留意点	受講者は、初級をマスターした者がベターであるが、そうでない者でもやる気があれば可である。
---------	--

成績評価の方法	授業中、実際に、テキストを読んでもらうので、評価はすべて平常点で行う。平常点100%
---------	--

教科書/テキスト	すべてコピーで配布する。
----------	--------------

参考書	
-----	--

履修コード	008301
科目名	チベット語初級
担当者名	松本 史朗

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	チベット語は、仏教思想の研究には不可欠な言語である。何故ならば、チベット語に訳された仏典、及び、チベット人仏教者が著した仏典を学ぶことがなければ、インド仏教の思想的研究は不可能であると、今日では考えられているからである。本講義のねらいは、このような仏教研究の目的のために、チベット語の文法を習得してもらうことであり、到達目標はチベット語初級文法の習得である。また文法事項の確認のため、最後に簡単な読み物も読むことにする。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>講義のスケジュールは、教科書に従い、ほぼ次の通りである。</p> <p>(第1回) チベット文字と発音の説明  (第2回) チベット文字の習得  (第3回) 前接字・基字の説明  (第4回) 後接字の説明  (第5回) 再後接字の説明  (第6回) 有冠字の説明  (第7回) 名詞  (第8回) 敬語  (第9回) 形容詞  (第10回) 副詞  (第11-15回) 動詞  (第16-19回) 助動詞  (第20-23回) 助動詞  (第24-26回) 文法のまとめ  (第27-28回) 『ミラレーバ伝』を読む  (第29-30回) 『般若心経』を読む</p>
----------	--

準備学習	特に必要ないが、チベットに関する基礎的な知識を持つことが望ましい。
------	-----------------------------------

履修上の留意点	授業初回に必ず出席すること。第2回以降からの受講は学習上不可能である。チベット文字を習得するまで、困難ではあるが、頑張ってもらいたい。
---------	---

成績評価の方法	平常点(100%)だけにより、成績を評価する。 この平常点には、出席(50%)以外に授業中に行う文字習得の為の小テスト(20%)、及びチベット文読解(30%)の結果を含む。
---------	---

教科書/テキスト	最初の授業で指示する山口瑞鳳博士の文法書だけを使用する。出版された文法書は使用しないので注意。
----------	---

参考書	
-----	--

履修コード	001901
科目名	チベット仏教史
担当者名	四津谷 孝道

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) チベット仏教は、長い間アジアの一辺境地の仏教であると理解されてきた。しかし、近年の仏教研究においては、チベット仏教の意義が見直されつつある。授業では、仏教研究においてチベット仏教が有する重要性を様々な角度から説明し、とりわけ思想史的な観点からチベット仏教の形成、その変遷、そしてその現状を解説していきたい。</p> <p>(到達目標) チベット仏教研究は、その成立の歴史的経緯から、インド仏教研究の補完的な役割を果たしてきた。しかし、チベット仏教は独自の思想体系を有し、その資料は膨大なものに及ぶものである。したがって、この授業では、まずチベット仏教の独自性を理解してもらうことを目標とする。また、チベット仏教は、日本仏教やタイ仏教と共に、現在も生きた伝統を有する仏教であることより、チベット仏教との比較・検討を通して、現代の日本社会において仏教がどのような役割を果たしているかについても理解を深めてもらいたい。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>第1回: チベット仏教を学ぶ意義 / チベット建国神話  第2回: チベット仏教を歪めたもの  第3回: チベット語の文献資料について  第4回: チベットと日本人 — 河口慧海を中心に  第5回: 前期伝播時代 (吐蕃王国時代) における仏教 (1) — 仏教の伝来  第6回: 前期伝播時代における仏教 (2) — 仏教の興隆  第7回: サムイェの宗論 (1) — 歴史的経緯  第8回: サムイェの宗論 (2) — 論争の意義  第9回: 前期伝播時代の終焉 (吐蕃王国の崩壊) / 後期伝播時代のはじまり (1) — 東西チベットにおける仏教の復興 / リンチェンサンポ等  第10回: 後期伝播時代のはじまり (2) — カダム派 (アティシャ / ドムトウン等)  第11回: インド・チベットにおける中観思想 (1)  第12回: インド・チベットにおける中観思想 (2)  第13回: チベット密教 (1)  第14回: チベット密教 (2)  第15回: チベット密教 (3)  第16回: ニンマ派 (ソクチェン) / ボン経 / 埋蔵文献  第17回: カギユ派 (マハームドラー / ナーローの六法)  第18回: サキヤ派 (道果説)  第19回: 転生ラマ / 施主とラマ  第20回: サキヤ派とモンゴル帝国  第21回: ゲルク派 (1) — 開祖ツォンカパの伝記と思想 (1)  第22回: ゲルク派 (2) — 開祖ツォンカパの伝記と思想 (2)  第23回: ゲルク派 (3) — 初期ゲルク派の歴史  第24回: ゲルク派 (4) — ダライラマ5世~6世を巡って  第25回: ゲルク派 (5) — ダライラマ13世を巡って  第26回: チベット動乱 — ダライラマ14世を巡って  第27回: ゲンドウン・チュベール  第28回: リメ (無宗派運動) 運動  第29回: ゲルク派の大僧院における仏教の学習  第30回: これまでの講義をふりかえって</p>
----------	---

準備学習 チベット仏教に関する概説書を一冊でよいから読んでおいてもらいたい。

履修上の留意点 授業内容は一続きのものであるため、継続的に出席すること。

成績評価の方法 年度末の試験により成績を評価する。

教科書/テキスト 最初の授業において指示する。

参考書 山口瑞鳳『チベット』東京大学出版会、上巻、1987、下巻、1988  
松本史朗『チベット仏教哲学』大蔵出版、1997  
その他、最初の授業において指示する。

その他 特になし

履修コード	003511
科目名	中国古典語Ⅰ
担当者名	吉村 誠
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 東アジアでは漢訳経典が「聖典」とされ、高僧の著作もほとんどが漢文で書かれている。この授業では、その中から名著を選んで講読する。 (到達目標) 1年次の必修科目である仏教漢文入門の教養を基礎として、さらに応用的な仏教漢文の読み方に習熟するとともに、仏典を正確かつ批判的に読む力を身につける。
授業スケジュール	本年度は世親の『唯識三十頌』（第1偈～第15偈）を講読する。同書は唯識の教義をわずか30の偈頌でまとめた名著である。内容の理解を深めるため、『唯識三十頌』の注釈書である『成唯識論』もあわせて講読する。 (前期) (1) 『唯識三十頌』と『成唯識論』 (2～15) 阿頼耶識 (後期) (1～10) 末那識 (11～15) 前六識
準備学習	・仏教漢文入門の内容をよく復習しておくこと。 ・漢文訓読の予習をして授業に臨むこと。意味の分からない語句は、必ず漢和辞典や仏教辞典で調べておくこと。
履修上の留意点	・仏教漢文入門の単位を取得していること（編入生、聴講生を除く）。 ・語学の習得には学習の継続が不可欠である。出席励行のこと。
成績評価の方法	平常点50%、課題の成績50%を原則とする。試験は行わない。
教科書／テキスト	太田久紀『唯識三十頌要講』中山書房仏書林、1989年。
参考書	授業中に随時紹介する。

履修コード	008511
科目名	中国古典語Ⅱ
担当者名	小川 隆
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	中国古典語（いわゆる『漢文』）読解の初歩的訓練を行う。「Ⅱ」となっているが「Ⅰ」よりも高度な教材をやるわけではなく、基礎から順に学んでゆく。ただ、原文⇒訓読⇒解釈という通常の方法でなく、原文⇒字義と語法の分析⇒解釈⇒訓読という順序で講読を行う。訓読で読むのではなく、語学的に読み解いた結果を訓読で表記する、という趣旨である。
授業スケジュール	(1)～(3) 簡単な例文を使って、漢文の基本構造を学ぶ。 (4)～(15) 下記教科書を使って散文を選読。中国古典語の字義と語法を学ぶ。 (16)～(20) プリントを使って、詩（いわゆる「漢詩」）の規則と解読法を学ぶ。平仄・押韻・対句など今体詩の基本形式を習得する。 (20)～(30) 仏典・禅籍の選読。中古漢語・近代漢語の語彙と語法をふまえ、経論・僧伝・禅語録などの読み方を学ぶ。
準備学習	高校程度の漢文についてまったく学習経験の無い人は、山田史生『受験生のための一夜漬け漢文教室』（ちくまプリマー新書093）か奥平卓『漢文の読み方』（岩波ジュニア新書147）を、5月連休明けぐらいまでに読んでおくこと。
履修上の留意点	毎回、予習と復習が必要。一回に読む量はごく少ないので、原文を手で書き写し、辞書をよくひいておくこと。現代中国語の学習経験がある人は、中国語による音読にもぜひ挑戦してほしい。
成績評価の方法	毎回、輪読形式で行い、実際の読解水準をもとに平常点で評価する。定期試験は行わない。
教科書／テキスト	高橋忠彦『三国志で攻略！ センター漢文12』旺文社・大学JUKEN新書 840円＋税 ISBN978-4-01-033790-5 返り点・送り仮名の無い原文のみのプリントを別途配布。
参考書	戸川・佐藤・濱口『全訳 漢辞海』三省堂 2900円＋税 ISBN978-4-385-14047-6

履修コード	002301
科目名	中国禅宗史
担当者名	石井 修道

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この講義は中国禅宗史を概観するものである。禅宗史を学ぶのに必要な資料にまず触れ、勉強の仕方、折りに触れたい。具体的には、唐・五代・宋・元代の最も魅力ある禅者を一人一人禅宗史上で位置づける中で学んでいきたい。年間、数限られた人数しか触れられないであろうが、しかし、できるだけ数多くの禅者に触れてみたい。特に唐・五代を中心に①菩提達磨②二祖慧可③五祖弘忍④六祖慧能⑤青原行思⑥南嶽懷讓⑦石頭希遷⑧馬祖道一⑨藥山惟儼⑩百丈懷海⑪雲巖曇晟⑫南泉普願⑬趙州從諗⑭瀉山靈祐⑮黃檗希運⑯洞山良价⑰臨濟義玄⑱雪峰義存⑲玄沙師備⑳雲門文偃及び法眼文益などを取り上げる。宋・元では、①芙蓉道楷②宏智正覺③圓悟克勤④大慧宗杲⑤中峰明本などを取り上げる。興味ある行状はできるだけ触れるつもりである。
---------------------	---

授業スケジュール	教科書の『道元禅師 正法眼蔵行持に学ぶ』を利用しながら講義を進めたい。
準備学習	中国禅宗史に関する著書は、図書館にたくさん所蔵されているので、多く利用して関心をもつこと。

履修上の留意点	教科書を読み、予備知識を付けておく。
成績評価の方法	夏期休暇後に提出された教科書の感想文(400字詰め10枚程度)のレポート20点と学年末の筆記試験80点で評価する。出席は毎回取るので、成績には必ず出席数を考慮する。

教科書/テキスト	石井修道『道元禅師 正法眼蔵行持に学ぶ』(禅文化研究所) 2, 415円
参考書	小川 隆『語録のことは』(禅文化研究所) 2,415円 『禅学大辞典』(大修館書店)、入矢義高等『禅語辞典』(思文閣書店)。

履修コード	007401
科目名	中国哲学史
担当者名	前川 亨

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	東アジア世界において重要な精神的な位置を占める中国の哲学・思想・宗教について概観する。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>本年度は宋代から近代までの時代を取り扱う。この時代を論ずる場合のキーワードの一つは「近代(化)」ということになるであろう。講義の具体的な内容としては以下のものを予定している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中国思想史を学ぶ意義</li> <li>・唐代の社会と文化</li> <li>・唐宋変革の問題</li> <li>・科挙、士大夫の登場</li> <li>・宋代禅宗の思想(大慧宗杲)</li> <li>・慶曆の新義、北宋五子</li> <li>・北宋五子(周濂溪)</li> <li>・北宋五子(張横渠)</li> <li>・北宋五子(程明道・程伊川・邵康節)</li> <li>・福建道学と湖学</li> <li>・朱子学の構造(存在論・宇宙論)</li> <li>・朱子学の構造(人間論・修養論)</li> <li>・朱子学の四書解釈</li> <li>・朱子と陸象山</li> <li>・南宋末における朱子学の展開</li> <li>・朝鮮半島・日本への朱子学の伝播</li> <li>・元代とはどのような時代か</li> <li>・明代における王陽明の登場</li> <li>・陽明学の思想</li> <li>・王学左派(泰州学派)</li> <li>・李卓吾</li> <li>・明代の文化と社会(宝巻の流行)</li> <li>・明末清初をどう捉えるか</li> <li>・清初の三大儒(経世致用の学)</li> <li>・戴震</li> <li>・清朝考証学</li> <li>・時代の転換期(アヘン戦争前後)</li> <li>・洋務運動と変法運動</li> <li>・革命派の登場と中国近世の宗教反乱</li> <li>・辛亥革命</li> <li>・新文化運動(伝統との対決)</li> <li>・新文化運動(毛沢東の登場)</li> </ul> <p>それぞれについてどの程度時間を割くかは、受講者の関心なども考慮しながら柔軟に対応する。また、場合によってはこのうちの幾つかを省略することもある。</p>
----------	--

準備学習	特に予習は要求しない。(配布する資料は授業担当者が適宜読んで解説する。)
履修上の留意点	受講生には継続的な出席と積極的な参加を求める。継続して出席する意志のない者、出席しても授業を集中して聴く意志のない者の受講は認めない。
成績評価の方法	本年度は試験を実施する予定であるが、受講者数が少ない(目安として10人以下)場合には平常点とレポートに切りかえるかも知れない。いずれにしても出席はとり、出席回数(出席回数)の足りない学生には試験受験もしくはレポート提出の資格を与えない。
教科書/テキスト	特に必要としない。
参考書	授業中に適宜紹介する。
その他	できるだけ多くの知識を提供するため、講義の形式をとるが、受講者の意見を徹しながら進めていくので、質問には積極的に応答してもらいたい。中国(東アジア)の社会・文化・宗教など様々な方面に関心をもつ諸君の受講を期待する。受講者数によっては、演習形式(討論など)を付加することも考えたい。 また東アジアに関する他の授業(歴史・文学など)も積極的に受講してもらいたい。

履修コード	002001
科目名	中国仏教史
担当者名	吉村 誠

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 中国仏教の歴史を、仏教伝来から現代に至るまで概説する。歴史の事実をただ解説するのではなく、政治・社会・教理・信仰など様々な角度から考察することで、中国仏教の特徴を把握するように心がけたい。 (到達目標) 中国の人々は、仏教という外来の思想・文化を受容し、変容させ、独自の「中国仏教」を形成した。その過程と特徴を学びながら、中国仏教に対する見かた、考え方を習得することが、第一の目標である。また、中国仏教は韓国・日本・ベトナムなどに伝播して「東アジア仏教圏」を成立させた。中国仏教の学習を通じて、東アジア仏教を知るための基礎的教養を身につけることが、第二の目標である。
---------------------	---

授業スケジュール	(前期) (1) 仏教の中国伝播 (2) 後漢の仏教 (3) 魏晉の仏教 (4) 仏教受容の背景 (5) 五胡十六国の仏教 (6) 鳩摩羅什の翻訳 (7) 東晉の仏教 (8) 南朝の仏教 (9) 儒教・道教との交渉 (10) 北朝の仏教 (11) 諸学派の興起 (12) 隋の仏教 (13) 天台と三論 (14) 疑經の作成 (15) まとめ (後期) (1) 唐の仏教 (2) 玄奘の翻訳 (3) 唯識と華嚴 (4) 律と密 (5) 浄土と禪 (6) 五代・十国の仏教 (7) 北宋の仏教 (8) 南宋の仏教 (9) 大蔵經の出版 (10) 遼・金・西夏の仏教 (11) 元の仏教 (12) 明の仏教 (13) 清の仏教 (14) 中華民国・中華人民共和国の仏教 (15) まとめ
----------	--

準備学習	・高校までの世界史(東洋史)を復習しておくこと。
履修上の留意点	・授業は講義形式である。講義内容は各自ノートにまとめること。 ・遅刻や途中退出など、他の履修者の迷惑となる行為は慎むこと。
成績評価の方法	平常点50%、テスト等の成績50%を原則とする。
教科書/テキスト	吉村誠『中国仏教史』。購入方法は最初の授業で指示する。
参考書	野上俊静・他『仏教史概説 中国篇』平楽寺書店 鎌田茂雄『中国仏教史』岩波全書 その他、授業中に随時紹介する。

履修コード	004301
科目名	中国仏教思想史
担当者名	吉津 宜英

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	中国仏教思想史の目標を示すには、中国仏教史との違いを明らかにしなくてはなりません。学問は、何故という問い(問題意識)、何を(研究対象)、どのように(研究方法論)の三つの問いを中心に展開します。また「何を」の問いに関わることで、事実を明らかにする事実判断と、研究対象の真偽、善悪や是非を決する価値判断とを弁別しなくてはなりません。仏教史は事実判断に徹する歴史研究の成果が扱われます。それに対して、思想史は研究者、あるいは教授者の価値判断も無視できないのです。思想史とは何かをめぐっては哲学的な書物があります。単に過去の中国の仏教を扱うのではなく、講義を行う私自身の仏教観も問われるのです。また中国仏教が研究対象であり、しかも思想史ですから、中国の他の宗教や思想も仏教と対等な立場で扱い、それらの交流、対処、論争、融合などの様々な面を見てゆかなくてはなりません。そして思想史ですから、研究対象と、私自身の人生観・仏教観・思想が対峙し、緩やかに言えば相互に対話的に、厳しく言えば相互に論争的に研究が進められることとなります。皆さんは事実に中国とは全く異なる文化的背景の中で生まれたインド仏教が、中国の思想風土の中で、いかに中国仏教となっていくのかをまず学んで下さい。そしてそのような中国仏教に思想史的に関わるとは、どのような研究方法論になるのかという私自身の一つの研究モデルを考察していただきたいと思えます。
---------------------	---

授業スケジュール	今年は唐代の仏教者宗密(780-841)の『原人論』をテキストに用いて、禅宗と華嚴教学との融合、すなわち教禅一致説、さらに儒教・道教・仏教の融合、すなわち三教一致の教学の思想史的解明を行います。「三教の流れ」(第1, 2, 3回)、「宗密の思想」(第4, 5, 6回)、「韓愈の思想」(第7, 8回)、「原人論の序」(第9, 10回)、「儒教・道教に従う学徒の迷執を斥ける」(第11~15回)、「仏教内の前階梯の教えを偏狭で浅薄であると斥ける」(第16~20回)、「直ちに仏法の真源を顕し人間の眞性を明示する教え」(第21~25回)、「仏法の真源より諸教を再評価し人間論を総括する」(第26~29回)、「まとめ」(第30回)。進み具合に変動のあることをあらかじめご理解下さい。
準備学習	世界史年表により、中国の王朝の交代の流れは確認して下さい。また高校で習ったレベルの中国史の大きな出来事はあらかじめ何らかの方法で認識する努力をお願いします。
履修上の留意点	この科目専用のノートを用意して下さい。講義内容を筆記すると共に、自分の意見や疑問を書きとめ、年間を通して受講と自分の思索の軌跡が残るようにして下さい。
成績評価の方法	出席を取ります。最後に期末テストを行います。それらを総合して評価します。
教科書/テキスト	小林圓照『原人論を読む』(ノンブル社)。著者と出版社の承諾を得ていますので、2,000円(実定価2,300円)で吉津から購入して下さい。
参考書	講義の際にテーマに即して参考書や論文などを随時紹介します。
その他	私が講義している最中でも挙手して、質問や意見を述べて下さい。私語は厳禁です。講義開始時間から30分過ぎている時は自主的に教場への入室はご遠慮下さい。



履修コード	003901 003902
科目名	中国仏教文化史
担当者名	程 正
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	インドで成立した仏教は中国においてどんな軌跡を描きながら受容され、そして自らのすがたを変えながら中国人の宗教として展開していったのか。こうした問題を意識しつつ、講義を進めていきたい。
授業スケジュール	ガイダンスを兼ねて、中国仏教文化のすがたとかたちについて考える (8~9回)。中国仏教史上における破仏、いわゆる「三武一宗」の法難について講義するとともに、『父母恩重経』をはじめとする中国で撰述された偽経も紹介し、これらの偽経の出現の文化史的意義を考える (12~13回)。仏典漢訳、写経、經典印刷、大蔵經の編纂など、いわゆる仏教經典の流布に促された仏教文化の発達について考える (8~9回)。
準備学習	特になし。
履修上の留意点	資料を沢山配布するので、専用のノート、あるいはファイルを用意すること。配付資料とノートに基づいて復習すること。
成績評価の方法	夏休みの課題レポート (20%)、出席状況 (20%)、期末試験 (60%) を総合して評価する。
教科書/テキスト	プリント配布。
参考書	授業中適宜指示する。

履修コード	002101
科目名	朝鮮仏教史
担当者名	石井 公成
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	仏教伝来から現代に至るまでの朝鮮仏教を、東アジア仏教史の観点から概説し、インド・中国・日本・ベトナムなどの仏教との共通点と違いについて検討します。日本の仏教は、朝鮮半島の百済から伝えられ、奈良時代前半までは実質的には朝鮮仏教が主流であり、日本側で受容したのも朝鮮半島からの渡来系氏族が中心です。日本仏教を知るためには、朝鮮仏教を学ぶ必要があります。また、朝鮮では戦乱その他で資料の多くが失われているため、朝鮮仏教を知るためには日本に残る資料を活用する必要があります。その関係の深さを理解することが目標です。
授業スケジュール	初回: 授業方針の説明。朝鮮仏教研究の意義とその方法 第1段階: 三国 (高句麗・百済・新羅) 時代の仏教 第2段階: 日本の資料に見える朝鮮仏教 第3段階: 統一新羅時代の仏教 第4段階: 高麗時代の仏教 第5段階: 李朝朝鮮時代の仏教 第6段階: 韓国近現代の仏教 * 以上の内容を扱うが、場合に応じて異なる時代や国の仏教に触れる予定です。
準備学習	授業時間のどこかで小レポートとして、当日の授業でとりあげた内容に対する考えや疑問、これまで何回かの内容のまとめ、その他を書いてもらいますので、以前の資料を時々読み直しておいてください。
履修上の留意点	毎回、資料を読みながらどんどん質問していくため、自分の考えに基づき、積極的に答えてください。授業を聞いていない場合は、欠席しているものとみなします。
成績評価の方法	年間に10回以上、授業の中で不定期に行なう小レポートとによって評価します。授業中での応答などが優れていた場合や授業態度が悪い場合は、それらも考慮します。授業を聞いておらず、きちんとレポートを書けていない場合は、出席したものと認められません。中間試験や期末試験はおこないません。
教科書/テキスト	毎回、資料を配付します。以前の授業で使った資料を後でまた使うこともあるため、資料は毎回持参して下さい。
参考書	石井公成編『新アジア仏教史10 朝鮮半島・ベトナム-漢字文化圏への広がり』(佼成出版社)4,200円、ISBN 9784333024384

履修コード	007601
科目名	哲学概説
担当者名	杉田 正樹
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	哲学の基本的な考え方を概説し、また哲学のおおまかな歴史を通覧して、哲学の全体像をつかむことを目指す。 前期の講義を踏まえて、後期ではわれわれが生きる現代という時代を哲学の観点から考える。これによって現代固有の問題と、歴史を通じて変わらない問題を見ることになる。
授業スケジュール	(1) はじめに、哲学入門への入門、(2、3) 人生観、世界観と哲学、(4～6) 哲学の分野と方法、(7、8) 東洋の知恵、(9～11) 古代哲学から中世哲学へ、(12、13) 近代哲学、(14) 存在と知識、(15) まとめ、(16) はじめに、現代という時代、(17～19) 科学・技術と自然、(20～22) 内面性の問題、(23) 善と悪、(24) 苦悩について、(25、26) 情念の問題、(27) 死と生、(28) 歴史について、(29) 宗教について、(30) まとめ
準備学習	講義に前に、必ずテキストの指定した箇所を読んでおくこと。
履修上の留意点	テキストを読んでくることを前提として、教室では議論をすることにしたい。また、課題図書を指定し、それについても議論する。レポートの書き方も指導する予定である。
成績評価の方法	学期末にレポートを課す。また、出席、議論への参加を評価する。
教科書／テキスト	渡辺二郎『はじめて学ぶ哲学』2005年刊、ちくま学芸文庫(筑摩書房)1,260円、ISBN-10:4480089055
参考書	

履修コード	003401
科目名	日用経典
担当者名	飯塚 大展
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	前期は『般若心經和談抄』を読解し、後期は室町時代五山僧の註釈書『蕉了記』を通して『首楞嚴經』を読解することを目的とする。
授業スケジュール	『般若心經』の概説(註釈史概説、1～5)、『般若心經和談抄』(江戸時代版本)の読解(6～15)、『首楞嚴經』概説(16～18)『蕉了記』の読解(五山版について、五山における『首楞嚴經』の受容、19～30)。
準備学習	活字体とは異なるテキストを用いるので、行書や草書、異体字に関する知識を修得していることが望ましい。
履修上の留意点	本講義専用のノートを準備すること。
成績評価の方法	三分の二以上の出席数を前提とする。平常点(30点配分)と期末試験(70点)を以て評価する。
教科書／テキスト	教科書は用いない。適宜プリントを配布する。
参考書	参考書は第2回目の講義及び概説において紹介する。

履修コード	002401
科目名	日本禅宗史
担当者名	佐藤 秀孝
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講座は、日本における禅宗の歴史を講義するものである。唐・宋代に隆盛した中国禅宗がどのように日本に伝来し、如何なる展開・発展を遂げて日本禅を形成していったのか、その過程を探ることで、思想史的な意義と日本文化への影響などを論じたい。
授業スケジュール	前期には、唐代禅宗について、平安以前の禅、宋代禅宗の伝来、栄西と能忍、兼修禅の系譜、道元の活動、初期永平寺僧団、来日僧と入宋入元僧、日本禅の二十四流などについて論じ、後期には、五山派と林下、五山禅林と五山文学、中世文化と禅宗、瑩山紹瑾と曹洞宗の地方展開、応燈閣の一流、戦国時代と禅僧、幕藩体制下の禅宗、隠元の来日と黄檗宗、近世臨済宗と白隠禅、近世曹洞宗と宗統復古、近代国家と禅宗などについて論じる。
準備学習	日本史の中世と近世の歴史を前もって理解し直しておく。
履修上の留意点	禅の教理や思想の理解および日本史の一般的知識を習得しておくこと。
成績評価の方法	平常点(出席)と試験による総合評価。
教科書／テキスト	伊吹敦『禅の歴史』(法蔵館)3,800円
参考書	田中良昭編『禅学研究入門』(大東出版社)6,000円 船岡誠『日本禅宗の成立』(吉川弘文館)2,500円 中尾良信『図解雑学・禅』(ナツメ社)1,400円 その他、日本禅宗に関する諸文献

履修コード	007411
科目名	日本哲学史
担当者名	久保 陽一

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>明治の初めから1930年代までに日本の哲学がたどった展開を概観する。近代日本の知識人は文明開化をめざす時代の流れの中で、西洋近代の思想を学ぶ必要性に駆られたが、逆にそれを通して、自分や自分の周辺のうち日本独自の伝統思想や文化を意識せざるを得なかった。問題は、彼らがどのように両者の折り合いをつけようとしたかである。講義では、この折り合いのつけ方の主なタイプを見てみることにする。</p> <p>現代は、世界のどこでも一方で近代化と、他方で「文化の多元性」の尊重という傾向が拮抗していると言われる。その中で、日本人の今後の在り方を考えるためには、近代日本の哲学者が行った、西洋思想と伝統思想との折り合いの付け方が参考になると思われるので、その点を検討することにした。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション、近代日本哲学の概観</li> <li>2 西周 (1)</li> <li>3 西周 (2)</li> <li>4 福澤諭吉 (1)</li> <li>5 福澤諭吉 (2)</li> <li>6 福澤諭吉 (3)</li> <li>7 福澤諭吉 (4)</li> <li>8 内村鑑三 (1)</li> <li>9 内村鑑三 (2)</li> <li>10 内村鑑三 (3)</li> <li>11 新渡戸稲造 (1)</li> <li>12 新渡戸稲造 (2)</li> <li>13 井上哲次郎 (1)</li> <li>14 井上哲次郎 (2)</li> <li>15 理解度の確認</li> <li>16 井上円了 (1)</li> <li>17 井上円了 (2)</li> <li>18 西田幾多郎 (1)</li> <li>19 西田幾多郎 (2)</li> <li>20 西田幾多郎 (3)</li> <li>21 西田幾多郎 (4)</li> <li>22 鈴木大拙 (1)</li> <li>23 鈴木大拙 (2)</li> <li>24 理解度の確認</li> <li>25 和辻哲郎 (1)</li> <li>26 和辻哲郎 (2)</li> <li>27 和辻哲郎 (3)</li> <li>28 九鬼周造 (1)</li> <li>29 九鬼周造 (2)</li> <li>30 理解度の確認</li> </ol>
----------	--

準備学習	授業であらかじめ資料を配布することがあるので、それをあらかじめ読んで、予習しておくこと。
------	--

履修上の留意点	授業の流れをつかむことが大事なので、必ず出席すること。分からないことがあれば、遠慮なく質問すること。講義を手掛かりに、自分でさらに原典などを読むことが望ましい。
---------	--

成績評価の方法	試験 (7割) とレポート (2割) と平常点 (1割) によって評価する。
---------	--

教科書/テキスト	教科書は特になし。個々の哲学者の文章を資料として配布する。
----------	-------------------------------

参考書	<p>相良亨「日本人の心」(東大出版会)  丸山真男「日本の思想」(岩波新書)  丸山真男「福澤諭吉の哲学」(岩波文庫)  藤田正勝編「日本近代思想を学ぶ人のために」(世界思想社)  古田光・子安宣邦「日本思想史読本」(東洋経済新報社)</p>
-----	--

履修コード	002201
科目名	日本仏教史
担当者名	飯塚 大展

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	日本仏教史の枠組みを概説する。
授業スケジュール	(1)日本において仏教がいかに受容されたのかを、時代の変遷と仏教の変容を中心に概説する。 (2)①古代仏教史(飛鳥・奈良・平安時代の仏教、中世仏教への胎動、1~12)、②中世仏教史(中世仏教史の枠組、顕密体制論、「遁世僧・官僧」モデル、顕密仏教の展開、13~23)、③近世仏教史(幕藩体制下の仏教、寺檀制度、各宗宗学の発達、三教一致批判、24~28) ④近代仏教史(近代天皇制下の仏教、29~30)
準備学習	日本仏教史に関する一般的な知識を前提とする。少なくとも松尾剛次『仏教入門』(岩波ジュニア新書)、末木文美士『日本仏教史』を読了して欲しい。
履修上の留意点	本講義専用のノートを準備すること。
成績評価の方法	三分の二以上の出席を前提とする。平常点(20点)、夏期課題レポート(30点配分)、期末試験(50点)を以て評価する。
教科書/テキスト	教科書は用いない。資料はYestudyによって開示配布する。
参考書	参考書は第二回目の講義及び各時代仏教史の概説の際に提示する。

履修コード	004001 004002
科目名	日本仏教文化史
担当者名	藤井 淳

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	日本における仏教の役割について、外国との関係および建築・美術や文学・風習など文化面に焦点を当てながら理解を深める。
授業スケジュール	(前期) 1 イントロダクション, 2 現代と日本仏教文化, 3 古墳時代・飛鳥時代, 4 白鳳時代, 5~6 奈良時代(対外関係・東大寺と正倉院), 7~10 平安時代(遣唐使と国風文化・源氏物語・平家納経・奥州平泉・総説), 11~14 鎌倉時代(元寇と禅僧・総説), 15 前期総説 (後期) 16 視聴覚資料, 17 南北朝時代, 18~20 室町時代(能・茶・建築), 21 神道と仏教 22 戦国時代, 23 安土桃山時代, 24 キリスト教と仏教, 25~26 江戸時代, 27 明治, 28 大正・昭和, 29 現代, 30 総説 以上は進行の目安であって、適宜前後することは了承されたい。なお日本史の授業ではなく、該当する時代の仏教文化に焦点を当てたものである。
準備学習	授業で該当する時代を、授業の前に参考書を含めて、ネットなどでも情報を積極的に集めることで知識を深めておくことで授業の内容がより血肉化するので予習を心がけること。
履修上の留意点	日本史に関する全般的な流れ(細かい知識は問わない)を前提として講義するので、日本史の知識が不十分なものは授業で該当する時代の『詳説日本史研究』(佐藤信編集、山川出版社、2500円、ISBN:978-4634011014)もしくは高校時代の日本史の教科書を読んで予習しておくこと。Yestudyを用いて資料の配布等を行うのでYestudyを使えるようになっておくこと。課題の実行のためにコピー代・交通費・展覧会など費用が発生するので注意すること。
成績評価の方法	出席状況を考慮しつつ、基本的には学年末の定期試験によって評価する。その他に仏教文化を実際に見聞した体験をレポートとして提出してもらう。
教科書/テキスト	資料集として『詳説日本史図録』(第4版 山川出版社、890円、ISBN:978-4634025240)を用いる。教科書は指定しないが以下の参考書を読んでおくこと。
参考書	松尾剛次『仏教入門』(岩波ジュニア新書、861円、ISBN:978-4005003228) 末木文美士『日本仏教史』(新潮文庫、620円、ISBN:978-4101489117)
その他	学生時代は能や文楽など日本の伝統芸能を約半額の料金で楽しめる時期である。公演などを授業中に適宜案内するが、受講者はそれらを積極的に鑑賞して伝統文化と現代の関わりについて考えてほしい。また急速に消え去りつつある地方の伝統文化についても時間に余裕のある大学生時代に大いに触れてほしい。

履修コード	008201
科目名	パーリ語上級
担当者名	古山 健一
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	1. パーリ語の文法及び語彙についての高度な知識を身につけ、インド仏教研究ないしパーリ伝統仏教の理解に不可欠な、パーリ註釈文献の読解力を養う。 2. 読解に用いるパーリ文テキストに、ローマ字本以外のテキスト（特にミャンマー第6回結集版）をも使用し、異字本の参照能力を身に付ける。
授業スケジュール	前期及び後期前半は、[1] ミャンマー（ビルマ）文字による第6回結集版の正しいローマ字のしかた、[2] パーリ語の音韻規則・連声法、接尾辞（造語法も含む）、接頭辞、複合語、格の用法、構文法について学習する。 後期後半は、[3] 文献の読解を通して上級文法を実践的に習得することに力点を置く。読解するテキストには、H. C. Norman校訂のパーリ文献協会（PTS）版およびミャンマー第6回結集版による、『ダンマパダ（法句）』の註釈書『ダンマパダ・アッタカター』（第7章「阿羅漢の章の註」以下）の物語を用いる予定である。
準備学習	受講にあたっては、パーリ語初級の履修を終えているか、またはこれに相当する学習経験を有していることが望ましい（サンスクリット語初級の履修以上も含む）。
履修上の留意点	毎回の授業の学習事項を復習することを常に心がけること。文献の読解は演習形式の授業を進めるので、その際は必ずテキストの下訳作りなどをしておくこと。
成績評価の方法	授業への出席状況と学習意欲により評価する（定期試験は実施しない）。
教科書／テキスト	すべてプリントで配布する。
参考書	水野弘元『増補改訂パーリ語辞典』（春秋社）、4725円、ISBN-13：978-4393101568；水野弘元『パーリ語文法』（山喜房佛書林）、3150円、ISBN-13：978-4796300100
その他	初回の授業で受講と成績評価についての説明をおこなうので必ず出席すること。

履修コード	008101
科目名	パーリ語初級
担当者名	片山 一良
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	パーリ語は、原始仏教を学ぶ者にとって不可欠な「聖典語」である。パーリ語文法の確実な習得につとめ、仏典の正しい読解をめざしたい。
授業スケジュール	前半は文法全体について講義し、後半は中部第74『ディーガナカ経（長爪梵志経）』（Dīghanakha-sutta）を講読する。
準備学習	予習と復習が求められる。
履修上の留意点	一つ一つ、丁寧に学び、習得することが望まれる。
成績評価の方法	年度末テスト、および平常点による。
教科書／テキスト	とくに使用しない。随時、資料プリントを配布する。
参考書	水野弘元『パーリ語辞典』（春秋社）
その他	随時、テープ等を使用する。

履修コード	001801
科目名	パーリ仏教史
担当者名	矢島 道彦

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>仏教はその淵源をたどれば、古代の東インドに胚胎した沙門系の宗教に由来しています。すでにブッダの在世中に教団はある程度大きく成長していましたが、その教線が飛躍的に拡大したのは、なんといってもマウリヤ王朝の第三代帝王アショーカ王の時代でした。このマウリヤ王朝期に、当時有力な部派の一つであった上座部系の仏教がスリランカに伝えられて、その後、タイ、カンボジア、ミャンマー、ラオスなどの諸地域にもたらされることとなりました。ここで「パーリ仏教史」というのは、地域的にはこうした南アジアや東南アジアの国々を中心として行われてきた、いわゆる上座〔部〕仏教（テーラヴァーダ仏教）の歴史という意味です。いずれもパーリ語聖典を所持しているという意味で、これらの地域に展開した仏教をパーリ仏教と呼ぶこともできるわけです。インド本土ではやがて仏教は滅びてしまいますが、周辺地域に広く伝えられて、かたや北伝の大乗仏教として、かたや南伝のテーラワータ仏教として、大きく花開いていきました。幾多の消長を繰り返しながらも、今日にまで伝えられてきたテーラヴァーダ仏教の歴史を、ここではさまざまな角度から辿ってみたいと思います。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) はじめに ～「パーリ仏教」のとらえ方～</li> <li>(2) 沙門系の諸宗教と仏教</li> <li>(3) 図像にみるブッダの生涯 (スライド)</li> <li>(4) スリランカの古都を訪ねて (スライド)</li> <li>(5) ブッダの用いた言語とパーリ語</li> <li>(6) 繰り返される結集 (聖典の編纂史)</li> <li>(7) 聖典と非聖典</li> <li>(8) 九分教とパーリ文学</li> <li>(9) 福田思想の歴史的展開</li> <li>(10) 出家教団と在家の人々</li> <li>(11) 出家の修道論と少欲知足</li> <li>(12) パリッタとはなにか</li> <li>(13) マヒンダ長老とマハーヴィハーラ派</li> <li>(14) アバヤギリ派と大乗仏教の影響</li> <li>(15) 仏歯をめぐる争いと法顕の報告</li> <li>(16) 学匠ブッダゴサーとその学統</li> <li>(17) 仏滅年代とスリランカの王統史</li> <li>(18) 密教の隆盛と伝統仏教の対抗</li> <li>(19) スリランカ仏教の苦難の歴史</li> <li>(20) ヒルマの仏教①</li> <li>(21) " ②</li> <li>(22) タイの仏教①</li> <li>(23) " ②</li> <li>(24) カンボジアの仏教①</li> <li>(25) " ②</li> <li>(26) ラオスの仏教</li> <li>(27) その他諸地域におけるテーラワータ仏教</li> <li>(28) 現代におけるテーラワータ仏教①</li> <li>(29) " ②</li> <li>(30) まとめ</li> </ol>
----------	--

準備学習	インド仏教やテーラワータ仏教の歴史に関する本を何か一つ読んでおくこと。また、授業で疑問に思ったことなどは、その都度自分で調べるなり、尋ねるなどすること。
履修上の留意点	受講者数にもよりますが、一方的な講義ではなく、参加型の授業にしたいと思います。そのつもりで臨んで下さい。
成績評価の方法	平常点とレポート（または試験）によって総合的に評価します。
教科書／テキスト	使用しません。
参考書	講義のなかで適宜紹介します。

履修コード	001101 001102
科目名	仏教・禅教団論 禅学研究III
担当者名	熊本 英人 吉津 宜英

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)</p> <p>本講座では前期は仏教の教団論を扱い、後期は禅宗の教団論を講義する。宗教は教義(思想)、儀礼(修行)、教団(集団)の三つの視点から把握することができる。教義と儀礼は個人的立場からだけで取り扱うこともできるが、教団は宗教集団であり、個人的ではなく、そして宗教の社会的存在の意義を問うものである。キリスト教などの教会を中心とした教団と、仏教のそれとの違いはどうであろうか。</p> <p>釈尊は『スッタニパータ』「犀の角」において「ひとり歩め」と言っている。『律蔵』「大品」で釈尊の弟子たちが60人になった時、彼は集団で修行することから、それぞれ各自に伝道教化の旅に出るように勧め、「一つ道を二人で行くな」と言って、それぞれ各自の独自の道を歩むことを教えながらも、その目的は「多くの人々の福利・安楽・憐愍のために」と言い、世間の人々を忘れてはいない。一方、禅宗教団は、集団生活の必要上から律に反する行為に対して、清規という新たな修行規範を設け、それに「思想」としての意味を与えていく。</p> <p>(ねらい)</p> <p>この講義では、自覚の宗教と言われる仏教、そして禅宗において、内部的には修行の面で教団がいかに機能するか、また対外的には仏教の社会性、教団がどのように形成され、それによって仏教の目指す理想が実現できたのか、あるいは問題点があるのかを、資料を講読しながら、皆さんと共に考えて行きたい。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>前期(仏教教団論)：</p> <p>1 この講義の目指すもの</p> <p>2～5 釈尊の教団の形成、『律蔵』「大品」の講読</p> <p>6～8 『律蔵』の概観</p> <p>9 『四分律』と比較検討</p> <p>10～11 大乘の戒律について</p> <p>12～ 日本の教団と戒律</p> <p>後期(禅教団論)：</p> <p>1～2 禅宗の成立と清規</p> <p>3～4 『禅苑清規』の構成と禅宗教団の様相</p> <p>5～7 『禅苑清規』講読</p> <p>8～9 『永平清規』の構成と道元僧団の意図</p> <p>10 『永平清規』と『瑩山清規』からみた曹洞宗教団の展開</p> <p>11～ 『永平清規』講読</p>
----------	--

準備学習	特になし
履修上の留意点	仏教研究IIIと禅学研究IIIとを同じ年度に履修することは認めない(2007年度以前入学生)。
成績評価の方法	前期と後期とそれぞれ授業内で数回の小テストを行い、これを平常点として評価する(前期50%、後期50%)。年度末の定期試験は行わない。
教科書/テキスト	<p>前期：上座部の『律蔵』、『四分律』、『梵網経』などをコピーして配布する。</p> <p>後期：鏡島元隆他『訳注禅苑清規』(曹洞宗宗務庁、1972年)《必要部分をコピーで配布する》</p> <p>小坂機融他『道元禅師全集第6巻 清規・戒法・嗣書』(春秋社、1989年)《必要部分をコピーで配布する》</p>
参考書	講義中に必要に応じて紹介する。

履修コード	001501 001502
科目名	仏教・禅教団論 仏教研究III
担当者名	熊本 英人 吉津 宜英

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)</p> <p>本講座では前期は仏教の教団論を扱い、後期は禅宗の教団論を講義する。宗教は教義(思想)、儀礼(修行)、教団(集団)の三つの視点から把握することができる。教義と儀礼は個人的立場からだけで取り扱うこともできるが、教団は宗教集団であり、個人的ではなく、そして宗教の社会的存在の意義を問うものである。キリスト教などの教会を中心とした教団と、仏教のそれとの違いはどうであろうか。</p> <p>釈尊は『スッタニパータ』『犀の角』において「ひとり歩め」と言っている。『律蔵』『大品』で釈尊の弟子たちが60人になった時、彼は集団で修行することから、それぞれ各自に伝道教化の旅に出るように勧め、「一つ道を二人で行くな」と言って、それぞれ各自の独自の道を歩むことを教えながらも、その目的は「多くの人々の福利・安楽・憐愍のために」と言い、世間の人々を忘れてはいない。一方、禅宗教団は、集団生活の必要上から律に反する行為に対して、清規という新たな修行規範を設け、それに「思想」としての意味を与えていく。</p> <p>(ねらい)</p> <p>この講義では、自覚の宗教と言われる仏教、そして禅宗において、内部的には修行の面で教団がいかに機能するか、また対外的には仏教の社会性、教団がどのように形成され、それによって仏教の目指す理想が実現できたのか、あるいは問題点があるのかを、資料を講読しながら、皆さんと共に考えて行きたい。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>前期(仏教教団論)：</p> <p>1 この講義の目指すもの</p> <p>2～5 釈尊の教団の形成、『律蔵』『大品』の講読</p> <p>6～8 『律蔵』の概観</p> <p>9 『四分律』と比較検討</p> <p>10～11 大乘の戒律について</p> <p>12～ 日本の教団と戒律</p> <p>後期(禅教団論)：</p> <p>1～2 禅宗の成立と清規</p> <p>3～4 『禅苑清規』の構成と禅宗教団の様相</p> <p>5～7 『禅苑清規』講読</p> <p>8～9 『永平清規』の構成と道元僧団の意図</p> <p>10 『永平清規』と『瑩山清規』からみた曹洞宗教団の展開</p> <p>11～ 『永平清規』講読</p>
----------	--

準備学習	特になし
履修上の留意点	仏教研究IIIと禅学研究IIIとを同じ年度に履修することは認めない(2007年度以前入学生)。
成績評価の方法	前期と後期とそれぞれ授業内で数回の小テストを行い、これを平常点として評価する(前期50%、後期50%)。年度末の定期試験は行わない。
教科書/テキスト	<p>前期：上座部の『律蔵』、『四分律』、『梵網経』などをコピーして配布する。</p> <p>後期：鏡島元隆他『訳注禅苑清規』(曹洞宗宗務庁、1972年)《必要部分をコピーで配布する》</p> <p>小坂機融他『道元禅師全集第6巻 清規・戒法・嗣書』(春秋社、1989年)《必要部分をコピーで配布する》</p>
参考書	講義中に必要に応じて紹介する。



履修コード	000101 000102 000103
科目名	仏教学入門 禅学序説 仏教学序説
担当者名	岩永 正晴

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この授業は、仏教学部における4年間の修学の導入となることを意図し、仏教の基礎知識を身につけて貰うために開講されています。まず釈迦牟尼仏・道元禅師・瑩山禅師の「一仏両祖」のご生涯と教え紹介し、その後、インド・中国・日本における仏教の歴史について概説します。
---------------------	---

授業スケジュール	(1) 授業の概要 (2~5) 釈迦牟尼仏の伝記と教え (6~9) 道元禅師の伝記と教え (10~13) 瑩山禅師の伝記と教え (14~18) インドにおける仏教 (19~24) 中国における仏教 (25~30) 日本における仏教
----------	---

準備学習	紹介する参考書は、1冊でも多く読むように心掛けて下さい。
------	------------------------------

履修上の留意点	必修科目なので安易に欠席することなく、積極的に参加して貰いたい。
---------	----------------------------------

成績評価の方法	授業期間中に行う試験(前後期各2回づつの計4回/1回10点満点×4回=40点)とレポート(2回/15点満点×2=30点)及び平常点(30点満点)によって成績評価を行います。
---------	--

教科書/テキスト	特定の書物を教科書として指定することはありません。配布資料に基づき授業を進めます。
----------	---

参考書	授業の初めに各分野の入門的な参考書のリストを配布します。また授業の内容に応じて随時、参考書を紹介していきます。授業に先立って読んでおくとうい書物として下記の三冊を挙げておきます。 ・松尾剛次『仏教入門』、岩波ジュニア新書322、820円 ISBN4-00-500322-2 ・高崎直道『仏教入門』、東京大学出版会、2200円 ISBN4-13-013011-0 ・平川彰『インド・中国・日本 仏教通史(新版)』、春秋社、2,800円 ISBN4-393-11822-7
-----	---

履修コード	000201 000202 000203
科目名	仏教学入門 禅学序説 仏教学序説
担当者名	片山 一良

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	仏教の教えと実践について正しく理解すること、これが本講義のねらいである。仏教の学びには、大きく「三蔵(経・律・論)」の学び(learning)と「三学(戒・定・慧)」の学び(training)がある。三蔵法師になる学びと、阿羅漢になる学びとあってよい。これに対して、大学における仏教の学びは、三蔵を中心にして、基本的には「歴史と文化の学び」と「教理と思想の学び」が考えられる。どちらも重要な学びであるが、前者は変化を受け易いもの、後者は変化を受け難いものといえる。
---------------------	--

授業スケジュール	仏教は、2500年もの長い歴史をもっている。また、インドからスリランカ、ミャンマー、タイなど南方のアジアには「上座部仏教」として、またチベット、中国、朝鮮、日本など北方のアジアには「大乘仏教」として伝播し、多様な仏教文化が展開してきた。とくに日本では数多くの宗派が存在し、様々な仏教の様相を呈していることは誰も認めるところである。しかし、仏教は仏の教えであり、根本的に一つであって、異種多様なものではない。一つの教え、一つの法があり、それが八万四千、無数のお経となったものである。それは智慧と慈悲であり、寂靜という心の静まりにほかならない。それはまた、換言すれば「禅」である。そこで、この「仏教学入門」では、よく知られたお経、仏典をとおして、また禅の語録にも触れつつ、仏教の教えと実践とは何かを考え、とくに「智慧と慈悲」について理解が深まるよう、努めたい。
----------	--

準備学習	前期は、仏教の歴史と文化を主に、①仏教の学問と信仰、②客観と主観、③聖と俗、④文化の帯、⑤仏教の分類、⑥仏の伝統、⑦天上天下唯我独尊、⑧出家と修行、⑨成道、⑩説法、⑪法と律、⑫涅槃、⑬正法について講じることにしたい。
------	--

履修上の留意点	後期は、仏教の教理と実践を主に、①三宝(信仰と智慧)、②仏、③法、④僧、⑤四法印、⑥五蘊説、⑦縁起説、⑧四諦説、⑨八正道と中道、⑩慈悲、⑪色即是空、⑫身心脱落、⑬仏法について講じたい。
---------	--

成績評価の方法	レポート(夏期)、および年度末テストによる。
---------	------------------------

教科書/テキスト	とくに使用しない。随時、資料プリントを配布する。
----------	--------------------------

参考書	片山一良『ブッダのことは パーリ仏典入門』(大法輪閣) 『ダンマパダ 全詩解説 一仏祖に学ぶひとすじの道一』(大蔵出版) 袴谷憲昭『仏教入門』(大蔵出版) その他、講義の中で随時紹介。
-----	---

履修コード	000331
科目名	仏教漢文入門
担当者名	石井 公成

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 著名な仏典や仏教に関わる中国の詩文を講読し、漢文訓読の基礎を学習する。 (到達目標) 漢文の読解は、仏教学のあらゆる分野で必要とされる。この授業では、一般的な漢文の句法を学ぶとともに、仏教漢文特有の表現に慣れ親しみ、漢文で書かれた仏教文献を正確に読むための基礎的教養を身につける。
授業スケジュール	(前期) (1) 仏典とは何か、(2~7) 漢文の読み方、(8~13) 中国の詩文を読む、(14~15) まとめと復習 (後期) (1) 大乘経典の世界、(2~7) 大乘経典を読む、(8~13) 高僧伝・禅語録等を読む、(14~15) まとめと復習
準備学習	・高校までの古典の内容をよく復習しておくこと。 ・授業の予習を毎回十分に時間をかけて行うこと。
履修上の留意点	・授業には必ず指定の漢和辞典を毎回持参すること。 ・語学を習得するには学習の継続が不可欠である。出席励行のこと。
成績評価の方法	平常点50%、テスト等の成績50%を原則とする。
教科書/テキスト	①『仏教漢文入門』。購入方法は最初の授業で指示する。 ②漢和辞典(『新字源』角川書店、『漢語林』大修館書店、『漢辞海』三省堂のいずれか)。 左記以外の漢和辞典や電子辞書は、漢文を読むための辞典ではないので授業では使用しない。
参考書	授業中に随時紹介する。

履修コード	000311
科目名	仏教漢文入門
担当者名	須山 長治

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 著名な仏典や仏教に関わる中国の詩文を講読し、漢文訓読の基礎を学習する。 (到達目標) 漢文の読解は、仏教学のあらゆる分野で必要とされる。この授業では、一般的な漢文の句法を学ぶとともに、仏教漢文特有の表現に慣れ親しみ、漢文で書かれた仏教文献を正確に読むための基礎的教養を身につける。
授業スケジュール	(前期) (1) 仏典とは何か、(2~7) 漢文の読み方、(8~13) 中国の詩文を読む、(14~15) まとめと復習 (後期) (1) 大乘経典の世界、(2~7) 大乘経典を読む、(8~13) 高僧伝・禅語録等を読む、(14~15) まとめと復習
準備学習	・高校までの古典の内容をよく復習しておくこと。 ・授業の予習を毎回十分に時間をかけて行うこと。
履修上の留意点	・授業には必ず指定の漢和辞典を毎回持参すること。 ・語学を習得するには学習の継続が不可欠である。出席励行のこと。
成績評価の方法	平常点50%、テスト等の成績50%を原則とする。
教科書/テキスト	①『仏教漢文入門』。購入方法は最初の授業で指示する。 ②漢和辞典(『新字源』角川書店、『漢語林』大修館書店、『漢辞海』三省堂のいずれか)。 左記以外の漢和辞典や電子辞書は、漢文を読むための辞典ではないので授業では使用しない。
参考書	授業中に随時紹介する。

履修コード	000321
科目名	仏教漢文入門
担当者名	須山 長治

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 著名な仏典や仏教に関わる中国の詩文を講読し、漢文訓読の基礎を学習する。 (到達目標) 漢文の読解は、仏教学のあらゆる分野で必要とされる。この授業では、一般的な漢文の句法を学ぶとともに、仏教漢文特有の表現に慣れ親しみ、漢文で書かれた仏教文献を正確に読むための基礎的教養を身につける。
授業スケジュール	(前期) (1) 仏典とは何か、(2~7) 漢文の読み方、(8~13) 中国の詩文を読む、(14~15) まとめと復習 (後期) (1) 大乘経典の世界、(2~7) 大乘経典を読む、(8~13) 高僧伝・禅語録等を読む、(14~15) まとめと復習
準備学習	・高校までの古典の内容をよく復習しておくこと。 ・授業の予習を毎回十分に時間をかけて行うこと。
履修上の留意点	・授業には必ず指定の漢和辞典を毎回持参すること。 ・語学を習得するには学習の継続が不可欠である。出席励行のこと。
成績評価の方法	平常点50%、テスト等の成績50%を原則とする。
教科書/テキスト	①『仏教漢文入門』。購入方法は最初の授業で指示する。 ②漢和辞典(『新字源』角川書店、『漢語林』大修館書店、『漢辞海』三省堂のいずれか)。 左記以外の漢和辞典や電子辞書は、漢文を読むための辞典ではないので授業では使用しない。
参考書	授業中に随時紹介する。

履修コード	000341
科目名	仏教漢文入門
担当者名	吉村 誠

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 著名な仏典や仏教に関わる中国の詩文を講読し、漢文訓読の基礎を学習する。 (到達目標) 漢文の読解は、仏教学のあらゆる分野で必要とされる。この授業では、一般的な漢文の句法を学ぶとともに、仏教漢文特有の表現に慣れ親しみ、漢文で書かれた仏教文献を正確に読むための基礎的教養を身につける。
授業スケジュール	(前期) (1) 仏典とは何か、(2~7) 漢文の読み方、(8~13) 中国の詩文を読む、(14~15) まとめと復習 (後期) (1) 大乘経典の世界、(2~7) 大乘経典を読む、(8~13) 高僧伝・禅語録等を読む、(14~15) まとめと復習
準備学習	・高校までの古典の内容をよく復習しておくこと。 ・授業の予習を毎回十分に時間をかけて行うこと。
履修上の留意点	・授業には必ず指定の漢和辞典を毎回持参すること。 ・語学を習得するには学習の継続が不可欠である。出席励行のこと。
成績評価の方法	平常点50%、テスト等の成績50%を原則とする。
教科書/テキスト	①『仏教漢文入門』。購入方法は最初の授業で指示する。 ②漢和辞典(『新字源』角川書店、『漢語林』大修館書店、『漢辞海』三省堂のいずれか)。 左記以外の漢和辞典や電子辞書は、漢文を読むための辞典ではないので授業では使用しない。
参考書	授業中に随時紹介する。

履修コード	000351
科目名	仏教漢文入門
担当者名	吉村 誠

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 著名な仏典や仏教に関わる中国の詩文を講読し、漢文訓読の基礎を学習する。 (到達目標) 漢文の読解は、仏教学のあらゆる分野で必要とされる。この授業では、一般的な漢文の句法を学ぶとともに、仏教漢文特有の表現に慣れ親しみ、漢文で書かれた仏教文献を正確に読むための基礎的教養を身につける。
---------------------	--

授業スケジュール	(前期) (1) 仏典とは何か、(2~7) 漢文の読み方、(8~13) 中国の詩文を読む、(14~15) まとめと復習 (後期) (1) 大乘経典の世界、(2~7) 大乘経典を読む、(8~13) 高僧伝・禅語録等を読む、(14~15) まとめと復習
----------	---

準備学習	・高校までの古典の内容をよく復習しておくこと。 ・授業の予習を毎回十分に時間をかけて行うこと。
------	--

履修上の留意点	・授業には必ず指定の漢和辞典を毎回持参すること。 ・語学を習得するには学習の継続が不可欠である。出席励行のこと。
---------	---

成績評価の方法	平常点50%、テスト等の成績50%を原則とする。
---------	--------------------------

教科書/テキスト	①『仏教漢文入門』。購入方法は最初の授業で指示する。 ②漢和辞典(『新字源』角川書店、『漢語林』大修館書店、『漢辞海』三省堂のいずれか)。左記以外の漢和辞典や電子辞書は、漢文を読むための辞典ではないので授業では使用しない。
----------	--

参考書	授業中に随時紹介する。
-----	-------------

履修コード	001401 001402
科目名	仏教語・禅語解説 仏教研究II
担当者名	奥野 光賢 程 正

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	どんな分野であれ、研究は山登りに似ているように思われる。予備的知識のないまま、いきなり難しい事柄に飛びついて、さしたる成果は得られないであろう。新入生みなさんの多くは「仏教」や「禅」を学ぶと言っても、果たしてどのような方途によって学んでよいのか困惑しているのではあるまいか。この講義は、そうした新入生のみなさんにまず「仏教語」や「禅語」に慣れしてもらい、これから本格的に「仏教」や「禅」を学ぶ土台を築いて欲しいとの願いから開講されるものである。講義は前期「禅語」、後期「仏教語」に分かって、それぞれ代表的仏教語・禅語の解説を行なう。その際、たんなる解説にとどまることなく、次年度以降みなさん自身が自分で工具書を利用して、仏教語や禅語の意味を調べられるように指導していくつもりである。
---------------------	---

授業スケジュール	すでに記したように授業は前期「禅語」(担当程正)、後期「仏教語」(担当奥野光賢)の二期に分かって展開する。毎回、3~4語程度の重要な代表的仏教語ないし禅語を取り上げ、解説していく。解説する言葉の選定にあたっては、単なる興味本位ではなく思想史や仏教史(禅宗史)の展開などにも留意しつつ、なるべく関連性をもたせ有機的な講義となるよう配慮するつもりである。
----------	---

前期……禅語解説……(1)インド禅から中国禅宗へ、(2)禅語について、(3~15)禅語解説 後期……仏教語解説……(1)仏教語について、(2~15)仏教語解説
--

準備学習	特別な準備学習は必要としない。必ず『仏教辞典』を所持し、辞書を引きながら仏教書を読み進める心構えがもっとも必要である。
------	---

履修上の留意点	必ずノートを用意すること。前後期いずれも3分の2以上の出席に満たないものは成績評価の対象にしないので留意すること。テキスト、配布資料、ノートに基づいて復習すること。
---------	--

成績評価の方法	前後期それぞれ1回ずつの試験を行ない、その平均点により通年評価とする。点数配分は期末テスト(70点)と出席などの平常点(30点)とする。但し、場合によって点数配分の割合を変更することもあり得る。
---------	---

教科書/テキスト	初回の授業において説明する。「仏教語解説」は有料(100円)にてコピーを配布する。その他、「仏教語解説」は授業内容に応じて追加資料を配付する。
----------	---

参考書	授業において適宜指示する。「仏教語解説」については、中村元編『仏教語源散策』(東京書籍)を用意しておくことが望ましい。
-----	---

履修コード	001001 001002
科目名	仏教語・禅語解説 禅学研究II
担当者名	程正 奥野 光賢

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	どんな分野であれ、研究は山登りに似ているように思われる。予備的知識のないまま、いきなり難しい事柄に飛びついても、さしたる成果は得られないであろう。新入生みなさんの多くは「仏教」や「禅」を学ぶと言っても、果たしてどのような方途によって学んでよいか困惑しているのではあるまいか。この講義は、そうした新入生みなさんにまず「仏教語」や「禅語」に慣れてもらい、これから本格的に「仏教」や「禅」を学ぶ土台を築いて欲しいとの願いから開講されるものである。講義は前期「仏教語」、後期「禅語」に分かつて、それぞれ代表的仏教語・禅語の解説を行なう。その際、たんなる解説にとどまることなく、次年次以降みなさん自身が自分で工具書を利用して、仏教語や禅語の意味を調べられるように指導していくつもりである。
---------------------	---

授業スケジュール	すでに記したように授業は前期「仏教語」（担当奥野光賢）、後期「禅語」（担当程正）の二期に分かつて展開する。毎回、3～4語程度の重要な代表的仏教語ないし禅語を取り上げ、解説していく。解説する言葉の選定にあたっては、単なる興味本位ではなく思想史や仏教史（禅宗史）の展開などにも留意しつつ、なるべく関連性をもたせ有機的な講義となるよう配慮するつもりである。
----------	---

前期……仏教語解説……(1) 仏教語について、(2～15) 仏教語解説  
後期……禅語解説……(1) インド禅から中国禅宗へ、(2) 禅語について、(3～15) 禅語解説

準備学習	特別な準備学習は必要としない。必ず『仏教辞典』を所持し、辞書を引きながら仏教書を読み進める心構えがもっとも必要である。
------	---

履修上の留意点	必ずノートを用意すること。 テキスト、配付資料、ノートに基づいて復習すること。 前後期いずれも3分の2以上の出席に満たないものは成績評価の対象にしないので留意すること。
---------	--

成績評価の方法	前後期それぞれ1回ずつの試験を行ない、その平均点により通年評価とする。点数配分は期末テスト(70点)と出席などの平常点(30点)とする。但し、場合によって点数配分の割合を変更することもあり得る。
---------	---

教科書/テキスト	初回の授業において説明する。
----------	----------------

参考書	授業において適宜指示する。
-----	---------------

履修コード	001301 001302
科目名	仏教思想概説 仏教研究I
担当者名	池田 練太郎

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 仏教思想といってもその内容はきわめて多様である。本講義ではインド仏教を中心に、縁起・無我・無常・空などの仏教の重要な思想について、原始仏教から部派仏教、そして大乘仏教に至るまでの展開を視野に入れながら、それぞれの立場から著された諸仏典の講読と講義を通して考察していく。 (到達目標) 仏典の読解に慣れるとともに仏教思想についての理解を深め、さらにその多様性を認識することを旨とする。
---------------------	---

授業スケジュール	第1回：仏教思想について 第2回：原始仏教の思想(1)——概説 第3～8回：原始仏教の思想(2)～(7)——『スッタニパータ』講読①～⑥ 第9～10回：原始仏教の思想(8)～(9)——その他の原始經典の講読①～② 第11～14回：アピタルマ仏教の思想(1)～(4) 第15回：理解度の確認 第16～17回：大乘經典の思想(1)～(2)——『般若心経』講読①～② 第18～20回：大乘經典の思想(3)～(5)——『金剛般若経』講読①～③ 第21～23回：その他の大乘經典の思想(1)～(3) 第24～25回：中観派の思想(1)～(2) 第26～28回：瑜伽行派の思想(1)～(3) 第29回：如来蔵思想 第30回：まとめ
----------	---

準備学習	テキスト・資料として用いる仏典の該当箇所や関連する資料を事前に読んでくること。
------	---

履修上の留意点	順次テキストを音読してもらふ予定なので、十分予習をして授業に臨んでほしい。
---------	---------------------------------------

成績評価の方法	年度末の筆記試験(70%)、前期の理解度確認(20%)、授業における読解や平常点(10%)によって評価する。
---------	--

教科書/テキスト	中村元訳『ブッダのこぼれ — スッタニパータ —』(岩波文庫)、987円、ISBN 4-00-333011-0。中村元、紀野一義訳註『般若心経・金剛般若経』(岩波文庫)、672円、ISBN 4-00-333031-5。その他の資料は授業時にプリントを配布する。
----------	--

参考書	早島鏡正、高崎直道、前田専学他『インド思想史』東大出版会、3780円、ISBN 978-4-13-012015-9
-----	---

履修コード	004901
科目名	仏教特講I
担当者名	新井 一光

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>瑜伽行派の基本典籍である『中辺分別論』に対する安慧の復註を講読する。          文献学 Philologie による仏教研究を基礎とし、その方法それ自体、及びそれによって得られる見解とともに、写本読解上の技術的問題の取り扱いや手続きを学ぶ。さらに、学生には、テキストを作成するについて、その判断の根拠がどのように獲得されるのかという問題に関しても理解を深めてもらいたい。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	(1~5) イントロダクション・文献解題、(6~29) 文献講読、(30) まとめ
----------	---

準備学習	サンスクリット及びチベット語を既に履修しているか、若しくは本年併修習することが望ましいが、基本的に和訳によってゆっくりと注意深く講読するため、必須ではない。
------	--

履修上の留意点	<p>文献学に基づく研究では、先ず写本や諸訳の読みを比較し、批判検討し、原文を確定する作業、すなわちテキストクリティーク Textkritik が必要とされる。授業では、これまでに発行されたサンスクリットテキストの校訂本を参照するが、これをそのまま鵜呑みにすることは出来ないため、適宜、サンスクリット写本、蔵・漢訳を参照する。学生には、この技術的な作業のプロセスを自分のものとするために、各自、自分の為し得る範囲で入念な準備をしてもらいたい。</p>
---------	---

成績評価の方法	平常点50%、試験50%
---------	--------------

教科書／テキスト	ハンドアウトを配付する。
----------	--------------

参考書	山口益訳註『中邊分別論釋疏：安慧阿遮梨耶造』破塵閣書房、1935；鈴木学術財団、1966。その他、教場にて指示する。
-----	--

履修コード	005001
科目名	仏教特講II
担当者名	山本 元隆

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>釈尊最後の説法を伝える経典の一つに『遺教経』（正式には『仏垂般涅槃略説教誡経』）がある。禅宗では古来より「仏祖三経」の一つとして重んじられ、今日でも禅宗の修行道場では2月14日の涅槃会に際して本経が読誦される。          齢八十に達した釈尊が、沙羅双樹のもとで弟子たちに示した最後の教えとはいったい何か？本講義では、中国や日本の祖師方の教えを参照しながら『遺教経』に示された「法の要」を読み解きつつ、さらには現代に生きる私たちが釈尊の教え（特に戒律）を学ぶ意義についても考えていきたい。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>講義の中心的なテーマとなる『遺教経』には、その正式名称（仏垂般涅槃略説教誡経）の通り、釈尊が涅槃に際して説かれた「戒律」の教えが多く含まれている。本講義では、(1) 釈尊涅槃の教え、(2) 戒律の意義、(3) 『遺教経』とその注釈書について概説した上で、(4) 本経に示された「八大人覺」（少欲・知足・遠離・精進・不妄念・禪定・智慧・不戯論）などの教えについて、『遺教経』を読み進めながら解説していく予定である。</p>
----------	---

準備学習	授業で次回のテーマやポイントについて告知するので、各自積極的に予習しておくこと。
------	--

履修上の留意点	講義内容に関心を持ち、主体的に授業に参加してほしい。
---------	----------------------------

成績評価の方法	平常点によって評価する。
---------	--------------

教科書／テキスト	『遺教経』の原文テキストは漢文であるが、本講義では基本的に今日修業道場で読誦される訓読（和文）のものを使用、最初の授業において配布する。
----------	--

参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
-----	------------------

履修コード	005101
科目名	仏教特講III
担当者名	徳野 崇行

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 日本仏教は「葬祭仏教」とも称されるように、葬儀や追善供養といった死者の弔いとの結びつきが顕著であり、日本仏教の特色の一つとされている。本講義では、日本仏教と死者の弔いとの結びつきを、その起源や歴史的変遷、現代的展開を時系列的に見ていくことで、通史的に理解していきたい。その中で、日本人の死生観や弔いの文化の広がりを探っていきたい。</p> <p>(到達目標) 本講義の到達目標は、仏教的な弔いの歴史を通して日本仏教を捉えていくことで、日本人の死生観を育んできた文化的背景を理解し、今後の葬儀や弔いを自ら考える際の知識を獲得することである。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の進め方、スケジュール、評価方法などのオリエンテーション</li> <li>2. 「死者の弔い」を問うとは</li> <li>3. 【有史以前】縄文人・弥生人の弔い</li> <li>4. 【古代】仏教以前の弔いのかたち</li> <li>5. 【古代】御霊信仰</li> <li>6. 【古代】葬儀・弔いの仏教化</li> <li>7. 【古代】『日本霊異記』に見る死者供養の物語</li> <li>8. 【中世】五輪塔・板碑にみる「墓」の誕生</li> <li>9. 【中世】中世絵巻からみた死者供養のすがた</li> <li>10. 【中世】「信仰遺物(考古学的史料)」からみた中世の死者供養</li> <li>11. 【中世】「葬祭仏教」「死者供養仏教」の拡大と民衆化①</li> <li>12. 【中世】「葬祭仏教」「死者供養仏教」の拡大と民衆化②</li> <li>13. 【中世】中世仏教説話にみる死者供養の情景</li> <li>14. 【中世】中世絵巻からみた怪異、モノノケの世界</li> <li>15. 【近世】檀家制度の成立と推移①</li> <li>16. 【近世】檀家制度の成立と推移②</li> <li>17. 【近世】「商品化」する葬儀・追善供養</li> <li>18. 【近世】近世絵画に見る幽霊のかたち</li> <li>19. 【近世】近世仏教説話にみる幽霊たちの物語</li> <li>20. 【近世】近世における葬送のかたち</li> <li>21. 【近代】近代国家の成立と廃仏毀釈</li> <li>22. 【近代】神道国教化政策と先祖供養</li> <li>23. 【近代】葬儀の近代化①</li> <li>24. 【近代】葬儀の近代化②</li> <li>25. 【現代】アエノコトに見る現代の先祖の祭り</li> <li>26. 【現代】福島県会津冬木沢参りにみる現代の先祖供養</li> <li>27. 【現代】「霊場」にみる死者供養の現代的展開</li> <li>28. 【現代】墓や先祖観の現代的変容</li> <li>29. 【現代】多様化する葬送のかたち①</li> <li>30. 【現代】多様化する葬送のかたち②</li> </ol>
----------	---

準備学習	参考書欄に掲載した書籍を読んでおくことが望ましい。
履修上の留意点	
成績評価の方法	平常点(30%)と学期末試験(70%)を総合して評価する。
教科書/テキスト	適宜プリントを配布する。
参考書	佐々木宗幹『仏と霊の人類学——仏教文化の深層構造』(2310円、春秋社)、圭室諦成『葬式仏教』(3675円、大法輪閣)、池上良正『死者の救済史——供養と憑依の宗教学』(角川書店、1680円)、佐藤弘夫『死者のゆくえ』(岩田書院、2940円)

履修コード	005201
科目名	仏教特講Ⅳ
担当者名	渡邊 幸江

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 中国医学を学ぶ。 心は不可思議で、誰にとっても自由にならない。中国の1500年前の仏教文献には、その心を、身体から知ろうと書いている。 この講義は、中国医学の身体観察法を知り、自身の生活と心を見直す時間である。
	(到達目標) 一、中国医学の基礎と応用。 一、日常生活で使える中国医学。 一、心を捉える。

授業スケジュール	第1回：授業内容の説明 第2回～16回：中国医学の基礎知識 第17回～30回：中国医学の応用
----------	--

仏教文献も参考にする。

準備学習	前回配布した資料を復習し、授業に臨む。
------	---------------------

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	出席、小レポート、定期試験による総合評価とする予定。
---------	----------------------------

教科書/テキスト	資料はそのつど配布する。
----------	--------------

参考書	関口真大訳『現代語訳 天台小止観』大東出版社、1100円
-----	------------------------------

履修コード	006201 006202
科目名	仏教美術
担当者名	村松 哲文

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	仏像の歴史について、信仰的な背景と照らし合わせながら概観する。本年度は、奈良と京都の寺院ごとに仏像を考察する。6世紀、我が国に伝来した仏教は瞬く間に日本に根付き、絢爛たる仏教文化を構築した。こうした中で、仏像の制作は時代を経るごとに発展していくが、様々な要因から仏像の表現は変化する。この変化の過程を各寺院で所蔵されている仏像を概観しながら、その特徴を把握していくことが本講義の目標である。 古代寺院の代表である法隆寺の仏像は、中国や朝鮮半島の影響を大きく受けて制作されている。その後平安時代になると平等院に代表される仏像のように日本独自の表現が確立する。こうした仏像表現の相違点について、スライドやDVDなどを用いて講義する。 また本講義では、仏像から制作者の心情に迫り、芸術という側面だけではなく、信仰という側面に留意して話を進める。なおインド・中国・朝鮮半島の仏教美術については「総合」(3) 仏教と芸術」で講義し、鎌倉時代以降の絵画については「禅美術」で講義する。
---------------------	--

授業スケジュール	〔前期〕 仏像鑑賞の基礎 (1～3)、飛鳥時代 (4～8)、白鳳時代 (9～11)、天平時代 (12～15) 〔後期〕 平安前期 (16～18)、平安中期 (19～21)、平安後期 (22～24)、鎌倉時代 (25～27)、仏像制作の技法 (28～30) 以上は予定であり、関連する他の仏像について適時解説する。
----------	--

準備学習	都内近郊の博物館・美術館に行き、多くの仏像を鑑賞すること。
------	-------------------------------

履修上の留意点	美術館・博物館・寺院に行き、多くの仏像を観察するように努めてもらいたい。仏教美術関連の展覧会には、必ず足を運ぶこと。
---------	--

成績評価の方法	定期試験と出席率、レポートなどで総合評価する。
---------	-------------------------

教科書/テキスト	プリントを配布する。
----------	------------

参考書	『かわいい、キレイ、かっこいい、たのしい仏像のみかた』(日本文芸社)、その他については講義中に紹介する。
-----	--



履修コード	008901
科目名	仏教文献学
担当者名	堀川 貴司

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この講義は、日本に現存する仏教関係の典籍を独力で扱える知識・能力を身に付けることを最終的な目標としています。 前期では * 古典籍の基本的な構造や書誌事項を理解し、記述することができる。 後期では * 中国・朝鮮から将来されたものも含め、仏教関係の典籍について基本的な知識を持つ。 をそれぞれの目標として授業を進めます。できるだけ実物を用いて具体的に話をする予定です。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>前期</p> <p>1-3. 導入―書誌学とは何か、具体的にどのような作業をするのか</p> <p>4-7. 書物の構成とそれぞれの要素についての概略</p> <p>8-9. 本文の形式や文字について</p> <p>10. 刊記・奥書について</p> <p>11. 読者・所蔵者による書入や蔵書印等について</p> <p>12-13. 参考となる情報を探し、比較検討する</p> <p>14. 紙その他の原材料について</p> <p>15. まとめ</p> <p>後期</p> <p>1-4. 仏教經典の概要と中国・日本の写経について</p> <p>5-9. 中国・日本の刊経について</p> <p>10-12. 抄物（日本の禅僧による注釈書）について</p> <p>13-14. 墨蹟（禅僧の筆跡）について</p> <p>15. まとめ</p>
----------	--

準備学習	古典籍に触れたことのない学生がほとんどだと思いますので、毎回の授業内容をよく復習して、実際の調査に生かせるようにしてください。
------	---

履修上の留意点	実際の書誌調査の作業を行ってもらう予定なので、欠席しないようにしてください。
---------	--

成績評価の方法	前期末・後期末の2度のレポートを各50パーセントの割合で評価します。出席状況や授業への参加態度がよい場合は評価に加味します。
---------	--

教科書/テキスト	堀川貴司『書誌学入門 古典籍を見る・知る・読む』勉誠出版、1890円、ISBN 978-4-585-20001-7
----------	---

参考書	授業中に紹介します。
-----	------------

その他	授業は講義が中心ですが、図書館や個人蔵の古典籍の実物を用いて各自書誌調査を行ってもらっても構いません。
-----	---

履修コード	006301 006302
科目名	仏教民俗学
担当者名	佐藤 憲昭

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 仏教文化には、縁起や空を中心とする教義仏教と、葬祭や祈禱を中心とする民俗仏教との異なる2つのレベルがある。この講座では、民俗仏教の意味と役割について、教義仏教との関連のもとに考えてみたい。
	(到達目標) 受講生は、宗教文化の捉え方を踏まえて、仏教文化に見られる異なる2つのレベルと、これら両レベルの関係について、それぞれ説明することができる。さらに、両レベルを媒介している仏僧の宗教的意味と役割および仏僧の宗教的威力の源泉について、解説をすることができる。

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 はじめに</li> <li>2 仏教学・民俗学・宗教人類学から見た仏教文化</li> <li>3 いわゆる未開社会の宗教の特徴と文明化社会の宗教の特徴</li> <li>4 宗教的エリートとマス</li> <li>5 宗教集団における宗教的エリートとマス</li> <li>6 原始宗教・民族宗教・世界宗教における宗教的エリートとマス</li> <li>7 上座部仏教における宗教的エリートとマス</li> <li>8 大乘仏教における宗教的エリートとマス</li> <li>9 教義宗教と民俗宗教</li> <li>10 教義仏教と民俗仏教</li> <li>11 日本人の宗教的志向性</li> <li>12 表の宗教と裏の宗教</li> <li>13 アニミズム</li> <li>14 プレ・アニミズム</li> <li>15 前期の総括</li> <li>16 呪術と宗教</li> <li>17 呪術・宗教的職能者の分類</li> <li>18 開眼式・点眼式・入魂式</li> <li>19 仏僧の祈禱とシャーマンの祈禱</li> <li>20 仏僧とシャーマンとの相互補完関係</li> <li>21 仏僧の先祖供養と檀信徒の先祖供養</li> <li>22 釈尊降誕会</li> <li>23 涅槃会</li> <li>24 盂蘭盆会</li> <li>25 彼岸会</li> <li>26 仏僧の宗教的威力の源泉</li> <li>27 籠りの意味するもの</li> <li>28 神の憑霊による聖なる人</li> <li>29 仏の出現による聖なる人</li> <li>30 後期の総括</li> </ol>
----------	--

準備学習	授業内容に関連する「文献」を紹介するので、熟読しておくこと。ここで「文献」というのは、「教科書」「著書」「論文」「配布プリント」などを指しているが、具体的な指示は授業時に行う。
------	--

履修上の留意点	出席をとるので、欠席をする場合、または欠席をした場合には、欠席届（形式は任意）を提出することが望ましい。
---------	--

成績評価の方法	定期試験の成績70%、平常点30%とする。追試験は実施する。なお、4年生（希望者のみ）に関しては、レポートを提出してもらいが、それは次の通りである。〔課題〕仏教民俗学・宗教人類学に関する論文または教科書を含む図書を読み、その感想文を作成する。〔字数〕2000字。〔提出先と時期〕12月までの授業時に随時受けつける。〔その他〕ワープロ作成可。ただし、授業時以外は受理しない。
---------	--

教科書/テキスト	佐々木宏幹『仏教—生活仏教のダイナミズム—』春秋社、ISBN984-4-642-06368-5、定価（本体1900円＋税）。
----------	--

参考書	授業中に適宜紹介する。
-----	-------------

履修コード	002801 002802
科目名	仏典・禅籍解説 禅籍講読Ⅳ
担当者名	松田 陽志 四津谷 孝道

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)</p> <p>仏教・禅の重要な典籍を取り上げ、講義する。</p> <p>前期「仏教の典籍」では、主にインドの諸々の経典を取り上げ、その内容ばかりでなく、思想史の観点からそれらの経典がどのように位置づけられるかをもできるだけわかりやすく説明していきたい。この授業では、まず初期仏教の経典について説明し、次に大乘仏教の経典について解説していく。授業スケジュールにもあるように、授業内容の理解の整理・確認のため二回的小テストを行う。なお、この小テストの結果は、平常点として成績評価に盛り込まれる。</p> <p>後期「中国・日本の禅籍」においては、中国（唐代までの初期禅宗）・日本（道元禅師の日本曹洞宗）に展開する禅宗の重要な典籍資料について取り上げ、その歴史的意義や思想的背景について解説する。また研究における資料のとらえ方や代表的な研究文献などについても随時紹介していく。</p> <p>理解度の確認のため小テストを最終回に実施する。</p> <p>なお、前期は四津谷孝道が、後期は松田陽志が担当する。</p> <p>(到達目標)</p> <p>この授業は、3・4年次における専門的な研究に先立って、仏教・禅の重要な典籍について基本的な理解を身につけ、文献研究への興味や関心を拓けることを目的とするものである。また、各文献の思想的意義をはじめ、研究方法の視点なども同時に紹介する。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>後期 仏教の典籍 [概 論]</p> <p>第1回 授業についての概要説明</p> <p>[初期仏教の経典]</p> <p>第2回 初期仏教の経典とは</p> <p>第3回 ニカーヤ (1) スッタ・ニパータ / ダンマ・パダ</p> <p>第4回 ニカーヤ (2) テーラ・ガーター / テーラー・ガーター / ジャータカ / ミリンダ王の問い等</p> <p>第5回 第1回～第4回までの授業内容に関する小テスト</p> <p>[大乘経典]</p> <p>第6回 大乘経典とは</p> <p>第7回 『般若経』</p> <p>第8回 『維摩経』</p> <p>第9回 『法華経』 (1)</p> <p>第10回 『法華経』 (2)</p> <p>第11回 『華嚴経』</p> <p>第12回 『如来蔵経』</p> <p>第13回 『浄土三部経』</p> <p>第14回 密教経典</p> <p>第15回 第6回～第14回までの授業内容に関する小テスト</p> <p>前期 禅の典籍 [中国の禅籍—初期禅宗文献—]</p> <p>第1回：授業についての概要説明 禅宗以前</p> <p>第2回：禅宗とダルマ 『洛陽伽藍記』 敦煌文献</p> <p>第3回：禅宗とダルマ 『続高僧伝』 『二入四行論』</p> <p>第4回：北宗と南宗 『伝法宝記』 『楞伽師資記』</p> <p>第5回：荷沢神会の北宗禅批判 『菩提達磨南宗定是非論』</p> <p>第6回：荷沢神会の北宗禅批判 『神会語録』</p> <p>第7回：六祖慧能の禅 『六祖壇経』</p> <p>第8回：六祖慧能の禅 『宝林伝』 『祖堂集』</p> <p>第9回：馬祖禅と語録 『馬祖語録』</p> <p>第10回：馬祖禅と語録 『馬祖語録』 『臨濟録』 『百丈清規』</p> <p>第11回：五家七宗 灯史類 『碧巖録』 『従容録』 『無門関』</p> <p>中国禅宗研究文献の紹介</p> <p>[日本の禅籍—道元禅師に関わる文献—]</p> <p>第12回：『正法眼蔵随聞記』</p> <p>第13回：『普勸坐禅儀』</p> <p>第14回：小テスト</p> <p>第15回：予備</p>
準備学習	毎回授業内で次回までの資料を配布するので、事前によく読んでおくこと。(共通内容)
履修上の留意点	授業内容は一続きのものであるため、前回までの配付資料を持参の上、継続的に出席すること。(共通内容)
成績評価の方法	平常点(4割程度)と学期末に行う筆記試験(6割程度)によって評価する。(共通内容)
教科書/テキスト	[前期]最初の授業において指示する。 [後期]毎回資料を配付する。
参考書	使用しない。(共通内容)
その他	特になし。

履修コード	003201 003202
科目名	仏典・禅籍解説 仏典講読IV
担当者名	四津谷 孝道 松田 陽志

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)          仏教・禅の重要な典籍を取り上げ、講義する。          前期「中国・日本の禅籍」においては、中国(唐代までの初期禅宗)・日本(道元禅師の日本曹洞宗)に展開する禅宗の重要な典籍資料について取り上げ、その歴史的意義や思想的背景について解説する。また研究における資料のとらえ方や代表的な研究文献などについても随時紹介していく。          理解度の確認のため小テストを最終回に実施する。          後期「仏教の典籍」では、主にインドの諸々の経典を取り上げ、その内容ばかりでなく、思想史の観点から、それらの経典がどのように位置づけられるかをも、できるだけわかりやすく説明していきたい。この授業では、まず初期仏教の経典について説明し、次に大乘仏教の経典について解説していく。授業スケジュールにもあるように、授業内容の理解の整理・確認のため二回の小テストを行う。なお、この小テストの結果は、平常点として成績評価に盛り込まれる。          なお、前期は松田陽志が、後期は四津谷孝道が担当する。</p> <p>(到達目標)          この授業は、3・4年次における専門的な研究に先立って、仏教・禅の重要な典籍について基本的な理解を身につけ、文献研究への興味や関心を広げることがを目的とするものである。また、各文献の思想的意義をはじめ、研究方法の視点なども同時に紹介する。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>前期 禅の典籍          [中国の禅籍—初期禅宗文献—]          第1回：授業についての概要説明 禅宗以前          第2回：禅宗とダルマ 『洛陽伽藍記』 敦煌文献          第3回：禅宗とダルマ 『統高僧伝』 『二入四行論』          第4回：北宗と南宗 『伝法宝記』 『楞伽師資記』          第5回：荷沢神会の北宗禅批判 『菩提達磨南宗定是非論』          第6回：荷沢神会の北宗禅批判 『神会語録』          第7回：六祖慧能の禅 『六祖壇経』          第8回：六祖慧能の禅 『宝林伝』 『祖堂集』          第9回：馬祖禅と語録 『馬祖語録』          第10回：馬祖禅と語録 『馬祖語録』 『臨濟録』 『百丈清規』          第11回：五家七宗 灯史類 『碧巖録』 『從容録』 『無門関』          中国禅宗研究文献の紹介          [日本の禅籍—道元禅師に関わる文献—]          第12回：『正法眼蔵随聞記』          第13回：『普勸坐禅儀』          第14回：小テスト          第15回：予備</p> <p>後期 仏教の典籍          [概 論]          第1回 授業についての概要説明          [初期仏教の経典]          第2回 初期仏教の経典とは          第3回 ニカーヤ (1) スッタ・ニパータ / ダンマ・パダ          第4回 ニカーヤ (2) テーラ・ガーター / テーリー・ガーター / ジャータカ / ミリンダ王の問い等          第5回 第1回～第4回までの授業内容に関する小テスト          [大乘経典]          第6回 大乘経典とは          第7回 『般若経』          第8回 『維摩経』          第9回 『法華経』 (1)          第10回 『法華経』 (2)          第11回 『華嚴経』          第12回 『如来蔵経』          第13回 『浄土三部経』          第14回 密教経典          第15回 第6回～第14回までの授業内容に関する小テスト</p>
----------	---

準備学習	毎回授業内で次回までの資料を配布するので、事前によく読んでおくこと。
履修上の留意点	授業内容は一続きのものであるため、前回までの配付資料を持参の上、継続的に出席すること。
成績評価の方法	平常点 (4割程度) と学期末に行う筆記試験 (6割程度) によって評価する。
教科書/テキスト	[前期:] 毎回資料を配付する。 [後期:] 最初の授業において指示する。
参考書	使用しない。
その他	特になし。

履修コード	002901
科目名	仏典講読I
担当者名	藤井 淳
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>本年は『維摩経』を取り上げる。維摩居士と文殊菩薩の対話やサンスクリット文に見られるかけ言葉、大乘経典と阿含経との関係などを中心に見ていく。時折、源信僧都『往生要集』に取り上げられた地獄などの六道の描写をインドに起源を持つとされる文献(『大智度論』『瑜伽師地論』『正法念処経』『観仏三昧海経』)に留意しながら見てみたい。</p>
授業スケジュール	<p>(1) イントロダクション  (2) ~ (5) 文献解題 (6) ~ (13) 文献購読 (14) 小テスト (15) 前期まとめ  (16) 後期イントロダクション  (17) ~ (28) 文献購読 (29) 小テスト (30) 後期まとめ</p>
準備学習	さまざまな解説書が刊行されているので積極的に見ておくこと。
履修上の留意点	<p>講読とは学生自身にテキストを読んでもらうことを意味する。必ず長時間予習してくることを心がけられたい。履修者の人数・関心によって適宜、読解と解説の比重を変えることがある。現代語訳を使っていくが、資料では漢文も使用するので注意すること。資料はYestudyを通じて配布することがあるのでYestudyは確実に使えること。課題の実行やコピー等にかかる費用が発生するので留意されたい。</p>
成績評価の方法	授業への参加姿勢および学期末の定期試験によって評価する。
教科書/テキスト	イントロダクションの際に指示します。
参考書	<p>長尾雅人『維摩経を読む』(岩波セミナーブックス) 現在絶版 ISBN978-4000048897  鎌田茂雄『維摩経講話』(講談社学術文庫)1013円 ISBN978-4061589193</p>
その他	適宜、必要な資料コピーを配布するが、再発行はしないので気をつけられたい。

履修コード	003001
科目名	仏典講読II
担当者名	奥野 光賢
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>三論学派(三論宗)を大成した嘉祥大師吉蔵撰『三論玄義』を講読する。『三論玄義』は大乗仏教の基本論書である『中論』『十二門論』『百論』を踏まえて書かれた三論学派の綱要書であるが、古来、宗派を超えた大乗仏教の概論書として読み継がれてきた。本書の講読を通じて三論学派の基本的教理の把握につとめたい。</p>
授業スケジュール	<p>開講から数回は序論として、三論の解題・研究史、著者である吉蔵について講義する。その後、講読に入る。『三論玄義』は大きく第一篇「通序大帰」(総論)と第二篇「別釈衆品」(各論)よりなるが、今年度は第二篇「別釈衆品」の途中から読み始める。  第4回~第6回……「諸部通別の義」  第7回~第9回……「衆論立名の不同」  第10回~第12回……「衆論の旨帰(根本趣旨)」  第13回~第15回……「四論の破申不同(否定と肯定)」  第16回~第18回……「別して三論を釈す」  第19回~第21回……「三論の通別」  第22回~第24回……「四論の用仮(教化の手段)不同」  第25回~第27回……「四論の対縁不同」  第28回~第30回……「三論の所破の縁」「中論の名題を釈す」</p>
準備学習	中国仏教史に関する概説書の「三論学派(三論宗)」、「吉蔵」の項目を予め読んできて欲しい。
履修上の留意点	予習をしっかりとなし、授業に主体的に参加することを望む。なお、受講希望者は開講初日に必ず出席すること。受講者を確定した段階で講読テキストを配布する(有料200円程度)。
成績評価の方法	出席状況もいくぶんかは勘案するが、あくまで基本は学年末試験である。受講希望者はその点をしっかり認識して、毎回の授業に臨んで欲しい。また折にふれて小テストを実施する。
教科書/テキスト	受講者を確定した段階でコピーを配布する(有料)。上にも記したように履修希望者は必ず開講初日に出席すること。
参考書	授業中に適宜紹介する。

履修コード	003101
科目名	仏典講読III
担当者名	飯塚 大展
授業概要/ 到達目標(ねらい)	中世日本仏教の多様性を、特に鎌倉時代に生きた無住道暁の目を通して理解することを主眼とする。
授業スケジュール	『沙石集』入門(1)、無住の生涯(2~5)、無住の著作(6~8)、『沙石集』概説(9~11)、同巻1の読解(16~26)、無住の生死観(27)、『沙石集』巻10の読解(28~30)
準備学習	大隅和雄『日本の中世2 信心の世界、遁世者の心』(中央公論新社、2002刊行、2400円)を読了していることが望ましい。
履修上の留意点	本講義専用のノートを準備すること。
成績評価の方法	三分の二以上の出席を前提とする。平常点(20点配分)、夏期課題レポート(30点)、期末試験(50点)を以て評価する。
教科書/テキスト	教科書は用いない。テキストは、YeStudyにおいて開示配布する。
参考書	参考書は第1回目の講義(概説)において紹介する。以下に主要なものを挙げる。 『沙石集』(岩波古典文学大系) 『沙石集』(新編日本古典文学全集、小学館) 『雑談集』(中世の文学、三弥井書店)

履修コード	028101
科目名	ラテン語
担当者名	上野 勝広

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	ラテン語は、古典ギリシャ語と共に、ヨーロッパ文化の基礎を形成しています。ラテン語についての知識は、ヨーロッパ諸文化の理解にきわめて重要です。本授業では、ラテン語の基礎文法を概説します。自ら単語集と語尾変化表を活用しながら、平易なラテン文を理解できるようにします。
---------------------	---

授業スケジュール	下記のテキストを用いて、基礎文法の要点を順次説明してゆきます。必要に応じてテキストにない文例も補充し、各課末にあるラ文和訳の練習問題に取り組みます。
----------	--

前期は序論から第12課まで、後期は第13課から第24課までを学習します。

#### 前期

1. 導入、ラテン語とは
2. 文字と発音、アクセント
3. 動詞の直説法現在、第1変格名詞
4. 直説法未完了、第2変格男性名詞
5. 直説法未来、第2変格中性名詞
6. 接頭辞 + sum、形容詞 bonus, bona, bonum
7. 直説法完了、第2変格男性名詞 puer, ager
8. 語順、直説法過去完了、直説法未来完了
9. 前置詞、場所を示す副詞、4種の動詞活用、現在語幹、完了語幹
10. 第3変格名詞 第I型 auris, cubile
11. 直説法現在、直説法未完了、第3変格名詞 第II型 dux
12. 直説法未来、第3変格名詞 第II型の続き、直説法現在受動態
13. 第4変格名詞、第5変格名詞、直説法未完了受動態、直説法未来受動態
14. 形容詞の比較法、受動態完了・過去完了・未来完了
15. 前回までの要点の整理、理解度の確認

#### 後期

16. 命令法現在 (能動態・受動態)、指示代名詞・形容詞、接続詞
17. 指示代名詞・形容詞の続き
18. 人称代名詞、所有代名詞・形容詞
19. 関係代名詞、副詞の比較法
20. 疑問代名詞・形容詞、不定法の用法、possum
21. 数詞、不定法の続き
22. 形式受動動詞、不定代名詞・形容詞
23. 分詞、未来不定法
24. 絶対的奪格
25. 接続法 (現在・未完了・完了・過去完了)、独立文中の接続法
26. 動名詞、目的分詞、動形容詞
27. 不規則動詞、不完全動詞
28. 非人称動詞、間接疑問文
29. 様々な従属文
30. 前回までの要点の整理、理解度の確認

準備学習	特に必要ありませんが、ラテン語がどんな言語かについて調べておきましょう。
履修上の留意点	練習問題については、毎回出席者に指名し和訳例を発表してもらいます。受身でなく、自ら学び取る姿勢をもって授業に臨みましょう。 1回でも欠席してしまうと追いつくのが容易ではありません。授業そのものに加え、自習の負担が大きい科目であることを認識しておいてください。
成績評価の方法	年間2回 (前期末・後期末) のテストの結果 (80%) に平常点 (20%) を加味して評価します。
教科書/テキスト	松本悦治『ラテン語入門』(駿河台出版社) 1,500円
参考書	辞書と共に授業の進行に合わせて紹介します。

# 專 門 教 育 科 目

## 2. 文 学 部

### (1) 国 文 学 科





履修コード	016601
科目名	演劇概論
担当者名	阿部 由香子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)</p> <p>現代の日本において触れることができる演劇は多種多様である。それらは多くの人々による絶え間ない試みが積み重なって生まれてきたものであり、同時に「いま」でなければ享受することができないものでもある。本授業ではそのような日本演劇の特質を学ぶこととする。</p> <p>(到達目標)</p> <p>近代から現代にかけての日本演劇の歴史についての基本的な知識を身につける。また、演劇の上演を成立させるための条件や時代との関わりについて理解し、舞台作品を様々な角度から鑑賞できるようにする。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>《前期》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 演劇を考察することについて</li> <li>2. 歌舞伎の近代化について (1)</li> <li>3. 歌舞伎の近代化について (2)</li> <li>4. 川上音二郎と新演劇</li> <li>5. 川上貞奴の登場</li> <li>6. 自由劇場の実現</li> <li>7. 文芸協会と芸術座</li> <li>8. 女優・松井須磨子</li> <li>9. 大正戯曲時代</li> <li>10. 大衆文化と演劇</li> <li>11. 関東大震災と築地小劇場</li> <li>12. プロレタリア演劇について</li> <li>13. 現代劇とリアリズム (1)</li> <li>14. 現代劇とリアリズム (2)</li> <li>15. 授業内テスト</li> </ol> <p>《後期》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 戦時下の日本演劇 (1)</li> <li>2. 戦時下の日本演劇 (2)</li> <li>3. 戦後の新劇について</li> <li>4. 井上ひさし作品を鑑賞する (1)</li> <li>5. 井上ひさし作品を鑑賞する (2)</li> <li>6. 井上ひさし作品を鑑賞する (3)</li> <li>7. 1960～1970年代の演劇</li> <li>8. つかこうへの作品を鑑賞する (1)</li> <li>9. つかこうへの作品を鑑賞する (2)</li> <li>10. つかこうへの作品を鑑賞する (3)</li> <li>11. 1980年代の演劇</li> <li>12. 野田秀樹の作品を鑑賞する (1)</li> <li>13. 野田秀樹の作品を鑑賞する (2)</li> <li>14. 野田秀樹の作品を鑑賞する (3)</li> <li>15. まとめ</li> </ol>
----------	---

準備学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者自身が日本演劇について知っていることと、よく分からないことをはっきりさせておくといよいでしょう。さらに、身の回りの演劇に積極的に関心をもつようにしてください。</li> <li>・翌週の授業で扱う作品のテキストを配布した場合には、必ず読んできてください。</li> <li>・映像資料の感想を課題にした場合には、必ず書いてきてください。</li> </ul>
------	--

履修上の留意点	<p>受講者には必ず1回は劇場へ足を運んでもらい観劇してレポートを書いてもらいます(観劇代金は自己負担です)。演劇に興味関心が全くない方にはおすすりません。</p>
---------	--

成績評価の方法	<p>前期末に一度授業内テストを行います。後期は観劇レポートを提出してもらいます。その他、何回か小レポートを課題に出します。授業内テスト(40%)とレポートの内容(40%)と平常点(20%)によって評価します。</p>
---------	---

教科書/テキスト	授業中に資料を配布します。
----------	---------------

参考書	授業時に適宜紹介します。
-----	--------------

履修コード	012901
科目名	漢文学
担当者名	和田 和子
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	漢文を読解する為に必要な知識の習得を目指す。また、言語の系統を異にする日本語と中国語の、その隙間を埋めるべく完成された訓読という方法についての検討を行うことで、国語としての漢文の位置づけを明確にしていきたい。併せて資料の読解を通じて、悠久の歴史の中で行われた中国人の言語活動や文化的営為についての基礎的な知識を身につけていきたい。
授業スケジュール	前期は漢文学の基礎を学ぶ上で精読すべき資料を紹介・講読していく。また取り上げる漢文資料の内容に即して、適宜訓点の施し方、書き下し文の方法などを教授する。 後期は漢文理解の鍵となる助字の用法やその他の文法的諸問題についての考察を行い、漢文の構造をより発展的に学べるようにしたい。
準備学習	授業の内容がより深く理解できるよう、漢文の構造や訓読の規則についての初歩的な知識に関しては、自分で必ず補っておくこと。その方法については、適宜各自に指導する。
履修上の留意点	
成績評価の方法	期末に筆記試験を実施するとともに、出席状況、授業への参加の姿勢などにより総合的に評価する。
教科書/テキスト	教員が作成したプリント資料を用いる。
参考書	
その他	主に教員が講義する形式となるが、取り扱う資料や講義の内容について、各自予習・復習をしておくことが望ましい。

履修コード	013001
科目名	漢文学
担当者名	和田 和子
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	漢文を読解する為に必要な知識の習得を目指す。また言語の系統を異にする日本語と中国語の、その隙間を埋めるべく完成された訓読という方法についての検討を行うことで、国語としての漢文の位置づけを明確にしていきたい。併せて資料の読解を通じて、悠久の歴史の中で行われた中国人の言語活動や文化的営為についての基礎的な知識を身につけていきたい。
授業スケジュール	前期は漢文学の基礎を学ぶ上で精読すべき資料を紹介・講読していく。また取り上げる漢文資料の内容に即して、適宜訓点や送り仮名の施し方、書き下し文の方法などを教授する。 後期は漢文理解の鍵となる助字の用法やその他の文法的諸問題について考察を行い、漢文の構造をより発展的に学べるようにしたい。
準備学習	授業の内容がより深く理解できるよう、漢文の構造や訓読の規則についての初歩的な知識に関しては、自分で必ず補っておくこと。その方法については、適宜各自に指導する。
履修上の留意点	
成績評価の方法	期末試験と出席日数で評価する。
教科書/テキスト	教員が作成したプリント資料を用いる。
参考書	
その他	主に教員が講義する形式となるが、取り扱う資料や講義の内容について、各自予習復習しておくことが望ましい。

履修コード	012101
科目名	基礎国語学
担当者名	高田 智和

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	1. わたしたちが、話し、聞き、読み、書く日本語についての知識を深めます。 2. ことばを分析的にとらえ、観察する視点を養います。
---------------------	--

授業スケジュール	前期 1 回－5 回 現代日本語の音声・音韻 6 回－10 回 音韻の変遷 11 回－15 回 日本語の文字体系 後期 1 6 回－20 回 漢字と仮名 21 回－25 回 語彙の分類 26 回－30 回 ことばと位相
----------	--

準備学習	授業時配布のプリントによって復習をすること。
------	------------------------

履修上の留意点	主に現代の日本語を扱いますが、歴史的な側面も取り上げます。
---------	-------------------------------

成績評価の方法	試験を中心に、授業時間内に提出を求める課題を加えて総合的に判断します。
---------	-------------------------------------

教科書／テキスト	教科書は使用しません。必要に応じてプリントを配布します。
----------	------------------------------

参考書	『国語学』（築島裕、東京大学出版会、1964） 『国語概説』（佐伯哲夫・山内洋一郎編、おうふう、1983） 『日本語史』（沖森卓也編、おうふう、1989） 『図解日本語』（沖森卓也・木村義之・陳力衛・山本信吾、三省堂、2006）
-----	---

履修コード	012201
科目名	基礎国語学
担当者名	原 裕

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	日本語研究の対象・方法についての基本事項を学習する。従来の研究によって解明された日本語の実相についての基本的知識を学ぶとともに、言語研究の目的・問題設定・方法などについての知識を習得し、日本語に対する幅広い問題意識を身につけることを目的とする。
---------------------	--

授業スケジュール	〔第1回〕日本語研究への導入 〔第2～11回〕音声と音韻（現代語） 〔第12～18回〕文字と表記 〔第19～25回〕日本語の音韻の歴史 〔第26～30回〕日本語の語彙と文体
----------	--

準備学習	使用するプリントを前もって配布する。予備学習として次週学習部分に目を通しておくことを勧める。
------	--

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	筆記試験の点数などを総合的に判断する。
---------	---------------------

教科書／テキスト	プリントを配布する。
----------	------------

参考書	授業において随時紹介する。
-----	---------------

履修コード	012501
科目名	基礎国文学I
担当者名	近衛 典子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	古典文学を読解するための基礎的な知識と研究方法を学びます。古典作品の読解を通じて、日本語の表現の奥深さや、時代により豊かに変化し広がっていく古典世界の面白さを理解し、古典研究に必要な基礎的な教養を身に付けます。
---------------------	---

授業スケジュール	代表的な古典作品を具体的に読解していきます。古典を理解するための基礎知識や学術用語、文学史的な流れについても解説します。また、くずし字も学びます。必要に応じて、映画鑑賞も行います。 （1）ガイダンス、（2～7）古典における基礎知識（暦法・文字の展開・写本と版本など） （8～13）作品の読解（和歌・連歌・俳諧）（14）理解度の確認テスト（15）前期のまとめ（16～23）作品の読解（和歌から物語へ）（24～28）作品の読解（文字を支える思想について）（29）理解度の確認テスト（30）1年間のまとめ
----------	---

準備学習	くずし字を読む練習を行ってください。
------	--------------------

履修上の留意点	欠席の多い場合は評価の対象としません。
---------	---------------------

成績評価の方法	学期末試験（50%）、平常点（30%）、小テスト（20%）を総合的に判断します。
---------	--

教科書／テキスト	『字典かな一出典明記一』（笠間書院、380円）
----------	-------------------------

参考書	授業中に紹介します。
-----	------------

履修コード	012301
科目名	基礎国文学I
担当者名	櫻井 陽子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	古典文学を読解するための基礎的な知識を学び、古典文学を研究する方法を学ぶ。古典文学の読解を通して、日本語の表現の美しさ、おもしろさを知る。また、作品世界を深く読み込むことを通して、古典文学は、なぜ時代を超えて人々の心を捉えてきたのかを考える。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>前期</p> <p>(1) イントロダクション (2)～(7) 古典文学の流れの概説 (8)～(13) 作品「本文」と「読解」の問題 (14) 前期テスト (15) テスト返却</p> <p>後期</p> <p>(1)～(4) くずし字を読む (5)～(10) 代表的な仮名作品を通して「読解」と「研究」の問題 (11)～(13) まとめ (14) 後期テスト (15) 二年生に向けて</p>
----------	--

準備学習	4月までに： 古典文学の流れの復習。 各授業時までには： 前回までの授業の内容の理解の確認。配布プリントの予習。
履修上の留意点	全授業数の三分の一以上欠席した場合は評価の対象としない。
成績評価の方法	出席状況、授業態度、小テスト、レポート、前後期末試験などによって総合的に評価を行う。
教科書／テキスト	その都度、プリントを配布する。
参考書	授業時に随時紹介する。なお、くずし字を読むため、『字典かな―出典明記―改訂版』（笠間書院、380円）を用意すること。

履修コード	012401
科目名	基礎国文学I
担当者名	湯浅 幸代

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	古典文学を取り巻く現在の状況を理解し、いま、古典を学ぶことにどのような意味があるのかについて考える。また、実際に古典文学を読解するための基礎的な知識と方法を身につける。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>現代に生きる古典のありように留意しながら、国風文化の掘え直し、あるいは古典という認識の成立に立ち返った上で、具体的に平安時代の文学を中心に読解の方法を示す。また、近年、古代史や美術史といった越境的な広がりを見せる研究分野についても触れ、あわせて研究の指針となるような術語についても解説する。</p> <p>(1) ガイダンス (2～7) 古典における基礎知識 (写本と版本、漢字と仮名、くずし字を読む、貴族の生活、など) (8～14) 作品の読解 (神話・和歌・物語) (15) 前期試験 (16～22) 作品の読解 (話型と準拠) (23～29) 作品の読解 (注釈史について) (30) 後期試験</p>
----------	---

準備学習	近世までの日本文学史を学習しておくこと。
履修上の留意点	遅刻・欠席が多い場合、評価の対象としない。
成績評価の方法	前期試験と後期試験、小テスト、出席状況などを総合して評価する。
教科書／テキスト	『字典かな―出典明記―改訂版』（笠間書院）380円、またプリントを配布する。
参考書	授業時に紹介する。

履修コード	012601
科目名	基礎国文学II
担当者名	岡田 豊

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	日本近現代小説研究の基礎的な方法や概念を学ぶ。特に、様々な批評理論を武器にして適宜応用することにより、小説作品の読解が多様に変化することを示し、テキストの可能性を取出す。同時に、学んだ概念や方法をいかに活用してテキストを読みかえるか、実例を挙げて解説する。
---------------------	--

授業スケジュール	(1) ガイダンス 感想ではなく研究へ (2) ~ (4) 虚構のテキストを読むということ・記号・作者・読者・テキスト (5) あらすじをまとめることからの離陸・ストーリーとプロット (6) ~ (16) 語りの構造を解明する視点を育む・語り手・視点と焦点化・一人称小説と三人称小説 (17) ~ (19) 引用・期待の地平 (20) ~ (24) フェミニズムとジェンダー・ホモソーシャル (25) ~ (27) メディア・文化記号 (28) ~ (30) まとめ
----------	--

準備学習	Yes studyに受講者登録を行うこと。
------	-----------------------

履修上の留意点	配布プリントを使って読解を進める。小説の表現について考察する授業であるため、テキストを読んで授業に参加することをまずはお願いしておきたい。多義的な表現のみずみずしさを味わい、ときに難解で手に負えないような手ごわい面にも触れていきたいと思う。どのような視点から、どのような方法で論じていくのかも習得してほしい。
---------	--

成績評価の方法	前期と後期とそれぞれ一回ずつ筆記試験を実施する (50点×2回)。授業時間中に書かせるレポートも成績評価に反映させる。
---------	---

教科書/テキスト	配布プリント
----------	--------

参考書	真鋼正宏『小説の方法』萌書房、2400円税別、ISBN978-4-86065-028-5
-----	--

履修コード	012801
科目名	基礎国文学II
担当者名	勝原 晴希

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 近現代の文学研究へのオリエンテーション(道案内)を行ない、具体的な作品(主として日本近現代の短編小説)を読むことを通して、作品へのアプローチ(読解)の方法を体験的に習得する。 (到達目標) 作品をただ読むことと、読みを深めることとの違いを理解し、さまざまなことに注意して考えながら読む姿勢を身につけることが目標である。
---------------------	---

授業スケジュール	近現代文学についての概略的な講義を行なった後、近現代の代表的な短編小説・評論・詩歌について作品の分析・読解を進めて行く。なおそれぞれの作品について、授業時間内に簡単なレポートを課し、その内容をふまえながら講義を進める。スケジュールの概略は以下の通りだが、進行状況などによって変更する場合もある。 第1・2回: ガイダンス 第3~5回: テキストと記号 第6~14回: 短編小説を読む 第15回: 前期テスト 第16回: 前期内容の確認 第17~23回: 短編小説を読む 第24・25回: 評論を読む 第26・27回: 童話を読む 第28・29回: 詩歌を読む 第30回: 総まとめ
----------	--

準備学習	・それぞれの作品について、いくつかの質問を出し、それについての考察を書いてきてもらう。該当の作品について自ら読み、考え、書くことが必要である。 ・たくさん読むこと、たくさん書くことが、文学研究ばかりではなく人間形成の基礎力をつくる。ふだんから読書・思考・表現の習慣を心がけたい。
------	--

履修上の留意点	文学研究には基礎的な知識・技術の習得と主体的独創的な個別アプローチの両方が必要である。どちらか一方に偏らないよう、バランスを取りながら身につけていって欲しい。
---------	---

成績評価の方法	前期試験10%、後期試験80%、随時のレポート5%、平常点5%とする。なお出席回数の少ない学生は受験資格を失うことがあるので注意すること。
---------	---

教科書/テキスト	随時プリントを配布する。
----------	--------------

参考書	授業中に随時指示する。
-----	-------------

履修コード	012701
科目名	基礎国文学II
担当者名	高田 知波

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	近代の小説作品の読みを通じて、大学における国文学研究の基礎について学習する。
授業スケジュール	(1) ガイダンス (2~10) 『坊っちゃん』講義 (11~19) 『伊豆の踊子』講義 (20~28) 『舞姫』講義 (29~30) まとめ。
準備学習	授業の前に必ずテキストを読んでくること。
履修上の留意点	小説の読みに、唯一絶対の《正解》というものは存在しない。作品解釈についての固定観念を根底から疑い、論拠に基づいた自分自身の《読み》を追求することが近代文学研究の基本なのだということを、この授業を通して理解してほしいと思う。
成績評価の方法	原則として、年度末の筆記試験の結果によって評価を出す。欠席時数が多いと年度末試験の受験資格を失うことがある。
教科書/テキスト	夏目漱石『坊っちゃん』(新潮文庫) 森鷗外『阿部一族・舞姫』(新潮文庫) 川端康成『伊豆の踊子』(新潮文庫)
参考書	教場で指示する。

履修コード	014801
科目名	近世文学研究II
担当者名	川元 ひとみ

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	江戸時代前期の上方を中心に書かれた浮世草子のうち、井原西鶴の『懐硯』を扱う。『懐硯』は貞享4年3月に刊行された雑話物で、諸国行脚の伴山(半俗半僧)による諸国物語形式がとられている。 西鶴といえは、「好色」シリーズのイメージが強いのであるが、本作品には心に深く染み入る佳作も多く、好色物とはまた違った、西鶴の魅力に触れることができるだろう。 おもに、作品の素材を中心に進めていくので、典拠素材がどのように物語に取り込まれていったのかを楽しみつつ、西鶴の作品づくりの方法を学んでほしい。
授業スケジュール	第1回 西鶴と西鶴の作品について 第2回 『懐硯』の概要 第3回~最後(各2回ずつ) 1-1 「仁王門の綱」 1-4 「案内しつてむかしの寝所」 1-5 「人の花散瘡の山」 2-1 「後家に成ぞこなひ」 2-4 「鼓の色にまよふ人」 3-1 「水浴は涙川」 3-4 「枕は残るあけぼのの縁」 3-5 「誰かは住し荒屋敷」 4-1 「曇目を見する竹の世の中」 4-3 「文字すわる松江の鱸」 4-4 「人真似は猿の行水」 5-5 「御代のさかりは江戸櫻」
準備学習	難解な文章ではないので、事前に一通り読んできて欲しい。少なくとも、どのような内容の話なのかということまではやってくるのが望ましい。
履修上の留意点	1年間で各人1回、典拠資料の作成(1~2資料)を行ってもら。第3回の授業までに担当箇所を決定するが、授業当日に作成資料の提出ができないということがないように、前向きに作品に取り組んでほしい。
成績評価の方法	前期試験と後期レポートによって評価する。
教科書/テキスト	『校註懐硯』田崎治泰 昭43・4 笠間書院 800円
参考書	『対訳西鶴全集5』 麻生磯次・富士昭雄 昭50・8 明治書院

履修コード	014901
科目名	近代文学研究I
担当者名	榎本 正樹

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	現代日本文学作品(可能な限り最新作)の詳細な分析を通して、現代作家の方法論や作品固有の構造を明らかにします。さらに、作品の背後にある問題系、社会・文化・事象との相互接続性、ジャンルの可能性を探ることで、現代日本文学とその環境を可視化していきます。
---------------------	---

授業スケジュール	現代日本文学のフィールドで重要だと思われる作家と作品を網羅的に解説・分析し、作品に内在するテーマ、モチーフ、文体、語りの技法、社会接続性、周辺メディアとの連関などの要素を抽出します。扱う作品は主流系文学(純文学)が中心になりますが、その他のジャンルも対象となります。可能な限り最新作をとりあげていく予定ですので、シラバスに具体的な作家、作品を示すことはできません。授業で扱う作家・作品は、その都度アナウンスしていく形になります。ここ数年、出版の世界は大きく変わりつつあります。その最大のものが、電子書籍による出版、流通、読む環境の変化です。AmazonのKindleやAppleのiPadなどの読書端末が実現する、電子書籍にも言及する予定です。また、電子書籍環境によって生まれたセルフパブリッシュの可能性についても論じます。 そのほか、昨年(2011年)に映画公開された現代日本文学を原作とする映画の中から何作かを観賞し、原作と比較・対照しながら、映像表現と言語表現の違いについて考察する機会をつくりたいと考えています。 榎本は研究活動の一環として、作家へのインタビューや取材を積極的に行っています。授業では作家の生の情報や、文学界、出版界のトピックスなど、現代日本文学環境についての情報も紹介していきます。教室に編集者や作家をお呼びして、編集や創作にまつわるお話を伺う機会なども、可能であれば実現したいと思えます。
----------	--

準備学習	授業で扱う作品を読んでいなくても理解できる形で進めますが、事前に作品を読んでおくと、さらに理解が深まるでしょう。
------	--

履修上の留意点	現代日本文学のほか、映画や演劇のような周辺ジャンル、同時代のメディア全般に興味をもつ学生の履修を歓迎します。学生からの質問や問題提起にも積極的に応じます。
---------	---

成績評価の方法	学年末提出のレポートの評価をメインに、出席点を加味し評価します。レポートのテーマや内容、分量等については、第1回目の授業時に話します。
---------	---

教科書/テキスト	テキストは使用しません。必要な資料はプリントで配布します。
----------	-------------------------------

参考書	参考文献等は教室で適宜、指示します。
-----	--------------------

その他	講義形式をとります。履修に際しては、榎本のプロフィールや研究業績が掲載されているサイト( <a href="http://ermt.jp">http://ermt.jp</a> )も参考にしてください。
-----	---

関連リンク	<a href="http://twitter.com/ermt">http://twitter.com/ermt</a>
-------	---

履修コード	015001
科目名	近代文学研究II
担当者名	高田 知波

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	年間テーマは「夏目漱石を読む」。高校生に読まれている率の高い国民的名作『ころろ』。100年前の東京の大学生の世界を描いた『三四郎』。友人の妻との恋愛を扱った『それから』。この三つの作品の読みを通じて漱石の作品世界を新しい視点から探訪していく。
---------------------	---

授業スケジュール	(1)ガイダンス (2)『ころろ』を読む(9回) (3)『三四郎』を読む(9回) (4)『それから』を読む(9回) (5)まとめ(2回)
----------	---

準備学習	この講義は、聴講者がテキストを一度読んできているということを前提にしている。一度も読まないまま出席した学生には内容理解が困難のはずである。
------	---

履修上の留意点	講義の途中で学生を指名して意見を聞いたり、自発発言を求めたりすることが多い授業である。私語は厳禁だが、発言は歓迎する。毎回レジュメを配布して講義するので、有効に活用してほしい。
---------	--

成績評価の方法	年度末試験(筆記試験)で成績評価する。ただし欠席の多い学生は受験資格を失うことがある。
---------	---

教科書/テキスト	夏目漱石『ころろ』『三四郎』『それから』(いずれも新潮文庫)
----------	--------------------------------

参考書	教場で指示する。
-----	----------



履修コード	014001
科目名	国語学研究Ⅱ
担当者名	木村 一

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	西洋人による文法研究資料と会話資料を中心に扱う。国語学の知識を活かし、諸現象について説明できることを目指す。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>ことばとは、ある時点での現在を反映すると共に、その前後と深いかかわりを持っている。西洋人による日本語研究が盛んに行われた室町から江戸初期と、江戸末期から明治初期にかけてあらわされた文法研究資料と会話書を中心資料として、広く日本語について考察したい。</p> <p>前期は、西洋人による文法研究資料と会話書の概説(第1-3回)、キリシタンによる文法研究(第4-9回)、キリシタンによるその他の資料群(第10-13回)、前期の総括(第14-15回)をあつかう。</p> <p>後期は、西洋人による江戸・明治期の文法研究資料(第16-21回)、西洋人による江戸・明治期の会話書(第22-27回)、西洋人による江戸・明治期のその他の資料群(第28-29回)、一年の総括(第30回)をあつかう。</p>
----------	---

準備学習	授業時に配布する資料について、読み込んでおくこと。
履修上の留意点	主として講義形式で進めるが、併せて、文献を利用した基礎作業や、課題の報告などを行う。
成績評価の方法	授業への参加姿勢、出席状況、試験・レポートなどを総合して評価する。
教科書/テキスト	適宜プリントを配布する。

参考書	<p>森岡健二著 『改訂 近代語の成立 語彙編』 明治書院          沖森卓也他編 『日本辞書辞典』 おうふう          忽郷正明著 『日本語開化物語』 (朝日新書360) 朝日新聞社          丸山真男・加藤周一著 『翻訳と日本の近代』 (岩波新書 新赤版580) 岩波書店          高島俊男著 『漢字と日本人』 (文春新書198) 文芸春秋          その他、授業を通じ必要に応じて紹介する。</p>
-----	---

履修コード	013801
科目名	国語学史
担当者名	木村 一

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	言語研究の歴史について考える。いつ・どこで・誰が・どのような研究を行ってきたのかを国語学の視点から理解し、説明できるようになることを目指す。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>国語についての研究は、古代から様々な観点でなされてきている。その流れを大きくテーマによって区分し(古語への意識、音韻の研究、文法の研究、語彙の研究、キリシタンの日本語研究など)、概観したい。また、国語学史上、欠かすことのできない資料の読解もあわせて行う。</p> <p>前期は、日本語学の時代区分(第1回)、国語学史の意義(第2-3回)、古語の意識(第4-6回)、音韻の研究(第7-9回)、仮名遣いの研究(第10-12回)、文法研究(第13-15回)をあつかう。</p> <p>後期は、方言の研究(第16-18回)、アクセントの研究(第19-21回)、語彙の研究(第22-24回)、キリシタンの日本語研究(第25-27回)、西洋人の日本語研究(第28-30回)をあつかう。</p>
----------	---

準備学習	教科書の該当箇所を事前に通読しておくこと。
履修上の留意点	テキストの分類に沿って講義形式で授業を進めるが、プリントなどによる資料を配布して、受講者による調査・作業も行う予定である。積極的な取り組みを希望する。
成績評価の方法	授業への参加姿勢、出席状況、試験・レポートなどを総合して評価する。
教科書/テキスト	『国語学史』(第3版) 馬淵和夫・出雲朝子 笠間書院 ￥1,890

参考書	<p>『国語学史資料集』 国語学会編 武蔵野書院          『国語史資料集』 国語学会編 武蔵野書院          『資料日本語史』 沖森卓也編 おうふう          『古典日本語の世界』 東京大学教養部国文・漢文学部会 東京大学出版会          その他、授業を通じ必要に応じて紹介する。</p>
-----	---

履修コード	015101
科目名	国語学特講I
担当者名	山本 真吾

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 院政鎌倉時代の文体研究。国語史研究の谷間と言われる当代の言語に注目し、歌謡・和歌、物語、説話、随筆、軍記の諸文体について、多角的に考察する。 (到達目標) 本講義の到達目標については、以下の5点を設定する。 1、国語の歴史的研究の意義について理解する。 2、鎌倉時代語の特徴を研究分野(文字・表記、音韻、文法、語彙、文体)ごとに把握する。 3、鎌倉時代語研究の資料となる文献の性格を理解する。 4、鎌倉時代語研究の方法について理解する。
---------------------	--

授業スケジュール	【前期】※以下の項目に従って、講義を行う。 1、院政鎌倉時代語の研究水準と問題点(1、2回) 2、文献資料の多様性(3回) 3、歌謡・和歌の表現と文体、筆記試験(1)(4~8回) 4、院政期仮名物語の文体、筆記試験(2)(9~14回) 5、前期の総括(15回) 【後期】※以下の項目に従って、講義を行う。 1、説話文学の表現(1、2回) 2、今昔物語集の表現と文体、筆記試験(3)(3~5回) 3、方丈記と徒然草の文体(6~11回) 4、平家物語の文体、筆記試験(4)(12~14回) 5、後期の総括(15回)
----------	--

準備学習	・1年次以降の国語学関係の授業内容を踏まえて、講義を構成しています。授業内容をよく復習しておくこと。 ・前回に使用したプリントをよく読んで授業に臨むこと。 ・授業中に紹介した参考文献をよく読んで授業に臨むこと。
------	---

履修上の留意点	図書館等に所蔵の関連文献を大いに活用してほしい。
---------	--------------------------

成績評価の方法	前期、後期それぞれ各単元の終わりに筆記試験を行う(授業スケジュール参照)。合計4回行い、それぞれ25%の配分として評価を行う。これを総合して6割を単位認定の最低基準とす
---------	--

教科書/テキスト	用いない。適宜プリントを配布する。(無断欠席の場合、後日プリントを希望しても応じられないので留意されたい)
----------	---

参考書	講義の中で随時紹介する。
-----	--------------

履修コード	015201
科目名	国語学特講II
担当者名	高田 智和

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	1. コンピュータを利用した日本語研究の方法と考え方を習得します。 2. 利用可能な電子化テキストとその利用法について理解します。 3. 電子化テキストを用いた日本語研究の現状と課題を解説します。
---------------------	--

授業スケジュール	前期 1回-3回 ことばの計量的研究 4回-7回 文字コードと漢字処理 8回-15回 正規表現とテキスト処理 後期 16回-19回 文字量を測る 20回-28回 語彙量を測る 29回-30回 統計処理
----------	---

準備学習	授業時配布のプリントによって復習をすること。
------	------------------------

履修上の留意点	授業では総合学術センターのパソコンを使用します。授業は講義のほか、パソコンを使用した実習を行うので、理由のない欠席はしないでください。
---------	---

成績評価の方法	レポート、実習時(授業時間内)の課題提出、平常点によって総合的に判断します。
---------	--

教科書/テキスト	教科書は使用しません。必要に応じてプリントを配布します。
----------	------------------------------

参考書	『計量言語学入門』(伊藤雅光、大修館書店、2002) 『パソコンを使う日本語研究』(『日本語学』14巻7月臨時増刊号、明治書院) 『新聞電子メディアの漢字-朝日新聞CD-ROMによる漢字頻度表-』(横山昭一・笹原宏之・野崎浩成・エリク=ロング、三省堂、1998)
-----	---

履修コード	018901
科目名	国語国文学演習I
担当者名	岡田 豊

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	日本近代文学の研究と発表についての基礎的な方法を学ぶ。(基礎演習)の授業であるから、テキストを論理的に分析し、新たな読解を切り拓くことを実践するわけであるが、他人に研究報告するというプレゼンテーション能力の開発も重視する。ひとり楽しく自由気ままに読むのではなく、読んだことを他人に伝え、刺激するために深く時間をかけて読むことを実践する。先行研究の調べかたやレジュメの作りかたなど、基礎的な事項から解説する。
---------------------	---

授業スケジュール	一つの作品につき二回の授業をあて、発表はすべて学生が行う。基礎演習にあたるので、研究方法、発表技術の習得に重点をおく。夏期課題レポートの作成によって、記述する力を養う。
----------	--

2011年度 研究対象作品 (今年度と必ずしも同じとは限らない)

田山花袋『少女病』  
 国木田独歩『窮死』  
 谷崎潤一郎『秘密』  
 芥川龍之介『舞踏会』  
 堀辰雄『水族館』  
 江戸川乱歩『目羅博士』  
 三島由紀夫『橋づくし』  
 大江健三郎『人間の羊』

準備学習	Yes studyに受講者登録を行うこと。
------	-----------------------

履修上の留意点	発表を担当する回は絶対に欠席しないこと。場違いな発言や稚拙と思われるような質問も、基礎演習だから恥じることなく思い切って発言してほしい。 〈こういうことはやめよう〉人の話を聞いていない、遅刻ばかりする、他人の意見を繰り返してあたかも自分の意見であるかのような態度をとる、ここがいいとかおもしろいとか感想ばかり口にする、登場人物AとBができてい・すいているなどと俗っぽい世間話を意見だと勘違いしている、やたら反対はするが自分の意見を出したためしがない
---------	---

成績評価の方法	原則として発表が100%だが、発表回数にかたよりが出た場合はレポート提出なども考慮する。また、単位認定には七割以上の出席を条件とする。 夏期課題レポートを課している。ある条件に満たしていない場合には、クリアするまで何度も書き直しをしてもらっている。
---------	---

教科書/テキスト	東郷克美・吉田司雄編『近代文学【都市】を読む』双文社出版、2000円、ISBN4-88164-072-0
----------	--

参考書	
-----	--

履修コード	019101
科目名	国語国文学演習I
担当者名	勝原 晴希

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 履修者個々人が自ら選んだ詩歌作品について、調査・考察を報告し、履修者全員で質疑応答を行う。 (到達目標) 近現代の詩歌について学ぶとともに、毎回の研究報告と討論を通して、詩作品についての理解を養い、調査する力、考察し発表する力、質疑応答する力を養う。
---------------------	---

授業スケジュール	近現代(明治～平成)の詩歌を読む。対象とする詩人・歌人・俳人は履修者個々人の希望によるが、場合によっては振りあてることもある。担当者の報告と履修者全員による討論によって進めていく。履修者の発表スケジュールは四月に決定する。 これまでに演習I履修者が採りあげた詩人の例を、以下にあげておく。 北原白秋・高村光太郎・三好達治・中原中也・室生犀星・萩原朔太郎・宮澤賢治・立原道造・草野心平・小熊秀雄・石原吉郎・寺山修司・茨木のり子・石垣りん・金子みすゞ・吉原幸子・谷川俊太郎
----------	--

準備学習	担当者の発表資料(レジュメ)は、発表の一週間前に提出されるので、他の履修者もあらかじめ熟読し、質問事項や自分の考えを用意しておくこと。
------	---

履修上の留意点	演習は個人プレーではなく、全員による共同作業である。発表者、司会者、そして参加者それぞれが、自分の意見を述べ、人の意見に耳を傾け、ひとつの作品について全員で読みを深めるという自覚をもって臨んでもらいたい。
---------	--

成績評価の方法	発表報告の内容60%、平常点20%、レポート20%とする。なお欠席回数に制限があるので、注意すること。
---------	---

教科書/テキスト	プリント配布。
----------	---------

参考書	授業時に指示する。
-----	-----------

履修コード	018701
科目名	国語国文学演習I
担当者名	近衛 典子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	江戸時代の作品には、それ以前に成立した物語、和歌、謡曲、中国白話小説等、数多くの典拠が用いられており、その作品世界に奥行きを与えています。前期は和歌注釈書をテキストとし、最も基礎的な調査方法を身に付けることを到達目標とします。後期は和文を取り上げ、単にストーリーを追うだけでなく、幅広い古典知識を踏まえて読解し、的確な作品の現代語訳をすることを到達目標とします。
---------------------	---

授業スケジュール	前期は契沖の『百人一首改観抄』を一人一首ずつ担当し、語彙についての基本的な注釈の仕方を学びます。後期は上田秋成の和文和歌集『藤簍冊子(つづらぶみ)』を読みます。語彙・事項を調査するのはもちろんのこと、典拠を一つ一つ確認・分析し、それを踏まえて文章の内容を正確に読解します。その上で、近世に新しく誕生した「和文」の概念について追求します。江戸時代の生活を知るために、古民家見学も予定しています。 (1~2) ガイダンス・発表担当部分の決定、(3~30) 口頭発表
----------	---

準備学習	自分の担当部分はあらかじめ、相当の時間を割いて調査・研究を進めること。資料の作成にも時間がかかるので、余裕をもって取り組むことが重要です。
------	---

履修上の留意点	近世文学を理解するには、幅広い教養が必要です。作品の表面的な意味を辿るだけでなく、その背後にある文化的背景や作家の事情、当時の制度・習慣、利用されている先行作品など、自分で積極的に問題点を設定して調査し、江戸時代への理解を深めて下さい。なお、欠席の多い場合は評価の対象としません。
---------	--

成績評価の方法	口頭発表(60%)、質疑応答への参加の態度(30%)、レポート(10%)によって総合的に評価します。
---------	--

教科書/テキスト	プリントを配付します。
----------	-------------

参考書	授業中に指示します。
-----	------------

履修コード	018501
科目名	国語国文学演習I
担当者名	櫻井 陽子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	古典文学の調査・研究の方法の基礎を学びつつ、中世文学を代表する軍記物語に親しむ。
---------------------	--

授業スケジュール	『平家物語』巻八を読む。原則として一回の発表で、一人一章段を探り上げる。章段を選び、自分でテーマを設定して調査し、報告する。必要に応じ、諸本の比較、周辺作品との比較を行う。発表後の討議の中で自分の問題意識を掘り下げる。後日、レポートにまとめて提出する。 1~3 『平家物語』と巻八の説明 4 担当章段の決定 5~ 発表と討議
----------	---

準備学習	4月までに：『平家物語』の内容をおおよそ把握しておく。 演習発表者：担当部分の朗読の練習・発表内容の調査・資料作りなど。 発表者以外：前週に配布されたプリントを読んで、質問事項を複数考えておく。
------	---

履修上の留意点	学生自身が、些細であっても自分なりの問題点や関心を持つこと。また、自身の発表時以外には積極的に質疑・討論に参加すること。
---------	--

成績評価の方法	口頭発表、レポート、出席、授業態度、質疑への参加の様子を踏まえて総合的に判断する。
---------	---

教科書/テキスト	『平家物語』三(岩波文庫)
----------	---------------

参考書	授業中に適宜指示する。
-----	-------------

履修コード	019001
科目名	国語国文学演習Ⅰ
担当者名	高田 知波

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	年間テーマは「太宰治を読む」。太宰治は青年層の間で人気の高い作家であるが、「太宰治」という神話が作品の読みを著しく束縛してきたことも確かである。作中人物の言葉をただちに「太宰」の肉声だと決め込んでしまうようなバイアス（先入観、偏見）からいかにして作品を解き放ち、自由に豊かな《読み》を生産していくか。学生相互による壮大な共同作業を追求する演習を目指す。
---------------------	--

授業スケジュール	(1) ガイダンス・履修者確定 (2) 導入授業・発表分担決定 (3) 『魚服記』の発表と質疑 (4) 『魚服記』のディスカッション 以下、1作品2週間のペース（1週目は発表と質疑、2週目はディスカッション）で、『人間失格』までの演習を進めていく。
----------	--

準備学習	-
------	---

履修上の留意点	毎時間テキストを読んで出席することは最低限のルールである。そして「演習の主役は学生である」という原則に則って、活発な発言を行うという姿勢で演習に臨んでほしい。
---------	---

成績評価の方法	平常点と、期末のリポートの採点結果とを総合的に評価する。
---------	------------------------------

教科書／テキスト	『晩年』、『走れメロス』、『お伽草紙』、『斜陽』、『ヴィヨンの妻』、『人間失格』（いずれも新潮文庫）
----------	--

参考書	教場で指示する。
-----	----------

履修コード	018601
科目名	国語国文学演習Ⅰ
担当者名	田中 徳定

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 古典文学を読解・調査していくための基本的な文献を学び、辞典類、歴史史料、研究書等を駆使しながら、実際に古典文学作品を読解する方法を身につけることを目的とする。 (到達目標) この演習の到達目標は、古典文学作品を実際に読解することを通して、3年次の演習、さらには卒業論文作成のための基礎的な研究方法を習得することである。
---------------------	---

授業スケジュール	『徒然草』をとりあげ、語彙調査の方法や歴史史料の扱い方を学ぶ。また、関連する物語・説話にも広く眼を向けて、中世の人々の思想や信仰、及び平安時代以来の貴族文化の美意識について探究する。
----------	---

準備学習	授業において発表者が発表する章段を事前によく読んでおくこと。
------	--------------------------------

履修上の留意点	演習科目であるので、基本的に欠席をしないこと。また、他の演習生の発表に対して質問するなど、積極的に授業に参加すること。
---------	---

成績評価の方法	平常点（授業時間内に行なう口頭発表・発言等）60%、レポート40%。
---------	------------------------------------

教科書／テキスト	鈴木知太郎・西一祥編『新注 徒然草』（おうふう）1,800円
----------	--------------------------------

参考書	授業中に随時指示する。
-----	-------------

その他	受講生に発表する章段を割り当てる。受講生は、発表担当章段について、調査、考察を行ない、その結果をレジュメにまとめ、授業中に口頭発表を行なう。
-----	--

履修コード	018001
科目名	国語国文学演習I
担当者名	土井 光祐

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>○現代語に至る日本語の歴史を文献資料で具体的に跡づける中で、日本語の変遷の実態を確認し、言葉の「調べ方」の基本を学ぶ。</p> <p>○室町時代末期(1500年代末)を基準点として、個々の表現を視点に文語規範の基盤である古代語(1000年頃)から現代語(2012年)までの国語史を往復し、現代日本語の形成過程を考察する。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>1593年刊行の「天草版金句集」を国語史の観点から分析する。</p> <p>天草版金句集は、天草版平家物語、同伊曾保物語と合綴されて、ロンドン・大英図書館に所蔵されているローマ字本口語体キリタン資料の一種で、最古の日本語学習用教材である。</p> <p>16世紀半ばに渡来したイエズス会の宣教師達は、当時の日本の格言を学んでキリスト教の布教に利用しようとした。漢籍等に出典を持つ文語体の格言に、16世紀末の「口語訳」を付したもので、室町時代末期の口語資料として知られている。室町時代における文語体と口語体とを、音韻、文法、語彙、文体等の諸点から言語比較して、現代語の形成過程を具体的に観察する。</p> <p>【第1回～第3回】教員より資料の概説と調査方法の説明。 【第4回～】順番にレポーターを決めて、レジュメを作成し、発表する。</p>
----------	---

準備学習	「基礎国語学」で学んだ知識を使うことが多いので、使用したテキストを読み返しておくことが望ましい。
------	--

履修上の留意点	
成績評価の方法	発表内容、質疑への参加態度、レポート内容の総合。
教科書/テキスト	プリントを配布。
参考書	授業中に紹介。
その他	eラーニングシステムYeStudyを適宜利用する。

履修コード	018101
科目名	国語国文学演習I
担当者名	中嶋 真也

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>日本現存最古の歌集『万葉集』を読むことを通じ、古代日本人の感性や知性を感じ受することを目標とします。また、古典文学研究の実践を体得し、自身の理解したことを他の人に正確に伝えるための発表技術(資料作成ならびに口頭発表)を習得することも目標とします。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>『万葉集』は日本語を漢字で書く時代に生まれました。「日本人のふるさと」のような捉え方で今なお賞讃されています。表記体系も異なる中、どういったところが、どのように我々の琴線に触れるのか。一首一首を丹念に読み、それを体感していきます。</p> <p>『万葉集』は4500首以上の膨大な歌数を取っていますが、演習Iでは、読んだことがある歌、どこかで見たことがある歌、親しみやすい歌を取り上げます。</p> <p>具体的には、現在刊行されている、『万葉集』の解説本や抄出したものをもとに、多くの本で取り上げられている歌々、つまり『万葉集』の代表歌と称される歌々から受講者は希望の歌を選んで、調査・発表してもらいます。</p> <p>授業スケジュール予定は以下の通りです。 第1回 ガイダンス、第2～5回 『万葉集』概説、調査方法解説、担当決定、第6～14回 発表、第15回 前期まとめ 第16～29回 発表、第30回 後期まとめ</p>
----------	---

準備学習	多くの予備知識を要求することはありません。他の人の発表も重要な学びの場であり、授業そのものへ貪欲に取り組み、復習を重視してください。
履修上の留意点	現代にも生きる五七五七七の形式が生み出す世界をまずは楽しんでください。演習は学生主体ですから、遅刻・欠席は極力慎むこと。
成績評価の方法	発表内容と討議への参加(80%)、提出物(20%)。
教科書/テキスト	井手至・毛利正守『新校注 萬葉集』(和泉書院 2008)
参考書	必要に応じて、授業中に指示します。

履修コード	018301
科目名	国語国文学演習I
担当者名	松井 健児

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 平安時代物語の研究を自立的に展開できる基礎的な方法および意識を養う。具体的には、『源氏物語』を対象とし、その物語内容を理解するのみではなく、その内容を導き出す、古代物語の方法や構造をとらえることに主眼を置く。 (到達目標) 『源氏物語』 「初音」「胡蝶」以降の巻を直接の対象として、巻の前後へと派生し展開していく諸問題を、受講者による研究報告形式によって考察する。本文を読み込み、同時に、さまざまな注釈の読解や語彙調査を行うことによって、たんなる感情移入や印象批評に止まることなく、『源氏物語』の全体像を視野に入れたうえでの分析的な研究を展開できる技術を習得する。
---------------------	--

授業スケジュール	第1～2回 『源氏物語』概説・参考文献紹介 第3～4回 基礎演習・発展演習の方法 第5～6回 『源氏物語』基礎的研究 第7～8回 当該巻全体報告 第9～10回 担当範囲分担報告 第11～18回 演習発表 第19～20回 レポート説明 第21～28回 演習発表 第29～30回 レポート発表
----------	--

準備学習	・演習発表者は、担当範囲の基礎資料・発展資料を作成し、定められた期日に提出し、配布する。 ・基礎資料は諸注釈一覧、発展資料は語彙調査を中心として、定められた様式に従って作成する。 ・司会担当者・代表質問担当者は、事前に配布された基礎資料を熟読して、意見・感想・質問を準備する。 ・出来る限り『源氏物語』の全体を読み込んだうえで、梗概を知り、登場人物についての理解を深めたうえで、毎回の演習に臨んでもらいたい。
------	---

履修上の留意点	演習科目は学生相互の協力によって成り立つ。おのおのの発表にさいして提供しあう情報量と質が、この科目の成否を決定することに留意してほしい。
---------	--

成績評価の方法	演習発表資料の内容30%、口頭発表の内容20%、レポート30%、平常点20%とする。
---------	--

教科書/テキスト	石田穰二・清水好子校注、新潮日本古典集成『源氏物語 四』新潮社、価格3,360円、ISBN 978-4106203237
----------	--

参考書	参考書は多数になるので授業時に紹介する。
-----	----------------------

履修コード	018401
科目名	国語国文学演習I
担当者名	湯浅 幸代

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	平安時代の宮廷社会を生きる人々の生活・文化を理解した上で、本文のことは、表現に注目し、当時の日記における文学性について考える。具体的には、『紫式部日記』をとり上げるが、『源氏物語』作者の日記としても留意し、物語との往還的な考察の力を養う。
---------------------	---

授業スケジュール	『紫式部日記』を冒頭より読む。受講者に本文を割り振り、毎回発表してもらう。発表者は、本文全体を読み込むと同時に、語句について調べ、資料を作成し、その段における考察を述べる。この演習発表をもとに、互いに意見を出し合う形で講義を進める。 (1～2) 『紫式部日記』概説・参考文献紹介、(3～4) 演習基礎訓練、(5～14) 演習発表、(15) 総括、(16～25) 演習発表、(26) 総括、(27～28) レポート説明・参考文献紹介、(29～30) レポート討論 *上記の間に関連する展示があれば学外に行く予定。
----------	---

準備学習	山本淳子『源氏物語の時代- 一条天皇と后たちのものがたり』(朝日選書 820)を読んでおくのが望ましい。
------	--

履修上の留意点	演習は発表と意見交換が基本となるため、各自の主體的な姿勢が求められる。
---------	-------------------------------------

成績評価の方法	(1) 発表内容 (2) レポート (3) 出席 (4) 討論時における意見を総合して評価する。
---------	--

教科書/テキスト	小谷野純一 訳・注『紫式部日記』(笠間文庫) 1700円(税別)
----------	----------------------------------

参考書	参考書は授業時に紹介する。
-----	---------------

履修コード	020201
科目名	国語国文学演習II
担当者名	岡田 豊

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>テキスト読解を愚直に実践する。関連資料を調べ、分析を行い、レジュメ（発表概要）をまとめ、発表（プレゼンテーション）を行い、議論を行うプロセスを通して、研究的視座に立って文学テキストにアプローチする方法をさらに深く学ぶ。同時に、テキスト間の関連や、同時代の状況との関連性を探る広い視野からの考察を実践する。その分、基礎演習より難易度が上がる。</p> <p>また、卒業論文の作成に向けた準備的意味合いを持った授業と考えたい。日本近現代文学を研究対象とした卒業論文作成に不可欠な専門的ツールの習得とその実践的な運用の仕方も指導するので、できれば、そのような具体的な目標を持った人の受講が望ましい。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>昭和30年代以降の小説を研究対象とする。</p> <p>履修者が確定する第1回目の授業時に、発表方法、発表回数、担当チーム、年間スケジュール等を決める。基本的には、数人の発表者が自分たちが決めた作品について発表を行い、全員でその作品についてディスカッションを重ねる。夏期課題によって、記述する力を鍛える。夏期課題は2題あり、演習Iよりも増える。これ以外に年度末にレポートや、卒論準備課題の提出を義務づけている。</p>
----------	--

【参考】2011年度研究作品（今年度扱うとは限らない）

三島由紀夫『音楽』  
 村上龍『限りなく透明に近いブルー』  
 山田詠美『風葬の教室』  
 村上春樹『眠り』  
 小川洋子『妊娠カレンダー』  
 多和田葉子『ベルソナ』  
 桐野夏生『月下の楽園』  
 梨木香歩『西の魔女が死んだ』  
 川上弘美『消える』  
 山本文緒『恋愛中毒』  
 石田衣良『うつくしい子ども』

準備学習	Yes studyに受講者登録を行うこと。
------	-----------------------

履修上の留意点	<p>受講生は演習という授業形式を自覚し、主体的に発表を行い、積極的にディスカッションに参加するよう努めてほしい。報告担当者以外からの新たな問題提起や、見落とされた問題点の指摘を活発に行ってほしい。発言する人が毎回同じ人とか、教員のコメントを待ちわびるというような受け身の態度はいっさい認めていないので、参加した以上は精一杯頑張ってもらいたい。また、学生自身の作業を重視しているので、提出物が多いのもこの授業の特徴である。課題提出ができない人は、受講を控えてほしい。</p>
---------	---

成績評価の方法	<p>発表内容と出席点をメインに、授業への参加度（ディスカッションでの発言等）を加味し評価する。発表（プレゼン）と討論に力を入れるとともに、夏期課題レポートや年度末レポート、卒論準備課題によって記述する力を鍛える。夏期課題ではある条件に満たしていない場合には、クリアするまで何度も書き直しをしてもらっている。</p>
---------	--

教科書／テキスト	授業時に指示する。基本的には文庫本がテキストになる。
----------	----------------------------

参考書	
-----	--



履修コード	020401
科目名	国語国文学演習II
担当者名	勝原 晴希
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 履修者個々人が自ら選んだ詩人・歌人について、なんらかのテーマを設定して調査・考察した内容を報告し、履修者全員で質疑応答を行う。 (到達目標) 近現代の詩歌について学ぶとともに、毎回の研究報告と討論を通して、詩人・歌人についての理解を深め、調査する力、考察し発表する力、質疑応答する力を深める。
授業スケジュール	近現代(明治～平成)の詩歌を読む。対象とする詩人・歌人・俳人は参加者の希望によるが、担当者の報告と参加者全員による討論によって進めていく。各人の発表スケジュールは、四月に決定する。 これまでに演習II履修者が採りあげた詩人の例を、以下にあげておく。 谷川俊太郎・三好達治・新川和江・宮澤賢治・萩原朔太郎・高村光太郎・金子みすゞ・小野十三郎・若山牧水・中原中也・中野重治・寺山修司・立原道造・西脇順三郎・野口雨情・西條八十・大木惇夫・石垣りん・山村暮鳥・まどみちお・工藤直子・鮎川信夫・田村隆一・清水哲男・荒川洋治・伊藤比呂美
準備学習	担当者の発表資料(レジュメ)は、発表の一週間前に提出されるので、他の履修者もあらかじめ熟読し、質問事項や自分の考えを用意しておくこと。
履修上の留意点	演習は個人プレーではなく、全員による共同作業である。発表者、司会者、そして参加者それぞれが、自分の意見を述べ、人の意見に耳を傾け、ひとつの作品について全員で読みを深めるという自覚をもって臨んでもらいたい。
成績評価の方法	発表報告の内容60%、平常点20%、レポート20%とする。なお欠席回数に制限があるので、注意すること。
教科書/テキスト	プリント配布。
参考書	授業時に指示する。

履修コード	020551
科目名	国語国文学演習II
担当者名	川島 淳史
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	近代文学の調査・研究発表・討議を通して、さまざまな作品にふれ、併せて研究の方法と鑑賞の仕方をも身につける。
授業スケジュール	明治・大正・昭和初期の小説を読む。対象とする作家・作品は参加者の希望に添うように配慮するが、演習で扱うのに適しないと判断した場合には、こちらで作品を指定する場合がある。以下、現時点で予定している作家を列挙しておく。 森鷗外・泉鏡花・国木田独步・夏目漱石・永井荷風・谷崎潤一郎・佐藤春夫・志賀直哉・芥川龍之介・宮沢賢治・横光利一・川端康成・太宰治
準備学習	4月からすぐに研究発表をしてもらうことになるので、参加予定者は予め準備万端ととのえておくこと。前年度に引き続き川島の演習を履修する予定の学生は、すでに研究対象として希望した作品のレジュメ・発表原稿を作成しておいてもらいたい。
履修上の留意点	発表を担当する日は休まないこと。前の回までにレジュメを用意し、配布しておくこと。参加者は、必ず作品を読んでおき、テキストと配布されていたレジュメを持参すること。ディスカッションではマナーを守って、積極的に発言することを望む。
成績評価の方法	発表の内容、出席状況、討論での発言、追跡調査・レポートなど総合的に評価する。出席していても、作品を読んでこなかったり、私語・居眠りをしている者は単位を認定しない場合がある。
教科書/テキスト	4月に演習希望の作品を確認し、扱う作品を決定する。文庫本で入手できるものは各自購入し、おいてもらう。入手困難なものは、こちらでプリントを配布する。
参考書	適宜、授業時に指示する。

履修コード	020001
科目名	国語国文学演習II
担当者名	近衛 典子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	前期は『百人一首改観抄』を一人一首ずつ担当、基本的な注釈の方法を学びます。的確な訳を付し和歌注釈の方法を知るところを到達目標とします。後期は浮世草子という江戸時代における現代風俗小説を題材として、近世小説を読む際に必要な事項・語彙の調査方法を身に付け、また西鶴作品の面白さを理解します。当該作品は笑話でもあるので、作品を正しく読解した上で、前期上方のほのかな笑いを味読することを到達目標とします。
---------------------	--

授業スケジュール	前期は『百人一首改観抄』を一人一首選び、指示した資料を必ず使用して、発表します。後期に教材とする『西鶴名残の友』は井原西鶴の遺稿集で、西鶴自身の交友が反映された作品です。各自が担当する章段について、登場人物や俳壇の状況、作品の舞台等の地理的事項、典拠となった作品、語彙・事項など、作品を理解する上で必要な点を調査し、さらにその作品のテーマについて考察します。 (1~2) ガイダンス (3~15) 『百人一首改観抄』発表 (16~17) ガイダンス (18~30) 『西鶴名残の友』発表
----------	--

準備学習	自分の担当部分はあらかじめ、相当の時間を割いて調査・研究を進めること。資料の作成にも時間がかかるので、余裕をもって取り組むことが重要です。
------	---

履修上の留意点	単に作品の文脈を追うだけではなく、作品世界の背後にある文化的慣習、法律体系、語彙を支える典拠など、幅広い関心を持って調査を進めて下さい。なお、欠席の多い場合は評価の対象としません。
---------	--

成績評価の方法	口頭発表 (60%)、質疑応答への参加の態度 (30%)、レポート (10%) によって総合的に評価します。
---------	--

教科書/テキスト	プリントを配付します。
----------	-------------

参考書	授業中に指示します。
-----	------------

履修コード	019801
科目名	国語国文学演習II
担当者名	櫻井 陽子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	『平家物語』は鎌倉時代に成立したと考えられているが、作者・成立年代のみならず原態もすべて不明であり、その解明に向けて研究が進んできたと言っても過言ではない。 『平家物語』の作品世界を知り、内容を精読し味わうことと、研究上の問題がどのように関わっているのか、具体的な問題に触れつつ考えていく。
---------------------	--

授業スケジュール	『平家物語』の登場人物、事件、事象、事柄などから関心をもつテーマをとりあげ、研究上の諸問題についてまとめ、その上で自分なりの問題点を設定し、調査し、発表する。 全体を追ってもよいし、部分に絞ってもよい。但し、絞る場合でも、必ず全体を見通した上で発表となるように。 寛一本を中心とし、精読する中で生み出される疑問を出発点とすること。その際、なるべく他種の異本も視野に入れること。 1~3 『平家物語』の説明 4~ 発表
----------	--

準備学習	4月までに： 1) 『平家物語』の全体の内容を把握しておく。 2) 作品の中で、自分の関心・興味を惹くものや、疑問に感じたことを具体的に取り出しておく。 演習発表者： 担当部分の朗読の練習・発表内容の調査・資料作りなど。 発表者以外： 前週に配布されたプリントを読んで、質問事項を複数考えておく。
------	---

履修上の留意点	問題点は書誌学・国語学・芸能・和歌・説話・音楽・宗教他、多方面にわたり、また、歴史との関わりにも注意を向ける必要がある。学生自身が自分なりの関心と問題意識を掘り下げる機会となることを願う。 発表の前週に資料を配っておくこと。 授業中の討論に積極的に参加し、必ず一回は発言すること。
---------	--

成績評価の方法	口頭発表、レポート、出席、質疑への参加の様子を踏まえて総合的に判断する。
---------	--------------------------------------

教科書/テキスト	授業中に適宜指示する。
----------	-------------

参考書	授業中に適宜指示する。
-----	-------------

履修コード	020301
科目名	国語国文学演習Ⅱ
担当者名	高田 知波

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	年間テーマは、「近代100年の小説を読む」。明治前期から1960年代末頃までを対象範囲とする。森鷗外、樋口一葉、泉鏡花、島崎藤村、夏目漱石、志賀直哉、芥川龍之介、谷崎潤一郎、川端康成、梶井基次郎、太宰治、岡本かの子、三島由紀夫、遠藤周作、大江健三郎等々、近代100年間の代表的作家たちの代表的作品(小説に限定)を読んでいく。各作品を表現と構造に即して精読することと、100年の文学的流れを体感することを目指す演習である。
---------------------	--

授業スケジュール	(1) ガイダンス、履修者確定 (2) 年間スケジュール確定(演習で取り上げる作品の確定と発表分担の決定。作品は学生の希望を重視して決定する)、(3) 1作品2週間のペース(1週目は発表と質疑、2週目はディスカッション)で演習を実施する。
----------	---

準備学習	-
------	---

履修上の留意点	毎時間、必ずテキストを読んで出席することが最低限のルールである。自分が発表を分担しない作品についても、積極的に発言する姿勢を全員に強く求めたい。
---------	--

成績評価の方法	平常点と年度末レポートの採点結果とを総合して成績評価を出す。
---------	--------------------------------

教科書/テキスト	取り上げる作品ごとに発表チームがテキストを指定するが、入手の容易な文庫本を原則とする。
----------	---

参考書	教場で指示する。
-----	----------

履修コード	019901
科目名	国語国文学演習Ⅱ
担当者名	田中 徳定

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 院政期に成立した代表的説話集である『今昔物語集』を読解しながら、説話の伝承や改変の様相について考える。同時に、説話が描き出す時代や社会のありようを探究し、さらには人々の思想・信仰について考察する。 (到達目標)
---------------------	--

到達目標 (ねらい)	この演習の到達目標は、演習Ⅰで習得した研究方法を踏まえ、卒業論文作成につなげるための、より発展的な研究方法を習得することである。すなわち、自ら問題点を設定する視点、より広範な関連資料を調査する力、考察力を習得することを目標とする。
------------	---

授業スケジュール	『今昔物語集』の説話について、鬼・天狗・陰陽道・狐、また笑話等、興味を持ったテーマを設定して、当時の人々の生活や信仰のありようを調査、研究し、その様相を探っていく。
----------	--

準備学習	授業において発表者が担当する説話を事前によく読んでおくこと。
------	--------------------------------

履修上の留意点	専門科目の演習授業であるため、出席を基本とする。また、授業において、必ず口頭発表を行なうとともに、ほかの演習生の発表に対しては、質問するなど、積極的に参加すること。
---------	--

成績評価の方法	平常点(授業中に行なう口頭発表・発言等)60%、レポート40%。
---------	----------------------------------

教科書/テキスト	今野達編『新注 今昔物語集選』(大修館書店)1,260円
----------	------------------------------

参考書	授業中に随時指示する。
-----	-------------

その他	受講生に発表担当する説話を割り当てる。受講生は、担当する説話について調査・考察を行ない、その結果をレジュメに作成し、授業中に口頭発表を行なう。
-----	---

履修コード	019301
科目名	国語国文学演習II
担当者名	土井 光祐

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	○文語規範の原点にある平安時代語が徐々に変質して近代語化する様相を、鎌倉時代成立・書写資料に基づき観察する。 ○特定の文献を国語史的観点から具体的に考察することによって、国語史の基礎知識、研究方法、文献学的な処理の方法を身に付ける。
---------------------	---

授業スケジュール	中世は、現代語に通じる日本語の大転換期と言われ、近代語の芽生えの時代とされている。本演習は、鎌倉時代に活躍したカリスマ的学僧である明恵上人の言行録である「脚癩忘記(きやくはいもうき)」鎌倉時代(1235年)写本の写真版を言語資料として使い、国語学的に考察する。 「脚癩忘記」は、明恵上人の没後三年を経て、弟子が明恵上人存命中に発言した言葉をそのまま文字化した可能性を有する希有の口語資料として知られ、漢字片仮名交り文で記されている。文献学的手続きを厳密に適用して、古代語から近代語への過渡期にあたる鎌倉時代の言語の実態を表記史、音韻史(和語、漢字音)、文法史、語彙史、文体史の諸点から考察していく。 発表は原則として前期1回、後期1回の計2回を予定している。前期は文献学的手続きの基礎を学ぶことを目的とする。後期は発表者が任意の言語事象を選び、自由な視点から調査する。 【第1回～第3回】教員より資料の概説と調査方法の説明。 【第4回～】順番にレポーターを決めて、レジュメを作成し、発表する。
----------	--

準備学習	○「国語史」の基礎知識を確認しながら分析することになるので、「基礎国語学」で使用した教科書、「国語史」「国語学史」で学んだことを再確認しておくこと。 ○多くの参考文献を参照することになるので、演習Iで学んだ文献探索の方法を身につけておくこと。
------	--

履修上の留意点	
成績評価の方法	発表内容、質疑への参加態度、レポート内容の総合による。
教科書/テキスト	プリント配布。

参考書	○高山寺典籍文書総合調査団編『明恵上人資料第二』(東京大学出版会) ○田中久夫他『鎌倉旧仏教』(日本思想大系)(岩波書店) ○高橋秀栄『大乗仏典 中国・日本篇第20巻 栄西・明恵』(中央公論社) ※その他授業中に指示する。
-----	--

その他	eラーニングシステムYeStudyを適宜利用する。
-----	---------------------------

履修コード	019401
科目名	国語国文学演習II
担当者名	中嶋 真也

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	『万葉集』の理解を深めることを根本のねらいとします。 前期は一つの共通テーマを設定し、そのテーマに沿った歌の発表をし、思考方法や知識などの共有、ならびに討議の水準を高めることを目標とします。後期は受講者各自が、歌人もしくは『万葉集』の享受を具体的にたどれる作品を定めて、その歌人の詠歌もしくは享受された作品について発表し、『万葉集』の理解をさまざまな観点から深めることを目標とします。
---------------------	---

授業スケジュール	前期は、受講者全員で一つのテーマ(恋、七夕、旅など)を研究していきます。 後期の歌人研究は、『万葉集』の代表的な歌人(額田王、柿本人麻呂、山上憶良、大伴坂上郎女、大伴家持など)を受講者各自1人取り上げ、その詠歌に関して調査発表してもらいます。 後期の享受研究は、『後撰和歌集』、『古今和歌六帖』、『新古今和歌集』といった歌集や、『奥義抄』、『和歌童蒙抄』といった歌学書、仙覚『万葉集註釈』、真淵『万葉考』といった『万葉集』そのものの注釈書などが主な対象となります。 授業スケジュール予定は以下の通りです。 第1回 ガイダンス、第2～5回 『万葉集』概説、調査方法解説、担当決定、第6～14回 テーマ研究発表、第15回 前期まとめ・後期ガイダンス、第16～29回 歌人・享受研究発表、第30回 後期まとめ 随時、博物館など文化施設で日本古代文化への見聞を深めていくことも予定しています。
----------	---

準備学習	他の人の発表からも多くのことを吸収し、復習を充実させてください。
履修上の留意点	地道な努力を怠らず、卒業論文を視野に入れて意欲を持って取り組んでください。 演習の主体は、学生の側にあります。遅刻・欠席は極力慎むこと。

成績評価の方法	発表内容と討議への参加(80%)、提出物(20%)。
教科書/テキスト	井手至・毛利正守『新校注 萬葉集』(和泉書院 2008)
参考書	必要に応じて、授業中に指示します。

履修コード	019501
科目名	国語国文学演習II
担当者名	松井 健児

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 王朝貴族の美意識や生活様式を探り、『源氏物語』という作品への文芸化の方法を考察する。古代物語の構造的な把握を踏まえ、さらにはそこからまなほ、逸脱してゆこうとする豊饒な感覚世界を、和文表現の達成という側面から読み解いてゆく。 (到達目標) 『源氏物語』「葵」「賢木」の巻を直接の対象として、巻の前へ後へと派生し展開していく諸問題を、受講者による研究報告形式によって考察する。本文を読み込み、同時に、さまざまな注釈の読解や語彙調査を行うことによって、『源氏物語』の全体像を視野に入れたうえでの分析的な研究を行ない、それらによって得られた知見を論理的に構成し、発表できる能力を獲得する。
---------------------	--

授業スケジュール	第1～2回 『源氏物語』概説・参考文献紹介 第3～4回 基礎演習・発展演習の方法 第5～6回 『源氏物語』基礎的研究 第7～8回 当該巻全体報告 第9～10回 担当範囲分担報告 第11～18回 演習発表 第19～20回 レポート説明 第21～28回 演習発表 第29～30回 レポート発表
----------	--

準備学習	・演習発表者は、担当範囲の基礎資料・発展資料を作成し、定められた期日に提出し、配布する。 ・基礎資料は諸注釈一覧、発展資料は語彙調査を中心として、定められた様式に従って作成する。 ・司会担当者・代表質問担当者は、事前に配布された基礎資料を熟読して、意見・感想・質問を準備する。 ・出来る限り『源氏物語』の全体を読み込んだうえで、梗概を知り、登場人物についての理解を深めたうえで、毎回の演習に臨んでほしい。
------	---

履修上の留意点	演習科目は学生相互の協力によって成り立つ。おのおのの発表にさいして提供しあう情報量と質が、この科目の成否を決定することに留意してほしい。
---------	--

成績評価の方法	演習発表資料の内容30%、口頭発表の内容20%、レポート30%、平常点20%とする。
---------	--

教科書/テキスト	石田穰二・清水好子校注、新潮日本古典集成『源氏物語 二』新潮社、価格3,360円、ISBN 978-4106203138
----------	--

参考書	参考書は多数になるので授業時に紹介する。
-----	----------------------

履修コード	019601
科目名	国語国文学演習II
担当者名	湯浅 幸代

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	平安後期に成立した『狭衣物語』を巻一から読む。演習では、『源氏物語』を中心とした先行文学の影響、及び時代背景(後期撰閲時代)に留意しながら、物語独自の文章、及びその構造を明らかにしていくことを目標とする。
---------------------	--

授業スケジュール	最初に平安後期物語の特質、また『狭衣物語』成立の背景、及び多様な本文を生み出した享受の様相について講義した後、受講者に本文を割り振り、毎回発表してもらう。発表者は、注釈や参考文献をもとに資料を作成し、担当範囲の内容について考察を述べる。この演習発表をもとに、互いに意見を出し合う形で講義を進める。(1～2)『狭衣物語』概説・参考文献紹介、(3～4)演習基礎訓練、(5～14)演習発表、(15)総括、(16～25)演習発表、(26)総括、(27～28)レポート説明・参考文献紹介、(29～30)レポート討論 *上記の間に関連する展示があれば学外に見に行く予定。
----------	--

準備学習	どのテキストでもよいので解説を読み、『狭衣物語』の登場人物、内容について、事前に把握しておくこと。
------	---

履修上の留意点	演習は発表と意見交換が基本となるため、各自の主體的な姿勢が求められる。
---------	-------------------------------------

成績評価の方法	(1)発表内容 (2)レポート (3)出席 (4)討論時における意見を総合して評価する。
---------	--

教科書/テキスト	久下晴康・堀口悟編『校注 狭衣物語』(新典社)1700円
----------	------------------------------

参考書	参考書は授業時に紹介する。
-----	---------------

履修コード	021401
科目名	国語国文学演習III
担当者名	岡田 豊

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	日本の近現代文学を対象とした卒業論文作成のための指導、助言を行う演習である。「学士」の研究論文の指導であり、通常の演習形式の授業の指導とは違うという意識を持って臨んでもらいたい。演習Ⅰ・Ⅱを受けて、問題を発見し、根拠に基づいて見解を出してさら探究を続ける知的実践を核とする演習と認識してもらいたい。 提出に向かって、計画的で着実な実務を遂行する。他者の質問や意見に謙虚に耳を傾け、それを貪欲に吸収して自己の問題解決に活かす姿勢を身につけてもらいたい。「学士論文10のチェックポイント」を配布し、そのポイントをいかに多く盛り込めるかによって、論文の完成度が決まる。多くのポイントを盛り込めるようにすることが到達目標である。
---------------------	---

授業スケジュール	卒業論文論題提出前に個人指導を行い、研究対象を決定していく。また、授業においては前後期を通じて順次、各自が卒業論文に関連する作品について個人で口頭発表を行い、教員も含めて出席者全員による討論によって検討を進めていく。夏季休暇中に、卒業論文のベースとなるレポートを、ワープロ書式で10ページ以上(400字詰原稿用紙30枚以上)で作成することを義務付けていく。後期は添削しながら完成形に近付けていく。後期においても、各自の卒業論文執筆の進捗状況に応じて随時、個人指導を行う。
----------	---

準備学習	研究のテーマを素描したレポートを準備しておくこと(A4サイズ40字×30行設定の文書を基本スタイルとする)。「何が」「どう」おもしろいのかを、自己満足にならぬようにまとめる。Yestudyに受講者登録を行うこと。
------	--

履修上の留意点	発表や個人指導などにおいて意欲的かつ主体的に取り組む姿勢を見せて欲しい。 また、卒業論文は指導教員の指導のもとで作成するものであるから、授業や個人指導に積極的に出席しなければならない。計画を立てずに、だだだ進めるのではなく、より良いもの、より納得のいくものを各自が目指してほしい。
---------	---

成績評価の方法	発表内容、発表後に提出するレポートの内容、卒業論文執筆のための計画と姿勢ならびに出席状況等を総合的に評価する。
---------	---

教科書/テキスト	必要に応じて、授業時に指示する。
----------	------------------

参考書	必要に応じて、授業時に指示する。
-----	------------------

履修コード	021601
科目名	国語国文学演習III
担当者名	勝原 晴希

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 履修者個々人が自ら選んだ詩歌作品について、調査・考察を報告し、履修者全員で質疑応答を行う。あわせて卒業論文作成に向けての指導を行なう。 (到達目標) 近現代の詩歌について学ぶとともに、毎回の研究報告と討論を通して、詩作品についての理解を深め、調査する力、考察し発表する力、質疑応答する力を深める。あわせて卒業論文作成の力を養う。
---------------------	--

授業スケジュール	対象とする詩人・作品は学生の希望(原則として卒業論文に関連するもの)を尊重するが、場合によっては振りあてられることもある。各人の発表スケジュールは、四月に決定する。
----------	--

準備学習	担当者の発表資料(レジュメ)は、発表の一週間前に提出されるので、他の履修者もあらかじめ熟読し、質問事項や自分の考えを用意しておくこと。
------	---

履修上の留意点	演習は個人プレーではなく、全員による共同作業である。発表者、司会者、そして参加者それぞれが、自分の意見を述べ、人の意見に耳を傾け、ひとつの作品について全員で読みを深めるという自覚をもって臨んでもらいたい。
---------	--

成績評価の方法	発表報告の内容60%、平常点20%、レポート20%とする。なお欠席回数に制限があるので、注意すること。
---------	---

教科書/テキスト	プリント配布。
----------	---------

参考書	授業時に指示する。
-----	-----------

履修コード	021201
科目名	国語国文学演習III
担当者名	近衛 典子
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	卒業論文を作成するための基本的な力を養うことを目的とします。各自の卒業論文のテーマに合わせて取り上げる作品を決定、必要な資料の検索方法、論文の書き方などを指導します。
授業スケジュール	各自の研究テーマに従い、調査・研究方法、論文作成方法などへの助言を行います。夏休み前には中間発表会も行います。
準備学習	作品の成立過程、作家の略歴等、卒論に取り上げる作品について十分な基礎知識を得ておくこと。
履修上の留意点	卒論執筆においては、主体的な取り組みが何よりも重要です。授業以外でも、メール等も活用し、指導を受けて下さい。
成績評価の方法	卒業論文作成に向けての研究態度 (60%)、授業時の参加態度 (30%)、論文の達成度 (10%)などを総合的に判断します。
教科書/テキスト	
参考書	

履修コード	021001
科目名	国語国文学演習III
担当者名	櫻井 陽子
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	卒業論文作成の指導を行う。
授業スケジュール	学生自身の問題意識の先鋭化と具体化を助け、研究方法と実際の論文作成にあたっての助言を行う。 1～3 卒業論文の書き方・諸注意 4～ 学生自身の発表と討議 春休み・夏休みにそれぞれレポートを作成し、前期第一回・後期第一回の授業時に提出すること。
準備学習	4月までに、3年次の演習の最後に課したレポートを完成させる。第一回めの授業時に回収します。
履修上の留意点	学生自身の自主的な活動に負う。
成績評価の方法	卒業論文の内容と完成に至る過程。
教科書/テキスト	
参考書	授業時に適宜指示する。

履修コード	021501
科目名	国語国文学演習III
担当者名	高田 知波
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	各自の小説の読みを深めることと、卒業論文制作のために生きる相互学習を行うことを二本柱にした演習である。両者が有機的に結びつくことによって成果のあがることを目指したい。
授業スケジュール	(1) ガイダンス (2) 発表分担、年間スケジュールの確定 (作品は卒論テーマを見据えつつ発表者自身が決定する) (3) 以下、1作品1週のペースで演習を実施し、全員の卒論提出をめざす。
準備学習	-
履修上の留意点	
成績評価の方法	平常点と年度末リポートの採点結果とを総合して成績評価を出す。
教科書/テキスト	
参考書	

履修コード	021101
科目名	国語国文学演習III
担当者名	田中 徳定

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 卒業論文のテーマの設定、資料調査の方法、論理的な論文構成等、卒業論文作成のための指導を行う。 (到達目標) この演習の到達目標は、卒業論文を作成することである。
授業スケジュール	年度始めに「卒業論文研究計画書」を提出してもらう。その研究計画に沿いながら、授業中に口頭発表を行なってもらい、その都度、発表内容をまとめたレポートを提出してもらう。また、論文の作成方法について、随時、具体的に指導を行なう。
準備学習	特になし。
履修上の留意点	専門科目の演習授業であるため、出席を基本とする。
成績評価の方法	平常点（授業中に行なう口頭発表・発言等）50%、レポート50%。
教科書／テキスト	
参考書	授業中に随時指示する。

履修コード	020601
科目名	国語国文学演習III
担当者名	土井 光祐

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	卒業論文執筆のための具体的な手続きについて、発表を繰り返して検証していく。
授業スケジュール	以下の手続きを段階的、相互補完的に整理して、発表してもらう。 1、卒論の候補となる仮設的なテーマを設定する。 2、研究史の確認（リスト化して、コピー、ファイリングし、読む）。 3、学問体系の中での研究の意義を確認する。 4、研究対象とする言語資料を設定する。 5、具体的な研究方法を設定する。 以上をその都度文章化し、ある段階からサンプリング調査、ポーリング調査を試験的に行つて、研究の適切性の検証を繰り返していく。1～5はそのまま卒論内の序論となる。
準備学習	卒論のテーマに関する参考文献リストの作成と収集に取りかかしておくこと。
履修上の留意点	1～5の検証を経ずして論題の設定はあり得ない。徹底した調査が不可欠となる。熱意ある取り組みには真摯に応える。
成績評価の方法	各回の発表内容（レジュメ内容）を主とし、総合的に判断する。
教科書／テキスト	
参考書	授業時に随時紹介。
その他	eラーニングシステムYeStudyを適宜利用する。

履修コード	020701
科目名	国語国文学演習III
担当者名	中嶋 真也

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	上代文学で卒業論文を作成する学生を対象に指導を行います。 学部生として学んだことを、卒業論文として結実させることを到達目標とします。
授業スケジュール	卒業論文作成に向け、必要な調査方法や具体的な作業について、指導・助言を行ないます。演習として、前期・後期それぞれ最低1期間の発表を義務とし、9月と11月に文章化した課題を提出してもらいます。個別面談も随時行ないます。 授業スケジュール予定は以下の通りです。 第1回 ガイダンス、第2～14回 発表・面談、第15回 前期まとめ 第16～29回 発表・面談、第30回 後期まとめ 随時、博物館など文化施設での日本古代文化への見聞を深めていくことも予定しています。
準備学習	他の人の発表からも多くを学び、自分自身の研究の精度を高めてください。
履修上の留意点	自分の研究課題を自覚し、卒業論文に結び付くよう発表や課題に取り組んでください。また、他の受講生の発表などからも大きな刺激を得られるよう、集中して授業に参加してください。
成績評価の方法	発表内容と討議への参加（80%）、提出物（20%）。
教科書／テキスト	坂本信幸・毛利正守編『万葉事始』（和泉書院）
参考書	必要に応じて、授業中に指示します。



履修コード	020801
科目名	国語国文学演習III
担当者名	松井 健児

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 平安文学、ことに『源氏物語』を中心とした卒業論文作成のための指導、助言を行う。前半は、『源氏物語』を巻ごとに読解することによって、探究すべき課題を提示する。同時に、卒業論文の実際を読みながら、書式や構成方法などについて概説する。後半は受講生が論文で扱う課題を、個別に深めながら、卒業論文の完成をめざす。 (到達目標) 学術論文としての様式と内容を備えた、卒業論文の完成。平安文学という、古代の大和ことばによって書かれた作品を、古語の豊かさや広がりを感じ、さらには現在においてもなお、生き生きとした魅力を発揮する、古典文学としての価値を発見することによって、国文学科での勉学の総括となる論文を執筆する。
---------------------	--

授業スケジュール	第1～3回 卒業論文テーマの探究 第4～7回 『源氏物語』第一部の読解 第8～11回 『源氏物語』第二部の読解 第12～15回 『源氏物語』第三部の読解 第16～19回 夏期レポート提出、卒業論文具体例の研究 第20～23回 中間発表会第一部 第24～27回 中間発表会第二部 第28～30回 目次・序文提出、報告会
----------	---

準備学習	・『源氏物語』の巻別読解は、演習発表形式で行う。発表者は担当巻を熟読のうえ、発表資料を作成する。また、語彙調査の報告が義務となる。 ・夏期レポート、中間発表資料、文献調査など、定期的にレポートを課すので、年間にわたっての、計画的な学習が必要となる。
------	---

履修上の留意点	演習科目は学生相互の協力によって成り立つ。おのおのの発表にさいして提供しあう情報量と質が、この科目の成否を決定することに留意してほしい。
---------	--

成績評価の方法	演習発表資料の内容30%、口頭発表の内容20%、夏期レポート30%、平常点20%とする。
---------	--

教科書／テキスト	『源氏物語』の本文については、多くの種類があるので、授業時にまとめて紹介する。
----------	---

参考書	参考書は多数になるので、授業時に紹介する。
-----	-----------------------

履修コード	020901
科目名	国語国文学演習III
担当者名	湯浅 幸代

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	平安時代の文学を対象とした卒業論文を作成するにあたっての指導、及び助言。受講者は、4年間の学業の総括となる論文を仕上げるための力を養う。
---------------------	--

授業スケジュール	最初に、平安時代の文学を卒論テーマとするにあたり、必要な参考文献を紹介する。その後、各自、卒論テーマを提出し、卒論関連論文を読む。それらを元に発表を行い、卒論具体例の研究に入る。夏期レポートは、各自のテーマに沿って、論文の一部を執筆する。後期は、それらを元に中間報告として発表する。 (1) 参考文献紹介、(2～3) 卒論テーマの提出・参考文献検索指導、(4～10) 卒論関連発表、(11～15) 卒論具体例の研究、(16～18) 夏期レポート提出と総括、(19～25) 卒論中間発表会、(26～30) 発表会の総括
----------	---

準備学習	とりあげる作品を原文で一通り読んでおくこと。
------	------------------------

履修上の留意点	各自の主体的な姿勢が求められる。
---------	------------------

成績評価の方法	(1) 発表内容 (2) レポート (3) 出席を総合して評価する。
---------	------------------------------------

教科書／テキスト	適宜、プリントを配布する。
----------	---------------

参考書	授業時に指示する。
-----	-----------

履修コード	013701
科目名	国語史
担当者名	山本 真吾

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)</p> <p>古代から近代にかけての日本語の流れを概説する。多様な文献資料の複雑な言語変化のさまを観察してみたい。その際には、言語活動の主体である当時の人々の社会、生活、文化、宗教とのかわりも重視し、観点も文字・表記、音韻、文法、語彙、文体と幅広く取り上げたい。</p> <p>(到達目標)</p> <p>本講義の到達目標については、以下の5点を設定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、国語の歴史的研究の意義について理解する。</li> <li>2、国語史の流れを研究分野(文字・表記、音韻、文法、語彙、文体)ごとに把握する。</li> <li>3、国語史研究の資料となる文献の性格を理解する。</li> <li>4、国語史研究の方法について理解する。</li> <li>5、国語史の知見が現代日本語を研究する上でどのように役立つかについて理解する。</li> </ol>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>【前期】※以下の項目に従って、講義を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、国語史の研究水準と問題点(1回)</li> <li>2、奈良時代の文字・表記、筆記試験(1)(2~4回)</li> <li>3、奈良時代の音韻(5回)</li> <li>4、平安時代の文学表現と言語、筆記試験(2)(6~13回)</li> <li>5、院政期言語の諸問題(14回)</li> <li>6、前期の総括(15回)</li> </ol> <p>【後期】※以下の項目に従って、講義を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、鎌倉時代の日本語、筆記試験(3)(1~3回)</li> <li>2、室町時代の日本語(4~7回)</li> <li>3、江戸時代の日本語8~10回)</li> <li>4、幕末明治期言語の諸問題、筆記試験(4)(11~14回)</li> <li>5、後期の総括(15回)</li> </ol>
----------	--

準備学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年次の国語学関係の授業を踏まえて、国語史の大きな流れを概説します。授業内容を復習しておくこと。</li> <li>・前回に使用したプリントをよく読んで授業に臨むこと。</li> <li>・授業中に紹介した参考文献をよく読んで授業に臨むこと。</li> </ul>
------	--

履修上の留意点	図書館等に所蔵の関連文献を大いに活用してほしい。
成績評価の方法	前期、後期それぞれ各単元の終わりに筆記試験を行う(授業スケジュール参照)。合計4回行い、それぞれ25%の配分として評価を行う。これを総合して6割を単位認定の最低基準とす

教科書/テキスト	用いない。適宜プリントを配布する。(無断欠席の場合、後日プリントを希望しても応じられないので留意されたい)
----------	---

参考書	沖森卓也編著/陳力衛・肥川周二・山本真吾著『日本語史概説』(朝倉書店、2010年)。その他にも講義の中で随時紹介する。
-----	---

履修コード	013301 013302
科目名	国文学史ⅠA (古典) 国文学史Ⅰ (古典)
担当者名	鈴木 裕子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 古典文学史の基礎的な知識を身につけるための授業。上代から近世に至るまでの日本文学史における重要な作品や事項を取り上げて、その時代背景や作品相互の影響関係などについて解説する。また、具体的な作品(原文)の一節を読みながら古典への理解を深める。</p> <p>(到達目標) この講義の到達目標は、まず、日本の古典文学史の大きな流れを把握すること。そして、日本文化を理解するための基礎的な知識を身につけることであるが、単に知識の習得にとどまらず、現代を生きる私たちにとって、文学とはいかなるものかを総合的に考えるための広い視野を養うことをめざす。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>(1) 総説・文学史とは何か (2~4) 上代から近世までの和歌を中心とした日本文学の概要 (5~8) 上代の文学……上代文学の概要、日本の神話 (9~14) 中古の文学……物語文学の発生と展開、日記文学、その他の文学 (15) 前期の総括……上代から中古までの文学史について (16~22) 中世の文学……中世物語文学、説話文学、歴史文学、軍記物語、その他の文学 (23~29) 近世の文学……近世文学の概要、近世小説、古典芸能の流れ、評論 (30) 総括</p>
----------	--

準備学習	事前に配布するプリントやテキストの該当箇所を目を通しておくこと。
------	----------------------------------

履修上の留意点	授業は主として講義形式であるが、コメントや課題の提出を課する。なお、コメントの内容によっては出席点としてカウントしないこともある。
---------	---

成績評価の方法	前期2回、後期2回行うテスト80%、平常点20%で評価する。なお、三分の一以上欠席すると単位修得は認められない。授業中の私語や途中退室、「代返」等には厳しく対処する(平常点を0点とすることもある)。
---------	---

教科書/テキスト	『日本古典文学史』(双文社出版)1,785円 ISBN4-88164-042-9 C3091 その他、プリント教材。
----------	--

参考書	授業中に必要に応じて指示する。
-----	-----------------

履修コード	013401 013402
科目名	国文学史IB (古典) 国文学史I (古典)
担当者名	藪部 幹生

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(1) 授業概要 日本の古典文学史全般にわたって講義するが、単なる知識の習得に終わるのではなく、時代背景や理念、作品の文学史的意義、作品間の関連などについても理解し、考える力を身につけることを目的とする。</p> <p>(2) 到達目標 古典文学史を考えるうえでの問題点を理解したうえで、文学史の再評価をする力を身につけることを目標とする。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>1講座説明。 2時代区分と時代概念およびジャンル意識。 3韻文の文学 (古代歌謡)。 4韻文の文学 (万葉集)。 5韻文の文学 (古今集)。 6韻文の文学 (八代集)。 7韻文の文学 (新古今集)。 8韻文の文学 (十三代集)。 9韻文の文学 (三大集の歌風の違い)。 10韻文の文学 (私撰集)。 11韻文の文学 (私家集)。 12韻文の文学 (近世和歌)。 13韻文の文学 (連歌)。 14韻文の文学 (俳諧)。 15韻文の文学 (催馬楽・今様)。 16散文の文学 (歴史文学)。 17散文の文学 (軍記文学)。 18散文の文学 (日記紀行文学)。 19散文の文学 (随筆文学)。 20散文の文学 (伝奇物語)。 21散文の文学 (歌物語)。 22散文の文学 (作り物語)。 23散文の文学 (御伽草子)。 24散文の文学 (近世小説)。 25散文の文学 (説話文学)。 26能・狂言・浄瑠璃。 27課題文学史 (鬼・桜・時鳥・鶯)。 28課題文学史 (やさし・笑い・色・月)。 29教場テスト。 30まとめ。</p>
----------	--

準備学習	時間、最初に基礎事項の確認テストを行うので、最初の時間に配布するサブテキストの必要事項を理解し、頭に入れてくること。
------	--

履修上の留意点	毎時間、最後にその日の講義内容に関する意見文の提出を求めるので、必ず原稿用紙を持参すること。
---------	--

成績評価の方法	確認テスト30点、毎時間の意見文30点、教場テスト40点の割合で評価する (教場テストはテキスト・ノート・辞書・参考書等持込可。確認テストは持ち込み不可)。また、最後の授業時間中に、追・再試験に相当するレポートに関する伝達 (該当者・テーマ・提出期限等) を行うので必ず出席すること。なお、定期試験期間中の試験は行わない。
---------	---

教科書/テキスト	乾安代ほか著『日本古典文学史』双文社出版。
----------	-----------------------

参考書	必要があればそのつど紹介する。
-----	-----------------

履修コード	013501 013502
科目名	国文学史IIA (近現代) 国文学史II (近現代)
担当者名	小林 治
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>明治以降、近代から現代に至るまでの日本文学の流れを概観しつつ、時代との関わりの中で生成される作品の系譜を考える。ひいては文学史の構築を可能ならしめるべく、近代以降の文学の展開と歴史の消長の間に独自の法則性を見つけ出すことをこの授業の到達目標としたい。</p> <p>小説による表現を主軸として文明開化期から昭和の終り(1988)までにおいて、個々の作家ならびにその集団が作り出した文学潮流と変転する歴史の潮流との相剋に焦点をあて、一連の作品生成の流れにどのような法則性が存在するかについて言及していく。その際、基本的な文学史事項の説明だけでなく、できるだけ具体的に個々の作品の本文と照らし合わせて、その表現の様態を把握することが可能になるよう留意して授業を進めたい。</p>
授業スケジュール	<p>第1回：オリエンテーション  第2回：文明開化期の文学について  第3回：過渡期の文学について  第4回：写実小説について  第5回：浪漫主義文学について  第6回：硯友社の文学について  第7回：社会主義思想と文学について  第8回：自然主義文学について  第9回：反自然主義文学について  第10回：耽美派について  第11回：「白樺」派について  第12回：「奇蹟」派について  第13回：「新思潮」派について  第14回：明治作家の成熟について  第15回：ニヒリズムについて  第16回：私小説について  第17回：労働文学について  第18回：大衆文学の確立について  第19回：プロレタリア文学について  第20回：新感覚派について  第21回：新興芸術派について  第22回：転向と文芸復興ならびに日本浪漫派について  第23回：戦後文学の出発について  第24回：第一次戦後派と政治について  第25回：第二次戦後派と前衛について  第26回：第三の新人と家庭小説について  第27回：70年安保前後の時代について  第28回：「内向の世代」について  第29回：文学の現在について  第30回：総論的まとめ-文学史の構築について-</p>
準備学習	授業で触れる作品は、できるだけ多くを授業と並行して読むことが望まれる。また、特に詳しく取り上げる作品はあらかじめ知らせるので、事前に読んでおくこと。
履修上の留意点	授業時、毎回出席を取る。他の学生の大きいなる迷惑になるので講義途中の退室は厳禁する。
成績評価の方法	課したレポートの内容(30%)、年度末の筆記試験の成績(30%)、出席などに基づく平常点(40%)とによって、成績評価を算出する。
教科書/テキスト	「現代日本文学史」(笠間書院)1,800円 適宜プリントも配布する。
参考書	授業時に指示する。

履修コード	013601 013602
科目名	国文学史II B (近現代) 国文学史II (近現代)
担当者名	松田 直行

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 明治維新から昭和10年頃までを対象とし、特に近代演劇史に注目して、近代の「ものの見かた」が形成される歴史的過程を明らかにする。テキスト論ではなくパフォーマンス論の立場から考える、「もう一つの近代文学史」。 (到達目標) 近代における「文学」の概念は、紙に印刷された活字を読む、テキスト読解行為を特権的化し、パフォーマンスの観客として演者の演技を見る、声を聴くという経験を切り離すことによって成立した。一方で近代は、レコード、ラジオ、映画などのメディアによって、新たな「物語」のあり方が生まれた時代でもある。こうした観点から、日本近代文学史を演劇・映画・音楽などの表現とともに総体としての芸能文化史の中に位置づけ、「メディアの中の文学」を考えることを目標とする。
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 「近代」とは何か</li> <li>3. メディアと文学／テキストとパフォーマンス</li> <li>4. 前近代の文学世界－鶴屋南北『盟三五大切』</li> <li>5. 歌舞伎開化－散切狂言と活歴</li> <li>6. 河竹黙阿弥と演劇改良</li> <li>7. 演劇改良会と天覧劇</li> <li>8. 自由民権運動と壮士劇</li> <li>9. 川上音二郎の翻案劇</li> <li>10. 硯友社文学と新派劇『婦系図』</li> <li>11. 複製芸術とメディア－レコードと映画</li> <li>12. 大衆小説から映画へ－泉鏡花『瀧の白糸』</li> <li>13. 写実とリアリズム－演劇におけるリアルとは何か</li> <li>14. 西洋近代演劇／イブセン『人形の家』</li> <li>15. リアリズムと「新劇」</li> <li>16. 帝国劇場と女優の誕生</li> <li>17. 帝劇・三越・宝塚－近代の視線</li> <li>18. 近代浅草の芸能空間－浅草オペラと活動写真</li> <li>19. エノケンへの「カジノ・フォーリー」</li> <li>20. 川端康成『浅草紅団』を読む－震災後の浅草</li> <li>21. エノケンとモダニズム映画</li> <li>22. モダニズムの風俗と前衛芸術</li> <li>23. ブルーノ・タウト『日本文化私観』を読む</li> <li>24. モダニズム映画『マダムと女房』</li> <li>25. 文芸協会と自由劇場</li> <li>26. 大正戯曲時代</li> <li>27. 岸田国士『紙風船』を読む</li> <li>28. 大衆消費社会とプロレタリア</li> <li>29. 築地小劇場</li> <li>30. まとめ</li> </ol>
----------	--

準備学習	高校で履修する程度の基本的な日本史と文学史の知識はあるものとして話をすすめるので、自信がない場合は、高校の日本史の教科書や、国語の授業で使った「国語便覧」などで、近代の日本史、文学史の概要を復習しておくこと。
------	--

履修上の留意点	授業はPC教場ではない一般教場で行うが、授業内容に関連した「選択課題」をYeStudy (e-Learningシステム) で出題するので、各自PCでコース登録をする必要がある。年に3回ある課題提出を1度でも提出できなければ、その時点で単位取得はできなくなる。YeStudyのコース登録に必要となる「登録キー」は、授業で伝達する。授業で戯曲を講読する際は、グループを編成して役を振りあて、台詞をそれぞれ音読していただく。
---------	---

成績評価の方法	ほぼ毎回の授業で課す提出物による評価が20%、前期末と学年末の定期試験期間中に実施する筆記試験の合計点による評価が40%、YeStudyを使用した選択課題提出による評価が40%として配点する。
---------	--

教科書／テキスト	指定しない。必要な資料等はプリントして配布する。
----------	--------------------------

参考書	
-----	--

その他	出席が2/3に満たない場合、また選択課題の提出が定められた基準に達しない場合は、単位を取得できない。遅刻の場合は出席回数として認めないので注意すること。
-----	--

履修コード	015301
科目名	国文学特講I
担当者名	兼岡 理恵

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>風土記逸文をよむ、風土記逸文からよむ</p> <p>風土記は、今から約1300年前に編纂された日本最古の地誌である。現在まとまった形で残るのは出雲・播磨・常陸・豊後・肥前の5カ国のみだが、その一方、他文献に引用される形で断片的に伝わった「風土記逸文」は、50カ国近くのものがある。そこには地名起源説話を中心に、土地の風習・物産など多様な記事が見られる。また記紀に登場する神々・天皇を主体として、記紀には全く伝えられない説話も数多い。</p> <p>さらに逸文は、引用される書物の性格から、どのような観点から「風土記」に興味を持たれ、利用されていたのかを探り得る、風土記受容という視点からも見逃せない史料である。</p> <p>本講義では風土記逸文を時代順にみてゆく中で、記紀と風土記説話の相違、地名に対する関心の史的変遷なども辿りながら、風土記逸文の面白さを探ってゆきたい。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>風土記逸文を時代順に取り上げ、適宜、五風土記（出雲・播磨・常陸・豊後・肥前）にもふれつつ、その内容・伝来・記紀との比較など様々な角度から考察していく。</p>
----------	--

- 第1～2回： 風土記・風土記逸文について  
 第3回： 記紀と風土記  
 第4～7回： 神代―丹後国・伊予国・日向国・出雲国  
 第8～9回： 神武天皇―伊勢国・山背国  
 第10～11回： 崇神天皇―越後国・常陸国  
 第12～14回： 景行天皇・ヤマトタケル―常陸国・九州  
 第15回： 前半のまとめ  
 第16回： 万葉集と風土記  
 第17～19回： 仲哀天皇・神功皇后―摂津国・九州  
 第20～22回： 応神天皇―淡路国・播磨国 第23回： 垂仁天皇―尾張国  
 第24～25回： 仁徳天皇―摂津国・播磨国  
 第26～27回： 宣化天皇―九州 第28～29回： 風土記逸文研究の課題  
 第30回： まとめ

準備学習	<p>自分にゆかりの地に風土記逸文は存在するのか、確認すること。        風土記をはじめ、日本書紀・古事記・万葉集等、他の上代文学に幅広く目を通すことで、本講義への理解も深まるだろう。</p>
履修上の留意点	<p>この講義を契機に、古代、そして自分にゆかりの土地への関心を高めて欲しい。</p>
成績評価の方法	<p>毎回書いてもらう感想、レポート（年1～2回）、学期末試験による総合評価</p>
教科書／テキスト	<p>プリントを使用。適宜、画像資料も用いる。</p>
参考書	<p>風土記逸文の注釈書として、上代文献を読む会編『風土記逸文注釈』（翰林書房 2001）がある。その他、講義中に適宜紹介する。</p>
その他	<p>自分の目で実際に見て、気がつくことは数多い。        足腰の強さは知力の強さに繋がる。フットワークの軽さを大切に！</p>

履修コード	016201
科目名	国文学特講X
担当者名	牧野 節子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>数々の優れた芸術作品から創作の技術を学び、ものを見る目、ものを書く目を養い、想像力、創造力、文章力を高めることを目標とする。</p> <p>童話、児童文学、小説、戯曲、映画などのさまざまな作品を鑑賞し、創作をする上での表現力、描写力、構成ほか、ベースとなるテクニクを習得していく。</p> <p>また、それらを活用して、短編を完成させる。</p> <p>書く楽しさ、創作のおもしろさを、受講生みんなが獲得できるようにしたい。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>(1) (2) 人称と視点 (3) (4) 発想と材料 (5) (6) 登場人物と背景 (7) (8) タイトルと物語のカラー        (9) (10) 構成を考える (11) (12) 展開法・帰納法・伏線 (13) (14) 小道具の活用法 (15) 前期        まとめ (16) (17) 比喩・擬人法 (18) (19) テーマについて (20) (21) パロディとオマージュ        (22) (23) 日記形式・手紙形式の作品 (24) (25) 絵や楽曲をヒントに (26) (27) 連作の書き方        (28) (29) 物語のなかの明と暗 (30) 後期まとめ</p>
----------	--

準備学習	<p>前回の授業内容の復習。</p>
履修上の留意点	<p>これまで一度も童話や小説を書いたことがない人でもかまわない。創作に興味のある人、創作に前向きに取り組もうという気持ちを持った人に履修してほしい。</p>
成績評価の方法	<p>出席状況30%。授業中に時々、その場で書ける短い課題を出すので、その提出状況が30%。前期末と後期末に1回ずつ提出の創作作品40%。以上の割合で評価する。</p>
教科書／テキスト	<p>使用しない。適宜プリントを配布する。</p>
参考書	
その他	<p>この授業は人数制限がある。受講希望者がその数を超えた場合は、第一日目の授業で受講者を決定する。そのため受講希望者はかならず第一日目の時間に参加すること。</p>

履修コード	016301
科目名	国文学特講XI
担当者名	榎本 正樹

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	サブカルチャーの枠を超え、独自の表現形へと進化・深化し続ける日本のマンガとアニメを解説するための方法論を学びます。
授業スケジュール	前期はマンガ、後期はアニメをとりあげます。

前期はマンガ論を展開します。マンガ論の裾野は広く、画像論、物語論、記号論、メディア論、ジェンダー論、ジャンル論、作家論、読者論、流通論などさまざまなアプローチが可能で、本講義では、「記号と表象の集合体としてのマンガを解説するための理論の構築と実践」を目指します。特定のマンガ作品を講読する形ではなく、多種多様なマンガをサンプルとして使用し、マンガを成立させる諸要素の一つひとつを確認していきます。そのような作業を通して、マンガ表現の「文法」を抽出していきたいと思えます。

後期は、庵野秀明監督の『新世紀エヴァンゲリオン』について論じます。エヴァンゲリオンにはさまざまなヴァージョンがありますが、本授業で対象とするのは1995年10月から1996年3月にかけて放送されたテレビ版です。テレビ版は全26話から構成されていますが、今年度は第1話から第13話までを扱う予定です。授業では各回1話を取りあげます。まず作品を鑑賞し、その後で内容を詳細に論じていく形をとります。庵野監督自身、エヴァを「術学趣味の産物」と表しています。膨大な情報がちりばめられたこの作品の構成要素を、細部に注目しながら読みとっていくことによって、九〇年代以降に顕現した物語様式を客観的に分析することが可能になるはずで、現在、エヴァンゲリオン新劇場版4部作が制作・公開されています。2012年秋には最新版『エヴァンゲリオン新劇場版:Q EVANGELION:3.0 YOU CAN (NOT) REDO』が公開予定です。時間的に余裕があれば、最新作についても言及したいと思います。

準備学習	前期・後期とも、準備学習は必要ありません。
履修上の留意点	マンガやアニメだけでなく、文学やサブカルチャーや周辺ジャンルに興味をもつ学生の履修を歓迎します。
成績評価の方法	学年末提出のレポートの評価をメインに、出席点を加味し評価します。レポートのテーマや内容、分量等については、第1回目の授業時に話します。
教科書/テキスト	前期・後期とも、資料はプリントで配付します。前期は、四方田犬彦『漫画原論』（ちくま学芸文庫）や夏目房之介『マンガはなぜ面白いのか その表現と文法』（NHKライブラリー）などを参考に授業を進めますが、購入する必要はありません。後期に使用するテキストはありません。
参考書	参考文献等は教室で指示します。
その他	講義形式をとります。履修に際しては、榎本のプロフィールや研究業績が掲載されているサイト ( <a href="http://enmt.jp">http://enmt.jp</a> ) も参考にしてください。
関連リンク	<a href="http://twitter.com/enmt">http://twitter.com/enmt</a>

履修コード	015401
科目名	国文学特講II
担当者名	渡部 泰明

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	百人一首は古典作品の中でもなじみの深いものです。古典入門の教科書として、初学者にも最適なものとして、古来扱われてきました。しかし、平安時代を中心に、代表的な古歌を集めているだけに、その歌の世界は、それぞれになかなか底が深いものがあります。百人一首の歌を、まず何より一首じっくり読みほぐしていきながら、和歌とはどういうものなのか、なぜこれほどの長い時を超えて生き続けてきたのか、などを考えてみたいと思えます。とくに大切なのは、現在を生きる私たちにとって、どういう意味をもつものなのか、ということで、このことを皆さんと一緒に考えていきます。
授業スケジュール	(1~2) 百人一首概説…百人一首はどのように生まれたか。(3~5) 古代歌人編…天智天皇・持統天皇・柿本人麻呂など。(6~10) 古今集時代歌人編…喜撰法師・小野小町・在原業平・伊勢・紀貫之・凡河内躬恒など。(11~17) 三代集時代歌人編…清原元輔・曾禰好忠・惠慶法師・和泉式部・紫式部など。(18~25) 院政期歌人編…周防内侍・能因・源経信・源俊頼・藤原基俊など。(26~30) 新古今歌人編…藤原俊成・藤原定家・式子内親王・後鳥羽院など。

準備学習	特になし。
履修上の留意点	
成績評価の方法	前期および後期の最終授業日における論述形式の筆記試験を中心とし、出席状況も加味します。
教科書/テキスト	島津忠夫『新版百人一首』、角川ソフィア文庫、660円、978-4-04-404001-7
参考書	渡部泰明『和歌とは何か』（岩波書店、2009）



履修コード	015501
科目名	国文学特講III
担当者名	渡部 泰明
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	受講生の皆さんに、実際に演技や戯曲作成をしてもらいながら、日本の古来の言葉が、どのように現在に生かすことができるか、実体感してもらおう授業です。プロの演劇家によるワークショップ形式の演技体験など(3回)も含め、最終的に皆さん自身の方で、古典文学作品の上演をしてもらいます。
授業スケジュール	(1~4) 現代の演劇への視角…夢の遊眠社野田秀樹氏の演劇空間。(5~7) NODA・MAP高都幸男氏によるワークショップ。(8~12) 現代戯曲の構造の分析…『桜の森の満開の下』などを例に。(13~20) 古典文学の戯曲化の方法と実際。(21~30) グループに分かれての演劇製作および上演。
準備学習	野田秀樹氏の公演、もしくは戯曲、DVDを見ておくこと。
履修上の留意点	過去の演技体験の有無はまったく問いません。これまでの受講者の多くが演劇未経験者でした。ただし出席が重要となります。3回以上欠席する人には、履修を認めません。なお、履修希望者が多数の場合、履修者制限をすることがあります。
成績評価の方法	出席状況を中心として、上演によって評価します。
教科書/テキスト	とくにありません。
参考書	

履修コード	015601
科目名	国文学特講IV
担当者名	三澤 裕子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>〈授業概要〉 幸若舞は、鼓を伴奏に語り舞う芸能で、室町時代後期から江戸時代初期にかけて流行した。本授業では、まず幸若舞の萌芽期から衰退期に至る歴史の変遷を概観し、さらに芸能としての独自性を如何に打ち出したか、後続の芸能に如何なる影響を与えたかを考察する。</p> <p>〈到達目標〉 この講義の到達目標は、幸若舞の芸能史上の位置、文学的価値を理解することである。幸若舞が先行芸能とどのように関わっているのか、幸若舞の演者や芸能が何時頃どのような事情によって変化し、それがどのような状況で享受されていたのかを史料を読み解きつつ確認することで、芸能史研究の基礎を身につけられるようにしたい。幸若舞には軍記物語から題材を得た作品が多いのだが、典拠をどのように換骨奪胎して独自色を出そうとしたのかを検討する。さらに、幸若舞が能・浄瑠璃・歌舞伎へ吸収される際にはどのように取捨選択されたかも分析する。これらの考察を通して詞章を詳細に調査する文学研究の方法を習得する。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>第1回 インTRODクシヨン：「幸若舞」とは何か</p> <p>第2回 幸若舞の歴史：白拍子との関連性</p> <p>第3回 幸若舞の歴史：前期曲舞の成立</p> <p>第4回 幸若舞の歴史：前期曲舞の衰退</p> <p>第5回 幸若舞の歴史：後期曲舞＝幸若舞の成立</p> <p>第6回 幸若舞の歴史：幸若舞の衰退</p> <p>第7回 幸若舞の芸能：幸若舞の曲節と演技</p> <p>第8回 「舞の本」の分類：現存諸本二系統の分析</p> <p>第9回 幸若舞曲の分類：現存作品の分類方法</p> <p>第10回 幸若舞曲の分類：定型作品の分類基準</p> <p>第11回 幸若舞曲の構造：三段階型舞曲「九穴貝」の分析</p> <p>第12回 幸若舞曲の構造：四段階型舞曲「木曾願書」の分析</p> <p>第13回 幸若舞曲の構造：五段階型舞曲「和田宴」展開部の分析</p> <p>第14回 幸若舞曲の構造：五段階型舞曲「和田宴」転換部の分析</p> <p>第15回 幸若舞曲の構造：五段階型舞曲「和田宴」結末部の分析</p> <p>第16回 幸若舞曲の典拠：『曾我物語』の諸本</p> <p>第17回 幸若舞曲の典拠：真名本『曾我物語』の分析</p> <p>第18回 幸若舞曲の典拠：仮名本『曾我物語』の分析</p> <p>第19回 幸若舞曲と典拠：幸若舞曲「和田宴」と『曾我物語』との類似点</p> <p>第20回 幸若舞曲と典拠：幸若舞曲「和田宴」と『曾我物語』との相違点</p> <p>第21回 幸若舞曲と謡曲：幸若舞曲「和田宴」と謡曲「和田酒盛」との類似点</p> <p>第22回 幸若舞曲と謡曲：幸若舞曲「和田宴」と謡曲「和田酒盛」との相違点</p> <p>第23回 幸若舞曲と謡曲：幸若舞曲「和田宴」と謡曲「和田酒盛」との影響関係</p> <p>第24回 幸若舞曲と浄瑠璃：幸若舞曲「和田宴」と浄瑠璃「風流和田酒盛」との類似点</p> <p>第25回 幸若舞曲と浄瑠璃：幸若舞曲「和田宴」と浄瑠璃「風流和田酒盛」との相違点</p> <p>第26回 幸若舞曲と浄瑠璃：幸若舞曲「和田宴」から浄瑠璃「風流和田酒盛」へ変容</p> <p>第27回 幸若舞曲と歌舞伎：幸若舞曲「和田宴」と歌舞伎「矢の根」との類似点</p> <p>第28回 幸若舞曲と歌舞伎：幸若舞曲「和田宴」と歌舞伎「矢の根」との相違点</p> <p>第29回 幸若舞曲と歌舞伎：幸若舞曲「和田宴」から歌舞伎「矢の根」への変容</p> <p>第30回 総括：幸若舞研究の展望</p>
----------	---

準備学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次回の授業範囲に関するプリントを事前に読んでおくこと。</li> <li>・ 授業内容に関連したHPを授業内で取り扱うことがある。関連したメディアに目を通しておくこと。</li> </ul>
------	--

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	平常点とレポート（前期末・後期末にそれぞれ提出）による総合評価。評価に占めるレポートの割合は70%とする。
---------	---

教科書／テキスト	授業時にプリントを配付する。
----------	----------------

参考書	使用しない。授業時に紹介する。
-----	-----------------

その他	講義形式。
-----	-------

履修コード	015701
科目名	国文学特講V
担当者名	佐藤 武光

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	2011年は、東日本大震災一色だったとも言えよう。しかしそこから浮かび上がったのは、震災の残酷さとともに、人間の我欲、報道の有り様、現代社会の歪みだったと言える。その中でも特筆すべきは、福島第一原子力発電所事故の映像を含めた報道であり大手TV局と大手新聞社の報道の立ち位置とインターネット報道の立ち位置の違いである。
---------------------	--

東京電力のいや国の原発安全神話は、どうして作られたのか。東電が多くの広告収入源のマスメディアの報道が、真実を伝えていない。また多くの研究費が東電に頼っている国立大学の教授の発言もぶれた。その中でインターネットから発せられる報道や発言が国民の支持を得ていった。ここに多くの現代文明の問題点が隠されていないだろうか。そしてその多くは、映像という伝達手段で影響力を行使した。

かつて映画が、多くの国において、戦争の道具（いわゆる戦意高揚）として使われたように、人間に及ぼす、映像の影響力は、計り知れない。

現代の最大の権力者は、マスメディアであり、映画、TVの映像であるとも言われる。死の町発言での大臣失脚。筆者は現地を取材している。「死の町以外の何物でもない」、真実を発言して失脚である。ここには多くの現代文明の問題点が隠されていないだろうか。そしてその多くは、映像という伝達手段で影響力を行使できる立場にいても事実である。

だからこそ今最も必要とされるのが、シネマリテラシー、いわゆる映像を読み解く能力である。我々は、大新聞各社、TVキー局の流す情報を盲目的に、信じては、いないだろうか。

現代に生きる今こそ、映像批評力を、磨かなければ、時代を、生き抜けないとも言える。本講座の主目的は、そこにある。

今、映画は、まったく新しい方向に動き出している、利益追求の商業映画だけでなく、映画制作は、教育のツールとして、子供たちのやり場のない感情のはげぐちとして、はたまた、シニア世代の生きがいとして、等。

映像の役割は、大きく変化している。事実、オーストラリアでは、義務教育に映画製作が導入され、多国籍言語で学校生活が行われる為生徒同士のコミュニケーションが旨くとれていかない。また其れによって起きるいじめなどの矛盾点は映画作りが弱者も強者も協力し合わなければならない状況を生み出す為、映画作りそのものが矛盾点を乗り越える教育として存在している。

日本では、東京都教育委員会、BUMB東京スポーツ館が主催で毎夏行われ、川崎、岩手、福島、新潟、筑波、等においても中学生の映画作りでワンシーンずつ全員監督する制度により「自ら考え行動をしなければならない状況に追い込まれる」ことでモチベーションが高まり、イジメなどが、激減してる報告もある。

映像表現は、もはや、プロだけの表現手段ではなくなった。今や映画作りにおいて、若者の精神を高揚させたり、クリエイティブな自己啓発などにより、文化状況を、自分たちで作り出していく存在に変化している。

そこで本講座は、時代に、影響を与えた映画、小津、黒澤、今村などの名作を考察し、また、学生映画、中学生映画なども考察し、「人間のおかれた状況、立場の違い、意識の違い等から来る視点の違い」を考察し貴重なその同時代の財産を、共有したい。総じて、創造的映像批評力を、蓄え、現代のリーダーとしての人間力の向上を目指します。

#### 授業スケジュール

- 1、視点の違う作家たち  
イ、小津安二郎の世界 ロ、黒澤明の世界 ハ、今村昌平の世界 ニ、学生映画の世界
- ホ、ジュニアワークショップ（中学生映画の世界）
- 2、メディアリテラシー及びシネマリテラシーの考察
- 3、新しい映画ビジネス、映画ファンドの考察
- 4、シナリオ創作演習  
イ、十本企画（何を書きたいか） ロ、テーマ（誰のために作るのか）  
ハ、時代は何を求めているのか ニ、作家性
- 5、シナリオワークショップ、名作シナリオの、実践的分析
- 6、ドキュメンタリーとは何か
- 7、ドラマとは何か（演出論）

準備学習	日々の、氾濫する映像を、意識して、何故今その作品が作られているのかを考えること。
履修上の留意点	日常生活の映像が、何を目的に作られているかを考えながら映像感覚を磨く。
成績評価の方法	作品上映後のレポート提出及び後期末提出シナリオ作品（200字30枚以上）で評価する。
教科書／テキスト	特にありません。
参考書	参考書、参考文献は、講義の中で紹介します。
その他	基本的に講義が中心だが、作品上映後などで、ディスカッション中心の授業にしたい。

履修コード	015801
科目名	国文学特講VI
担当者名	津島 知明

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	清少納言の『枕草子』を精読しながら、古典文学を読むにあたっての様々な問題を考えてゆきます。
---------------------	---

授業スケジュール	初回はガイダンス。以下、第二回から第四回までは、本文の異同、諸本の問題など、古典研究に必要な基礎知識から、時代背景、享受と研究の歴史、現時点での課題や問題点などを概説します。 第五回以後は、日記回想段と呼ばれる部分を中心に本文を読み進めて行きます。年表や系図などを参照しながら、ひとつひとつの表現に立ち止まり、『枕草子』の世界を再構築して行ければと思います。また、随時「写本」に触れる機会も作ってゆく予定です。 最終回にはまとめのレポートを課します。
----------	---

準備学習	次回の範囲は、授業内に連絡するので、教科書をよく読んでおくこと。
------	----------------------------------

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	平常点（授業時の課題を含む出席状況、夏期レポート、授業時テストから総合的に評価）
---------	--

教科書／テキスト	『新編 枕草子』（おうふう）
----------	----------------

参考書	津島知明『動態としての枕草子』（おうふう） 津島知明『ウェイリーと読む枕草子』（鼎書房） その他、授業時に指示する。
-----	--

その他	講義形式。ただし、理解度や疑問点の有無などを折々確認しながら進めて行く。
-----	--------------------------------------

履修コード	015901
科目名	国文学特講VII
担当者名	竹内 正彦

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 平安時代の歌物語である『伊勢物語』を対象とし、表現の背後にあるさまざまな伝承・習俗・歴史的事実などを理解しながらその表現世界に分け入っていく。 (到達目標) 伊勢物語の表現世界のありようをとらえることを目標とする。伊勢物語が源氏物語をはじめとした後の文学に与えた影響ははかり知れず、現代に至ってもその魅力は色あせることはない。ひとつひとつのことは丹念に追いつきながら読み深め、受講生とともにその魅力を感じていきたい。
---------------------	--

授業スケジュール	第1回：伊勢物語概説 第2回～4回：初冠章段 第5回～8回：二条后関係章段 第9回～12回：東下り章段 第13回～15回：東国章段 第16回～17回：筒井筒章段 第18回～21回：斎宮関係章段 第22回～23回：惟喬親王関係章段 第24回～30回：伊勢物語の諸相
----------	---

準備学習	各授業時に予定されている章段について、自身で読み、解釈を試みるのが効果的な準備学習となります。
------	---

履修上の留意点	講義形式による授業ですので、各自それぞれの関心をもって授業に臨んでください。
---------	--

成績評価の方法	定期試験の成績80%、平常点20%とする。
---------	-----------------------

教科書／テキスト	永井和子訳・注『伊勢物語』（笠間文庫・原文&現代語訳シリーズ）笠間書院、980円
----------	--

参考書	授業時に適宜指示する。
-----	-------------

履修コード	016001
科目名	国文学特講VIII
担当者名	閻 小妹
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この講義の到達目標は、江戸時代における日中文化交流によって生まれた読本の魅力を感じさせ、学生の近世小説、特に読本についての読解力を高めることである。授業では中国の怪談小説、白話小説の具体的な作品と時代背景を説明しながら、日本の翻案作と比較し、両者の相違について解説を行う。
授業スケジュール	第1回：読本の成立と中国小説（文言小説と白話小説） 第2～5回：中国怪異小説の翻訳から中国白話小説の翻案へ 第6～9回：初期読本都賀庭鐘著『英草紙』第2編「馬場求馬妻を沈めて樋口が聳と成る話」、『繁野話』第8話「江口の遊女薄情を憤りて珠玉を沈る話」と中国白話短編小説集「三言二拍」 第10～12回：上田秋成著『雨月物語』巻2「浅茅が宿」と中国怪談短編小説集『剪灯新話』 第13～15回：『雨月物語』巻4「蛇性の姪」と中国の白蛇伝説 第16～19回：江戸読本、山東京伝著『桜姫全伝曙草紙』と中国白話長編小説『金雲翹伝』 第20～24回：『水滸伝』の世界 第25～28回：後期読本の長編化
準備学習	授業する前に指定される作品を一度読んでおくことを要求する。わからないところがあっても、飛ばして物語の筋を追って最後まで読むことを勧める。授業中で作品の内容を纏めて発表したり書いたりしてもらうことがしばしばあるので。
履修上の留意点	授業中で配布された資料を読んでおくこと、質問を用意しておくこと。
成績評価の方法	期末試験（5割）、授業内での課題（5割）を基本とする。出席受講態度も大いに勘案する。なお、全期を通じてレポート課題は5回程度。
教科書／テキスト	授業の時資料を適時に渡す。
参考書	小学館刊『日本古典文学全集78 英草紙・西山物語・雨月物語・春雨物語』 岩波書店刊『新日本古典文学大系 80 繁野話 曲亭伝奇花紋児 催馬楽奇談 鳥辺山調絃』

履修コード	016101
科目名	国文学特講IX
担当者名	倉田 容子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	明治文学における女性像の検討を通して、多様な「読み」の方法を体得しつつ、現代社会に通じるジェンダー／セクシュアリティ規範の萌芽を見据え、文学と現実社会との連関性について認識を深める。
---------------------	---

授業スケジュール	前期は男性文学を、後期は女性文学を扱う予定です。書き手のジェンダー偏差の問題を視野に入れつつ、それぞれのテキストの女性をめぐる語りの構造にアプローチしていきます。同時に、国家による女性の性の管理、「家」制度、女性労働、ナショナリズムと老いの問題など、テキストに現れたいくつかの問題系について検討し、明治期の女性を取り巻く社会状況について知識を深めます。
----------	--

- 第1回 ガイダンス——フェミニズム批評入門
- 第2回 広津柳浪『今戸心中』 1：概要と問題点
- 第3回 広津柳浪『今戸心中』 2：公娼制度
- 第4回 広津柳浪『今戸心中』 3：物語構造再考
- 第5回 徳富蘆花『不如帰』 1：概要と問題点
- 第6回 徳富蘆花『不如帰』 2：良妻賢母規範
- 第7回 徳富蘆花『不如帰』 3：戦争／ナショナリズム
- 第8回 夏目漱石『坊っちゃん』 1：概要と問題点
- 第9回 夏目漱石『坊っちゃん』 2：語りの構造
- 第10回 夏目漱石『坊っちゃん』 3：〈下女〉と〈奥さん〉
- 第11回 田山花袋『生』 1：概要と問題点
- 第12回 田山花袋『生』 2：老親扶養
- 第13回 田山花袋『生』 3：老いをめぐる語り
- 第14回 田山花袋『生』 4：『妻』『縁』との連関性
- 第15回 前期のまとめ
  
- 第16回 女性文学概論
- 第17回 樋口一葉『にごりえ』 1：概要と問題点
- 第18回 樋口一葉『にごりえ』 2：揺らぐ〈女〉たち
- 第19回 樋口一葉『にごりえ』 3：今井正監督『にごりえ』鑑賞
- 第20回 清水紫琴『こわれ指環』 1：概要と問題点
- 第21回 清水紫琴『こわれ指環』 2：女権論の陥穽
- 第22回 清水紫琴『こわれ指環』 3：その後の紫琴
- 第23回 田村とし子『生血』 1：概要と問題点
- 第24回 田村とし子『生血』 2：エクリチュール・フェミニン
- 第25回 田村とし子『生血』 3：「蝙蝠」をめぐる語り
- 第26回 岡本かの子『老妓抄』 1：概要と問題点
- 第27回 岡本かの子『老妓抄』 2：老いをめぐる語り
- 第28回 岡本かの子『老妓抄』 3：「パッション」再考
- 第29回 岡本かの子『老妓抄』 4：かの子以後の女性文学の展開
- 第30回 後期のまとめ

準備学習	授業で扱うテキストを事前に読んできてください。『今戸心中』『不如帰』『坊っちゃん』『にごりえ』『こわれ指環』『老妓抄』は、青空文庫[ <a href="http://www.aozora.gr.jp/">http://www.aozora.gr.jp/</a> ]で読むことができます。『生血』はコピーを配布します。『生』は、岩波文庫(1950、絶版)もしくは『定本花袋全集』第1巻(臨川書店、1993)で読むことができますが、入手困難な場合は、概要および冒頭のコピーを配布する予定です。
------	--

履修上の留意点	積極的な姿勢での受講を望みます。授業後の質問を歓迎します。
---------	-------------------------------

成績評価の方法	レポート(学期末提出)80%、授業内での課題20%。平常点も勘案します。
---------	--------------------------------------

教科書／テキスト	指定しません。授業中に随時プリントを配付します。
----------	--------------------------

参考書	授業内で適宜指示します。
-----	--------------

履修コード	016901
科目名	児童文学
担当者名	牧野 節子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	児童文学の古今の名作の魅力にせまる。 児童文学とはどんなものか、どんなジャンルがあるか、どんな作品が書かれてきたか、いろいろな作品にふれるとともに、児童文学の変遷についても学ぶ。 また、映画化された作品の鑑賞や、パロディの考察など、さまざまな切り口から、原作のおもしろさを探っていく。 児童文学の楽しさ、奥深さを知り、児童文学の未来、今後の可能性についても考えてほしい。
---------------------	--

授業スケジュール	(1) (2) 児童文学とは何か (3) (4) ジャンルとグレード (5) (6) 時代背景と主人公 (7) (8) 絵本 (9) (10) ファンタジー (11) (12) ヤングアダルト (13) (14) ノンフィクション (15) 前期まとめ (16) (17) ルーマー・ゴッデン エドワード・ゴリー (18) (19) (20) 小川未明・宮沢賢治・新美南吉 (21) (22) ロアルド・ダール (23) (24) 武井武雄・佐野洋子 (25) (26) ジャクリーン・ウィルソン J・K・ローリング (27) (28) (29) 江國香織・森絵都・あさのあつこ (30) 後期まとめ
----------	--

準備学習	前回の授業内容の復習。
履修上の留意点	授業で紹介する作品を多く読むこと。
成績評価の方法	出席状況30%。授業中に時々、その場で書ける短い課題を出すので、その提出状況が30%。前期末と後期末に1回ずつ提出のレポートが40%。以上の割合で評価する。
教科書/テキスト	使用しない。適宜プリントを配布する。
参考書	

履修コード	014201
科目名	上代文学研究II
担当者名	中嶋 真也

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	現在、何となく受け止めている「古代」というものを、文学作品を丁寧に読むことを通じ、理解を深めることを到達目標とします。 前期は、同じようなテーマが見られるところを、『万葉集』『古事記』『日本書紀』といった複数の同時代の作品を精読することによって、立体的に把握するよう努めます。入り組んで現われる古代の論理や作品の論理というものを丁寧に読み解いていきます。 後期は、『万葉集』と『百人一首』とを軸に精読し、受け継がれる古代を確認していきます。移り行く作品の論理と、変わらぬ古代の論理とを見極めていきます。
---------------------	---

授業スケジュール	第1回 ガイダンス、第2回 古代文学概説、第3回 三輪山伝説をめぐって、第4回 『万葉集』の三輪山、第5回 『古事記』の三輪山、第6回 『日本書紀』の三輪山、第7・8回 オホモノヌシとオホクニヌシ、第9・10回 イナバのシロウサギ、第11・12回 『古事記』のヤマトタケル、第13・14回 『日本書紀』のヤマトタケル、第15回 前期の理解度の確認 第16回 前期の復習と後期の課題確認、第17～20回 阿倍仲麻呂「天の原」、第21～24回 猿丸大夫「奥山に」、第25～29回 山辺赤人「田子の浦に」、第30回 後期の理解度の確認 以上はあくまでも予定で、掘り下げるべき課題は随時、時間をかけて探求していきます。
----------	---

準備学習	通年の授業ですので、積み重ねが大きな意味を持ちます。授業の復習が以降の授業の最善の準備学習となります。
履修上の留意点	日本古典の持つ面白みと真剣な側面を感受してほしいと思います。毎回テキストを忘れずに持ってくること。
成績評価の方法	試験 (90%)、平常点〔出席状況ならびに授業態度〕 (10%)。
教科書/テキスト	井手至・毛利正守『新校注 万葉集』(和泉書院 2008) 必要に応じて、プリントも配布します。
参考書	必要に応じて、授業中に指示します。
その他	特になし。

履修コード	017401
科目名	書道概論
担当者名	金子 大蔵

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	中国・日本の書道史を学び、また現代書の誕生と歴史、現況を研究し、書の意義や芸術性に対する知識と理解を高める。 講義内容は主に書道理論と、ビデオや拓本、複製品などを使っての名品や現代書の鑑賞である。 前期では主に、中国書道史の概要を学ぶ。最古の文字「甲骨文」から「金文」、「木簡」へと移行する古代文字の変遷と、書の芸術性を高めたといわれる書聖王羲之の書と人の研究。 後期では主に、日本書道史と現代書の概要を学ぶ。書が中国から日本へと伝来してきた背景と経緯、そして“現代書の父”といわれる比田井天来から現在の現代書7部門までを理解し、実際に数回、書の展覧会を見てレポートを提出する。
---------------------	--

授業スケジュール	前期 (1) 書とは？ (2・3) 甲骨文について (4・5) 金文について (6・7) 簡牘について (8・9) 漢代の隷書について (10・11・12) 王羲之の書と人について (13・14・15) 北魏の楷書について 後期 (16・17) 初唐の三大家について (18・19) 顔真卿の書と人について (20～22) 日本書道史について (23・24) 現代書の父比田井天来について (25・26・27) 上田桑鳩、金子鷗亭など現代書を広めた書家について (28・29・30) 現代書7部門と今後の書の展開
----------	--

準備学習	特になし。
履修上の留意点	講義では主に頭から入る知識を学ぶが、常日頃から展覧会や博物館等に足を運び、目で親しむ時間をつくることが望まれる。
成績評価の方法	年数回行う展覧会等のレポート提出の内容と、講義中に行う小テストの結果に依拠して行う。
教科書／テキスト	『書II』高等学校芸術科(書道)文部科学省検定済教科書(光村図書出版)
参考書	

履修コード	017301 017302
科目名	書道史
担当者名	那須 隆吉

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	東洋文化は今、世界の注目を集めている。中でも書道は文字を芸術にまで高めた特異な文化である。本講では、書道が古代よりいかなる変遷をたどってきたかを通覧し、東洋独自の文化への理解が深まるよう、出来るだけ分かりやすく講じたい。
---------------------	--

授業スケジュール	前期 (1) ガイダンス(文字と書体について) (2) 漢字の発生(甲骨文字の発見) (3) (4) 甲骨文字の内容・解説・書風の変遷 (5) (6) (7) 青銅器の文字、金文について " の銘文の内容、解説、書風 (8) (9) 篆書の時代(始皇帝の文字統一) (10) (11) (12) 隷書のはじまり (13) 最古の文字の解説書「説文解字」について (14) (15) 草書の完成 後期 (16) (17) (18) 魏晋南北朝時代の文字について (19) (20) 隋の統一と楷書の発展 (21) (22) (23) 唐の書法 (24) 宋の書法 (25) (26) 元の書法 (27) (28) 明の書法 (29) (30) 清の書法
----------	--

準備学習	特になし。
履修上の留意点	遅刻をしないように、又教場での私語を慎むように。
成績評価の方法	出席及び随時レポートの提出、年度末に行なう筆記試験等を総合して評価する。
教科書／テキスト	伏見冲敬著『書の歴史』(二玄社)
参考書	随時紹介する。



履修コード	017501
科目名	書道実習I
担当者名	金子 大蔵

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>書道とはただ文字をきれいに書き写すというだけではない。中国、日本における古代からの名品といわれる古典の臨書を重ねることにより、パソコンやワープロでは表現することができない書き手の心や顔が見ることが出来る書表現を身につける。</p> <p>本講座では主に書の基本ともいえる楷書と行書の古典を中心に半紙を使って学び、それにより多彩な線表現を会得し、独自の臨書感を持って書に取り組みめるようにする。また最後に漢字仮名交じりの書を学ぶことにより、我々が現在使用している言葉を用いた書表現にも挑戦する。</p> <p>前期では主に楷書の臨書を行う。「高貞碑」等の北魏の楷書から、「九成宮醴泉銘」等の唐の楷書まで幅広く学ぶ。後期では書聖王羲之の最高傑作「蘭亭序」や唐代能書家の名品、日本の空海書「風信帖」まで古今東西の古典を学ぶ。最後3回の講義にて漢字仮名交じり書の作品を学ぶ。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>前期・楷書の研究</p> <p>(1) 用具・用材の説明と臨書について</p> <p>(2・3) 高貞碑の臨書</p> <p>(4・5) 牛嶽造像記の臨書</p> <p>(6・7) 孔子廟堂碑の臨書</p> <p>(8・9) 九成宮醴泉銘の臨書</p> <p>(10・11・12) 雁塔聖教序の臨書</p> <p>(13・14・15) 顔氏家廟碑の臨書</p> <p>後期・行書の研究と漢字仮名交じりの書</p> <p>(16~18) 蘭亭序の臨書</p> <p>(19) 集王聖教序の臨書</p> <p>(20・21) 枯樹賦の臨書</p> <p>(22・23) 祭姪文稿の臨書</p> <p>(24・25・26) 風信帖の臨書</p> <p>(27~30) 漢字仮名交じりの書</p>
準備学習	特になし。
履修上の留意点	書道の上達は筆を持つ時間の長さにと拠るところが大きいです。予習復習以外にも日頃から筆を持つ機会を多くすることが大切です。
成績評価の方法	毎講座後に提出する作品の内容の評価と夏休みの宿題の内容の評価を総合判断して行う。
教科書/テキスト	『書I』高等学校芸術科(書道)文部科学省検定済教科書(光村図書出版)
参考書	

履修コード	017601
科目名	書道実習II
担当者名	那須 隆吉

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>世界で唯一、古代から一貫して同じ文字を使用し、それを鑑賞に耐えうる芸術にまで高めた「書」の美しさを味わいたい。書道の用具用材の取り扱い等基礎的知識を理解し、基本点画から始め古典の臨書に至るまで学ぶ。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>前期 (1) 用具用材の種類とその取り扱い方(文房四宝について)</p> <p>(2) (3) 楷書の基本点画(横画縦画、起送収筆折れ曲がり右払い左払い等)</p> <p>(4) (5) 二文字を書く</p> <p>(6) (7) 四文字を書く</p> <p>(8) 五文字を書く</p> <p>(9) 六文字を書く</p> <p>(10) 行書の基本について</p> <p>(11) 二文字を書く</p> <p>(12) (13) 四文字を書く</p> <p>(14) 五文字を書く</p> <p>(15) 六文字を書く</p> <p>後期 (16) 草書の基本について</p> <p>(17) 二文字を書く</p> <p>(18) 四文字を書く</p> <p>(19) 片仮名</p> <p>(20) (21) (22) 平仮名</p> <p>(23) (24) 漢字仮名まじり文</p> <p>(25) 硬筆</p> <p>(26) (27) 封筒、手紙、年賀状</p> <p>(28) (29) 色紙、短冊の書式</p> <p>(30) 賞状、式次第、立看板</p>
準備学習	特になし。
履修上の留意点	テキスト、用具は常に整備しておく。(墨汁は使用しない。硯、筆は常に洗っておく。)
成績評価の方法	出席点、平常点(遅刻等)、清書、レポート等による。
教科書/テキスト	大学書写書道教育(第一法規)
参考書	

履修コード	017701
科目名	書道実習III
担当者名	那須 隆吉

授業概要/  
到達目標 (ねらい) 一口に書道といっても多様なジャンルがある。本講では、隷書法、篆書法、篆刻法を実習する。

授業スケジュール

前期 (1) 隷書について  
(2) 隷書の書法  
(3)～(7) 臨書「曹全碑」  
(8)～(10) " 「禮器碑」  
(11) 篆書について  
(12) 篆書の書法  
(13)～(15) 臨書「吳讓之」の篆書  
後期 (16)～(19) 臨書「吳讓之」の篆書  
(20) 篆刻の用具用材と手順について  
(21) 篆刻について  
(22)～(30) 篆刻実習 (姓名印、吉語印等)

準備学習 特になし。

履修上の留意点 文房具を愛することは、古来文人のたしなみであるので、用具を忘れて人に借りるなどということのないよう注意されたい。

成績評価の方法 出席及び清書提出、随時レポートの提出等を総合して評価する。

教科書/テキスト コピーによる。

参考書 随時紹介する。

履修コード	016701
科目名	西洋思想史
担当者名	河谷 淳

授業概要/  
到達目標 (ねらい) この授業では前期にはギリシア哲学 (古代哲学) を扱い、後期以降は古代哲学の問題群が中世以降どのような形で継承され展開していったのかを存在論・認識論・倫理学からテーマを選んでたどっていくことにしたい。また、西洋哲学史の概略や基本的な哲学用語についても理解を深めてもらえるよう配慮したい。

授業スケジュール

1. 序論
2. ギリシア神話 (1)
3. ギリシア神話 (2)
4. ギリシア哲学の始まり: タレスの「水」
5. ソクラテスの哲学 (1)
6. ソクラテスの哲学 (2)
7. ソクラテスの哲学 (3)
8. プラトンの哲学 (1)
9. プラトンの哲学 (2)
10. プラトンの哲学 (3)
11. プラトンの哲学 (4)
12. アリストテレスの哲学 (1)
13. アリストテレスの哲学 (2)
14. アリストテレスの哲学 (3)
15. 前期授業内容の理解度の確認
16. プラトンとアリストテレスの物語論 (1)
17. プラトンとアリストテレスの物語論 (2)
18. ヘレニズムの哲学 (1)
19. ヘレニズムの哲学 (2)
20. ヘレニズムの哲学 (3)
21. 感情論の系譜 (1)
22. 感情論の系譜 (2)
23. 感情論の系譜 (3)
24. 感情論の系譜 (4)
25. 倫理学の系譜 (1)
26. 倫理学の系譜 (2)
27. 倫理学の系譜 (3)
28. 現代哲学とギリシア哲学
29. 30. まとめと理解度の確認

準備学習 授業で紹介した参考文献に目を通しておくことが望ましい。

履修上の留意点

成績評価の方法 中間試験 (前期最終授業日に実施) と期末試験 (それぞれ40点満点) ならびに平常点との総合点で評価する。

教科書/テキスト

参考書

履修コード	016401 016402
科目名	中国文学 中国歴史文学
担当者名	田熊 信之

授業概要/ 到達目標（ねらい）	数千年にわたる中国の歴史の中で、政治や文化の中心的な担い手となった漢民族は、時には他の民族とも混淆を累ねながら、特異な漢字文化を生み育てて来ました。本講座では、こうした漢字文化の幹である各種の文学作品（新出遺文も含め）を選読し、中国の人々が築き上げた多様な文字表現の世界を省察しつつ、中国文学に対しての読解力と鑑賞力を養っていききたいと思います。
--------------------	---

授業スケジュール	中国文学の世界には、例えば、歌謡や巫歌に由来する韻文の流れや、卜辞、告誓、記事などに始まる散文の流れがあり、このもとには、社会生活を営む人間それぞれの哀歓こもごもの姿が写し出されています。ここでは、各々の時代の思想、信仰等に彩られる、さまざまな形の文学のうち、歴史に関わる作品を適宜読み進めていきます。 〔前期〕 第1回：中国の風土と歴史、第2～3回：漢字の創造とその展開、第4～5回：文学の出現とその変遷、第6～8回：表現の歴史とその推移、第9～10回：『史記』巻九十七「陸賈列傳」（陸賈と劉邦）、第11～12回：『新語』抄文講読 同巻上「道基第一」、「述事第二」、第13回：同巻上「輔政第三」、第14～15回：同巻下「資質第七」、「本行第十」。 〔後期〕 第16回：古都洛陽（雒邑から洛陽へ）、第17～18回：仏教東伝と白馬寺（『牟子』「理惑論」、『高僧傳』「譯經上」、『魏書』「釋老志」）、第19回：『洛陽伽藍記』と楊銜之、第20～22回：『洛陽伽藍記』講読（序）、第23～25回：同巻第一「城内」永寧寺条、第26～28回：同巻第一「城内」建中寺、長秋寺条、瑤光寺条等、第29回：同巻第三「城南」景明寺条等、第30回：同巻第四「城北」宋雲惠生使西域条
----------	--

準備学習	中国の地理、風土、歴史等については、各自概説書や関連著作などを参看して、基礎知識を得て下さい。
------	---

履修上の留意点	各種の辞書の用い方に慣れておくことともに、幅広い視野をもつことを心がけて下さい。
---------	--

成績評価の方法	評価は、受講の状況を重視しながら、課題等への対応のさま、レポート或いは試験等の結果を勘案し、総合的に行ないます。
---------	--

教科書／テキスト	プリントを配布して、これをテキストとして使用します。
----------	----------------------------

参考書	参考書、資料等については、授業時に説明し、紹介します。
-----	-----------------------------

その他	授業は、講義及び演習の両方式を混じえて行ないます。
-----	---------------------------

関連リンク	<a href="https://www.komazawa-u.ac.jp">https://www.komazawa-u.ac.jp</a>
-------	---

履修コード	014401
科目名	中古文学研究Ⅰ
担当者名	松井 健児

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 『源氏物語』の自然叙述を、その歴史的・表現史的な背景を踏まえつつ読み解いてゆく。ことに自然叙述の種々相における、認識方法や類型化の問題を、表現それ自体に内在する歴史性的問題として扱うことによって王朝文化論としての展開を試みる。 (到達目標) 『源氏物語』より、訪問・宴・儀礼など、固有の意味を持ついくつかの場面を取り上げつつ講読する。具体的には、物語叙述と詩歌表現とを相互に関連付ける、歴史的心性および言語表現史への言及ということになる。したがって、たんに『源氏物語』の物語内容を知るだけにとどまらず、平安時代における和文表現の達成としての『源氏物語』観を獲得することを目標とする。
---------------------	---

授業スケジュール	第1回 『源氏物語』を読むために 年立と系図 第2回 『源氏物語』概説1 光源氏の誕生 第3回 『源氏物語』概説2 賜姓源氏 第4回 『源氏物語』概説3 予言と罪 第5～7回 「花散里」巻を読む1～3 第8～10回 「花宴」巻を読む1～3 第11～13回 「若菜下」巻を読む1～3 第14回 風景和文の成立 第15回 風景和文の方法 第16～18回 「胡蝶」巻を読む1～3 第19～21回 「鈴虫」巻を読む1～3 第22回 『源氏物語』絵巻の映像資料を見る 第23回 「宇治十帖」概説1 薫と匂宮 第24回 「宇治十帖」概説2 大君と浮舟 第25～27回 「浮舟」巻を読む1～3 第28回 風景和文の展開 第29回 風景和文の理想 第30回 『源氏物語』の表現方法と主題 (上記の予定は適宜変更する場合がある)
----------	---

準備学習	毎回、長文の本文を講読する。『源氏物語』の文章は難解で知られる。また、和歌・漢詩を数多く読むこととなる。古語辞典等を活用しつつ、自宅での予習・復習の時間にじっくりと本文と向き合い味読してほしい。
------	---

履修上の留意点	この講義では、受講生による本文の音読を重視する。また、『源氏物語』の原文を味読するための、黙読の時間を特に設ける。そのためには、なによりも静かであることが必要とされる。遅刻者による雑音の発生は、他の受講者にとって大変迷惑であることに留意してほしい。
---------	--

成績評価の方法	本文解釈を中心とした学年末授業時提出レポート60%、授業時におけるミニレポート20%、平常点20%とする。
---------	---

教科書／テキスト	授業時にプリントを随時配布する。
----------	------------------

参考書	参考書は多数になるので授業時に紹介する。
-----	----------------------

履修コード	014601
科目名	中世文学研究Ⅰ
担当者名	田中 徳定

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 中世は戦乱の世であった。それゆえか、中世文学には、政争や戦乱に敗れた者達が「怨霊」や「天狗」になって、この世に災厄をもたらした、という話を多くみることができる。そこで、「怨霊」「天狗」をキーワードとして中世文学を読解する。 (到達目標) 本講義では、中世文学の読解を通して、中世の人々の思想や信仰について理解することを目標とする。
---------------------	---

授業スケジュール	ガイダンス (1)、『古事談』にみる保元の乱の遠因 (2～4)、『保元物語』にみる崇徳院の怨霊 (5～6)、怨霊と御霊 (7)、『北野天神縁起』にみる怨霊と祭祀 (8～10)、中世文学にみる崇徳院の怨霊 (11～13)、平安時代～院政期の文学にみる天狗 (14～17)、『堯心集』『沙石集』にみる天狗 (18)、『比良山古人霊託』にみる天狗 (19)、『延慶本平家物語』にみる天狗 (20)、中世の絵巻にみる天狗 (21～22)、『太平記』にみる天狗 (23～26)、謡曲『鞍馬天狗』にみる天狗 (27～30)
----------	---

準備学習	配布されたプリントを読んでくること。
------	--------------------

履修上の留意点	専門科目であるので、出席を基本とする。
---------	---------------------

成績評価の方法	前期レポート40%、後期レポート40%、平常点20%。
---------	-----------------------------

教科書／テキスト	授業中にプリントを配布する。
----------	----------------

参考書	授業中にその都度紹介する。
-----	---------------

履修コード	016801 016802 016803
科目名	東洋思想史
担当者名	末木 恭彦

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 中国の伝統思想、特に儒教の有り様を概説する。 (到達目標) 儒教のありように理解を深める。
---------------------	---

授業スケジュール	直線的に歴史把握を行うのではなく、儒学の根本文獻(経)についての理解を深め、各経の歴史的展開を並行的に把握することとする。手掛りとしては、江戸時代の儒者荻生徂徠の『経史子要覧』を用いる。『経史子要覧』の言説を読み、それに現代の視点からの補説を行う。この作業を通じて、儒学の経とは何か理解を深めていく。 第一回 ガイダンス 第二回 荻生徂徠について 第三回 『経史子要覧』について 第四回 総論 (儒学における漢代と宋代) 第五回 総論 (小学の変遷) 第六回 総論 (詩・書・古文辞) 第七回 総論 (緯・鄭玄) 第八回 毛詩 (毛詩の言われ) 第九回 毛詩 (詩大伝、二代三王と考古的実在) 第十回 毛詩 (周の封建、四詩・六義) 第十一回 毛詩 (微言と含蓄、宋儒の詩解) 第十二回 毛詩 (詩の歴史元代まで) 第十三回 毛詩 (詩の歴史元代以降) 第十四回 毛詩 (其の他詩についての雑論) 第十五回 前期の理解度の調査 第十六回 尚書 (尚書の構成、近文古文) 第十七回 尚書 (六体、訳) 第十八回 尚書 (其の他書についての雑論) 第十九回 禮記 (三禮について) 第二十回 禮記 (日本儒学が禮を欠くこと) 第二十一回 禮記 (禮についての雑論) 第二十二回 禮記 (樂について) 第二十三回 易 (占いの書から理論書に) 第二十四回 易 (経史子要覧解説) 第二十五回 春秋 (漢書藝文志解説) 第二十六回 春秋 (三伝と春秋の注釈) 第二十七回 論語 第二十八回 孝経 第二十九回 経部のまとめ 第三十回 後期の理解度調査
----------	--

準備学習	「経史子要覧」を善く読んでおく。
履修上の留意点	予習をして来て欲しい。テキストの疑問点を整理して授業に臨んで欲しい。その疑問点の解明を中心として、授業を展開する予定である。
成績評価の方法	平常の受講態度と学年末レポートによる。(受講人数によっては、試験にすることもある。) 追試はしない。
教科書/テキスト	『経史子要覧』 (コピーを配布する)
参考書	関口順『儒学のかたち』 (東大出版会) 竹内照夫『四書五経』 (平凡社<東洋文庫>)

履修コード	021051
科目名	日本語文法入門
担当者名	土井 光祐

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(1) 「学校文法」に基づく古典文法の基礎。 (2) 記述文法の基礎と古典語への応用。 (3) 文法史の基礎。 以上三つの視点から日本語文法の基礎を体系的に学習する。
---------------------	--

授業スケジュール	いわゆる「学校文法」は、様々な問題点が指摘されているが、古典解釈や文法史の拠り所として一定の役割を果たしてきた。既習であるはずの「学校文法」の知識が極端に不足していると、古典文学作品の基本的な読解は困難となる。 又、日本語の仕組みと変遷とをより総合的、分析的に学ぶためには、「学校文法」の知識だけでは不十分な点もあり、近時深化の著しい記述文法の基礎的な学習が不可欠である。学校文法の基礎を学び、適宜最新の記述文法を紹介し、文法史へと発展していく。 第1回～第2回：文法の意義、形態論と統語論、言語の単位 第3回～第5回：品詞分類の原理、活用 第6回～第10回：動詞、形容詞、形容動詞 第11回～第14回：名詞、副詞、連体詞、接続詞、感動詞 第15回～第19回：助動詞 第20回～：助詞、敬語論
----------	---

準備学習	高校時代に学んだ古典文法を復習しておくこと。
履修上の留意点	欠席者に対して、当方は一切フォローしない。欠席時の配布プリントは他の出席者に借りてコピーする等、各自で対応すること。
成績評価の方法	平常点、授業中に行う確認テスト、前期・後期の筆記試験の総合による。
教科書／テキスト	中村幸弘・高橋宏幸・基石雅利『正しく読める古典文法』駿台文庫、ISBN4-7961-1486-6
参考書	授業中に紹介する。
その他	eラーニングシステムYeStudyを利用するので、ログイン方法を早めに確認すること。

履修コード	021061
科目名	日本語文法入門
担当者名	原 裕

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	日本語文法学に用いられる基本的概念を学ぶとともに、現代日本語文法、古典語文法の基本的事項を確認し、いくつかの個別的問題に関する発展的知識を身につける。更に、日本語文法の歴史的変遷の諸相や、近年の記述的語法研究に関する基本的な事柄について学習する。
---------------------	---

授業スケジュール	【第1～6回】いわゆる学校文法、及び文法学の基礎的概念についての知識を習得する。第7回講義以降は日本語の文法について、特に古典語を中心に学習する。学校文法の内容を再確認し、個別的事柄については、更に発展的な知識を身につける。【第7～12回】用言 【第13～21回】助動詞 【第22～26回】助詞 【第27～30回】特殊な構文や語法
----------	---

準備学習	高校までに既習の日本語文法・古典語文法の基礎事項を再度確認しておくことが望ましい。プリントは前もって配布するので、次週学習部分に前もって目を通しておくことを勧める。
履修上の留意点	学習用の古語辞典を持参すること。
成績評価の方法	筆記試験の点数などを総合的に判断する。
教科書／テキスト	プリントを配布する。
参考書	授業において随時紹介する。

履修コード	043711
科目名	日本史概説
担当者名	松本 信道 菅野 洋介 岩崎 孝和 浅倉 直美

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	日本の古代～近・現代の歴史的展開の過程を講述することにより、日本歴史への関心を高め、歴史学習の基礎を学び、次年度以降の専門科目をより深く理解するための一助とすることを目的とする。本講座では、それぞれの時代の政治・経済・文化などの諸様相について、関連史料の具体的な解釈を通じて概観したい。
---------------------	---

授業スケジュール	(1) ガイダンス (2) 日本国家の起源、(3) ヤマト政権の成立と展開、(4) 大化改新と古代国家の確立、(5) 律令国家の構造とその特質、(6) 奈良時代の政治と天平文化、(7) 平安王朝の成立とその文化、(8) 摂関政治の展開と貴族の生活 (以上、松本信道担当) (9) 院政と平氏政権、(10) 鎌倉幕府の成立、(11) 執権政治と武士の社会、(12) 蒙古襲来と鎌倉幕府の滅亡、(13) 室町幕府の成立、(14) 惣村の形成と農業・手工業の発達、(15) 室町幕府の衰退と戦国大名 (以上、浅倉直美担当) (16) 徳川政権の確立、(17) 近世の対外関係、(18) 近世村の世界①、(19) 近世村の世界②、(20) 近世の思想と文化、(21) 近世の都市世界、(22) 転換する近世社会 (以上、菅野洋介担当) (23) 幕末の動乱と明治維新、(24) 自由民権運動と明治憲法体制の成立、(25) 日本資本主義の成立と発展、(26) 近代文化の形成と発展、(27) 大正デモクラシーと第一次世界大戦、(28) ファシズムの台頭と第二次世界大戦、(29) 東西冷戦体制と戦後日本 (以上、岩崎孝和担当) (30) まとめ
----------	--

準備学習	高校卒業程度の日本史の基礎知識を身につけておくこと。
履修上の留意点	受動的でなく、主体的に学習してほしい。
成績評価の方法	各担当教員の授業期間内に小テストを4回実施し、それらの総合点と平常点とを加味して成績を評価する。
教科書/テキスト	
参考書	五味文彦・鳥海靖編『もういちど読む山川日本史』(山川出版社)。あるいは高校で使用した教科書でも可。
その他	授業の方法は講義形式で進める。

履修コード	047111 047112
科目名	日本文化史
担当者名	廣瀬 良弘

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 日本文化の歴史が、当時の社会の生産の仕組みや政治・経済・宗教などと深く関わりあったことに留意しながら、朝廷・公家・武家のみならず民衆が文化の創造に大きな役割を果たしていたことを明らかにしていきたいと思っています。そして、この日本文化は現代においても、多くは底流として、また、ときには、「日本の代表的な文化」として、存在しています。現代の文化と対比しながら、検討していきたいと思っています。 (到達目標) 日本の文化・歴史に関する知識を社会との関係から深めることを目標とします。
---------------------	--

授業スケジュール	日本文化の流れを概観し、民衆の躍動やその文化が顕著になってくる中世の文化を中心にその前後の文化にも注目しながら、文化の様相と特色について見ていきます。 ・日本文化史概観、・中世文化史研究の動向 (1, 2)、・鎌倉仏教と文化 (3~5)、・禅宗と五山文化 (6, 7)、・南北朝から室町期の文化 (8, 9)、・北山文化の展開 (10, 11)、・東山文化とその基盤 (12~15)、・中世の職能民 (16, 17)、・連歌師の旅 (18, 19)、・戦国社会と宗教 (18, 19)、・戦国社会の駆込寺 (20~22)、・大名領国の文化 (23, 24)、・統一政権とその文化 (25, 26)、・近世文化史研究の動向と寛永文化 (27~30)
----------	--

準備学習	日頃から日本の芸能や工芸品等に強い関心を示し、博物館等によく出かけて下さい。
履修上の留意点	講義の中に出てきた事項について、図書館の蔵書や辞書などで調べ直してみたり、現地に行ってみたりする必要があります。また、日本文化や歴史、宗教などをテーマとする博物館・美術館などの展示会を積極的に観覧し、できるかぎり「実物」に接する機会を持って下さい。受講する上では図書館所蔵の文化史・美術史に関する資料・ビデオ等を大いに活用することをすすめます。なお、本学の禅文化歴史博物館での文化史関連展示会の見学と学芸員による説明会を実施します。
成績評価の方法	定期試験の結果と授業の出欠を重視します。定期試験では一般論を回答しても正解とならないことが多いので注意して下さい。つまり授業に出席し、しっかりとしたノートができていないと合格点は取れません。
教科書/テキスト	とくに指定しません。必要な資料は随時コピーを配布します。
参考書	講義内容に関する博物館・研究所などを随時提示して行きます。

履修コード	017101 017102 017103
科目名	日本民俗学
担当者名	谷口 貢

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	日本民俗学は世代をこえて伝承されてきた習俗・慣習の調査・研究を通して、日本社会に展開する生活文化を追究する学問である。地域社会に伝承されてきた民俗文化に焦点をあてながら、生活文化において何が変化し、何が持続しているのかを検証し、われわれの現在の生活のありようを再考していきたい。
---------------------	---

授業スケジュール	(1~2) 民俗学とは (3~5) 民俗学の流れと現在 (6~7) 家族生活と住まい (8~10) 食をめぐる民俗 (11~12) 村と町のなりたち (13~15) 若者と一人前 (16~18) 婚姻と出産・子育ての民俗 (19~21) 女性・子ども・老人の民俗 (22~24) 葬送儀礼と先祖祭祀 (25~27) 里と海・山のなりわい (28~29) 祭りと年中行事 (30) 民俗宗教の諸相
----------	---

準備学習	教科書の該当箇所を事前に目を通しておくことが望ましい。
------	-----------------------------

履修上の留意点	夏期レポート及び小レポートを実施する予定。
---------	-----------------------

成績評価の方法	学年末に実施する筆記試験、それに夏期レポートと小レポートの合計をもって評価を行う。出席を重視する。
---------	---

教科書/テキスト	谷口貢・松崎憲三編著『民俗学講義-生活文化へのアプローチ-』2006年刊 (八千代出版) 2,100円 (税込)、ISBN 4-8429-1405-X
----------	---

参考書	講義内容を発展させるための参考文献は講義の中で紹介していきたい。
-----	----------------------------------

履修コード	017001
科目名	比較文学
担当者名	畑中 千晶

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	【授業概要】 「世界の中の日本文学」 日本文学をより深く知るための方法として、比較文学の可能性を探究していきます。
---------------------	---

まず、近代以前の日本語・日本文学が、近代以降、外国語・外国文学に接することで、どのように変質していったのかという大きな問いが考えられます。

次に、より現代的な課題として、海外で今なぜ日本の文学・文化に深く熱く関心が寄せられているのかという問いがあります。

最後に、外国語に訳された日本文学を、日本語母語話者が読む時に感ずる違和感・魅力と、それが触発する新たな読みの角度とはどのようなものかというテーマが挙げられます。

「世界の中の日本文学」をキーワードに、こうした多様な側面を見ていく予定です。

【到達目標】  
比較文学の視線を取り入れることで、自分自身の中で、今までとは異なる角度から日本文学に迫ることができるようになること、これを到達目標とします。

授業スケジュール	(1)~(5) 総論 比較文学とは何か/影響研究と対比研究/比較文学の新しい流れ (6)~(9) 文学者の異文化体験 (10)~(15) 翻訳研究 近代以降の翻訳論を中心に (16)~(21) 翻訳研究 日本文学の外国語訳を中心に (22)~(28) 海外からのまなざし (日本の言語・文化・思想を問うものとして) (29)~(30) 発展項目 比較文学の外縁
----------	---

準備学習	事前に配布した資料には目を通すようにしてください。また、文献の中に出てきた語彙(時に英語も含まれる)の意味が不明な(あるいは曖昧な)時には、必ず辞書を引く習慣をつけてください。
------	--

履修上の留意点	比較文学の考察は、二つ以上の言語を用いることで深化します。英語に加えて、第二外国語の学習にも力を入れると、相乗効果が期待できそうです。なお、講義の中では、考察の過程でフランス語を用いることがあります(フランス語を履修していなくても支障ないように解説を加えます)。
---------	---

成績評価の方法	クラスで指示した課題への取り組み(50%)、期末レポート(50%)を基本に、出席状況・授業態度等を勘案し総合的に評価します。
---------	--

教科書/テキスト	配布資料を用います。
----------	------------

参考書	必要に応じて適宜紹介。
-----	-------------

その他	YeStudy活用予定。
-----	--------------



履修コード	017801 017802 017803
科目名	美術史概説
担当者名	北野 良枝

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 日本絵画の流れを主要なジャンルや流派ごとに概観する。絵画の歴史を理解するにあたって、作品を参照する必要があるため、授業では毎回、作品の画像を映写する。 (到達目標) 日頃接する機会の少ない日本の近世以前の絵画に対する理解を深めることを目標とする。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>前期 平安時代から室町時代の絵画</p> <p>(1) ガイダンス</p> <p>(2) 絵画に関する基礎知識</p> <p>(3) ~ (5) 仏教絵画</p> <p>(6) ~ (8) 絵巻物</p> <p>(9) ~ (10) 肖像画</p> <p>(11) ~ (15) 室町時代の水墨画</p> <p>後期 室町末から江戸時代の絵画</p> <p>(16) ~ (20) 狩野派</p> <p>(21) ~ (24) 琳派</p> <p>(25) ~ (26) 浮世絵</p> <p>(27) ~ (28) 南蘋派と洋風画</p> <p>(29) ~ (30) 江戸から明治へ</p>
準備学習	授業で使用する資料をYeStudyに掲載するので、各自ダウンロードして持参すること。
履修上の留意点	授業中の私語は厳禁。
成績評価の方法	学年末に試験を実施し、その得点によって評価する。
教科書/テキスト	
参考書	
その他	YeStudyを活用する。

履修コード	017201 017202
科目名	編集実務
担当者名	小檜山 範男

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 私たちが手にする雑誌や書籍がどのようにして作られているのか。「編集すること」とは何か、編集者の資質等々、日ごろ現場で編集に携わっている立場から具体的に解説する。編集現場の実情をリアルタイムで報告、雑誌や書籍についての関心、理解を深める。また、文章を書く能力、文章の良し悪しを判断できる能力を身につけることなど、実務的なスキルアップを図る。</p> <p>(到達目標) 文章を書く能力、文章の良し悪しを判断できる能力を身につけることは勿論、「編集する」ことの仕事の内容を理解し、対象出版物の読者は誰なのかを常に理解し、読者のニーズにマッチした内容の出版物を作る(編集する)力を身につける。</p> <p>出版の基本は、まず「企画ありき」である。企画の立て方、構成力を磨く訓練、執筆者の選び方、原稿の依頼の仕方等々、実務に合った内容を理解し、編集者としてのスキルを身につけること。出版の世界に身をおく立場からの講義が中心になるが、私たちが目にし、耳にするすべての「情報」は、なんらかの形で「編集」という手が加えられている。TV、新聞等のニュース、雑誌、単行本、機関誌、ソーシャルメディアからいま注目の電子出版物に至るまで編集されて完成し、私たちに届く。そうした現実を理解し、情報を送り、情報を受け入れる能力を高める。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>(授業スケジュール) &lt;順不同&gt; ○編集とは何か ○私たちが取り巻く「情報」について考える ○「編集者」の役割、立場、仕事の内容 ○最近の編集現場の実情 ○「本が売れない」「でも書店に行けば本や雑誌があふれている」その意味するところは ○読者対象を細かくセグメント化して、多品種少量生産している出版業界の実態 ○講義者の持論とする「編集者はプロデューサーであれ」の意味するところ ○いい文章とは(いい文章を書ける力、いい文章を見分ける力) ○悪い文章とは(悪い文章を見分ける力) ○出版は「企画ありき」から始まる(企画の立て方、構成の作り方) ○具体的な雑誌(週刊誌、月刊誌)の作られ方 ○単行本の作られ方、システム。(例として「新書」の歴史、作られ方、新書ブームの背景) ○各出版社に新書編集長たちの現場からのナマの声を聞く授業も。 ○ヒットする企画とはどんなものか ○ヒットしなかった企画の数々、その理由は ○単行本・雑誌の基本的なサイズ、判型の基礎知識 ○紙のサイズの基礎知識 ○本のページ数の基礎知識 ○「校正」の基礎知識 ○印刷の基礎知識等々 ○理解度の確認のために随時、その週に読んだ雑誌や単行本の内容、感想、意見などを書いて提出 ○出版社や編集プロダクション等、編集現場の見学等も実施する予定。 ○自分の作りたい雑誌や単行本の企画を随時提出する。 ○電子書籍の現在おかれている状況、これからの課題等々にも触れる。</p>
----------	--

準備学習	<p>「編集」とか「編集者」に興味と関心を持つ人として、次のことは心がけてほしい。 ○本を読むこと(好きなジャンル、好きな作家について。(自分の言葉で話ができる程度でもよい) ○よく読んで好きな雑誌、その理由などが話せるように。その雑誌と同じジャンルの雑誌との比較を話せるように(好きな点、嫌いな点、気に入っている企画等々)。 ○週に一度は書店に行く意欲を持つことと新刊本に関心を寄せること。 ○新聞を読んでいることは最低条件。○新聞の出版広告などに目を向けていること。 ○携帯電話やパソコンのメールで用件は伝えられるが、なるべく自分の手で「手紙」を書く習慣を身につけておく。</p>
------	--

履修上の留意点	<p>○特筆することはない。 ○希望する人がいれば、実際に雑誌や単行本を作っている出版社や編集プロダクションを訪れて、編集現場を見せてもらう授業展開も可能。&lt;学外での実習&gt;ととらえた授業とする。希望者を、前期、後期に分けて実施することを考える。 ○見学先の出版社や編集プロダクションは、講義者のコネクションで数多くの会社が協力してくれることはいらない。</p>
---------	--

成績評価の方法	<p>(1) レポートとして、毎時間の講義の後には、その感想や意見、質問を短文にまとめて提出させ、次週まで講義者のコメントを添えて各自に返す。 (2) 通年の講義が終わるときは、「自分なりの新聞」「週刊誌の記事ふう」に4ページ程度の誌面をつくってみる。 (3) 授業中の質問や意欲をよく観察し、評価する。</p>
---------	--

以上(1)(2)(3)については、概ね(1)30%、(2)30%、(3)40%を目安に評価する。

教科書/テキスト	随時、講義に関連する新聞記事や雑誌、書籍の書評等、印刷物を配布します。
参考書	講義の進展、内容に合わせて、適宜タイムリーな参考書や資料を紹介します。

履修コード	017901 017902 017903
科目名	民間信仰論
担当者名	谷口 貢

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	日本社会の各地に展開している神祭りや信仰行事の具体的な調査事例を紹介しながら、神と人が織り成す様々な世界には、どのような意味があるのかを追究していくことにしたい。そして、民俗学の視点から民間信仰の性格や機能、あるいは現代的意義について考察を加える。
---------------------	--

授業スケジュール	(1~3) 民間信仰研究とフィールドワーク、(4~5) 民間信仰の性格、(6~10) 伊豆諸島青ヶ島の神祭りとシャーマニズム(巫俗)、(11~15) シャーマニズム(巫俗)の諸相、(16~18) 山岳信仰の性格、(19~23) 福島県会津地方の神社参拝の講集団、(24~25) 民間信仰の性格と既成宗教との関係、(26~28) 憑霊信仰の諸相、(29~30) 死霊結婚の習俗
----------	---

準備学習	講義内容に基づくレポート試験で成績評価を行うので、ノートを各自まとめておくこと。
------	--

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	学年末の課題レポートに基づいて成績評価を行う。出席を重視する。
---------	---------------------------------

教科書/テキスト	教科書は使用しない。必要に応じてプリントを用意して配付する。
----------	--------------------------------

参考書	授業で随時紹介する。
-----	------------

履修コード	016501
科目名	有職故実
担当者名	近藤 好和

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	10世紀後半以降の平安貴族社会で、和様化した公事(朝廷の儀式・政務)のマニュアルとして、令・格・式・儀式などを基礎に成立したのが有職故実である。従って、その扱う範囲は本来多岐にわたり、前近代では、有職故実研究はそのまま歴史研究でもあった。ところが、明治以降、有職故実が扱う範囲は、服飾・武具・調度・乗用具などの限定されたものになってしまった。しかし、これらが有職故実が扱う重要な分野であることは確かである。特にかかる「モノ」を実用の道具として即物的に扱うのが有職故実の特徴であり、「モノ」を現在の歴史学に取り込むためには、有職故実的な手法が不可欠と考える。また、それらの「モノ」を正しく理解することで、古典文学の理解もより深まる。そうしたなかで、本講義では、公家・武家の装束と中世の武具について講義する。
---------------------	--

授業スケジュール	前期から後期前半にかけて、公家男子装束・公家女子装束・武家装束を講義する。続いて後期後半は、中世の甲冑・弓箭・刀剣について講義する。
----------	--

準備学習	特になし
------	------

履修上の留意点	出席などは一切取らないが、授業は体系的に進めていくので、毎時間まじめに出席しなければ、単位取得は難しいであろう。また、毎時間、プリントを配布するが、それ以外の板書も多いので、ノートは必ず必要である。
---------	---

成績評価の方法	前・後期各一回の試験で判定する。具体的には、両試験の合計点を2で割り、60点以上を合格とする。なお、前期試験の成績不良者のうち、呼び出しに応じた学生に対しては、警告のうえ適切な救済処置を取る。
---------	--

教科書/テキスト	特になし。毎時間、プリント(文章と図版)を配布する。
----------	----------------------------

参考書	近藤好和『装束の日本史』平凡社新書 2007年 近藤好和『武具の日本史』平凡社新書 2010年
-----	--

# 專 門 教 育 科 目

## (2) 英 米 文 學 科



履修コード	027401
科目名	アメリカ文学演習I
担当者名	佐藤 江里子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 19世紀アメリカの女性詩人、Emily Dickinsonの詩を読む。 時代背景をふまえ、同時代、あるいは20世紀のアメリカ詩人と比較し、様々な角度からDickinsonを考察する。 (到達目標) 詩の精読を通して、英語力を高め、作品を原文で理解する楽しさを実感する。
---------------------	---

授業スケジュール	テキストに従い、1回の授業で4～6篇の詩を読む。毎回2～3人に発表してもらう。 発表者は事前に指名するので、きちんと準備をし、発表に臨むこと。 それぞれの発表が終わったら、作品についてディスカッションをするので、発表者以外の人も、自分が感じたこと、疑問点、解釈などをまとめておく。 詩の内容に応じて、Dickinsonが残した手紙や彼女の作品に関する評論、ほかの詩人の作品等を参照する。その場合はプリントを配布する。 前期後期の授業最終日に課題レポートを提出。
----------	--

- ・第1回 オリエンテーション・実力テスト
- ・第2回 プリント配布 (詩人・作品紹介)
- ・第3回 67, 76, 77, 98
- ・第4回 105, 125, 128
- ・第5回 130, 131, 165, 182
- ・第6回 193, 214, 216, 219
- ・第7回 228, 241, 249, 254
- ・第8回 258, 280, 285, 290
- ・第9回 301, 303, 306, 319
- ・第10回 321, 322, 324, 327
- ・第11回 328, 338, 341, 348
- ・第12回 365, 375, 384, 389
- ・第13回 401, 412, 421, 435
- ・第14回 まとめ・発展問題
- ・第15回 理解度の確認 (課題レポート)
- ・第16回 自由英作文・実力テスト
- ・第17回 441, 448, 449, 465
- ・第18回 478, 501, 510, 511
- ・第19回 526, 528, 533, 536
- ・第20回 547, 561, 566, 569
- ・第21回 585, 621, 636, 650
- ・第22回 657, 664, 668, 670
- ・第23回 674, 675, 683, 686
- ・第24回 690, 696, 709, 712
- ・第25回 713, 744, 745, 754
- ・第26回 764, 770, 784, 789
- ・第27回 792, 812, 824, 828
- ・第28回 829, 883, 891, 917
- ・第29回 943, 946, 974, 975
- ・第30回 理解度の確認 (課題レポート)

\*数字は作品番号

準備学習	発表者はもちろん、出席者は全員、次週の授業で読む作品を精読し、必ず辞書をひいて日本語訳をつける。作品に対するコメントを日本語でまとめておく。特に、発表者はプレゼンテーションすることを念頭に置き、きちんとした発表原稿を準備すること。(発表原稿は、発表終了後に提出。)
------	--

履修上の留意点	・必ず予習をし、辞書を用意して授業に出席すること。 ・授業中の携帯電話の使用は、一切認めない(辞書機能使用も不可)。
---------	---

成績評価の方法	・年2回(前期後期)の課題レポート(50%)と授業内の発表、提出物、授業態度などの平常点(50%)から総合的に評価する。特に授業態度を重視する。
---------	--

教科書/テキスト	①『エミリー・ディキンソン詩選』(新倉俊一注釈、研究社出版) ②『対訳ディキンソン詩集』(亀井俊介著、岩波文庫)
----------	---

参考書	授業中に紹介します。
-----	------------

履修コード	027501
科目名	アメリカ文学演習II
担当者名	梶台 七重
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	20世紀アメリカ文学のCapote, O' Connor, Kerouacらの短編小説を精読し、英文の colloq, vulgar, dial, など多様な表現に触れる。必ずしも翻訳に徹するのではなく、英語表現の理解の幅を広げて、作者の意図を把握し、読みすすめてゆく面白さを感じられるようになることを目標とする。
授業スケジュール	1回目 授業概要 2-10回目 Truman Capote, 'Miriam' 11-17回目 Jack Kerouac, 'Alone on a Mountaintop' 18-30回目 Flannery O' Connor, 'A Good Man is Hard to Find'
準備学習	文として意味が繋がる様に、とにかく何度も辞書を引いて下調べしておくこと。
履修上の留意点	演習科目により、毎回予習が前提となります。特に発表者は、担当時に無断欠席をした場合大きく減点となるので注意してください。辞書は必携のこと。訳す際には必ず自分の言葉で考えること。発表やレポートの際に日本語訳本をまる写しした場合、無効とします。
成績評価の方法	レポート(前期・後期1回ずつ)50%、平常点(授業内の発表、発言、態度)50%
教科書/テキスト	Contemporary American Southern Writers (『現代アメリカ南部作家選』)、株式会社南雲堂、¥1,800+税、ISBN 029200 c-77, その他は随時、プリントを配布。
参考書	

履修コード	027601
科目名	アメリカ文学演習III
担当者名	松本 昇
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	アメリカ黒人文学に親しむ。
授業スケジュール	アメリカ黒人男性作家James Baldwinの傑作短編Sonny's Blues, Richard WrightのBig Boy Leaves Home, Ralph EllisonのFlying Homeを精読する。1時間で3ページの割合で進む。時代背景をしながら、時々「ミシシッピ・バーニング」のようなビデオを観る。
準備学習	あてられた学生は時代背景や固有名詞等を事前に調べておくこととする。
履修上の留意点	前もって学生にあてられた範囲を精読してもらおう。それから私が時代背景を踏まえて解説する。そのあとでディスカッションをする。前もってあてられた学生は休まないこと。事前に連絡なしで休んだ学生の平常点はないものとする。
成績評価の方法	授業への参加度30点、前期及び後期にそれぞれ課題を2回提出(20点)、後期に試験(50点)の計100点とする。
教科書/テキスト	上記の作品のプリントを配布する。  1時間に3ページずつ精読する。ミクロとマクロで読むことの大切さを知ってほしい。
参考書	

履修コード	027701
科目名	アメリカ文学演習IV
担当者名	古富 猛
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	ホーソンやメルヴィル等イギリス性の強いアメリカ文学から、いわゆるアメリカ社会に根ざしたアメリカ文学の代表的執筆家であるソローとフォークナーの作品の概説と作品のひとつを演習します。
授業スケジュール	前期はソローについて、(1)~(15)で、最初の(1)~(2)はソローが持つ意味を解説して後、学生にその紀行文を、予習してきてもらい、演習のひとつとします。後期はフォークナーについて、その作品のひとつ意味を(16)~(17)で解説し、その作品のひとつを(18)~(30)で読解演習します。
準備学習	他の作品にあたること。
履修上の留意点	演習に必要なのは基礎的(中、高で習った事)能力なので、もう一度復習してもらう事を望みます。
成績評価の方法	前期は、筆記試験は実施しないで、各時間に2名ぐらいソローの作品をプリント使用で、予習発表してもらい評価とします。後期はフォークナーの作品を、各学生と購読形式で、作品演習し、それについての筆記試験を実施します。
教科書/テキスト	前期はソローの『The Main Woods』のプリントを配布しテキストとします。 後期はフォークナーの短篇、「まだら馬」を読みます。
参考書	

履修コード	027801
科目名	アメリカ文学演習V
担当者名	佐藤 千春

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	アメリカの30年代を代表する作家の一人、Nathanael West(1903-40)の作品『ミス・ロンリーハーツ』を講読する。未曾有の世界恐慌が始まろうというこの時代に、作家が、そして作品の主人公、登場人物が人生に何を求めようとしたのか等を、現代の時代と比較しながら読み込んでみる。 時代を超えた現代人の孤独を考えてみよう。
---------------------	--

授業スケジュール	講読する作家・作品に関しては、授業開講時に簡単に説明する。あらかじめ発表部分を割り当てておき、それを音読・訳読していただく方法で進めていく。発表者への質問、こちらからの説明などを含め、作品を分析し、作家のねらいなども併せて探っていく。
----------	---

準備学習	とくに必要ではないが、扱う作家について予め文学史等で調べておくのがよいであろう。
------	--

履修上の留意点	遅刻・欠席はマイナス評価となり、これが重なる場合には履修・試験を受ける資格を失うこともあるので注意されたい。
---------	--

成績評価の方法	前期・後期の最終授業時にテストを行なうが、割り当てられた発表の回数、ならびにその内容、姿勢など、さらに遅刻・出欠など総合的に判断し評価を出す。
---------	---

教科書/テキスト	プリントを使用する。 授業開始時に、作家・作品等に関する簡単な説明、授業を履修するにあたっての注意事項、またプリントの一部を紹介する予定であるが、履修を決めたものには作品の残りのプリントを次回授業時に配付する。
----------	--

上記の準備をするので、この授業を受講するものは、履修する、しないにかかわらず、最初の授業は必ず出席していただきたい。

参考書	必要に応じ、授業内において、その都度指示していく。
-----	---------------------------

その他	必要に応じて指示する。
-----	-------------

履修コード	025201
科目名	アメリカ文学史
担当者名	佐藤 千春

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	一般にアメリカの歴史は170から始まると言えるが、この地への植民がどのような夢を抱いてなされたものかという序論から論じ、ある意味ではその夢が各作家の様々な作品の中に具現されていると考えて行くのがこの講義のねらいである。一口で言えば、アメリカの夢なるものが、どのような作家の、どのような作品の中に見られるか、またはその夢の挫折の表われは何か、等を探って行きたい。
---------------------	--

授業スケジュール	アメリカへの移民の動機、すでにその中にアメリカの夢の原型があったとするのが出発点である。この植民地時代の思想にふれ、次に180合理主義の時代、これはアメリカ独立革命の時代であるが、これを経てアメリカ・ルネッサンスと呼ばれる文学史上の時期に入る。講義はできるだけ作家、作品の羅列を避け、作家の主要作品に込められた中心思想、テーマなどに焦点をしぼり、分析と解説を行ってみる。もちろん時代の動向や文芸思潮をからませ講義を進めて行く。
----------	---

準備学習	毎週授業時に必要とされる参考書、テキスト等に関して説明する。それに基づいて準備をすることが望ましい。
------	--

履修上の留意点	講義は必ずしもテキスト通りに進むとは限らないし、内容も異なることもある。したがって講義内容を適宜ノートにとり、内容をまとめておくこと。
---------	---

毎回ではないが、出欠の確認をする。しかしこれは成績評価とはまったく関係はない。試験を受ける資格があるか否かを調べるだけのものだとすることを承知していただきたい。

成績評価の方法	期末に筆記試験を行うが、ノート、参考書等、持ち込みは許可していない。筆記試験に関しては、毎時間必要と思われる箇所を説明するので注意しておくこと。年度の終り近くになって特別に試験にあたっての注意をするわけではない。
---------	--

教科書/テキスト	西田実『アメリカ文学史』（成美堂）2,205円
----------	-------------------------

参考書	『アメリカ文学案内』（朝日出版社） その他は講義を進めて行く中で、適宜紹介して行く。
-----	---



履修コード	026401
科目名	アメリカ文学特講I
担当者名	東 雄一郎

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>アメリカ詩人の作品を精読し、アメリカの文化、芸術、社会、経済、政治等を考えます。アメリカ詩を通時的、共時的に考察し、アメリカとは何かを考えるのが、この講義の主眼です。グローバル・ヴィレッジ化や越境化が進行する21世紀において、ダイナミックなアメリカ文学の動向は、アングロ・アメリカン（白人）文学を視座にした従来の閉塞的な把握方法では、捉えきれません。アメリカ文学、広義にはアメリカの芸術一般の根源的な特徴は、その多様性で、また、アメリカ的なものの定義と強調・主張です。</p> <p>How do I find America? What is America? Who is an American? これらの自意識や自問のうちに、様々なアメリカ詩人たちが、独自の詩を創作しています。巨大なサラダボール化したエスニックのアメリカが、今後どのような方向に進もうとしているのか。その未来のヴィジョンを受講者各自に考えまてもらいます。アメリカ詩の精読を通して、英語力を高め、また、リスニング力を高めるために、ジャズやミュージカルの英語の歌も鑑賞します。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>毎回、数名の詩人・芸術家を取り上げ、その作品を精読します。歴史、文化、社会、時代精神、その時代の思潮も考察します。また各時代の代表的な音楽や映画も随時取り上げます。</p> <p>①アメリカ文学の発生と実用文学、並びに白人移民による先住民への迫害、ジェイムスタウンとプリマスが意味するもの（1～4）②アメリカの荒野と自然、歌の夢並びに独立革命（5～7）③「明白な運命」の嘘・分離戦争としての南北戦争と西部開拓時代、ホイットマンを読む（8～10）④アマーストの隠遁者の魔女、エミリー・ディキンソンを読む。彼女は如何にして厳格な神を飼い馴らしたのか ⑤アメリカの世紀末からモダニズム、農本主義の完全崩壊と産業資本主義の形成・第1次世界大戦と迷える若者たちとアメリカン・エグザイル、パウンドとエリオットのモダニズム ⑥アフリカン・アメリカン文学の台頭、ハーレム、そしてジャズとは何か・ラングストン・ヒューズたちのルネッサンス・地霊を守るモダニスト（11～15）⑦大恐慌から第2次世界大戦、ピンクのリボンに飾られた小箱（または精巧に作られた壺）のような詩、形式主義者たちの詩を読む（16～18）⑧沈静した社会への反逆と対抗文化、ビート詩人とギンズバーグを読む。大胆な告白をする詩人たちのプロテスト詩 ⑨ロバート・フライ、ジェイムズ・ライトの牧歌的瞑想とアウトサイダー指向 ⑩ポストモダニズム考察、ソローに回帰するエコロジー、ディキンソンの妹リッチのフェミニズム詩を読む（19～20）⑪祖国を奪われた人々、チカーノ／チカーナの詩人、ネィティヴ・アメリカンの詩人を読む（21～25）⑫アメリカの子どもの詩、アメリカの児童文学と詩、マザーグースはボストンに永眠する（26～）</p>
----------	---

準備学習	イギリス詩、アメリカ詩に限らず、日本語の詩に親しんでおくこと。
履修上の留意点	3回以上の無断欠席者は、評価対象外者となります。病気や事故等、理由のある欠席は、欠席届を必ず提出すること。
成績評価の方法	①年間5回ほどの授業内小レポート（25%）②2000字以上の前期レポート（25%）③2000字以上の後期レポート（25%）④質疑応答等の授業への貢献度（25%）
教科書／テキスト	新倉俊一著『アメリカ詩入門』研究社 2000円程度、その他、プリント配布。
参考書	開講時、並びに講義内にて随時指示する。

履修コード	026501
科目名	アメリカ文学特講II
担当者名	馬場 聡

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義では「ロード・ナラティブ」という視点からアメリカ文学を読み解いていきます。「移動」、「旅」、「探求」、「逃避」、「交通」といったキーワードに関連する文学作品や映画をとりあげて、それらの特質について考えていきます。
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 【講義】 概論: ロード・ナラティブのアメリカ</li> <li>2. 【テキスト読解】 Old Country Advice to the American Traveler (W. Saroyan)</li> <li>3. 【講義】 ハイウェイの文学: The Grapes of Wrath</li> <li>4. 【講義】 ハイウェイの文学: On the Road, Cars, etc.</li> <li>5. 【テキスト読解】 ; Girls on the Road (E. Caldwell) 講読</li> <li>6. 【テキスト読解】 ; Girls on the Road (E. Caldwell) 分析</li> <li>7. 【講義】 駆動する児童文学: The Adventures of Huckleberry Finn</li> <li>8. 【講義】 駆動する児童文学: The Wonderful Wizard of Oz, etc.</li> <li>9. 【映画分析】 ; The Wonderful Wizard of Oz 鑑賞</li> <li>10. 【映画分析】 ; The Wonderful Wizard of Oz 分析</li> <li>11. 【講義】 サイケデリック・トリップと対抗文化: Junkie, The Electric Kool-Aid Acid Test, Easy Rider, etc. (1)</li> <li>12. 【講義】 サイケデリック・トリップと対抗文化: Junkie, The Electric Kool-Aid Acid Test, Easy Rider, etc. (2)</li> <li>13. 【映画分析】 Easy Rider (1)</li> <li>14. 【映画分析】 Easy Rider (2)</li> <li>15. 前期のまとめ</li> <li>16. 【講義】 スペース・エイジの放浪者; 2001: A Space Odyssey, The Martian Chronicles, etc. (1)</li> <li>17. 【講義】 スペース・エイジの放浪者; 2001: A Space Odyssey, The Martian Chronicles, etc. (2)</li> <li>18. 【テキスト読解】 Marooned off Vesta (I. Asimov) (1)</li> <li>19. 【テキスト読解】 Marooned off Vesta (I. Asimov) (2)</li> <li>20. 【講義】 緑のアメリカを求めて: Trout Fishing in America</li> <li>21. 【講義】 緑のアメリカを求めて: Into the Wild</li> <li>22. 【映画分析】 ; Into the Wild (1)</li> <li>23. 【映画分析】 ; Into the Wild (2)</li> <li>24. 【講義】 水路の文学: Moby Dick, etc. (1)</li> <li>25. 【講義】 水路の文学: Moby Dick, Huckleberry Finn, etc. (2)</li> <li>26. 【テキスト読解】 The Professor's Yarn (M. Twain) (1)</li> <li>27. 【テキスト読解】 The Professor's Yarn (M. Twain) (2)</li> <li>28. 【講義】 ロード・ナラティブの現在 (1)</li> <li>29. 【講義】 ロード・ナラティブの現在 (2)</li> <li>30. まとめ</li> </ol>
----------	---

準備学習	各講義で要求される課題は確実にこなしてください。
履修上の留意点	原則として遅刻や無断欠席は厳禁。辞書は必携のこと。作品はあらかじめ必ず読んでおくこと。
成績評価の方法	平常点 (50%) 前期レポート (25%) 後期レポート (25%)
教科書/テキスト	Trips & Journeys; Five American Short Stories, Kaibunsha
参考書	巽孝之『アメリカ文学史—駆動する物語の時空間』慶應義塾大学出版会 梶井俊介編『アメリカの旅の文学』昭和堂 海野弘『ハイウェイの誘惑—ロードサイド・アメリカ』グリーンアロー出版社 青山南『旅するアメリカ文学 名作126』アクセス・パブリッシング

履修コード	026701
科目名	アメリカ文学特講IV
担当者名	梶台 七重

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	Beat Generationの作家・詩人たちの作品を、アメリカ40-50年代の社会・文化的背景を基にした様々なメディアを活用しながら読み、戦後アメリカのカウンター・カルチャーの始点を探り、今日的意義を考える。 前期では、アメリカ40-50年代の時代背景について触れ、Beat Generationと呼ばれた詩人・作家たちを総体的に捉え、文学・文化にどのような影響をもたらしたのかを探り、社会と個の意識の変化について考察する。また、女性とビートという点についても触れることで、男女の自己表現の在り方や、家族の在り方の変化を考察する。 後期では、Jack KerouacのOn the Roadを読む。作品の中に見られる様々なテーマを取りあげる。各々作品を読んだ上で、個々の興味を掘り下げてゆくことができるようになって欲しい。
---------------------	--

授業スケジュール	1回目 授業概要 2回目 Beat Generationについて 3-4回目 dvd『ビートニク』 5回目 アメリカ40-50年代について①社会的背景 6回目 アメリカ40-50年代について②文化的背景 7回目 Allen Ginsberg 8回目 William S. Burroughs 9回目 Gary Snyder 10回目 Gregory Corso 11-12回目 女性とBeat 13-14回目 映画・音楽・写真への影響 15回目 前期まとめ 16回目 Jack Kerouacについて 17回目 On the Road -introduction 18-20回目 On the Road 1部 21-23回目 On the Road 2部 24-26回目 On the Road 3部 27-28回目 On the Road 4部 29回目 On the Road 5部 まとめ 30回目 Kerouac On the Road 以外の作品について
----------	---

準備学習	特になし
履修上の留意点	
成績評価の方法	毎回、授業内容の確認や感想の小レポートを出席表の代わりとして提出してもらい、平常点とする50%、レポート(前期・後期1回ずつ)50%。
教科書/テキスト	Jack Kerouac, 'On the Road,' Penguin Classics, ISBN 9780141182674 その他、随時ハンドアウトを配布。
参考書	雑誌 「ユリイカ」1999年 11月号(特集 「ケルアック ビートの衝撃」)、青土社、 ¥1,300、ISBN 4-7917-0051-1 他、その都度、提示する。

履修コード	026801
科目名	アメリカ文学特講V
担当者名	林 明人

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	授業の概要 ヘミングウェイの作品の中でも主に短編の批評を見る。
---------------------	------------------------------------

到達目標  
アメリカ文学におけるヘミングウェイの特異性を理解出来るようになること。

授業スケジュール	<table border="0"> <tr> <td>1 オリエンテーション</td> <td>16 「Soldier' s Home」 (1)</td> </tr> <tr> <td>2 アメリカ短篇小説 (1)</td> <td>17 「Soldier' s Home」 (2)</td> </tr> <tr> <td>3 アメリカ短篇小説 (2)</td> <td>18 「Soldier' s Home」 (3)</td> </tr> <tr> <td>4 アメリカ短篇小説 (3)</td> <td>19 「Soldier' s Home」 (まとめ)</td> </tr> <tr> <td>5 アメリカ短篇小説(まとめ)</td> <td>20 「Big Two-Hearted River」 (1)</td> </tr> <tr> <td>6 ヘミングウェイについて(1)</td> <td>21 「Big Two-Hearted River」 (2)</td> </tr> <tr> <td>7 ヘミングウェイについて(2)</td> <td>22 「Big Two-Hearted River」 (3)</td> </tr> <tr> <td>8 「Indian Camp」 (1)</td> <td>23 「Big Two-Hearted River」 (まとめ)</td> </tr> <tr> <td>9 「Indian Camp」 (2)</td> <td>24 「The Snows of Kilimanjaro」 (1)</td> </tr> <tr> <td>10 「Indian Camp」 (3)</td> <td>25 「The Snows of Kilimanjaro」 (2)</td> </tr> <tr> <td>11 「Indian Camp」 (まとめ)</td> <td>26 「The Snows of Kilimanjaro」 (3)</td> </tr> <tr> <td>12 「The Doctor and the Doctor' s Wife」 (1)</td> <td>27 「The Snows of Kilimanjaro」 (4)</td> </tr> <tr> <td>13 「The Doctor and the Doctor' s Wife」 (2)</td> <td>28 「The Snows of Kilimanjaro」 (まとめ)</td> </tr> <tr> <td>14 「The Doctor and the Doctor' s Wife」 (3)</td> <td>29 ヘミングウェイの長篇(1)</td> </tr> <tr> <td>15 「The Doctor and the Doctor' s Wife」 (まとめ)</td> <td>30 ヘミングウェイの長篇(2)</td> </tr> </table>	1 オリエンテーション	16 「Soldier' s Home」 (1)	2 アメリカ短篇小説 (1)	17 「Soldier' s Home」 (2)	3 アメリカ短篇小説 (2)	18 「Soldier' s Home」 (3)	4 アメリカ短篇小説 (3)	19 「Soldier' s Home」 (まとめ)	5 アメリカ短篇小説(まとめ)	20 「Big Two-Hearted River」 (1)	6 ヘミングウェイについて(1)	21 「Big Two-Hearted River」 (2)	7 ヘミングウェイについて(2)	22 「Big Two-Hearted River」 (3)	8 「Indian Camp」 (1)	23 「Big Two-Hearted River」 (まとめ)	9 「Indian Camp」 (2)	24 「The Snows of Kilimanjaro」 (1)	10 「Indian Camp」 (3)	25 「The Snows of Kilimanjaro」 (2)	11 「Indian Camp」 (まとめ)	26 「The Snows of Kilimanjaro」 (3)	12 「The Doctor and the Doctor' s Wife」 (1)	27 「The Snows of Kilimanjaro」 (4)	13 「The Doctor and the Doctor' s Wife」 (2)	28 「The Snows of Kilimanjaro」 (まとめ)	14 「The Doctor and the Doctor' s Wife」 (3)	29 ヘミングウェイの長篇(1)	15 「The Doctor and the Doctor' s Wife」 (まとめ)	30 ヘミングウェイの長篇(2)
1 オリエンテーション	16 「Soldier' s Home」 (1)																														
2 アメリカ短篇小説 (1)	17 「Soldier' s Home」 (2)																														
3 アメリカ短篇小説 (2)	18 「Soldier' s Home」 (3)																														
4 アメリカ短篇小説 (3)	19 「Soldier' s Home」 (まとめ)																														
5 アメリカ短篇小説(まとめ)	20 「Big Two-Hearted River」 (1)																														
6 ヘミングウェイについて(1)	21 「Big Two-Hearted River」 (2)																														
7 ヘミングウェイについて(2)	22 「Big Two-Hearted River」 (3)																														
8 「Indian Camp」 (1)	23 「Big Two-Hearted River」 (まとめ)																														
9 「Indian Camp」 (2)	24 「The Snows of Kilimanjaro」 (1)																														
10 「Indian Camp」 (3)	25 「The Snows of Kilimanjaro」 (2)																														
11 「Indian Camp」 (まとめ)	26 「The Snows of Kilimanjaro」 (3)																														
12 「The Doctor and the Doctor' s Wife」 (1)	27 「The Snows of Kilimanjaro」 (4)																														
13 「The Doctor and the Doctor' s Wife」 (2)	28 「The Snows of Kilimanjaro」 (まとめ)																														
14 「The Doctor and the Doctor' s Wife」 (3)	29 ヘミングウェイの長篇(1)																														
15 「The Doctor and the Doctor' s Wife」 (まとめ)	30 ヘミングウェイの長篇(2)																														

準備学習	事前に作品を読んでおくこと。
------	----------------

履修上の留意点	電車等の遅延以外の遅刻は認めない。
---------	-------------------

成績評価の方法	1. レポート (50%) 2. 試験 (30%) 3. 平常点 (20%) 尚、レポートと試験はそれぞれが最低30%に達していない場合は単位認定はされない。
---------	---

教科書/テキスト	プリントを使用します。
----------	-------------

参考書	適宜指定する。
-----	---------

履修コード	026901
科目名	イギリス文学演習I
担当者名	河崎 征俊

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	昨年度に引き続きWilliam Shakespeareの四大悲劇のひとつと言われるHamletを精読しながら、伝統と新しさを総合的に描き切ったこの劇作家の英語の面白さならびにルネサンス期の社会状況や文化的背景について考察する。
---------------------	---

授業スケジュール	(1~3) Shakespeareの英語ならびに文献について。(4) 第1幕の復習。(5~8) 第2幕1場。(9~15) 第2幕2場。(16~19) 第3幕1場。(20~26) 第3幕2場。(27~29) Shakespeareの時代的ならびに文化的背景。(30) まとめならびに総復習。
----------	--

準備学習	シェイクスピア文学を理解するために不可欠な時代背景ならびに作家の伝記について総復習しておくこと。
------	--

履修上の留意点	Shakespeareの四大悲劇に関する書物を熟読し、その文学的特性についてあらかじめ把握しておいていただきたい。なお、開講時にShakespeareの文学ならびに英語に関する文献リストを配布するので、図書館等で文献確認をし、研究に役立てていただきたい。
---------	---

成績評価の方法	(a) 夏期レポート、(b) 1月の定期試験、ならびに(c) 出席状況等を中心に総合的に評価する。なお、この講義は演習科目なので、全員参加という形で行いたい。予習状況も評価の対象とする予定。
---------	---

教科書/テキスト	Riverside版をコピーで配布する予定。
----------	------------------------

参考書	
-----	--

履修コード	027001
科目名	イギリス文学演習II
担当者名	川崎 明子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	ギッシングとギヤスケルの短編を読み、英文読解力の向上、テキスト分析の基礎技術の習得、表現力の向上を目指します。小説の黄金期と言われるヴィクトリア朝の文豪たちの原文の魅力を味わえます。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>前期</p> <p>(1) オリエンテーション</p> <p>(2) 精読</p> <p>(3~13) 作品読解。うち1回はレポート作成法とレポートアウトライン作成。</p> <p>(14) 小テスト、レポート提出。</p> <p>(15) レポートの全体コメントと個別返却。優秀レポートの発表。</p> <p>後期</p> <p>(1~13) 作品読解。</p> <p>(14) 小テスト、レポート提出。</p> <p>(15) レポートの全体コメントと個別返却。優秀レポートの発表。</p>
----------	--

準備学習	特になし
------	------

履修上の留意点	<p>1 十分な予習をして臨むこと</p> <p>2 辞書を持参すること</p> <p>3 レポート作成においては書式を指定するので最低限のパソコンの知識を持つこと</p>
---------	--

成績評価の方法	3分の2以上の出席が必要。出席、授業への貢献度、小テストの結果、レポートの内容により総合的に評価。
---------	---

教科書/テキスト	田中英史、横山幸三 註解 『古典イギリス短編集』 (成美堂) ¥1,300 ISBN4-7919-0029-4-C1382
----------	--

参考書	<p>1 川口喬一『イギリス小説入門』(研究社)イギリス小説の流れと特徴を原文入りで易しくまとめた良書。小説研究のヒントも得られます。</p> <p>2 Eastwood, Oxford Practice Grammar: Intermediate (Oxford: 2006)</p> <p>大変優れた文法書。練習問題がついていますが、解説部分に目を通すだけでも確実に英語力が向上するでしょう。</p>
-----	--

その他	受講者が50名を超えた場合は選抜試験を行うことがあります。
-----	-------------------------------

履修コード	027101
科目名	イギリス文学演習III
担当者名	高野 正夫

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	イギリスの1950年代に登場した 'Angry Young Men' とほぼ同じ時期に現われた一群の詩人たちについて読んでいく予定です。'The Movement' と呼ばれた彼らは、イギリス人の日常生活を分かりやすい率直な言葉で描写していたが、彼らが自らの詩という表現方法によってどのように20世紀後半のイギリス社会とのつながりを認識していったのかなどについて考察していきます。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>'The Movement' に属する詩人、主にPhilip Larkin をとりあげ、前、後期でできるだけ多くの作品を読んでもいきます。</p> <p>(1~8) THE NORTH SHIP (9~15) THE LESS DECEIVED (16~24) THE WHITSUN WEDDINGS (25~30) HIGH WINDOWSなどの詩集を読んでもいきます。</p>
----------	--

準備学習	発表の時以外にもできる限り予習をして、授業に出ること。
------	-----------------------------

履修上の留意点	演習ですので予習を欠かさずに受講して下さい。
---------	------------------------

成績評価の方法	前期のレポートや後期の試験、出席状況、平常点などによって成績評価をする。
---------	--------------------------------------

教科書/テキスト	教場にて指示する。
----------	-----------

参考書	Philip Larkin, COLLECTED POEMS (Faber and Faber, 1988)
-----	--

その他	それぞれの詩人の作品を精読しながら、彼らの詩的特質や伝記的な側面について考えていきます。
-----	--

履修コード	027301
科目名	イギリス文学演習V
担当者名	大淵 利春

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	トマス・ハーディの短編小説を読む。英文学を原文で読む語学力の習得に加え、ハーディ文学の面白さを味わいたい。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>前期は、最初の3時間程度の作家H. G. ウェルズの紹介をし、その後テキストにそって短編を読んでいく。具体的なスケジュールは以下の通り。</p> <p>前期 (1) Introduction (2) The Life of Thomas Hardy (3) The Works of Thomas Hardy (4) 'To Please His Wife' ① (5) 'To Please His Wife' ② (6) 'To Please His Wife' ③ (7) 'To Please His Wife' ④ (8) 'To Please His Wife' ⑤ (9) 'To Please His Wife' ⑥ (10) 'The Son's Veto' ① (11) 'The Son's Veto' ② (12) 'The Son's Veto' ③ (13) 'The Son's Veto' ④ (14) 'The Son's Veto' ⑤ (15) Review</p> <p>後期 (16) Introduction (17) 'The Melancholy Hussar of the German Legion' ① (18) 'The Melancholy Hussar of the German Legion' ② (19) 'The Melancholy Hussar of the German Legion' ③ (20) 'The Melancholy Hussar of the German Legion' ④ (21) 'The Melancholy Hussar of the German Legion' ⑤ (22) 'For Conscience' Sake' ① (23) 'For Conscience' Sake' ② (24) 'For Conscience' Sake' ③ (25) 'For Conscience' Sake' ④ (26) 'For Conscience' Sake' ⑤ (26) Presentation ① (27) Presentation ② (28) Presentation ③ (29) Review ① (30) Review ②</p>
----------	---

また、ハーディは長編も優れているので、折に触れて長編作品も紹介していきたい。合わせて、ハーディの映像化された作品にも触れていきたい。

準備学習	テキストの予習が必要。
履修上の留意点	テキストと英和辞書持参のこと。
成績評価の方法	前、後期のレポート(70%)、日頃の授業への参加度(30パーセント)で評価する。
教科書/テキスト	Thomas Hadry著『妻ゆえに・他 Thomas Hardy作品集』英宝社 1260円 ISBN4-269-01210-2
参考書	参考書はたくさんあるので、授業中に指示します。
その他	文学が好きな人の受講を期待します。

履修コード	025301
科目名	イギリス文学史I
担当者名	河崎 征俊

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	古期から18世紀までのイギリス文学の流れを概観し、時代思潮ならびに各時代に現れた主要作家・作品等に触れながらイギリス文学の特質について考察する。
---------------------	--

授業スケジュール	(1) イギリスの風土と文学について。(2~3) アングロ・サクソン文学の内容と特質。(4~5) 中世後期の文学の内容と特質。(6~8) チョーサー文学。(9~10) ルネサンス前期の文学の内容と特質。(11~12) ルネサンス後期の文学と特質。(13~15) シェイクスピア文学。(16~17) 17世紀の文学の内容と特質。(18~19) ジョン・ダンとその一派。(20~21) ジョン・ミルトン文学。(22~23) 新古典主義文学。(24~25) 18世紀の文学の内容と特質。(26~29) 市民社会と小説の隆盛。(30) まとめならびに総復習。
----------	---

準備学習	イギリス文学の流れを知るためにイギリスの歴史を総復習しておくこと。
履修上の留意点	イギリス史に関する一般的な書物を熟読し、時代の流れを把握しておいていただきたい。授業は講義形式で行い、重要な作品ならびに文献はできるだけコピーで配布するので、文献整理を忘れないでいただきたい。
成績評価の方法	(a) 夏期レポート、(b) 1月の定期試験、ならびに(c) 出席状況等を中心に総合的に評価する。(a) 20パーセント、(b) 70パーセント、(c) 10パーセントの割合で成績を評価する予定。
教科書/テキスト	相島倫嘉『イギリス文学の流れ』(南雲堂、3800円)
参考書	

履修コード	025401
科目名	イギリス文学史II
担当者名	加藤 光也

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	18世紀後半以降のイギリス文学の展開を、各時代の代表的な作品(詩、小説、評論)に焦点を当てながらたどりまします。 19世紀と20世紀の英文学の大きな流れをたどりながら、とくにロマン主義やヴィクトリア時代の小説の諸相、20世紀のモダニズム文学への理解を深めることを目指します。
---------------------	--

授業スケジュール	授業はおおよそ以下のスケジュールに沿って進めます。 (前期) (1) 前期ロマン主義(ゴシック小説)、 (2~5) ロマン主義(ブレイク、ワーズワス、キーツ、シェリー他)、 (6~9) 19世紀の小説(オースティン、ディケンズ、プロンテ他)、 (10~11) ヴィクトリア朝の詩(ブラウニング、テニスン)、 (12~13) 近代の批評(ペイター、ワイルド他)、 (14) 19世紀から20世紀へ(ハーディ、コンラッド)、 (15) 前期のまとめと小テスト (後期) (16~18) モダニズムの詩と批評(アイイツ、エリオット)、 (19~23) モダニズムの小説(ジョイス、ロレンス、ウルフ他)、 (24~25) 大戦間の文学、 (26) 大戦後の文学——怒れる若者たち、 (27) ファウルズとレッシング、 (28~29) 1980年以降の文学(ラーキン、ヒーニー、カーター、イシグロ他)、 (30) 後期のまとめと小テスト
----------	---

準備学習	授業では主要な作家の具体的な作品の紹介に主眼を置きますので、授業でカバーしきれない作家や各時代の社会・文化的背景等については、教科書を熟読して補うようにしてください。
------	---

履修上の留意点	授業後に質問の時間をとるようにするので、積極的に質問して疑問点を確認するようにしてください。また授業で扱った作品を、翻訳でかまわないので、できるだけ読むように努めてください。
---------	---

成績評価の方法	授業への取り組みと平常点(3割)、学期末の試験(7割)によって総合的に評価します。
---------	---

教科書/テキスト	相島倫嘉『イギリス文学の流れ』南雲堂、¥3,885、ISBN-13: 978-4523292111
----------	---

参考書	教科書を補足する小説、詩の原文テキストはハンドアウトで配布します。
-----	-----------------------------------

履修コード	025601
科目名	イギリス文学特講I
担当者名	石原 孝哉

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	イギリスのルネッサンス期の文学について講義します。主な作家とその作品を通じて、イギリス文学の大きな流れを読み取るのがこの講義の目的です。
---------------------	--

授業スケジュール	前期は、1、「ヨーロッパにおけるルネッサンス運動の流れとその実態」、2、「イギリスのルネッサンス」について、3、Thomas More、4、Edmund Spenser、5、Christopher Marlowe、6、Ben Jonson、7、William Shakespeare、8、シェイクスピアと文学、9、『ロミオとジュリエット』(1)、10、『ロミオとジュリエット』(2)、11、『夏の夜の夢』(1)、12、『夏の夜の夢』(2)、13、『リチャード2世』、14、『ヘンリー4世』、15、シェイクスピアの歴史劇、などについて講じます。中心になるのはShakespeareの作品で、教科書にそって講義を進めます。7月には、夏休みのレポートの課題を提示します。 後期は、前期に引き続き教科書にそって Shakespeareについて講義します。1、『ハムレット』(1)、2、『ハムレット』(2)、3、『リア王』(1)、4、『リア王』(2)、5、『アントニーとクレオパトラ』(1)、6、『アントニーとクレオパトラ』(2)、7、『尺には尺を』(1)、8、『尺には尺を』(2)、9、シェイクスピアのロマンス(1)、10、シェイクスピアのロマンス(2)、11、『あらし』(1)、12、『あらし』(2)、13、John Bunyan、14、John Milton (1)、15、John Milton (2)、について講じます。プレゼンテーションやパワーポイントについて説明した後、グループごとに研究発表を求められます。
----------	---

準備学習	シェイクスピアの作品を通読し、あらかじめその概観を頭に入れておいてください。
------	--

履修上の留意点	講義形式で授業を進めますが、文学理論の部分は多少難解なので、意欲ある学生の受講を求めます。
---------	---

成績評価の方法	期末試験、レポート、研究発表の結果により評価します。
---------	----------------------------

教科書/テキスト	ノースロップ・フライ著『ノースロップ・フライのシェイクスピア講義』三修社
----------	--------------------------------------

参考書	石原孝哉 『シェイクスピアと超自然』南雲堂
-----	-----------------------

履修コード	025701
科目名	イギリス文学特講II
担当者名	高野 正夫

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>18世紀後半までの英詩の世界では、秩序のある洗練された詩が好まれ、自然に対してはそれほど強い関心が持たれなかった。「理性の時代」と呼ばれた18世紀であったからこそ、詩人は秩序を尊び、粗野で洗練されていないものを拒絶したのであろう。その結果として、ある意味では快適で居心地のよい都会が、人の近づき難い荒々しい自然よりも好まれたのである。</p> <p>もちろん、DrydenやPopeなどに代表される古典主義的な詩の特徴である洗練された秩序に逆らった詩人もいた。James Thomsonのように、人間を研究することなく、自然そのものの素朴な美しさを描いた詩人もいれば、また、Edward YoungやRobert BlairそしてThomas Grayなどのように、主に「死」を主題として陰うつな詩を書いた墓地派の詩人たちもいた。しかしながら、彼らのほとんどは18世紀の詩の特徴である、不自然で形式的な言葉遣いや技巧から抜け出すことはできなかった。</p> <p>そして、1798年にWilliam WordsworthとSamuel Taylor Coleridgeによって出版されたLYRICAL BALLADSという、1冊の詩集によってこのような古典主義的で因襲的な詩の流れが大きく変わってしまったのである。いわゆるロマン主義の時代の到来を告げるこの詩集に表現された素朴な言葉や主題は、保守的な批評家たちにとってはまったく受け入れ難い、あまりにも革新的なものであったが、この小さな流れは、その後19世紀の前半まで英詩の主流となっていった。</p> <p>イギリスの北西部に位置する湖水地方を愛し、そこに住んだこの2人の詩人の中でも、特に自然を愛したのがワーズワスであった。ワーズワスの詩に描かれた美しい、しかし時には厳しい姿を露にする自然をうたった詩や、彼が得意とした、普通の人々の様々な人生の絵模様をうたった物語詩や、William Cowperなどの作品を読んでいく予定です。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	(1~8) Love Poetry (9~15) Nature Poetry (16~24) Religious Poetry (25~30) Poetry of Meditationなど多様な作品を読んでいきます。
----------	--

準備学習	発表の時以外にもできる限り予習をして、授業に出ること。
------	-----------------------------

履修上の留意点	
成績評価の方法	前期のレポートと期末試験によって評価する。

教科書/テキスト	教場にて指示します。
----------	------------

参考書	
-----	--

履修コード	025801
科目名	イギリス文学特講III
担当者名	濱口 真木

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	代表的な詩人を取り上げて、作品の精読を中心にさまざまな解釈を紹介しながら、それぞれの詩人の生き方や思想などを考察する。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>前期はイギリス・ロマン主義の代表的な詩人に関して生き立ちや代表作など基本的な解説を中心に進めていく。作品の精読や解釈をまじえながら文化、社会、宗教等の問題、詩人たちの人間観などを読み取る。主に取り上げる詩人は、イギリス・ロマン主義の先駆けとなるブレイク（第1回~3回）、その基礎を築いたワーズワスやコウルリッジ（第4回~8回）、そしてイギリス・ロマン主義の発展に重要な役割を果たしたバイロン、シェリー、キーツ（第9回~15回）。後期は主にキーツの作品や手紙を精読しながらキーツの実人生や詩心などを考察する。取り上げる作品は『エンディミオン』（第1回~10回）、『ハイペリオン』、『ハイペリオンの没落』など（第11回~15回）。</p>
----------	--

準備学習	予備知識なしに授業を受けても理解し難いので、あらかじめ授業で取り上げる詩人について調べておいてください。
------	--

履修上の留意点	引用箇所は翻訳を使わないので、辞書を持参してください。電子辞書でも可。
---------	-------------------------------------

成績評価の方法	前期1回、後期1回のレポートにより評価する。出席等を評価に加える場合もある。
---------	--

教科書/テキスト	教場にて指示します。
----------	------------

参考書	
-----	--



履修コード	025901
科目名	イギリス文学特講Ⅳ
担当者名	落合 真裕

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>授業概要： イギリス人の日常生活に深く浸透している「ユーモア」について学んでいきます。イギリスの文学作品は現代流行しているアニメや漫画と言った分野にも影響を与えていますが、必ずと言っていいほどユーモアが不可欠な要素として含まれています。日本で言う笑いを誘うユーモアのセンスと英国のユーモアはどのように違うのか、演劇や映画を通して考えていきます。イギリス人特有の「ユーモア」を理解することで、映画や文学に対する理解が深まるだけではなく、皆さん自身の人生をより楽しく生きるヒントが得られるはず。19世紀から現代にかけての戯曲を中心に扱いますが、現代のイギリス映画にも触れていきます。</p>
---------------------	--

到達目標：  
映画や演劇を通してイギリス人特有の「ユーモア」を理解することで、英国文学作品だけではなく英国文化や英国人に対する理解をより深めることを目指します。

授業スケジュール	<p>第1回： ガイダンス 第2回： 英国のユーモアについて 第3回： 英国風習喜劇とユーモア 第4～14回： 19世紀末文学作品とユーモア 第15回： 理解度の確認 第16～29回： 20世紀から現代の文学作品及び映画とユーモア 第30回： 理解度の確認</p>
----------	--

準備学習	授業で取り上げる作品やそれに関連する作品に興味を持ったものに関しては、各自積極的に調べ学習するように心がけてください。
------	---

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	出席は3分の2以上が必要です。レポート70%、平常点30%で総合的に評価します。
---------	--

教科書/テキスト	特になし。随時プリントを配布します。
----------	--------------------

参考書	
-----	--

履修コード	026001
科目名	イギリス文学特講Ⅴ
担当者名	モート. セーラ

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>この授業では、19世紀初頭のイギリス絵画や、カントリー・ハウス、庭園、その時代のファッションを視野におきながら、ジェイン・オースティンの世界を考察します。 テキストとしてジェイン・オースティン (1775-1817) 著『分別と多感』を読みます。この古典的名著は、1811年に出版され、当時の諸問題を扱ったものです。この小説は、2人の姉妹の愛と結婚についての物語であり、女性にとって制約の多い19世紀の社会における、分別の重要性について考察した物語でもあります。また、通常は分別の対比概念として捉えられていた多感について、オースティンの考えを知る優れたテキストであり、ロマン主義の時代におけるオースティンの立場を示すテキストでもあるといえます。 J.M.W. ターナー (1775-1851)、ジョン・コンスタブル (1776-1837)、ジョージ・スタップス (1724-1806) など当時の風景画家の絵画も参考にします。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>最初の授業でさらに詳しく説明しますが、次の事柄を考察していきます。 * 社会階級やダンスや当時のファッションなどの風習。 * 自然や環境の変化をジェイン・オースティンがどう扱ったのか。 * 女性の教育や結婚に対する考え方。 ペアや小グループによるディスカッションも行ないます。</p>
----------	---

準備学習	英和辞典、英英辞典を持参します。毎週本を読んでいきます。
------	------------------------------

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	レポートや課題の提出もあります。
---------	------------------

教科書/テキスト	<p>テキスト： * 'Sense and Sensibility'. Jane Austen (Oxford Bookworms. Oxford University Press. 2008. ISBN978-0-19-479233-2). ¥1,150. * 'Sense and Sensibility'. Jane Austen. Edited by James Kinsley Oxford World's Classics (Oxford World's Classics. Oxford University Press. 2008. ISBN978-0-19-953557-6). ¥1,450. (生協で購入してください。)</p>
----------	---

参考書	オースティンの研究書および19世紀のイギリス絵画の参考書については、最初の授業で説明します。
-----	--

- DVD：  
\* 『いつか晴れた日に』 アン・リー監督、1995年。  
\* 『分別と多感』 TVドラマ、ジョン・アレクサンダー監督、2011年。  
\* 『ジェイン・オースティン 秘められた恋』 ジュリアン・ジャロルド監督、2007年。(オースティンの書簡集をもとにした映画)

その他	* 授業は英語で行います。
-----	---------------

履修コード	026101
科目名	イギリス文学特講VI
担当者名	西原 克政

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	イギリスの桂冠詩人であったテッド・ヒューズ (1930—98) が、1967年に出版した現代詩のアンソロジーでもあり詩作方法を解説した本をテキストに用いて、詩を精読する練習をしてゆく。アンソロジーとして集められた作品は、イギリスだけでなくアメリカやヨーロッパ諸国の作品も収録されていて、世界詩のアンソロジーといった趣があるのが特徴である。編者ヒューズの動物詩や人間の描き方から、自然と人間との関わりを考察してゆきたい。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>前期スケジュール:</p> <p>1. イントロダクション 2. 「思索—狐」 3. 「カワカマス」 4. 「アナグマ」  「ハエ」 5. 「ロバ」 「鷹」 6. 「魚」 「星のカタツムリ」 7. 「驚異」  8. 「嵐」 9. 「嵐」 10. 「風がラッパのように吹いてくる」 11. 「雨のような音がした」 12. 「雨上がりに」 13. 「霞」 14. 「冬的一篇」 15. サマリー</p> <p>後期スケジュール:</p> <p>16. 「エジプトの庭園での魚の生態」 17. 「フリーニーさん」「彼女の夫」  18. 「挽歌」「アルフレッド・コーニング・クラーク」 19. 「あなたは」「悲歌」  20. 「ブタを眺める」「裸のアーモンドの木」 21. 「ウオドゥウォ」 22. 「蚊」  23. 「私の猫ジェフリー」 24. 「ムクドリモドキを見る13の方法」 25. 「ヴァージニア」 26. 「インヴァースネイド」 27. 「嵐が丘」 28. 世界詩という発想  29. ヒューズとプラス 30. サマリー</p>
----------	---

準備学習	あらかじめ作品ならびにその解説を前もって読んでくること。すくなくとも自分の意見を具体的に表現できるようにすることが大切です。
履修上の留意点	テキストで扱う作品が、詩であるということを頭に入れておいてください。自分の体験の中で、少なくとも詩を読んで興味があるほうがいいでしょう。日本の詩への興味を持っていることも、外国詩を読む場合に大きな助けとなります。
成績評価の方法	出席率、翻訳課題、リーディング課題、前期・後期試験の総合評価。
教科書／テキスト	テキスト：テッド・ヒューズ『ポエトリ・イン・ザ・メイキング』フェイバー・アンド・フェイバー社、2008年 (978-0-571-23380-9)
参考書	必要に応じて授業中適宜指示します。

履修コード	023201 023202
科目名	英語演習 作品講読I
担当者名	加藤 光也

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	新聞・雑誌の記事やエッセイ、短篇、インタビューなどさまざまな英文テキストの読解と、音声教材を利用したリスニングの訓練を行います。多様な英文の読解をおして語彙の増強と英語のさまざまな表現法にたいする理解を深め、合わせて、リスニングの力を向上させることを目指します。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>全体で14章ある教科書を以下のスケジュールで読んでいきます。</p> <p>(前期)</p> <p>(1~2) Chapter 1、  (3~4) Chapter 2、  (5~6) Chapter 3、  (7~8) Chapter 4、  (9~10) Chapter 5、  (11~12) Chapter 6、  (13~14) Chapter 7、  (15) 前期のまとめと小テスト</p> <p>(後期)</p> <p>(16~17) Chapter 8、  (18~19) Chapter 9、  (20~21) Chapter 10、  (22~23) Chapter 11、  (24~25) Chapter 12、  (26~27) Chapter 13、  (28~29) Chapter 14、  (30) 後期のまとめと小テスト</p>
----------	---

準備学習	授業では分担して訳読してもらったり、グループワークで課題に答えてもらったりしますが、必ず事前に辞書、事典でテキストの予習をしておいてください。また、授業で出された課題の自習を欠かさないこと。
履修上の留意点	語学の習得には、日常の継続的な積み重ねが大事です。インターネットや新聞、映画など日頃触れる英語に関心を持ち、自主的に英語力の向上を目指してください。
成績評価の方法	授業への取り組みと平常点 (4割)、学期末の試験 (6割) を総合的に評価します。
教科書／テキスト	Select Readings: Second Edition Intermediate Student Book, Oxford University Press. ¥2,500-, ISBN-13: 9780194332125
参考書	特にありません。

履修コード	023101 023102
科目名	英語演習 作品講読I
担当者名	唐澤 一友
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	リスニングおよびリーディングの能力を高めることを目標に授業を進める。また、そのためには語彙力の増強が必須であるため、語彙力を高めることをもう一つの目標とする。リスニングについては日常的な文脈における英語の聞き取りを中心に扱う。一方、リーディングについては、専門分野のリーサーチを英語で出来るだけの英語読解力を身に付けることを目指し、学術的な文脈で用いられる英語を読む練習をする。
授業スケジュール	(前期) 1. オリエンテーション、2. ~15. リスニングおよびリーディングの演習 (後期) 1. オリエンテーション、2. ~15. リスニングおよびリーディングの演習
準備学習	英文法が苦手な人は簡単な文法書で良いので、一通り見直しておいてください。
履修上の留意点	リーディングについては、必ず授業で扱う部分を事前に日本語に全訳し、授業の際に全訳を持参すること。予習の際によく分からなかった点については、授業で積極的に質問して下さい。
成績評価の方法	出席、授業への取り組み、および期末テストにより評価します。  * なお、3分の1以上欠席した者には単位は出ない。
教科書/テキスト	順次プリントを配布する。
参考書	

履修コード	023401 023402
科目名	英語演習 作品講読I
担当者名	川崎 明子
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	英語力の基礎を固めます。読解、文法、語彙、聴き取り、英会話、英作文を総合的に学習します。ペアワーク、グループディスカッション、ディベート、プレゼンテーションも行います。
授業スケジュール	前期 (1) オリエンテーション (2~13) 教科書に沿って進む。(14) 小テスト (15) まとめ 後期 (1~13) 教科書に沿って進む。(14) 小テスト (15) まとめ
準備学習	特になし
履修上の留意点	1 数種類の辞書を使い予習をして臨むこと 2 第一回目の授業より必ず辞書を持参すること 3 提出物は書式を指定します。授業でマニュアルを配りますが、最低限のパソコンの知識があることが望ましいでしょう。
成績評価の方法	出席は3分の2以上が必要。出席、小テスト、提出物、発表に加え、授業への参加・貢献度により総合的に評価します。
教科書/テキスト	杉村醇子 他 『総合教材：ヴィクトリア朝からの贈りもの』(英宝社、2011年)1,900円 ISBN978-4-269-15014-0 C1082
参考書	Eastwood, Oxford Practice Grammar: Intermediate (Oxford: 2006)

履修コード	023301 023302
科目名	英語演習 作品講読I
担当者名	佐藤 真二
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	総合的な英語力の養成を目的とする。
授業スケジュール	TOEIC: Part I, II (1-8) Part III, IV (9-15) IDENTITY: Unit 1-4 (16-23) Unit 5-8 (24-30)
準備学習	前回までの授業内容をよく復習しておくこと。
履修上の留意点	毎週課題を出す。 毎回予習の上出席すること。
成績評価の方法	前期末、後期末の試験および授業内の発表や提出物、出席によって評価する。
教科書/テキスト	『新 TOEIC TEST 総合スピードマスター入門編』(Jサーチ出版) IDENTITY(Oxford University Press)
参考書	

履修コード	029101
科目名	英語学演習I
担当者名	ピアス. D. M.

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	PROGRAM: Conversation in economics, sociology, and politics, organized in dialogues or groups. We will pursue three levels of speech practice: 1) Practice in daily conversation of such as that of which you are already capable. 2) Semi-abstract conversation, elicited by a mixture of lecture and dialogue. Topics will be sociological. 3) Academic conversation. The third level introduces a new level of vocabulary and speech pattern. Academic conversation prepares many of you for overseas university study.
---------------------	--

PURPOSE: To raise English proficiency for good results in the shushoku katsudo. This is the highest level of English conversation practice offered by the university.

ALIA: Grammar, reading, and composition will be practiced every week, in an oral style that you have never before encountered.

LOGISTICS: Three absences per semester permitted. Reviews are didactic, not disciplinary, and unannounced. Final assessment is likely to be generous, as people in this class are sincere and self-motivated. Classes proceed closely according to the textbook; you must bring the textbook to every class meeting.

授業スケジュール	SCHEDULE OF TOPICS																														
	<table> <tr> <td>CLASS 1 Addressing people</td> <td>CLASS 16 Consumption</td> </tr> <tr> <td>CLASS 2 Addressing people</td> <td>CLASS 17 Courtship</td> </tr> <tr> <td>CLASS 3 Social hierarchy</td> <td>CLASS 18 Courtship</td> </tr> <tr> <td>CLASS 4 Social hierarchy</td> <td>CLASS 19 Adolescence</td> </tr> <tr> <td>CLASS 5 Self expression</td> <td>CLASS 20 Adolescence</td> </tr> <tr> <td>CLASS 6 Self expression</td> <td>CLASS 21 Social classes</td> </tr> <tr> <td>CLASS 7 Gift-giving</td> <td>CLASS 22 Social classes</td> </tr> <tr> <td>CLASS 8 Gift-giving</td> <td>CLASS 23 Candor</td> </tr> <tr> <td>CLASS 9 Informality</td> <td>CLASS 24 Candor</td> </tr> <tr> <td>CLASS 10 Informality</td> <td>CLASS 25 Authority</td> </tr> <tr> <td>CLASS 11 News coverage</td> <td>CLASS 26 Authority</td> </tr> <tr> <td>CLASS 12 News coverage</td> <td>CLASS 27 Employment</td> </tr> <tr> <td>CLASS 13 Personal freedom</td> <td>CLASS 28 Employment</td> </tr> <tr> <td>CLASS 14 Personal freedom</td> <td>CLASS 29 Politicians</td> </tr> <tr> <td>CLASS 15 Consumption</td> <td>CLASS 30 Politicians</td> </tr> </table>	CLASS 1 Addressing people	CLASS 16 Consumption	CLASS 2 Addressing people	CLASS 17 Courtship	CLASS 3 Social hierarchy	CLASS 18 Courtship	CLASS 4 Social hierarchy	CLASS 19 Adolescence	CLASS 5 Self expression	CLASS 20 Adolescence	CLASS 6 Self expression	CLASS 21 Social classes	CLASS 7 Gift-giving	CLASS 22 Social classes	CLASS 8 Gift-giving	CLASS 23 Candor	CLASS 9 Informality	CLASS 24 Candor	CLASS 10 Informality	CLASS 25 Authority	CLASS 11 News coverage	CLASS 26 Authority	CLASS 12 News coverage	CLASS 27 Employment	CLASS 13 Personal freedom	CLASS 28 Employment	CLASS 14 Personal freedom	CLASS 29 Politicians	CLASS 15 Consumption	CLASS 30 Politicians
CLASS 1 Addressing people	CLASS 16 Consumption																														
CLASS 2 Addressing people	CLASS 17 Courtship																														
CLASS 3 Social hierarchy	CLASS 18 Courtship																														
CLASS 4 Social hierarchy	CLASS 19 Adolescence																														
CLASS 5 Self expression	CLASS 20 Adolescence																														
CLASS 6 Self expression	CLASS 21 Social classes																														
CLASS 7 Gift-giving	CLASS 22 Social classes																														
CLASS 8 Gift-giving	CLASS 23 Candor																														
CLASS 9 Informality	CLASS 24 Candor																														
CLASS 10 Informality	CLASS 25 Authority																														
CLASS 11 News coverage	CLASS 26 Authority																														
CLASS 12 News coverage	CLASS 27 Employment																														
CLASS 13 Personal freedom	CLASS 28 Employment																														
CLASS 14 Personal freedom	CLASS 29 Politicians																														
CLASS 15 Consumption	CLASS 30 Politicians																														

準備学習	Class preparation: The course proceeds exactly according to the series of topics in the textbook. You can prepare for the upcoming class by reading the first five pages, starting from the last exercise of the class.
------	---

履修上の留意点
---------

成績評価の方法	FINAL ASSESSMENT: evaluation of your acquired English ability depends 70% on your class performance; in this class you will be expressing your own opinions. Attendance is extremely important, whereas examinations have minor effect on the final assessment. Even if a student cannot speak English at all, he/she has as much a chance as the other students to score well, because assessment is relative to improvement over initial ability.
---------	---

教科書/テキスト
----------

参考書
-----

履修コード	029001
科目名	英語学演習I
担当者名	三浦 弘

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然な英語を聴き取ったり、通じる英語を話したりするうえで欠かせない、発声のメカニズムと英語発音の基本を体系的、かつ網羅的に学習する。</li> </ul> <p>(到達目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発音記号の精密表記に習熟して、発音とリスニング力の向上に利用する。</li> <li>・言語音声の生理的メカニズムを精密な発音記号を習得しながら学び、英語の母音・子音に関する注意事項から始め、音節の概念、単語の強勢と文の強勢の違い、話しことばに見られる音声変化までを概観する。また、母語である日本語の音声客観的に認識し、英語音声との対照が自覚できるように人間の言語音全般に触れる。</li> </ul>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>前期</p> <p>第1回 イントロダクション、第2-3回 IPA consonants 第4-5回 IPA vowels 第6-7回 Phonetic transcription 第8-9回 The role of larynx 第10-11回 Place of articulation 第12-13回 Manner of articulation 第14回 Voice-place-manner labels 第15回 前期のまとめ</p> <p>後期</p> <p>第16-17回 Head diagrams 第18-19回 Phonation 第20回 Phonetic features 第21回 Vowel description 第22-23回 Consonant variation 第24-25回 Secondary articulations 第26-28回 Articulatory settings 第29回 Voicing diagrams 第30回 後期のまとめ</p>
----------	---

準備学習	教科書は洋書であるが、必ず予習時に自分で解説を読み、練習問題をやってくる。
------	---------------------------------------

履修上の留意点	精密な発音記号への習熟を目指すので、発音辞典に親しみ、努力してほしい。授業は演習形式で行うので、出席を重視する。
---------	--

成績評価の方法	平常点 (分担発表と積極的な参加度、出席重視)、および各学期末レポートによる総合評価
---------	--

教科書/テキスト	Ashby, Patricia 著 Speech Sounds (2nd ed.) (2005) Routledge, 2,100円 ISBN 978-0415341783
----------	--

参考書	<p>Jones, D. 他著 Cambridge English Pronouncing Dictionary (18th ed.) with CD-ROM (2011) Cambridge University Press, 3,920円 ISBN 978-0521152556</p> <p>Roach, Peter 著 English Phonetics and Phonology (4th ed.) with Audio CDs (2009) Cambridge University Press, 3,910円 ISBN 978-0521717403</p> <p>Collins, B. &amp; Mees, I. M. 著 Practical Phonetics and Phonology: A Resource Book for Students (2nd ed.) (2008) Routledge, 2,340円 ISBN 978-0415425148</p> <p>Pullum, G. K. &amp; Ladusaw, W. A. 著 Phonetic Symbol Guide (2nd ed.) (1996) Univ. of Chicago Press, 2,360円 ISBN 978-0226685366</p> <p>Wells, J. C. 著 English Intonation: An Introduction (with Audio CD) (2006) Cambridge University Press, 3,650円 ISBN 978-0521683807</p> <p>Wells, J. C. 著 Longman Pronunciation Dictionary (3rd ed.) with CD-ROM (2008) Pearson ESL, 3,650円 ISBN 978-1405881180</p> <p>ピーター・ローチ著 (島岡 丘他訳) 『英語音声学・音韻論』 (1996) 大修館 3,990円 ISBN 4469243922</p>
-----	--

履修コード	029201
科目名	英語学演習II
担当者名	唐澤 一友

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	英文法・語法のおさらいをし、よりしっかりした英語を使えるための基礎を固める。本講義では特に文法・語法の基礎を固めることで、しっかりした英文を書くための力をつけることを目指す。
---------------------	---

授業スケジュール	毎回配布するプリントを使いながら、文法・語法の重要事項を確認します。重要事項確認のためには、TOEICやTOEFL等で出た（あるいはその対策のために作られた）問題を多く用いる予定です。文法事項を確認した上で、これを応用した英作文をすることにより、学んだ重要事項を実際に使うことが出来るかどうかを確認します。
----------	---

（前期）1. イントロダクション、2. ～15. 文法・語法の重要事項の確認および英作文

（後期）前期と同様に行います。

準備学習	英文法が苦手な人は、簡単な文法書で良いので一通り見直しておいてください。
------	--------------------------------------

履修上の留意点	出席と授業への取りくみを重視します。
---------	--------------------

成績評価の方法	出席、授業への取り組み、および各学期中に何度か行われる小テストにより評価します。
---------	--

\* 特に出席と授業への取り組みを重視します。3分の1以上欠席した者には単位は出しません。

教科書／テキスト	ハンドアウトを配布します。
----------	---------------

参考書	
-----	--

履修コード	029301
科目名	英語学演習III
担当者名	町田 尚子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	世界共通語としての英語と多様な英語の双方を視野に入れ、英文科の学生が知っておくべき英語と英語の歴史に関する基本的な知識の修得と考察が中心です。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>第1週 Introduction: What is English?</p> <p>第2週 David Crystal, The English Languageおよびプリント資料で英語の多様性の現状を、英語使用の多様性(母語・第一言語、第二言語、外国語として)から概観します。</p> <p>第3週 David Crystal, The English Languageおよびプリント資料で英語の多様性の現状を、地理的な広範さ・地域差から概観します。</p> <p>第4週 英語の多様性を歴史的背景の外面史からみず。</p> <p>第5週 英語の歴史的变化を外面史と関連付け、言語接触の観点で概観します。古英語期のキリスト教化、テーン人の侵攻・支配が英語の変化にどのような影響を及ぼしたかを考えます。</p> <p>第6週 英語の歴史的变化を外面史と関連付け、言語接触の観点で概観します。中英語期への転換となるノルマンの征服とフランス語支配が英語の変化にどのような影響を及ぼしたかを考えます。</p> <p>第7週 英語学および言語学の基本的知識を音声、音韻について共時的側面と通時的側面に言及して説明(復習)します。</p> <p>第8週 英語学および言語学の基本的知識を形態、統語(文法)について共時的側面から説明(復習)します。</p> <p>第9週 古英語入門(1) 音韻</p> <p>第10週 古英語入門(2) 語形変化と文法</p> <p>第11週 古英語入門(3) 語形変化と文法</p> <p>第12週 初期中英語入門</p> <p>第13週 チョーサーの頃の英語</p> <p>第14週 初期近代英語入門</p> <p>第15週 理性の時代と英語</p> <p>第16週 アメリカ英語とは</p> <p>第17週 英語の特徴(1) 語彙について: 英語はなぜ同義語が多いか</p> <p>第18週 英語の特徴(2) 音韻について: 英語の長母音に何が起こったか</p> <p>第19週 英語の特徴(3) 語形変化・活用による文法関係を示す機能の消失</p> <p>第20週 英語の特徴(4) 語順の確立</p> <p>第21週 英語の特徴(5) 助動詞の発達</p> <p>第22週 “文法”とは(1)</p> <p>第23週 “文法”とは(2)</p> <p>第24週 “文法”とは(3)</p> <p>第25週 “文法”とは(4)</p> <p>第26週 さまざまの英語(1)場における使い分け(Register)</p> <p>第27週 さまざまの英語(2)話し言葉と書き言葉</p> <p>第28週 さまざまの英語(3)New Media(Internet)における英語</p> <p>第29週 さまざまの英語(4)Text English</p> <p>第30週 英語の未来</p>
----------	--

準備学習	英語学、音声学、英米文学の基礎知識を復習しておくこと。
履修上の留意点	欠席する場合は、メール(machida@komazawa-u.ac.jp)で連絡し、プリント教材、課題の指示を受けること。
成績評価の方法	授業中の課題等発表の評価点(20%)、前期末(9月)と後期末(1月中旬)に提出するエッセイ・

レポート（各40%）を総合して成績評価点を出します。

教科書／テキスト

David Crystal: The History of English (久保内瑞郎他編注『クリスタル：英語史入門』) 初版1993年、重版2008年 金星堂 ISBN978-4-7647-0856-9 C3082  
及びプリント資料使用。

参考書

David Crystal, The English Language第2版 (2002年) Penguin Books  
ISBN 0-14-100396-0  
R. L. Trask, Language: The Basics第2版 (1999年、2001年リプリント) Routledge  
ISBN 0-415-20089-X  
その他の参考書は教室で指示します。

履修コード 029401

科目名 英語学演習Ⅳ

担当者名 狩野 晃一

授業概要/  
到達目標 (ねらい)

英語史・英語学的観点から初期英語 (Old English, Middle English, Modern English) の作品を読み、そこに現われる語学的な問題について関心と理解を深め、後期にはテーマを決めて発表してもらう。現代英語の不思議やそれとの関わりを歴史的に大まかに、しかし論理的に理解することを目指す。

授業スケジュール

第1回 introduction  
第2回 英語の歴史  
第3回 近代英語概説  
第4回 近代英語文献講読  
第5回 近代英語文献講読  
第6回 近代英語文献講読  
第7回 中英語概説  
第8回 中英語文献講読  
第9回 中英語文献講読  
第10回 中英語文献講読  
第11回 中英語文献講読  
第12回 古英語概説  
第13回 古英語文献講読  
第14回 古英語文献講読  
第15回 古英語文献講読  
第16回 学生による研究発表  
第17回 前回発表のフィードバックおよびディスカッション  
第18回 学生による研究発表  
第19回 前回発表のフィードバックおよびディスカッション  
第20回 学生による研究発表  
第21回 前回発表のフィードバックおよびディスカッション  
第22回 学生による研究発表  
第23回 前回発表のフィードバックおよびディスカッション  
第24回 学生による研究発表  
第25回 前回発表のフィードバックおよびディスカッション  
第26回 学生による研究発表  
第27回 前回発表のフィードバックおよびディスカッション  
第28回 研究発表まとめ(1)  
第29回 研究発表まとめ(2)  
第30回 まとめ

準備学習

初期英語の文献を現代英語訳、日本語翻訳の力をかりて読むことを授業前に行って欲しい。

履修上の留意点

初期英語に不案内であっても現代英語訳や日本語訳などの助けをかりながら読んでゆくので、初学者も歓迎する。積極的に授業に取り組む態度が求められる。  
夏季休業中にテーマを決定して研究し、まとめたものを後期に発表してもらう。発表内容を次の回で皆で検討しディスカッションを行い、各自のテーマを共有するとともに理解を深める。

成績評価の方法

前期の授業内での発表と後期の研究発表を中心に評価する。  
\*なお、3分の1以上欠席した者には単位は出ない。

教科書／テキスト

教場にて指示する。

参考書



履修コード	024701
科目名	英語学概論
担当者名	佐藤 真二

授業概要/  
到達目標 (ねらい)

英語学の諸項目に関する基礎的な知識を身につける事を目的とする。

授業スケジュール

- 主な講義内容は以下の通り。
- 1) What is linguistics? (言語学とは何か) 1-2
  - 2) Phonetics (音声学) 3-8
  - 3) Phonology (音韻論) 9-15
  - 4) Morphology (形態論) 16-17
  - 5) Lexicology (語彙論) 18-19
  - 6) Syntax (統語論) 20-21
  - 7) Semantics (意味論) 22-23
  - 8) Linguistic schools in the twentieth century (20世紀の諸言語学派) 24
  - 9) Branches of linguistics (言語学の諸分野) 25-30

準備学習

前回までと授業内容をよく復習しておくこと。

履修上の留意点

成績評価の方法

前期末及び学年末の試験によって評価する。

教科書/テキスト

J. D. O' Connor, Better English Pronunciation, (Cambridge University Press) 1980, (Paperback)

参考書

参考文献は教場にて紹介する。

履修コード	025501
科目名	英語史
担当者名	唐澤 一友

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	世界の共通語とまでいわれるようになった英語とは、どのようなバックグラウンドを持つ、どのような性質の言語であるのかということ、イギリスの歴史や文化とともに学びます。英語の歴史を学ぶことは、現代の英語がいかなる性質の言語であるのかということを知る上で大変参考になります。また、英語の歴史とイギリスの歴史や文化とは非常に密接に関わり合っています。したがって、英語の歴史を学びながら、英語の性質についてより深く知るとともに、イギリスの歴史や文化の基礎知識をも身につけるというのが本講義のねらいです。
---------------------	---

授業スケジュール	英語のルーツから現在まで、また、英語と他のヨーロッパの言語との関係性を含む幅広いトピックを以下のようなスケジュールで扱います。
----------	---

(前期)

1. ガイダンス
2. 英語の歴史以前1: 英語のルーツ1
3. 英語の歴史以前2: 英語のルーツ2
4. 英語の歴史以前3: イベリア人~ケルト人
5. 英語の歴史以前4: ローマ支配時代のブリテン島
6. 英語の歴史以前5: 印欧諸語に共通する特徴1
7. 英語の歴史以前6: 印欧諸語に共通する特徴2
8. 英語の歴史以前5: インド・ヨーロッパ祖語からゲルマン語へ1
9. 英語の歴史以前6: インド・ヨーロッパ祖語からゲルマン語へ2
10. 英語の歴史の始まり1: アングロ・サクソン人の到来
11. 英語の歴史の始まり2: 古英語の特徴1
12. 英語の歴史の始まり3: 古英語の特徴2
13. 英語の変遷の始まり1: ヴァイキングの侵入とその影響1
14. 英語の変遷の始まり2: ヴァイキングの侵入とその影響2
15. まとめ

(後期)

1. 英語の変遷の始まり3: ノルマン征服とその影響
2. 英語の変遷の始まり4: 中英語の特徴1
3. 英語の変遷の始まり5: 中英語の特徴2
4. 英語の変遷の始まり6: 中英語の特徴3
5. 近代英語の成立1: ノルマン征服~英語の復活まで
6. 近代英語の成立2: 標準英語の成立
7. 近代英語の成立3: ルネサンス・宗教改革と英語
8. 近代英語の成立4: 英語の辞書と文法の成立
9. 近代英語の成立5: 近代英語の特徴1
10. 近代英語の成立6: 近代英語の特徴2
11. 近代英語の成立7: 近代英語の特徴3
12. 近代英語の成立7: 英語の綴りと発音
13. 英語圏の拡大1: アメリカ英語
14. 英語圏の拡大2: 世界の英語
15. まとめ

\* 授業の進度等により、上記の予定と多少ずれが生じることもあります。

準備学習	教科書の「序章」を読んで英語史の大まかな流れをつかんでおいてください。
履修上の留意点	
成績評価の方法	平常点、および期末試験(前期・後期)をもとに成績をつけます。
教科書/テキスト	唐澤一友『英語のルーツ』(春風社、2011年)
参考書	唐澤一友『多民族の国イギリス-4つの切り口から英国史を知る』春風社、2100円。ISBN:978-4-8-6110-148-9

履修コード	025101
科目名	英語表現法
担当者名	川崎 明子
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	日本人に多い間違いに注目した英作文のテキストを使用し、すでに持っている文法の知識を強固にし、表現力を養います。
授業スケジュール	前期：(1)ガイダンス(2-15)教科書に沿って進む。うち数回小テスト。 後期：(1-15)教科書に沿って進む。うち数回小テスト。終盤はパラグラフ作成。
準備学習	特になし
履修上の留意点	毎回辞書を持参すること。
成績評価の方法	出席は3分の2以上が必要。出席、平常点、提出物、複数回ある小テストの結果を総合的に判断します。
教科書/テキスト	C. Cushman, 佐藤尚孝 共著 『正しい英文の書き方 Write It Right』 開文社 840円 ISBN: 978-4-87571-517-7
参考書	必要に応じて紹介します。

履修コード	024901
科目名	英語表現法
担当者名	河崎 征俊
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	平易な英語表現の整理と確認を行いながら、より高度な英文作成を目指した授業を行う。一般的に、ややもすると機械的な学習と単なる暗記に終止する傾向が見られるので、それを打破するためにも、優れた英文に触れながら英英辞典を多用し、英語で英文のイメージをまとめることが望まれる。本講義ではさまざまな場面や角度からの英語表現の習得を目指したい。
授業スケジュール	(1~2) 辞書ならびに参考書の紹介、小テストの実施。(3~4) Articles。(5~6) Nouns。(7~8) Pronouns。(9~10) Adverbs and Adverbials。(11~15) Prepositions and Phrases。(16~18) Past Participles。(19~21) ing-Forms。(22~23) Auxiliary Verbs。(24~25) Infinitives。(26~29) Conjunctions and Correlatives。(30) まとめならびに総復習。
準備学習	基礎的な日常会話文がすぐ書けるように準備しておくこと。また英語表現にとって不可欠な英文法を総復習しておくこと。
履修上の留意点	授業効果をあげるためにも、あらかじめ文法書を熟読し、英文の形を整理しておいていただきたい。授業はすべて演習形式をとるため、予習・復習に専念し、まじめな学習を心がけていただきたい。
成績評価の方法	年2回の試験(7月と1月)ならびに小テストを基本的に評価することになるが、出席状況を重視する。遅刻は基本的に認めない。
教科書/テキスト	緒方勲『英語表現への道』(成美堂、1996) 1,545円。
参考書	

履修コード	025001
科目名	英語表現法
担当者名	佐藤 千春

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	ここで扱う英文はすべて日常会話のものばかりで、いわゆる書き言葉なるものは一つもない。口語英作文と考えてもらえばよい。はじめに基本となる英文の表現を確認する。次に口頭で答えてもらえる程度の短い文を練習し、基本が身に付いているかどうかのトレーニングを行う。次にコミュニケーションの実際の場面を想定し、これはあらかじめ分担を決めておくので1人1問の分量を板書してもらおう。この授業で扱う表現はすべて実生活を土台としたもので、できるだけ簡単な表現で巧みな自己表現が出来るようになることをねらいとしている。
---------------------	--

授業スケジュール	それぞれ定められた場面に必要とされる表現の例文、Useful Expressionの説明、およびテキストに収録されているもの以外の表現を簡単に説明し、その後はすべて学生諸君に1問ずつ質問に答えてもらうBasic Trainingの練習を行う。Writing Practiceはあらかじめあてておくので準備をし、板書してもらおう。またテキストとは別に、アメリカのColloquialismや、その他面白い表現について学び、自由作文をしてもらうことも考えている。
----------	---

☆今年度は、下記にあげるテキストのPartIIから始める。

準備学習	授業開講時に英英の辞書の説明をするので、受講者は英英辞典を所有することが望ましい。
------	---

履修上の留意点	授業に臨むにあたっての注意事項は授業開講時に説明をする。毎回出欠をとることは言うまでもない。遅刻・欠席はマイナス評価、Assignmentは必ずやってくるように。
---------	---

成績評価の方法	毎回あてるQuiz、出欠の結果、各学期末に行うテスト等、総合的に判断し評価を行う。遅刻・欠席はマイナス評価となり、試験の点数が良くても、最終評価は必ずしもこれに一致することはないので注意すること。
---------	--

教科書/テキスト	『コミュニケーションのための口語英作文』(The Road from Writing to Speaking) (成美堂) 1,680円
----------	---

参考書	授業内にて紹介して行く。
-----	--------------

履修コード	024801
科目名	英語表現法
担当者名	モート. セーラ

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	このクラスでは英語に親しみ、英語で考え効果的な英文作成の技法を学び、パラグラフライティングや、短いエッセイなどの書き方も学びます。さらに書く技法の発展に役立てるように、英字新聞や短い映像などを活用して、基本的な英文法を確認しながら、様々な説得力のある表現、格調高い文章を読み理解を深めます。口頭や文章によるコミュニケーションを通して、自分の意見を述べたり、自分の考えを議論できるようにします。
---------------------	--

授業スケジュール	前期 (1) オリエンテーション (2-15) 教科書の第一部と第二部を同時に進み、時に第三部を学習する。 Using adjectives, forming topic sentences, using examples as supporting ideas.
----------	---

	後期 (1-15) 教科書の第四部と第五部を同時に進み、時に第六部を学習する。 Using time order words, modals of advice, using reasons to support an opinion.
--	--

準備学習	英英辞典を持参する。
------	------------

履修上の留意点	授業は英語で行います。
---------	-------------

成績評価の方法	出席状況ならびに、授業中の参加度、前期、後期の試験などを総合的に判断しながら評価する。
---------	---

教科書/テキスト	Effective Academic Writing 1 - the paragraph. Alice Savage, Patricia Mayer. Oxford University Press. 3,500円。 テキストの購入方法は授業の中で説明します。その後、生協で購入してください。
----------	---

参考書	
-----	--

履修コード	028801
科目名	英作文演習
担当者名	東 雄一郎

授業概要/ 到達目標（ねらい）	基本的には、ある程度の長さの英文を正確に書けるような実力を養成する。対象とする日本語の文章を英語に単に直訳するのではなく、その文章の内容を英語で簡潔、明瞭に伝達できる技能を研磨する。「教育」「環境」「文通と旅行」「スポーツと娯楽」「社会問題」「大学生活」など各テーマに沿ってまとめられた20章構成のテキストを使用し、英語の基礎力を総合的に高める。前半の第1章から第12章の内容は、多様な日常生活を扱う英文で、手紙やEメールの作成も含まれる。後半の第13章から第20章では、英語での議論の仕方やその表現力を身につけ、社会・時事問題の話題に関して、自分の意見を表現する英語力を育成する。
--------------------	---

授業スケジュール	毎回、各章の練習問題（15問ほど）、サンプル英語対話のリスニングとそのディクテーション（書き取り）、基本英文の暗記並びに応用英作文の口頭発表（クイック・リスポンス）をこなす。「読み」「聞き」「話し」「書く」の4技能を高める。また、各章のテーマに関連する語彙の暗記に努める。例、「環境」に関しては、global environment/ eco-systems/ forest recycling/ carbon dioxide/ harmful chemicals/ environmental protection/ combustion of fossil fuels/ global temperaturesなどの用語。中英和辞典の効果的な利用方法(1) 日本語の文章の内容を伝達する・意識のコツ (2-5) 文章から名詞・名詞句への転換。例「若者の人口は急激に減っている」→the radically decreasing number of young people (6-8) 手紙文の書き方・Eメールの作成 (9-10) 会話文から書き言葉へ (11-12) 英文での主張の仕方・要旨を伝える (13-15) 新聞英語に学ぶ (16-18) 英語エッセイを書く (19-22) 社会・時事問題の英語 (23-25) 英語の名文や、英字新聞に学 (26-27)。テキスト第20章までの復習 (28-30)
----------	--

準備学習	高校時代の文法の教科書を必ず再読しておくこと。
------	-------------------------

履修上の留意点	理由のない遅刻者は入室を認めない。無断欠席を4回以上した場合、その者は成績評価対象外となる。予習を必ずして、毎回の授業に参加すること。中英和辞典を必ず持参すること。
---------	--

成績評価の方法	原則として次の5項目に基づき評価を下す。①毎回の授業内小テスト (25%) ②年5回の小レポート (10%) ③前期のまとめ試験 (25%) ④後期のまとめ試験 (25%) ⑤夏期休暇の課題レポート (15%・後期の初日の授業にて提出)、その他、自由課題による英作文レポート。
---------	--

教科書／テキスト	English Writing for Global Communication (『グローバル社会の英語作文』) 金星堂出版 価格1950円
----------	--

参考書	随時、授業内で、英語活用辞典や熟語辞典などを指示する。
-----	-----------------------------

その他	特に3年次ゼミの履修者は、英語論文・ゼミ論作成に関する英作文力養成のため、必ず、この英作文演習を履修すること。
-----	---

履修コード	028901
科目名	英作文演習
担当者名	馬場 聡

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この授業では、英語によるエッセイ・ライティングの基礎力を身につけることを目標にする。テキストに収録されたさまざまなアクティビティを行いながら、センテンス・レベルでの正しい英語の書き方を学ぶことを手始めに、最終的にはパラグラフの書き方、エッセイの構成の仕方習得する。 第二言語で文章を書くためには、有効なリソースの活用が欠かせない。授業の展開に応じて、各種辞書、辞典類の参照の仕方やコーパス、データベースの各用法について学んでいくことになる。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. Unit 1</li> <li>3. Unit 2</li> <li>4. Unit 3</li> <li>5. Unit 4</li> <li>6. Unit 5</li> <li>7. Unit 6</li> <li>8. Unit 7</li> <li>9. Unit 8</li> <li>10. コーパス、辞書の活用1</li> <li>11. コーパス、辞書の活用2</li> <li>12. パラグラフ・ライティング1</li> <li>13. パラグラフ・ライティング2</li> <li>14. 前期の復習1</li> <li>15. 前期の復習2</li> </ol> <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Unit 9</li> <li>2. Unit 10</li> <li>3. Unit 11</li> <li>4. Unit 12</li> <li>5. Unit 13</li> <li>6. Unit 14</li> <li>7. Unit 15</li> <li>8. Unit 16</li> <li>9. Unit 17</li> <li>10. Unit 18</li> <li>11. エッセイ・ライティング1</li> <li>12. エッセイ・ライティング2</li> <li>13. エッセイ・ライティング3</li> <li>14. エッセイ・ライティング4</li> <li>15. 後期の復習</li> </ol>
----------	--

準備学習	予習・復習は欠かさないようにしましょう。
履修上の留意点	科目の性質上、指示された宿題を確実にこなした上で授業にのぞむことが求められます。
成績評価の方法	授業中の参加度、学期末のレポートによる。
教科書／テキスト	English Writing for Global Communication (『グローバル社会の英語作文』) 金星堂出版 価格1950円
参考書	

履修コード	028501
科目名	英米思想史
担当者名	麻生 享志

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	英米の思想家について、幅広く思想と生涯を紹介し、興味を持てるようになることを目標とします。さらに、ひろく英米文化に関心を深められればいいと思っています。 哲学史の議論を骨格にしますが、隣接諸学問から思想にかかわる著述家を広く選び、「哲学」だけに偏らないようにする方針です。例えばエマソンやアダム・スミスやカーライルなどを考えています。また時代的には、中世から19世紀までを予定します。
---------------------	---

授業スケジュール	(1) 概説と文献 (2-5) アルクインから英中世哲学へ (ほか、以下同) ・アンセルムスと神存在証明・大学とスコラ哲学・オッカムの唯名論以降 (6-12) トマス・モア『ユートピア』・F.ベーコンと欧近世哲学・ホブズの政治哲学・認識論者ロックと彼の民主主義論・知覚とバークリ・ヒュームの経験論・英国倫理学の歴史 (13-22) ベンサムと政治学・ミル子の功利主義・A.スミスと経済学・ギボンと歴史の思想・パークの美学・カーライルの英雄思想・M.アーノルドと教養の理想・ラスキンとペイターと唯美主義・ニューマンと英国宗教思想史・19世紀英国思想の価値 (23-27) エマソンと超絶主義・パースの「生」の哲学・真理論としてのプラグマティズム・ジェームズの宗教心理学・デューイの教育哲学 (28-30) 進化論とスペンサー・新ヘーゲル主義の観念論・分析哲学の時代へ
----------	--

準備学習	講義に対する、その都度の準備学習は特にありません。
------	---------------------------

履修上の留意点	最低限の常識的なルールを守ってもらい、あとは、興味に応じて講義を聞く事を“楽しんで”もらいたいと思っています。
---------	---

成績評価の方法	成績は、出席による平常点 (60%強) および後期のレポート (線試験として講義時に回収・締切厳守) によって評価します。レポートに対する追試験は行いません。 ただし上述の場合に加え、学生の希望によって講義時に発表を行い、平常点を加味せず発表内容のみによって採点する場合も考えています。(発表者はレポート試験も免除。)
---------	--

教科書/テキスト	久保・河谷編、麻生ほか著『原典による哲学の歴史』(公論社刊) 3200円を予定。
----------	--

参考書	参考書は、講義中に指示した図書を、各自が自発的に選択して下さい。講義で必要なものについては、基本的に、コピーを使用します。
-----	---

その他	初日はガイダンスとし、定時に開始し、5分間程度、資料を配布して質問を受け付けます。(その後は、雑談的内容にあてる予定で、退出自由。) この時配布する資料は、履修に必要ですので、何らかの方法で必ず入手するようにして下さい。このガイダンス資料配布および質問受付は、支障の生じない限り、初回授業終了時5分程度にも行う予定です。
-----	--

履修コード	028301
科目名	英米文化
担当者名	広川 治

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 「映画・演劇に見る英米文化」を中心テーマとして講義を進める。今年度4月から12月の公開映画、上演の舞台のうち何本かをレポート対象作品に指定し、テーマ別に数作品を組み合わせて比較し、レポートにまとめる課題を数多く設定するので、受講者は可能な限り多くの演劇・映画・DVDをリストの指定作品から選び、レポートにまとめて随時提出することになる。(到達目標) 可能な限り多くの映画・演劇を鑑賞し、そこから英米の文化や様々な人生のあり方を学んでいきたい。
---------------------	--

授業スケジュール	(4月) レポートの書き方、対象作品についての説明 (5月) 米アカデミー賞授賞式について：賞の制度・歴史と今年度のノミネート・受賞作品 (6・7月) 英米の映画・演劇あるいはテレビ番組・音楽からテーマを設定し、講義予定 (9・10月) イギリス現地で撮影してきたビデオ(街の表情、劇場、観光地、映画のロケ地などを収録)を見ていく。 (11・12月) 様々なテーマ(歴史・言語・芸術・生活等)を映画・演劇・テレビ番組等にさらに探っていく。
----------	---

準備学習	必要に応じて授業時に指示。
------	---------------

履修上の留意点	出席は取らないが、授業中に見たビデオなどの感想を書いて提出してもらうことがある。4月に受講の申請日、12月に成績の申請日を設けるので必ず出席すること。この申請がない者はレポート提出が無効になることがある。
---------	--

成績評価の方法	提出したレポートの数で基本的に成績が決まる。点数の詳細や各レポートの書き方は初回の授業で説明するが、最低でも授業で配布のリストから演劇1公演、映画館の映画1作品、ビデオ(DVD)4作品程度は見てレポートをまとめることになる。
---------	--

教科書/テキスト	プリント配布の予定。
----------	------------

参考書	授業内に紹介する。
-----	-----------

履修コード	026301
科目名	演劇演習 (イギリス・アメリカ)
担当者名	広川 治

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 戯曲(演劇の台本)を単に読んで訳したり、観劇したり、論じたりするだけでなく、各自俳優のように体を通して演じることによって演劇を体験しながら学んでいく。取り上げる作家、作品は、受講者の人数、男女比、知識、経験、その年の上演予定等を確認のうえ、決定する。シェイクスピアから現代の新作まで幅広い英米の劇作と映画化を対象作の候補とする。 (到達目標) 演劇を様々な教育の手段としてもとらえる授業なので、演劇の知識を深め、感性を高めることのほか、英語で演じることによって、英語のスピーキングや人前で大きな声で発表するということなどに慣れることも目標とする。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>前期： 1. ガイダンス (観劇レポート対象作の紹介など)  2～3. 基本練習 (スピーチの練習や感情表現の方法などを学ぶ)  4～7. 演劇作品の鑑賞、研究  8. 中間テスト (筆記試験)  9. キャスティング  10～12. 稽古 (演技の練習)  13. リハーサル  14. 演技発表 (1)  15. 演技発表 (2)</p> <p>後期： 1. ガイダンス (観劇レポート対象作の紹介など)  2～3. 基本練習 (スピーチの練習や感情表現の方法などを学ぶ)  4～7. 演劇作品の鑑賞、研究  8. 中間テスト (筆記試験)  9. キャスティング  10～12. 稽古 (演技の練習)  13. リハーサル  14. 演技発表 (1)  15. 演技発表 (2)</p>
----------	---

準備学習	時期によっては、発表に備えてセリフの暗記や練習が各自必要になる。
履修上の留意点	劇を演じるためには、遅刻や欠席は演じる相手、仲間に迷惑をかけることになるので、他の授業以上に注意すること。
成績評価の方法	演技の発表を中心として、筆記テスト、観劇レポート、出席状況等で総合的に評価。
教科書/テキスト	プリント配布の予定。
参考書	教室にて紹介の予定。



履修コード	026201
科目名	演劇特講 (イギリス・アメリカ)
担当者名	落合 和昭

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>主として、20世紀のアメリカの劇作家を取り上げ、彼等の劇の特徴を、劇の構成要素(「筋」、「登場人物」、「テーマ」、「台詞」、「視覚効果(背景、照明等)」、「効果音(音楽も含む)」)等を通して、できるだけ多角的に考察する。後期には、数回を費やして、イギリス中世演劇やギリシア演劇にも目を向け、現代演劇との共通点や相違点を探る。また、講義の中で、演劇史における思潮も考慮に入れるつもりであるが、講義が抽象的にならないように、劇作品を通して、具体的に、考察する。</p> <p>講義で取りあげる劇作家は、多くは、アメリカの劇作家であるが、それ以外にも、数人ではあるが、20世紀のアイルランドやイギリスの劇作家も取り上げる予定である。さらに、一般には、あまり知られていない劇作家、特に、一幕劇(短い劇、小説で言うなら、短編小説、通常、「場所」が一つだけの劇)を書いた劇作家も取り上げ、劇の持つ多様性をも考察する。また、講義のなかで、折に触れ、重要な演劇用語や劇場の種類等も学ぶ。さらに、時間があれば、ビデオを通して、劇作家の生い立ちや背景についても学ぶ。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>第一回 オリエンテーション (授業の進め方・内容等についての説明)</p> <p>第二回 ピューリタン (1)</p> <p>第三回 ピューリタン (2)</p> <p>第四回 Arthur Miller(1915-2005) (1)</p> <p>第五回 Arthur Miller(1915-2005) (2)</p> <p>第六回 Susan Glaspell(1882-1948)</p> <p>第七回 リアリズムと表現主義 (1)</p> <p>第八回 リアリズムと表現主義 (2)</p> <p>第九回 Eugene O'Neill(1888-1953) (1)</p> <p>第十回 Eugene O'Neill(1888-1953) (2)</p> <p>第十一回 劇のプロットの要素</p> <p>第十二回 Shirley Jackson(1919-65)</p> <p>第十三回 Alice Gerstenberg(1885-1972)</p> <p>第十四回 Tennessee Williams(1911-83) (1)</p> <p>第十五回 Tennessee Williams(1911-83) (2)</p> <p>第十六回 Thornton Wilder(1897-1975)</p> <p>第十七回 John Boynton Priestley(1894-1984)</p> <p>第十八回 Murray Schisgal(1926-)</p> <p>第十九回 「登場人物」</p> <p>第二十回 Samuel Beckett(1906-89) (1)</p> <p>第二十一回 Samuel Beckett(1906-89) (2)</p> <p>第二十二回 Harold Pinter(1930-2009)</p> <p>第二十三回 Sam Shepard(1943-)</p> <p>第二十四回 Bernard Pomerance(1940-)</p> <p>第二十五回 Peter Shaffer(1926-)</p> <p>第二十六回 Arthur Kopit(1937-)</p> <p>第二十七回 アリストテレスの『詩学』、ホラティウスの『詩論』</p> <p>第二十八回 中世演劇 (1)</p> <p>第二十九回 中世演劇 (2)</p> <p>第三十回 筆記によるまとめ</p>
----------	---

準備学習	「前期課題」と「後期課題」の書き方、「筆記によるまとめ」には、講義中のノートの取り方が重要になるので、その日の講義の後、重要な項目を、120字以上で、まとめるようにしておくこと。
履修上の留意点	講義の内容をふまえて、劇作品を分析してもらうので、積極的な参加が望ましい。出席率が3分の2を越えない場合、評価は「不合格」とする。
成績評価の方法	「前期課題」が25%、「後期課題」が25%、「筆記によるまとめ」50%の合計の結果を持って評価する。「前期課題」と「後期課題」は、それぞれ、原稿用紙400字詰め7枚以上(ワープロの場合は、2、800字以上)とする。「筆記によるまとめ」は、10の質問に、一つの質問につき、120字以上で答える形式。
教科書/テキスト	プリント
参考書	『楽しく読める英米演劇』ミネルヴァ書房

履修コード	029901
科目名	オーラル・イングリッシュ
担当者名	シャープ J.

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>The aim of this course is to introduce students to global issues through short, simple newspaper articles, which form the basis of a structured discussion in the classroom.</p> <p>The articles are created from current news stories each week, allowing students chances to practice discussion of world events in “real time”! We will also have debates on the most interesting topics which will require students to prepare arguments for class ready for a team battle.</p> <p>Several different options will be given for homework each week, allowing students to choose areas of English they most wish to practice and receive feedback on.</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>第1回: Introductions and Getting to Know You</p> <p>第2回: Article Discussion</p> <p>第3回: Article Discussion</p> <p>第4回: Article Discussion and Debate Vote</p> <p>第5回: Debate</p> <p>第6回: Article Discussion</p> <p>第7回: Article Discussion</p> <p>第8回: Article Discussion and Debate Vote</p> <p>第9回: Debate</p> <p>第10回: Article Discussion</p> <p>第11回: Article Discussion</p> <p>第12回: Article Discussion and Debate Vote</p> <p>第13回: Debate</p> <p>第14回: Review of Term's Work</p> <p>第15回: MIDTERM REPORT</p> <p>第16回: Article Discussion</p> <p>第17回: Article Discussion</p> <p>第18回: Article Discussion and Debate Vote</p> <p>第19回: Debate</p> <p>第20回: Article Discussion</p> <p>第21回: Article Discussion</p> <p>第22回: Article Discussion and Debate Vote</p> <p>第23回: Debate</p> <p>第24回: Article Discussion</p> <p>第25回: Article Discussion</p> <p>第26回: Article Discussion and Debate Vote</p> <p>第27回: Debate</p> <p>第28回: Article Discussion</p> <p>第29回: Review of Term's Work and Final Report Planning</p> <p>第30回: Final Debate</p>
----------	---

準備学習	Listening to the “BBC World Update: Daily Commute” podcast ( <a href="http://www.bbc.co.uk/podcasts/series/worldupmc">http://www.bbc.co.uk/podcasts/series/worldupmc</a> ) and reading the related news articles on the BBC News website would be an advantage.
------	---

履修上の留意点
---------

成績評価の方法	Participation in class (30%), homework tasks (30%), midterm (20%) and final reports (20%)
---------	---

教科書/テキスト	None: materials provided by lecturer
----------	--------------------------------------

参考書
-----

履修コード	030001
科目名	オーラル・イングリッシュ
担当者名	シャープ J.

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>The aim of this course is to introduce students to global issues through short, simple newspaper articles, which form the basis of a structured discussion in the classroom.</p> <p>The articles are created from current news stories each week, allowing students chances to practice discussion of world events in "real time"! We will also have debates on the most interesting topics which will require students to prepare arguments for class ready for a team battle.</p> <p>Several different options will be given for homework each week, allowing students to choose areas of English they most wish to practice and receive feedback on.</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>第1回: Introductions and Getting to Know You  第2回: Article Discussion  第3回: Article Discussion  第4回: Article Discussion and Debate Vote  第5回: Debate  第6回: Article Discussion  第7回: Article Discussion  第8回: Article Discussion and Debate Vote  第9回: Debate  第10回: Article Discussion  第11回: Article Discussion  第12回: Article Discussion and Debate Vote  第13回: Debate  第14回: Review of Term's Work  第15回: MIDTERM REPORT  第16回: Article Discussion  第17回: Article Discussion  第18回: Article Discussion and Debate Vote  第19回: Debate  第20回: Article Discussion  第21回: Article Discussion  第22回: Article Discussion and Debate Vote  第23回: Debate  第24回: Article Discussion  第25回: Article Discussion  第26回: Article Discussion and Debate Vote  第27回: Debate  第28回: Article Discussion  第29回: Review of Term's Work and Final Report Planning  第30回: Final Debate</p>
----------	---

準備学習	<p>Listening to the "BBC World Update: Daily Commute" podcast (<a href="http://www.bbc.co.uk/podcasts/series/worldupmc">http://www.bbc.co.uk/podcasts/series/worldupmc</a>) and reading the related news articles on the BBC News website would be an advantage.</p>
------	--

履修上の留意点	
成績評価の方法	<p>Participation in class (30%), homework tasks (30%), midterm (20%) and final reports (20%)</p>

教科書/テキスト	<p>None: materials provided by lecturer</p>
----------	---

参考書	
-----	--

履修コード	029701
科目名	オーラル・イングリッシュ
担当者名	ダーリン M.

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	The aims of this course are for 3rd and 4th years students to improve their English skills; develop their discussion abilities, become more confident English speakers; expand their vocabulary. Students will improve their speaking, listening and reading skills, mainly through small group discussion tasks. By choosing some class content, students will be encouraged to be more autonomous language learners. The typical class will consist of small group discussions. Each group will have a leader who will introduce a news article, summarize it and facilitate the discussion. The remainder of the class will be spent discussing issues from the textbook. To develop their vocabulary, students will be required to keep a vocabulary notebook, making weekly entries of new words learnt from group discussions and from the textbook.
---------------------	--

授業スケジュール	Unit 1 Unit 2 Unit 4 Unit 6 Unit 9 Unit 10 Unit 11
----------	--

準備学習	Review textbook and make weekly entries in vocabulary notebook.
------	---

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	Evaluation will be based on attendance, active participation in class, quizzes, vocabulary notebook and presentations.
---------	--

教科書/テキスト	Impact Issues 3 Richard R. Day Pearson Longman 978-962-01-9932-5
----------	---

参考書	
-----	--

履修コード	029601
科目名	オーラル・イングリッシュ
担当者名	マーティン. S. F.

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	This course, 'Society Through Cinema', takes an anthropological approach to understanding contemporary culture through a selected sample of movies. The central theme to be explored is the conflict between professed values, such as personal growth, and the actual behavior of organizational institutions such as governments, corporations, and universities.
---------------------	---

The core tasks will begin with short lectures building an intellectual foundation with key concepts derived from Plato, traditional Eastern philosophy, modern psychology, and recent biological research. The students will then analyze selected scripts and/or movies (selection is subject to change) through a comparison with those previously discussed concepts. Students will then engage in task-based activities in small groups with the aim of giving a presentation for invited guests. As this course, in particular, includes the central aim of seeing the world as the classroom, members of the local community will sometimes attend the class, and students will likewise be encouraged to connect with the community.

As prescribed by The Ministry of Science and Education and Keidanren, there is a strong focus on developing collaborative communication skills to prepare students for their role as effective members of the work place and responsible citizens in a democratic community. As such, the students will be expected to behave as mature adults, including developing a willingness to collaborate with each other and other members of the education community including international visitors and guests from the local community.

授業スケジュール	Spring Semester
----------	-----------------

- 1 - Introductions, Orientation Discussion / Lecture ... the purpose of the class
- 2 - Joseph Campbell - Personal growth through myth
- 3 - Freud and Jung - 'An Iceberg Metaphor of Consciousness'
- 4 - Plato - 'The Myth of the Cave'
- 5 - Plato - 'The Myth of the Cave'
- 6 - Confucious and Lao Tzu - The Individual and Society
- 7 - Confucious and Lao Tzu - The Individual and Society
- 8 - Movie - Charlie Chaplin - 'Modern Times'
- 9 - Movie - Charlie Chaplin - 'Modern Times'
- 10 - Discussion
- 11 - Movie - 'Avatar'
- 12 - Movie - 'Avatar'
- 13 - Discussion, Group work
- 14 - Presentations
- 15 - Semester Summary ... Re-orientation ... the purpose of education

#### Fall Semester

- 16 - Greetings, Re-orientation Discussion / Lecture ... the purpose of the class
- 17 - Review - Freud and Jung, Plato, Confucious, Lao-Tzu
- 18 - Bonobos and Chimpanzees - 'Windows to Our Genetic Roots'
- 19 - Bonobos and Chimpanzees - 'Windows to Our Genetic Roots'
- 20 - Freud and Jung - 'An Iceberg Metaphor of Consciousness'
- 21 - Bonobos and Chimpanzees - 'Windows to Our Genetic Roots'
- 22 - Bonobos and Chimpanzees - 'Windows to Our Genetic Roots'
- 23 - Jill Bolte Taylor - 'Birth, Death, and Resurrection'
- 24 - Jill Bolte Taylor - 'Birth, Death, and Resurrection'
- 25 - Movie - 'A Christmas Carol'
- 26 - Movie - 'A Christmas Carol'
- 27 - Discussion, Group work
- 28 - Presentations
- 29 - A Moral Dilemma, presentations
- 30 - Semester Summary ... Re-orientation ... the purpose of education

準備学習	1) Students involved in group projects are expected to meet outside of class time for preparation.
------	--

2) Students are expected to complete homework assignments on time as these assignments are usually necessary for participation in subsequent class exercises.

履修上の留意点	Students are expected to behave as mature, well mannered adults.
---------	--

成績評価の方法	Classroom behavior - 80 % Homework and quizzes - 20 %
---------	--

教科書/テキスト	All materials will be provided by the instructor.
----------	---

参考書	
-----	--

履修コード	029801
科目名	オーラル・イングリッシュ
担当者名	レイン、 R. V.

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	This course will help students better understand how TV commercials are made as well as better understand the differences between the American and Japanese cultures as seen in each country's TV commercials. This class will help students make and support opinions and express those opinions in English during class discussions.
---------------------	--

授業スケジュール	[1] Class introduction with a discussion of the criteria we will use in class to evaluate TV commercials. [2-29] During the first half of the class students will be shown selected American TV commercials and the effectiveness of each commercial will be discussed. During the second half of each class students will show the class a Japanese TV commercial and discuss that commercial's effectiveness with the class. [30] Exam.
----------	---

準備学習	Students will prepare an evaluation of a Japanese TV commercial at home and discuss the commercial with other students during class.
------	--

履修上の留意点	This is a discussion class so students should try speaking English as much as possible during class and share their ideas about the TV commercials with other students. Regular attendance is essential: ABSENCE OF 1/3 OF CLASSES WILL RESULT IN A FAILING GRADE. Additionally, excessive absences and tardiness will have a negative effect on the student's grade.
---------	---

成績評価の方法	Students will be graded on their TV commercial evaluations, participation in class discussions, attendance and the Final Exam.
---------	--

教科書/テキスト	none
----------	------

参考書	none
-----	------

その他	none
-----	------

履修コード	028401
科目名	外国文学
担当者名	武田 利勝

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	18世紀後半から19世紀前半、つまりフランス革命による戦乱と変革の時期をちょうど間に置いたというべき一つの時代は、ドイツ語圏における文化形成にとって、もっとも重要な時代でした。この文学に関して言えば、例えば手許の文学史でも紐解いてみると、「疾風怒濤」の熱情に始まり、理想的な人間像の構築に向けた「古典主義」の時代が続くかと思うと、革命の狂乱の中から今度は「ロマン主義」の情熱が吹き荒れます。加速する時代の嵐のなか、多数の文学者・哲学者・詩人たちが残した痕跡の、なんと鮮やかなこと！この混乱のただなかを生き抜いた一人の大詩人の名をとって「ゲーテ時代」とも呼ばれるドイツ文学の一時代は、ちょっとした想像力さえ働かせてみれば、単なる過去の歴史的遺産ではありません。多様な価値観のうずまくカオスのなかで、無数に書かれた小説の登場人物たちは、懸命に自分の言葉を語ろうとしています。その言葉の多くは、21世紀を生きる私たちにとって、いまだに答えることの出来ない、根源的で、時にはぞっとするような問い掛けであることに気づいて貰いたいと思います。というわけでこの授業では、当該時代のドイツ語圏における文学作品を扱います。
---------------------	--

授業スケジュール	1) オリエンテーション 2~4) 若いゲーテとその時代: 『若きウェルテルの悩み』を中心に 5~8) 絶対的な自由を求めて: シラー『群盗』とその後 8~10) 加速する時代の嵐: ドン・ファンの幻影 11~20) 善悪の彼岸へ: ゲーテ『ファウスト』をじっくり読む 21~25) 詩人たちの王国、あるいはロマン主義の幻想: ノヴァーリス『青い花』を中心に 26~29) 過酷なるリアリズム: クライストの短編小説群 30) まとめ
----------	---

準備学習	各授業で扱うのはいずれも邦訳のある作品です。あらかじめ入手のうえ読んでおけば、講義内容もより容易に理解できます。
------	--

履修上の留意点	この講義、扱うテキストによってはかなり挑戦的な内容になるかもしれません。毎回の講義終了時にリスpons・カードを書いて貰いますが、みなさんの持てる感性と悟性を十二分に発揮して、熱い反応を見せてもらえると嬉しいのです。
---------	--

成績評価の方法	毎回のリスpons・カードから授業への参加度を判断し、これを平常点とします。また後期末にはレポートを提出して貰います。前者と後者の比率をそれぞれ5割として、総合的な成績評価を下します。
---------	--

教科書/テキスト	講義で扱うテキストは、各自入手して下さい。ただし講義ではこちらで準備した配布プリントを用います。
----------	--

参考書	ドイツ文学史全体の見通しを得たい人のために、次の参考書を案内しておきます。特に必須ではありません。保坂一夫編『ドイツ文学 名作と主人公』(自由国民社、1700円、ISBN978-4-426-10823-6)
-----	---

履修コード	028201
科目名	ギリシャ語
担当者名	長谷川 岳男
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	西洋の多くの言語の語彙や文法にとってルーツに位置する古典ギリシア語の基礎を学ぶことを主要な目的としています。そして古典ギリシア語のみならず、その文法や語彙の学習、読解を通して、英・独・仏・伊などの言語の仕組みを理解することもめざします。
授業スケジュール	前期は、第1回目のオリエンテーションで古典ギリシア語を用いていた古代ギリシア世界が西洋文明において有する意義と、西洋諸言語における古典ギリシア語の影響と学ぶ現代的有用性を説明して学習の動機付けを行います。第2回目、3回目はローマン・アルファベットとは異なるギリシア・アルファベットを学び、第4回目から第9回目まで、文法の基礎事項を扱って、現代の西洋諸言語に通ずる決まりを理解します。第10回目から第30回目までは、簡単な古典ギリシア語の講読を文法事項の学習とともに進めることで、古典ギリシア語の理解を深める予定です。このような進行の合間に、古典ギリシア語の理解には、その背景にある古代ギリシア世界の理解が不可欠なために、何度かビデオやスライドなどで、ギリシア世界に触れてもらおうと思っています。
準備学習	課題として出される教科書の練習問題やテキストの和訳の予習が必要となります。
履修上の留意点	ただ講義に参加するだけでは古典ギリシア語の習得は難しいので、受講生の皆さんの積極的な取り組みが必要です。具体的には、最初の文法事項の学習の際には、練習問題を解いて参加しなければ意味がありませんし、講読の際には事前に予習することが不可欠になります。
成績評価の方法	二度行うテスト、講義時に練習問題を解いたり、講読において和訳する際の積極的な参加などを総合して評価します。ですから出席は必要となります。このような形で評価しますので、追試験は行いません。
教科書/テキスト	田中利光『新ギリシャ語入門』、大修館書店、3400円、ISBN 4-469-21191-5。それ以外に必要なものはこちらで印刷して配布します。
参考書	講義中に随時、指示します。

履修コード	028601 028602
科目名	現代美術
担当者名	矢野 陽子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) この授業では20世紀以降の美術を「現代美術」として取り上げる。20世紀初頭から次々と展開された大胆で革新的な試みは、従来の美術、すなわち外界の再現を目的とした絵画や人体を主たる題材とした彫刻とは大きく異なる作品を生みだしてきた。こうした現代美術の主要な動きについて学ぶ。</p> <p>(到達目標) この授業の到達目標は、20世紀のさまざまな美術の動向と主要な人物について学び、代表的な作品を鑑賞して、現代美術の基礎知識を身につけることである。そのうえで美術が技術革新やメディアの発達、環境問題といった同時代の様相とどのように関わっているかを考察できるようにすることを目指す。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 19世紀の美術</li> <li>3. 世紀末から20世紀へ</li> <li>4. フォーヴィスム</li> <li>5. ドイツ表現主義</li> <li>6. キュビスム</li> <li>7. キュビスムの展開</li> <li>8. 未来派</li> <li>9. 抽象絵画</li> <li>10. 構成主義</li> <li>11. 新造形主義</li> <li>12. エコール・ド・パリ</li> <li>13. 素朴派</li> <li>14. ダダ</li> <li>15. デ・キリコと形而上絵画</li> <li>16. シュルレアリスム 1</li> <li>17. シュルレアリスム 2</li> <li>18. 1920年代の美術</li> <li>19. 第二次大戦までのアメリカ美術 1</li> <li>20. 第二次大戦までのアメリカ美術 2</li> <li>21. 抽象表現主義</li> <li>22. ネオ・ダダ</li> <li>23. ポップ・アート 1</li> <li>24. ポップ・アート 2</li> <li>25. 戦後のさまざまな動向 1</li> <li>26. 戦後のさまざまな動向 2</li> <li>27. 20世紀の建築</li> <li>28. 20世紀の彫刻 1</li> <li>29. 20世紀の彫刻 2</li> <li>30. まとめ</li> </ol>
----------	---

準備学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シラバスをよく読んでおくこと。</li> <li>・前回の授業内容をよく復習して、次の授業に出席するようにすること。</li> </ul>
履修上の留意点	<p>画像をスクリーンに映してそれを見ながら講義を進めるので、授業にはなるべく遅刻欠席をせず、続けて出席すること。</p>
成績評価の方法	<p>夏休みの課題リポート20%、学年末の定期試験60%、平常点20%とする。</p>
教科書／テキスト	<p>教科書は使用しない。授業時にプリントを配布する。</p>
参考書	<p>美術出版社編『現代美術入門』（美術出版社）2,000円 その他、授業中に適宜紹介する。</p>
その他	<p>現代美術を扱った展覧会、美術館などを適宜紹介するので、積極的に現代美術に触れることを望む。</p>



履修コード	024201 024202
科目名	作品講読 作品講読II
担当者名	東 雄一郎
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	アメリカ小説の精読を通して英語の基本的な読解力並びに文法力を養う。単なる英文和訳ではなく、有機的な英文の内容理解・解釈を試みる。コンテキスト・コンプリヘンションから、適宜な日本語の選択ができるように努め、語感を養う。また、アメリカ小説を通して、アメリカの農村と都市、地方主義、社会、文化、芸術、経済、政治、歴史への認識・情報・知識を深め、アメリカの民主主義の実態が如何なるものであるのかを考察する。到達目標は、英字新聞を辞書を引かなくてもだいたい理解できる程度の基礎的な英語力をつけること。
授業スケジュール	内容：20世紀初頭のモダニズムの黎明期の中西部出身の作家Sherwood Andersonから、William Saroyan, Erskine Caldwell, Eudora Welty, Truman Capote, Carson McCullers等、アメリカの代表的な作家の厳選された作品を精読し、アメリカの現実を考える。 前期：Caldwell, Saroyan, Andersonの短篇小説を読む。英字新聞（プリント配布）を読む（2回程度）。 後期：Welty, Capote, McCullersの短篇を読む。英字新聞（プリント配布）を読む（2回程度）。 前期(1)テキストpp. 1-3(2)pp. 4-5(3)pp. 6-7(4)pp. 8-9(5)pp. 10-11(6)pp. 12-14(7)pp. 15-17(8)pp. 18-19(9)20-21(10)22-23(11)24-26(12)27-28(13)29-31(14)英字新聞を読む(15)32-33 後期(1)テキストpp. 34-36(2)37-38(3)39-41(4)42-43(5)44-45(6)英字新聞を読む(7)46-48(8)49-51(9)52-53(10)54-55(11)56-58(12)59-61(13)62-64(14)英字新聞(15)62-63
準備学習	新聞や雑誌の時事英語またはビジネス英語に慣れておくこと。
履修上の留意点	理由のない遅刻者は教場への入室不可。無断欠席を3回以上した場合、その者は成績評価対象外とする。中英和辞書並びに英英辞典を必ず持参すること。発表者以外の他の者も必ず予習をして授業に参加すること。
成績評価の方法	原則的に次の5項目に基づき評価する。①毎回の授業内小テスト(25%)②前期のまとめ試験(25%)③後期のまとめ試験(25%)④年間5回の小レポート(10%)⑤夏季休暇課題レポート(15%)
教科書/テキスト	『アメリカ短編名作選』（阿野文朗・両角千江子編注、金星堂、1600円程度）
参考書	随時、授業内で指示する。

履修コード	023901 023902
科目名	作品講読 作品講読II
担当者名	加藤 光也
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	短篇作品を中心に、平明な英文のものから初めて複雑な心理描写を含む作品まで、多様な文学テキストを読みます。多様なテキストをとおして、物語の構成、登場人物の造形、会話の背後に潜む意味、テーマの読みとりなど、文学テキストの基本的な読解力の養成を目指します。
授業スケジュール	授業は以下のスケジュールを進めますが、進み具合によって調整することがあります。 (1~2) Lafcadio Hearn, Oshidori (3~5) Mansfield, Canary (6~8) Saki, The Open Window (9~14) Theroux, Tennis Court (15) 前期のまとめ、小テスト (16~18) 詩を読む (19~24) Joyce, Araby (25~29) Bowen, A Day in the Dark (30) 後期のまとめ、小テスト
準備学習	注のないテキストを使うこともありますので、わからない箇所については必ず辞書、事典で調べる習慣をつけてください。分担して発表してもらいますので、予習を欠かさないでください。
履修上の留意点	取り上げる作家のほかの作品も数多く読むようにしてください。また、テキストの疑問点をまとめて授業に臨むことがもっとも効果的な学習につながります。
成績評価の方法	授業への取り組みと平常点（4割）、学期末の試験（6割）を総合的に評価します。
教科書/テキスト	テキストは基本的にハンドアウトで用意します。
参考書	授業時に適宜、紹介します。

履修コード	024001 024002
科目名	作品講読 作品講読II
担当者名	川崎 明子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	英語文学に多大な影響を与えたアーサー王の伝説を平易かつ格調高い英文で読み、英語力、広義の意味での読解力、自己表現力、異文化を理解する力の向上を目指す。 前期・後期末に小テストとレポート提出。優秀レポートの発表あり。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>前期</p> <p>(1) オリエンテーション (2~13) 教科書。うち一回はレポート作成法中心。 (14) 小テスト、レポート提出。 (15) レポート全体コメント。個別返却。プレゼンテーション。</p> <p>後期</p> <p>(1~13) 教科書。 (14) 小テスト、レポート提出。 (15) レポート全体コメント。個別返却。プレゼンテーション。</p>
----------	--

準備学習	特になし
------	------

履修上の留意点	第一回目の授業より必ず辞書を持参すること。
---------	-----------------------

成績評価の方法	出席は3分の2以上が必要。出席を含めた授業への貢献度、小テスト、レポートの結果で総合的に評価する。
---------	---

教科書/テキスト	R. L. Green King Arthur and his Knights of the Round Table_ 『アーサー王物語』厨川文夫 編・注解 (英光社) ¥1,700+税 ISBN978-4-87097-017-5
----------	---

参考書	<p>1 川口喬一『イギリス小説入門』(研究社) イギリス小説の流れと特徴を原文入りで易しくまとめた良書。 小説研究のヒントも得られる。</p> <p>2 Eastwood, Oxford Practice Grammar: Intermediate_ (Oxford: 2006) 大変優れた文法書。問題つき。</p>
-----	--

履修コード	024101 024102
科目名	作品講読 作品講読II
担当者名	佐藤 千春

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	アメリカ文学史上、いわゆる「迷える世代」に活躍したHemingwayとFaulkner、さらにこの二人と前後して活躍した作家、Anderson、Steinbeckの短編小説を読む。 それぞれに特徴ある文体の英語を通し、作品からうかがえる作家の人間観等にふれてみたい。
---------------------	--

授業スケジュール	収録されている作品の順を追って訳読する。 各作家・作品に関しては各自テキストの注をよく読んでおくこと。 あらかじめ発表部分を割り当てておくので、それを音読、そして訳読していただく。 構文、文法等に関する質問も行う。
----------	--

準備学習	とくに必要ではないが、扱う作家に関してはあらかじめ文学史等で調べておくのがよいであろう。
------	--

履修上の留意点	自分の発表以外の時にも予習をしておくことが望ましい。 予習してあることを前提に授業を進めるので、発表していただいた箇所を必ずしも繰り返し補足説明することはないので注意されたい。
---------	---

成績評価の方法	受講するにあたって、遅刻・欠席はマイナス評価となり、これが重なる場合は履修・試験を受ける資格を失うこともあり、たとえ試験を受けても、その点数いかんにかかわらず、これを評価することはないので注意すること。
---------	---

教科書/テキスト	『現代アメリカ短編集』酒本雅之・岩元巖 註 (成美堂) ¥1,365_
----------	-------------------------------------

参考書	参考書、辞書等に関しては必要に応じ授業内で指示する。
-----	----------------------------

その他	特になし。
-----	-------

履修コード	030801
科目名	3年次ゼミ
担当者名	東 雄一郎

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	基礎的な英語力の養成、特に英語の読解力、日本語の文章作成力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力を涵養する。アメリカの多様な短編小説、時事に関する英語(新聞、雑誌)を読む。現代を代表する多くのアメリカ作家の作品の未読、精読を通してゼミ生の毎回の発表と、その発表に関するディスカッションを行う。TOEICの600点以上達成を目指す。年数回の模擬を行う。ゼミ論を作成する。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>「前期」</p> <p>①20世、ロースト・ジェネレーションの作家、並びに黒人文学とユダヤ移民文学、具体的には、アーネスト・ヘミングウェイ、ウィリアム・フォークナー、スコット、フィッツジェラルド、ラングストン・ヒュース、アンジァ・イー・アスカ、シャーウッド・アンダーソン。論点は、アメリカン・ドリームの本質(夢と挫折)、アメリカの農村と都市、ジャズ・エイジの大衆文化、1929年の世界大恐慌、アメリカの物質主義とモラル等。</p> <p>「後期」</p> <p>1950年代以降の作家たち。サリンジャー、ジャック・ケロアック、マラマッド、アリス・ウォーカー等の作家の短編を読む。論点は、戦争と文学、対抗文化、画一的社会と個性、テククラート・エリートの世界と貧富の差、アメリカの大地と地霊等。</p> <p>(1)テキストの説明(2)テキストpp.1-4(3)テキストpp.5-10(4)pp.11-13(5)pp.14-16(6)作家・作品論発表(7)テキストpp.17-23(8)pp.24-30(9)pp.30-32(10)作家・作品論発表(11)テキストpp.33-35(12)pp.36-39(13)pp.40-45(14)pp.46-51(15)作家作品論(16)テキストpp.52-55(17)pp.56-59(18)作家・作品論(19)テキストpp.60-64(20)pp.65-69(21)pp.70-78(22)作家・作品論(23)テキストpp.79-86(24)pp.87-94(25)作家・作品論(26)テキストpp.95-103(27)pp.104-113(28)pp.113-123(29)作家・作品論(30)ゼミ論集原稿チェック</p>
----------	---

準備学習	翻訳でも良いが、多くのアメリカ小説に触れておくこと。また、現在の世界の動向に関する情報も得ておくこと。
------	---

履修上の留意点	理由のない遅刻者はゼミ室への入室不可(欠席扱い)。ゼミであっても、単位を落とすことがある。夏のゼミ合宿、並びに英語資格試験の模擬試験を行うが、これらはゼミ活動・授業の一環であるため、必ず参加すること。英語演習(英作文)の授業を併せて履修し、英作文の力を十分に養うこと。年数回、TOEICの模擬試験と同じく、4年次ゼミ生、就職内定者の就職活動オリエンテーション、アドバイス等を課外で行うが、積極的に参加すること。
---------	---

成績評価の方法	①ゼミへの参加貢献度・議論内容等(20%) ②前期課題英語レポート(20%) ③プレゼンテーション・研究発表内容評価(25%) ④ゼミ英語論集(25%) ⑤TOEIC模擬試験結果(10%)
---------	--

教科書/テキスト	Modern American Masterpieces(金星堂出版)、並びにプリント配布。
----------	--

参考書	ゼミの初日、並びに随時、指示する。
-----	-------------------

その他	ゼミ論未提出の者は、成績評価対象外となるので、留意すること。
-----	--------------------------------

履修コード	031201
科目名	3年次ゼミ
担当者名	加藤 光也

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	20世紀の英語短編集の中でも高く評価される James Joyce, Dubliners から A Painful Case ほかの短篇と、関連する批評を読みます。Joyce の短篇の精読と、関連する批評の読み取りをとおして、文学作品の分析方法を学びます。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>毎回、担当者を決め、担当者の発表を中心に授業を進めます。</p> <p>(1~2) ゼミの進め方についての説明とジョイスの解説</p> <p>(3~14) 作品の精読</p> <p>(15) 前期のまとめと課題の説明</p> <p>(16~17) 前期のレポートをもとに討議</p> <p>(18) 映画鑑賞</p> <p>(19~28) 作品の精読</p> <p>(29) 全員での討議</p> <p>(30) 後期のまとめ</p>
----------	--

準備学習	翻訳でよいので、事前に作品を通読し、気になる点を整理しておくこと、授業でも活発な討議ができます。
------	--

履修上の留意点	<p>1 第1回目の授業までに下に指定する版の教科書を購入しておくこと</p> <p>2 発表の担当者は十分に予習をして、発表のためのハンドアウトを用意すること</p>
---------	--

成績評価の方法	授業時の発表(4割)と学期末のレポート(6割)の内容で総合的に評価します。
---------	---------------------------------------

教科書/テキスト	福永・工藤編 James Joyce, Dubliners, 南雲堂、¥1890、ISBN: 978-4-523-02703-X
----------	--

参考書	授業時に適宜、紹介します。
-----	---------------

履修コード	030181
科目名	3年次ゼミ
担当者名	唐澤 一友

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	一口に「英語」といっても、様々な方言もあれば、イギリス英語とアメリカ英語のように別々の国や地域で異なる特徴を発達させたもの、さらには、英語が世界で広く用いられるようになり、各地で独自に発達したものなど、実に様々な英語が存在します。そのような状況を反映し、最近ではEnglishesという言葉をよく目にします。本講義では、様々な英語について、それらがどのような歴史的背景に基づいて発達し、どのような特徴を持つものかということ学びます。
---------------------	--

授業スケジュール	このゼミでは、書物(英文)を通じて様々な英語の発達について学ぶと同時に、CD、DVD、インターネット上の音声等を用いて、実際に様々な英語を少しずつ実際に聞きながら、様々な英語の特徴について考えます。「様々な英語」のうちのどれを授業で扱うかは、ゼミ生の興味に合わせて決める予定ですが、およそイギリスやアメリカのいくつかの方言、オーストラリアやニュージーランドの英語、インドの英語、シンガポールの英語などを扱う予定です。
----------	--

- (前期) 1. イントロダクション  
2. ~15. 英文講読およびその内容と関連する発表、ディスカッション等。

(後期) 前期と同様の作業を毎回行います。

準備学習	毎回英文を読むので、それに支障の出ないように、普段の英語学習をしっかりと行っておいてください。
------	---

履修上の留意点	このゼミでは、ゼミ生の発表に毎回大きな時間を割いて授業を進めます。各自割り当てられたテーマについて事前によく調査をし、発表のためのハンドアウトを作成し、出来る限り詳しく充実した発表を行えるように準備をしてください。
---------	---

成績評価の方法	出席、授業中の発表、発言、学期末のレポートにより成績をつけます。
---------	----------------------------------

教科書/テキスト	必要に応じてハンドアウトを配布。
----------	------------------

参考書	随時紹介する。
-----	---------

その他	特になし
-----	------

履修コード	031191
科目名	3年次ゼミ
担当者名	川崎 明子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	ヘンリー・ジェイムズ (Henry James, 1843-1916) の『ねじの回転』(The Turn of the Screw, 1898) を読み、読解力や表現力の向上を目指します。前期は作品を通読・精読しながら、様々なテーマで自由にディスカッションをします。後期は作品に関する批評を読んだ上でレポートを作成し、そのレポートの発表と質疑応答をします。
---------------------	---

授業スケジュール	前期 第1回：オリエンテーション、第2～12回：作品読解、作品解説、ディスカッション、 第13～15回：レポート作成法。 後期 第1～7回：批評読解、第8～15回：レポート発表。
----------	---

準備学習	授業開始前に作品の通読をするとよいでしょう。
------	------------------------

履修上の留意点	就職活動などで欠席する場合は事前に連絡してください。
---------	----------------------------

成績評価の方法	出席は3分の2以上が必要。出席を含めた授業への貢献度、発表やディスカッションの内容、レポートの結果で総合的に評価します
---------	---

教科書/テキスト	翻訳は岩波文庫の『ねじの回転 デイジー・ミラー』。 原文はOxford World's Classics.
----------	--

参考書	川口喬一『イギリス小説入門』(研究社) イギリス小説の流れと特徴がつかめるのみならず、小説研究のヒントも得られる良書。 卒論を小説で書く方には一読をおすすめします。 川口喬一『「嵐が丘」を読む ポストコロニアル批評から「鬼丸物語」まで』 小説研究のヒントを得られます。
-----	--

履修コード	030201
科目名	3年次ゼミ
担当者名	河崎 征俊
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	イギリスの14世紀は、百年戦争、農民一揆、黒死病の流行、政治的闘争など、多彩な時代であった。と同時に、英語が復権し、騎士道精神華やかになりし時代でもあった。この時代に現れた詩人ジェフリー・チョーサーはこのような時代の特徴をすべて吸収し、その独特なパーソナリティーをとおして、イギリス文学の特性ともなるヒューモアとか風刺の精神を、いわゆる、デタッチ・ドな態度で描いている。そして、この詩人は当時の宮廷と深く関わりながら、ウェルギリウス、オウィディウスといったラテン詩人や、ダンテ、ボッカチオといったイタリア詩人、およびギヨーム・ド・ロリス、ジャン・ド・マン、ジャン・フロワサルといった中世フランス詩人たちの古典文学に通じ、当時のイギリスに初めて文学らしきものを確立したと言われている。この詩人の作品を精読しながら、イギリス文学および英語のものと姿をとらえ、学習・研究の幅を広げるのが、このゼミのねらいである。
授業スケジュール	(1) 中世イギリス文学概観。(2~5) 中世英語の文法と発音練習ならびにチョーサーの簡単な英文の読解法。(6~15) The Canterbury Talesの中のThe Pardoner's Taleの読解。(16~19) ゼミ生による研究発表とディスカッション。(20~23) チョーサーの批評文読解。(24~28) The Pardoner's Taleの読解。(29) まとめならびに総合復習。(30) チョーサーの批評文に関する小テスト。
準備学習	イギリス中世文学の基礎から勉強するためにヨーロッパ中世の歴史およびイギリス中世の歴史を概観しておくこと。
履修上の留意点	イギリス文学史の中世の箇所を一般的な書物をとおして確認し、時代背景を把握しておいていただきたい。開講時に中世イギリス文学に関する文献リストを配布するので、図書館等で文献確認を行い、レポート作成に向けていただきたい。
成績評価の方法	(a) 夏期レポート、(b) レポート口頭発表、(c) 演習発表、(d) 12月の授業最終時に行う小テスト、ならびに(e) 出席状況等を中心に総合的に評価する。ゼミに対する積極的姿勢も評価の対象としたい。
教科書/テキスト	A. C. Baugh版を用いることになるが、この版は現在入手不可能なので、この版をコピーして配布する予定。
参考書	

履修コード	031101
科目名	3年次ゼミ
担当者名	佐藤 真二
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	Accents of English (地域や社会階級、年齢、性別等による発音の違い) を、音声資料を用いて研究する。
授業スケジュール	International Phonetic Alphabet、地域による相違、社会階級による相違、性別、年齢による相違。(1-8) 研究予定地域：イングランド南部(ロンドン等)、イングランド北部(リヴァプール等)、スコットランド、アイルランド、ウェールズ、オーストラリア、カナダ等。(9-15) 学生の研究発表(16-25) まとめと今後の課題(26-30) 使用予定資料：インタビュー、ニュース、テレビ番組、映画、音楽等。
準備学習	前回までの授業内容をよく復習しておくこと。
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>履修には、英語音声学全般に関する基礎知識が必要である。</li> <li>音声資料の分析等のために、プラクティカルな英語力も要求される。</li> <li>参考書や資料は、英語のもののみ使用予定。</li> <li>後期には、学生各自が、自ら選択したテーマで夏期に研究した結果の発表を行う。</li> <li>口頭発表は、英語で行うことも視野に入れる。</li> <li>後期の発表のためには、前期の授業に毎回出席し、テキストの要約発表やear-trainingなどの基礎学習が不可欠となる。毎回予習の上出席すること。</li> </ul>
成績評価の方法	授業内の発表とレポートによって評価する。
教科書/テキスト	教場にて指示する。
参考書	
その他	夏期に、音声学をテーマにした合宿を行う予定。

履修コード	030901
科目名	3年次ゼミ
担当者名	佐藤 千春

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	アメリカ文学史上、1830年頃から超絶主義 (Transcendentalism) という文芸思潮が台頭してきた。このゼミでは、超絶主義とは何か？を論じ、これにかかわる作家をとりあげてみることにする。その1人がナサニエル・ホーソーン (Nathaniel Hawthorne, 1804-64) である。彼の作品を精読し、さらにほかの作家との比較も行いながら、その人間観、世界観などを探っていくことにする。あわせて、この時代、アメリカ・ルネッサンスという時代も展望してみたい。
---------------------	--

授業スケジュール	ホーソーン作品を精読し、その間、これらの作品と共通、あるいは対照的な他の作家の作品なども紹介して行く。本年度扱う作品は、ゼミ開講時にプリントで配布する予定である。
----------	---

準備学習	アメリカ・ルネッサンスという時期の時代背景、特長といったことを調べておくこと。
------	---

履修上の留意点	あらかじめ発表部分をあてておくので十分な予習をもって授業に臨んでほしい。作品の訳読、内容の分析、ならびに難解な部分の解説や説明を行ったり、説明を求めたりする形式で進めて行く。ゼミクラスは、学生諸君の希望に基づいた履修であるので、遅刻・欠席は厳に慎むこと。遅刻・欠席が重なる場合は、ゼミクラスから除籍扱いになるので特に注意しておくこと。その他の注意事項は授業開講時に連絡をする。
---------	--

成績評価の方法	分担して発表してもらう姿勢と内容、作品の内容と分析に関するテスト、あるいはレポートを課題として出す予定。出席が重視されるのは当然と考えてほしい。
---------	--

教科書/テキスト	プリントを使用する。4月の開講時に各自に手渡すので注意されたい。
----------	----------------------------------

参考書	参考書、翻訳書など多数にのぼるので授業内において、その都度紹介して行く。
-----	--------------------------------------

履修コード	030401
科目名	3年次ゼミ
担当者名	高野 正夫

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	WordsworthとColeridgeがLYRICAL BALLADSを出版した1798年からの約30年間をロマン主義の時代と呼んでいます。イギリス・ロマン派の詩人たちの特徴の一つにその自然観があります。ロマン派の詩人たちは、それまで顧みられることのなかった自然の奥深くにある神秘性や啓示的精神に目を向けて、新たな詩を生み出していったのです。さらに、LYRICAL BALLADSの特徴の一つである、平凡な話し言葉によって書かれた詩は、従来のものより読みやすくなり、このロマン主義の時代に詩は、一般大衆にとって身近なものとなっていきました。そして、彼らが選んだ主題は、自然以外にも、愛や古いバラッドや、神話など、人々の日常生活に関わるものが多かったのです。その他、BlakeやWordsworthの作品にも見られるように、子供を文学作品の重要なテーマとしたのもロマン主義の一つの特徴であったのです。とくにWordsworthは、多くの子供を中心とした素朴な家族の愛を描いた作品を書いていました。 このようなイギリス・ロマン派の詩人たちが描いた自然や愛そして子供たちを主題とした作品や、Beatrix Potter, Mother Gooseなどを読みながら、当時のイギリスの人々のロマンチックな精神を探っていく予定です。
---------------------	--

授業スケジュール	(1~8) Beatrix Potterの生涯 (9~15) Potterの代表的な作品 (16~24) Mother Gooseの魅力と作品 (25~30) Wordsworthの作品
----------	---

準備学習	発表の時以外にもできる限り予習をして、授業に出ること。
------	-----------------------------

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	レポートや平常点や出席状況を見ながら総合的に評価する。
---------	-----------------------------

教科書/テキスト	プリントを使用します。
----------	-------------

参考書	
-----	--

履修コード	030601
科目名	3年次ゼミ
担当者名	モート、セーラ
授業概要/ 到達目標（ねらい）	<ul style="list-style-type: none"> <li>このゼミの目的は、比較文化論的に、日本とイギリス、ヨーロッパの美術の基礎を学び、絵画を見る目を養い、それについて英語で自分の意見を言えるようにすることである。</li> <li>画家について、その基本的な歴史的背景を学ぶ。</li> <li>美術鑑賞における、基本的な専門用語を学ぶ。</li> <li>研究方法を学ぶ。</li> </ul>
授業スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> <li>a. 17世紀から現代に至る美術や書物を通して、イギリスの文化や伝統的建庭園・風景・ファッションを考える。</li> <li>b. 個々の作品を鑑賞したり、同じテーマや作風を比較して鑑賞したりする。</li> <li>c. 年に2回程度、美術館（上野西洋美術館、根津美術館など）やギャラリーで絵画の鑑賞をする。</li> <li>d. ネイティブスピーカーを目指し、英会話に慣れ親しむようにする。</li> <li>e. 必要に応じて、DVDや種々の資料を扱う。</li> </ul>
準備学習	英英辞典を持参する
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>積極的に授業に参加し、研究のスキルを上達させることが要求される。</li> <li>レポートを提出し、授業中に発表することが必要である。</li> </ul>
成績評価の方法	授業内の発表とレポートによって評価する。
教科書／テキスト	プリントを使用する。
参考書	
その他	英語で授業を行う。

履修コード	027901
科目名	時事英語
担当者名	唐澤 一友
授業概要/ 到達目標（ねらい）	テレビ、新聞、インターネット等で日々報道される英語によるニュースに触れながら時事英語の基礎を学ぶと同時に、時事英語にとどまらず英語力そのものを向上させることを目標とする。
授業スケジュール	<p>主にBBCで報道される最新のニュースを見たり読んだりしながら、そこで用いられる英語を通じて時事英語の基礎を学びます。リーディングとリスニングの力を鍛える訓練になるような授業を目指します。また、毎回一つずつ、その時々時事英語のキーワードなどを覚えることにより、時事英語と関連する語彙力も身に付けます。</p> <p>（前期）1. オリエンテーション 2. ～15. 実際のニュースを読んだり見たりしながら行う演習 （後期）1. ～15. 実際のニュースを読んだり見たりしながら行う演習</p>
準備学習	普段の英語学習をしっかりと行ってください。
履修上の留意点	必ず予習をしてくること。予習の際によく分からなかった点については、授業で積極的に質問して下さい。
成績評価の方法	出席、学期末テスト、および授業への取り組みにより総合的に評価します。
教科書／テキスト	使用せず。必要に応じてハンドアウト等を配布します。
参考書	
その他	受講希望者が多い場合には、受講者数を最大40名程度に制限する予定です。初回の授業で必要に応じて選抜試験を行いますので受講希望者は必ず初回の授業に出てください。

履修コード	028001
科目名	商業英語
担当者名	秋葉 滋
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> <li>-国際ビジネスで使うレター、E-mailの書き方を身につける</li> <li>-国際経済ニュース（英語）を通じて、グローバルな視点を養い、国際ビジネスの感覚を身につける</li> <li>-英語、日本語を交えた授業を通じて、グローバル社会への対応を感じてもらう</li> <li>-国際ビジネスの実践的な説明、解説、経験談、チャレンジする際のアドバイス</li> </ul>
授業スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> <li>(a) 第1回 (1)オリエンテーション、授業の進め方の確認(2)「国際ビジネス」についての解説と経験談、(3)グローバル化への対応、英語の必要性について解説</li> <li>(b) 第2回-第7回 (1)英文レター、E-mailの書き方入門と実践、(2)テキスト（未定）の実践と解説、(3)Oral Englishのトレーニング</li> <li>(c) 第8回-第12回 (1)テキスト（未定）の実践と解説、(2)英文ニュース、社説を通じて国際ビジネスに使われている英語の習得、(3)各自の英語による自己紹介</li> <li>(d) 第13回 国際ビジネスに関わる経営者のプレゼンテーション（第1回）</li> <li>(e) 第14回、第15回 前期の復習（英文レター、e-mailの書き方）</li> <li>(f) 第16回-第23回 (1)英文ニュース、社説を通じて国際ビジネスに使われている英語の習得、(2)テキスト（未定）の実践と解説</li> <li>(g) 第24回 国際ビジネス関わる経営者のプレゼンテーション（第2回）</li> <li>(h) 第25回-第28回 国際ビジネスの実践と現場—解説と経験談</li> <li>(i) 第29回-第30回 期末試験及び国際ビジネスにチャレンジする際のアドバイスを行う</li> </ul>
準備学習	毎回授業内容のプリントを配布し、次回の課題を出すことがあるので必ず予習をしてもらいたい。理解度をチェックするために宿題を出す場合があるので、必ず提出してほしい。
履修上の留意点	継続的に授業に出席、参加すること、発言、質問を通じて双方向のコミュニケーションを取ること、授業の復習にかなり重点をおくこと。
成績評価の方法	プロセス評価（出席、宿題、小テスト、毎回の授業における積極的な発言回数等）40% 結果評価（学期末試験（12月予定）の結果）60%
教科書／テキスト	未定
参考書	未定



履修コード 023701

科目名 スピーチ・アンド・コミュニケーションI

担当者名 マーティン. S. F.

授業概要/  
到達目標 (ねらい)

This course, through a variety of topics, attempts to develop critical thinking skills as befitting a liberal arts education. As prescribed by The Ministry of Science and Education and Keidanren, there is a strong focus on developing collaborative communication skills to prepare students for their role as effective members of the work place and responsible citizens in a democratic community. As such, the students will be expected to show a willingness to collaborate with each other, as well as other members of the education community.

授業スケジュール

Spring Semester

- 1 - Orientation Discussion / Lecture ... the purpose of the class, student introductions, grammar warm up 'Totems', '20 Questions', 'Go Fish'
- 2 - People and Places: Unit 1: What's Your Favorite TV show?
- 3 - People and Places: Unit 1: What's Your Favorite TV show?
- 4 - People and Places: Unit 2: Is this your cell phone?
- 5 - People and Places: Unit 2: Is this your cell phone?
- 6 - People and Places: Unit 3: This is my family.
- 7 - People and Places: Unit 3: This is my family.
- 8 - People and Places: World Explorer 1: Amazing Spain!
- 9 - The Natural World: Unit 4: How many lions are there?
- 10 - The Natural World: Unit 4: How many lions are there?
- 11 - The Natural World: Unit 5: Can elephants drive?
- 12 - The Natural World: Unit 5: Can elephants drive?
- 13 - The Natural World: Unit 6: What's the weather like?
- 14 - The Natural World: Unit 6: What's the weather like?
- 15 - The Natural World: World Explorer 2: Pandas

Fall Semester

- 16 - Review, grammar warm up 'Totems', '20 Questions', 'Go Fish'
- 17 - History and Culture: Unit 7: Do you like sandwiches?
- 18 - History and Culture: Unit 7: Do you like sandwiches?
- 19 - History and Culture: Unit 8: How much is this T-shirt?
- 20 - History and Culture: Unit 8: How much is this T-shirt?
- 21 - History and Culture: Unit 9: What do you do for New Year's?
- 22 - History and Culture: Unit 9: What do you do for New Year's?
- 23 - History and Culture: World Explorer 3: Wonders of Peru
- 24 - Science and Education: Unit 10: When do you usually get up?
- 25 - Science and Education: Unit 10: When do you usually get up?
- 26 - Science and Education: Unit 11: What are you doing?
- 27 - Science and Education: Unit 11: What are you doing?
- 28 - Science and Education: Unit 12: Save every!
- 29 - Science and Education: Unit 12: Save every!
- 30 - Science and Education: World Explorer 4: Cool City: Tokyo

準備学習

Students are expected to complete homework assignments on time as these assignments are usually necessary for participation in subsequent class exercises.

履修上の留意点

成績評価の方法

Classroom behavior - 80 %  
Homework and quizzes - 20 %

教科書/テキスト

Spring Semester (zenki)  
Textbooks: Time Zones 1 ...  
Combo Split 1A with Multi-ROM  
ISBN ... 978-1-4240-6445-8

Fall Semester (kouki)  
Textbooks: Time Zones 1 ...  
Combo Split 1B with Multi-ROM  
ISBN ... 978-1-4240-6446-5

参考書

履修コード	023801
科目名	スピーチ・アンド・コミュニケーションI
担当者名	マーティン S. F.

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	This course, through a variety of topics, attempts to develop critical thinking skills as befitting a liberal arts education. As prescribed by The Ministry of Science and Education and Keidanren, there is a strong focus on developing collaborative communication skills to prepare students for their role as effective members of the work place and responsible citizens in a democratic community. As such, the students will be expected to show a willingness to collaborate with each other, as well as other members of the education community.
---------------------	--

授業スケジュール	Spring Semester
----------	-----------------

- 1 - Orientation Discussion / Lecture ... the purpose of the class, student introductions, grammar warm up 'Totems', '20 Questions', 'Go Fish'
- 2 - People and Places: Unit 1: What's Your Favorite TV show?
- 3 - People and Places: Unit 1: What's Your Favorite TV show?
- 4 - People and Places: Unit 2: Is this your cell phone?
- 5 - People and Places: Unit 2: Is this your cell phone?
- 6 - People and Places: Unit 3: This is my family.
- 7 - People and Places: Unit 3: This is my family.
- 8 - People and Places: World Explorer 1: Amazing Spain!
- 9 - The Natural World: Unit 4: How many lions are there?
- 10 - The Natural World: Unit 4: How many lions are there?
- 11 - The Natural World: Unit 5: Can elephants drive?
- 12 - The Natural World: Unit 5: Can elephants drive?
- 13 - The Natural World: Unit 6: What's the weather like?
- 14 - The Natural World: Unit 6: What's the weather like?
- 15 - The Natural World: World Explorer 2: Pandas

#### Fall Semester

- 16 - Review, grammar warm up 'Totems', '20 Questions', 'Go Fish'
- 17 - History and Culture: Unit 7: Do you like sandwiches?
- 18 - History and Culture: Unit 7: Do you like sandwiches?
- 19 - History and Culture: Unit 8: How much is this T-shirt?
- 20 - History and Culture: Unit 8: How much is this T-shirt?
- 21 - History and Culture: Unit 9: What do you do for New Year's?
- 22 - History and Culture: Unit 9: What do you do for New Year's?
- 23 - History and Culture: World Explorer 3: Wonders of Peru
- 24 - Science and Education: Unit 10: When do you usually get up?
- 25 - Science and Education: Unit 10: When do you usually get up?
- 26 - Science and Education: Unit 11: What are you doing?
- 27 - Science and Education: Unit 11: What are you doing?
- 28 - Science and Education: Unit 12: Save every!
- 29 - Science and Education: Unit 12: Save every!
- 30 - Science and Education: World Explorer 4: Cool City: Tokyo

準備学習	Students are expected to complete homework assignments on time as these assignments are usually necessary for participation in subsequent class exercises.
------	--

#### 履修上の留意点

成績評価の方法	Classroom behavior - 80 % Homework and quizzes - 20 %
---------	--

教科書/テキスト	Spring Semester (zenki) Textbooks: Time Zones 1 ... Combo Split 1A with Multi-ROM ISBN ... 978-1-4240-6445-8  Fall Semester (kouki) Textbooks: Time Zones 1 ... Combo Split 1B with Multi-ROM ISBN ... 978-1-4240-6446-5
----------	--

#### 参考書

履修コード	023501
科目名	スピーチ・アンド・コミュニケーションI
担当者名	モート. セーラ
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	The aim of Speech and Communication I is to develop speaking skills and to improve confidence in giving presentations on a specific topic in small groups.
授業スケジュール	<p>I. (1-15) During the first semester the emphasis will be on practicing speaking with other students in pairs and groups in the class in English on various topics to gain confidence.</p> <p>*Podcasts and the BBC English language learning website will also be used in class to help improve listening and speaking skills.</p> <p>*An introduction to British culture will be made with authentic materials, from selected Dvds and reading material.</p> <p>*Simple and enjoyable ways to improve pronunciation will also be part of the course.</p> <p>*Students will keep an ongoing diary in class and at home, with photographs, pictures and writing.</p> <p>II. (16-30) During the second semester students will concentrate on how to research, understand and explain topics from British and Japanese culture.</p> <p>*This will be in simple, easy-to-understand English, using examples.</p> <p>*Lengthening sentences and communicating using question forms, such as wh-questions, effectively will also be part of the course.</p> <p>*Students will be required to give group presentations in English with PowerPoint, followed by questions and answers (Q&amp;A), in front of the class at the end of each semester.</p> <p>*Assignments will be regularly given, to be completed out of class.</p>
準備学習	Independent study to practice and improve language skill will include study of the BBC 6 Minute English Language Learning Programme and reading short texts from the Oxford University Press (OUP) Readers Series, such as Bookworms.
履修上の留意点	
成績評価の方法	Students will be assessed through the group presentations (35), note-book (20) and classwork, including attendance (45). Students will be expected to attend regularly, complete all tasks set in class and participate actively.
教科書/テキスト	There is no textbook, however a note-book and dictionary will be required in class.
参考書	

履修コード	023601
科目名	スピーチ・アンド・コミュニケーションI
担当者名	レイン R. V.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	This course will: [1] help students use conversational English language patterns and idioms with increased confidence, [2] help students speak English without translating from Japanese, and [3] improve students' skills and confidence in giving presentations in front of the class.
授業スケジュール	[1] Class introduction, including goals, textbook overview and student assigned seating. [2-14 & 16-28] During the first half of each class students work in pairs doing textbook speaking activities on a variety of language patterns and verb tenses. During the second half of each class students will give presentations in front of the class on topics selected by the instructor. [15] Midterm exam using selected textbook drill activities. [29-30] Final Exam using selected textbook activities.
準備学習	In preparation for each class, students are expected to practice orally at home the textbook pages done in the previous week's class. Students are also expected to practice their presentation several times in preparation for the next class.
履修上の留意点	Students are expected to be prepared for each class and participate actively. Regular attendance is essential: ABSENCE OF 1/3 OF CLASSES WILL RESULT IN A FAILING GRADE. Additionally, excessive absences and tardiness will have a negative effect on the student's grade.
成績評価の方法	Students will be tested at the midterm and end of the year on selected textbook activities as well as graded on their class presentations. The final grade will be determined on the basis of these grades as well as attendance and class participation.
教科書/テキスト	author: Steven Molinsky and Bill Bliss title: Side by Side, 3rd Edition, BOOK 4 publisher: Longman date: 2003 ISBN 0-13-183937-3
参考書	none
その他	none

履修コード	024301
科目名	スピーチ・アンド・コミュニケーションII
担当者名	シャープ J.

授業概要/  
到達目標 (ねらい)

The aim of this course is to introduce students to a wide variety of global issues, developing listening and speaking skills using the "What a World Listening" series of books.  
Students will become accustomed to listening to English conversations and practice useful structures to give them the confidence to engage in discussions with native speakers.  
The teacher will supplement the audio and textbook with extra materials for vocabulary building where appropriate.

授業スケジュール

第1回: Inventions  
第2回: Beauty  
第3回: Royalty  
第4回: Rites of Passage  
第5回: Explorers  
第6回: Australia  
第7回: China  
第8回: Medicine  
第9回: Detective Stories  
第10回: Endangered Animals  
第11回: Marriage  
第12回: Extreme Sports  
第13回: Science Fiction  
第14回: Future of Transportation  
第15回: MIDTERM TEST  
第16回: Castles  
第17回: Ancient Civilisations of America  
第18回: Festivals  
第19回: Legendary Characters  
第20回: Temples  
第21回: Fashion Designers  
第22回: Food  
第23回: Volcanoes  
第24回: The Renaissance  
第25回: Oceania  
第26回: Spices  
第27回: The Sea  
第28回: The World Wide Web  
第29回: REVISION CLASS  
第30回: FINAL EXAM

準備学習

Listening to short podcasts, such as "The English We Speak" from BBC, will be helpful ([bbc.co.uk/podcasts/series/tae](http://bbc.co.uk/podcasts/series/tae)). Longer podcasts about weekly news topics are recommended for more confident students.

履修上の留意点

成績評価の方法

Participation in class (30%), homework (internet research tasks) (30%), midterm (20%) and final tests (20%)

教科書/テキスト

Lectures 1 to 15:  
Broukal, Milada, What a World Listening 2 (Pearson Longman), 2011  
ISBN: 9780132473897

Lectures 16 to 30:  
Broukal, Milada, What a World Listening 3 (Pearson Longman), 2011  
ISBN: 9780131382008

参考書

履修コード	024401
科目名	スピーチ・アンド・コミュニケーションII
担当者名	シャープ J.

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>The aim of this course is to introduce students to a wide variety of global issues, developing listening and speaking skills using the "What a World Listening" series of books.</p> <p>Students will become accustomed to listening to English conversations and practice useful structures to give them the confidence to engage in discussions with native speakers.</p> <p>The teacher will supplement the audio and textbook with extra materials for vocabulary building where appropriate.</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>第1回: Inventions  第2回: Beauty  第3回: Royalty  第4回: Rites of Passage  第5回: Explorers  第6回: Australia  第7回: China  第8回: Medicine  第9回: Detective Stories  第10回: Endangered Animals  第11回: Marriage  第12回: Extreme Sports  第13回: Science Fiction  第14回: Future of Transportation  第15回: MIDTERM TEST  第16回: Castles  第17回: Ancient Civilisations of America  第18回: Festivals  第19回: Legendary Characters  第20回: Temples  第21回: Fashion Designers  第22回: Food  第23回: Volcanoes  第24回: The Renaissance  第25回: Oceania  第26回: Spices  第27回: The Sea  第28回: The World Wide Web  第29回: REVISION CLASS  第30回: FINAL EXAM</p>
----------	--

準備学習	Listening to short podcasts, such as "The English We Speak" from BBC, will be helpful ( <a href="http://bbc.co.uk/podcasts/series/tae">bbc.co.uk/podcasts/series/tae</a> ). Longer podcasts about weekly news topics are recommended for more confident students.
------	---

履修上の留意点
---------

成績評価の方法	Participation in class (30%), homework (internet research tasks) (30%), midterm (20%) and final tests (20%)
---------	---

教科書/テキスト	<p>Lectures 1 to 15:  Broukal, Milada, What a World Listening 2 (Pearson Longman), 2011  ISBN: 9780132473897</p>
----------	--

Lectures 16 to 30:  
Broukal, Milada, What a World Listening 3 (Pearson Longman), 2011  
ISBN: 9780131382008

参考書
-----

履修コード	024601
科目名	スピーチ・アンド・コミュニケーションII
担当者名	ダーリン M.

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	The aims of this course are for students to improve their English skills, particularly speaking and listening; expand their vocabulary; become more confident English speakers. High-interest themes will be used to stimulate conversation with a strong focus on both accuracy and fluency. Students will have ample opportunities to speak in class and be given a variety of speaking tasks to help develop fluency. To maximize speaking time, students will do a lot of pairwork and speak in small groups. However, students will still have many chances to converse with the teacher. To develop their vocabulary, students will be required to keep a vocabulary notebook, making weekly entries of new words learned from classroom work and from the textbook.
---------------------	--

授業スケジュール	Unit 1 Unit 3 Unit 5 Unit 10 Unit 13 Unit 14 Unit 15
----------	--

準備学習	Review the textbook and make weekly entries in the vocabulary notebook
------	--

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	Evaluation will be based on attendance, active participation in class, quizzes, vocabulary notebook and presentations.
---------	--

教科書/テキスト	Interchange Third Edition Student's Book 2 Jack C. Richards Cambridge University Press 978-0-521-60194-8
----------	---

参考書	
-----	--

履修コード	024501
科目名	スピーチ・アンド・コミュニケーションII
担当者名	モート. セーラ
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	The aim of Speech and Communication II is to develop speaking and listening skills as well as expressing an opinion in English.
授業スケジュール	<p>I. (1-15) During the first semester the emphasis will be on techniques for developing speaking and listening skills in English, which will be practised in pairs and groups on various topics to gain confidence.</p> <p>*Podcasts and the BBC English language learning website will also be used in class to help improve listening and speaking skills.</p> <p>*Further study on topics from British popular culture through authentic materials, film and reading material will also be available.</p> <p>*Simple and enjoyable ways to improve pronunciation and gain confidence in expressing an opinion will also be part of the course.</p> <p>*Students will keep an ongoing diary in class and at home, with photographs, pictures and writing.</p> <p>II. (16-30) During the second semester students will concentrate on how to research, understand and explain topics from British and Japanese culture.</p> <p>*This will be in simple, easy-to-understand English, using examples.</p> <p>*Lengthening sentences and communicating using question forms, such as wh-questions, tag questions and rhetorical questions will also be part of the course.</p> <p>*Students will be required to give group presentations in English with PowerPoint, followed by questions and answers (Q&amp;A), in front of the class at the end of each semester.</p> <p>*Assignments will be regularly given to be completed outside class.</p>
準備学習	Independent study to practice and improve language skill will include study of the BBC 6 Minute English Language Learning Programme and reading short texts from the Oxford University Press (OUP) Readers Series, such as Bookworms.
履修上の留意点	
成績評価の方法	Students will be assessed through the group presentations (35), note-book (20) and classwork including attendance (45). Students will be expected to attend regularly, complete all tasks set in class and participate actively.
教科書/テキスト	There is no textbook, however a note-book and dictionary will be required.
参考書	



履修コード	029511
科目名	TOEIC (R)・TOEFL (R) 講座
担当者名	富士川 美紀
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	This course will help students acquire effective ways of learning practical English and obtain higher scores on both the TOEIC and TOEFL test.
授業スケジュール	<p>The purpose of this course is to help students improve the four basic skills of English (listening, speaking, reading and writing) and familiarize them with both the TOEIC and TOEFL test.</p> <p>We will do the following activities in class: ① listen to a variety of English listening materials ② increase reading speed and comprehension of the TOEIC and TOEFL test ③ review grammar and learn vocabulary for the TOEIC and TOEFL. Test-taking strategies will be taught in class. Class activities also include pair work and group discussion.</p> <p>Spring Semester  Week 1 Class introduction and guidance  Week 2-6 Listening training  Week 7-10 Grammar review and vocabulary  Week 11-14 Reading training  Week 15 Midterm Exam</p> <p>Fall Semester  Week 1 Guidance and review  Week 2-6 Listening training  Week 7-9 Writing training for the TOEFL test  Week 10-14 Reading and Speaking training for the TOEFL test  Week 15 Final Exam</p>
準備学習	Please come to class well-prepared. Students need to review previous lessons and prepare for review quizzes.
履修上の留意点	Students are expected to attend regularly and participate actively in classwork. Sample TOEIC and TOEFL tests will be given in class, and students will be encouraged to register for an actual TOEIC test in or after the second semester. Excessive absences and tardiness will have a negative effect on the student's grade.
成績評価の方法	Students will be evaluated and graded as follows: (1) attendance, classwork and homework assignments (40%); (2) quizzes and midterm & final exams (60%)
教科書/テキスト	None. To be announced in class. Learning materials will be handed out in class.
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ TOEICテスト新公式問題集 (Vol.4) 出版社: 国際ビジネスコミュニケーション協会 価格: 2940円 ISBN-13: 978-4906033409</li> <li>・ TOEICテスト新公式問題集 (Vol.3) 出版社: 国際ビジネスコミュニケーション協会 価格: 2940円 ISBN-13: 978-4906033386</li> <li>・ TOEICテスト新公式問題集 (Vol.2) 出版社: 国際ビジネスコミュニケーション協会 価格: 2940円 ISBN-13: 978-4906033362</li> <li>・ TOEICテスト新公式問題集 出版社: 国際ビジネスコミュニケーション協会 価格: 2940円 ISBN-13: 978-4906033348</li> <li>・ The Official Guide to the TOEFL iBT with CD-ROM, Third Edition 出版社: McGraw-Hill; 3版 価格: 3085円 ISBN-13: 978-0071624053</li> </ul>
その他	Let's enjoy learning English!

履修コード	029531
科目名	TOEIC (R)・TOEFL (R) 講座
担当者名	富士川 美紀

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	This course will help students acquire effective ways of learning practical English and obtain higher scores on both the TOEIC and TOEFL test.
---------------------	--

授業スケジュール	<p>The purpose of this course is to help students improve the four basic skills of English (listening, speaking, reading and writing) and familiarize them with both the TOEIC and TOEFL test.</p> <p>We will do the following activities in class: ① listen to a variety of English listening materials ② increase reading speed and comprehension of the TOEIC and TOEFL test ③ review grammar and learn vocabulary for the TOEIC and TOEFL. Test-taking strategies will be taught in class. Class activities also include pair work and group discussion.</p> <p>Spring Semester</p> <p>Week 1 Class introduction and guidance  Week 2-6 Listening training  Week 7-10 Grammar review and vocabulary  Week 11-14 Reading training  Week 15 Midterm Exam</p>
----------	--

	<p>Fall Semester</p> <p>Week 1 Guidance and review  Week 2-6 Listening training  Week 7-9 Writing training for the TOEFL test  Week 10-14 Reading and Speaking training for the TOEFL test  Week 15 Final Exam</p>
--	--

準備学習	Please come to class well-prepared. Students need to review previous lessons and prepare for review quizzes.
------	---

履修上の留意点	Students are expected to attend regularly and participate actively in classwork. Sample TOEIC and TOEFL tests will be given in class, and students will be encouraged to register for an actual TOEIC test in or after the second semester. Excessive absences and tardiness will have a negative effect on the student's grade.
---------	--

成績評価の方法	Students will be evaluated and graded as follows : (1) attendance, classwork and homework assignments (40%); (2) quizzes and midterm & final exams (60%)
---------	--

教科書／テキスト	None. To be announced in class. Learning materials will be handed out in class.
----------	---

参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ TOEICテスト新公式問題集 (Vol.4) 出版社: 国際ビジネスコミュニケーション協会 価格: 2940円 ISBN-13: 978-4906033409</li> <li>・ TOEICテスト新公式問題集 (Vol.3) 出版社: 国際ビジネスコミュニケーション協会 価格: 2940円 ISBN-13: 978-4906033386</li> <li>・ TOEICテスト新公式問題集 (Vol.2) 出版社: 国際ビジネスコミュニケーション協会 価格: 2940円 ISBN-13: 978-4906033362</li> <li>・ TOEICテスト新公式問題集 出版社: 国際ビジネスコミュニケーション協会 価格: 2940円 ISBN-13: 978-4906033348</li> <li>・ The Official Guide to the TOEFL iBT with CD-ROM, Third Edition 出版社: McGraw-Hill; 3版 価格: 3085円 ISBN-13: 978-0071624053</li> </ul>
-----	---

その他	Let's enjoy learning English!
-----	-------------------------------

履修コード	029521
科目名	TOEIC (R)・TOEFL (R) 講座
担当者名	レイン, R. V.
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	This course will help familiarize students with primarily the TOEIC test [and to a much lesser extent the TOEFL test] by providing students with: 1] instruction in the areas tested; 2] opportunities to take sample exams and 3] test-taking strategies.
授業スケジュール	[1] Class introduction, including goals, textbook overview and student assigned seating. [2-5] Listening review and strategies. [6-9] Vocabulary and grammar review. [10-14] Reading review. [15] Midterm Exam. [16-18] Model Test #1. [19-21] Model Test #2. [22-24] Model Test #3. [25-27] Model Test #4. [28-30] Final Exams.
準備学習	Students are expected to come to class having done all assigned grammar and listening review homework assignments from the textbook.
履修上の留意点	Students should be aware that there will be a great deal of homework assigned after each class. Also, regular attendance is essential: ABSENCE OF 1/3 OF CLASSES WILL RESULT IN A FAILING GRADE. Additionally, excessive absences and tardiness will have a negative effect on the student's grade. NOTICE: The class will be limited to 55 students with 3rd and 4th year students receiving first priority.
成績評価の方法	Students will be evaluated on the basis of the following: completion of homework assignments, attendance, class participation and grades received on the midterm and final exams of sample TOEIC tests.
教科書/テキスト	title: Barron's TOEIC TEST, 5th Edition with audio CDs publisher: Barron's ISBN: 9781438070193 [book with audio CDs]
参考書	none
その他	none

履修コード	047111 047112
科目名	日本文化史
担当者名	廣瀬 良弘
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 日本文化の歴史が、当時の社会の生産の仕組みや政治・経済・宗教などと深く関わりあっていたことに留意しながら、朝廷・公家・武家のみならず民衆が文化の創造に大きな役割を果たしていたことを明らかにしていきたいと思ひます。そして、この日本文化は現代においても、多くは底流として、また、ときには、「日本の代表的な文化」として、存在しています。現代の文化と対比しながら、検討していきたいと思ひます。 (到達目標) 日本の文化・歴史に関する知識を社会との関係から深めることを目標とします。
授業スケジュール	日本文化の流れを概観し、民衆の躍動やその文化が顕著になってくる中世の文化を中心にその前後の文化にも注目しながら、文化の様相と特色について見ていきます。 ・日本文化史概観、・中世文化史研究の動向 (1, 2), ・鎌倉仏教と文化 (3~5), ・禅宗と五山文化 (6, 7), ・南北朝から室町期の文化 (8, 9), ・北山文化の展開 (10, 11), ・東山文化とその基盤 (12~15), ・中世の職能民 (16, 17), ・連歌師の旅 (18, 19), ・戦国社会と宗教 (18, 19), ・戦国社会の駈込寺 (20~22), ・大名領国の文化 (23, 24), ・統一政権とその文化 (25, 26), ・近世文化史研究の動向と寛永文化 (27~30)
準備学習	日頃から日本の芸能や工芸品等に強い関心を示し、博物館等によく出かけて下さい。
履修上の留意点	講義の中に出てきた事項について、図書館の蔵書や辞書などで調べ直してみたり、現地に行ってみたりすることが必要です。また、日本文化や歴史、宗教などをテーマとする博物館・美術館などの展示会を積極的に観覧し、できるかぎり「実物」に接する機会を持って下さい。受講する上では図書館所蔵の文化史・美術史に関する資料・ビデオ等を大いに活用することをすすめます。なお、本学の禅文化歴史博物館での文化史関連展示会の見学と学芸員による説明会を実施します。
成績評価の方法	定期試験の結果と授業の出欠を重視します。定期試験では一般論を回答しても正解とならないことが多いので注意して下さい。つまり授業に出席し、しっかりとしたノートができていないと合格点は取れません。
教科書/テキスト	とくに指定しません。必要な資料は随時コピーを配布します。
参考書	講義内容に関する博物館・研究所などを随時提示して行きます。

履修コード	026611
科目名	翻訳演習
担当者名	高野 正夫

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	1930年代から活躍し、最も典型的な詩人と呼ばれた、W.H. Audenは、1939年1月にアメリカに渡った後もアメリカに住み続け、1946年、伝統にとらわれない自由な社会にあこがれてアメリカに帰化した。激動の時代を常に生きながら、アメリカの社会と様々な形でつながりを持つようとしたオーデンは、時にはアメリカの幾つかの大学で教えながら、アメリカ人の国民性や文化を見つめようとした。祖国イギリスを離れて自由の地アメリカで新たな生活を歩み出したオーデンは、「僕らは互いに愛し合わねばならない」と言って、人間にとっていかに他者を愛して生きていくことが大切かを説いていたが、このような彼の愛をテーマとした詩などを読みながら、その詩がいかに翻訳されてきたのか、そして、実際に翻訳する時の細かな注意点について説明していきます。
---------------------	---

授業スケジュール	毎時間オーデンの作品をもとにしながら授業をすすめていきます。4つの製作年代に分けて、大体次のような予定で行います。第1～2回：オーデンについての紹介、第3～9回：Part One (1927～1932)、第10～16回：Part Two(1933～1938)、第17～23回：Part Three (1939～1947)、第24～30回：Part Four (1948～1957)。
----------	---

準備学習	発表の時以外にもできる限り予習をして、授業に出ること。
------	-----------------------------

履修上の留意点	50年代にはナポリ沖のイスキア島で夏を過ごし、また、60年代はウィーン郊外の村に移り住んだオーデンは、世界中を旅行しながら世界各地の都市や人々の印象を書き記していた。このような人と旅行を愛したオーデンの詩の世界に感じられる、明るい爽やかな雰囲気、を、翻訳という作業から見て、感じてくれればと思います。夏休みにも課題を出します。
---------	---

成績評価の方法	前期のレポートや後期のテスト、実習発表や出席状況などを見ながら総合的に評価する。
---------	--

教科書／テキスト	W.H. Auden, Collected Shorter Poems 1927～1957 (Faber, 1966)か、プリントを使用します。
----------	--

参考書	
-----	--

その他	授業の性格上、受講生は30人程度とします。希望者が多い場合には最初の授業時に簡単なテストをします。
-----	---

履修コード	031251
科目名	4年次ゼミ
担当者名	東 雄一郎

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	卒業論文の指導。夏休みに入る前期において、論題は言うまでもなく、各自がしっかりとした論文の構想を立てる。原作・原文テキスト(英語テキスト)や、必読の関係書誌(英文・邦文)がそろうようにしておく。また、作家・作品研究の場合は、必ず原作(英文)を精読・熟読しておくこと。
---------------------	---

授業スケジュール	①卒業論文とは何か・論文の論題の決定(1～2) ②ジャンル別、グループ指導・書式並びに資料収集(3～4) ③ジャンル別口頭発表と質疑・論文の構成・章分けの仕方等(5～6) ④ジャンル別口頭発表と質疑・下書き(7～10) ⑤ジャンル別口頭発表と質疑・問題点の提示とその解決(11～13) ⑥下書き完成、提出(夏休休暇前)・ゼミ生同士によるグループ・チェック(14～15) ⑦研究室等における個別指導とそれに伴うスケジュール表の配布(16～19) ⑧ジャンル別口頭発表最終(20～21) ⑨指導教授による個別チェック(22～) 大学内個別指導(個別チェック)に加え、メール添付ファイルによる指導も行う。
----------	--

準備学習	卒業論文の書き方、レポートと論文の書き方、等の市販されている本を数冊読んでおくこと。また、開講時に前に、既に「論題」を具体的に決定しておくこと。
------	--

履修上の留意点	各自のテーマに真剣に取り組む、無断欠席は厳禁。欠席をすると、自分の作業が大幅に遅れ、卒論の期間内に提出に間に合わないことになる。ゼミであっても、単位を落とすことがある。
---------	--

成績評価の方法	①授業への参加・貢献度(25%) ②ジャンル別口頭発表と質疑(40%) ③提出物・下書き(15%) ④グループ・チェックへの貢献度(20%)
---------	--

教科書／テキスト	プリント配布
----------	--------

参考書	開講時に指示します。
-----	------------

その他	インターネットによる情報収集を行ってもよいが、現存の出版物を参照の上で、その情報の真偽を必ず確認するように。
-----	--

履修コード	031281
科目名	4年次ゼミ
担当者名	加藤 光也
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	卒業論文作成の基本となるゼミです。論文作成の準備、文献の選び方、論文構成法、執筆までを指導します。
授業スケジュール	最初の2回ほどで、論文執筆の要領を具体的な例を挙げながら解説。その後、前期にはリサーチの方法やテーマの決め方について指導、後期には各自のテーマに合わせてスケジュールを立て、論文作成のための個別の指導を行います。
準備学習	3年次までの学習を元に、授業が始まるまでにできるだけ論文の対象、テーマを明確にしておくことが大切です。スケジュールに合わせて進行状況を報告してもらいますので、個別指導には十分な準備をして臨むようにしてください。
履修上の留意点	出された課題については、必ず決められた期日までに提出してください。
成績評価の方法	論文への取り組み、課題レポート、論文の進み具合によって総合的に評価します。
教科書/テキスト	特にありません。
参考書	ゼミの中で適宜、紹介します。

履修コード	031291
科目名	4年次ゼミ
担当者名	唐澤 一友
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	3年次までに学んできたことを基礎として、各自のテーマに沿って卒業論文（英語または日本語）を作成します。全員で何度か集まりますが、それ以外は基本的にメールや個別の面接で指導します。
授業スケジュール	(前期) 4月に論文執筆法を確認します。5月末までにテーマを絞り、アウトラインを執筆。参照予定の文献リストも作成。夏休みに入る前には、全員で集まり、途中経過の報告会を行います。 (後期) 後期のはじめには、少なくとも一章分の第一稿を提出。10月末までに残りの章に関して第一稿を提出。11月には一度全員で集まり、第一稿に基づく報告会を行います。
準備学習	初回の授業までに卒論テーマをかなりの程度絞り込んでおけるよう、普段からテーマについてよく考えておいてください。
履修上の留意点	卒論指導を希望する学生は必ず履修すること。第一回の授業に必ず出席すること。提出物の期日はしっかり守ること。メールで連絡が円滑に取れるようにすること。10月末までに書いたものを一度も見せに来ない者については、それ以降一切指導しない（直接来られない場合はメールで送ってもよい）。指導なしで提出された卒論は単位が出ない可能性が高いので、十分注意すること。
成績評価の方法	作業への取り組みや提出物を遅滞なく提出したかどうかという点により評価します。
教科書/テキスト	使用しない。
参考書	必要に応じて指導します。
その他	特になし。

履修コード	031331
科目名	4年次ゼミ
担当者名	川崎 明子
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	3年次ゼミで学んだことを基礎として卒業論文を作成します。英語・日本語いずれも可。数回全員で集合し、後はメールと面接での個別指導となります。
授業スケジュール	4月に論文作成法を確認。 5月末の論題提出までにテーマ選択と大まかなアウトライン作成。 10月末から11月初めに第一稿提出。
準備学習	特になし
履修上の留意点	1 当教官の卒論指導を希望する場合は、必ず履修すること。 2 第一回目の授業で、次の程度に絞ったテーマを教官に知らせてください。 例：「『オリヴァ・ツイスト』について」、「ディケンズの短編について」、「イギリスの子供について」、「19世紀のロンドンについて」。 3 自分名義のEメールのアカウントを持つこと。
成績評価の方法	提出物の内容と論文の進行により評価します。
教科書/テキスト	特になし
参考書	適宜個別に指示します

履修コード	031211
科目名	4年次ゼミ
担当者名	河崎 征俊
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本ゼミは3年次ゼミで習得した中世英文学の知識を踏まえながら、チャオサーの作品を鑑賞したい。なお、本ゼミは卒業論文の作成も兼ねているので、ゼミ生の研究分野に沿った研究指導を行う予定。さらに、英語の内容と文体に関する英文を随時読みながら、文章作成の方法を考察していきたい。
授業スケジュール	(1~3) 卒業論文の論題について。 (4~8) The Canterbury Talesの読解。 (9~15) 内容と文体に関する英文の読解。 (16~20) 中世イギリス文学の特質について。 (21~29) The Canterbury Talesの読解。 (30) まとめ
準備学習	卒業論文の作成に向けて研究テーマとその内容を準備しておくこと。
履修上の留意点	論文作成に関する一般的な書物を熟読し、卒業論文のテーマをあらかじめ設定したうえで授業にのぞんでいただきたい。ゼミ生の研究分野に応じた文献リストを配布するので、図書館等で確認し、資料収集に着手していただきたい。
成績評価の方法	(a) 演習発表、(b) 卒業論文作成にのぞむ姿勢、(c) 出席状況等を中心に総合的に評価する。
教科書/テキスト	A. C. Baugh版をコピーして配布する予定。
参考書	

履修コード	031271
科目名	4年次ゼミ
担当者名	佐藤 真二
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	3年次にゼミで研究した事項(音声学)を基礎として、それを発展し、卒業論文へまとめあげたいことを目的とする。
授業スケジュール	研究方法の再確認。テーマの決定。資料の収集。卒業論文の書き方。(1-8) アウトライン作成。卒業論文指導(9-15)個別指導(16-30) 9月下旬序章(或いは第1章)提出、10月下旬第1章(或いは第2章)提出の予定。
準備学習	前回までの内容をよく復習しておくこと。
履修上の留意点	卒業論文の指導を希望するものは必ず履修すること。 履修者は必ず第1回目の授業に出席し、担当教員と連絡を取ること。 5月末からの論題提出期間までには、テーマを決定し、論題の案を用意し、その上で担当教員に連絡の上、相談にいくこと。 教育実習に行く学生は早めに論題の準備をしておくこと。 就職活動で忙しい場合でも、何らかの方法で担当教員に連絡すること。
成績評価の方法	レポートにより評価する。
教科書/テキスト	
参考書	渡部昇一他『論文・レポートの書き方』スタンダード英語講座8(大修館書店)1984年 他

履修コード	031261
科目名	4年次ゼミ
担当者名	佐藤 千春
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	卒業論文作成の基本となるゼミと考えてほしい。作家・作品その他論題の決定、そのための準備、そして完成への助言、助力を行う。
授業スケジュール	アメリカ・ルネッサンス期の作家を中心として指導を行うが、必ずしもこの時期の作家に限定するわけではない。指導は研究室で行う。人数によりグループ別に分けて隔週でこれを行うことも予定している。6月までにテーマを決め、その研究方針・報告を受け、それに従ってスケジュールをたてる。尚、4年ゼミの曜日、時限は、佐藤研究室にて連絡、発表し、そこでスケジュール表を渡すことにする。4年ゼミを希望する学生は早め上記研究室(1441)に来られたし。卒業論文の指導を希望する場合は、このゼミを履修登録していただきたい。
準備学習	メール、研究室での指導に基づいて準備をしていただくことになる。詳細は開講時に連絡する。
履修上の留意点	決められたスケジュールに従って報告をしてもらうので十分な準備をしていただくことになる。研究室での指導は毎週行うが、出欠は自由。授業・指導等の連絡はすべてメールにて行う予定。その他、詳細は授業開講時に連絡する。
成績評価の方法	論文を作成するにあたって、その過程、および内容などを考慮し評価を出す。
教科書/テキスト	とくに使用せず。 指導の中で指摘してゆく。
参考書	研究対象によって異なるので、その都度指摘することにする。

履修コード	031231
科目名	4年次ゼミ
担当者名	高野 正夫
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	4年次の卒業論文の執筆に向けて様々な指導を行います。どのようにして卒論を書いたらよいのかということについて、具体的な例をあげながら説明していきます。
授業スケジュール	(4月～7月) 前期は、卒論の論題受付に向けて、どのようなジャンルやテーマを選んだらよいのか、そしてどのような作家や作品を選んだらよいのかなどについて、相談しながら論題を決定する作業を行います。 (9月～12月) 後期は、論文を書く時の具体的な書き方などについて説明し、さらに下書きの段階で提出された論文を訂正するなどして、論文の完成に向けての細かな作業を行います。
準備学習	卒論の作成は長期間にわたるものなので、粘り強くさまざまな作業を進めることが必要であり、授業の時だけでなく日頃から自主的な姿勢で研究作業を進めていくことが望まれる。
履修上の留意点	
成績評価の方法	授業への積極性や論文の進み方などにより評価する。
教科書/テキスト	授業開講時に教場で指示する。
参考書	

履修コード	031241
科目名	4年次ゼミ
担当者名	モート. セーラ
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	このゼミは、学術的な文章の書き方を様々な観点から学ぶことを目的としている。自分の意見を述べたり、あるテーマに対して、比較対照するための文章作成を学ぶ。また自分の主張や反論をどう展開するのかという点についても学ぶ。英語で卒業論文を作成するためのテーマ、および書き方についても指導を行う。 東京の美術館を巡りいろいろな芸術作品の鑑賞をします。
授業スケジュール	前期 (1-15回) には次のことを行う。 ・リサーチのスキルを学ぶ。 ・文献を読む。 ・パラフレイズやサマリーなどの文章技術を養う。 ・小グループに分かれてのディスカッション。  後期 (16-30回) 卒論作成のための個別の助言や、指導を行う。
準備学習	英英辞典を持参する。 テーマを決めて、英語版と日本語版の本を沢山読む。 卒論のアウトラインを作成する。 授業の前に大まかな文章を作成する。
履修上の留意点	
成績評価の方法	普段の勉強態度の他にレポートなどの課題を含めて評価する。
教科書/テキスト	'Effective Academic Writing 1 - the paragraph.' Alice Savage, Patricia Mayer. Oxford University Press. 2007. (3, 500yen) プリントを使用する。
参考書	

履修コード	028101
科目名	ラテン語
担当者名	上野 勝広

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	ラテン語は、古典ギリシャ語と共に、ヨーロッパ文化の基礎を形成しています。ラテン語についての知識は、ヨーロッパ諸文化の理解にきわめて重要です。 本授業では、ラテン語の基礎文法を概説します。自ら単語集と語尾変化表を活用しながら、平易なラテン文を理解できるようにします。
---------------------	---

授業スケジュール	下記のテキストを用いて、基礎文法の要点を順次説明してゆきます。必要に応じてテキストにない文例も補充し、各課末にあるラ文和訳の練習問題に取り組みます。
----------	--

前期は序論から第12課まで、後期は第13課から第24課までを学習します。

前期

1. 導入、ラテン語とは
2. 文字と発音、アクセント
3. 動詞の直説法現在、第1変格名詞
4. 直説法未完了、第2変格男性名詞
5. 直説法未来、第2変格中性名詞
6. 接頭辞+sum、形容詞 bonus, bona, bonum
7. 直説法完了、第2変格男性名詞 puer, ager
8. 語順、直説法過去完了、直説法未来完了
9. 前置詞、場所を示す副詞、4種の動詞活用、現在語幹、完了語幹
10. 第3変格名詞 第I型 auris, cubile
11. 直説法現在、直説法未完了、第3変格名詞 第II型 dux
12. 直説法未来、第3変格名詞 第II型の続き、直説法現在受動態
13. 第4変格名詞、第5変格名詞、直説法未完了受動態、直説法未来受動態
14. 形容詞の比較法、受動態完了・過去完了・未来完了
15. 前回までの要点の整理、理解度の確認

後期

16. 命令法現在 (能動態・受動態)、指示代名詞・形容詞、接続詞
17. 指示代名詞・形容詞の続き
18. 人称代名詞、所有代名詞・形容詞
19. 関係代名詞、副詞の比較法
20. 疑問代名詞・形容詞、不定法の用法、possum
21. 数詞、不定法の続き
22. 形式受動動詞、不定代名詞・形容詞
23. 分詞、未来不定法
24. 絶対的奪格
25. 接続法 (現在・未完了・完了・過去完了)、独立文中の接続法
26. 動名詞、目的分詞、動形容詞
27. 不規則動詞、不完全動詞
28. 非人称動詞、間接疑問文
29. 様々な従属文
30. 前回までの要点の整理、理解度の確認

準備学習	特に必要ありませんが、ラテン語がどんな言語かについて調べておきましょう。
------	--------------------------------------

履修上の留意点	練習問題については、毎回出席者に指名し和訳例を発表してもらいます。受身でなく、自ら学び取る姿勢をもって授業に臨みましょう。 1回でも欠席してしまうと追いつくのが容易ではありません。授業そのものに加え、自習の負担が大きい科目であることを認識しておいてください。
---------	--

成績評価の方法	年間2回 (前期末・後期末) のテストの結果 (80%) に平常点 (20%) を加味して評価します。
---------	---

教科書/テキスト	松本悦治『ラテン語入門』 (駿河台出版社) 1,500円
----------	------------------------------

参考書	辞書と共に授業の進行に合わせて紹介します。
-----	-----------------------





# 專 門 教 育 科 目

## (3) 地 理 学 科



履修コード	039551
科目名	GIS実習
担当者名	田中 靖

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)</p> <p>地理情報システム(GIS)を用いた地図の作成や空間解析の技術は、地理学のみならず空間と関連する多くの分野において必要とされるものになった。地理学科では地理情報学系の科目として「地理情報論」を開講しているため、ここでは実習によりGISに関する知識と経験を積む。</p> <p>(到達目標)</p> <p>本学PC教場に導入されている ArcGIS (ESRI) を用いて、基本的な地図作成(データ表示)、電子地図データの作成、空間解析が行なえるようになることを目標とする。第27回以降の授業では、各自研究テーマを設定し、目標とする地図作成のためのレシピを作成する。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. GIS基礎1 : ArcGIS体験</li> <li>2. GIS基礎2 : データの構造</li> <li>3. GIS基礎3 : 世界地図の作成</li> <li>4. データ表示1 : ラベルの表示, 分類シンボルの表示</li> <li>5. データ表示2 : レイヤ定義</li> <li>6. データ表示3 : 日本のコロプレスマップ作成</li> <li>7. データ表示4 : 地図投影法, 投影変換, 二点間距離</li> <li>8. データ表示5 : 日本の地理座標系と国土数値地図情報の体系</li> <li>9. データ表示6 : 地図レイアウト, データドリブページ</li> <li>10. 検索・解析1 : 空間検索, 属性検索</li> <li>11. 検索・解析2 : 空間結合, フィールド演算</li> <li>12. 検索・解析3 : ジオメトリ演算, タイムスライダ</li> <li>13. データ処理1 : インターセクト, ディゾルブ</li> <li>14. データ処理2 : クリップ, バッファ</li> <li>15. データ処理3 : 解析モデルの構築, データのインポート方法</li> <li>16. データ作成1 : XYデータ追加, 属性の結合</li> <li>17. データ作成2 : リレート, ジオリファレンス</li> <li>18. データ作成3 : ベクトルデータ (ポイント, ライン, ポリゴン) の作成</li> <li>19. データ作成4 : ラスタデータの作成, 衛星画像・地図画像の扱い</li> <li>20. データ作成5 : ベクトル⇄ラスタデータ変換</li> <li>21. データ作成6 : 衛星画像の幾何補正, ラスタ分析概要</li> <li>22-24. 総合演習1 : 都市域を対象とした人文地理学的なベクトル型空間分析例</li> <li>25-27. 総合演習2 : 山地域を対象とした自然地理学的なラスタ型空間分析例</li> <li>27-30. 総合演習3 : 各自の研究テーマでのGISによる地図作成と空間分析</li> </ol>
----------	--

準備学習	・特になし。
------	--------

履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この実習は、日本地理学会の「GIS学術士」資格取得のために必要な科目である。</li> <li>・コンピュータに苦手意識のある学生でも理解できるように配慮するので、興味を持つ学生は是非受講してほしい。</li> <li>・積み上げが大切な科目なので、出席状況は重視する。</li> </ul>
---------	--

成績評価の方法	・提出課題の質(40%)と平常点(60%)により評価する。定期試験は実施しない。
---------	--

教科書/テキスト	・使用しない。実習に用いるデータや教材は、下に示す授業用ホームページで公開している。
----------	--

参考書	・適宜プリントと資料を配布する。
-----	------------------

その他	・教場のコンピュータおよびGISソフトウェアのライセンス数に限りがあるので、受講者数を制限することがある。
-----	---

関連リンク	<a href="http://wwwint2.int.komazawa-u.ac.jp/~yasushi/GIS/">http://wwwint2.int.komazawa-u.ac.jp/~yasushi/GIS/</a>
-------	---

履修コード	034401
科目名	アジア地誌
担当者名	江口 卓 高橋 健太郎
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(講義の概要) 中国およびヒマラヤ地域の地誌について講義する。前期は高橋が中国を、後期は江口がヒマラヤ地域を担当する。 (到達目標) 中国やヒマラヤ地域についての理解を深めると同時に、地域をどのようにとらえるかを理解することが目標である。
授業スケジュール	前期 (高橋) : 1. 中国地誌への視座 2. 中華人民共和国の行政区域と地域区分 3. 経済成長と地域格差 4. 戸籍制度改革と都市化の進展 5. 都市問題と小城镇政策 6. 単位制度と都市構造 7. 都市住民の生活空間 8. 国有企業改革と都市整備 9. 計画出産と人口管理 10. 人口構成の変化と新しい人口問題 11. 少数民族の居住特性と生活 12. 少数民族政策と文化変容 13. 西部大開発 14. 世界のなかの中国 15. 理解度の確認  後期 (江口) : 16. ヒマラヤとは 17. ヒマラヤの成り立ち 18. ブータンヒマラヤの地形 19. ヒマラヤの氷河 20. ヒマラヤの気候とモンスーン 21. ブータンヒマラヤの気候 22. アジアの植生におけるヒマラヤの植生の位置づけ 23. ブータンヒマラヤの環境問題 24. ブータン王国の歴史 25. 南アジアにおけるブータン王国の位置づけ 26. ブータン人の生活 27. ブータンの農業 28. ブータンの宗教とGNH 29. ブータンの教育 30. ブータンの現状と問題
準備学習	授業で配付した資料や紹介した文献を読み、授業内容への理解を深めること。
履修上の留意点	
成績評価の方法	前後期各50%のウエイトで評価する。前期は、試験(40%)と教場レポート(10%)で評価する。後期は、レポート(40%)と平常点(10%)で評価する。
教科書/テキスト	特に指定しない。
参考書	随時資料を配布する。授業内容を理解するには以下の書籍を参照するとよい。 前期：石原潤編『中国西北はいま』ナカニシヤ出版、2011年、4,830円、 ISBN: 4779506123 上野和彦編『世界地誌シリーズ2. 中国』朝倉書店、2011年、3,570円、 ISBN: 4254168563 後期：今枝由郎 2008『ブータンに魅せられて』岩波新書。

履修コード	034501
科目名	アメリカ地誌
担当者名	石井 久生

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 南北アメリカの全体像と各地域の詳細を地誌学的に解説する。前期は北アメリカの地誌を、後期は中米カリブと南アメリカの地誌を重点的に学習する。 (到達目標) この授業の到達目標は、南北アメリカの全体像と各地域の詳細を地誌学的に理解するための専門的知識を習得することにある。ひとえに「アメリカ」といっても、北アメリカと中米カリブ、南アメリカでは文化景観や経済活動に大きな違いがみられる。同様に「アメリカ」の中のひとつの国家であるアメリカ合衆国の中にも多様な地域像が共存する。この授業は、アメリカ各地域に展開する多様な地域像を理解すると同時に、「アメリカ」を貫く概念とは何かを追求することを目的とする。
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 前期イントロダクション：アメリカを地誌学的に理解するために</li> <li>2 北アメリカの自然環境</li> <li>3 北アメリカ先住民の世界とヨーロッパ文化圏の拡大</li> <li>4 北アメリカ：アメリカ合衆国の地域区分</li> <li>5 北アメリカ：アメリカ合衆国の農業地域と農業景観</li> <li>6 北アメリカ：アメリカ合衆国のアグリビジネス</li> <li>7 北アメリカ：アメリカ合衆国の工業の展開と立地移動</li> <li>8 北アメリカ：アメリカ合衆国の都市化と都市をめぐる諸課題</li> <li>9 北アメリカ：アメリカ合衆国の多民族社会と諸課題</li> <li>10 北アメリカ：ラテンアメリカ化するアメリカ合衆国</li> <li>11 北アメリカ：アメリカ合衆国の人口構造変化と経済的不平等</li> <li>12 北アメリカ：カナダの自然環境と地域区分</li> <li>13 北アメリカ：カナダの文化と経済</li> <li>14 北アメリカと日系人移民</li> <li>15 北アメリカ：前期の理解度の確認</li> <li>16 後期イントロダクション：「ラテンアメリカ」概念はどのように登場したか</li> <li>17 ラテンアメリカの自然環境</li> <li>18 ラテンアメリカの地域区分</li> <li>19 ラテンアメリカ：先住民の世界とヨーロッパ文化圏の拡大</li> <li>20 ラテンアメリカ：人口移動と変化する人口構成</li> <li>21 ラテンアメリカ：農業地域と農村景観</li> <li>22 ラテンアメリカ：産業化とグローバリゼーション</li> <li>23 ラテンアメリカ：都市化と都市問題</li> <li>24 中央アメリカ地誌</li> <li>25 カリブ地誌</li> <li>26 アンデス地誌</li> <li>27 ブラジル地誌</li> <li>28 コノ・スール地誌</li> <li>29 ラテンアメリカと日系人移民</li> <li>30 総括と後期の理解度の確認</li> </ol>
----------	---

準備学習	地図やwebで学習する地域の概括的知識を事前に習得しておくこと。 参考文献の授業該当箇所を読んでおくことが望ましい。
------	---

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	試験80%、平常点と授業中の課題20%で評価する。
---------	---------------------------

教科書／テキスト	教科書は指定しません。毎回プリントを配布します。
----------	--------------------------

参考書	<p>坂井正人・鈴木紀・松本栄次編(2007)『朝倉世界地理講座14 ラテンアメリカ』朝倉書店、18,900円、ISBN978-4-254-16804-4。</p> <p>田辺裕監修(2010)『図説大百科世界の地理1・2 アメリカ合衆国I・II』朝倉書店、各5,040円、ISBN978-4-254-16901-0、978-4-254-16902-7。</p> <p>田辺裕監修(2010)『図説大百科世界の地理3 カナダ・北極』朝倉書店、5,040円、ISBN978-4-254-16903-4。</p> <p>田辺裕監修(2010)『図説大百科世界の地理4 中部アメリカ』朝倉書店、5,040円、ISBN978-4-254-16904-1。</p> <p>田辺裕監修(2010)『図説大百科世界の地理5 南アメリカ』朝倉書店、5,040円、ISBN978-4-254-16905-8。</p> <p>矢ヶ崎典隆(2010)『食と農のアメリカ地誌』東京学芸大学出版会、1,785円、ISBN978-4-901-66518-6。</p> <p>矢ヶ崎典隆編(2011)『アメリカ』(世界地誌シリーズ4)朝倉書店、3,400円、ISBN978-4-254-16858-7。</p>
-----	--

履修コード	038501
科目名	応用地理学
担当者名	高木 正博

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	身近な「水」について、これまで系統立てて学ぶ機会は少なかったであろう。授業ではまず、水の特性を水文学の視点から学び、水循環の仕組みを理解してもらおう。そして、最もかかわりの多い「河川」をテーマに、流域の自然とそこに生活する人間との様々な関係を、具体的な地域事例をとおして明らかにする。広く水にかかわる治水・利水・環境問題は、地域によって、川によって異なることを理解してもらおう。
---------------------	---

授業スケジュール	この科目は主に「河川」を対象とし、地理学や河川工学・農業水文学、また、社会科学的な視点からも流域と人間との関係について考える。河川は、河道だけでなく流域全体を捉えることが重要である。基本的には、流域（地域）における自然的特性とその土地の人々とのかかわりあい、災害・資源・環境・歴史・文化などの視点から講ずる。 第1回 「川」を考える関連学問分野 第2回 河川（流域）について 第3回 流域の水収支 第4回 河川の流況特性 第5回 河川流量からみた季節性・地域性 第6回 自然河川と都市の河川 第7回 沖積平野の地形分類 第8回 濃尾平野の地形と洪水特性 第9回 木曾三川の治水史 第10回 伝統的な治水と輪中堤 第11回 石狩川の治水対策 第12回 新潟平野の洪水と地域性 第13回 治水と水防（洪水の歴史と文化を考える） 第14回 総合治水対策と防災 第15回 日本のダム開発 第16回 ダムの堆砂と排砂 第17回 フランスの河川と洪水 第18回 日本の水資源 第19回 水利用の歴史と水資源開発 第20回 水源としての河川水と地下水 第21回 公共事業としての上下水道 第22回 農業用水と都市用水 第23回 水利用と水利権 第24回 圃場整備・減反政策と農業用水 第25回 農業用水を考える 第26回 地域用水としての農業用水 第27回 環境用水、親水・修景用水の地域事例（1）郡上八幡 第28回 環境用水、親水・修景用水の地域事例（2）柳川など 第29回 河川環境と健全な流域水循環 第30回 河川環境の改善と持続可能な地下水管理
----------	--

準備学習	授業ではプリントを用意するが、そこに記載されている参考文献を活用して授業内容を復習しておくこと。
------	--

履修上の留意点	夏休みに現地調査を伴うレポートを作成してもらおう。
---------	---------------------------

成績評価の方法	試験（40%）。夏休みに現地調査したレポート（40%）。小テストなど（20%）を合わせて評価する。
---------	---

教科書／テキスト	授業時間にプリントを配布する。
----------	-----------------

参考書	大矢雅彦（1993）『河川地理学』、古今書院。 大熊孝（2007）『増補 洪水と治水の河川史』平凡社。 高橋裕（2008）『新版 河川工学』東京大学出版会。 宇沢弘文・大熊孝編（2010）『社会的共通資本としての川』東京大学出版会。 上記の書籍をあげておくが、配布プリントをとおして随時紹介する。
-----	--

その他	必要に応じて映像等を使用する。
-----	-----------------

履修コード	034301
科目名	外国地誌特講
担当者名	湯田 ミノリ

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	インドネシア、特にジャカルタについて、様々な角度から理解を深めることを目指す。
---------------------	---

授業スケジュール	前期はインドネシアの地理的位置、自然環境、民族構成とジャカルタの成立を、後期は主にジャカルタの産業、人口、都市居住等の問題を取り上げる。 （前期） ・地理的位置（インドネシアの範囲、地理的位置と自然・人文環境との関係） ・自然環境（地形、気候） ・多民族国家インドネシア成立の背景 ・植民地時代のジャカルタ ・インドネシア独立後ジャカルタの発展 （後期） ・ジャカルタ首都圏における経済発展と産業 ・ジャカルタにおける人口動態と就業構造の変動 ・カンボンと都市居住政策
----------	--

準備学習	地図帳で、日本から見たインドネシアの位置や、インドネシアとその周辺国、インドネシア国内にどのような都市があるのかを確認しておいてください。
------	---

履修上の留意点	参加者には、何らかの具体的な現象に注目した上で、様々な視点からの理解や判断を編み出す努力を期待したい。さらには、休暇等を利用して自主的に海外などを旅行してほしい。
---------	---

成績評価の方法	試験と課題を実施します。また、この授業は出席が必須です。 出席と試験・課題の配点の割合は50% 50%となります。
---------	---

教科書／テキスト	特に指定しない。
----------	----------

参考書	適宜紹介する。
-----	---------

履修コード	035001
科目名	外書講読
担当者名	佐藤 哲夫

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 教科書として日本地理に関する中学副読本の英訳を読む。また、シンガポールの高校地理教科書や、米国の大学の地理学専門書にもふれてみる。
---------------------	---

(到達目標)  
地理学で用いられる英単語の語彙を増やし、地理に関連する英語表現に慣れる。

なお講読範囲は大学院地理学専攻の入学試験（英語）の出題範囲に含まれている。

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Location of Japan</li> <li>2. Landforms of Japan</li> <li>3. Mountains and Rivers of Japan</li> <li>4. Plains of Japan and Types of Plains</li> <li>5. Coast of Japan and Surrounding Seas</li> <li>6. Climate of Japan</li> <li>7. Climatic Divisions of Japan</li> <li>8. Natural Disasters in Japan</li> <li>9. Culture of Japan</li> <li>10. Population of Japan</li> <li>11. Transportation of Japan</li> <li>12. Agriculture of Japan</li> <li>13. Industries of Japan</li> <li>14. Regions of Japan</li> <li>15. Kanto Region 1 (General Features)</li> <li>16. Kanto Region 2 (Physical Geography)</li> <li>17. Kanto Region 3 (Tokyo)</li> <li>18. Kanto Region 4 (Developments in Tokyo)</li> <li>19. Kanto Region 5 (Tokyo Metropolitan Area)</li> <li>20. Kanto Region 6 (Keihin Industrial District)</li> <li>21. Kanto Region 7 (Agriculture of Kanto)</li> <li>22. Kanto Region 8 (Leisure and Tourism)</li> <li>23. Kinki Region 1 (General Features)</li> <li>24. Kinki Region 2 (Physical Geography)</li> <li>25. Kinki Region 3 (Keihanshin Metropolitan Area)</li> <li>26. Kinki Region 4 (Developments and Industries)</li> <li>27. Kinki Region 5 (Ancient Capitals and Tourism)</li> <li>28. Kinki Region 6 (Northern and Southern Kinki)</li> </ol>
----------	---

準備学習	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 参加者にワンセンテンスずつ逐次訳をしてもらい、解説を加えながら読み進めるので、必ず予習してくること。</li> <li>2. 毎回、既習範囲の英単語と和文英訳の課題を出し、翌週に提出してもらうので、前回の復習をしておくこと。</li> <li>3. 中学・高校で学習した英単語と英文法をしっかりと復習しておくこと。</li> </ol>
------	--

履修上の留意点	下の文章は教科書のprefaceの一部である。大意を辞書なしで把握できる程度の英語力を持っている諸君を、受講対象者として想定する。
---------	---

受講希望者が30人を超える場合は、人数制限を行うことがあるので、第1回目の授業には必ず出席すること。

The original version of this book was initially published with the aim of helping Japanese junior high school students to understand their country within the context of globalization. In translating the book into English, we hope to help foreigners who are working, residing or studying in Japan, and those who are visiting Japan for sightseeing or for business purposes. As international exchange increases through continuing globalization, it becomes all the more necessary to gain a more accurate and deeper understanding of Japan that is not distorted by ill-informed prejudice or exoticism. At the same time, we hope that this book will be useful to students who are studying in Japanese schools abroad, as well as young Japanese people studying in Japan who wish to take off into a world in which they can talk about their country in English, the new global language. We hope this book will enjoy a wide readership and that it will provide new and useful insights into today's Japan.

成績評価の方法	課題の提出65%、平常点35%とする。
---------	---------------------

皆勤者には賞を呈する。

出席数が3分の2に達しない者には単位を与えない。出席不足者に対するレポート等による救済は絶対しない。

教科書/テキスト	<p>テキストはコピーして配布する。出所は下記のとおり。 『Discovering JAPAN — A New Regional Geography』(帝國書院) ISBN978-4-8071-5844-7</p>
----------	---



参考書

履修コード 038301  
 科目名 環境地理学  
 担当者名 鈴木 重雄

授業概要/  
 到達目標 (ねらい)

(授業概要)  
 この講義では、「環境」を人間の周りを取り巻くものとして考え、それらに地理学としてどのようにしてアプローチしていくのかを、景観生態学の着眼点を紹介しつつ、日本の農業地域の「自然」を事例として学んでいく。  
 (到達目標)  
 「地域」を理解する上で、自然の摂理と人間の行動は不可分のものであり、それらの総和が現在の景観となって具現化されている。里地・里山とも呼ばれるこの地域では、人間の営む農林水産業と人間以外の動植物が微妙なバランスの上でしか成り立たない生態系が育まれてきた。この生態系の成り立ち、現状、未来を景観生態学的視点から理解し、自然摂理と人間行動がどのように地域に反映されているのかを理解する。それに先だって、景観生態学的なものの見方・知識を習得する。

授業スケジュール

1. 環境地理学と景観生態学
2. 景観生態学の歴史
3. 森はどうしてそこに存在するのか？
4. 日本の植生配置
5. 人為攪乱と植生遷移
6. 植物の移動・拡散
7. 景観のモザイク構造
8. 地形図から読む景観のモザイク構造
9. 生物多様性
10. 農業と食物連鎖
11. 農業と物質循環
12. 外来生物の脅威
13. 景観生態学的な地域の見方
14. 里地・里山とは何か？
15. 地形図から読む里地・里山の変遷
16. 雑木林はどうやってできたのか？
17. 里山の水環境
18. 棚田の生態系
19. 日本の焼畑
20. 養蚕の盛衰と耕作放棄地
21. 草地の利用と生態系
22. 竹林の拡大
23. 植林地の荒廃
24. 雑木林の現在
25. 松枯れとナラ枯れ・竹枯れ
26. 里地・里山を守るために—ゾーニングとプランニング—
27. 里地・里山を守るために—住民活動の推移—
28. 里地・里山を守るために—グリーンツーリズム—
29. 里地・里山を守るために—国際ワークキャンプ—
30. まとめ

準備学習

・一般的な植物名、作物名、基礎的な化学物質の名称を用いて講義を進めますが、授業中に初めて聞いた名称があった時は、必ず授業後に復習を行うこと。  
 ・授業中に地形図を用いた作業を行います。地図記号、等高線の見方を復習しておくこと。

履修上の留意点

・地形図を用いた作業を伴う授業回があります。直前の授業でも指示をしますが、色鉛筆・定規(15 cmほどのものでよい)を使用します。

成績評価の方法

定期試験の成績(前期末・後期末)80%、レポート20%とする。

教科書/テキスト

使用しない。適宜プリントと資料を配付する。

参考書

適宜紹介します。

履修コード	040101
科目名	気候学
担当者名	江口 卓

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(講義の概要) 気候学は、大気現象を対象とした自然地理学の一分野である。大気現象は、地球全体を対象としたグローバルスケールから、微気候まで様々なスケールの現象を含んでいる。前期は日本の気候についてシノプティックスケールを中心に学ぶ。後期はグローバルスケールを中心に世界の気候について学ぶ。 (到達目標) 日本および世界の気候の成り立ちとその地域的・季節的な違いを理解することを目標とする。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 気候学の流れ</li> <li>2. 世界の気候区分</li> <li>3. 日本の気候区分</li> <li>4. 日本の季節区分</li> <li>5. 冬季の気候：グローバルスケール</li> <li>6. 冬季の気候：気圧配置</li> <li>7. 冬季の気候：気団の変質と日本海側の降雪</li> <li>8. 気象衛星写真の見方</li> <li>9. 春季の気候</li> <li>10. 梅雨の気候</li> <li>11. 豪雨について</li> <li>12. 夏季の気候</li> <li>13. 秋雨の気候</li> <li>14. 台風について</li> <li>15. 秋季の気候</li> <li>16. 都市気候</li> <li>17. 大気汚染</li> <li>18. 酸性雨</li> <li>19. 放射収支</li> <li>20. 大気大循環</li> <li>21. 熱帯の循環と収束帯</li> <li>22. エルニーニョ</li> <li>23. グローバルにみたモンスーン</li> <li>24. インドモンスーン</li> <li>25. モンスーン循環</li> <li>26. インドシナモンスーン</li> <li>27. ミャンマーの気候</li> <li>28. タイの気候</li> <li>29. フィリピンの気候</li> <li>30. インドネシアの気候</li> </ol>
----------	---

準備学習	気候に関する予備知識は必要としないが、ステップアップの講義であるので、講義の概要は復習のうえ理解し、次の講義に望むこと。
------	--

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	定期試験80%、平常点20%とする。
---------	--------------------

教科書／テキスト	特に指定しない。
----------	----------

参考書	<p>中村和郎・木村竜治・内嶋善兵衛『日本の気候』（岩波書店） 気候影響・利用研究会編『日本の気候I』『日本の気候II』（二宮書店） 鈴木秀夫『風土の構造』（原書房）</p>
-----	---

履修コード	040201
科目名	気候学実習
担当者名	江口 卓

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(講義の概要) 気候の現象解析を行う際には、気象庁などが観測しているデータの解析を中心に行う方法と自分で観測したデータの解析を中心に行う方法がある。この実習では、前半はフィールドでの観測を行う際に必要となる観測器材の使い方について中心に学び、観測を行う。後半は、気象庁のデータを利用したデータ解析の手法や天気図を利用した解析手法について学ぶ。</p> <p>(到達目標) 気候を研究する上で必要となるフィールドでの観測手法および室内でのデータの解析手法を身につけることを目標とする。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 気候研究の方法について</li> <li>2. 測器の使い方 (1) 気温の観測</li> <li>3. 測器の使い方 (2) 風の観測</li> <li>4. 測器の使い方 (3) 降水量の観測</li> <li>5. 測器の使い方 (4) 自記計の使い方</li> <li>6. 観測データの収集</li> <li>7. 観測データの編集・解析</li> <li>8. 観測データのまとめ</li> <li>9. 気象データの種類と使い方</li> <li>10. 気候データのダウンロードと編集</li> <li>11. 気候データの解析</li> <li>12. 天気図の見方</li> <li>13. 天気図による解析</li> <li>14. 解析結果のまとめ</li> <li>15. 解析結果の発表</li> </ol>
----------	--

準備学習	授業中に提示された課題は、次週の授業までに必ず完成させておくこと。
履修上の留意点	気候学の講義を履修していることが望ましい。
成績評価の方法	レポート60%、平常点40%とする。
教科書／テキスト	特に指定しない。
参考書	実習中に適時紹介する。

履修コード	041311
科目名	景観地理学
担当者名	須山 聡

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	前期は地理学の基礎的な概念である景観について、伝統的な景観論から人文主義的な視点までさまざまな観点を紹介することにより、景観を観察することによって地域や空間、場所の何がわかるかを講義する。また、後期は文化景観を構築する営力となる、人間の行動と知覚をとりあげ、空間的イメージの分析手法を講義する。
---------------------	---

授業スケジュール	以下のテーマで講義を構成する。 1 景観とは1 (自然景観/文化景観) 2 景観とは2 (客観性と主観性、メディアとしての機能) 3 自然環境の映し鏡としての景観 (砺波散居村) 4 人文的営力により形作られた景観 (霞ヶ浦東岸) 5 伝統的景観論：集落の形態 6 伝統的景観論：集落の空間構造 7 景観のゲシュタルト (静岡県下田の都市景観) 8 景観の把握法-ポディスケープ- (風水思想) 9 景観から思想を読む (徳川家康と江戸) 10 写し取られた景観 (風景印) 11 景観の虚構性 (沖縄、竹富島) 12 イデオロギー装置としての景観 (インドネシア、北朝鮮) 13 舞台としての景観 (富山県、井波彫刻業) 14 テキスト化された景観 (観光ガイドブック) 15 イメージと景観 16 メンタルマップ 17 手描き地図によるイメージ観察 18 質問紙法によるイメージ観察 19 地名の認識、場所の理解 20 子どもの空間 21 近代化と都市イメージ 22 ジェンダーと都市空間 23 都市イメージの計量分析 24 都市イメージを構成するエレメント 25 記号としての都市イメージ 26 景観の資源化・商品化 (ツーリズムのイメージ形成) 27 景観の保護・保全：いい景観と悪い景観 28 文学作品の中の景観1 (横溝正史の作品群) 29 文学作品の中の景観2 (軽井沢の描かれ方) 30 文学作品の中の景観3 (有吉佐和子「鬼怒川」)
----------	---

準備学習	日常的に目にする風景に対して常に観察眼を向けてほしい。
履修上の留意点	論理的な文章表現力を養うため、毎回約400字程度のエッセイ、または要約文の作成を課する。 出席を厳格にとる。また、教場に飲食物を持ち込む者、帽子を脱がない者、メールを打つ者に対しては厳しく対応する。

成績評価の方法	期末試験を実施する。
教科書/テキスト	指定しない。
参考書	配付資料などで随時紹介する。

履修コード	034701
科目名	経済地理学
担当者名	矢延 洋泰

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>授業概要：経済的諸活動の空間構造を地理学的に捉えてみたい。なかでも世界で最も経済発展が著しい東アジア地域を中心に考察します。なかで欧米から出てきた「アジア成長の基層文化」を分析。さらに地域協力機構としてのASEAN結成の経緯からEAEC、APEC等、できるだけ根源的な問いかけをしていきたい。</p> <p>到達目標：1東・東南アジアの地域特性を明らかにする。2経済発展の系譜を考える。3日本および世界とのグローバルな関係を考察。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>(1) 地理学の中における経済地理学とは。(2) 経済を中心にみた世界史の潮流。(3) 経済社会の変化を探る-1。(4) 同-2。(5) 東南アジアの基礎知識。(6) OECDレポートの衝撃とその分析-1。(7) 同-2。(8) アジアNIES誕生の意味。(9) 成長の基層文化。(10) 戦後日本の経済発展と周辺アジアとの関係-1。(11) 同-2。(12) 東南アジアにみる地域協力機構-ASEANの成立過程-1。(13) 同-2。(14) シンガポールの経済開発。(15) シンガポール経済開発の限界性。(16) 成長の三角地帯構想の背景。(17) 成長の三角地帯。(18) ハブの考え方誕生。(19) 冷戦崩壊後の世界と日本。(20) 冷戦とバブル崩壊後の日本の対応-1。(21) 同-2。(22) 幻のEAEC構想。(23) EAEC構想から生まれたAFTA。(24) 太平洋を跨ぐAPECの構想。(25) APEC実現の運び。(26) 日米中が描くASEANを核にした地域協力-1。(27) 同-2。(28) 「ハブ」と「スポーク」の実現。(29) 大航空時代の周辺アジアと日本の動向。(30) 全体総括。</p>
----------	--

準備学習	<p>平日頃から経済動向、政治動向、東南アジアの関する認識を深めるように心がけてください。当日の授業で言わんとしたこと、授業中に出てきた専門用語は理解しておくようにしてください。また、事後前より事後学習をしっかりとやるようにしてください。</p>
------	---

履修上の留意点	<p>学ぶことに意欲を持ち、アジアに興味と関心のある学生を期待します。文献紹介は適宜するつもりですが、それらは必ず読むようにしてください。</p>
---------	---

成績評価の方法	<p>学年末の筆記試験(80%)と、前期末に提出を求める課題、アトランダムに取る出席(20%)で評価します。</p>
---------	--

教科書/テキスト	<p>教科書は使いませんが、適宜プリントを配布します。配布は基本的に2週としますので、忘れずに取得するようにしてください。</p>
----------	---

参考書	<p>矢延洋泰『インサイト東南アジア』勁草書房 3255円 ISBN4-326-65182-2</p>
-----	---

その他	<p>質問は授業の後に受け付けます。積極的にしてください。特別の事由で授業スケジュールを変更する場合があります。</p>
-----	--

履修コード	038601
科目名	計量地理学
担当者名	土'谷 敏治

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 地理学の研究において、統計データの活用は、地域の特色を把握し、分析するための重要な方法の一つである。本授業では、地理学の分析に必要な統計的方法・計量的方法について学ぶ。各分析方法について解説するとともに、実際にデータの処理、分析、考察の実習をすることによって、それぞれの方法の理解を深める。</p> <p>(到達目標) 統計的方法・計量的方法を用いて調査・分析された研究論文を理解できるようになることが第一の目的である。さらに、講義だけでなく、各分析方法の実習を通じて、実際に各方法を活用できる能力を身につけることが第二の目的である。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 統計データの種類</li> <li>2. 統計データと集計単位</li> <li>3. 既存のデータと自作データ</li> <li>4. 悉皆調査とサンプリング調査</li> <li>5. データの整理と集計</li> <li>6. 度数分布表とヒストグラムの作成</li> <li>7. 基礎統計量</li> <li>8. 基礎統計量算出の実習</li> <li>9. 代表的な分布形態</li> <li>10. 検定の考え方</li> <li>11. t 検定</li> <li>12. t 検定の実習</li> <li>13. 分散分析</li> <li>14. 分散分析の実習</li> <li>15. アンケート調査</li> <li>16. アンケート結果の整理と集計</li> <li>17. クロス集計と <math>\chi^2</math> 乗検定</li> <li>18. クロス集計と <math>\chi^2</math> 乗検定の実習</li> <li>19. 相関分析と回帰分析</li> <li>20. 相関分析と回帰分析の実習</li> <li>21. 相関分析と回帰分析の応用</li> <li>22. 重回帰分析</li> <li>23. 重回帰分析の実習</li> <li>24. 特化係数</li> <li>25. 主成分分析・因子分析</li> <li>26. 主成分分析・因子分析の実習</li> <li>27. クラスタ分析</li> <li>28. クラスタ分析の実習</li> <li>29. 数量化理論</li> <li>30. 数量化理論の実習</li> </ol> <p>なお、計量的分析にはコンピュータの使用が必要であり、総合情報センターと地理学科のコンピュータを使用する。</p>
----------	---

準備学習	統計的方法・計量的方法は、学習の積み重ねが必要である。前回の内容を理解していないと、次の段階に進むことができない。このため、授業前に、前回の授業内容をよく復習し、理解しておくことが不可欠である。
------	---

履修上の留意点	この授業は実習的側面ももっているため、毎回の出席と、課題の提出が重要である。なお、コンピュータを使った分析では、Microsoft Excelをおもに使用するため、これを使いこなせることが履修の条件である。とくに、配列関数の使用、データの抽出、グラフ作成などができる必要がある。これらを使いこなせない学生は、前期において「計量地理学実習」をあわせて履修すること。また、総合情報センターを使用するため、ユーザIDとパスワードを用意しておく必要がある。
---------	--

成績評価の方法	各授業項目について提出された課題を点数化し、これを合計して評価する。提出していない課題があった場合は、当然その課題については0点となる。
---------	--

教科書/テキスト	とくに指定しない。
----------	-----------

参考書	奥野隆史『計量地理学の基礎』（大明堂） 野上道男・杉浦芳夫『パソコンによる数理地理学演習』（古今書院）
-----	--

その他	総合情報センター教場のコンピュータ台数が限られているため、受講生を制限することもある。第1回目の授業で履修の確認をするので、第1回目に必ず出席すること。履修の確認を受けない場合は、本授業を履修することができない。
-----	--

履修コード	040801
科目名	計量地理学実習
担当者名	土谷 敏治

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 今日、多くのデータを統計的・計量的方法を用いて、客観的に分析するためには、コンピュータを活用できることが前提条件となっている。本実習では、計量地理学の学習に必要なソフトウェア使用の実習を行う。
---------------------	--

(到達目標)  
計量地理学の授業に必要な、表計算、地図の作成、画像データの加工が自由に行えるようになることを目的とする。

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. データの入力・加工</li> <li>2. 配列関数と度数分布</li> <li>3. データの分類と抽出</li> <li>4. ヒストグラムの作成</li> <li>5. 統計分析</li> <li>6. 散布図とランクサイズルール</li> <li>7. 相関と回帰</li> <li>8. パソコンによる地図作成入門</li> <li>9. Adobe Illustratorによる作図</li> <li>10. 製図能力の向上</li> <li>11. パソコンによるグラフィックデータ加工入門</li> <li>12. 写真データの取り込みと加工</li> <li>13. ポスターセッション入門</li> <li>14. プレゼンテーション入門</li> <li>15. Microsoft Power Pointによるプレゼンテーション</li> </ol>
----------	---

準備学習	それぞれの課題について、課題の位置づけや意義、作業指導、結果についての解釈のしかたなどの解説をした上で、実際の作業に入るの、前回の解説内容を復習し、作業手順を確認しておく必要がある。
------	---

履修上の留意点	計量地理学の受講を希望しているが、Microsoft Excel・Power Point・Adobe Photoshop・Adobe Illustratorを使用して、統計的分析、グラフ・地図作成、プレゼンテーションができない学生を対象としている。これらのソフトウェアを十分活用できる学生は受講の必要がない。実習科目であるため、毎回の出席と課題の提出が不可欠である。また、総合情報センターを利用するため、ユーザIDとパスワードを用意しておく必要がある。
---------	--

成績評価の方法	各課題を得点化し、合計して評価する。また、実習としての授業の性格上、出席率が7割に達しない者は単位を認定しない。
---------	--

教科書/テキスト	とくに指定しない。
----------	-----------

参考書	
-----	--

その他	総合情報センター教場のコンピュータ台数が限られているため、受講生を制限することもある。第1回目の授業で履修の確認をするので、第1回目に必ず出席すること。履修の確認を受けない場合は、本授業を履修することができない。
-----	--

履修コード	032901
科目名	交通地理学
担当者名	土谷 敏治

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 現代社会において、地域は人・物資・情報をはじめとする各種の相互作用によって他の地域と密接に結びついており、相互に依存し合っている。本講義では、前期はこれらの地域間の結びつきを指標として、都市の地域構造・都市システム構造の特色を分析する方法を解説し、後期は現在の交通システムの特色とその問題点を公共交通機関を中心に解説する。あわせて、交通地理学の研究課題について検討する。</p> <p>(到達目標) 交通現象と都市や都市圏の構造・都市システム構造との関係を理解し、交通流動の分析、交通ネットワークの分析ができるようになることをめざす。また、いろいろな交通システムの現状を理解し、その課題と展望について分析・考察する能力を身につける。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 交通流動発生メカニズム</li> <li>2. 都市・都市圏の地域構造と交通流動</li> <li>3. 都市システムと交通流動</li> <li>4. 交通データの集計と整理</li> <li>5. 移動圏の分析</li> <li>6. 機能地域の分析</li> <li>7. 都市システムの分析</li> <li>8. 交通とネットワーク</li> <li>9. 交通ネットワークの分析</li> <li>10. ネットワークとアクセシビリティ</li> <li>11. 交通と空間的相互作用モデル</li> <li>12. 重力モデルと制約型モデル</li> <li>13. 交通と中心地理論</li> <li>14. 中心地理論の基礎</li> <li>15. 交通地理学の課題</li> </ol> <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>16. 公共交通の現状</li> <li>17. ヨーロッパにおける都市の成立と構造</li> <li>18. ヨーロッパの都市成長と交通の発達</li> <li>19. ドイツの公共交通</li> <li>20. ドイツの交通政策の特色</li> <li>21. 運輸連合の機能</li> <li>22. ドイツと日本の交通政策の比較</li> <li>23. 日本の公共交通の課題</li> <li>24. 都市間交通の現状</li> <li>25. ヨーロッパにおける鉄道交通の成立と発展</li> <li>26. ヨーロッパの鉄道改革</li> <li>27. 鉄道交通ネットワークの再編</li> <li>28. 国際鉄道ネットワーク</li> <li>29. 地理学と公共交通</li> <li>30. 公共交通研究の課題</li> </ol>
----------	--

準備学習	授業前に前回の授業内容を復習し、理解を深た上で、授業に臨むことが必要である。
------	--

履修上の留意点	多少の数字・数式等を用いて講義を進めるので、あらかじめ了解しておくこと。ただし、その内容は中学校の数学程度のものであり、数学の専門的知識はとくに必要としない。
---------	---

成績評価の方法	前期試験と後期試験を実施する。2回の試験は、それぞれ100点満点で採点し、その合計点で成績を評価する。受講者は全員平等であり、学年やサークル活動などによって差別することはない。
---------	--

教科書/テキスト	とくに指定しない。
----------	-----------

参考書	<p>奥野隆史『交通と地域』(大明堂)  奥野隆史『計量地理学の基礎』(大明堂)  西村幸格・服部重敏『都市と路面公共交通 欧米にみる交通政策と施設』(学芸出版社)  西村幸格『日本の都市と路面公共交通』(学芸出版社)  今城光英編著『鉄道改革の国際比較』(日本経済評論社)</p>
-----	---

その他	後期は、具体的な事例を示すため、スライド・ビデオを使用する。
-----	--------------------------------



履修コード	034801
科目名	産業地域論
担当者名	須山 聡

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>前期は経済地理学の基礎的理論を平易に解説する。とくに経済立地論と集積／分散論、および産業のグローバリゼーションの講義に時間を費やす。経済に関する予備的知識は不要である。しかし、論理的な思考性は不可欠である。</p> <p>後期は日本の在来工業地域、とくに石川県の輪島漆器業と富山県の井波彫刻業を事例に、地域に展開する諸産業の地域的な分析方法を提示する。具体的には土地利用、景観、コミュニティ、労働力、社会組織・制度などと工業（産業）の関係を検討し、工業を地域的構成要素のなかに位置づけ直すことを眼目とする。</p> <p>本講義で紹介する諸概念を分析ツールとして駆使できるようになることが最終的な到達点である。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 立地と分布、その空間的意味</li> <li>2. 分布の観察と測定</li> <li>3. チューネンの農業立地論</li> <li>4. ウェーバーの工業立地論</li> <li>5. クリスタラーの中心地理論 ①財の種類と到達範囲</li> <li>6. クリスタラーの中心地理論 ②市場の圏域と中心地</li> <li>7. クリスタラーの中心地理論 ③中心地の分布の規則性</li> <li>8. 産業集積地域 ①シリコンバレー</li> <li>9. 産業集積地域 ②第3のイタリア</li> <li>10. 産業集積の原理 ①イノベーション・ミリュウと学習地域</li> <li>11. 産業集積の原理 ②柔軟な専門化論</li> <li>12. 空間的拡散の理論</li> <li>13. 空間的拡散現象と文化伝播論</li> <li>14. 日本の工業化と工業立地</li> <li>15. グローバリゼーションと多国籍企業</li> </ol> <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本の在来工業地域の概観</li> <li>2. 生産構造論による生産地域の把握</li> <li>3. 分布・集積の新たな説明 ①プロダクトサイクル理論</li> <li>4. 分布・集積の新たな説明 ②インキュベータ仮説</li> <li>5. 分布・集積の新たな説明 ③時間地理学の援用</li> <li>6. 在来工業とコミュニティ ①産業地域社会</li> <li>7. 在来工業とコミュニティ ②埋め込み理論</li> <li>8. 在来工業とコミュニティ ③徒弟制と学習地域</li> <li>9. 在来工業の存続戦略 ①景観の「演出」</li> <li>10. 在来工業の存続戦略 ②「伝統」の誤謬</li> <li>11. 在来工業を支える「制度」（結城紬、イエ制度）</li> <li>12. 文学の中の地理空間（結城紬、有吉佐和子『鬼怒川』）</li> <li>13. 製品と作品-工業と芸術の接点-</li> <li>14. 生産と生活-中小企業集積地域に対する視点-</li> <li>15. 講義の総括</li> </ol>
----------	---

準備学習	日頃から新聞やテレビのニュースに注意してほしい。授業の内容が理解できると、報道内容が驚くほどよくわかるようになる。
------	---

履修上の留意点	出席を厳格にとる。また、教場に飲食物を持ち込む者、帽子を脱がない者、メールを打つ者に対しては厳しく対応する。
---------	--

成績評価の方法	試験またはレポートを課する。
---------	----------------

教科書／テキスト	須山 聡『在来工業地域論-輪島と井波の存続戦略-』（古今書院）2004年購入を義務づけるものではないが、あった方が絶対に便利。
----------	---

参考書	
-----	--

履修コード	031801
科目名	自然地理学実習（地図学実習含む）
担当者名	江口 卓
授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p>（授業概要） 自然地理学のフィールド調査を行う際に必要となる基礎的調査手法および調査で得られたデータの解析手法について学ぶ。</p> <p>（到達目標） この実習の到達目標は、自然地理学のフィールド調査を行う際に必要となる基礎的調査手法および調査で得られたデータの解析手法を身につけることである。具体的には、フィールドにおいてクリノメーターなどの調査器具を正しく使用して簡易測量ができるようになること、等値線図が正確に描けるようになること、エクセルを使って簡単なデータ解析ができること、の3点である。</p>
授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自然地理学を学ぶために</li> <li>2. 実体視の原理と実践</li> <li>3. 測量器具の使い方</li> <li>4. 簡易測量について</li> <li>5. 測量結果の図化</li> <li>6. 地図の製図</li> <li>7. 地上天気図の書き方</li> <li>8. 高層天気図の書き方</li> <li>9. 天気図を使った気候の解析</li> <li>10. インターネットによる地図やデータの検索</li> <li>11. データのダウンロードとエクセルによる編集</li> <li>12. エクセルによる表の作成</li> <li>13. エクセルによる統計計算</li> <li>14. エクセルによる図の作成</li> <li>15. データ解析およびその結果の発表</li> </ol>
準備学習	授業中に提示された課題は、次週の授業までに必ず完成させておくこと。
履修上の留意点	実習であるので、必ず出席し、遅刻をしないこと。 レポートの提出期限は厳守すること。
成績評価の方法	レポート60%、平常点40%とする。
教科書／テキスト	特に指定しない。
参考書	実習中に適時紹介する。

履修コード	037801
科目名	自然地理学実習（地図学実習含む）
担当者名	江口 卓

授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p>（授業概要） 自然地理学のフィールド調査を行う際に必要となる基礎的調査手法および調査で得られたデータの解析手法について学ぶ。 （到達目標） この実習の到達目標は、自然地理学のフィールド調査を行う際に必要となる基礎的調査手法および調査で得られたデータの解析手法を身につけることである。具体的には、フィールドにおいてクリノメーターなどの調査器具を正しく使用して簡易測量ができるようになること、等値線図が正確に描けるようになること、エクセルを使って簡単なデータ解析ができること、の3点である。</p>
--------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自然地理学を学ぶために</li> <li>2. 実体視の原理と実践</li> <li>3. 測量器具の使い方</li> <li>4. 簡易測量について</li> <li>5. 測量結果の図化</li> <li>6. 地図の製図</li> <li>7. 地上天気図の書き方</li> <li>8. 高層天気図の書き方</li> <li>9. 天気図を使った気候の解析</li> <li>10. インターネットによる地図やデータの検索</li> <li>11. データのダウンロードとエクセルによる編集</li> <li>12. エクセルによる表の作成</li> <li>13. エクセルによる統計計算</li> <li>14. エクセルによる図の作成</li> <li>15. データ解析およびその結果の発表</li> </ol>
----------	--

準備学習	授業中に提示された課題は、次週の授業までに必ず完成させておくこと。
履修上の留意点	実習であるので、必ず出席し、遅刻をしないこと。 レポートの提出期限は厳守すること。
成績評価の方法	レポート60%、平常点40%とする。
教科書／テキスト	特に指定しない。
参考書	実習中に適時紹介する。

履修コード	031901
科目名	自然地理学実習（地図学実習含む）
担当者名	鈴木 秀和

授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p>自然地理学に関するフィールド調査を行う際に、最低限必要となる基礎的調査手法および調査で得られたデータの解析手法を身につけることを目標としており、地形図・地質図および空中写真の活用法、気象データを利用した地域の気候特性の把握、フィールドワークの方法、パソコンなどを用いたデータの解析手法などについて学習する。</p>
--------------------	--

授業スケジュール	<p>第1回～第5回：地形図・空中写真の見かたと利用法（地形断面図、水系図、接峰面図、地形分類図などの作成とその解釈） 第6回～第7回：地質図の描き方と読み方 第8回～第9回：雨温図と水収支からみた日本の気候特性の把握 第10回～第12回：大学周辺（等々力溪谷など）における地形・地質観察と水文調査 第13回～第15回：データの収集と分析法（簡単な統計処理やグラフの作成）</p>
----------	--

準備学習	実習中に適時指示する。
履修上の留意点	地形図や製図用具は各自用意してもらう。 出席をこころがけ、レポートなどの提出期限は厳守すること。
成績評価の方法	出席状況、レポート・提出物の内容などを総合して評価する。
教科書／テキスト	特に指定しない。
参考書	実習中に適時紹介する。
その他	実習に必要な資料は随時配布する。

履修コード	037601
科目名	自然地理学実習（地図学実習含む）
担当者名	鈴木 秀和

授業概要/ 到達目標（ねらい）	自然地理学に関するフィールド調査を行う際に、最低限必要となる基礎的調査手法および調査で得られたデータの解析手法を身につけることを目標としており、地形図・地質図および空中写真の活用法、気象データを利用した地域の気候特性の把握、フィールドワークの方法、パソコンなどを用いたデータの解析手法などについて学習する。
--------------------	---

授業スケジュール	第1回～第5回：地形図・空中写真の見かたと利用法（地形断面図、水系図、接峰面図、地形分類図などの作成とその解釈） 第6回～第7回：地質図の描き方と読み方 第8回～第9回：雨温図と水収支からみた日本の気候特性の把握 第10回～第12回：大学周辺（等々力渓谷など）における地形・地質観察と水文調査 第13回～第15回：データの収集と分析法（簡単な統計処理やグラフの作成）
----------	---

準備学習	実習中に適時指示する。
履修上の留意点	地形図や製図用具は各自用意してもらう。 出席をこころがけ、レポートなどの提出期限は厳守すること。
成績評価の方法	出席状況、レポート・提出物の内容などを総合して評価する。
教科書／テキスト	特に指定しない。
参考書	実習中に適時紹介する。
その他	実習に必要な資料は随時配布する。

履修コード	031701
科目名	自然地理学実習（地図学実習含む）
担当者名	高木 正博

授業概要/ 到達目標（ねらい）	自然地理学を学ぶためには、地形図や空中写真などを利用して地域の自然的な事象を読み取る基本的な作業を行うことが重要である。本講義は、これらの作業をとおして基礎的な技術を修得するとともに、地域調査の基礎を学ぶことも目的とする。
--------------------	---

授業スケジュール	第1回 地形図について 第2回 地形図の判読 (1) 第3回 地形図の判読 (2) 第4回 起伏量図の作成 (1) 第5回 起伏量図の作成 (2) 第6回 水系図の作成 (1) 第7回 水系図の作成 (2) 第8回 空中写真の実体視 (1) 第9回 空中写真の実体視 (2) 第10回 写真判読による地域の変容調査 (1) 第11回 写真判読による地域の変容調査 (2) 第12回 現地調査による地域の変容調査 第13回 統計等データの図表化 (1) 第14回 統計等データの図表化 (2) 第15回 レポートの書き方 以上の内容を予定しているが、進捗状況に応じて変更することがある。
----------	---

準備学習	課題に対する実習は、授業時間内では終わらないので、予習・復習が必要である。
履修上の留意点	地形図の読図は地道な作業であるが、地域調査の基礎であり、課題に取り組む積極的な姿勢を求める。成果は期限内に提出できるよう努力すること。
成績評価の方法	提出物（図面とレポート）の内容（50%）、毎回の作業進捗状況（50%）などを総合的に評価する。
教科書／テキスト	各課題毎にプリントを配布して説明する。特定の教科書はない。
参考書	必要に応じて紹介する。
その他	30cm程度の定規、12色の色鉛筆、図面保護筒は必需品である。

履修コード	037701
科目名	自然地理学実習（地図学実習含む）
担当者名	田中 靖
授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p>（授業概要） 自然地理学の学習では、専門科目での知識の習得以前に、学習に利用する各種資料を読み取るための基本的な作業を行うことが重要である。そこで本実習では、自然地理学の学習に必要な基礎的な技術と考え方を学ぶ。</p> <p>（到達目標） 実習を通して天気図、地形図、空中写真、数的処理、現地調査に関する基礎的な知識（利用法、作成法など）を習得することを目標とする。これらの知識は、二次以降に履修する地理学科の専門科目において必ず必要となるものである。</p>
授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション：大学における勉強の技術</li> <li>2. 天気図の作成1：気象通報、等値線</li> <li>3. 天気図の作成2：気象衛星画像、アメダスデータ、製図</li> <li>4. 現地調査実習：古地図、空中写真、大学周辺でのフィールドワーク</li> <li>5. レポート作成法</li> <li>6. 基礎統計1：グラフの作成</li> <li>7. 基礎統計2：回帰直線</li> <li>8. 基礎統計3：相関係数</li> <li>9. 地形図1：段彩図</li> <li>10. 地形図2：水系図、流域図</li> <li>11. 地形図3：断面図、勾配・曲率の計測</li> <li>12. 空中写真1：実体視の練習</li> <li>13. 空中写真2：地形分類</li> <li>14. プレゼンテーション1：情報収集法</li> <li>15. プレゼンテーション2：レジュメの作成、発表</li> </ol>
準備学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の生活の中で目にする風景や天気図、地図などを注意深く見ておくこと。</li> <li>・高校の地理・数学・理科などの教科書における関連箇所を、一通り読み直しておくこと。</li> </ul>
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必ず出席し、課題は期限を守って提出すること。</li> <li>・フィールドワークは、天候によって日程が変わることがある。また、これに伴って授業スケジュールが前後することがある。</li> </ul>
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業課題およびレポート80%、平常点20%とする。定期試験は実施しない。</li> </ul>
教科書／テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指定しない。</li> </ul>
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適宜紹介する。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定規や色鉛筆、地形図等を各自で準備する必要がある。適宜指示する。</li> </ul>

履修コード	038201 038202
科目名	自然地理学入門 地域環境研究概説
担当者名	田中 靖 鈴木 秀和 高木 正博 江口 卓

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)</p> <p>自然地理学ではどのような視点から自然をとらえていくのかを、自然地理学の諸分野を通して概観し、地理学におけるものの見方について学ぶ。そのために本講義では、地域環境研究専攻所属の教員により、それぞれの専門の立場からリレー式で講義する。</p> <p>(到達目標)</p> <p>高校まで学んできた知識と、大学での専門科目において必要となる知識を結びつける、基盤的知識の習得を目標とする。具体的な例をあげると、自然地理学にはどのような研究分野があり、どのような成果や考え方があのかを事例をあげながら説明できるようになることが重要な到達目標の一つである。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>2012年度は4人の教員により以下のテーマで講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス／気候変化と自然環境の変化 (江口 卓)</li> <li>2. 気候変化と人類 (江口 卓)</li> <li>3. 気候変化と文明 (江口 卓)</li> <li>4. 歴史時代の気候変化 (江口 卓)</li> <li>5. 地球温暖化問題とは (江口 卓)</li> <li>6. 地球温暖化の予測 (江口 卓)</li> <li>7. 地球温暖化の植生への影響 (江口 卓)</li> <li>8. 気候変動と海面の変化 (田中 靖)</li> <li>9. 海面変化と東京の地形 (田中 靖)</li> <li>10. 東京の地形と土地利用 (田中 靖)</li> <li>11. プレートテクトニクスと山地形成 (田中 靖)</li> <li>12. GISを用いた環境モニタリング (田中 靖)</li> <li>13. 地理学とシミュレーション (田中 靖)</li> <li>14. 自然災害と環境問題(1)－豪雨と斜面災害－ (田中 靖)</li> <li>15. 自然災害と環境問題(2)－活断層と地震・津波災害－ (田中 靖)</li> <li>16. 地球上の水(陸水・海水)とその循環 (鈴木秀和)</li> <li>17. 降水と蒸発散 (鈴木秀和)</li> <li>18. 土壌水と地下水 (鈴木秀和)</li> <li>19. 河川水と湖沼水 (鈴木秀和)</li> <li>20. 水資源とその利用 (鈴木秀和)</li> <li>21. 日本と世界の水問題 (鈴木秀和)</li> <li>22. 日本の温泉の成因 (鈴木秀和)</li> <li>23. 川とは何か (高木正博)</li> <li>24. 河川の流域と都市の川 (高木正博)</li> <li>25. 都市の水害 (高木正博)</li> <li>26. 都市をめぐる水 (高木正博)</li> <li>27. 都市の水環境を支える地下水(1) (高木正博)</li> <li>28. 都市の水環境を支える地下水(2) (高木正博)</li> <li>29. 都市の水循環と環境保全(1) (高木正博)</li> <li>30. 都市の水循環と環境保全(2) (高木正博)</li> </ol>
----------	---

準備学習	・ 特になし。
履修上の留意点	・ この科目は、地理学科一年次生の必修科目である。
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 担当者ごとに本学の成績評価基準に基づいて素点を算出し、その平均点で評価する。</li> <li>・ 素点は担当者ごとに授業内で行うレポートまたは小テスト(80%)、平常点(20%)により算出する。</li> <li>・ 定期試験は行わない。</li> </ul>

教科書／テキスト	・ 指定しない。資料は各担当者からプリントを配布する。
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ シリーズ『自然景観の読み方』全12冊, 岩波書店</li> <li>・ シリーズ『自然環境とのつきあい方』全7冊, 岩波書店</li> <li>・ 杉谷 隆・平井幸弘・松本 淳『風景のなかの自然地理—改訂版』, 古今書院</li> <li>・ 山田安彦 編著『総合 地域の科学—水と地域のかかわり合い—』, 古今書院</li> <li>・ 松岡憲知・田中博・杉田倫明・村山祐司 ほか編『地球環境学』, 古今書院</li> <li>・ 新井 正 ほか著 都市環境学シリーズ2『都市の水文環境』, 共立出版</li> <li>・ 大山正雄・大矢雅彦 著『大学テキスト 自然地理学 上・下巻』, 古今書院。</li> </ul>

履修コード	034901
科目名	社会地理学
担当者名	伊藤 修一

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 人文地理学で注目する立地や空間分布のなかには、経済合理性で説明できない、人間集団やそれにより生じた構造・関係の特徴が空間に表出した結果と理解できるものも少なくない。この授業では、いくつかの人間集団の特徴や構造・関係を具体的にとり上げて、一般的な傾向からは確認できない、それら独特の空間や場所との結びつきについて説明する。</p> <p>(到達目標) この講義では、各自の関心に基づいて社会地理的な課題をとり上げて、そこにみられる人間集団の特徴や構造・関係の特徴を理解して、その特徴が空間や場所との結びつきを考察・説明できることを到達目標とする。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 社会地理学とは？</p> <p>第3回 都市生活様式とその背景の変化—経済と社会の構造の変化</p> <p>第4回 都市生活様式とその背景の変化—脱工業化都市の社会変容 (1)</p> <p>第5回 都市生活様式とその背景の変化—脱工業化都市の社会変容 (2)</p> <p>第6回 ジェンダーと地理—ジェンダーとは？</p> <p>第7回 ジェンダーと地理—工業都市の誕生と性別役割分業 (1)</p> <p>第8回 ジェンダーと地理—工業都市の誕生と性別役割分業 (2)</p> <p>第9回 ジェンダーと地理—脱工業化都市の女性就業 (1)</p> <p>第10回 ジェンダーと地理—脱工業化都市の女性就業 (2)</p> <p>第11回 家族と地理—家族とは？</p> <p>第12回 家族と地理—ライフコースの変化と家族形態の変貌</p> <p>第13回 家族と地理—世帯類型にみるすみ分け</p> <p>第14回 家族と地理—郊外住宅地を巡る問題 (1)</p> <p>第15回 家族と地理—郊外住宅地を巡る問題 (2)</p> <p>第16回 子ども・若者と地理—子どもとは？</p> <p>第17回 子ども・若者と地理—子どもの遊び空間</p> <p>第18回 子ども・若者と地理—子どもの通塾行動</p> <p>第19回 子ども・若者と地理—大学進学・就職と人口移動</p> <p>第20回 子ども・若者と地理—地方に残る若者</p> <p>第21回 社会地理学の実践 (1)</p> <p>第22回 社会地理学の実践 (2)</p> <p>第23回 社会地理学の実践 (3)</p> <p>第24回 社会地理学の実践 (4)</p> <p>第25回 社会地理学の実践 (5)</p> <p>第26回 社会地理学の実践 (6)</p> <p>第27回 社会地理学の実践 (7)</p> <p>第28回 社会地理学の実践 (8)</p> <p>第29回 社会地理学の実践 (9)</p> <p>第30回 全体のまとめと確認</p>
----------	---

準備学習	社会地理学の成立の背景を理解する上で、クリスタラーの中心地理論やウェーバーの工業立地論、チューネンの農業立地論といった基本的な経済地理的な地域の捉え方を理解していることが望ましい。
------	--

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	講義期間中に実施する試験あるいはレポートの結果により評価する。
---------	---------------------------------

教科書／テキスト	高校などで利用した地図帳を準備することが望ましい。
----------	---------------------------

参考書	<p>さしあたり、以下の本を紹介する。</p> <p>ノックス、P・ピンチ、S. 著、川口太郎・神谷浩夫・高野誠二訳『新版 都市社会地理学』古今書院、6090円、ISBN 978-4-7722-5103-0</p> <p>水内俊雄編『空間の社会地理』朝倉書店、3990円、ISBN 978-4-2541-6715-6</p>
-----	--

その他	講義ではプリントを随時配布する。後期の講義はYeStudyを通して指導も行ったりするので、履修者は開講後必ず登録を済ませること。
-----	--

履修コード	035101
科目名	人口地理学
担当者名	鄭 美愛

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>人口地理学は様々な人口現象を通じて地域構造を明らかにする学問である。各地域の人口現象はその地域独特の自然現象や社会的現象と深く関わっている。本講義は人口現象から地域の特性を把握する手法を学べる。</p> <p>本講義では、人口地理学の基礎的な概念および最新の研究課題について講義、文献講読を行う。前期は、人口分布および構造について、後期は、人口分布を変化させる要因としての人口移動に焦点を当てる。その際、用いる資料を表・図に表す作業や文献講読も併行し理解を深める。本講義を通じて人口地理学に関する専門知識をより高めることを目的とする。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 地域人口に関する基本資料</li> <li>3. 人口変化の要因 (出生)</li> <li>4. 人口変化の要因 (出生)</li> <li>5. 人口変化の要因 (死亡)</li> <li>6. 人口分布 (集中指数)</li> <li>7. 人口分布 (人口重心)</li> <li>8. 図の作成</li> <li>9. 人口構造 (年齢構造)</li> <li>10. 人口構造 (年齢構造)</li> <li>11. 人口構造 (産業構造)</li> <li>12. 人口構造 (産業構造)</li> <li>13. 人口構造 (高齢化の影響および対策)</li> <li>14. 図の作成</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 人口移動 (重力モデル)</li> <li>3. 人口移動 (都市回帰)</li> <li>4. 人口移動 (大都市圏の人口移動)</li> <li>5. 人口移動 (Uターン移動)</li> <li>6. 人口移動 (高齢者人口移動)</li> <li>7. 人口移動 (国際人口移動)</li> <li>8. 人口移動 (文献講読)</li> <li>9. 人口移動 (文献講読)</li> <li>10. 人口移動 (文献講読)</li> <li>11. 人口移動 (文献講読)</li> <li>12. 人口調査の方法</li> <li>13. 人口と環境</li> <li>14. 人口政策</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>(受講者の興味や進度によって適宜調整する。)</p>
----------	--

準備学習	普段からニュースや新聞などの少子化や高齢化の記事に目を通してください。
------	-------------------------------------

履修上の留意点	私語や携帯電話の使用など、講義の妨げになる行為は慎むこと。目に余る場合は評価上のペナルティーを科します。
---------	--

成績評価の方法	定期試験と小テストによります。身近な資料や統計データなどを利用して表や図にまとめる作業も成績に反映します。
---------	---

教科書/テキスト	講義ではプリント資料を配布します。テキストは特に指定しません。講義中には身近な資料や統計データなどを利用して表や図にまとめる作業時間も設けます。
----------	--

参考書	<p>荒井良雄他『日本の人口移動 ライフコースと地域性』古今書院。      大友 篤『日本の人口移動』大蔵省印刷局。      小笠原節夫『人口地理学入門』原書房。      石川義孝『人口減少と地域』京都大学学術出版会。      石川義孝・井上孝・田原裕子編『地域と人口からみる日本の姿』古今書院。      李喜演『人口地理学』法文社。      濱英彦・山田喜一編『地域人口分析の基礎』古今書院。</p>
-----	---

その他講義中に紹介します。



履修コード	032301
科目名	人文地理学実習（地図学実習含む）
担当者名	小田 匡保
授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p>（授業概要） 人文地理学の研究調査に必要な基本的資料と図表作成の技術について、実際に作業を行いながら学習する。 （到達目標） パソコンを使って、図表や図表入りのレポートが作成できるようにする。</p>
授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文献を見る</li> <li>2. 地形図を買う</li> <li>3～4. 手書きによる地図の作成</li> <li>5. 情報検索</li> <li>6～8. 統計データの加工と表、表入りレポートの作成（エクセル、ワード使用）</li> <li>9～10. グラフとグラフ入りレポートの作成（エクセル、ワード使用）</li> <li>11～14. 画像の利用と地図の作成（ペイント、ワード使用）</li> <li>15. 授業のまとめ</li> </ol>
準備学習	パソコンが不得意な学生は、コンピュータ基礎科目を履修するなどして、パソコンの基本的な使い方に慣れておくこと。ワードがある程度使えるという前提で授業を進める。 毎回出される課題は、必ず次の授業までに仕上げて授業を受けること。
履修上の留意点	当然のことだが、授業には毎回出席し、課題も毎回提出すること。ただし、不十分な内容の場合は再提出を求める。授業の途中から総合情報センターを利用するので、利用者IDを手元に用意しておくこと。
成績評価の方法	平常の学習状況、課題の提出状況（期限内に提出したかどうかを含む）、提出された課題の内容、小テストを総合して評価する。提出されない課題がある場合は、単位認定は保証できないので、課題はすべて提出すること。
教科書／テキスト	担当教員作成のプリントを配布する。
参考書	授業中に紹介する。
その他	定規・地形図などを用意する必要がある。詳細は、授業時に随時指示する。

履修コード	038001
科目名	人文地理学実習（地図学実習含む）
担当者名	小田 匡保
授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p>（授業概要） 人文地理学の研究調査に必要な基本的資料と図表作成の技術について、実際に作業を行いながら学習する。 （到達目標） パソコンを使って、図表や図表入りのレポートが作成できるようにする。</p>
授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文献を見る</li> <li>2. 地形図を買う</li> <li>3～4. 手書きによる地図の作成</li> <li>5. 情報検索</li> <li>6～8. 統計データの加工と表、表入りレポートの作成（エクセル、ワード使用）</li> <li>9～10. グラフとグラフ入りレポートの作成（エクセル、ワード使用）</li> <li>11～14. 画像の利用と地図の作成（ペイント、ワード使用）</li> <li>15. 授業のまとめ</li> </ol>
準備学習	パソコンが不得意な学生は、コンピュータ基礎科目を履修するなどして、パソコンの基本的な使い方に慣れておくこと。ワードがある程度使えるという前提で授業を進める。 毎回出される課題は、必ず次の授業までに仕上げて授業を受けること。
履修上の留意点	当然のことだが、授業には毎回出席し、課題も毎回提出すること。ただし、不十分な内容の場合は再提出を求める。授業の途中から総合情報センターを利用するので、利用者IDを手元に用意しておくこと。
成績評価の方法	平常の学習状況、課題の提出状況（期限内に提出したかどうかを含む）、提出された課題の内容、小テストを総合して評価する。提出されない課題がある場合は、単位認定は保証できないので、課題はすべて提出すること。
教科書／テキスト	担当教員作成のプリントを配布する。
参考書	授業中に紹介する。
その他	定規・地形図などを用意する必要がある。詳細は、授業時に随時指示する。

履修コード	032201
科目名	人文地理学実習（地図学実習含む）
担当者名	須山 聡

授業概要/ 到達目標（ねらい）	人文地理学における基本的な分析手法を習得するとともに、最低限必要な表現（図的表現・文章表現）技法を身につける。
--------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 地形図と空中写真</li> <li>(2) 文献検索・文献リストの作成</li> <li>(3) 統計データと統計地図の種類と利用法</li> <li>(4) 土地利用調査（野外観察の基礎）</li> <li>(5) 土地利用図の作成（口頭表現のトレーニング）</li> <li>(6) 景観の分析（風景印）</li> <li>(7) 統計地図の作成（コロプレスマップ）</li> <li>(8) 統計地図の作成（ドットマップの作成）</li> <li>(9) 地図の計測（方眼法）</li> <li>(10) 地図の計測（ポイントサンプリング）</li> <li>(11) 土地利用の分析（修正ウイパー法）</li> <li>(12) 流動データの分析（最大流動法）</li> <li>(13) 人口の静態的分析（ランクサイズルール）</li> <li>(14) 人口の静態的分析（人口ピラミッド）</li> <li>(15) 人口の動態的分析（コーホート分析）</li> </ol>
----------	--

準備学習	予習はとくに必要ない。普段から新聞や書籍の地図表現に関心を持ってほしい。
------	--------------------------------------

履修上の留意点	各回に与えられる課題は次回までにレポートとして提出する。本実習では、日本語表現を地理学で学ぶ上での重要な能力と位置づけている。課題未提出者はノルマが雪だるま式に増えて首が回らなくなるおそれがある。
---------	--

成績評価の方法	毎回の授業で課されるレポートをもとに判断する。レポートは要求水準に到達するまで何度でも書き直しを求める。具体的には合格したレポートは1点、不合格は0.5点、未提出は0点とし、それらの合計点に基づいて評価する。したがって、不合格または未提出であっても再提出して合格すればよい。
---------	---

教科書／テキスト	毎回資料を配布する。
----------	------------

参考書	製図ペン・電卓を利用する。
-----	---------------

履修コード	037901
科目名	人文地理学実習（地図学実習含む）
担当者名	高橋 健太郎
授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p>〔授業概要〕 人文地理学や地図、地域調査への理解を深め、当該分野のレポートや論文を作成するための基礎的な学力を身につけるために、実習形式で、学術文献や地図、統計資料、フィールドワーク、プレゼンテーションなどについて学ぶ。</p> <p>〔到達目標〕 図書館の利用や製図ペンによる地図作成、エクセルによる表計算とグラフ作成、PCによる主題図作成、フィールドワークの準備と実施、写真つき地域調査レポートの作成など、各実習の内容と方法を理解し、精度の高い作品を作ることができるようになることを目標とする。</p>
授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人文地理学実習への視座</li> <li>2. 学術文献の検索と図書館の利用</li> <li>3. 製図ペンによる地図作成</li> <li>4. 地図判読による地域変容の理解</li> <li>5. エクセルによる表計算</li> <li>6. 1軸グラフの作成</li> <li>7. 2軸グラフの作成</li> <li>8. 等高線グラフの作成</li> <li>9. 地理写真の撮影方法</li> <li>10. 地域調査の立案と実施</li> <li>11. 写真つき地域調査レポートの作成</li> <li>12. 地域調査の成果発表</li> <li>13. PCによる地図作成</li> <li>14. 階級区分図の作成と地域性の理解</li> <li>15. 比例シンボル図の作成と地域性の理解</li> </ol>
準備学習	毎回の授業内容をきちんと復習することにより、応用的な内容に進んだ際も理解を深めることができる。
履修上の留意点	この授業は実習科目であるため、毎回出席し、その日の学習内容をよく理解し、課題をきちんと仕上げ提出するということが特に求められる。遅刻は厳禁である。
成績評価の方法	平常点（30%）と提出された作品（70%）で評価する。
教科書／テキスト	
参考書	<p>次の参考書をはじめ書籍や論文、新聞記事などで、参考にできそうな地図やグラフ、写真を見つけたら、普段からスクラップしておくことをおすすめする。</p> <p>浮田典良・森三紀『地図表現ガイドブック』ナカニシヤ出版、ISBN: 4888488479.</p> <p>浮田典良『地図表現半世紀』ナカニシヤ出版、ISBN: 4888489416.</p>
その他	YeStudyで連絡する場合がありますので、この授業を登録すること。

履修コード	038101
科目名	人文地理学実習（地図学実習含む）
担当者名	土谷 敏治

授業概要/ 到達目標（ねらい）	（授業概要） 地理学を学んでいくために必要な基礎知識、基礎能力を身につけるための実習を行う。
--------------------	---

	（到達目標） 調査研究に必要な文献検索能力、収集したデータを整理、集計し、図表として提示し、分析できるようになることを目指す。
--	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. レポートの作成方法</li> <li>2. 文献の検索と読解</li> <li>3. 統計データの整理・集計・加工</li> <li>4. 表計算の活用</li> <li>5. 統計データの分析</li> <li>6. 統計データのグラフ化</li> <li>7. コンピュータによる作図の応用</li> <li>8. 人口ピラミッドの作成</li> <li>9. グラフの分析と考察</li> <li>10. コンピュータによる地図作成の基礎</li> <li>11. 地図作成能力の向上</li> <li>12. 交通ネットワークの地図作成</li> <li>13. 製図実習</li> <li>14. 等値線図の作成</li> <li>15. 地図の分析と考察</li> </ol>
----------	--

準備学習	それぞれの課題について、課題の位置づけや意義、作業指導、結果についての解釈のしかたなどの解説をした上で、実際の作業に入るのので、前回の解説内容を復習し、作業手順を確認しておく必要がある。
------	---

履修上の留意点	毎回必ず出席し、授業で説明を聞いた上で、各課題について実習する。上記のスケジュールにしたがって課題を与えるので、その結果の図・表と分析・考察を必ず提出する。前半はコンピュータを使用するので、総合情報センターのユーザーID、パスワードを用意しておく必要がある。
---------	---

成績評価の方法	すべての提出物を点数化して評価する。提出物の図・表と分析・考察は1：1の比重とする。地図の作製は、多くの時間を必要とすることから、他の課題の2倍の比重で評価する。また、実習としての授業の性格上、出席率が7割に達しない者は単位を認定しない。
---------	---

教科書／テキスト	とくに指定しない。
----------	-----------

参考書	<p>地理学の基礎的な調査・研究方法を学ぶ上で、たとえば次のような文献が参考となる。 浮田典良編『ジオ・パル21 地理学便利帖』（海青社）</p> <p>中村和郎・高橋伸夫編『地理学講座1 地理学への招待』（古今書院）</p> <p>宮野峰明・安仁屋政武・高阪宏行者『地理学講座2 地理的情報の分析手法』（古今書院）</p> <p>高橋伸夫・溝尾良隆編『地理学講座3 実践と応用』（古今書院）</p>
-----	--

履修コード	032101
科目名	人文地理学実習（地図学実習含む）
担当者名	橋詰 直道

授業概要/ 到達目標（ねらい）	（授業概要）人文地理的諸現象を調査・分析し、レポートにまとめるための基礎的手法を学習する。 （到達目標）地理的諸現象を科学的に捉え、客観的にレポートする基礎を身につける。
--------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 地理学・人文地理学について</li> <li>(2) 地理学文献と地図データの入手方法・レポートの書き方</li> <li>(3) 地図情報の判読（地形図読図入門）</li> <li>(4) 地図情報の判読（農村地域）</li> <li>(5) 地図情報の判読（都市地域）</li> <li>(6) 地理データの処理（表の作成）</li> <li>(7) 地理データの処理（グラフ化1）</li> <li>(8) 地理データの処理（グラフ化2）</li> <li>(9) 地理データの処理（グラフ化3）</li> <li>(10) 地理データの処理（基礎統計分析手法）</li> <li>(11) 空間データの表示（コロブレス図化）</li> <li>(12) 空間データの表示（MANDARAの利用）</li> <li>(13) 空間データの表示（Adobeの活用1）</li> <li>(14) 空間データの表現（Adobeの活用2）</li> <li>(15) プレゼンテーション・まとめ</li> </ol>
----------	---

準備学習	地形図（1/5万、1/2.5万）の読み方や地理統計（平均、標準偏差、ヒストグラム、人口ピラミッド）の読み方などについて学習しておくこと。
------	--

履修上の留意点	総合情報センターのパソコン教室を使用。必修科目であり、毎週新たな課題が出されるので、特に課題への積極的な取り組みが必要である。出席（遅刻をしないこと）や授業への参加態度も重視する。課題の提出期限を厳守すること。
---------	---

成績評価の方法	期間中に提出される課題・レポートや地図などの成果品、授業への出席（一定基準以上）や学習状況などを総合的に評価する。
---------	---

教科書／テキスト	とくに定めない。なお、毎時間の課題についてはプリントを配布する。
----------	----------------------------------

参考書	
-----	--

その他	総合情報センター利用登録を済ませておくこと。
-----	------------------------

履修コード	032501 032502
科目名	人文地理学入門 地域文化研究概説
担当者名	櫻井 明久 土谷 敏治 小田 匡保 佐藤 哲夫 橋詰 直道 須山 聡 高橋 健太郎

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この授業では、担当者各自がそれぞれの専門領域について、様々な地域の事例を引きながら、地理学の基本的概念(位置、分布、立地、距離、密度、地理的事象、地域性・地域的特色、地域、地域概念、地域区分・地域分類、地域構造、空間構造、地域のスケールと階層性、地域の変化)を考察し、この基本概念の扱いを柱に様々な系統地理学と地域研究・地誌からなる人文地理学、地理学の構造を概観したい。 また、内容的には、取り上げる日本の事例から、ないしは諸外国の事例と対比することによって、日本の自然環境と生業・生活文化、集落・文化景観の形成と地域性、交通の発達と産業の発展、都市の形成と発展、国土開発といった内容項目に関わりながら日本の地域性を明らかにしたい。
---------------------	---

授業スケジュール	毎授業のテーマとその順番は、おおよそ以下の通りである。 1. オリエンテーション 2. 地域の写し鏡としての景観—散居村と屋敷森— 3. 演出される景観—瑞泉寺門前町— 4. 利用される景観—富士山— 5. 切り取られる景観—風景印— 6. 民族と国家 7. 民族へのまなざし 8. 民族文化と移住 9. 華人の生活と文化 10. ヨーロッパの自然環境と統一国家ドイツの成立過程をみる 11. 国家体制と都市成立過程から都市の構造を考える 12. まちづくりと公共交通について考える 13. 東西対立の象徴ベルリンをみる 14. 食文化の地域差を調べる 15. 方言の地域差を知る 16. 文学作品を地理学を目で読む 17. 観光地を調べる 18. 農家と土地利用 19. 集落と土地利用 20. 集落に見る「地域」 21. 集落から世界都市まで—地理教育への視点— 22. 熱帯アジアの基礎知識 23. 人文地理の視点とは 24. 那覇の街を例に考える 25. 熱帯アジアの地理学まとめ 26. 都市と場所の見方とらえ方 27. 都市と人のなわばり 28. 都市計画とまちづくり 29. 地理学科80年の歴史 30. まとめ
----------	--

準備学習	各授業者の指示に従うこと
------	--------------

履修上の留意点	次のスケジュールで、1人の教員が4回ずつ担当する予定である。毎回テーマが変わるので、必ず出席することが必要である。 1. 須山: 4月10日から5月1日まで 2. 高橋: 5月8日から5月29日まで 3. 土谷: 6月5日から6月26日まで 4. 小田: 7月3/10日 9月18/25日まで 5. 櫻井: 10月2日から10月23日まで 6. 佐藤: 10月30日から11月20日まで 7. 橋詰: 11月27日から12月18日
---------	---

成績評価の方法	7人の教員が、それぞれの講義内容に関するレポートを課すか試験を実施し、その得点に出席状況などを加味して各自の成績を評価する。その上で、7人の担当者の合計点によって総合評価する。
---------	--

教科書/テキスト	とくに指定しない。
----------	-----------

参考書	須山: 須山聡「在来工業地域論—輪島と井波の存続戦略—」古今書院、山と地図のフォーラム「富士山展望百科」実業之日本社 高橋: 佐々木信彰編「現代中国の民族と経済」世界思想社、山下清海編「エスニック・ワールド—世界と日本のエスニック社会—」明石書店、2008年 土谷: 早川東三・工藤幹巳「ドイツを知るための60章」明石書店、宇都宮淳人「路面電車ルネッサンス(新潮社新書034)」新潮社 小田: 金子優子編「西の牛肉、東の豚肉—一家計簿から見た日本の消費—」日本評論社、坂本光司研究室・アタックスグループ編「消費の県民性を探る—47都道府県で売れる商品・売れない商品—」同友館 佐藤: 比嘉政夫「沖縄からアジアが見える」(岩波ジュニア新書)、矢ヶ崎典隆他編「地理学基礎シリーズ3 地誌学概論」朝倉書店 橋詰: 小林秀樹「集住のなわばり学」彰国社、渋谷昌三(1990)「人と人との快適距離」NHKブックス、増淵敏之「物語を旅するひとひと」溪流社 櫻井: 尾留川正平編著「沿岸集落の生態」二宮書店、桜井明久「西ドイツの農業と農村」古今書院
-----	--

履修コード	040301
科目名	水文学
担当者名	鈴木 秀和

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	水文学は、地域の自然環境を構成する重要な要素の一つである「水」を対象に、その動態や存在状態について取り扱う学問分野である。地球上の水は、色々な場所（大気・水・岩石圏）で様々なかたち（気・液・固相）を取りながら循環しており、その過程において人間を含む様々な対象と相互に関連しながら環境を形成している。この授業では、水文学の基本概念である水循環過程に関する知識の習得を目標とし、おもに陸域における河川・湖沼・地下水のあり方や、人間活動との相互作用の結果もたらされる様々な環境問題などについて学習する。
---------------------	--

授業スケジュール	年間の授業は、以下のようなスケジュールで実施する。
----------	---------------------------

- 第1回：ガイダンス（授業の内容や進め方）
- 第2回：水文学の大系
- 第3回：地球上の水のあり方とその循環
- 第4回：降水
- 第6回：地表面における水の分配（蒸発散と浸透）
- 第7回～第9回：地中水（土壌水と地下水）
- 第10回：水流発生機構
- 第11回～第15回：地表水（河川と湖沼）
- 第16回～第21回：トレーサー水文学（水温・水質・同位体を用いた水文過程の解明）
- 第22回～第24回：人間活動による水循環・水環境への影響（水質汚染、地盤沈下など）
- 第25回～第28回：水資源と水利用
- 第29回：日本の温泉の特徴と成因
- 第30回：不思議な天然水（山間部に湧き出す塩水と天然炭酸水）

準備学習	予習の必要はないが、講義の概要について復習することで、理解度を深めてほしい。
------	--

履修上の留意点	より良い理解のために、物理・化学的な知識を必要とすることもあるが、それに捕らわれずに自然界における水のあり方や動きや、人とのかかわりにおいて発生する環境問題などを、大局的に理解するよう心がけて欲しい。
---------	--

成績評価の方法	期末試験（70%）と、出席および授業中の課題・レポートなどの平常点（30%）で評価する。
---------	--

教科書／テキスト	特に指定しない。
----------	----------

参考書	<p>杉田倫明・田中 正 編著『水文学』、共立出版。          松岡憲知・田中博・杉田倫明 ほか編『地球環境学』、古今書院。          大山正雄・大矢雅彦 著『大学テキスト 自然地理学 下巻』、古今書院。          青木 斌 ほか著『地球の水圏—海洋と陸水』、東海大学出版会。          新井 正 著『地域分析のための 熱・水収支水文学』、古今書院。          高村弘毅 編『地下水と水循環の科学』、古今書院。</p>
-----	---

履修コード	040401
科目名	水文学実習
担当者名	高木 正博

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	地理学が必要とする、地域調査を行うための基本的な知識を習得すること。野外での調査が確実にいえるようにすることを目指す。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>第1回 陸水の水文特性について 第2回 水環境調査の基礎(1) 調査の準備 第3回 水環境調査の基礎(2) 調査地域の概要と地形図読図 第4回 調査目的、調査地点の選定          第5回 計測器材の特徴と使用方法 第6回 温度・降水量の観測 第7回 水位・水深の計測 第8回 流量の計測 第9回 野外測水調査 第10回 野外での水質調査 pH・電気伝導度など 第11回 イオンクロマトによる試料分析 溶存物質の特性          第12回 河川の水環境調査 第13回 湧水・地下水の水環境調査 第14回 水環境調査の結果・解析・考察 第15回 水環境調査と環境基準</p>
----------	---

準備学習	授業ではプリントを用意するが、そこに記載されている参考文献を活用して授業の内容を予習・復習しておくこと。特に化学的な内容を理解するための知識を身につけてほしい。
------	--

履修上の留意点	フィールドワーク、実験室での試料分析は原則として週末に行うので、授業時間以外にもかなりの時間を必要とする。
---------	---

成績評価の方法	授業・調査中の発表・発言等を基礎点（50%）とし、提出物の成果（50%）と合わせて評価する。
---------	--

教科書／テキスト	授業時間にプリントを配布する。
----------	-----------------

参考書	<p>新井 正『水環境調査の基礎』改訂版（古今書院）          日本地下水学会編『名水を科学する』、『続・名水を科学する』、『新・名水を科学する』（いずれも技報堂出版）          半谷高久・小倉紀雄『水質調査法』（丸善）          日本分析化学会北編海道支部『水の分析』（化学同人）          その他、随時紹介する。</p>
-----	--

履修コード	039801
科目名	図学実習
担当者名	吉田 健洋

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>地人を対象とする地理学において、その空間表現を視覚化している地図は必須です。地図は、人の水平視野で捉える空間を垂直視野の二次元空間で再現していると言えます。そこで、この地図の二次元表現を記号化、縮尺化、数値化の観点から理解し地図表現を習得します。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> <li>○概論 (1回) 地形図について、図学実習について</li> <li>○図式 (4回) 地形図記号を記号項目ごとに解説し、地形図でこの運用を理解する (地形図作業)</li> <li>○編集 (3回) 縮小化の制限で行われる編集処理について</li> <li>○投影 (1回) 数値計算による経緯線図の作成について</li> <li>○数値化 (1回) メッシュ型とベクトル型データによる作図</li> <li>○作図 (5回) デザイン化されたオリジナルマップの作成</li> </ul>
----------	--

準備学習	特にありません。
履修上の留意点	必ず出席し、課題は期限を守って提出すること。
成績評価の方法	課題成果の内容と小テストで行います。
教科書/テキスト	毎回資料を配布します。 地形図の購入を指示します。
参考書	利用しやすいデジタルマップ関連ソフトなどは、実習中に紹介します。
その他	定規、色鉛筆、関数電卓やパソコンなどの準備は適宜指示します。

履修コード	040701
科目名	生物地理学
担当者名	渋谷 園実

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 生物地理学は地球上の生物の分布と、その成因となる環境との関係をつかおうとする学問である。そこで本講義では、まず生物とその環境の相互作用を知る上で欠かせない生態学の基礎を身につける事を目的とする。次に、植物を中心にその分布パターンについて研究事例をあげながら、環境要因との関係について解釈する。さらに、現在の生物相の形成された歴史的背景について学ぶ。最後に、近年話題となっている環境問題について、生物地理学の観点から考える。</p> <p>(到達目標) まず上述の基礎的知識を習得すること、さらにその知見を土台として実際に身の回りで起こっている様々な事象に対する応用力を養うこと。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>第1回 生物地理学の概要  第2～5回 生物生態地理学：生態系の構造、物質循環とエネルギーの流れ  第6～9回 個体群とその変動、異種個体群間の相互作用  第10～15回 生物と環境、植物群落の成り立ち、植物群落の構造、植物の水平分布と垂直分布  第16～20回 生物区系地理学：世界及び日本の生物の分布パターン  第21～25回 歴史的生物地理学：進化、大陸移動  第26～30回 近年の環境問題と生物地理学：里山、地球温暖化</p>
----------	---

準備学習	毎回講義の理解度の確認を行うので、前回の授業内容を復習すると共に当日の授業をしっかりと聞くこと。
履修上の留意点	第1回目の授業で講義概要を説明するので、履修予定者は初回から出席する事が望ましい。
成績評価の方法	前期試験の成績30%、後期試験の成績40%、平常点30%とする。
教科書/テキスト	
参考書	講義内で適宜プリントを配布する。
その他	

履修コード	040901
科目名	測量学
担当者名	田中 靖

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 測量学は、測量地図を作成する方法を研究する学問である。さらに最近では、旧来の「測る」技術に加え、空間データを効率的にマネージメントする技術やリモートセンシングを加えた研究分野としてその範囲を広げている。地理学では地図が最も基本的なデータであるから、測量学の知識は重要である。講義は、普段使っている地図がどのような工程で作られているのかという視点で行う。</p> <p>(到達目標) 本講義では古典的な測量方法による地図作成法から、GPS・GIS・航空機レーザー測量などの新しい測量技術による地図作成法までを扱う。測量と地図作成に関する基本的な理論を理解し、簡易的な土地測量ができる技術の習得と、「測量士補」の国家試験合格に必要な知識の習得を目標とする。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 測量の歴史、測量の法律</li> <li>2, 3. 測量のための数学</li> <li>4. 地球の大きさと形の定義</li> <li>5. 歩測実習</li> <li>6, 7. 誤差論</li> <li>8. クリノコンパス、ハンドレベル、携帯型GPSなどによる簡易測量実習</li> <li>9, 10. 地理座標：UTM座標系と平面直角座標系、投影変換</li> <li>11, 12. 角測量</li> <li>13, 14. 距離測量</li> <li>15. トータルステーションによる土地測量実習</li> <li>16, 17. 水準測量</li> <li>18, 19. 平板測量</li> <li>20, 21. GPS測量</li> <li>22, 23. 空中写真判読</li> <li>24, 25. 空中写真測量</li> <li>26, 27. 航空機レーザー測量</li> <li>28. リモートセンシング</li> <li>29. 地理情報システム (GIS)</li> <li>30. まとめ・試験対策</li> </ol>
----------	---

準備学習	・ 特になし。
------	---------

履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ この講義は、測量士補取得（国家試験免除）のための必修科目である。</li> <li>・ 高校教科書レベル+<math>\alpha</math>の数学の知識（特に三角関数と確率・統計）が必要となるが、復習しながら講義を進めるので、興味を持つ学生は履修して欲しい。</li> <li>・ 授業は講義中心に行うが、授業スケジュール内の「実習」以外にも各項目にそれぞれ課題実習を伴う。</li> </ul>
---------	---

成績評価の方法	・ 定期試験の成績（80%）と提出課題の質（20%）で評価する。
---------	----------------------------------

教科書／テキスト	・ 粟津清蔵（監修）、包国ほか（著）『絵とき 測量（改訂3版）』2,940円、オーム社出版局、ISBN: 978-4274208874
----------	---

参考書	
-----	--



履修コード	032701
科目名	村落地理学
担当者名	高橋 健太郎

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>〔授業概要〕 本講義では、日本と中国の事例を比較しながら、村落地域の特徴と変容、住民の生活と就業、抱える問題とそれへの対応などを説明する。そのなかで、現代社会における村落地域の位置づけや役割を多面的に示す。</p> <p>〔到達目標〕 現代社会において、村落地域には、食料生産のみではなく、水や電力エネルギーの供給、環境保全、レクリエーション空間の提供などのさまざまな役割がある。また、村落地域は、少子高齢化や産業不振、従来の地域社会の機能不全などの問題も抱えている。他方、それらの問題を克服するために、地域社会のあり方や地域開発の方法について再検討されていたり、地域活性化の取り組みも盛んに行なわれている。本講義では、村落地域の成り立ちや構成、特徴への理解を深め、それらをふまえて、実社会ではどのような取り組みが行なわれているのを知り、さらに都市地域を含めた全体像のなかで村落地域の役割を理解できるようになることを目標とする。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 村落地理学の視座</li> <li>2. 村落の役割</li> <li>3. 村落の種類</li> <li>4. 中山間地域の定義と特徴</li> <li>5. 過疎とその克服</li> <li>6. 少子高齢化と「限界集落」</li> <li>7. グリーンツーリズムの展開</li> <li>8. 文化景観と棚田</li> <li>9. オーナー制度による棚田の保全</li> <li>10. 民家の地域性</li> <li>11. 民家の保全と観光利用</li> <li>12. 沿岸村の特徴と多様性</li> <li>13. 観光開発による沿岸村の変容</li> <li>14. 入会地と地域社会</li> <li>15. 農林業センサスへの理解</li> <li>16. 中国村落の特徴</li> <li>17. 経済格差と中国村落</li> <li>18. 三農問題と都市・農村関係</li> <li>19. 民工潮と人口移動</li> <li>20. 環境保全の場としての村落</li> <li>21. 商業的農業の導入と地域変容</li> <li>22. フードシステムのなかの村落</li> <li>23. TPPと日本の村落</li> <li>24. 大規模干拓地の変遷</li> <li>25. 地産地消と食農教育</li> <li>26. 都市郊外の村落と農業</li> <li>27. 都市内部の農的空間</li> <li>28. 都市・農村関係と村落のイメージ</li> <li>29. 都市・農村の交流と相互理解</li> <li>30. 理解度の確認</li> </ol>
----------	--

準備学習	授業で配付した資料や紹介した文献を読み、授業内容への理解を深めること。
履修上の留意点	授業内容への理解の程度を把握するため、頻繁に教場にてレポートを作成し提出してもらう。
成績評価の方法	教場レポート (30%) と試験 (70%) で評価する。

教科書/テキスト	
参考書	<p>主な参考書は次のとおり。その他は、授業中に随時紹介する。</p> <p>農林水産省編『食料・農業・農村白書』(各年度版) 農林統計協会。 雑誌『季刊地域』(各号) 農山漁村文化協会、ISSN: 0289-3517。 岡橋秀典『周辺地域の存立構造』大明堂、ISBN: 4470560251。 中島峰広『日本の棚田』古今書院、ISBN: 4772213462。 高橋誠『近郊農村の地域社会変動』古今書院、ISBN: 4772216661。 河原昌一郎『詳解中国の農業と農村』農山漁村文化協会、ISBN: 4540982095。</p>

その他	YeStudyで連絡する場合があるので、この授業を登録すること。
-----	----------------------------------

履修コード	041101 041102
科目名	第四紀学
担当者名	鈴木 毅彦

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	第四紀とは最近約260万年間 (2009年度に、それまでの約180万年前から260万年前へと、第四紀の開始を古くすることが正式に決定された) の地質時代をさす。この時代は、地形、気候、動植物、人類などが現在みられる姿となった時代でもある。このような最近の地質時代を理解することは、人類の動向も含めた地球の将来予測につながる。本講義のねらいはこのような問題意識のもとに、第四紀の概要を理解することである。とくに全地球的な規模での現象と日本列島特有な第四紀の諸現象についての理解を深めることに目的をおく。
---------------------	--

授業スケジュール	講義前半では第四紀の各種基礎的概念を解説、後半では日本列島の第四紀の主要な現象のうち、地形発達、火山活動、第四紀地殻変動などに焦点をあてる。(1-2) 第四紀の概要と学際科学としての第四紀学の特徴、(3) 氷期の認定に関する歴史、(4) 大陸氷床拡大の発達との証拠: ビデオを用いる、(5) 氷河期と氷期の区別: 新生代氷河期と第四紀の開始、(6-7) 氷河性海面変化からわかる氷期・間氷期サイクル、第四紀海面変化の復元 (日本列島および関東地方を例として、沖積層と更新世海成段丘)、(8-9) 海洋底堆積物、酸素同位体比変化から復元される氷期・間氷期サイクル、(10) 氷期・間氷期サイクルの原因とミランコビッチサイクル、(11) 100-1000年スケールの急激な気候変動: D/Oサイクルと氷床コア研究、(12) 地球上各域における第四紀の気候変化、(13-14) 第四紀の古地磁気編年とレス編年、(15) 数値年代と放射年代、(16-17) 第四紀の火山活動、(18-20) 火山噴火の多様性、(21-24) 第四紀のテフロクロノロジー: 原理、日本列島および関東地方における応用例、(25-28) 第四紀地殻変動、活断層、山地形成、日本列島および関東地方における事例、(29-30) 第四紀における自然環境と人類の歴史
----------	--

準備学習	指定した教科書のうち「東京の自然史」は主に後期に使用するが、前期のうちに読んでおくこと。
------	--

履修上の留意点	講義中に高校等で使用する地図帳を用いることがあるので、常に持参してもらいたい。
---------	---

成績評価の方法	主には前期末のレポートと後期末の筆記試験で評価する。
---------	----------------------------

教科書/テキスト	貝塚爽平著 「東京の自然史」 講談社学術文庫 1050円 ISBN978-4-06-292082-7
----------	--

参考書	参考書として、酒井治孝著 「地球学入門—惑星地球と大気・海洋のシステム—」 東海大学出版会 2940円 ISBN-10 4486016157、日本第四紀学会編『デジタルブック 最新第四紀学』、町田ほか編『第四紀学』(朝倉書店)、日本第四紀学会編『百年・千年・万年後の日本の自然と人類』(古今書院)、成瀬『第四紀学』(岩波書店)をあける。それ以外は講義中に紹介する。
-----	--

その他	授業の方法: 講義、なお時間等が許せば日帰りの野外巡検を行う予定である。
-----	--------------------------------------

履修コード	033301
科目名	地域概論
担当者名	櫻井 明久

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この授業では、地理学における「地域」とは何かを検討し、「地域」を説明する地誌学を系統地理学と対比しながら考察し、それらの調査研究方法について考える。その際、ドイツ農村の農家と集落レベルの調査事例を丁寧に検討し、その後、地方都市とその周辺、大都市圏、国というスケール、ヨーロッパという超国家スケールにおける地誌へと広げたい。さらに地理教育における地誌学習のあり方についても考察する。なお、事例の内容説明よりも、地誌的調査の調査方法の習得に力を入れたい。
---------------------	---

授業スケジュール	地域とは何かについてまず大枠(地域概念、地域区分・地域分類、地域構造、地域の空間構造・階層性とスケール)を考え、それらの考え方にに基づき、具体的に農村地域を対象に、考察単位としての個人や農家を考え、集落スケール、地域スケール、大都市圏、国、超国家とスケールを広げながら地域の見方と地誌のあり方を積み上げていく形で追求したい。 1. オリエンテーション 2. 系統地理と地誌 3. 地域とは 4. 研究目的の設定 5. 景観観察と研究地域の選定 6. 研究の枠組みと研究の位置づけ 7. 調査村落のドイツにおける自然条件 8. 調査村落のドイツにおける社会的条件 9. 地形図着色作業 10. 地形図読図と地域説明 11. 山地の村: (1) 土地利用図の作成 12. (2) 聞き取り調査とアンケート調査 13. (3) 公的統計の利用 14. 平地の村 (1) 農家個表の照合、分析 15. (2) 経営タイプ 16. (3) 農家における意志決定と土地利用変化 17. 結論と一般化(地域構造図) 18. 土地利用パターンの変化 19. 北西ヨーロッパの農業 20. 地中海式農業 21. ケルン・ボン地域の農業と農村 22. ボンとその周辺農村の地域構造 23. ボンの都市構造 24. ケルン大都市圏の構造 25. パリ大都市圏の構造 26. パリの都市構造 27. 北西ヨーロッパの地域構造 28. ヨーロッパの地域構造 29. 教育における地誌 30. 地誌とは 4. 地域を語るとは
----------	--

準備学習	この授業では準備するよりも事前に配付資料の読図、作業などに集中することが求められるので注意すること。
------	--

履修上の留意点	出来る限り、授業の最後に疑問や質問をミニ教場レポートに書いてもらい、次時にはその学生の疑問や質問を取り上げるつもりであるので、授業に積極的に参加するよう望みたい。したがって、欠席も、遅刻も厳しく取り扱う。夏休みには、考察の基準となるような「地域」として、各自にとっての身近な地域について、新旧版の地形図を使ってレポートを作成してもらおう。レポートの締め切りも厳守のこと。
---------	---

成績評価の方法	出席とミニレポート50点、夏休みレポート30点、試験20点といったバランスで評価したい。
---------	--

教科書/テキスト	櫻井明久「西ドイツの農業と農村」古今書院 (購入する必要はない) 高橋伸夫/中村和郎他編「地理学講座 1~6」古今書院 (購入する必要はない)
----------	--

参考書	適宜紹介する。
-----	---------

履修コード	041801
科目名	地域環境演習E
担当者名	田中 靖

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 文献調査と現地調査の両面から地域環境調査のノウハウを学ぶ。今年度前期は火山、後期は活断層と地震を主なターゲットとして調査を行ない、調べた結果を報告書としてまとめる。 (到達目標) 文献を深く正確に読み込む力を付け、卒業論文のための調査を行なうことができる学力の習得を目標とする。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>【前期】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション：文献調査の技術、方法</li> <li>2. 火山の基礎知識</li> <li>3-10. 文献調査、発表会</li> <li>11-15. 火山文献調査レポートの作成 (夏休み：伊豆大島で1泊2日の現地調査実習を予定)</li> </ol> <p>【後期】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 活断層と地震の基礎知識</li> <li>2-9. 文献調査、発表会 (10月下旬頃：糸魚川-静岡構造線の一部を対象に1泊2日の現地調査実習を予定)</li> <li>10-13. 活断層調査レポートの作成</li> <li>14, 15. 最終報告書の作成</li> </ol>
----------	--

準備学習	・特になし。
履修上の留意点	・この科目を履修するためには学科主催の振り分け（4月6日）に必ず参加しなければならない。
成績評価の方法	・提出されたレポートの質(40%)と平常点(60%)により評価する。定期試験は実施しない。
教科書/テキスト	・指定しない。
参考書	・適宜紹介する。

履修コード	039101
科目名	地域環境調査法（現地調査含む）B
担当者名	江口 卓

授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p>（講義の概要） 地理学における環境研究においては、フィールドでの観察やデータの取得などが研究を行う上で大きな柱となっている。この授業では、フィールドワークによる環境研究の基本的な流れを理解し、フィールドワークの方法について学ぶ。</p> <p>（到達目標） この授業では、フィールドワークの企画、関連資料の収集整理、調査項目の検討、フィールドワークの実施、フィールドワークのまとめ、報告書の作成という一連の流れを経験し、フィールドワークによる環境研究の手法を身につけることを目標とする。</p>
--------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域環境調査法について</li> <li>2. 調査地域の概要</li> <li>3. 調査地域の地形概要</li> <li>4. 調査地域の気候概要</li> <li>5. 調査地域の植生概要</li> <li>6. 調査地のデータによる気候解析：テーマの設定</li> <li>7. 調査地のデータによる気候解析：データの入手</li> <li>8. 調査地のデータによる気候解析：データの編集</li> <li>9. 調査地のデータによる気候解析：データの解析</li> <li>10. 調査地のデータによる気候解析：解析結果のまとめ</li> <li>11. 調査地のデータによる気候解析：解析結果の発表</li> <li>12. 現地調査の準備：調査テーマの検討</li> <li>13. 現地調査の準備：調査テーマの設定</li> <li>14. 現地調査の準備：テーマに沿った文献のレビュー</li> <li>15. 現地調査の準備：調査テーマの発表</li> <li>16. 現地調査の準備：調査項目の検討</li> <li>17. 現地調査の準備：調査項目の設定</li> <li>18. 現地調査の準備：現地調査の準備</li> <li>19. 現地調査の報告</li> <li>20. 現地調査データの編集</li> <li>21. 現地調査データの解析</li> <li>22. 現地調査データのまとめ</li> <li>23. 調査最終報告：地形班</li> <li>24. 調査最終報告：気候班</li> <li>25. 調査最終報告：水文班、植生班</li> <li>26. 調査最終報告：環境班</li> <li>27. 報告書原稿の作成</li> <li>28. 報告書原稿のまとめ</li> <li>29. 報告書の編集</li> <li>30. 報告書の作成</li> </ol>
----------	---

準備学習	授業中に提示された課題は、次週の授業までに必ず完成させておくこと。
------	-----------------------------------

履修上の留意点	<p>この科目を履修するためには学科主催の振り分け（4月6日）に必ず参加しなければなりません。</p> <p>現地での調査を後期に行う。</p> <p>現地調査を伴う授業であるので、必ず出席し、遅刻をしないこと。</p> <p>レポートの提出期限は厳守すること。</p>
---------	---

成績評価の方法	レポート60%、平常点40%とする。
---------	--------------------

教科書／テキスト	
----------	--

参考書	
-----	--

履修コード	039301
科目名	地域環境調査法（現地調査含む）D
担当者名	高木 正博

授業概要/  
到達目標（ねらい）

地理学の基本とも言える「地域」の捉え方を、現地調査を含めて1年間にわたり学ぶことである。とくに、それぞれの地域に固有な水と人々のかわり方を、現地での測水調査や水利用などの調査をとおして明らかにしたい。現地調査を重視し、結果・考察をまとめた報告書を作成する。

授業スケジュール

現地調査の準備段階として文献調査、資料収集、地形図・空中写真などによる地域概要の把握を行い調査マニュアル（資料集）を作成する。現地調査は班別行動を原則とし、各班毎のテーマに沿って、各種の実測調査、聞き取り調査や資料収集などを実施する。調査終了後は、各自の成果をまとめた個人レポートを提出すると共に、各班毎に行った調査結果を整理・分析・考察して発表し、最後に報告書を作成する。

1. 地域調査に必要なこと
2. 調査目的と地域設定
3. 文献・試料・地形図等による調査地域の概要把握 (1)
4. 文献・試料・地形図等による調査地域の概要把握 (2)
5. 調査テーマの検討 (1)
6. 調査テーマの検討 (2)
7. 調査テーマの設定、班編成
8. 班別調査テーマの検討
9. 班別調査テーマの設定
10. 調査テーマの発表 (1)
11. 調査テーマの発表 (2)
12. 現地調査マニュアル（資料集）の作成 (1)
13. 現地調査マニュアル（資料集）の作成 (2)
14. 現地調査
15. 調査結果の確認
16. 調査結果の整理
17. 調査結果の整理・共有
18. 調査結果の分析・考察 (1)
19. 調査結果の分析・考察 (2)
20. 調査結果の分析・考察 (3)
21. 調査成果の発表 (1)
22. 調査成果の発表 (2)
23. 調査成果の発表 (3)
24. 調査結果のまとめ (1)
25. 調査結果のまとめ (2)
26. 報告書の作成 (1)
27. 報告書の作成 (2)
28. 報告書の作成 (3)
29. 報告書の作成 (4)
30. 調査に対する反省・課題

準備学習

調査テーマ・地域に関する情報・文献収集を絶えず行うこと。現地調査を行う前に、必ず調査地域の地形図を判読し、土地利用などテーマに応じた彩色作業をしておくこと。

履修上の留意点

班行動を原則とするので、班員同士の意思疎通を十分に行い、役割分担を確実に行うこと。現地では効率的かつ精度の高い調査が要求される。調査期間中は毎日の成果を報告し、レポートを作成する。

成績評価の方法

課題レポートの内容を主な評価基準（60%）とするが、現地での調査行動、報告書作成への取り組みなど（40%）を総合的に評価する。

教科書／テキスト

参考書

立正大学地理学教室編『学びの旅—地域の見方・とらえ方・楽しみ方』古今書院  
その他、適宜指示する。

その他

調査地域は琵琶湖北西岸の滋賀県高島市針江地区周辺を予定している。当地域は住民が日常生活に地下水を巧みに利用している日本でも数少ない町である。地域ぐるみで様々に行っている水利用形態に注目し、都市では失われた日常的な水利用の知恵を明らかにし、当地域ならではの地下水や河川水路の役割を考える。また、河川・湧水の水質特性も調査する。内容の詳細については、ガイダンスの際に発表する。

履修コード 039501

科目名 地域環境調査法（現地調査含む）F

担当者名 鈴木 秀和

授業概要/  
到達目標（ねらい）

人間生活の舞台である地域の自然（とくに水文）環境の成り立ちについて理解するため、フィールドワークをともなう調査・研究手法について学習する。具体的には、事前調査として「研究テーマの設定」、「関連した文献・資料・地図の収集と分析」、「それをもとに調査項目や方法などについての検討」を行う。「現地調査を実施」した後、「取得したデータの整理と分析」、「課題について考察」、「結果をレポートにまとめる」という作業を一年間を通して実施する。このような経験を積むことにより、フィールドワークの基本的なプロセスを理解し、その手法を習得することが目標である。

授業スケジュール

- 第1回：ガイダンス（概要説明）
- 第2回～第6回：対象地域やテーマに関連した文献・資料・地図などの収集と講読
- 第7回～第10回：地形図、地質図、空中写真や既存データを利用した作業と地域分析
- 第11回～第15回：調査テーマの設定と発表、各種測器の準備と使用法の確認
- フィールドワークの実施：水文・地形調査とそれらに関する景観調査や聞き取り調査を実施する。
- 第16回～第20回：調査結果の整理（空間データの地図化や各種図表の作成）と解析
- 第21回～第27回：各自の課題に沿った考察と発表および総合討論
- 第28回～第30回：報告書の作成

準備学習

論文講読や調査結果の発表の際には、レジュメを作成してもらう。これにフィールドワークの準備や調査結果の整理なども加え、多くの課外作業が必要となる。

履修上の留意点

この科目を履修するためには、学科主催の振り分け（4月6日）に必ず参加すること。

成績評価の方法

出席状況、テーマへの取り組み、発表およびレポート内容など、年間を通じての授業に取り組む態度を総合して評価する。

教科書／テキスト

参考書

特に指定しない。

適宜紹介する。

履修コード	038701
科目名	地域計画論
担当者名	佐藤 哲夫

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 地域計画について、前半は教科書にそって都市計画を中心に、後半はおもに地域環境との関わりで学ぶ。
---------------------	---

(到達目標)  
地域計画のしくみについて、体系的に理解する。

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域計画の歴史</li> <li>2. 地域計画の体系</li> <li>3. 国土計画の変遷</li> <li>4. 大都市圏の計画</li> <li>5. 都市と都市システム</li> <li>6. 都市計画1 (都市計画史)</li> <li>7. 都市計画2 (土地利用計画)</li> <li>8. 都市計画3 (建築規制)</li> <li>9. 都市計画4 (市街地開発)</li> <li>10. 都市計画5 (地区計画)</li> <li>11. 都市計画6 (交通計画)</li> <li>12. 都市計画7 (緑地計画)</li> <li>13. 都市計画8 (参加と協働)</li> <li>14. 都市計画9 (都市計画の展望)</li> <li>15. 農村計画1 (農業・農村の変貌)</li> <li>16. 農村計画2 (土地分級と土地利用計画)</li> <li>17. 農村計画3 (農村整備事業)</li> <li>18. 農村計画4 (中山間地域の振興)</li> <li>19. 自然環境と地域計画</li> <li>20. 災害と地域</li> <li>21. 都市防災計画</li> <li>22. ハザードマップ</li> <li>23. 河川と地域</li> <li>24. 流域圏</li> <li>25. 景観と地域</li> <li>26. 景観計画</li> <li>27. 地域分析の手法</li> <li>28. 諸外国の地域計画</li> </ol>
----------	--

準備学習	前半は教科書にそって講義を進めるので、関連部分に目を通してくること。
------	------------------------------------

後半は、参考書を紹介するので、適宜参照すること。

#### 履修上の留意点

成績評価の方法	前半部分に関するテストの成績を40%、後半部分に関するレポートを40%、平常点を20%とする。
---------	---

出席回数が3分の2に達しない者には、単位を認定しない。公式行事・活動以外の、例えば駒大オープンや駒大カップなどでの欠席は、やむを得ない理由による欠席とは認めない。

教科書/テキスト	伊藤美徳編 『初めて学ぶ 都市計画』 (市ヶ谷出版社) ISBN978-4-87071-004-7 を前半 (第6~14講) のテキストにする。
----------	--

後半の参考書は、授業中に指示する。

#### 参考書

履修コード	033351
科目名	地域研究論
担当者名	佐藤 哲夫

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) この授業は地域研究 (エリア・スタディ) の入門的な講義である。例として東南アジア、とくにタイを中心にとりあげる。
---------------------	---

- (到達目標)
1. 東南アジア全体を対象として、自然地域の構造や文化地域・経済地域の形成に注目した、地誌の研究法について学ぶ。
  2. タイにおける地域調査の例を通して、地球環境問題やグローバリゼーションに関連した、村落地域や都市地域の具体的問題の研究法について学ぶ。

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域研究とは</li> <li>2. 地図と地域像</li> <li>3. 東南アジアの概観</li> <li>4. 東南アジアの自然と生活 1 (地形の構成)</li> <li>5. 東南アジアの自然と生活 2 (気候の特色)</li> <li>6. 東南アジアの自然と生活 3 (植生と生業)</li> <li>7. 東南アジアの自然と生活 4 (水利と稲作)</li> <li>8. 東南アジアの歴史と文化 1 (民族と集落)</li> <li>9. 東南アジアの歴史と文化 2 (宗教と国家)</li> <li>10. 東南アジアの歴史と文化 3 (植民地化と経済)</li> <li>11. 東南アジアの歴史と文化 4 (独立と社会)</li> <li>12. 現代の東南アジアの問題 1 (工業化と経済成長)</li> <li>13. 現代の東南アジアの問題 2 (ASEANと国際化)</li> <li>14. 東南アジア地誌のまとめ</li> <li>15. タイ地域研究入門 1 (タイの概観)</li> <li>16. タイ地域研究入門 2 (タイの地理)</li> <li>17. タイ地域研究入門 3 (環境と地域)</li> <li>18. タイ地域研究入門 4 (人口と地域)</li> <li>19. 北部タイの農山村 1 (盆地の農村)</li> <li>20. 北部タイの農山村 2 (台地の利用)</li> <li>21. 北部タイの農山村 3 (山村の変容)</li> <li>22. 北部タイの農山村 4 (少数民族問題)</li> <li>23. バンコク大都市圏 1 (立地と発展)</li> <li>24. バンコク大都市圏 2 (都心と郊外)</li> <li>25. バンコク大都市圏 3 (都市の住民)</li> <li>26. バンコク大都市圏 4 (都市計画)</li> <li>27. タイ研究のまとめ</li> <li>28. 卒論での海外地域研究法</li> </ol>
----------	--

準備学習	中学・高校で学習した地理と世界史のなかから、東南アジアおよび南アジア・東アジアに関する部分を復習しておくこと。とくに地名については地図帳をよく見て、国名と主要都市名、主な山脈や河川、島嶼の名前などを、覚えておくこと。
------	--

履修上の留意点	第1回目の授業で、より詳細な講義内容とスケジュール、成績評価の方法について説明するので、必ず出席すること。
---------	---

成績評価の方法	前半部分に関するテストの成績 (50%)、後半部分に関する3~4回のレポート (40%)、平常点 (10%) とする。
---------	---

出席回数が3分の2に達しない者には、単位を認定しない。公式行事・活動以外の、例えば駒大オープンや駒大カップなどでの欠席は、やむを得ない理由による欠席とは認めない。

教科書/テキスト	使用しない。プリントと資料を配布する。
----------	---------------------

参考書	矢ヶ崎典隆ほか編著 2007 『地理学基礎シリーズ3 地誌学概論』 (朝倉書店) ISBN978-4-254-16818-1
-----	--

履修コード	034011
科目名	地域調査入門A
担当者名	小田 匡保

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 人文地理の諸テーマで地域の現地調査を行い、調査結果を報告書にまとめる。 (到達目標) 人文地理学の初歩的な地域調査を行うことができる。
授業スケジュール	4・5月 文献・地図・統計など関係資料の収集と分析。調査テーマの決定。調査方法の検討と現地との折衝。 6月上旬 現地調査(聞き取り調査、アンケート調査、景観観察調査など)。 6月中旬から7月 収集資料の分析と調査報告書の作成。
準備学習	授業の発表前、現地調査の前には、入念に準備すること。
履修上の留意点	この科目は、3年の演習や調査法をより効果的に学ぶために、主に2年生用に設けられた入門科目です。よって振り分け時には2年生を優先します。もしも人数が多数になった場合は3、4年生の希望がかなわないことがあります。また、この科目を履修するためには学科主催の振り分け(4月6日)に必ず参加しなければなりません。
成績評価の方法	平常の学習状況、発表レジュメ、現地での調査態度、提出されたレポート・報告書原稿の内容などを総合して評価する。
教科書/テキスト	使用しない。
参考書	授業中に指示する。
その他	調査地は青森県を考えている。詳細は4月の振り分け時に説明する。

履修コード	034021
科目名	地域調査入門B
担当者名	高橋 健太郎

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	〔授業概要〕 農山村地域の変容と現状を学ぶため、関連資料を収集し、地域調査の計画を策定・実施し、調査レポートも作成する。フィールドワークでは、農山村地域において景観調査や土地利用調査、聞き取り調査、質問表調査等を行なう。 〔到達目標〕 農山村地域の生活や産業、地域社会のあり方、都市・農村交流などについて理解を深め、これらに関する資料収集と地域調査、レポート作成の手法を身につける。
授業スケジュール	1. 地理学的地域調査への視座 2. 研究文献の収集 3. 研究文献の講読 4. 統計資料の収集 5. 統計資料の分析 6. 地図資料の収集 7. 地図資料の分析 8. 地域調査計画の策定 9. 地域調査の準備 10. 地域調査の実施(合宿) 11. 収集資料の整理とまとめ 12. 調査結果の発表 13. 調査結果についての討論 14. 調査レポートの作成 15. 調査レポートの提出と批評
準備学習	研究文献の講読や統計、地図資料の分析、地域調査の準備、調査レポートの作成などには、多くの課外の作業が必要である。
履修上の留意点	この科目は、3年の演習や調査法をより効果的に学ぶために、主に2年生用に設けられた入門科目です。よって振り分け時には2年生を優先します。もしも人数が多数になった場合は3、4年生の希望がかなわないことがあります。また、この科目を履修するためには学科主催の振り分け(4月6日)に必ず参加しなければなりません。
成績評価の方法	平常点(30%)や地域調査の活動状況(30%)、調査レポートの内容(40%)で評価する。
教科書/テキスト	
参考書	
その他	YeStudyで連絡する場合がありますので、この授業を登録すること。



履修コード	039611
科目名	地域調査入門D
担当者名	須山 聡

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>巡検(調査旅行)の立案と実行を通じて地域調査の基本的な技法を習得することを目標とし、地形図や空中写真の利用、土地利用と景観観察、聞き取り調査などの方法を学ぶ。</p> <p>今年度は朝鮮通信使の来訪ルートをたどり、牛窓(岡山県瀬戸内市)・鞆(広島県福山市)・下蒲刈島(広島県呉市)を訪れる。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 概要説明</li> <li>2. 文献収集</li> <li>3. 論文紹介</li> <li>4. 巡検計画原案提示</li> <li>5. 現地との連絡・交渉</li> <li>6. 交渉結果の報告と原案修正</li> <li>7. 事前準備</li> <li>8. 巡検実施</li> <li>9. 礼状の執筆と発送</li> <li>10. フィールドノートまとめ</li> <li>11. 収集データの分析</li> <li>12. レポート作成</li> <li>13. レポートの修正</li> <li>14. レポート発表(1回目)</li> <li>15. レポート発表(2回目)</li> </ol>
----------	--

準備学習	<p>国土地理院の1/2.5万地形図「牛窓」(徳島13-1)「鞆」(岡山及丸亀10-2)「仁方」(広島7-2)を入手してよく観察する。</p>
------	---

履修上の留意点	<p>11月初旬に2泊3日の巡検を実施する。交通費は往復で35,000円程度、宿泊費が12,000円程度かかる。その他移動・見学・食事の費用も必要となろう。また、巡検での見学先の決定や交渉、移動手段の決定も学生諸君が行うので、物見遊山気分で履修すると負担感が大きい。</p> <p>この科目は、3年の演習や調査法をより効果的に学ぶために主に2年生用に設けられた入門科目である。できるだけ2年生に履修してほしい。学科主催の説明会(演習・調査法振り分け、4月6日)に遅れた者の履修は認めない。</p>
---------	--

成績評価の方法	<p>授業への貢献度とレポートの完成度による。</p>
---------	-----------------------------

教科書/テキスト	<p>とくに指定しない。</p>
----------	------------------

参考書	<p>仲尾 宏 2007.『朝鮮通信使-江戸日本の誠信外交-』岩波書店。 (本学図書館請求番号: 080/15-1093)</p> <p>杉 洋子 2002.『朝鮮通信使紀行』集英社。</p> <p>辛 基秀 2002.『朝鮮通信使の旅日記-ソウルから江戸「誠信の道」を訪ねて-』PHP研究所。(本学図書館請求番号: 210.5/520)</p>
-----	---

履修コード	036001
科目名	地域文化演習E
担当者名	佐藤 哲夫

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) タイを例に、観光に焦点を当てて、海外地域の研究法を学ぶ。  (到達目標) 1. 前半は観光論とタイについての参考文献の講読を並行して進める。 2. 後半はタイの観光について各参加者がテーマを設定し、文献講読・地図の利用・統計分析によって研究し、レポートにまとめる。
---------------------	--

授業スケジュール	下記の授業予定以外に、参加者と場所・日程を相談して現地研修旅行を企画するが、参加を必須とはしない。  1. 演習の進め方についての打ち合わせ 2. 観光論基礎文献講読 + 「Thailand」 pp1-2 3. タウンツーリズム文献講読 + 「Thailand」 pp3-4 4. グリーンツーリズム文献講読 + 「Thailand」 p5 5. ヘリテージツーリズム文献講読 + 「Thailand」 p6 6. エコツーリズム文献講読 + 「Thailand」 p7 7. 観光地域論文献講読 + 「Thailand」 pp8-9 8. 観光振興論文献講読 + 「Thailand」 p10 9. 観光史・観光学史文献講読 + 「Thailand」 p11 10. 観光行動論文献講読 + 「Thailand」 pp12-13 11. 観光資源論文献講読 + 「Thailand」 pp14-15 12. 観光経済論文献講読 + 「Thailand」 pp16-17 13. 観光政策論文献講読 + 「Thailand」 pp18-19 14. 観光論まとめ + 「Thailand」 pp20-21 15. タイの観光概況文献講読 16. タイの文化観光文献講読 17. タイの都市観光文献講読 18. タイの農村観光文献講読 19. GPSとGoogleアースの利用 20. タイの地図資料の利用 21. 地図資料の作成 22. タイの観光統計の収集 23. タイの観光統計の分析 24. タイの観光統計の考察 25. レポートの作成 26. レポートの添削 27. レポートの発表 28. レポート集(報告書)の作成
----------	--

準備学習	1. 文献講読は参加者全員で分担して進めるので、担当部分は責任を持って発表すること。 2. 英文資料は毎回、参加者にワンセンテンスずつ逐次訳してもらい、解説を加えながら読み進めるので、必ず予習しておくこと。
------	--

履修上の留意点	3. 「地域研究論」を履修していることが望ましい。英語もしっかり勉強しておくこと。 1. この科目を履修するためには学科主催の振り分け(4月6日)に必ず参加すること。 2. 英語、地図、統計のいずれも嫌いだという人には履修は勧めない。 3. 自宅でもインターネットを利用できる環境があることが望ましい。
---------	--

成績評価の方法	レポートの内容(50%)と平常点(50%)による。
教科書/テキスト	観光論の文献として、原田順子・十代田朗 『観光の新しい潮流と地域』 (放送大学教材) と、岡本伸之 『観光学入門』 (有斐閣アルマ) を用いる。  タイについての英文資料はオリジナルの英文テキスト(英検3級程度)「Thailand」を用いる。  教材その他必要な資料は配布する。

参考書	綾部恒雄・林行夫編 2003 『タイを知る60章』 (明石書店) ISBN4-7503-1725-X 日本タイ学会編 2009 『タイ事典』 (めこん) ISBN978-4-8396-0226-0
-----	---

履修コード	036101
科目名	地域文化演習 F
担当者名	高橋 健太郎

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>〔授業概要〕 農山村地域の変容と現状について学ぶため、関連資料を収集し、地域調査の計画を策定・実施し、調査レポートも作成する。フィールドワークでは、農山村地域において景観調査や土地利用調査、聞き取り調査、質問表調査等を行なう。</p> <p>〔到達目標〕 農山村地域の生活文化や地域社会の維持と変容、農林業などの経済活動の取り組み、都市・農村交流、地域開発などについて理解を深め、これらに関する資料収集と地域調査、レポート作成の手法を身につける。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地理学的地域調査への視座</li> <li>2. 村落地理学関係の文献の収集</li> <li>3. 村落地理学関係の文献の講読 (1)</li> <li>4. 村落地理学関係の文献の講読 (2)</li> <li>5. 村落地理学関係の文献の講読 (3)</li> <li>6. 統計資料の収集と整理</li> <li>7. 統計資料の分析</li> <li>8. 地図資料の収集と整理</li> <li>9. 地図資料の分析</li> <li>10. 第1次フィールドワークの企画</li> <li>11. 調査項目の検討</li> <li>12. 第1次フィールドワークの実施</li> <li>13. 第1次フィールドワークの報告と討論 (1)</li> <li>14. 第1次フィールドワークの報告と討論 (2)</li> <li>15. 資料収集の補足 (1)</li> <li>16. 資料収集の補足 (2)</li> <li>17. 資料収集の補足 (3)</li> <li>18. 収集資料の整理と分析 (1)</li> <li>19. 収集資料の整理と分析 (2)</li> <li>20. 第2次フィールドワークの企画 (1)</li> <li>21. 第2次フィールドワークの企画 (2)</li> <li>22. 調査票の作成</li> <li>23. 調査票の検討</li> <li>24. 第2次フィールドワークの実施</li> <li>25. 第2次フィールドワークの報告と討論 (1)</li> <li>26. 第2次フィールドワークの報告と討論 (2)</li> <li>27. フィールドワークのまとめ</li> <li>28. 調査報告書の作成 (1)</li> <li>29. 調査報告書の作成 (2)</li> <li>30. 調査報告書の作成 (3)</li> </ol>
----------	---

準備学習	研究文献の講読や統計、地図資料の分析、地域調査の準備、調査報告書の作成などには、多くの課外の作業が必要である。
------	---

履修上の留意点	この科目を履修するためには学科主催の振り分け (4月6日) に必ず参加しなければなりません。また、本授業のテーマへの理解を深めるため、「村落地理学」を未履修の人は、今年度に履修のこと。
---------	--

成績評価の方法	平常点 (30%)、授業での発表内容 (20%)、フィールドワークでの活動状況 (20%)、調査報告書の内容 (30%) で評価する。
---------	---

教科書/テキスト	
----------	--

参考書	
-----	--

その他	YeStudyで連絡する場合がありますので、この授業を登録すること。
-----	------------------------------------

履修コード	033401
科目名	地域文化調査法（現地調査含む）A
担当者名	櫻井 明久

授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p>この授業では、地理学における「地域」とは何かを検討し、その「地域」を語る地誌学、そして地誌学研究の方法について、現地調査を中心に、実習を行いながら学ぶ。現地調査地域は未定であるが、農村部を含む中小の地方都市で、4泊5日程度を考えている。</p> <p>地域とは何か、地誌とは何かについて、まず大枠を考え、野外観察や野外調査の方法の基礎（研究目的の設定、研究計画の策定、文献・地図・統計資料の収集、調査項目など現地調査の設計）を学ぶとともに、そこで学んだ方法を用いて世田谷周辺で土地利用や景観調査を試みたい。後期には、前期の訓練成果をもとに、ある地方都市とその周辺地域で現地調査を実施し、地形図や旧版地形図を利用して社会経済的な地域の変化を読み取ったり、聞き取り調査や質問紙調査を試みるなどして、その調査結果をまとめる方法を実践的に学び（統計図表の作成、統計地図・地図作成、レポート作成など）、その地域を描くことに挑戦したい。</p>
--------------------	---

授業スケジュール	<p>主な内容とそのスケジュールは下記の通り。</p> <p>1. 地域とは何か 2. 地誌とは何か 3. 研究の入門 4. 研究目的の設定 5. 研究計画の策定 6. 文献の収集 7. 従来の研究を読む 8. 研究の位置づけ 9. 地図利用 10. 公的統計の収集 11. 公的統計の利用 12. 調査項目など現地調査の設計 13. 土地利用調査 14. 景観調査 15. 調査結果の統計化 16. 地形図の利用 17. 旧版地形図の利用 18. 聞き取り調査 19. 質問紙調査 20. 統計表の作成 21. 統計図の作成 22. 分布図作成の基本 23. 絶対量の分布図 24. コロプレス地図 25. 地域概況の説明 26. 地誌書の利用 27. 結論の作成（地域構造図） 28. 結論の位置づけ 29. プレゼンテーション 30. まとめ</p>
----------	--

準備学習	「地域概論」「人文地理学実習」などいくつかの人文地理学関係科目が履修済みであることが望ましい。
------	---

履修上の留意点	<p>この科目を履修するためには学科主催の演習・調査法振り分け（4月6日実施予定）に必ず参加すること。また、「地域概論」を履修済みであることが望ましい。</p> <p>なお、実際に調査設計し、大学周辺や現地へ出向いて調査実習するので、参加が不可欠である。また、その過程では、課題に沿って疑問を仲間同士でどンドンぶつけ、討論するなどして、問題を絞ったり、解決方法を考え、資料を収集するので、積極的に参加するよう望みたい。</p>
---------	---

成績評価の方法	平常点（40点）と発表・レポート（60点）といったバランスで評価したい。
教科書／テキスト	なし
参考書	適宜紹介する。

履修コード	033501
科目名	地域文化調査法（現地調査含む）B
担当者名	須山 聡

授業概要/ 到達目標（ねらい）	人文地理学的課題に基づいたフィールドワークの企画から、調査の実施、および報告書の作成にいたる一連の過程を修得し、卒業論文にまごつかないで取り組めるようにする。今年度の調査対象地域は鹿児島県の奄美大島である。
--------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 対象地域の概観</li> <li>3. 文献提示と検索</li> <li>4. 調査課題の設定（原案）</li> <li>5. 調査課題の設定（修正案）</li> <li>6. 調査課題の設定（最終案）</li> <li>7. 調査協力依頼とその報告</li> <li>8. 調査計画の作成（原案）</li> <li>9. 調査計画の作成（修正案）</li> <li>10. 調査計画の作成（実行案）</li> <li>11. 事前準備</li> <li>12. 直前準備</li> <li>13. &lt;現地調査&gt;</li> <li>14. 礼状作成と送付</li> <li>15. 収集データの整理</li> <li>16. 地図化の技法（Illustrator実習）</li> <li>17. フィールドノートまとめ</li> <li>18. 報告書原案発表</li> <li>19. 報告書修正案発表</li> <li>20. 報告書最終案発表</li> <li>21～28. 執筆状況報告，原稿修正</li> <li>29. 原稿整理，入稿</li> <li>30. 報告書発表会</li> </ol>
----------	--

準備学習	自分が研究してみたい内容を普段からよく考えておいてほしい。また、それに関連する文献や書籍をあらかじめ渉猟するとよい。
------	--

履修上の留意点	出席をとったりはしないが、ほんやりしているとうつてこられなくなる。この科目を履修するためには学科主催の振り分け（4月6日）に必ず参加しなければならない。 前期開講の地理学特講Ⅱをあわせて受講することが望ましい。
---------	--

成績評価の方法	授業への取り組みの積極性、および調査報告書の完成度により評価する。
---------	-----------------------------------

教科書／テキスト	とくに指定しない。
----------	-----------

参考書	平岡昭利編『離島研究Ⅰ～Ⅳ』海青社。
-----	--------------------

その他	亜熱帯の環境下において、本土では経験できないさまざまな現象に巡り会うことができる。しかし、だからといって物見遊山で終わらせることなく、地域を観察する目とスキルを身につける機会として、真剣に取り組んでほしい。
-----	---

履修コード	033601
科目名	地域文化調査法（現地調査含む）C
担当者名	土谷 敏治

授業概要/  
到達目標（ねらい）

（授業概要）  
地理学の調査・研究においては、もちろん現地調査は最も重要なものの1つである。しかし、事前に関連する既存の文献をよく読んだ上で、まず調査・研究の手順を学んでおく必要がある。それを踏まえて、調査の目的・調査地域・調査スケジュールの設定を行うとともに、事前に統計資料等を用いて調査地域の特色を把握する。現地調査後は、収集資料を整理・分析し、調査結果をまとめる。本授業では交通や都市の問題を主要テーマとして、これらの能力を身につける。

（到達目標）  
4年生の卒業論文執筆を念頭に置いて、十分な調査・研究能力を身につけることを目的とする。

授業スケジュール

1. 調査テーマに関連する文献の検索
2. 調査テーマについての発表と質疑
3. 調査テーマについての発表と質疑
4. 調査テーマに関連する論文購読（1回目）
5. 調査テーマに関連する論文購読（1回目）
6. 調査テーマに関連する論文購読（1回目）
7. 調査テーマに関連する論文購読（2回目）
8. 調査テーマに関連する論文購読（2回目）
9. 調査テーマに関連する論文購読（2回目）
10. 調査の目的, 対象地域, 分析資料, 調査方法についての発表と質疑（1回目）
11. 調査の目的, 対象地域, 分析資料, 調査方法についての発表と質疑（1回目）
12. 調査の目的, 対象地域, 分析資料, 調査方法についての発表と質疑（1回目）
13. 調査の目的, 対象地域, 分析資料, 調査方法についての発表と質疑（2回目）
14. 調査の目的, 対象地域, 分析資料, 調査方法についての発表と質疑（2回目）
15. 調査の目的, 対象地域, 分析資料, 調査方法についての発表と質疑（2回目）
16. 調査計画の発表と質疑
17. 調査計画の発表と質疑
18. 調査計画の発表と質疑
19. 現地調査の準備
20. 現地調査
21. 調査・分析結果の中間報告と質疑（1回目）
22. 調査・分析結果の中間報告と質疑（1回目）
23. 調査・分析結果の中間報告と質疑（1回目）
24. 調査・分析結果の中間報告と質疑（2回目）
25. 調査・分析結果の中間報告と質疑（2回目）
26. 調査・分析結果の中間報告と質疑（2回目）
27. 分析結果の最終報告と質疑
28. 分析結果の最終報告と質疑
29. 分析結果の最終報告と質疑
30. まとめと評価

現地調査は、10月の中旬、鹿児島市を予定している。

準備学習

授業前に発表内容を整理し、他の受講者によくわかるように発表用の資料を作成する。

履修上の留意点

現地調査はもちろんであるが、その前提となる文献研究や事前の計画・準備、調査後の資料整理や分析が重要である。とくに、毎回の出席は不可欠であり、出席率が8割を下回った場合は、単位を認定しないことがあり得る。また、積極的な討論への参加、事前・事後の発表、レポートの提出、報告書作成作業への参加も必要である。  
この科目を履修するためには学科主催の振り分け（4月6日）に必ず参加しなければならない。

成績評価の方法

文献のまとめ方、事前調査のレポート、現地調査の状況、調査結果の整理・分析と口頭発表の内容、討論・報告書作成作業への参加状況等を総合して評価する。

教科書／テキスト

とくに指定しない。

参考書

その他

事前の準備、現地調査では、個人、あるいは5人程度までのグループに分かれて、それぞれの担当内容を決めて行う。

履修コード	033701
科目名	地域文化調査法（現地調査含む）D
担当者名	橋詰 直道

授業概要/ 到達目標（ねらい）	（授業概要）講義で得た知識を実際に現地調査で確認すると同時に、特定のテーマに沿った地域調査の方法を学び、その成果を報告書としてまとめる。 （到達目標）「地方都市の機能と自立」というテーマで調査する。現地では、都市の構造と機能、都市計画、都市の生活行動、都市の生活環境などの調査を中心に、地方都市の特徴や現在抱える諸問題に関する調査方法を学ぶ。
--------------------	--

授業スケジュール	調査法の前期授業は、(1)～(10)調査法のテーマに沿った事前の文献調査、(11)～(14)現地調査の事前学習と調査の準備作業・地方都市における現地調査、(15)現地調査の班別報告とまとめ、後期は、(16)～(17)調査結果のレポートの発表、(18)～(28)前期調査結果の集約と分析及びまとめ作業（班別）、(29)～(30)調査報告書の印刷製本作業となる。 現地調査地は3月に発表（期間は6月下旬～7月上旬を予定）。調査では具体的な課題テーマごとに班別調査を実施する。毎日班別の調査報告とミーティング、レポート作成が必要となる。
----------	--

準備学習	現地調査の前に十分な文献調査や資料収集が必要となる。
------	----------------------------

履修上の留意点	この科目を履修するためには学科主催の振り分け（4月6日）に必ず参加しなければならない。また、現地調査への参加はもちろん、後期の調査報告書作成にも積極的に取り組む学生に限る。
---------	--

成績評価の方法	毎時間の授業への出席状況（2/3以上）、文献レビュー発表、現地調査レポート、現地調査の個人報告書、最終報告書作成（80点）、授業及び現地調査への取り組み（20点）を目安に総合的に評価する。
---------	--

教科書／テキスト	特に定めない。
----------	---------

参考書	梶田 真・仁平尊明・加藤政洋編（2007）：「地域調査ことはじめ」ナカニシヤ出版、2940円、その他のテキストは適宜紹介する。
-----	---

履修コード	040501
科目名	地球物理学
担当者名	柳田 誠

授業概要/ 到達目標（ねらい）	この講義では、地球表面で起こるさまざまな現象を地質学、地形学、地球物理学的な立場から理解できるようにする。そのために地球の深部、浅部の構造や地球の歴史および地質や地形についても知識を説明する。とくに地震に関しては、2011年3月11日の東日本大震災以降、地震予知・予測や災害予測の概念が大きく変わりつつあるので、最新の知見を踏まえて解説を行う。
--------------------	--

授業スケジュール	前期は、1地球の姿と形、2地球の内部構造、3地球の年代と歴史、4大陸移動説とプレートテクトニクス、5海底の古地磁気、6地震と火山の分布、7種類のプレート境界、8弧状列島と海溝。後期は、9中央海嶺（海底の山脈）、10伊豆半島の衝突、11地震活動、12地震予知の現状、13活断層、14マグマの成因と性質、15火山活動、16富士山の噴火、17地形変化の予測
----------	---

準備学習	講義中において紹介した書籍、文献、ホームページについては、次回の講義までに学習しておくこと。また講義内で配布したプリントについて作業を指示した場合は作業する。
------	---

履修上の留意点	受講生は地形学と第四紀学の講義を履修するか単位を取得していることが望ましい。
---------	--

成績評価の方法	成績は授業中に提出してもらったレポートと学期末の試験で評価する。出席は必ずしも重視せず、地球物理学の内容を自分の知識として理解できているか、という点で評価する。
---------	--

教科書／テキスト	指定しない。プリントを配布する。参考書はそのつど紹介する。
----------	-------------------------------

参考書	
-----	--

その他	普段の授業中、あるいは授業後の活発な質問、議論を期待する。
-----	-------------------------------

履修コード	039901 039902
科目名	地形学
担当者名	大上 隆史

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	私たちが今生きている社会において、ある「地域」を理解し、そこでの様々な開発や環境問題、あるいは災害などを的確に理解し、さらに適切な対応策を講じるためには、その場所がもっている自然的諸条件の特質を明らかにしておくことが、まず重要である。この講義では、そのような自然的諸条件のなかで、「地域」の場の条件となっている様々な地形について、地形発達史的側面（おもに前期）と地形環境誌的な側面（主に後期）の両方から理解し、様々な環境問題について学び、その解決策についても考えたい。
---------------------	--

授業スケジュール	前期は、主として地形発達のバックグラウンドについて学ぶ。 第1回 イントロダクション:「日本三景」と地形学 第2回～第5回 気候変動 第6回～第9回 海水準変動 第10回～第12回 地殻変動 第13回～第15回 火山活動 後期は、前期で学んだことを踏まえて、関東平野の地形発達と地形誌について学ぶ。 第16回～第19回 利根川上流域の火山活動と地形発達 第20回～第23回 中流域の関東造盆地運動と平野の地形発達 第24回～第27回 下流沖積低地における海面変動と低地の地形発達 第28回～第30回 関東平野の環境問題とまとめ
----------	---

準備学習	次週の授業に関連した参考資料を適宜配布するので、よく読んで予習しておくこと。
履修上の留意点	現実の様々な環境問題に、広い視野から関心を持ち学ぼうとする意欲を期待したい。
成績評価の方法	出席とレポート及びその発表。受講生が多数の場合は試験を行う。
教科書／テキスト	とくに指定しない。
参考書	貝塚爽平ほか『日本の地形 4 関東・伊豆小笠原』（東大出版会）2000年
その他	高校で使う程度の地図帳（二宮書店や帝国書院発行のものなど）と12色の色鉛筆を用意することが望ましい。

履修コード	040001
科目名	地形学実習
担当者名	清水 長正

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	地形とは、ごく簡単に言えば地べたの形のことです。我々はこの地形上で活動し生活しているにもかかわらず、最近ではアーバンライフが定着したせいか、地形を見る目が一般に退化していると言わざるをえません。いわんや地理学科の学生までも地形の見方が苦手？では困ったもの。環境・文化を問わず、地理的現象の大半は地形上に立脚しているのですから、地理学を勉強した中で地形のことやその調べ方も少しは知っておこうよ、というのがこの実習の目標です。さらに地形を観ることによって、その土地が地震や洪水などの災害の度合いの予測評価も可能なので、これは一生役にたつワザになると思います。
---------------------	---

授業スケジュール	実習の内容として、空中写真判読、現地調査に重点を置きます。空中写真判読は、各種地形形態の写真上での把握のこと。難しそうに思うかもしれませんが、まずやってみることが肝心で、あとは「習うより慣れる……」でしょう。現地調査については、休日を利用した半日2回程度と、夏休み前半に1泊2日程度の巡検を行います。現地における地形の実測と、地形を構成する物質（とくに第四紀地質）の露頭調査などもやってみましょう。
----------	---

準備学習	とくに必要ありませんが、地形図の等高線で表現される尾根や谷くらはいは理解しておいてほしいところです。
------	--

履修上の留意点	地球物理学（地震・断層と地形の関係）、第四紀学（地形が形成された環境の歴史）など地形関連の講義は、同時に履修することを強く推奨します。この2つの講義は、日本でその分野の第一線の研究者が来られているのですから。また、空中写真実体視については、経験済みの人も未経験の人も、コツを手ほどきします。
---------	---

成績評価の方法	空中写真判読図・巡検レポートなどにより評価。
教科書／テキスト	テキストは使用しない。
参考書	参考書は実習中に指示します。
その他	巡検の地域や日程など、受講する学生と相談して決めます。



履修コード	038901
科目名	地図学
担当者名	野々村 邦夫

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)</p> <p>地図は、地域の特性の科学的な調査、分析、究明、解説、広報等を行うために必要不可欠、かつ、非常に有用なツールである。このような観点に立ち、国土地理院が刊行する地図その他さまざまな地図を実例として取り上げつつ、地図に関する基礎的な知識と技術を幅広く学習する。</p> <p>(到達目標)</p> <p>地図についての基礎知識を全般的に習得し、地図に関する理解と地図を利活用する能力を養い、卒業論文の作成その他の調査研究や実社会における業務において、地図の作成と利用を的確に行える能力を身につけることを目標とする。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>(前期授業)</p> <p>第1回 地図の概念 (その1) 概説</p> <p>第2回 地図の概念 (その2) 地図の種類</p> <p>第3回 空中写真と衛星画像 (その1) 概説</p> <p>第4回 空中写真と衛星画像 (その2) 写真測量</p> <p>第5回 地図表現 (その1) 記号化、誇張、取捨選択</p> <p>第6回 地図表現 (その2) 転位と総描</p> <p>第7回 数値地図 (その1) 数値地図とGIS</p> <p>第8回 数値地図 (その2) メッシュコードとメッシュマップ</p> <p>第9回 数値地図 (その3) ラスタデータ</p> <p>第10回 数値地図 (その4) ベクタデータ</p> <p>第11回 位置表示の方法 (その1) 地球の形と大きさ、ジオイド</p> <p>第12回 地表示の方法 (その2) 経緯度と標高</p> <p>第13回 地図投影法と座標系 (その1) 概説</p> <p>第14回 地図投影法と座標系 (その2) 大・中縮尺地図の投影法と座標系</p> <p>第15回 前期授業のまとめ</p> <p>(後期授業)</p> <p>第16回 地形図と電子国土基本図 (その1) 概説</p> <p>第17回 地形図と電子国土基本図 (その2) 規格と図式</p> <p>第18回 地形図と電子国土基本図 (その3) 記号と注記</p> <p>第19回 地形図と電子国土基本図 (その4) 維持管理</p> <p>第20回 地形図と電子国土基本図 (その5) 旧版地図</p> <p>第21回 地形図の読図 (その1) 図上計測</p> <p>第22回 地形図の読図 (その2) 地形</p> <p>第23回 地形図の読図 (その3) 植生と土地利用</p> <p>第24回 地形図の読図 (その4) 都市と公共施設</p> <p>第25回 主題図 (その1) 地形分類図と防災用地図</p> <p>第26回 主題図 (その2) 土地利用図</p> <p>第27回 主題図 (その3) 統計地図</p> <p>第28回 地図の利用</p> <p>第29回 地図の歴史</p> <p>第30回 後期授業のまとめ</p>
----------	---

準備学習	毎回の授業ごとに、事前にYeStudyの授業内容の欄に掲載されている講義資料を閲覧し、予習をしておくとともに、これをプリントして授業に持参すること。
履修上の留意点	講義の内容を鵜呑みにするのではなく、自分なりの考えや意見を持つことを心がけて受講し、その結果を後述する復習課題報告に反映させること。また、平素から折に触れてさまざまな地図に接し、それぞれの地図の良し悪し、改善点などを考えてみることに。 授業を欠席した場合、または、やむを得ず遅刻もしくは早退した場合は、YeStudyの授業内容の欄に掲載されている講義資料を熟読するとともに、参考書などにより自習をして知識を補い、的確な復習課題報告を提出すること。
成績評価の方法	復習課題報告の内容と学年末に行う筆記試験の結果とを総合して成績を評価する。
教科書/テキスト	特定の教科書は使わない。ただし、駒澤キャンパス周辺、自宅付近、出身地その他どこでもよいから、自分が関心や興味を持つ地域の国土地理院発行1:25,000地形図を最低1枚以上購入し、折に触れてこれを見ること。
参考書	参考書、参考文献は、授業の中で紹介する。
その他	毎回の授業で復習課題を提示するので、指定する日時(原則として次々回の授業の開始時)までに復習課題報告を提出すること。
関連リンク	<a href="http://www.jmc.or.jp">http://www.jmc.or.jp</a>

履修コード	042301
科目名	地理学演習
担当者名	江口 卓

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 地理学演習では、卒業論文の作成のために観測や聞き取りなどによって収集したデータや気候データを地域性に着目して解析した結果を各自発表し、全員で討議する。</p> <p>(到達目標) 地理学における論文の作成の流れを、卒業論文の作成を通して理解することを目標とする。具体的には、各自が卒業論文の調査結果を発表し、全員で討議を行うことによって、各自の卒業論文の内容を深めることが目標である。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 卒業論文についてのガイダンス</li> <li>2. 卒業論文の方針発表 (1) 第1, 2, 3グループ</li> <li>3. 卒業論文の方針発表 (2) 第4, 5, 6グループ</li> <li>4. 卒業論文の書き方: 文献について</li> <li>5. 卒業論文の書き方: データについて</li> <li>6. 卒業論文の書き方: 解析手法について</li> <li>7. 文献報告 (1) 第1グループ</li> <li>8. 文献報告 (2) 第2グループ</li> <li>9. 文献報告 (3) 第3グループ</li> <li>10. 文献報告 (4) 第4グループ</li> <li>11. 文献報告 (5) 第5グループ</li> <li>12. 文献報告 (6) 第6グループ</li> <li>13. 第1回中間報告 (1) 第1, 2グループ</li> <li>14. 第1回中間報告 (2) 第3, 4グループ</li> <li>15. 第1回中間報告 (3) 第5, 6グループ</li> <li>16. 第2回中間報告 (1) 第1, 2グループ</li> <li>17. 第2回中間報告 (2) 第3, 4グループ</li> <li>18. 第2回中間報告 (3) 第5, 6グループ</li> <li>19. 最終報告 (1) 第1グループ</li> <li>20. 最終報告 (2) 第2グループ</li> <li>21. 最終報告 (3) 第3グループ</li> <li>22. 最終報告 (4) 第4グループ</li> <li>23. 最終報告 (5) 第5グループ</li> <li>24. 最終報告 (6) 第6グループ</li> <li>25. 卒業論文の書き方: 本文</li> <li>26. 卒業論文の書き方: 図表</li> <li>27. 卒業論文の書き方: 文献</li> <li>28. 発表要旨の書き方</li> <li>29. 発表要旨の作成</li> <li>30. 発表要旨集の作成</li> </ol>
----------	---

準備学習	発表のときは、必ずレジユメを用意すること。 後期の発表はパワーポイントを使用すること。
------	--

履修上の留意点	毎回出席すること。
---------	-----------

成績評価の方法	発表の内容60%、平常点40%とする。
---------	---------------------

教科書/テキスト	特に指定しない。
----------	----------

参考書	
-----	--

履修コード	036401
科目名	地理学演習
担当者名	小田 匡保

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 学生が卒業論文の中間発表を行い、受講者全員で討論することによって、卒論の作成指導を行う。 (到達目標) 1. よい卒業論文が提出できる。 2. 長い論説文がきちんと書ける。 3. 人前でわかりやすく発表できる。 4. 他の人の発表・報告に対して、質問や意見表明ができる。
授業スケジュール	第1～15回 従来の研究例を学習し、自分の卒論の構想について発表する。 第16～30回 現地調査・データ整理の結果をふまえ、卒論の中間発表を行なう。 授業期間とは別に、1月に卒論発表会を行なう。
準備学習	学生の発表が中心の授業科目なので、自分の発表の前には入念に準備をして、レジュメを作成すること。準備をすればするほど、発表者自身のためになる。
履修上の留意点	発表の後は、受講者の間で互いにディスカッションをする。素朴な質問でよいから、受講者全員がディスカッションに参加することを期待する。もちろん、担当教員もできる範囲で助言する。就職活動・教育実習などで忙しいだろうが、できるだけ出席して他の人の発表を聞き、討論に参加すること。 4月最初の授業は、発表スケジュールを決定するので、必ず出席すること。
成績評価の方法	平常の学習状況と発表・討論内容を総合して評価する。卒業論文の評価とは別である。
教科書／テキスト	使用しない。
参考書	授業中に指示する。

履修コード	036701
科目名	地理学演習
担当者名	櫻井 明久

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	ある地域の事象ないしはある地域の人文地理学的課題について、討論を通じて、その調査方法を考え、資料を集め卒業論文として完成させる。
授業スケジュール	前期については課題を解くための方法、野外調査法(研究目的の設定、研究・調査計画)を中心に考える。夏休みを中心に各自現地調査を実施し、基礎的な現地調査を行っておいでもらう。後期については、収集した調査結果・資料から説明すること、すなわちも説明のための統計資料の加工や表現方法(作図・作表、地図化)について考え、地域構造図の作成などを通じてまとめ方について考察し、論文作成、公開発表を準備させたい。 1. 卒論とは何か 2. 地理学的研究とは何か 3. 研究入門 4. 研究目的の設定 5. 研究計画の策定 6. 文献の収集 7. 従来の研究を読む 8. 研究の位置づけ 9. 地図利用 10. 公的統計の収集 11. 公的統計の利用 12. 調査項目など現地調査の設計 13. 土地利用調査 14. 景観調査 15. 調査結果の統計化 16. 地形図の利用 17. 旧版地形図の利用 18. 聞き取り調査 19. 質問紙調査 20. 統計表の作成 21. 統計図の作成 22. 分布図作成の基本 23. 絶対量の分布図 24. コロプレス地図 25. 地域概況の説明 26. 地誌書の利用 27. 結論の作成(地域構造図) 28. 結論の位置づけ 29. プレゼンテーション 30. まとめ
準備学習	「地域概論」など、人文地理学の基礎的授業科目を履修し、地域文化調査法ないしは地域文化演習を履修済みであること。
履修上の留意点	自分の卒論研究について考えるのは当然であるが、仲間の研究の討論に積極的に参加することが重要である。そのことによって自分の研究の仕方にも刺激が得られるであろう。
成績評価の方法	ゼミへの参加の状況と討論への参加の状況、並びに各自の研究への取り組みを総合的に評価する。また、完成された論文が研究論文としての形式が整い、研究の目的が明確で、調査方法が適切であり、各自の工夫によって客観的な成果が得られ、説得的に説明ができていないこと。
教科書／テキスト	なし
参考書	適宜紹介する。

履修コード	036201
科目名	地理学演習
担当者名	佐藤 哲夫

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 卒業論文の執筆に向けて、文献講読、調査の計画・実施、論文構成、文章指導などを行う。  (到達目標) 完成度が少しでも高い卒業論文を作成する。
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 演習の進め方についての打ち合わせ</li> <li>2. 卒論のテーマと準備状況について発表</li> <li>3. 研究テーマに関連する文献の収集</li> <li>4. 参考文献報告 (1回目)</li> <li>5. 研究テーマに関連する資料の収集</li> <li>6. 参考資料の分析</li> <li>7. 参考資料の分析結果報告</li> <li>8. 卒論の研究方法の検討</li> <li>9. 卒論の論題決定</li> <li>10. 参考文献報告 (2回目)</li> <li>11. 卒論の仮説検討</li> <li>12. 調査計画の立案</li> <li>13. 調査内容の検討</li> <li>14. 調査準備</li> <li>15. 調査報告と結果検討</li> <li>16. 補足調査の内容検討</li> <li>17. 補足調査準備</li> <li>18. 補足調査報告と結果検討</li> <li>19. 論文構成の検討 (1回目)</li> <li>20. 論文執筆と添削 (1回目)</li> <li>21. 論文構成の検討 (2回目)</li> <li>22. 論文執筆と添削 (2回目)</li> <li>23. 論文執筆と添削 (3回目)</li> <li>24. 卒論提出</li> <li>25. 卒論講評</li> <li>26. 卒論発表会準備</li> <li>27. 卒論発表会</li> <li>28. 卒論要旨集作成</li> </ol>
----------	---

準備学習	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第1回目の授業までに、海外地域を研究する場合は、関連文献を徹底的にリストアップし、その所在を確認しておくこと。調査地域をカバーする地図や衛星画像などを入手しておくのが望ましい。国内の地域を研究する場合は、調査地域の地形図や住宅地図などを入手し、現地を踏査して地域の概況を把握しておくこと。</li> <li>2. 報告などを発表する場合には、必ず要旨やメモを作成しておくこと。</li> </ol>
------	---

履修上の留意点	
成績評価の方法	平常点による。
教科書／テキスト	
参考書	

履修コード	042001
科目名	地理学演習
担当者名	鈴木 秀和

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	3年次までに学んだ地理学に関する調査手法や専門知識を活用し、大学での学習の集大成として、フィールドワークに基づく研究課題に取り組み、その成果を卒業論文としてまとめる。研究テーマやその計画を立案し、現地調査により得られた各種データの分析等を通して、論理的な思考により結論を導き出し、文章として仕上げる能力を修得することが目標である。また、各自の調査内容について発表し、受講者全員で討論を重ねることにより、プレゼンテーションおよびコミュニケーション能力を身に付けるとともに、卒業論文の充実化を図ることも、ねらいの一つである。
---------------------	--

授業スケジュール	前期は、各自が設定した研究テーマに関する文献・資料について検討し、自身の研究の位置づけ(意義や目的)を明確にする。また、それをもとに現地調査や研究手法について検討し、最終的に各自の研究方針に関する発表を行う。夏休みを中心に現地調査を実施する。 後期は、調査結果の整理・分析を行い、それについて報告してもらう。発表と討論を重ねつつ、論文の構成や書き方などについて具体的な指導を行い、最終的に卒業論文としてまとめる。なお、1月末に卒業発表会を行う予定である。
----------	--

第1回～第3回：ガイダンスおよび研究テーマ・地域を設定  
 第3回～第10回：関連文献・資料の収集と講読形式での紹介  
 第11回～第15回：研究方針および現地調査計画の発表  
 第16回～第20回：調査結果の報告  
 第21回～第25回：研究の中間発表  
 第25回～第30回：考察内容について討論しつつ、卒業論文の完成をめざす

準備学習	授業で発表を行う際は、レジュメを作成し、発表内容を頭の中で整理するなど入念な事前準備が必要である。
------	---

履修上の留意点	就職活動・教育実習などで忙しいと思われるが、できるだけ出席して他者の発表に対する討論へ積極的に参加してほしい。また、発表日にどうしても出席できない場合は、事前に連絡を取り、他の人に発表を交替してもらうこと。調査や結果の分析などは、少しずつでも良いので時間をみつけて、早い段階から取り組むことが重要である。
---------	--

成績評価の方法	出席状況と発表内容、討論への参加状況などを合わせて評価する。
---------	--------------------------------

教科書/テキスト	特に指定しない。
----------	----------

参考書	正井泰夫・小池一之編 『卒論作成マニュアル よりよい地理学論文作成のために』、古今書院
-----	---

その他	論文の書式や体裁は、『地理学評論』などの学術論文を参考にすること。
-----	-----------------------------------

履修コード	036301
科目名	地理学演習
担当者名	須山 聡

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	卒業論文の作成を指導する。
---------------------	---------------

授業スケジュール	毎回数人ずつ進捗状況を発表する。前期はテーマの決定、対象地域・方法・調査計画の立案、予備調査の実施までに到達することを目標とする。テーマは各自の構想を提示してもらい、参加者全員の討論でより緻密な内容に仕上げる。もちろんこれらの作業が早く進行すれば、前期中に現地調査やデータの分析にとりかかることも可能である。フィールドワーク主体のテーマを設定した者は、夏休みが勝負となる。後期は収集したデータの分析・整理を前期に立てた予定にしたがって遂行する。その経過は逐次発表し、参加者全員からの意見やサジェスションを盛り込み、内容を高度化させる。執筆段階においては、原稿のチェックを随時行う。
----------	--

準備学習	地域調査をはじめ、研究計画を事前に立案しておくこと。
------	----------------------------

履修上の留意点	多くの参加者にとって卒論は学校教育の締めくくりとなるものであろう。これ以上「勉強」することはないのであるから、これまで得てきた能力のすべてを傾注されることを望む。就職活動などで4年生は多忙であろうが、中途半端な「やつつけ仕事」として卒論を捉えられることをもっとも危惧する。
---------	--

成績評価の方法	演習であるので、発表内容はもちろんのこと、質疑参加の状況も評価の対象となる。
---------	--

教科書/テキスト	とくに定めず、各自に適切なものを紹介する。
----------	-----------------------

参考書	
-----	--

その他	授業時間内で不足な場合、個別指導を行う。
-----	----------------------

履修コード	042201
科目名	地理学演習
担当者名	高木 正博

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	フィールドワークに基づく地域調査を重視した卒業論文の作成指導をおこなう。全体としては、1. 適切な論文のテーマを設定すること、2. フィールドワークの企画をすること、3. 研究成果を発表すること、4. 論文作成の具体的な方法を指導すること、などである。 授業では、文献講読、資料の収集・選択・整理、現地調査や主題図作成を課題として指示する。また、年2回の口頭発表とレジュメの作成を義務づける。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>前期は卒論題目の決定に向けて、各自の研究テーマ・内容について発表する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 卒業論文作成の意義 (1)</li> <li>2. 卒業論文作成の意義 (2)</li> <li>3. 研究構想と先行研究にかかわる文献の収集 (1)</li> <li>4. 研究構想と先行研究にかかわる文献の収集 (2) / 受講生による研究テーマの発表</li> <li>5. 研究構想と先行研究にかかわる文献の収集 (3) / 受講生による研究テーマの発表</li> <li>6. 調査・研究にかかわる地図資料の収集 (1) / 受講生による研究テーマの発表</li> <li>7. 調査・研究にかかわる地図資料の収集 (2) / 受講生による研究テーマの発表</li> <li>8. 調査・研究にかかわる地図資料の収集 (3) / 受講生による研究テーマの発表</li> <li>9. 文献収集・資料の整理、解析 (1) / 受講生による研究テーマの発表</li> <li>10. 文献収集・資料の整理、解析 (2) / 受講生による研究テーマの発表</li> <li>11. 文献収集・資料の整理、解析 (3) / 受講生による研究テーマの発表</li> <li>12. 地形図などを利用した概要図の作成 (1) / 受講生による研究テーマの発表</li> <li>13. 地形図などを利用した概要図の作成 (2) / 受講生による研究テーマの発表</li> <li>14. 現地調査・研究方法についての検討 (1)</li> <li>15. 現地調査・研究方法についての検討 (2)</li> </ol> <p>後期は卒業論文作成に向けて、各自の調査・研究成果について発表する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>16. 現地調査・結果の整理 (1)</li> <li>17. 現地調査・結果の整理 (2) / 受講生による研究成果の発表</li> <li>18. 調査結果の考察 (1) / 受講生による研究成果の発表</li> <li>19. 調査結果の考察 (2) / 受講生による研究成果の発表</li> <li>20. 調査結果の考察 (3) / 受講生による研究成果の発表</li> <li>21. 研究成果の表現、主題図の作成 (1) / 受講生による研究成果の発表</li> <li>22. 研究成果の表現、主題図の作成 (2) / 受講生による研究成果の発表</li> <li>23. 研究成果の表現、主題図の作成 (3) / 受講生による研究成果の発表</li> <li>24. 卒業論文の執筆要領 (1) / 受講生による卒論の中間発表</li> <li>25. 卒業論文の執筆要領 (2) / 受講生による卒論の中間発表</li> <li>26. 卒業論文の執筆要領 (3) / 受講生による卒論の中間発表</li> <li>27. 卒業論文作成の諸注意 (1)</li> <li>28. 卒業論文作成の諸注意 (2)</li> <li>29. 卒業論文要旨集の作成 (1)</li> <li>30. 卒業論文要旨集の作成 (2)</li> </ol>
----------	---

準備学習	研究発表の授業ではレジュメを作成するが、そこに記載されている参考文献にも注目して、内容の理解を深めるとともに、疑問点を明らかにして次回の授業にて質問すること。
履修上の留意点	①調査・研究は、早期に手掛けることが重要である。②授業では積極的に発表・討論に加わってほしい。③授業を欠席する場合は、必ず事前に連絡すること。
成績評価の方法	口頭発表や討論への参加状況 (70%)、課題の提出状況など (30%) を合わせて評価する。
教科書/テキスト	
参考書	適宜紹介する。
その他	基本的には教場を使用するが、少人数の時や文献調査が必要な時は教員研究室も使用する。

履修コード	036501
科目名	地理学演習
担当者名	高橋 健太郎

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>〔授業概要〕 卒業論文作成のために、研究テーマを設定し、研究計画を立案し、文献や統計、地図資料を収集、分析し、経過と結果を発表する。さらに、地域調査を準備、実施し、成果を発表し、討論する。</p> <p>〔到達目標〕 卒業論文の作成を進めながら、地域調査や資料分析、文章執筆、プレゼンテーションの方法を習得し、加えて地域社会を理解する力を身につける。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>第1回：卒業論文への視座、第2回：文献資料の収集、第3～6回：文献資料の講読と報告、第7回：研究テーマの設定、第8回：研究計画の立案、第9～11回：文献・統計・地図資料の収集と分析、第12回：地域調査の企画、第13回：調査項目の検討、第14回：質問調査票の作成、第15回：地理写真の学習、夏季休業期間を中心に受講生各自で地域調査、第16～19回：調査結果の整理と分析、第20～24回：調査結果の発表と討論、第25～26回：事象の地図化と主題図の作成、第27～30回：論文執筆と討論、1月下旬：卒業論文発表会。</p>
----------	---

準備学習	受講生各自で設定した研究計画にしたがって、授業時間外においても資料収集や地域調査の実施、調査結果の分析、論文執筆、発表準備などの作業を進めること。
------	---

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	授業中の発表内容と討論への参加状況 (60%) および卒業論文発表会での発表内容 (40%) で評価する。
---------	---

教科書/テキスト	
----------	--

参考書	
-----	--

その他	YeStudyで連絡する場合がありますので、この授業を登録すること。
-----	------------------------------------

履修コード	042501
科目名	地理学演習
担当者名	田中 靖

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>〔授業概要〕 地理情報学や自然地理学に関する卒業論文の作成指導を行なう。</p> <p>〔到達目標〕 卒業論文を完成させる。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>4月：研究テーマの設定 5月～7月：共通テーマでの勉強会、調査 夏休み前：方針発表会 9月～10月：中間発表会 10月～12月：個別指導、添削 12月：卒業論文提出→発表会</p>
----------	---

準備学習	・特になし。
------	--------

履修上の留意点	・授業以外でもいつでも相談にのります。できるだけ主体的に取り組むこと。
---------	-------------------------------------

成績評価の方法	・平常の研究姿勢 (50%) と発表内容の質 (50%) で評価する。
---------	-------------------------------------

教科書/テキスト	
----------	--

参考書	
-----	--

履修コード 036801

科目名 地理学演習

担当者名 土谷 敏治

授業概要/  
到達目標 (ねらい)

(授業概要)  
3年間に学習した成果をふまえ、各自が卒業論文作成のスケジュールをたて、そのスケジュールにしたがって、卒業論文の目的設定、研究の意義づけ、研究対象地域の選択、資料収集、現地調査、データ整理、分析、図表化、考察を行い、論文を完成させるための演習・指導を行う。

(到達目標)  
卒業論文完成に向けての学習、研究計画の作成、現地調査、調査結果の分析を通じて、調査・研究能力を身につけることを目的とする。

授業スケジュール

1. これまでの学習成果の発表と質疑
2. 卒業論文のテーマについての発表と質疑
3. 卒業論文のテーマについての発表と質疑
4. 各自の研究テーマに沿った論文講読と質疑 (1回目)
5. 各自の研究テーマに沿った論文講読と質疑 (1回目)
6. 各自の研究テーマに沿った論文講読と質疑 (1回目)
7. 各自の研究テーマに沿った論文講読と質疑 (2回目)
8. 各自の研究テーマに沿った論文講読と質疑 (2回目)
9. 各自の研究テーマに沿った論文講読と質疑 (2回目)
10. 研究の意義・目的、対象地域、分析資料、調査方法についての発表と質疑
11. 研究の意義・目的、対象地域、分析資料、調査方法についての発表と質疑
12. 研究の意義・目的、対象地域、分析資料、調査方法についての発表と質疑
13. 夏休み中の研究・調査計画の発表と質疑
14. 夏休み中の研究・調査計画の発表と質疑
15. 夏休み中の研究・調査計画の発表と質疑
16. 夏休み中の調査結果報告と質疑
17. 夏休み中の調査結果報告と質疑
18. 夏休み中の調査結果報告と質疑
19. 調査・分析結果の中間報告と質疑 (1回目)
20. 調査・分析結果の中間報告と質疑 (1回目)
21. 調査・分析結果の中間報告と質疑 (1回目)
22. 調査・分析結果の中間報告と質疑 (2回目)
23. 調査・分析結果の中間報告と質疑 (2回目)
24. 調査・分析結果の中間報告と質疑 (2回目)
25. 分析結果の最終報告と質疑
26. 分析結果の最終報告と質疑
27. 分析結果の最終報告と質疑
28. 卒業論文発表会要旨集・資料の作成
29. 卒業論文発表会要旨集・資料の作成
30. 卒業論文発表会と討論

準備学習

授業前に発表内容を整理し、他の受講者によくわかるように発表用の資料を作成する。

履修上の留意点

授業の開始時に発表担当者のスケジュールを決定し、毎回1～2名が発表を行い、その内容について全員で討論する。発表のための資料は、事前に作成する。討論の際の司会・進行役も受講者が交代で行う。このため、毎回の出席がとくに重要である。就職試験、教育実習などでどうしても出席が不可能な日については、事前に本授業専用の欠席届によって、申し出ることが必要である。発表担当日がこれらの日程に重なるときは、他の受講者と発表担当日を交替すること。この授業は、地理学科による担当教員の指定を受けていないと履修できない。

成績評価の方法

発表内容と討論への参加状況、発言回数とその内容を総合して評価する。出席していても発言がない場合は、出席者として認定しない場合もありうる。また、出席率が8割を下回った場合は単位の認定をしないことがある。

教科書/テキスト

とくに指定しない。

参考書

卒業論文のテーマの選定やスケジュールのたてかた、書式などについては、次の文献が参考となる。

高橋伸夫・溝尾良隆編『地理学講座3 実践と応用』(古今書院)

正井泰夫・小池一之編『卒論作成マニュアル よりよい地理学論文作成のために』

(古今書院)



履修コード	036601
科目名	地理学演習
担当者名	橋詰 直道
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 卒業論文の作成のための具体的指導を中心に行う。地域調査に基づく実証的研究の具体方法について学ぶ。 (到達目標) 前期は、文献レビューをとって卒業論文作成のための地理的視点と研究方法について理解する。後期は、卒業論文のための文献・資料収集、フィールドワークによる成果の集約と分析を行う。
授業スケジュール	(1)～(3)は、卒業論文の研究テーマ、地域の設定、研究方法、研究計画などについて十分検討した上で、文献・資料調査法や現地調査法についての指導を行う(4～5月)。(4)～(15)は、それまでの文献調査や事前調査などの成果をもとに中間発表会を個人別に行う(5～7月)。(16)～(29)は、夏休みおよびその後の調査成果をもとにした経過報告会を行い、議論を積み重ねながら、論文の書き方について具体的に指導する(9～11月)。12月論文提出時に不完全な論文は受理しない。その後、内容・構成など書き直しもある。(30)1月には卒業論文原稿の提出、同要旨集の印刷・製本を行う。1月末に卒業発表会を行う。発表はパワーポイントを使用し、発表会には次期地理学演習(橋詰ゼミ)履修者の3年生も全員参加することになる。
準備学習	自分の研究テーマに沿った事前の文献購読が必要となる。
履修上の留意点	卒業論文の提出後、1月に卒業論文要旨集の作成と卒業論文発表会も行うので、積極的な研究姿勢が重要である。
成績評価の方法	授業(卒業発表会を含む)への取り組み方、出席状況などを総合的に評価する。具体的には、12月の卒業論文提出(80点)、加筆修正(10点)、発表会(10点)となる。
教科書/テキスト	指定しない。
参考書	正井泰夫・小池一之『卒業論文作成マニュアル』(古今書院)2,060円
その他	事前に地理学文献データベースを利用した十分な文献(論文)調査が必要である

履修コード	041201
科目名	地理学特講I
担当者名	橋詰 直道
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 今日わが国の都市が抱える諸問題について「都市計画と社会資本整備」という視点から考える。ここでは特に、都市生活者のためのアメニティの確保のための生活環境整備手法の歴史とその意義について紹介する。 (到達目標) 日本の都市計画の現状と現行都市計画制度の諸問題を理解すると同時に、英国やアメリカの住宅計画が日本に与えた影響について理解する。
授業スケジュール	次の項目を予定している。①都市計画とは(都市計画と地理学)②都市計画の概要(日本の都市計画の特徴と現状)③日本の都市整備事業(区画整理事業と都市再開発事業)④都市緑地の整備(生産緑地地区)⑤都市緑地の整備(都市公園の整備と都市緑地の保全)⑥緑を生かした住宅地の整備(深沢環境共生住宅)⑦東京の都市計画史1(東京市区改正条例)⑧東京の都市計画史2(震災復興計画・環状緑地帯計画)⑨東京の都市計画史3(震災復興計画・新都市計画法)⑩日本の住宅開発史1(郊外住宅地の誕生・郊外住宅地の発達:関西)⑪日本の住宅開発史2(郊外住宅地の誕生・郊外住宅地の発達:東京)⑫アメリカの郊外住宅開発史(シカゴ・ニューヨークの郊外住宅地)⑬英国の郊外住宅地開発史1(工業村・ガーデンウィレッジ)⑭英国の郊外住宅地開発史2(ガーデンシティとガーデンサブurb)⑮まとめと理解度の確認
準備学習	五十嵐敬喜・小川明雄:『都市計画』(岩波新書)や日端康雄:『都市計画の世界史』などで、日本の都市計画及び日本の都市計画に大きな影響を与えた欧米の都市計画の歴史を予習しておくこと。
履修上の留意点	「都市地理学」の単位を取得した後の受講が望ましい。毎時間出席をとる(開始後15分以上の遅刻は欠席となる)。
成績評価の方法	理解度の確認小テストの成績(80%)、平常点(10%)、小レポートなど(10%)によって総合的に評価する。ただし、総授業日数の2/3以上の出席が成績評価の条件である。
教科書/テキスト	特に定めない。
参考書	五十嵐敬喜・小川明雄:『都市計画』(岩波新書)580円、五十嵐敬喜・小川明雄:『都市再生を問う』(岩波新書)740円、越澤明:『東京都市計画物語』(ちくま学芸文庫)1300円、日端康雄:『都市計画の世界史』(講談社現代新書)1000円、その他の参考書や論文は授業で紹介する。
その他	講義は、配布プリントとパワーポイントを利用して行う。

履修コード	035301
科目名	地理学特講II
担当者名	須山 聡

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	離島の地域的特性について講義する。離島地域に対するわれわれの認識はきわめて浅く、また誤解と偏見に満ちている。本講義では、離島の実態を解き明かし、その魅力の一端を紹介する。
授業スケジュール	おおむね以下の内容で講義を構成する。

- 日本の離島の多様性-自然環境と歴史・文化的背景-
1. 離島の分布と地域区分
  2. 島と離島-なぜ「離」なのか?
  3. 同心円分布か、自然地域区分か?
- 離島の政治的特性-防人の島、軍事の島、領土的意義-
4. 辺境地域としての離島
  5. 軍事と貿易
  6. 国家による領土・領域化
- 奄美群島-ヤマトともウチナーとも違う-
7. あまんゆ・ウチナー世・薩摩世・アメリカ世・大和世
  8. 離島の自立と依存
  9. 地域資源の商品化 (鶏飯・ダイビング)
- 離島の産業基盤-第一次産業とツーリズム-
10. 自立的な漁業の島
  11. エラブユリとカノコユリ
  12. 対馬のインバウンド観光
- 領土の拡大と南洋進出
13. アホウドリを求めて-八丈島の玉置半右衛門
  14. サトウキビプランテーション-南北大東島
  15. 近代国家と離島

準備学習	メディアなどで紹介される離島をよく観察しておく。ただし鵜呑みにはしないでほしい。
履修上の留意点	地域文化調査法Bの受講者はこの科目を同時に履修することが望ましい。
成績評価の方法	レポートにより評価する。
教科書／テキスト	特に指定しない。
参考書	平岡昭利編『離島研究 I～IV』海青社。

履修コード	035401
科目名	地理学特講III
担当者名	澤渡 貞男

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	文学部地理学科学生の学問的専門履修科目の応用と実践を意図して通年課程で設置された「特講III」は、観光産業の中核である運輸・宿泊・旅行業に共通する国家資格「旅行業務取扱管理者試験」の受験を目指す学生への補助的講座として設置されたものであり、受験に必要な基礎知識、関連知識の習得を図ることを目的とする。旅行業務取扱管理者試験の法令問題に答えられることを到達目標とする。
---------------------	---

授業スケジュール	管理者試験には総合と国内の区別があり、受験科目は、①旅行業法及びこれに基づく命令についての知識 ②旅行業約款、運送約款及び宿泊約款 ③国内旅行実務（運賃料金、観光地理、旅行実務） ④海外旅行実務（国内と同項目に加え出入国関連法令及び出入国関連手続実務、観光英語が追加される）で、国内は上記①②③科目で例年9月に実施、総合は上記全科目で10月に実施される。これを踏まえ、次のようなスケジュールとする。
----------	---

1. ガイダンス
  2. 観光・旅行業界の現状
  3. 観光・旅行業界の歴史
  4. 旅行業法は何故必要か、旅行業法の目的
  5. 旅行業法の構成
  6. 旅行業法 各論 (1) 登録制度、営業保証金制度
  7. 旅行業法 各論 (2) 旅行業務取扱管理者制度
  8. 旅行業法 各論 (3) 取引準則
  9. 旅行業法 各論 (4) 旅行業協会制度 その他
  10. 旅行業法と標準旅行業約款の関係
  11. 標準旅行業約款 募集型企画旅行の部 各論 (1) 契約の締結
  12. 標準旅行業約款 募集型企画旅行の部 各論 (2) 契約の変更・解除
  13. 標準旅行業約款 募集型企画旅行の部 各論 (3) 旅程管理、責任
  14. 標準旅行業約款 募集型企画旅行の部 各論 (4) 特別補償
  15. 標準旅行業約款 募集型企画旅行の部 各論 (5) 旅程保証
  16. 標準旅行業約款 受注型企画旅行の部 手配旅行の部 概要
  17. 国際航空運送約款 (その1) IATAと航空運送に関連する諸事項
  18. 国際航空運送約款 (その2) 航空運送の理解に必要な諸知識
  19. 出入国に関する諸法令と関連事項 (その1) 検疫
  20. 出入国に関する諸法令と関連事項 (その2) 入国管理
  21. 出入国に関する諸法令と関連事項 (その3) 税関
  22. 外国の鉄道、道路、バスなどに関する諸知識
  23. モデル宿泊約款、ホテルに関する諸知識 (その1)
  24. ホテルに関する諸知識 (その2)
  25. レストランに関する諸知識
  26. 人的サービスに関する諸知識
  27. その他の観光産業関連諸知識
  28. 諸約款の適用、苦情とその解決、旅客サービス業務
  29. 観光立国とは何か。観光立国推進基本法とVJC
  30. 「観光」の未来展望。まとめ
- 観光は、必ず移動を伴うので、実際に見ることが最良であるが、若年の学生には、なかなか難しいため、これらの内容を理解するために必要な外国事情などは実際の経験をベースにした内容をAVも利用しながら講義する。

準備学習	日頃からマスコミの報じる観光、運送、宿泊関係、特に旅行関連のニュースに注意を払い、地理的な位置関係を確認しておくとともに、報道内容についての疑問点を整理しておくこと。また、法律、特に民法についての基本的な考え方を理解し、独特な用語について知っておくこと。
------	---

履修上の留意点	①業法・約款の理解には観光・旅行業の現状・現場の理解が不可欠との立場から、冒頭に観光業界の現状・歴史などについて概括的な講義を行うので必ず出席のこと。これに欠席すると以後の講義が理解できなくなるので、この間の欠席者には原則として単位を付与しない。 ②講義で取り扱う範囲が広く、国家試験の全範囲をカバーする時間的な余裕がないので、本講義では、基本的な考え方について理解を深めることとし、受験対策については、通信講座、受験対策講座等により、各自で学習されたい。(質問に応じ、アドヴァイスする) ③講義内容は相互に連動しており断片的な出席では理解が難しいこと、また、観光地域、業務の現状の理解のため、AVを多用するので出来るだけ多く出席すること。欠席した部分は必ず自習しておくこと。 ④授業の後、必ず内容を復習し、キーワードを整理、確認しておくこと。時間がたってからは、授業で説明した状況の理解が難しくなることが多い。
---------	---

成績評価の方法	出席を重視し、レポートと定期試験により評価する。(定期試験40%、出席40%、レポート20%) 授業態度も加味する。なお、総合/国内旅行業務取扱管理者試験合格者には授業への一定の出席を条件として4単位付与とする。
---------	--

教科書/テキスト	澤渡貞男「海外パッケージ旅行発展史—観光学再入門—」(彩流社 2300円+TAX (ISBN 978-4-7791-1055-9 C-0036) 千代田区富士見2-2-2) なお、上記以外にも必要に応じてプリントを配布する。
----------	--

参考書	受験対策用として中央書院編集部「総合又は国内旅行業務取扱管理者試験合格ハンドブック」2012年版(2011年版は総合3570円、国内2940円 ISBN978-4-88732-192-2 C3026) 榊中央書院 千代田区猿樂町2-8-11。旅行会社の制作する広告宣伝印刷物。国際国内の航空会社時刻表、観光白書。
-----	--

履修コード	035501
科目名	地理学特講Ⅳ
担当者名	山縣 毅

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業の概要)</p> <p>本授業で学習する地質学は、物理学・化学・生物学・情報科学など広範囲な自然科学の知識・技術を使い“地球の形成過程”やシステム、そこに存在する生物の進化”を解き明かす学問領域です。本授業では、その研究の最も基礎となる地層・岩石からのデータの収集・解析法を学びます。</p> <p>(到達目標)</p> <p>本授業の到達目標は、地理学を学習する上で必要となる、地質学論文・報告・図幅の読解能力を身につける事にあります。そのため、実際に、受講者各自に「三浦半島の城ヶ島東部地域の形成過程」についての小研究を行ってもらいます。具体的には、地質学研究の基礎的手法である“鉱物・岩石の鑑定法”、“偏光顕微鏡の操作方法”、“野外での地質調査法”、“地質図学”を習得し、それらの手法により城ヶ島東部地域の野外調査、得られたデータの解析、それに基づく形成過程の考察を行います。これらの成果は、最終的に、論文形式のレポートにまとめます。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地質学概説 (通常授業)</li> <li>2. 地球を構成する物質 (通常授業)</li> <li>3. 結晶の形：面角一定の法則 (室内実習)</li> <li>4. 鉱物の鑑定方法：無色鉱物 (室内実習)</li> <li>5. 鉱物の鑑定方法：有色鉱物 (室内実習)</li> <li>6. 鉱物鑑定法 (理解度の確認)</li> <li>7. 岩石鑑定法：超塩基性・塩基性深成岩 (室内実習)</li> <li>8. 岩石鑑定法：中性・酸性深成岩 (室内実習)</li> <li>9. 岩石鑑定法：火山岩 (室内実習)</li> <li>10. 岩石鑑定法：砕屑岩 (室内実習)</li> <li>11. 岩石鑑定法：生物岩 (室内実習)</li> <li>12. 岩石鑑定法：変成岩 (室内実習)</li> <li>13. 岩石鑑定法 (理解度の確認)</li> <li>14. 偏光顕微鏡の操作方法 その1 (室内実習)</li> <li>15. 偏光顕微鏡の操作方法 その2 (室内実習)</li> <li>16. 地層の基礎知識 (通常授業)</li> <li>17. クリノメーターの使い方 (駒沢キャンパス内実習)</li> <li>18. 地質構造 (通常授業)</li> <li>19. 野外調査法 (通常授業)</li> <li>20. 野外調査法・地層の見方 (三浦半島城ヶ島での野外実習)</li> <li>21. 地質図学：ルートマップのまとめ方 (室内実習)</li> <li>22. 地質図学：地層境界線 その1 (室内実習)</li> <li>23. 地質図学：地層境界線 その2 (室内実習)</li> <li>24. 地質図学：走向・傾斜の推定方法 (室内実習)</li> <li>25. 地質図学：地質断面図 その1 (室内実習)</li> <li>26. 地質図学：地質断面図 その2 (室内実習)</li> <li>27. 地質図学：地質柱状図 (室内実習)</li> <li>28. 城ヶ島東部地域の地質図の作成 (室内実習)</li> <li>28. 城ヶ島東部地域の地質断面図・柱状図の作成 (室内実習)</li> <li>29. 論文の書き方：「三浦半島の城ヶ島東部地域の形成過程」 その1 (室内実習)</li> <li>30. 論文の書き方：「三浦半島の城ヶ島東部地域の形成過程」 その2 (室内実習)</li> </ol>
----------	---

準備学習	特になし
------	------

履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業は、実習が中心になります。</li> <li>・毎回授業で、新しい知識・手法を習得します。</li> <li>・野外実習(1日、日帰り)を、9月下旬に三浦半島城ヶ島で行います。</li> </ul>
---------	---

成績評価の方法	<p>以下の事項で、成績を評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平常点 40%</li> <li>・実習レポート 60%</li> </ul>
---------	---

教科書/テキスト	小島丈兒監修「新訂地学図解」第一学習社 定価790円 ISBN978-4-8040-4304-3
----------	--

参考書	特になし。必要な資料はプリントにして配布します。
-----	--------------------------

その他	特になし。
-----	-------

履修コード	041301
科目名	地理学特講V
担当者名	平井 史生
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	社会的に関心の高い時事問題を題材とし、現象の空間的な把握や分布図の重ね合わせ等の地理学的手法を用いて分析していきます。卒業論文の主題選定に役立つ話題や切り口を多く提供することをめざしています。また、学生の皆さんと共に講義を創り上げていくスタンスを目標としています。地理学に関する専門的な知識があまりなくても受講はできます。
授業スケジュール	参考までに2011年度の題材をお知らせします。2012年度も同様な話題を取り上げます。「東日本大震災と大津波」「2011年台風と大雨・強風被害」「盛夏の雷雨」「竜巻被害の特徴」「梅雨の特性」「地球温暖化」「梅雨前線と集中豪雨」「南極オゾンホール」「北極海の海水」「ヒートアイランド」「冬季の降雪とスキー場の立地」「土地利用図の作成」など。大きな自然災害が発生した場合には速報的にすぐに取り上げる予定です。また、「地理学に関連の深い企業の見学会」「気象観測実習」など、学外で活動する場合もあります。選択科目の「気候学」と最も関連が深く、自然地理学的な題材を多く扱いますが、興味の対象を絞り込むわけではなく、時には人文地理学的な内容も扱います。2011夏季課題は「復興地図を作成せよ」でした。  2011年度資料ページ (参考) [ <a href="http://www.komazawa-u.ac.jp/~fumio/k2011/yotei.html">http://www.komazawa-u.ac.jp/~fumio/k2011/yotei.html</a> ] 2012年度資料ページ (予定) [ <a href="http://www.komazawa-u.ac.jp/~fumio/k2012/yotei.html">http://www.komazawa-u.ac.jp/~fumio/k2012/yotei.html</a> ]
準備学習	講義資料はWEBに公開しているので、自宅にインターネット環境があれば、予習・復習が可能です。
履修上の留意点	実作業が多いため、学生諸君にとっては、「かなり面倒な」講座となります。1年間やり通す強い意志が必要です。欠席が多くなりそうな方には向きません。講義はコンピューター教室で実施します。端末台数の制約から履修人員は最大64名となります。作図などの作業を伴う実習的 성격の強い科目です。作図作業の成果品は電子媒体での提出を求め、ネットに公開します。不完全な作品については、再提出を求める場合もありますので、中途半端な気持ちで受講しないでください。各提出物については簡単な発表を含み、質問や批判を含めたミニ討論会なども実施します。初回講義の際にこれまでの授業アンケートの結果などを示しますので、履修するかしないかの参考にしてください。
成績評価の方法	①作図作業の成果品、②レポート課題、③調査内容の発表、④作図試験、で総合的に評価をします。ウェイトは①40%、②～④各20%です。出席するだけでは単位は認定できません。成果品やプレゼンテーションが重要です。出席点という考え方は持ち合わせていません。出席率が100%でも、成果品の提出や発表が無ければ0点です。なお、前年度の不合格者については、前年度の点数の半分を加算する予定です。過去には2年かけて単位を取得した学生も5～6人います。
教科書/テキスト	特に定めません。講義中に資料を配布する場合があります。
参考書	必要に応じて講義中に指示します。参考ウェブサイトを示す場合もあります。
その他	気象予報士試験の受験を希望している学生には個別に相談のります。ウェブサイトにもレジュメを掲載しています。質問・相談等も電子メールで受けつけています。参考までに、履修登録者に対する単位認定者の割合は、86% (2004年度)、92% (2005年度)、83% (2006年度)、83% (2007年度)、85% (2008年度)、87% (2009年度)、71% (2010年度) でした。
関連リンク	<a href="http://www.komazawa-u.ac.jp/~fumio/k2012/yotei.html">http://www.komazawa-u.ac.jp/~fumio/k2012/yotei.html</a>

履修コード	038401
科目名	地理情報論
担当者名	王尾 和寿

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 本講義では、近年注目を集める地理情報システム (GIS) を中心に、地理・空間情報の収集と空間解析の方法、ならびに地理学研究におけるGISの有効性について理解を深める。</p> <p>(到達目標) 地理情報システム (GIS) は、国土、地域、都市などの計画管理・行政支援、ビジネスをはじめ、多くの分野で活用されている。本講義では、多種多様な地理空間情報の取得と利用方法を理解し、空間データ分析の基礎を習得することを目標とする。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>第1回：GISの概要 第2～4回：地理情報、空間データの収集 第5～6回：GISの基本構成、発展史 第7～8回：GISデータの構造 第9～10回：空間参照と投影法、投影変換 第11～12回：実世界のモデル化 第13回：GISソフトウェア概要 第14～15回：空間データ分析の基礎 (基本量測定、空間関係と空間検索、テーブル操作) 第16回：空間データの作成、管理 第17回：オーバーレイ、バッファリング 第18回：点データの分析 (点分布パターン、最近隣距離法など) 第19回：密度サーフェス 第20回：空間分割 第21～22回：空間的自己相関、空間補間 第23回：ラスタ演算、コスト・パス解析 第24回：ネットワーク分析 第25～26回：地形解析 第27～28回：リモートセンシング 第29～30回：GISと社会</p>
----------	--

準備学習	授業で使用する資料は、事前にYeStudyを通じて配布するので、目を通しておくことが望ましい。
------	---

履修上の留意点	
成績評価の方法	レポート (年2回出題) 60%、平常点40%を目安とする。
教科書/テキスト	教科書は指定しません。
参考書	村山祐司編『シリーズ人文地理学1 地理情報システム』 (朝倉書店) 3,800円
その他	講義資料の提供などで、YeStudyを活用します。

履修コード	032801
科目名	都市地理学
担当者名	橋詰 直道

授業概要/  
到達目標 (ねらい) (授業概要) モノ・ヒト・情報の交換や文化の創造空間として変化しつつある現代都市の機能及び都市での生活、居住空間の抱える諸問題をさぐる。  
(到達目標) 前期は、都市システムと都市機能の分類に関する理論的な考え方を理解すること。後期は、都市空間における人々の居住地移動と郊外住宅地に関する研究を通して今日の都市の生活環境のあり方について理解する。

#### 授業スケジュール

次の項目を予定している。  
(1) 都市地理学とは何か (内容紹介・小テスト) (2) 都市の概念 (都市とは何か) (3) 都市システム (都市の分布) (4) 都市システム (順位規模法則) (5) 都市システム (中心地理論) (6) 日本の都市システム (理論の検証研究) (7) 都市機能の分類 (アメリカでの研究) (8) 都市機能の分類 (日本での研究) (9) 都市機能の分類 (都市因子生態研究) (10) 都市の内部構造 (都市構造モデル) (11) 都市の内部構造 (都心の構造) (12) 都市化と大都市圏 (都市化地域) (13) 都市化と大都市圏 (大都市圏の構造) (14) 都市化と大都市圏 (地価の構造) (15) 前期のまとめと理解度の確認 (16) 大都市圏の居住地移動 (郊外への居住地移動) (17) 大都市圏の居住地移動 (居住地遍歴) (18) 大都市圏の居住地移動 (都心回帰) (19) 郊外の住宅地開発 (住宅団地) (20) 郊外の住宅地開発 (関西の郊外住宅地) (21) 郊外の住宅地開発 (東京の郊外住宅地) (22) 都市住民の生活 (団塊世代の生活) (23) 都市住民の生活 (都市と女性) (24) 都市の生活環境 (犯罪空間) (25) 都市と生活環境 (監視社会・要塞都市) (26) 都市住民の認知と行動 (生活時間と生活行動) (27) 都市空間の認知と行動 (メンタルマップ・居住地選好) (28) 都市環境の整備 (都市計画) (29) 都市環境の整備 (田園都市計画) (30) 後期のまとめと理解度の確認

準備学習	特に前期は標準偏差、対数を用いた相関回帰分析など基礎的な統計学の知識が求められるので、1年次の必修科目などでの基礎統計学を復習しておくこと。また、計量地理学や計量地理学実習の履修も望まれる。
履修上の留意点	毎時間出席をとる (開始後15分以上の遅刻は欠席となる)。
成績評価の方法	理解度の確認小テストの成績 (80%)、平常点 (10%)、小レポートなど (10%) によって総合的に評価する。ただし、総授業日数の2/3以上の出席が成績評価の条件である。
教科書/テキスト	特に定めない。
参考書	高橋伸夫・菅野峰明・村山祐司・伊藤悟『新しい都市地理学』(東洋書林) 2,500円、その他の参考書や論文は授業の中で紹介する。
その他	講義は、配布プリントとパワーポイントを利用して行う。課題や小テストも実施する。

履修コード	040601
科目名	土壌地理学
担当者名	漆原 和子

授業概要/  
到達目標 (ねらい) 私たちの最も身近にあり、その恩恵に浴している土壌、植生の分布様式のもつ規則性を理解しよう。

#### 授業スケジュール

前期では、土壌の定義と生成因子、生成作用について述べる。後期では、一定の気候下ではその環境に適応した特色ある植生が分布し、熟成した土壌が生成されることについて学ぶ。世界の気候帯、植生帯、土壌帯の分布様式について考える。さらに世界における各種の生態型や土壌型ごとに営まれている生活、農業、作物について考える。母材が火山灰の時、日本では黒ボク土が生成されるが、なかなか利用しにくい土壌である。どうして日本にしかないのか、どうして困った土壌なのかを説明する。授業のスケジュールは、以下の項目の順で進みます。

1. 土壌の定義
2. 各種土壌母材との土壌生成作用
3. 土の中では何が起きているか。
4. どうして土壌があるところで農業ができるのだろうか。
5. 世界の土壌はどんな性格か、どんな自然条件のところに生成されるのか。
6. 特殊な母材の土壌
7. 人間が土壌の扱いを間違えると、何がおこるのか。

準備学習	毎回授業内容に関連性がありますので、前回受けた授業の復習をしてから当日の授業に臨んでください。
履修上の留意点	この授業は他の地理学の分野でほとんど耳にすることのない専門用語が使われる。したがって、欠席すると理解できなくなり、容易についてこれなくなる。毎回出席すること。また、復習をしていくことが望ましい。
成績評価の方法	毎回出席をとる。講義日数の2/3以上出席すること。出席とテストで評価。
教科書/テキスト	永塚鎮男・漆原和子訳『世界の土壌』2004年刊 (古今書院) 3,600円
参考書	後期では、毎回高等学校の地図帳を持ってこようことを薦めます。
その他	毎回出席を取ります。出席重視です。専門性が高いのでしっかり勉強していただかないと単位は取れません。

履修コード	034201
科目名	日本地誌
担当者名	橋詰 直道
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(講義のねらい) 日本の諸地域はどのような特色を有し、近年どのように変容してきたか。この地域変容に関する最近の研究事例を紹介しながら、日本列島の地域的特色とその変容過程を明らかにする。 (到達目標) 前期は、主に日本の自然環境と人間生活の関係を具体的な地域事例を通して理解すること。後期は、産業と地域構造の実態とその変化について理解する。
授業スケジュール	次の項目を予定している。 (1)地誌とは何か(導入小テスト)(2)日本列島の構造(地図と地域区分)(3)自然環境と生活(植生)(4)自然環境と生活(気候景観)(5)自然環境と生活(地下資源の利用)(6)自然環境と生活(水資源の利用)(7)生活と文化(日本の風土)(8)生活と文化(気候と住居)(9)都市と村落(日本の都市分布と機能)(10)都市と村落(集落立地)(11)都市と村落(集落移動)(12)都市と村落(山村と限界集落)(13)災害(自然災害)(14)災害(人為的災害・災害対策)(15)前期まとめと理解度の確認 (16)稲作と植物景観利用(彼岸花)(17)農業地域(農業の変遷)(18)農業地域(近郊農業)(19)農業地域(輸送園芸)(20)工芸作物地域(茶業)(21)園芸先進地域(果樹・花卉)(22)産業地域(工業地帯)(23)産業地域(地場産業)(24)山村地域(林業と林業地域)(25)山村地域(山村地域の振興策)(26)開発と環境保全(国土開発)(27)開発と環境保全(環境問題)(28)余暇地域(観光とリゾート開発)(29)余暇地域(グリーンツーリズム)(30)後期まとめと理解度の確認
準備学習	地図帳(高校教科書)などを利用し、日本の諸地域の自然環境、災害、産業、都市と村落、環境保全と開発などについての事前学習が望まれる。
履修上の留意点	毎時間出席をとる(開始後15分以上の遅刻は欠席)。
成績評価の方法	理解度の確認小テストの成績(80%)、平常点(10%)、小レポートなど(10%)によって総合的に評価する。ただし、総授業日数の2/3以上の出席が成績評価の条件である。
教科書/テキスト	特に定めない。
参考書	参考書や関連する論文は授業で紹介する。地図帳を毎回持参すること。
その他	講義は、配布プリントとパワーポイントを利用して行う。課題や小テストも実施する。



履修コード	032601
科目名	文化生態学
担当者名	中俣 均
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 前期においては、いわゆる「伝統的」な文化地理学の一分野として「文化生態学」を位置づけ、その内実を説明する。特に日本の文化地理学における主流派としての文化生態学という側面を強調し、その実際の具体的研究例を紹介したい。また後期においては、前期の講義内容を踏まえたうえで、近年のいわゆるカルチュラルターン（文化論的転回）を経た新しい文化地理学の内容について、これも具体的研究例を紹介しながら、かいつまんで説明する。</p> <p>(到達目標) 人文地理学の主要分野である文化地理学（および文化生態学）の概念や方法について、地理学思想の歴史の中でのその位置づけを理解したうえで、現在のこの分野における最新の研究動向をさぐり、現代世界の中で文化を地理学的視点から考える思考を身に着けるのが目標である。</p>
授業スケジュール	<p>前期：①はじめに ②近代地理学の発生 ③④自然環境決定論—その功罪 ⑤関係論から景観論へ ⑥⑦C. O. Sauer の文化景観論について ⑧Wagner/Mikesell の「5つのテーマ」 ⑨文化生態学の成立 ⑩照葉樹林文化論について ⑪⑫⑬日本列島の文化史 ⑭千葉徳爾の文化生態学 ⑮まとめ</p> <p>後期：①はじめに ②③景観概念の再考・拡張・変化 ④主観の地理学へ ⑤⑥⑦風水論 ⑧⑨場所イメージ論 ⑩競われる空間の意味 ⑪⑫伝統文化の創造と景観 ⑬⑭文化の空間論的転回 ⑮総まとめ</p>
準備学習	特に必要とはしないが、毎回の授業内容を、授業後に整理しておくことが、次回の授業への準備になるはずである。
履修上の留意点	教室内では、それなりの緊張感を持つとともに、私語は厳に慎まれたい。
成績評価の方法	前期および後期それぞれの授業最終回に、筆記試験を行ない、基本的にその合計点をもとに本科目の成績を評価する。筆記試験においては、指定された参考書および各自のノートの持ち込みは可とするので、普段から講義内容を整理したノートを作成しておくよう心がけてほしい。なお、時に授業への出席を確認し、その情報も成績評価の一部として利用することもありうるので、十分注意されたい。
教科書／テキスト	講義開始時に詳しく指示する。基本的に特定の教科書の採用は予定していないが、下記参考文献中の 中俣(2011)：『空間の文化地理』（朝倉書店）の、特に第1章（中俣執筆分）を、授業の進行に平行してよく読んでおいてほしい。
参考書	中俣 均編著(2011)：『空間の文化地理』（朝倉書店）¥3990 高橋伸夫他著(1995)：『文化地理学入門』（東洋書林）¥2575 中川正・森正人・神田孝治著(2006)：『文化地理学ガイダンス』（ナカニシヤ出版）¥2520
その他	基本的に講義によって授業を進める。その際、出席者におのみ毎回の講義内容に関わるプリントを配布して、それに基づいて講義を進める。ただし、なるべく教員側からの一方的な情報提供に終わらないような工夫をしたいと考えている。

履修コード	033101
科目名	文化地理学
担当者名	小田 匡保

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 文化現象の中でも特に宗教を取り上げる。文化地理学・宗教地理学の概要を説明した後、宗教地理学研究の主要テーマである宗教分布、信仰圏、宗教集落(門前町)、巡礼、墓地・火葬場、村落の宗教組織について述べていく。事例は主として日本の宗教である。</p> <p>(到達目標) 日本の伝統的宗教や信仰習俗についての基礎知識を確認し、それらについて地理学的にどのような研究が可能なのかが理解できるようにする。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義内容等の概要説明</li> <li>2. 文化地理学の概要</li> <li>3～4. 宗教地理学の概要</li> <li>5～12. 宗教分布</li> <li>13. 信仰圏</li> <li>14～15. 前期のまとめと理解度の確認</li> <li>16～17. 信仰圏</li> <li>18～19. 宗教集落・宗教都市(門前町)</li> <li>20～23. 巡礼・社寺参詣</li> <li>24～27. 墓地・火葬場</li> <li>28. 村落の宗教組織</li> <li>29～30. 後期のまとめと理解度の確認</li> </ol>
----------	---

準備学習	毎回の授業の後、ノートやプリントを見直して、話の筋をつかむことを薦める。
------	--------------------------------------

履修上の留意点	
成績評価の方法	成績評価は、試験(前期・後期の2回。持込不可)の点数が基本で、これに夏休みの調査レポートの点数を加味して行なう。出席回数が半分に達しない場合や、夏休みレポートが受理されない場合は、単位は認定できない。

教科書/テキスト	使用しないが、図表類のプリントを授業で配布する。
参考書	授業内容に応じて、授業中に紹介する。

履修コード	034601
科目名	ヨーロッパ地誌
担当者名	岩間 信之

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講では、多種多様な歴史や文化を有し、多くの問題を抱えながらも大きく生まれ変わろうとしているヨーロッパについて解説する。なかでも都市問題、商業問題に着目する。講義はパワーポイントを使用しながら進める。また、卒論執筆を念頭におき、読図や資料検索（英語）、都市・商業問題に関する調査方法についてもあわせて解説する。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>[前期]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション：ヨーロッパとは？</li> <li>2. ヨーロッパの地理的範囲</li> <li>3. 自然環境と人工地形</li> <li>4. 建築様式</li> <li>5. 地域と建築</li> <li>6. パリの都市構造</li> <li>7. 19世紀のパリ</li> <li>8. パリの大改造</li> <li>9. ニュータウン構想</li> <li>10. ヨーロッパの三大要素</li> <li>11. 三大要素1：言語</li> <li>12. 三大要素2：宗教</li> <li>13. 三大要素3：民族</li> <li>14. ヨーロッパとキリスト教文化</li> <li>15. テスト</li> </ol> <p>[後期]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ヨーロッパと日本の商業構造の差異</li> <li>2. 都市と商業</li> <li>3. 食の砂漠：フードデザート問題①</li> <li>4. 農村と商業</li> <li>5. 商圏と共存・競合</li> <li>6. 大型店規制法1：日本</li> <li>7. 大型店規制法2：イギリス、フランス、ドイツ</li> <li>8. 百貨店</li> <li>9. コンビニ</li> <li>10. 専門店チェーン</li> <li>11. Retail TNCsの進展</li> <li>12. 欧米系アパレルブランドの日本市場進出</li> <li>13. 食の砂漠：フードデザート問題②</li> <li>14. 食の砂漠：フードデザート問題③</li> <li>15. テスト</li> </ol>
----------	---

準備学習	<p>ヨーロッパに対する興味関心を高めておいてください。 また、下記の参考文献を事前に読んでおくことをお勧めします。 T. G. ジョーダン著／山本正三、石井英也訳 「ヨーロッパ文化—その形成と空間構造」大明堂</p>
------	---

履修上の留意点	地誌の講義であるため、地図帳を持参すること。また、講義毎に小テストを実施するので、積極的に参加すること。
---------	--

成績評価の方法	成績は出席30%、小テスト20%、定期テスト50%で評価する。定期試験は、事前に提示しておいた課題についての調査結果を記述するというスタイルをとる。
---------	--

教科書／テキスト	
----------	--

参考書	ジョーダン著・山本・石井訳『ヨーロッパ文化』（大明堂）5,160円
-----	-----------------------------------

履修コード	038801
科目名	リモートセンシング
担当者名	田中 靖

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 地理学におけるリモートセンシング(RS)とは、人工衛星データや空中写真などから学問的に意味のある空間データを抽出する研究のことで、この分野の勉強に欠かせないものの一つとなっている。そこで本講義では、RSデータの扱い方や応用事例を、実習を交えながら学ぶ。</p> <p>(到達目標) RSデータの意味や構造を理解し、基本的な解析作業ができるようになることを目標とする。具体的には、RSIによる土地利用分析、地形・地質判読、植生判読、地表面温度分布の解析などを、自分のPCで出来るようになることが目標である。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション：リモートセンシング入門</li> <li>2. 情報とは何か？</li> <li>3. コンピュータ上の画像データと画像ファイルのフォーマット</li> <li>4. 電磁波とは何か？</li> <li>5. 分光反射計を用いた測定実験</li> <li>6. 衛星画像の表示</li> <li>7. 衛星画像のカラー合成</li> <li>8. 衛星画像の目視による判読実習</li> <li>9. 植生指数とは何か？</li> <li>10. 植生指数画像の作成</li> <li>11. 植生指数画像の判読</li> <li>12. 画像分類とは何か？</li> <li>13. 土地利用分類図の作成</li> <li>14. 土地利用分類図の判読</li> <li>15. データの検索方法と入手の手順、注意点</li> <li>16. 地表面温度分布図作成の理論</li> <li>17. 衛星データと観測データによる温度モデルの作成</li> <li>18, 19. 地表面温度分布図の作成</li> <li>20. 地表面温度分布図の判読</li> <li>21. 衛星画像の幾何補正</li> <li>22. デジタル化された空中写真の利用法</li> <li>23, 24. 植生分布の時系列変化に関する解析</li> <li>25, 26. 都市域における植生と地表面温度の関係に関する解析</li> <li>27, 28. 山岳域における標高・植生・地表面温度の関係に関する解析</li> <li>29. まとめ</li> <li>30. 予備日</li> </ol>
----------	---

準備学習	・特になし。
------	--------

履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンピュータに苦手意識のある学生でも理解できるように配慮するので、興味を持つ学生は是非受講してほしい。</li> <li>・積み上げが大切な科目なので、出席状況は重視する。</li> </ul>
---------	---

成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提出課題の質(50%)と授業内で数回行う小テスト(50%)により評価する。</li> <li>・定期試験は実施しない。</li> </ul>
---------	--

教科書／テキスト	<p>・田中邦一ほか著『新版 フォトショップによる衛星画像解析の基礎』(古今書院)4,200円(税別)、ISBN 978-4772271028</p>
----------	---

参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・使用しない。適宜プリントと資料を配布する。</li> <li>・実習に用いるデータや資料は、下に示す授業用ホームページで公開している。</li> </ul>
-----	--

その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本学のPC教場に導入されているArcGIS (ESRI)、Photoshop (Adobe)、Borland C++ Compilerなどを活用して実習を行なう。これらは自習室や地理学科のコンピュータ室でも使うことができる。</li> </ul>
-----	---

関連リンク	<a href="http://www.int2.int.komazawa-u.ac.jp/~yasushi/remosen/">http://www.int2.int.komazawa-u.ac.jp/~yasushi/remosen/</a>
-------	---

履修コード	033001
科目名	歴史地理学
担当者名	小田 匡保

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 主に日本の村落と都市の歴史地理について講義を行う。歴史地理学の範囲は非常に広いので、「浅く広く」を基本に授業を進める。 (到達目標) 歴史時代の事柄も地理学的に扱えることを理解できるようにする。歴史学科学生には、歴史学とは違う地理学的なものの方に見方に慣れてほしい。
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義内容等の概要説明</li> <li>2～3. 歴史地理学の概要</li> <li>4～5. 先史時代の村落</li> <li>6～7. 古代の村落と地方行政区画</li> <li>8～10. 中近世の村落と地方行政区画</li> <li>11～13. 近現代の村落と地方行政区画</li> <li>14～15. 前期のまとめと理解度の確認</li> <li>16. 東京都の地方行政区画の変遷</li> <li>17～23. 古代の都市</li> <li>24. 近世の都市</li> <li>25～26. 歴史地理学の資料</li> <li>27. 歴史的町並み・景観保存</li> <li>28～29. 後期のまとめと理解度の確認</li> <li>30. 大学周辺のミニ巡検</li> </ol>
----------	---

準備学習	毎回の授業の後、ノートやプリントを見直して、話の筋をつかむことを薦める。
------	--------------------------------------

履修上の留意点	この科目は、地理学科・歴史学科両方の専門科目であるが、教員は地理学の間人であるので、地理学的な見方や内容が中心になる。しかし、高校の地理を履修していなければ理解できない内容ではない。むしろ、ある程度の日本史の知識を持っていることが望まれる。ただし、史料講読ではないので、古文書が読める必要はない。
---------	--

成績評価の方法	成績評価は、試験（前期・後期の2回。持込不可）の点数が基本で、これに夏休みの調査レポートの点数を加味して行なう。出席回数が半分に達しない場合や、夏休みレポートが受理されない場合は、単位は認定できない。
---------	--

教科書/テキスト	使用しないが、図表類のプリントを授業で配布する。
----------	--------------------------

参考書	授業中に紹介する。
-----	-----------

履修コード	035201
科目名	歴史地理学実習
担当者名	小田 匡保

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 歴史地理学の史料（あるいは研究対象）として利用されることの多い古地図を、記載文字、地図表現などを手がかりに熟覧する。履修者が分担して発表する形式をとる。大学周辺のミニ巡検か博物館の古地図展示の見学も一度行う。 (到達目標) <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 古地図に親しむ。</li> <li>2. くずし字や古文書特有の表現の一端に触れる。</li> <li>3. 古地図の概要を学ぶ。</li> </ol>
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>第1回 オリエンテーション</li> <li>第2回 古地図の概説</li> <li>第3～15回 履修者の発表（ミニ巡検または博物館見学を一度はさむ）</li> </ol>
----------	--

準備学習	自分の発表の前には、入念に準備してレジュメを作成すること。他の人の発表の場合も、事前に古地図を眺めておくとよい。
------	--

履修上の留意点	旧漢字の知識があることが望ましい。
---------	-------------------

成績評価の方法	平常の学習状況、発表内容、レポートを総合して評価する。
---------	-----------------------------

教科書/テキスト	山下和正『江戸時代古地図をめぐる』（NTT出版）、本体1,650円
----------	-----------------------------------

参考書	林英夫監修『増訂近世古文書解読辞典』（柏書房）、本体2,524円
-----	----------------------------------

その他	教科書が品切になって入手できない場合は、別の授業内容を考える。
-----	---------------------------------

# 專 門 教 育 科 目

## (4) 歷 史 學 科



履修コード	044401 044402
科目名	外国考古学概説
担当者名	飯島 武次

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	「中国の考古学」について講義をおこなう。考古学専攻生として中国考古学の常識的知識を身につけてもらう。 これまでの中国考古学の学史的流れを把握し、各時代の様相を考古学の視点から見ていきたい。あつかう時代は、旧石器から新石器・青銅器時代、および秦・漢から隋・唐くらいまでを予定している。
---------------------	--

授業スケジュール	前期は、考古学の研究法から開始する。外国考古学研究方法に関して(第1回)。その後中国考古学の歴史(第2,3回)、旧石器時代～青銅器時代(第4～10回)、夏・商・周(第11～15回)を予定している。 後期は北方系青銅器文化(第16～20回)、秦・漢(第21～24回)、魏晋から隋唐(第25～30回)を予定している。 必要に応じて、海外調査・学会動向などの情報にも触れる予定である。
----------	---

準備学習	授業終了時に次の授業内容を紹介するので、予習をしてくること。授業終了後はノートをとめること。
------	--

履修上の留意点	授業に積極的な姿勢で臨むことを希望する。
---------	----------------------

成績評価の方法	学年末試験の成績によって判断する。合格は60点以上。
---------	----------------------------

教科書/テキスト	特になし。
----------	-------

参考書	飯島武次、2003、『中国考古学概論』(同成社)。
-----	---------------------------

その他	授業は講義が中心となる。できるだけスライドや映像などを用い、内容の理解を深められるよう努めたい。
-----	--

履修コード	043521 043522 043523
科目名	外国史学基礎演習 東洋史学基礎演習 西洋史学基礎演習
担当者名	大城 道則

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	図書館やインターネットの利用方法、歴史学に関する文献の探し方、レポートの書きかた、授業での発表のやりかたなどを実習形式で学習する。これらを通じて、大学で歴史学を学習し、4年間で立派な卒業論文を仕上げるために必要な、基礎的な技術を習得することが、この授業の目的である。
---------------------	---

授業スケジュール	授業スケジュール 1年間を通じて、以下のような内容を扱う。 第1回：ガイダンス 第2回：歴史学への誘いと大学での学び 第3回：図書館見学 第4回：歴史学に関する文献 第5回：文献の調査(1)：書籍の所在調査とテーマ検索 第6回：文献の調査(2)：論文の調査 第7回：レポートについて 第8回：史実の調べ方(歴史の工具書) 第9回：歴史学とインターネット(1)：大学公式HPを使って 第10回：歴史学とインターネット(2)：さまざまなサイト 第11回：歴史学と学会(駒沢史学会) 第12回：歴史学と博物館(1)：学内の施設 第13回：歴史学と博物館(2)：学外の施設 第14回：ノートテイクの方法 第15回：歴史と地理 第16回：論文の作法、発表の方法 第17回：発表テーマの決定 第18回：レジュメの実例 第19回～29回：受講生による発表 第30回：まとめと次年度以降のガイダンス
----------	--

準備学習	後期の報告に関しては、選択したテーマに関する文献を調べ、報告準備をすること。
------	--

履修上の留意点	履修上の留意点 外国史学専攻の基礎となる授業であり、履修者にレポートの提出や発表などを行ってもらい、担当教員との交流の中で必要な技術や知識を習得することを目的とする。そのため、受講生の授業への積極的な参加が重要であり、必ず毎時間出席すること。原則として欠席は認めない。
---------	---

成績評価の方法	成績は演習中の発表やレポート、必要に応じて行うテストの結果などを総合し、判定する。
---------	---

教科書/テキスト	教科書は特に指定しない。必要に応じて授業内で紹介する。
----------	-----------------------------

参考書	
-----	--

その他	授業は担当教員による解説と、それに対応して受講生が行う具体的な作業(レポートや文献の調査、発表など)を繰り返すことにより進行する。
-----	---



履修コード	055631 055632 055633
科目名	外国史学基礎演習 西洋史学基礎演習 東洋史学基礎演習
担当者名	佐々木 真

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	図書館やインターネットの利用方法、歴史学に関する文献の探し方、レポートの書きかた、授業での発表のやりかたなどを実習形式で学習する。これらを通じて、大学で歴史学を学習し、4年間で立派な卒業論文を仕上げるために必要な、基礎的な技術を習得することが、この授業の目的である。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>1年間を通じて、以下のような内容を扱う。</p> <p>第1回：ガイダンス  第2回：歴史学への誘いと大学での学び  第3回：図書館見学  第4回：歴史学に関する文献  第5回：文献の調査(1)：書籍の所在調査とテーマ検索  第6回：文献の調査(2)：論文の調査  第7回：レポートについて  第8回：史実の調べ方 (歴史の工具書)  第9回：歴史学とインターネット(1)：大学公式HPを使って  第10回：歴史学とインターネット(2)：さまざまなサイト  第11回：歴史学と学会 (駒沢史学会)  第12回：歴史学と博物館(1)：学内の施設  第13回：歴史学と博物館(2)：学外の施設  第14回：ノートテイクの方法  第15回：歴史と地理  第16回：論文の作法、発表の方法  第17回：発表テーマの決定  第18回：レジュメの実例  第19回～29回：受講生による発表  第30回：まとめと次年度以降のガイダンス</p>
----------	---

準備学習	後期の報告に関しては、選択したテーマに関する文献を調べ、報告準備をすること。
履修上の留意点	外国史学専攻の基礎となる授業であり、履修者にレポートの提出や発表などを行ってもらい、担当教員との交流の中で必要な技術や知識を習得することを目的とする。そのため、受講生の授業への積極的な参加が重要であり、必ず毎時間出席すること。原則として欠席は認めない。
成績評価の方法	成績は授業中の発表やレポート、必要に応じて行うテストの結果などを総合し、判定する。
教科書／テキスト	教科書は特に指定しない。
参考書	必要に応じて授業内で紹介する。
その他	授業は担当教員による解説と、それに対応して受講生が行う具体的な作業を繰り返すことにより進行する。

履修コード 055621 055622 055623

科目名 外国史学基礎演習 西洋史学基礎演習 東洋史学基礎演習

担当者名 高田 良太

授業概要/  
到達目標 (ねらい)

図書館やインターネットの利用方法、歴史学に関する文献の探し方、レポートの書きかた、授業での発表のやりかたなどを実習形式で学習する。これらを通じて、大学で歴史学を学習し、4年間で立派な卒業論文を仕上げるために必要な、基礎的な技術を習得することが、この授業の目的である。

授業スケジュール

1年間を通じて、以下のような内容を扱う。  
第1回：ガイダンス  
第2回：歴史学への誘いと大学での学び  
第3回：図書館見学  
第4回：歴史学に関する文献  
第5回：文献の調査(1)：書籍の所在調査とテーマ検索  
第6回：文献の調査(2)：論文の調査  
第7回：レポートについて  
第8回：史実の調べ方(歴史の工具書)  
第9回：歴史学とインターネット(1)：大学公式HPを使って  
第10回：歴史学とインターネット(2)：さまざまなサイト  
第11回：歴史学と学会(駒沢史学会)  
第12回：歴史学と博物館(1)：学内の施設  
第13回：歴史学と博物館(2)：学外の施設  
第14回：ノートテイクの方法  
第15回：歴史と地理  
第16回：論文の作法、発表の方法  
第17回：発表テーマの決定  
第18回：レジュメの実例  
第19回～29回：受講生による発表  
第30回：まとめと次年度以降のガイダンス

準備学習

後期の報告に関しては、選択したテーマに関する文献を調べ、報告準備をすること。

履修上の留意点

外国史学専攻の基礎となる授業であり、履修者にレポートの提出や発表などを行ってもらい、担当教員との交流の中で必要な技術や知識を習得することを目的とする。そのため、受講生の授業への積極的な参加が重要であり、必ず毎時間出席すること。原則として欠席は認めない。

成績評価の方法

成績は授業中の発表やレポート、必要に応じて行うテストの結果などを総合し、判定する。

教科書/テキスト

教科書は特に指定しない。

参考書

必要に応じて授業内で紹介する。

その他

授業は担当教員による解説と、それに対応して受講生が行う具体的な作業(レポートや文献の調査、発表など)を繰り返すことにより進行する。

履修コード	043511 043512 043513
科目名	外国史学基礎演習 東洋史学基礎演習 西洋史学基礎演習
担当者名	中村 淳

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	図書館やインターネットの利用方法、歴史学に関する文献の探し方、レポートの書きかた、授業での発表のやりかたなどを実習形式で学習する。これらを通じて、大学で歴史学を学習し、4年間で立派な卒業論文を仕上げるために必要な、基礎的な技術を習得することが、この授業の目的である。
---------------------	---

授業スケジュール	1年間を通じて、以下のような内容を扱う。 第1回：ガイダンス 第2回：歴史学への誘いと大学での学び 第3回：図書館見学 第4回：歴史学に関する文献 第5回：文献の調査(1)：書籍の所在調査とテーマ検索 第6回：文献の調査(2)：論文の調査 第7回：レポートについて 第8回：史実の調べ方(歴史の工具書) 第9回：歴史学とインターネット(1)：大学公式HPを使って 第10回：歴史学とインターネット(2)：さまざまなサイト 第11回：歴史学と学会(駒沢史学会) 第12回：歴史学と博物館(1)：学内の施設 第13回：歴史学と博物館(2)：学外の施設 第14回：ノートテイクの方法 第15回：歴史と地理 第16回：論文の作法、発表の方法 第17回：発表テーマの決定 第18回：レジュメの実例 第19回～29回：受講生による発表 第30回：まとめと次年度以降のガイダンス
----------	--

準備学習	後期の報告に関しては、選択したテーマに関する文献を調べ、報告準備をすること。
履修上の留意点	外国史学専攻の基礎となる授業であり、履修者にレポートの提出や発表などを行ってもらい、担当教員との交流の中で必要な技術や知識を習得することを目的とする。そのため、受講生の授業への積極的な参加が重要であり、必ず毎時間出席すること。原則として欠席は認めない。
成績評価の方法	成績は授業中の発表やレポート、必要に応じて行うテストの結果などを総合し、判定する。
教科書/テキスト	教科書は特に指定しない。
参考書	必要に応じて授業内で紹介する。
その他	授業は担当教員による解説と、それに対応して受講生が行う具体的な作業(レポートや文献の調査、発表など)を繰り返すことにより進行する。

履修コード	028201
科目名	ギリシャ語
担当者名	長谷川 岳男

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	西洋の多くの言語の語彙や文法にとってルーツに位置する古典ギリシア語の基礎を学ぶことを主要な目的としています。そして古典ギリシア語のみならず、その文法や語彙の学習、読解を通して、英・独・仏・伊などの言語の仕組みを理解することもめざします。
---------------------	--

授業スケジュール	前期は、第1回目のオリエンテーションで古典ギリシア語を用いていた古代ギリシア世界が西洋文明において有する意義と、西洋諸言語における古典ギリシア語の影響と学ぶ現代的有用性を説明して学習の動機付けを行います。第2回目、3回目はローマン・アルファベットとは異なるギリシア・アルファベットを学び、第4回目から第9回目まで、文法の基礎事項を扱って、現代の西洋諸言語に通ずる決まりを理解します。第10回目から第30回目までは、簡単な古典ギリシア語の講読を文法事項の学習とともに進めることで、古典ギリシア語の理解を深める予定です。このような進行の合間に、古典ギリシア語の理解には、その背景にある古代ギリシア世界の理解が不可欠なために、何度かビデオやスライドなどで、ギリシア世界に触れてもらおうと思っています。
----------	---

準備学習	課題として出される教科書の練習問題やテキストの和訳の予習が必要となります。
履修上の留意点	ただ講義に参加するだけでは古典ギリシア語の習得は難しいので、受講生の皆さんの積極的な取り組みが必要です。具体的には、最初の文法事項の学習の際には、練習問題を解いて参加しなければ意味がありません、講読の際には事前に予習することが不可欠になります。
成績評価の方法	二度行うテスト、講義時に練習問題を解いたり、講読において和訳する際の積極的な参加などを総合して評価します。ですから出席は必要となります。このような形で評価しますので、追試験は行いません。
教科書/テキスト	田中利光『新ギリシャ語入門』、大修館書店、3400円、ISBN 4-469-21191-5。それ以外に必要なものはこちらで印刷して配布します。
参考書	講義中に随時、指示します。

履修コード	046301
科目名	記録史料学I
担当者名	松本 信道 久保田 昌希 鈴木 雅晴

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	古代から近世にいたるわが国の史料保存の歴史や史料論について講義する。とかくおちいりがちな、ひとつの時代に片寄った史料論ではなく、全時代を対象とした古文書学をめざす。また、文書を後世に残していこうという姿勢を国家レベルで打ち出した公文書館法（昭和62年制定）やアーキビスト（文書士）養成問題などもふまえて、史料の保存と利用に関する問題にもふれるつもりである。さらに、古文書のみならず歴史資料として絵画や出土遺物・金石文なども視野に入れて考えていきたい。
---------------------	---

授業スケジュール	(1) ガイダンス……（担当教員全員）。 (2) 文字の伝来と受容、(3)～(5) 古代の文書様式、(6) 正倉院文書、(7) 木簡、漆紙文書・墨書土器などの利用法、(8) 金石文の有効性…（松本信道担当）。 (9)～(11) 中世の史料について、(12)～(14) 中世史料学、(15)～(18) 中世史料の管理、(19)～(20) 中世史料の保存と伝来…（久保田昌希担当）。 (21) 近世文書の特質、(22) 近世文書の所在と種類、(23)～(26) 武家文書のいろいろ、(27) 町方・村方文書の所在と種類、(28) 年貢の賦課・徴収と文書、(29) 領主支配と文書、(30) 訴訟と文書…（鈴木雅晴担当）。 ※以上とは別途に文書館・史料館等への見学を実施する予定。
----------	---

準備学習	古文書学の基礎知識を事前に学習しておくこと。
------	------------------------

履修上の留意点	古代から近世までの古文書の全体について学びたいと思っている学生、また、従来の古文書学に加えて史資料の保存・利用といった観点に興味をもっている学生の履修を期待する。
---------	---

成績評価の方法	試験・レポートの成績によって評価する。
---------	---------------------

教科書／テキスト	教科書は特定のものを用いず、必要に応じて担当教員が指示する。
----------	--------------------------------

参考書	各担当教員が教場において指示・紹介する。
-----	----------------------

その他	講義が中心となるが、必要に応じてビデオ・スライド・OHPなどを使用する。
-----	--------------------------------------

履修コード	044811
科目名	記録史料学II
担当者名	熊本 史雄 小泉 雅弘

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	現在、各地の文書館などで記録史料を取り扱う専門職（アーキビスト）の設置が検討されており、その必要性が広く認識されているが、本講義では、記録史料を取り扱う基本的な知識を取得する事を目的としている。ここでは、明治維新以降に作成された様々な「近代史料」について、史料の収集や整理、保存さらに修復など、さらには近年注目される「オーラルヒストリー」の方法など、「記録史料（アーカイブ）」の全般について講義する。前期は、とくに公文書の読解における作法を学び、後期は、「近代史料」の取り扱い方全般について学ぶ。前期では具体的には外交文書（電報、公信）を主として採り上げ、そこから窺い知れる文書処理や政策決定の過程、さらには「記録」として保存されることの意味につき検証する。これらを踏まえ、階層構造をなす文書群の固有の体系性について考える。また、「記録史料学」の授業の中では、教室での講義にとどまらず、実際に文書館を訪ね、現物の史料にふれると共に史料整理や保存などの現場を見学し、実践的な学習を重視する。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>1 回 講義の概要（授業計画／参考文献）（担当：熊本・小泉）</p> <p>前期（担当：熊本）</p> <p>2 回 記録史料学とは－歴史学と記録史料－【概説】</p> <p>3 回 記録史料学の方法と対象－補助科学としての史料学からアーカイブズ学へ－【概説】</p> <p>4・5 回 公文書館の機能と役割 【公文書館論】</p> <p>6 回 国民国家形成とアーカイブズ①－フランス革命と文書館－【公文書館論／記録管理論】</p> <p>7 回 国民国家形成とアーカイブズ②－近代日本の文書行政－【公文書館論／記録管理論】</p> <p>8 回 近代日本と公文書①－外交文書－【記録資料論／記録管理論】</p> <p>9 回 近代日本と公文書②－拓務省関係文書－【記録資料論／記録管理論】</p> <p>10 回 近代日本と公文書③－府県文書と町村文書－【記録資料論／記録管理論】</p> <p>11・12 回 公文書のライフステージと評価・選別－移管・保存・廃棄－【評価・選別論】</p> <p>13 回 「近代史料学」の世界－文書群の構造と組織機能の解明－【「近代史料学」】</p> <p>14 回 「情報公開法」と「近代史料学」【「近代史料学」】</p> <p>15 回 中間試験</p> <p>《以上前期》</p> <p>後期（担当：小泉）</p> <p>16 回 公文書館の資料収集について</p> <p>17 回 史料の整理－現状記録論－</p> <p>18 回 史料の整理－封筒詰め・封筒書き－</p> <p>19・20 回 史料の整理－目録の作成－</p> <p>21・22 回 史料の保存と管理</p> <p>23 回 マイクロカメラの組立て・操作</p> <p>24・25 回 史料の修復</p> <p>26 回 史料閲覧の考え方</p> <p>27 回 「オーラルヒストリー」の方法</p> <p>28・29 回 記録映像の制作と活用</p> <p>30 回 まとめ</p>
----------	---

準備学習	特になし。
履修上の留意点	積極的に授業に参加し、史料に接する事の喜びを感じ取ってほしい。また、「公文書」がもつ「固有の体系性」を学び取って欲しい。
成績評価の方法	前後期授業における試験の結果（70%）と、出席状況と授業態度さらに夏冬にそれぞれ行う公文書館訪問への参加（30%）、などを総合的に判断する。
教科書／テキスト	特に指定しない。
参考書	適宜紹介する。
その他	「記録史料学II」と合わせての履修が望ましい。夏と冬に文書館見学を行う。

履修コード	054601
科目名	考古学演習I
担当者名	飯島 武次

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	中国考古学に関する原書講読(中国語・英語文献)を通して、中国語・英語による外国考古学一般および中国考古学の学習方法を身につけることを「ねらい」とする。中国語・英語の考古学基礎用語・遺跡名・遺構名称を確認しながら、それを今後の調査研究・発掘調査に活かしてもらう。
---------------------	--

授業スケジュール	前期 ① 基本講義 - 中国の人文地理 ② 基本講義 - 中国考古学史1 ③ 基本講義 - 中国考古学史2 ④ 担当教員による中文講読 ⑤～⑮ 学生による基本講読 中文原書・英文原書の読み方
----------	--

後期	①～⑭ 学生による講読 中文原書・英文原書からの発表。 中文原書に関しては中国社会科学院考古研究所、『中国考古学 両周巻』(2004年)の中文講読を行う。講読部分の引用関連文献にも目を通しておく必要があり、遺跡分布図などの図版作成の必要もある。英文に関しては、飯島武次『中国考古学概論』および『中国夏王朝考古学研究』の英文要旨を講読。 ⑮ 総括
----	--

準備学習	予習を行い講読箇所の表音文字(拼音字母)を必ず調べておくこと。
履修上の留意点	発表者はいかなる理由があっても無届けで欠席・遅刻をしないこと。状況によっては、成績評価に大きく影響することを書き添えておく。
成績評価の方法	出席状況(発言回数など積極的な参加状況を重視する)。 発表内容(発表の創意工夫、原書内容の理解度など)。
教科書/テキスト	講読テキストはコピーして配布する(要実費)。

『中国考古学 両周巻』 2004年  
 購入する必要はないが、図書館等で現物を確認すること。テキスト以外の必要箇所等は複写して入手すること(適時指示する)。

参考書	授業時に指示する。
その他	中国考古学および外国考古学で卒業論文を予定している学生は履修することが望ましい。基礎的な中国語能力を有していることが望ましい。

履修コード	054501
科目名	考古学演習I
担当者名	酒井 清治

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	将来卒業論文を作成するための基礎的な力を養うため、日本考古学の論文の読み方、論文作成のための資料収集法、執筆の方法、考古学の考え方を学ぶ。また、論文作成の基礎知識を養う。そこから何をどのように研究するか自ら探し出していけるよう指導する。
---------------------	--

授業スケジュール	いくつかの日本考古学の論文や書籍の中から自分の興味ある題材を選択し、発表要旨を作成して発表してもらう。その中から発表の仕方、文献や資料の使い方、図版の作り方などを学び、発表の内容などについて全員で論議する。また、興味あるテーマの文献目録を作成して、卒論準備を行い、研究テーマを絞るよう指導する。時間があれば、博物館で資料を見ながら講義し、資料の見方を学んでもらう。 授業は人数が多いため、(1～2)資料の集め方、研究発表の方法等について、(3～30)研究発表
----------	--

準備学習	考古学に対する興味を深めるために考古学資料を見ること。興味ある分野の文献集成を行い、その中からいくつかを取り上げ、何度も読み返して興味深め、論文の構成を勉強してほしい。
履修上の留意点	受講者はそれぞれが積極的に論文を読み、発表に対する質疑にも積極的に参加すること。また関連する遺物・遺跡を自ら積極的に見学することを心がけること。
成績評価の方法	研究レポート(20%)、発表要旨(40%)、報告者へのコメント(20%)、平常点(20%)。特に授業で発表者に質問した回数は重視する。また最後に自分が興味を持って、将来卒業論文を書くようとする分野の論文集成を提出してもらう。
教科書/テキスト	研究する上に必要な論文等は授業の中で指摘する
参考書	論文掲載の引用文献
その他	授業以外に研究室へ来てもらい個別指導を行う。

履修コード	054611
科目名	考古学演習I
担当者名	寺前 直人

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	日本考古学の卒業論文を作成するための基礎的な力を養う。論文作成のための批判的な立場での先行研究の読み方、これまでの研究と最新の資料状況との対比をとおして、卒業論文の作成にいたる論点を抽出するノウハウを学ぶ。
授業スケジュール	これまでの日本考古学の論文や書籍から興味ある題材を選び、レジュメを作成して発表してもらう。発表方法、文献や資料の引用、図版の作成方法などについて随時指導する。発表の内容などについては全員で論議する。後期には発表した内容を考慮して卒論の題材を想定したテーマの研究史をまとめたレポートを提出する。
準備学習	できるだけ多くの遺跡や遺物など考古学資料をみて、展示説明や書籍での説明で分からなかったこと、納得できないことをみつけること。このような意識で資料に接することが、卒業論文のテーマをみつけることにつながります。
履修上の留意点	授業はゼミ形式で行います。発表に対する質疑に積極的に参加すること。また関連する遺物・遺跡を自ら積極的に見学することを心がけること。
成績評価の方法	研究レポート、発表要旨、報告者へのコメント、出席状況。授業で発表者に質問した回数は重視する。
教科書/テキスト	研究する上で必要な論文等は授業の中で随時紹介する。
参考書	随時紹介。
その他	授業はゼミ形式。

履修コード	056001
科目名	考古学演習II
担当者名	飯島 武次

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	卒業論文の提出を到達目標とする。学術論文は、一定のルールによって作成されており、卒業論文においてもその様式が求められる。卒業論文作成のための研究の進め方や、論文の書き方などを指導する。また、履修者の発表を行うことにより、各人のテーマに沿った卒業論文の進め方も指導していく。
授業スケジュール	卒業論文の研究手法の指導を行う。また、論文作成のためのノウハウや、論文の形式、章立てのやり方なども指導していきたい。 履修者は、卒業論文の進捗状況に合わせ、研究発表を行う。 前期 ①～③ 講義 卒業論文の書き方 ④～⑮ 学生による研究発表 後期 ①～⑭ 学生による研究発表 ⑮ 卒業論文口述試験の説明
準備学習	発表者は発表配布資料を作成してくること。
履修上の留意点	発表者は、いかなる理由があっても、無断での欠席・遅刻は認めない。発表者の遅刻・欠席に関しては、単位取得に大きな影響が出ることを覚悟していただきたい。
成績評価の方法	平常点。特に発表時の作成資料や研究の深度、討論への積極的な参加などを考慮する。
教科書/テキスト	特になし。
参考書	特になし。
その他	卒業論文はレポートと違います。「研究」をすることにより、初めて「論文」が書けます。ぜひ研究する楽しさを実感し、良い卒業論文を書いてください。

履修コード	055901
科目名	考古学演習II
担当者名	酒井 清治
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	卒業論文は4年間の学習の集大成と考え、演習Iで絞ってきた研究テーマをさらに具体的ににして、論文をどのように書いて行くのかを指導する。
授業スケジュール	最初の2週は論文の書き方について説明する。その後、自分のテーマと関連ある主要論文を読み込み、研究の方向性を決め、テーマに沿った卒業論文の構成作りを行うために、各自のテーマに基づいた研究発表を行い、皆で議論しながら論文としてまとめられるよう指導する。また、博物館・教育委員会などで実物資料を見ながら研究テーマを深めるよう指導する。
準備学習	考古学は実証に基づく学問であるので、現地に行き、実物を見ることにより理解が深まる。また、自分が目指す研究方向に参考となる文献を見つけ、熟読してほしい。
履修上の留意点	発表者は事前に発表する日を知らせるので、準備するとともに、当日発表者は遅刻、欠席をしないこと。欠席した場合は単位が取れないと考えてほしい。
成績評価の方法	発表要旨の作成(40%)と発表の内容(40%)を重視する。また、卒論の進行状況を把握するためにも出席および、授業で発表者に質問した回数(20%)も重視するので積極的に議論に参加してほしい。
教科書/テキスト	
参考書	授業の中で紹介する。
その他	授業以外に研究室に来てもらい個人指導を行う。

履修コード	056101
科目名	考古学演習II
担当者名	寺前 直人
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	卒業論文の提出を到達目標とする。考古学における学術論文は、客観的な資料の提示をふまえた論理展開が不可欠である。また、実測図や分布図など適切な図表を作成する必要もある。さらに先行研究をふまえたオリジナリティーを学術論文のルールにそった様式で表現しなければならない。これらの点を考慮したうえで、卒業論文作成のための研究の進め方や、論文の書き方などを指導する。
授業スケジュール	履修者は、卒業論文の進捗状況に合わせ、研究発表を行う。参加者全員の質疑応答と教員の指導により、よりよい卒業論文の作成をめざす。 第1～3回 講義(卒業論文の書き方) 第4～29回 学生による研究発表 第30回 卒業論文口述試験の説明
準備学習	発表者は過不足のないレジюмеを当日までに準備し、印刷すること。
履修上の留意点	発表者の無断での欠席・遅刻は認めない。
成績評価の方法	平常点。発表内容や質疑、討論への参加度を評価する。
教科書/テキスト	特になし。研究テーマに即して随時紹介。
参考書	随時紹介。
その他	卒業論文は大学生活の総括です。「研究」の辛苦とそのさきにある知的感動を味わえるようがんばってください。



履修コード	052311
科目名	考古学各説I
担当者名	近藤 英夫

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>授業概要 インダス文明は、前2500～1800年頃にインド亜大陸西北部、インダス川流域を中心に栄えた都市文明であり、四大文明の一つにあげられる。授業では、この文明について最新の情報を整理し、紹介していきたい。</p> <p>到達目標 かつて、インダス文明は「突然」に成立し、「忽然」と姿を消したとされてきた。しかしながら、近年の発掘調査の進展により、決してそうではないことが明らかになってきた。すなわち、文明は、インダス川流域で長い時間をかけて形成されたのであり、また、インダス文明のさまざまな文化要素は、その後の南アジア社会の基層文化として継承されたことなどが、理解されてきたのである。授業では、最新の文明理解について詳述する。 その作業を通して、古代文明の構造的把握を行う視点を養う。これが、この講義の第一の到達目標である。さらに、日本国内とは異なった環境があることの理解を促進することも、この授業のねらいである。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>(1～2) インダス文明を育んだ環境 (3～5) 文明を生み出したものはなにかについて検討 (6～8) 都市とは何か—その構造的理解— (9～12) 文明成立への胎動—初期ハラッパー諸文化の展開— (13～15) インダス諸都市の成立 (16～18) インダス都市から見る文明の構造 (19～22) インダス文明人の持ち物—遺物考— (23～25) 海をわたる文明—対メソポタミア交易 (26～27) 文明衰退を巡る議論 (28～30) 文明滅亡と、その後のインド世界</p>
----------	---

準備学習	インダス文明が展開した地域は日本列島とは異なる地理的・気候的環境の世界である。日常的に、地図や写真やTV番組などをおして、異なった環境への理解を自主的にすることが望まれる。
------	--

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	夏期と学期末とにレポート提出をしてもらい、それを評価の基本とする。出席状況も考慮する。
---------	---

教科書／テキスト	
----------	--

参考書	
-----	--

履修コード	052511
科目名	考古学各説III
担当者名	三宅 俊彦

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 東アジアの出土銭について考古学の視点から講義を行う。本講義では、ベトナムやインドネシアなど一部東南アジア地域も含め、東アジア地域各地の貨幣経済の様相を、出土銭から明らかにする。扱う時代は、宋代から清代くらい(11世紀~19世紀)を予定している。</p> <p>(到達目標) 到達目標は、10世紀~18世紀にかけての貨幣の動きを把握し、地域・王朝間を銭貨がダイナミックに移動していたことを理解できるようにする。 前期は中国の宋代以降、遼・金・西夏といった北方の王朝も含めて、銅銭による貨幣が非常に発達する様相を一括出土銭から復元し、中国の貨幣経済の様相を具体的に理解できるようにする。 後期は中国だけでなく、周辺の東アジア地域にも視野を広げ、日本をはじめとして、モンゴルやサハリン、ベトナム、インドネシアなどでも中国の銭貨を主体とした貨幣経済が行われていたことを、考古資料を通して把握し、地域・王朝を越えた銭貨の動きがあったことを理解する。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンスおよび貨幣とは何か</li> <li>2. 中国古代の貨幣</li> <li>3. 出土銭貨の調査方法1</li> <li>4. 出土銭貨の調査方法2</li> <li>5. 唐・五代十国の流通銭貨</li> <li>6. 宋代の一括出土銭</li> <li>7. 元・明の一括出土銭</li> <li>8. なぜ銭貨を埋めるのか</li> <li>9. 埋められた年代を探る</li> <li>10. 戦乱と一括出土銭</li> <li>11. 銭貨の種類を調べる</li> <li>12. 各王朝の銭種組成1 (銅銭)</li> <li>13. 各王朝の銭種組成2 (銅銭)</li> <li>14. 各王朝の銭種組成3 (銅銭)</li> <li>15. 各王朝の銭種組成4 (鉄銭)</li> <li>16. 各王朝の銭種組成5 (鉄銭)</li> <li>17. 副葬される銭貨</li> <li>18. 金の銭貨流通 (銭貨の流通モデル)</li> <li>19. モンゴルの出土銭</li> <li>20. 日本の一括出土銭1</li> <li>21. 日本の一括出土銭2</li> <li>22. 日本の一括出土銭3</li> <li>23. 日本の一括出土銭4</li> <li>24. 寛永通寶と清代の銭貨</li> <li>25. サハリンの出土銭1</li> <li>26. サハリンの出土銭2</li> <li>27. ベトナムの一括出土銭1</li> <li>28. ベトナムの一括出土銭2</li> <li>29. インドネシアの出土銭</li> <li>30. まとめ</li> </ol>
----------	--

準備学習	<p>本講義は考古学の授業であるが、11世紀以降19世紀までの歴史に関する概説的な知識が必要となる。また扱う範囲も中国をはじめ、東アジア、北東アジア、東南アジアと広範囲におよぶ。歴史の概説書などにより、事前に当該時期、当該地域の歴史を大まかに把握しておくこと、授業内容が理解しやすくなるので、予習しておくこと。</p>
------	---

履修上の留意点	<p>授業では、2~3回に一度の割合で、授業時間内のレポート提出を予定している。これらは成績評価の参考とするので、欠席をしないこと。また、時間を区切って作業を進める授業もあるため、遅刻をすると授業の進行に支障が出る。遅刻はしないこと。 授業内のレポート提出などは、授業を気をつけて聴いていないと作成できない。積極的な姿勢で授業に臨むこと。</p>
---------	---

成績評価の方法	授業内レポート40%、学期末レポート40%、平常点20%とする。
---------	----------------------------------

教科書/テキスト	特になし。
----------	-------

参考書	<p>三宅俊彦 『中国の埋められた銭貨』 同成社 2,800円+税 ISBN4-88621-309-X その他、必要に応じて適宜指示する。</p>
-----	---

履修コード	043531
科目名	考古学基礎演習
担当者名	寺前 直人

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	考古学はモノ(遺跡・遺物)から、過去の人類の歴史を明らかにする学問です。歴史学という点では、高校までの日本史や世界史と同じですが、モノから客観的な情報をひきだすための知識と技術を学ぶ必要があります。この演習では、考古学に関する情報を集める方法、集めた情報の整理方法を学びます。まず、実際の遺跡や博物館の展示品の観察方法や論文や書籍の探し方、読み方などを学びます。次に、資料に基づく自分の理解や考えを第三者に伝えることを実践し、プレゼンテーション技術と討論の仕方を学びます。
---------------------	--

授業スケジュール	第1回：授業計画のオリエンテーション、第2～3回：遺物観察法1(出土品を実際に手に取り、遺物の観察方法を学ぶ)、第4～6回：遺物分析法(観察結果に基づき、その考古資料を分析する手続きを学ぶ)、第7～9回：図書館・博物館の利用法、第10～15回：個人発表1、第16～18回：発掘調査報告書読解法、第19～22回：遺物観察法2(型式学の実践)、第23回：遺跡観察法(考古学のフィールドワークの紹介)、第24～29回：個人発表2、第30回：総括
----------	---

準備学習	発表・レポートは入念に準備して臨むこと。
履修上の留意点	講義中の私語は控えるように。真剣に聞いている者の迷惑になる者は退席を願うので、要注意。私語厳禁。真剣に聞いている者の迷惑になる行為を行う者には退席を願う。口頭発表の際には積極的な発言をしてください。
成績評価の方法	講義中の演習発表(年2回)と小テスト(年数回)、夏期レポート、授業出欠状況に基づき評価する。
教科書/テキスト	随時紹介。
参考書	とくになし。

履修コード	045601
科目名	考古学史
担当者名	小柳 美樹

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	日本考古学研究の歴史を通して、研究の方法や論理構築の仕方、議論・論争の展開について学ぶ。また近年の考古学の発見が、研究史に照らし合わせれば、どのような意義を有しているのかも確認する。そして、自己の研究への姿勢、理念、方法論の確立等を構築するための一助となることを望む。
---------------------	--

授業スケジュール	日本考古学の歩みを発見・発掘調査・研究者列伝・論争などを軸に論じる。 前期 ①～③ 日本考古学のはじまり・江戸時代の考古学 ④～⑥ 近代科学と考古学(大森貝塚の発掘・外国人の研究) ⑦～⑨ 明治時代の考古学(坪井正五郎・コロボックル論争) ⑩～⑫ 浜田耕作の考古学研究(京都大学の考古学研究) ⑬～⑮ 大正時代の考古学(鳥居龍蔵など) 後期 ①～③ 森本六爾と東京考古学会 ④～⑥ 縄文時代研究史(山内清男など) ⑦～⑨ 小林行雄の考古学研究(弥生時代・古墳時代・鏡・邪馬台国) ⑩～⑫ 旧石器時代研究史(岩宿遺跡の発見・前期旧石器問題・捏造問題)
----------	---

準備学習	準備に関しては特に必要無いが、復習では授業で取り上げた文献を購読したり、博物館や遺跡巡りを積極的にこなして欲しい。
履修上の留意点	限られた時間内では全てを言及することができないため、授業の中で取りあげられた文献や調査報告書を自主的に積極的に目を通し、博物館などで実物資料を観察して復習して欲しい。授業の理解度や興味の深さが一層増すはずである。 学生諸君には考古学という枠組みをこえたさまざまな領域に興味を持つことを期待したい。
成績評価の方法	夏季休暇中にレポート作成を課す(提出によって学年末試験を受けることができる条件とする)。 学年末の試験(筆記試験)が成績評価の大部分を占める。 出席状況はあくまで参考程度。
教科書/テキスト	なし(レジュメを準備し、授業時に配布する)
参考書	授業時に随時紹介していく

履修コード	045911
科目名	考古学実習（実測）
担当者名	杉山 浩平
授業概要/ 到達目標（ねらい）	考古学を勉強する上で、各種出土品を図化し資料化することは必須である。本授業では、主に土器と石器を用いて、資料の観察と図化するための方法を学習する。そして、卒業論文作成時に役立つように図版の作り方（トレースやレイアウト作業）についても説明をする。
授業スケジュール	前期では、図化する必要性について説明を行い、資料を観察して特徴・製作技術について解説が出来るようになる。その後、実測方法を習得する。後期では、実測や拓本を行い、実測図面の清書（トレース作業）および図版作りを行う。資料の観察・実測は、授業時間内では終わらないと思われるので、宿題として次の授業までに終わらして授業時に解説等を行う。結果として出来るだけ多くの資料に触れられるようにする。
準備学習	配布する資料をよく読み理解しておくこと。博物館等に積極的に出向き、できるだけ多くの資料をみること。
履修上の留意点	資料の説明や観察や実測の方法を説明するので、欠席はしないこと。また、宿題を行うこと。
成績評価の方法	授業への取り組みと提出された課題に基づく。
教科書／テキスト	授業中に指示する。
参考書	授業中に指示する。

履修コード	045701
科目名	考古学実習（写真）
担当者名	塚原 明生
授業概要/ 到達目標（ねらい）	考古学における、発掘現場写真撮影出土遺物写真撮影について基礎より学ぶ。
授業スケジュール	写真撮影の為のカメラ機材及び写真用品の解説とその使用方法、用途や目的に応じたその利用方法を写真専門用語と共に基礎より学び、撮影実習暗室実習を通して写真記録の重要性を考える。
準備学習	使用機材（一眼レフカメラ等）の取り扱い説明書を熟読すること。
履修上の留意点	受講生は実習を円滑に進める為、原則的に35mm判一眼レフカメラを所持する事を条件とする。（コンパクトカメラは不可）
成績評価の方法	課題写真提出、出席点（どちらが欠けても評価の対象外とする）
教科書／テキスト	
参考書	
その他	前期に講義を中心とし撮影実習（屋外）後期に撮影実習（屋内）及び暗室実習を行なう。

履修コード	046101
科目名	考古学実習（情報）
担当者名	小柳 美樹

授業概要/ 到達目標（ねらい）	この授業は、パソコンを利用しながら考古学上の調査方法および整理技術、研究を進めていく際に必要な基礎知識や考え方を理解していくものである。
--------------------	--

授業スケジュール	基本的なパソコンソフトである文章作成機能、数理統計機能、図画作成、写真加工機能、インターネット環境などを使用し、与えられた課題を処理していく。そのため、授業時間の大半は、パソコンを活用しながらの作業になる。
----------	---

前期

- ①～⑤ インターネットによる資料・情報収集
- ⑥～⑩ パワーポイントを使った発表資料の作成
- ⑪～⑮ 発表とその反省によるパワーポイントの修正

後期

- ①～⑤ フォトショップを使った提示資料の作成
- ⑥～⑫ イラストレーターを使った考古資料トレース図の作成
- ⑬～⑮ GIS分析ソフトなどの活用

\*なお、受講者の希望によっては、講義内容を臨機応変に変更し、能力向上と学習目標の達成を図りたい。

準備学習	特に必要無い
------	--------

履修上の留意点	履修する学生はパソコン利用が初心者であるものを優先したい。すでにパソコンに慣れている学生には物足りなく感じてしまう恐れがある。ご注意願う。 課題は考古学に関するものである。そのため、基礎的な考古学用語などを把握している学生が望ましい。
---------	--

成績評価の方法	出席状況を重視するが（およそ60%）。 複数の課題を期日までに全て提出していることも評価点とする（およそ40%）。
---------	--

教科書／テキスト	指定する教科書・参考書はない。
----------	-----------------

参考書	
-----	--

その他	開講時までに学内パソコン利用の登録を済ませておくこと。
-----	-----------------------------

履修コード	045801
科目名	考古学実習（測量）
担当者名	古庄 浩明

授業概要/ 到達目標（ねらい）	発掘調査に必要な測量技術を習得する。この授業は、2月に実際の古墳を測量し、報告書としてまとめ上げるという、実践的な授業です。
--------------------	--

授業スケジュール	測量機器を使って野外で測量活動をおこなう。また、2月に3週間ほど実際の遺跡の測量調査をおこなう。第1回：測量とは 教室での講義。第2～4回：BMの移動。第5～8回：トータルステーションの使い方。第9～15回：トータルステーションの立て方実習。第16回以降トータルステーションを使った校内での測量実習。最終回：測量実習の試験。2月の3週間：実際の古墳での測量とその報告書作成作業
----------	--

準備学習	下記のブログにて、講義ノートなどの参考資料を公開している。
------	-------------------------------

履修上の留意点	野外での作業を伴うので、作業しやすい服装で受講すること。
---------	------------------------------

成績評価の方法	「出席」と「2月におこなう遺跡測量へ参加できるかどうか」を最も重視する。また、一定の技術を習得したか授業中に試験を行う。
---------	--

教科書／テキスト	プリントを配布。下記のブログにて必要な資料は公開しています。各自ダウンロードしてください。
----------	---

参考書	野帳（150円程度）・コンベックス・電卓（ともに100円ショップで売っているものでよい）が必要。どのようなものを買ったほうが良いか授業中に指示します。
-----	---

その他	男女とも野外作業に適した服装。雨天でも通常の授業では屋根のある場所で測量実習を行う。
-----	--

関連リンク	<a href="http://wacoffee.blogspot.com/">http://wacoffee.blogspot.com/</a>
-------	---

履修コード	052711 052712
科目名	考古学特講I
担当者名	酒井 清治
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	日本列島には各時代にわたって大陸から多くの渡来人が訪れた。彼らは日本に多くの文化や技術を伝え、それは日本文化の形成に影響を与えた。渡来人が弥生時代・古墳時代・歴史時代に伝えた文化は、発掘調査によって多くの遺跡・遺物として確認できる。そのような遺跡・遺物を取り上げ、渡来人がどのような文化を残し、それがどのように受け入れられていったのかを探り、各時代の文化に与えた影響などについて考えてみる。 日本文化の形成に影響を与えた渡来文化はどのようなものであり、どのように受け入れられていったのかを理解してもらいたい。
授業スケジュール	弥生・古墳・歴史時代を通史的に、それぞれの時代の渡来人と彼らが伝えた渡来文化について遺物・遺跡などの資料を紹介する。 (1) 渡来人とは何か、(2~4) 海を渡ってきた渡来人、(5~9) 米作りと武器を伝えた渡来人、(10~14) 倭のクニゲニと渡来人、(15~18) 大和政権と渡来人、(19~25) 渡来人の伝えた古墳時代の技術、(26~30) 飛鳥時代の渡来人と渡来文化
準備学習	資料を配付するので事前に学習してほしい。また高校の教科書程度でよいので、時代ごとにどのような渡来文化があるのか理解して授業に望んでほしい。
履修上の留意点	遅刻をしないこと
成績評価の方法	レポート2回 (70%)、平常点 (30%)
教科書/テキスト	特にないが授業中に資料を配付する
参考書	大橋信弥・花田勝広編『ヤマト王権と渡来人』サンライズ出版株式会社 4500円 ISBN978-4-88325-274-9(4-88325-274-4) C3021 加藤謙吉『大和の豪族と渡来人』吉川弘文館 1700円 ISBN9784642055444 田中史生『倭国と渡来人—交錯する「内」と「外」—』吉川弘文館 1700円 ISBN9784642055994 花田勝広『古代の鉄生産と渡来人』雄山閣 15750円 ISBN 4-639-01775-8
その他	授業は写真や図を見せながら講義を行う。

履修コード	052911 052912
科目名	考古学特講III
担当者名	小林 謙一

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	文字史料のない先史時代は当然だが、歴史時代以降も歴史を構築していくために、物質文化による再構成の手段である考古学的手法は重要である。考古学研究を目指す者はいうまでもなく、歴史研究を目指す者にとっても必要不可欠である考古学的手法を理解してもらう目的で、日本先史時代である縄紋時代研究の基礎理論から土器研究、集落研究におけるケーススタディまで「縄紋時代の考古学」を講義する。さらに炭素14年代測定法など、進展の著しい自然科学的研究法についても扱い、基礎的な理解から様々な視点を考古学的課題へ応用するための知見を身につけてもらうことを目標とする。なお、具体的なケーススタディは日本先史時代を中心とするが、必要に応じ近現代考古学まで紹介する。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>第1回 先史考古学とはなにか、縄文と縄紋</p> <p>第2回 縄紋時代研究概略1 縄紋遺跡調査法・発掘</p> <p>第3回 縄紋時代研究概略2 縄紋遺跡と遺構 遺跡の種類</p> <p>第4回 縄紋時代研究概略3 縄紋遺物の種類</p> <p>第5回 縄紋時代研究法1 低湿地遺跡研究</p> <p>第6回 縄紋時代研究法2 貝塚遺跡・岩陰遺跡</p> <p>第7回 縄紋時代研究法3 層位学・型式学</p> <p>第8回 縄紋時代研究法4 型式論(セリエーション)</p> <p>第9回 縄紋時代土器研究1 中期加管利E式と管利式</p> <p>第10回 縄紋時代土器研究2 阿玉台式土器文化と勝坂式土器文化</p> <p>第11回 縄紋時代土器研究3 縄紋土器属性分析</p> <p>第12回 集落論1 縄紋集落研究(和島集落論・水野集落論)</p> <p>第13回 集落論2 縄紋集落研究(集落規模・定住性)</p> <p>第14回 集落論3 遺構論(ライフサイクル)</p> <p>第15回 前期講義の総括・確認</p> <p>第16回 自然科学的分析(産地推定・年代測定など)</p> <p>第17回 炭素14年代測定方法の概要</p> <p>第18回 炭素14年代の縄紋土器編年研究への利用</p> <p>第19回 炭素14年代の縄紋集落研究への利用・住居</p> <p>第20回 炭素14年代の縄紋集落研究への利用・セツルメント</p> <p>第21回 炭素14年代の縄紋研究への利用・文化変化</p> <p>第22回 年代論1 旧石器から縄紋へ 縄紋はいつから?</p> <p>第23回 年代論2 縄紋の始まり 東アジアでの位置づけ</p> <p>第24回 年代論3 縄紋から弥生時代へ</p> <p>第25回 年代論4 弥生時代から古墳時代へ</p> <p>第26回 考古学史1 明治から大正(大森貝塚と人種論争)</p> <p>第27回 考古学史2 昭和(山内清男縄紋研究)</p> <p>第28回 特論1 現代考古学の問題点(旧石器ねつ造事件)</p> <p>第29回 特論2 調査方法の進展、近世・近代考古学</p> <p>第30回 総括と確認</p>
----------	---

準備学習	博物館見学や概説書などによって、旧石器時代、縄紋時代、弥生時代について、予備的な知識を習得しておいて欲しい。
履修上の留意点	注意 博物館見学や、夏期休暇中に発掘見学をおこなう可能性があるが、実施するかどうかは講義の実施状況により、受講者とも相談の上決めたい。その場合には交通費等の実費負担がある。
成績評価の方法	試験結果60%、平常点10%・レポート30%
教科書/テキスト	教科書1) 小林謙一『縄紋社会研究の新視点-炭素14年代測定の利用-普及版』六一書房、定価(税込)2625円、ISBN4-86445-012-6 C3021、2) 小林謙一『125ライブラリー 発掘で探る縄文の暮らし』中央大学出版部、定価(税込)819円、ISBN978-4-8057-2702-7
参考書	

履修コード	053011 053012
科目名	考古学特講V
担当者名	寺前 直人

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	日本列島の弥生時代を中心に初期農耕社会における儀礼の特質について論じる。弥生時代前後の縄文・古墳時代および朝鮮半島をはじめとする他地域との比較を重視し、とくに縄文時代以来の在来的な儀礼の変容過程に注目することにより、弥生時代における葬制を含む儀礼の特質を伝統という観点から見直す。
---------------------	--

授業スケジュール	第1回：授業のオリエンテーション、第2～6回：研究史(従来の弥生儀礼像と資料の乖離)、第7～12回：縄文儀礼と弥生儀礼、第13～14回：縄文の葬制と弥生の葬制、第15回：前期まとめ、第16～18回：縄文と弥生の儀礼空間、第19～22回：弥生儀礼と古墳儀礼、第23～29回：弥生葬制と古墳葬制、第30回：まとめ
----------	--

準備学習	講義期間中以外の機会を利用して、地域の博物館・埋蔵文化財センターへの訪問し、できるかぎり実物資料に接すること。
------	---

履修上の留意点
---------

成績評価の方法	夏期レポートと年度末の試験、授業出欠状況に基づき評価する。
---------	-------------------------------

教科書／テキスト	とくになし。授業毎にレジュメ等を配布。
----------	---------------------

参考書	随時紹介。
-----	-------

履修コード	053031 053032
科目名	考古学特講VII
担当者名	矢野 和之

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	近年、文化財の保存だけでなく活用も重視されてきている。また、世界遺産登録を通じてグローバルな視点も大切である。また、地方自治体では、文化財部門が教育委員会から首長の部局に移り、事業の計画立案・実施の実務を担当する傾向にある。 このため、考古学・歴史学の学生は、発掘調査だけでなく文化財の保存活用理論及び実践知識を身につける必要が高まっている。 文化財の保存と活用についての広範囲の知識と計画力を身につけるための講義を行うものとする。
---------------------	--

授業スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化財の保存と活用の理念</li> <li>・文化財保存の歴史</li> <li>・文化財建造物</li> <li>・史跡・名勝・天然記念物</li> <li>・文化的景観</li> <li>・伝統的建造物群</li> <li>・国際憲章</li> <li>・世界遺産と海外の動向</li> <li>・歴史を生かしたまちづくり</li> <li>・保存計画概論</li> <li>・修復</li> <li>・史跡整備</li> <li>・歴史的建造物の復元</li> <li>・保存科学、保存工学概論</li> <li>・計画策定の実務</li> <li>・国内の事例</li> <li>・海外の事例</li> </ul> 以上を一部演習を混じえながら講義する。
----------	---

準備学習	常に新聞などの文化財に関する情報を取得しておくこと。配布したコピーはよく整理しておくこと。
------	---

履修上の留意点	特にないが、人文系の知識だけでなく、理科系の知識も必要となる。
---------	---------------------------------

成績評価の方法	レポート、試験、演習提出物
---------	---------------

教科書／テキスト	コピー配布
----------	-------

参考書	適宜指示
-----	------

その他	講義は、スライド、ビデオ（保存工事の記録等）を使用する。
-----	------------------------------



履修コード	046201
科目名	考古発掘実習
担当者名	酒井 清治 飯島 武次 寺前 直人

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	考古学の基本は発掘した資料から人類の歴史を考えることであるが、発掘技術の優劣により発掘資料の情報量も異なってくる。発掘現場で対応できる発掘技術の習得と考古学に対する考え方を養うことを目的とする。 実習したからといってすぐに発掘技術を駆使できるわけではないが、発掘現場でどのような仕事があるのか、どのように作業をすべきか理解できるようにする。
---------------------	---

授業スケジュール	考古発掘実習の授業は、通常の教場での授業と夏休みの野外考古発掘実習からなっている。前期は、文化財とは何か (1)、埋蔵文化財とは何か (2~3)、発掘調査とは (4~8)、発掘調査の方法 (9~15) を講義し、8月、9月に野外で発掘調査を行なう。後期は考古学の整理作業方法についての講義 (16~20)、発掘調査で出土した資料などの整理作業 (21~30) を行う。
----------	--

準備学習	発掘調査で出土する遺物がどのような資料か時代かを判断することができるように、博物館や埋文センターを見学して考古資料を見ることを勧める。また、遺跡へも積極的に行き、どのような場所に立地しているのかを理解する。
------	---

履修上の留意点	夏休みの野外考古発掘実習は実習先の都合もあり、夏休み直前まで場所と日程が決定しないのが通例である。従って履修者は、博物館実習等との関係をよく考えあわせ、夏休みの計画の中に、発掘実習と館務実習以外の計画を先行して予定しないこと。夏休みの私的な計画は、発掘実習と館務実習の期間が決定した後に計画を作ること。 授業と野外考古発掘実習においては、授業連絡・授業教程の関係から無届けの欠席、遅刻は一切認めない。またいかなる理由があっても年度の第1回の授業には出席すること。以上の件に反した学生に対しては、教師側の時々の判断で履修を禁止することがある。これは発掘調査が、埋蔵文化財保護法に則って許可を得ないと出来ないこと、県・市町村の教育委員会と緊密な連絡を取り合い、協力を得ないと出来ないため、勝手な欠席・遅刻が連絡を遅らせる場合があり、該当年度の野外考古発掘実習の計画・実行を妨げるからで、履修学生の協力をお願いする。
---------	--

成績評価の方法	平常点 (40%) および発掘実習の行動 (30%) と発掘日誌 (30%) などを総合して判断する。
---------	---

教科書/テキスト	授業の中で資料を配付する。
----------	---------------

参考書	文化庁記念物課監修『発掘調査のてびき』(同成社) 5000円 ISBN978-4-88621-525-3 C3021、岩崎卓也他『考古学調査ハンドブック 1 野外編』(雄山閣) 3150円
-----	--

その他	通常は講義で、夏休みに野外発掘実習を行う。予定では8月に日本で、9月に中国での発掘を行う予定であるが、場所は未定である。なお発掘は日本・中国どちらかの発掘を選択してもらふ。
-----	--

履修コード	046401
科目名	古文書研究I
担当者名	廣瀬 良弘

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 古代から中世にかけての古文書・古記録などについて、その読解力の習得に加え、歴史資料に関する知識と意識を高めることを目的とします。歴史研究は史料に基づきこれを分析・評価し、実証して行くという過程がありますが、そのなかで、様々な情報を含んでいる古文書の読解能力を身につけることは不可欠なことです。前期では古文書の概要と形式を把握した後、戦国期の大名文書について、読みながら内容分析を行なう。後期には平安・鎌倉期、南北朝期、室町期の文書を読解しながら、古文書全般について対応する力や、歴史的事実を明らかとする能力を養いたいと考えています。
---------------------	--

(到達目標)	中世の古文書の中でも比較的パターン化している戦国期の「禁制」ぐらいは即座に読解できるようになることを目標とします。
--------	---

授業スケジュール	(1・2) 古文書の概要と形式 (3~8) 戦国大名文書に親しむ (9~13) 天下人 (信長・秀吉・家康) の書状を読む (14~16) 古代の文書を読む (17~19) 鎌倉時代の文書を読む (20~22) 室町期の文書を読む (23~25) 戦国期の文書を読む (26~28) 記録・金石文・奥書などを読む (29~) まとめ (但し、受講生の習熟度に応じて変更することがあります)
----------	---

準備学習	前回の授業で読解した古文書は復習しておく必要があります。
------	------------------------------

履修上の留意点	古文書の読解力は、文書に慣れ親しむことが必要です。予習・復習はもちろんであるが、日頃から博物館の展示などを通じて古文書などの歴史資料に接してほしいと思います。
---------	---

成績評価の方法	年度末の定期試験の結果と受講者の提出物 (例えばレポートなど) の内容に依拠して行います。それに授業の出欠状況を加味します。
---------	--

教科書/テキスト	史料のプリントを適宜配布します。
----------	------------------

参考書	必要に応じて講義において紹介しますが、『くずし字解読辞典』(東京堂出版) などがあると便利です。
-----	--

履修コード	046501
科目名	古文書研究II
担当者名	湯浅 隆

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	江戸時代に作成された古文書・記録類、典籍などの版本（以下、江戸時代史料と記します）を対象として、その読解能力の習得をめざす、入門者対象の科目です。 文書の形を知ること、文字を解読すること、そのうえで文言・様式から、歴史事実を読みとる力の養成を目的とします。
---------------------	---

授業スケジュール	まず、江戸時代史料に幅広く接するようにします。江戸時代の表現に慣れることで、判読困難な文字を文脈から推定できるようにしていきます。 (1～5) 武家の史料〔領地宛行状、大名・旗本の家政、高札など〕、(6～10) 町方の史料〔沽券状、借用証文、引札など〕、(11～15) 村方の史料〔年貢割付状、村明細帳など〕、(16～18) 寺社の史料〔往来手形、寺請証文など〕、(19～22) かな文字・木版刷、(23～30) まとまりをもった内容の文書を読みます。
----------	---

準備学習	授業でつかうテキストは、プリントで配付します。事前に、可能な限り解読してから授業に臨むように心がけてください。
------	---

履修上の留意点	文書読解力向上の捷径（近道）は、当該時代に多用された言い回しに慣れることです。したがって、「日本史史料講読Ⅲ」などにより、江戸時代史料(活字)講読科目を修得済か、もしくは同時並行で履修していることを望みます。
---------	--

成績評価の方法	文字を解読し内容を把握できるか否か、それだけです。それは、学年末の試験などをととして判定します。
---------	--

教科書/テキスト	教材として、史料のプリントを配付します。
----------	----------------------

参考書	その都度、提示します。
-----	-------------

その他	授業は、輪読形式となります。 江戸時代史料には、歴史学がこれまでに蓄積してきた成果の総量を遥かに超える豊富な事実が詰め込まれています。解読の扉を自ら開き、さらに広げていくことで、江戸時代への興味が限りなく広がっていくきっかけになることを期待しています。
-----	---

履修コード	053101 053102
科目名	西域美術史
担当者名	松平 美和子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	シルクロードの十字路口アフガニスタンとペルシアを中心に東西美術工芸の交流を考えることを目的とします。古代から東西交流の要衝として栄えたアフガニスタンは、1979年の旧ソ連軍侵攻に続く内戦のため荒廃し、その貴重な遺跡や遺宝は破壊され、あるいは行方不明となりました。前期は失われたアフガニスタンの遺跡や遺宝を画像で再現し、その豊かな芸術の歴史と最新情報を検討します。 後期は西アジア芸術をリードしてきた古代ペルシアの装飾性の強い美術を時代に沿って見ていきます。また、年間を通して美術館や美術展の情報を提供し、その美術展カタログ(図録)の魅力と活用法についても考えてみたいと思います。
---------------------	--

授業スケジュール	前期 (1) 美術展とカタログ(図録)について (2) アフガニスタンの歴史と美術 (3) 青い宝石ラピスラズリの交流 (4～5) 失われたバクミヤンの大仏と壁画 (6～7) 東西芸術の宝庫ペグラム (8) フォンドキスタンの華麗な仏教美術 (9～10) ハッタ 西方文化と仏教の出会い (11～12) ガンダーラの美術と文様 (13～14) アフガニスタン遺宝の最新情報 (15) まとめ、テスト
----------	---

後期 (1) ペルシアとその美術 (2～3) ペルシアの先史美術 (4) メディア王国からアケメネス朝ペルシアへ (5～6) アケメネス朝ペルシアの美術 (7) パルティアの美術 (8～10) ササン朝ペルシアの美術 (11) ソグドの美術 (12～13) イスラムの美術 (14) 日本におけるペルシア美術研究 (15) まとめ、テスト
---

準備学習	中央アジアから西アジアにかけての先史時代からイスラム期までの歴史の流れを、年表・地図などで確認しておくこと。 刻々と変わる現在のアフガニスタン、ペルシアの情勢を新聞・テレビなどで関心を持って見ておくこと。
------	---

履修上の留意点	レポートにも関係してくるので、各種の美術展やその美術展カタログ(図録)を見る機会を多く持って欲しい。
---------	--

成績評価の方法	前期のレポート(20%)とテスト(20%)、後期のレポート(20%)とテスト(20%)、授業内提出物(20%)で総合的に評価する。
---------	---

教科書/テキスト	松平美和子著『シルクロード美術鑑賞への誘い』(芙蓉書房出版、2007)2800円 (ISBN 978-4-8295-0401-7)
----------	---

参考書	松平美和子編『シルクロード美術展カタログ内容総覧』(芙蓉書房出版、2009)
-----	--

その他	レポートの提出期限は厳守すること。
-----	-------------------

履修コード	043601
科目名	史学概論
担当者名	佐々木 真

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	歴史学という学問的営みの特質、歴史学の対象とその範囲、歴史研究と叙述との関係などの解説を通じ、歴史学とはどういう学問かということを理解し、自身が歴史研究を行う場合の方法論を構築することを目標とする。
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> </ol> <p>本論は全体を以下の5部で構成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>I. 近代歴史学の成立と展開       <ol style="list-style-type: none"> <li>19世紀における近代歴史学の誕生からはじめ、その後の歴史学の流れについて概説する。</li> </ol> </li> <li>2. 歴史学の始まり</li> <li>3. 中近世の歴史学</li> <li>4. ランケと近代歴史学の成立</li> <li>5. 19世紀歴史学への批判</li> <li>II. 歴史学の目的と対象       <ol style="list-style-type: none"> <li>6. 歴史学の目的</li> <li>7. 歴史学の効用</li> </ol> </li> <li>III. 歴史学の学問的性質       <ol style="list-style-type: none"> <li>8. 歴史学の作業工程</li> <li>9. 尚古趣味と歴史学</li> <li>10. 考証と歴史学</li> <li>11. 問題発見-問題設定の方法</li> <li>12. 歴史学における事実</li> </ol> </li> <li>IV. 歴史学の方法       <ol style="list-style-type: none"> <li>13. 史料の内容</li> <li>14. 史料批判(1): 外的批判</li> <li>15. 史料批判(2): 内的批判</li> <li>16. 総合: 歴史像の提示</li> </ol> </li> <li>V. 歴史学における主観性と客観性       <ol style="list-style-type: none"> <li>17. 歴史学における主観性(1): 事実選択における主観性</li> <li>18. 歴史学における主観性(1): 論理構成における主観性</li> <li>19. 歴史学における客観性(1): 事実立脚性</li> <li>20. 歴史学における客観性(2): 論理整合性</li> </ol> </li> <li>VI. 歴史学の諸問題       <ol style="list-style-type: none"> <li>21. 歴史学における真実(1): 真実とは</li> <li>22. 歴史学における真実(2): 真実の不可知性</li> <li>23. 真実の代替物-命題の「正当性」</li> <li>24. 歴史学と文学(1): 文学における事実と真実</li> <li>25. 歴史学と文学(2): 両者の相違点</li> <li>26. 歴史学とイデオロギー</li> <li>27. 言語論的転回と歴史史料</li> <li>28. 物語論と歴史学</li> <li>29. 歴史学の社会的有用性</li> <li>30. まとめ</li> </ol> </li> </ol>
----------	---

準備学習	準備学習は特に必要ない。むしろ、講義の中で紹介する文献をなるべく多く読み、歴史学についての見識を広げてほしい。
履修上の留意点	抽象的な議論をする場合も多いので、講義をよく聴き、その場で理解するように努めること。
成績評価の方法	前期と後期に各1回ずつ実施する試験により評価する。
教科書/テキスト	教科書は特に指定しない。
参考書	参考文献については、必要に応じて紹介する。

履修コード	044111
科目名	西洋史概説
担当者名	大城 道則

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	古代から始まる西洋の歴史を概説する。本講義の到達目標は、二年生以降、さらに西洋史を深く学ぶために必要な基礎的知識の幅広い獲得にある。
---------------------	--

授業スケジュール	(前期の主なトピック) 1. はじめに 2. 世界地図からみる世界観 3. 古代オリエント世界～民族の興廃から統一へ～ 4. ピラミッド時代の古代エジプト 5. シュメール神話とラピスラズリ 6. 異民族ヒクソスとエジプト再統一 7. アマルナ書簡からみたアクエンアテン王 8. 千の神々を持つ王国ヒッタイト  (後期の主なトピック) 1. 都市国家と帝国～古代ギリシア・ローマ～ 2. 古代ギリシア文明～神々と英雄たちの時代～ 3. スフィンクスと古代地中海世界 4. 剣闘士と古代ローマ帝国 5. ヨーロッパ精神の源流～中世と呼ばれる世界～ 6. 中世カトリックの世界 7. ケルトとは何か～創られたアイデンティティー～ 8. ボン・ファイアーの起源
----------	---

準備学習	高校卒業程度の世界史の知識を復習しておくこと。
履修上の留意点	
成績評価の方法	成績は夏季休暇後に提出するレポートと学年末試験により判定する。
教科書/テキスト	教科書は特に指定しない。
参考書	参考書等は講義中に、必要に応じて紹介する。
その他	授業は講義形式で行い、必要があれば随時参考資料を配布する。

履修コード	054711
科目名	西洋史学演習I
担当者名	大城 道則

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	西洋古代史を対象として卒業論文を書こうとする学生のための演習。授業での個別報告を通じて、資料を収集する能力や論理的に物事を考察する力を養い、次年度の卒業論文執筆に必要な能力の獲得をめざす。
---------------------	--

授業スケジュール	前半は、西洋古代史に関する統一テーマを設定し、そのテーマに沿った報告を行うことを中心とする。後半には次年度に執筆する卒業論文のテーマに関する報告を行う。前半のテーマについては、授業開始時に話し合ってから決定する。スケジュールは以下の通り。 (1) ガイダンス (2-3) 図書館ガイダンス (3-4) 文献の調査などについて (5) 統一テーマの概論 (6-18) 個別報告 (19) 卒論について (20-30) 卒業論文構想の報告
----------	--

準備学習	前半のテーマ報告に関しては、選択したテーマに関する文献を収集し、報告内容をまとめること。後半の卒業論文に関する報告でも、選択したテーマの文献収集とその講読が不可欠となる。
履修上の留意点	自分の報告をきちんと行うのは当然だが、他人の報告もよく聞き、討論に積極的に参加すること。
成績評価の方法	成績は授業中の各自の発表内容に出席を加味して決定する。授業に主体的に参加することが重要なので、一定時間以上授業を欠席した者は、その時点で不可とする。
教科書/テキスト	特に指定しない。
参考書	必要に応じて一覧を配付する。
その他	4年次に西洋古代史をテーマとして卒論を書こうとする学生は、必ずこの授業を受講すること。

履修コード	054301
科目名	西洋史学演習I
担当者名	佐々木 真

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	西洋近代史を対象として卒業論文を書こうとする学生のための演習。授業での個別報告を通じて、資料を収集する能力や論理的に物事を考察する力を養い、次年度の卒業論文執筆に必要な能力の獲得をめざす。
授業スケジュール	前半は、西洋近代史に関する統一テーマを設定し、そのテーマに沿った報告を行うことを中心とする。後半には次年度に執筆する卒業論文のテーマに関する報告を行う。前半のテーマについては、授業開始時に話し合っておく。スケジュールは以下の通り。 (1) ガイダンス (2-3) 図書館ガイダンス (3-4) 文献の調査などについて (5) 統一テーマの概論 (6-18) 個別報告 (19) 卒論について (20-30) 卒業論文構想の報告
準備学習	前半のテーマ報告に関しては、選択したテーマに関する文献を収集し、報告内容をまとめること。後半の卒業論文に関する報告でも、選択したテーマの文献収集とその講読が不可欠となる。
履修上の留意点	自分の報告をきちんと行うのは当然だが、他人の報告もよく聞き、討論に積極的に参加すること。
成績評価の方法	成績は授業中の各自の発表内容に出席を加味して決定する。授業に主体的に参加することが重要なので、一定時間以上授業を欠席した者は、その時点で不可とする。
教科書/テキスト	特に指定しない。
参考書	必要に応じて一覧を配付する。

履修コード	054721
科目名	西洋史学演習I
担当者名	高田 良太

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	西洋中世史を専門的に勉強することを考えている学生のために、ゼミ形式で授業を進めていきます。 ■ 前期は、まずゼミ生各人の興味のあるテーマにしたがって関連する資料・史料を調べ、文献一覧をつくる作業をしてもらいます。その中で重要度の高い文献について、ゼミ生に要約して発表してもらいます。 ■ 後期の第20回からは、ゼミ生各人の興味のあるテーマについて発表してもらいます。
授業スケジュール	第1回： 前期ガイダンス 第2回・第3回： 発表 (文献一覧) 第4回～第20回： 発表 (論文・文献の輪読) 第21回： 後期ガイダンス 第22回～第30回： 発表 (自由テーマ)
準備学習	自分の発表のために発表資料を準備しておくことはもちろんですが、発表担当でない回についても、議論できる準備をしておくことが求められます。前期の発表に関しては、他のゼミ生の発表の際の課題となる文献を読み、後期の発表に関しても、発表者のテーマに関連する文献を可能な限り読んでくるようにしてください。
履修上の留意点	外国語 (主に英語) の文献の読解に、積極的に取り組んでください。
成績評価の方法	前後期の発表と出席状況、および期末に提出するレポートによって評価します。
教科書/テキスト	特に指定しません。
参考書	授業の内容に応じて、適宜に指示します。
その他	調べたり人の話をきいたりして疑問を感じ、調べ直したり議論したりする姿勢を身に付けることは、社会に出て生きていくうえでも大切です。臆することなく発言してほしい。

履修コード	054401
科目名	西洋史学演習I
担当者名	伏島 正義

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	まず第1に、当該演習Iは4年次に課される卒業論文の作成のための第1次準備段階であることからして、各人は自己の卒論テーマを具体的に決定し、その研究に着手しなければならない。したがってそのための文献、史料の収集方法に習熟することである。第2に、受講生にとって共通となる文献を輪読し、相互の意見交換などにより、歴史研究を深める機会とする。
---------------------	--

授業スケジュール	まず各自の設定した卒論のテーマに添って、文献、史料の収集と読解に努めることを原則、前提とする。(1-2)年間学習計画に関するガイダンス。(3-15)受講生の共通となる論文、専門書などの文献を、とりわけ西洋史研究では依然として共通語の1つである独語、仏語、英語のいずれかで書かれた文献を、発表などを交えながら輪読する。後期には(16-30)前期から各人の進めてきた卒論のテーマに関する研究の成果を発表し、受講生は相互に質疑応答する。なお、万都合が付くならばいずれかの時機に、西洋史研究にとって有益な、直に目にするのできる資・史料を所蔵あるいは展示する文化施設等を訪れたい。
----------	---

準備学習	授業に対応した歴史的、基礎的事項については当然のことながらあらかじめ勉強しておいてください。
------	--

履修上の留意点	卒論のテーマに該当する言語に習熟することは言うまでもなく、当該演習の共通言語にも読解力をつけておくことが必要である。研究文献、史料の検索、収集、さらにその解説には多大の時間を必要とするものである。したがってそのための気概が期待される。
---------	---

成績評価の方法	演習にいかにか積極的に且つ熱心に参加しているかが基本的な基準である。出席の回数及び研究レポートの提出により、決める。
---------	--

教科書/テキスト	共通するテーマ及びテキストは受講生と相談し、決める。
----------	----------------------------

参考書	必要に応じて随時指摘する。
-----	---------------

履修コード	056211
科目名	西洋史学演習II
担当者名	大城 道則

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	演習Iで進めてきた卒論のテーマに添った研究を最終的に卒業論文として完成させることが最大のねらいである。
---------------------	---

授業スケジュール	演習Iの段階で読むことのできなかった文献の入手と解説に全力を尽くすとともに、これまでの研究上の不備な点を再検討し、万全を期す。(1-2)年間学習計画に関するガイダンス。(3-30)まず各人の個別研究を検討する。次に、不備な点を補いつつ各人が進めてきた研究の進捗状況、成果を順次発表する。受講生は相互に質疑応答し、研究の改善を目指す。なお都合が付けばいずれかの時機に、西洋史研究にとって有益な、直に目にするのできる史・資料を所蔵あるいは展示する文化施設等を訪れたい。
----------	--

準備学習	途中経過を授業内で発表する際には、読み原稿をあらかじめ作成しておき、何度か時間を計りながら、自宅で読む予備練習をしておくこと。
------	---

履修上の留意点	上記の諸点は夏期休暇の期間内に履行し、ほぼ完了することが望ましい。なぜならば、卒業後就職しようとする者にとっても、さらに上級の大学へ進学しようとする者にとっても当該演習IIの4年生はなすべきことはあまりにも多く、したがって忙殺のため当初掲げたさまざまな課題を十分に満足することのできなかった例をこれまで少なからず見てきたからである。なお、演習に出席することは当然であるが、万一就職活動その他の理由により欠席する場合は、必ずその理由を報告していただきたい。また卒業論文の作成に不安を感じる者は、他の生徒の発表を聞き、参考にすることを勧めておく。ゼミ生全員で卒論に取り組むのだということを意識しておいて欲しい。
---------	---

成績評価の方法	演習にいかにか積極的に且つ熱心に参加しているかが基本的な基準である。出席の回数及び卒論のテーマに関する研究発表により評価する。
---------	---

教科書/テキスト	各人の研究テーマに副って紹介します。
----------	--------------------

参考書	
-----	--

その他	卒業論文作成は困難ではあるが、その困難を乗り越え、完成したときの喜びと充実感は格別である。世界にたったひとつの卒業論文は、大学生活最高の思い出となるはずである。
-----	--

履修コード	055701
科目名	西洋史学演習Ⅱ
担当者名	佐々木 真
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	卒業論文の報告を中心として授業を進め、レベルの高い卒業論文を完成させることを目標とする。
授業スケジュール	前期に1回、後期に1回それぞれ卒業論文の内容についての報告を行う。 (1)ガイダンス (2-30)個別報告
準備学習	前後期の報告に際しては、文献の収集とその解説、論理的な報告内容の作成などを確実にすること。
履修上の留意点	演習Ⅰの単位を取得していない者の履修は認めない。
成績評価の方法	成績は授業中の各自の発表内容に出席を加味して決定する。演習科目では受講生の授業への積極的な参加が肝要となり、出席はあくまでも必要条件ではないことに留意すること。
教科書/テキスト	特に指定しない。
参考書	特に指定しない。

履修コード	056221
科目名	西洋史学演習Ⅱ
担当者名	高田 良太
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	西洋中世史で卒業論文を書こうとする学生のための演習です。 卒業論文の準備のため、受講者は少なくとも前期1回・後期1回の報告を行います。
授業スケジュール	第1回： ガイダンス 第2回～第30回：受講者による報告
準備学習	担当回の発表のための準備を進める。とくに、後期の発表の質は卒業論文の完成と大きく関係するので、夏季休業中にしっかりと準備しておくことが求められる。
履修上の留意点	欠席する場合や、発表担当回の変更を希望する場合は、必ず教員に申し出ること。発表担当回にあたっていない回にも、積極的に議論に参加してください。切磋琢磨する姿勢が大事です。
成績評価の方法	発表の内容や、授業への貢献度に応じて総合的に評価する。
教科書/テキスト	特に指定しない。
参考書	受講する学生の関心や発表の内容にしたがって、指示する。

履修コード	055801
科目名	西洋史学演習Ⅱ
担当者名	伏島 正義
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	演習Ⅰで進めてきた卒論のテーマに添った研究を最終的に卒業論文として完成させることが最大のねらいである。
授業スケジュール	演習Ⅰの段階で読むことのできなかった文献の入手と解説に全力を尽くすとともに、これまでの研究上の不備な点を再検討し、万全を期す。(1-2)年間学習計画に関するガイダンス。(3-30)まず各人の個別研究を検討する。次に不備な点を補いつつ、各人が進めてきた研究の進捗状況、成果を順次発表する。受講生は相互に質疑応答し、研究の改善を目指す。なお、万一都合が付けばいずれかの時機に、西洋史研究にとって有益な、直に目にするのできる史・資料を所蔵あるいは展示する文化施設等を訪れたい。
準備学習	予定とする卒業論文の課題に関する内外に於ける研究文献のリストアップを作成しておく。課題の研究に必要な言語を自主的に習熟しておく。
履修上の留意点	上記の諸点は夏季休暇の期間内に履行し、ほぼ完了することが望ましい。なぜならば、卒業後就職しようとする者にとっても、さらに上級の大学へ進学しようとする者にとっても当該演習Ⅱの4年生はなすべきことはあまりにも多く、したがって忙殺のため当初掲げたさまざまな課題を十分に満足することのできなかった例をこれまで少なからず見てきたからである。なお、演習に出席することは当然であるが、万一就職活動その他の理由により欠席する場合は、必ずその理由を報告していただきたい。
成績評価の方法	演習にいかにか積極的に且つ熱心に参加しているかが基本的な基準である。出席の回数及び卒論のテーマに関する研究発表により評価する。
教科書/テキスト	各人の研究テーマに副って紹介します。
参考書	
その他	他人(教師)による評価はもとより、自身にとっても、大学生活の、最後にして最大の記念碑となるような卒業論文を作成すべく、心がけてください。自身が心をこめて自身におくった贈り物ほど、いとおしく、尊いものはない。

履修コード	051101
科目名	西洋史各説Ⅱ
担当者名	庄司 啓一

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>アメリカ合衆国の歴史を学習する意義について アメリカ合衆国について情報は氾濫している。それは日本と政治・経済・文化などの分野において最も密接な関係がある国だからである。そればかりではない。アメリカは世界最強の軍事・経済・文化帝国であり、世界のあらゆる出来事に強い影響を与えている。しかしながら、「アメリカ合衆国の全体像、その基本的な性格を理解するには、その歴史に遡らなければならない。「アメリカ史」を日本の若者はどのようにして学んできたのだろうか。日本の若い人々にとり生活の一部となっており、わざわざ勉強しなくてもいい、と考えられていないだろうか。</p> <p>アメリカはヨーロッパの植民地として歴史がはじまり、原住民であるインディアンを追い払いながら、ヨーロッパから多様でたくさんの人々を受け入れてきた「移民国家」である。黒人はアフリカ大陸から強制的に奴隷として連行されてきたのであり、決して自由な移民ではない。また、アジアからも中国、日本、フィリピンなどからの移民は人種・民族的な差別を体験しながらアジア系アメリカ人としてのアイデンティティを模索している。近年はアジア、ラテン・アメリカなどから「不法移民」の流入も政治問題となっている。このような世界各地の人々が自らを「アメリカ人」として自己認識するには長い歴史的な時間と葛藤が必要であった。</p> <p>世界の辺境の地に植民地として歴史がはじまったアメリカ合衆国が世界最大の工業国家に成長し、世界に君臨するようになった。しかしその歴史的な限界をも露呈するようになった今日、アメリカの歴史の基本線を勉強することは、日本の過去・現在・未来を真剣に考えようとする人にとって大切なことだと考える。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	(1) アメリカ史を学ぶ意義について (2-8) さまざまなアメリカ人 (9-15) 国民統合の制度と文化 (16-20) 19世紀のアメリカ (21-25) 20世紀のアメリカ (26-30) 第二次世界大戦後のアメリカ
準備学習	以下の本を事前に読んでおくと講義の内容が理解しやすいと思います。 斎藤眞著『アメリカとは何か』平凡社 飯野・明石著『エスニック・アメリカ』第3版、有斐閣選書
履修上の留意点	日常的にアメリカに関する新聞・雑誌・TVなどにアクセスするように心がけること。新大統領のオバマ政権の特徴なども調べると良いでしょう。
成績評価の方法	中間、学年末試験と授業内でのビデオを見てのレポート提出
教科書/テキスト	有賀・油井編『アメリカの歴史』有斐閣
参考書	エリック・フォナー、横山ほか訳『アメリカ自由の歴史上、下』岩波書店



履修コード	051801
科目名	西洋史特講V
担当者名	大城 道則

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>「世界史の中の古代エジプト文明」という題目で講義を行う。世界史の中で古代エジプト文明が果たした役割とはいったい何なのだろうか。現代文明へとつながる時の流れの中で、古代エジプト文明は、どのような意味を持って存在しているのだろうか。そもそも世界史の中において、古代エジプト文明について多くを語る必要があるのだろうか。あらゆる側面で大きなポテンシャルを持っていたナイル河をその母体内に備えたエジプトという特異な空間が、世界最古の文明のひとつを生み出した点については誰もが異論の無いところであろう。またその文明が一瞬の繁栄期のみではなく、3000年以上の長きにわたり王国として存続し、周辺地域に影響を与え続けたという点に関しても同様であろう。しかし、世界史という言葉を念頭に置いて議論したとき、古代ギリシア文明を現代の西欧諸国の起源であると主張することはできたとしても、古代エジプト文明もそうだと言いつけるには勇気を要する。確かに古代ギリシア文明は、古代エジプト文明の影響を色濃く受けているが、ギリシア・ローマ世界というポイントを見失って、古代エジプト文明から、現代ヨーロッパ世界へという直線的な論を展開するのは難しい。ただし世界地図を広げて地中海を真ん中に置き、現代にまで影響を与えたとされる「アテナイの民主政」だとか、「ローマ法」だとかいう用語を代表とした先入観を少しだけ取り除き、冷静に目の前に開かれたその地図を眺めて欲しい。そこにはギリシアのアテナイとエジプトのアレクサンドリア間の距離の方が、イタリアのローマからブリテン島のロンドン間よりも近いことが示されているのである。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>(主なテーマ)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 古代エジプト文明の誕生</li> <li>2. ミノア文明と古代エジプト文明</li> <li>3. 異民族ヒクソスの時代</li> <li>4. アクエンアテン王の宗教改革と多神教世界</li> <li>5. アマルナ時代とアマルナ文書</li> <li>6. ヒッタイトとカデシュの戦い</li> <li>7. ラメセス3世と「海の民」</li> <li>8. アレクサンドロス大王とアレクサンドリア</li> <li>9. 女王クレオパトラ7世のエジプト</li> <li>10. 古代ローマ帝国と皇帝たちのエジプト文化</li> </ol>
----------	---

準備学習	図書館で古代エジプト史に関する本を借り、読んでおくことが望ましい。
履修上の留意点	毎回出席を取る。他の生徒の迷惑になるような行為は慎むようにして下さい(例えば講義中に話をしたり、遅刻するなど)。
成績評価の方法	出席回数と受講態度、そして後期試験により、総合的に評価する。
教科書/テキスト	教科書は使用しない。
参考書	

履修コード	051821
科目名	西洋史特講VII
担当者名	高田 良太
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	講義概要： 11世紀から16世紀にかけての中世地中海の歴史を、言語・宗教・法文化を異にする様々な人々の間の関係の変化としてとらえ、考えていく。とくに、地中海に浮かぶ孤島であるクレタ島に焦点をあてて講義を進めていく。 講義の到達目標： 民族共生というユートピアめいた響きの言葉とはうらはらに、共生の実現の裏には常に「民族」の間の対立と妥協があった。こうしたイメージと事実の溝を明らかにすることが、歴史学の意義の一つであることを理解してほしい。また、そのための方法論についての理解を深めることも、重要な目標である。
授業スケジュール	第1回： ガイダンス 第2回～第4回： 中世のエスニシティ理解のための準備 第5回～第6回： 十字軍前夜の地中海世界 第7回： 十字軍と地中海・第1回試験 第8回： 史料について①(年代記と条約) 第9回～第12回： ヴェネツィアの海外領土 第13回～第14回： ジェノヴァの海外領土 第15回： ヴェネツィアとジェノヴァの比較・第2回試験 第16回： 史料について②(公証人文書) 第17回～第20回： 中世クレタの都市社会 第21回： 史料について③(行政記録) 第22回～第24回： 中世クレタの都市社会 第24回： 第3回試験 第25回～第30回： ギリシア人ディアスポラの時代 第30回： 第4回試験
準備学習	配布した、プリントやノートに目を通しておくこと。 中近世の地中海について書かれた邦語の文献を、講義の中で紹介したものを中心として、できる限り多く読んでほしい。
履修上の留意点	地中海における「民族」というテーマはナイーブで、ある意味で正解のない問題である。講師の言うことにも常に疑問の目を向け、自分で考える姿勢をもって授業に臨んでほしい。
成績評価の方法	計4回の定期試験を実施する。(20×4) 平常点(出席点+授業への参加姿勢)を評価する(20)
教科書/テキスト	特に指定しない。
参考書	授業中に適宜に指示する。
その他	授業中に参考資料を配付する。

履修コード	045201
科目名	西洋史文献史料講読II
担当者名	伏島 正義
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	西洋史の一次史料を読むことを目標とする。つまり西洋史を学ぼうとする場合、それが人文・社会学科の一部門であるとの立場に立つ限り、その根拠として、史料は必要不可欠であり、必須の前提条件であることは言うまでもない。しかも史料を読むことにより、それを包む社会がいかなるものであったのかについて、さまざまな角度からの検討を可能とさせる。なぜならば、史料は自身からはなんら自動的に語り出すものではなく、我々の史料への問いかけ次第で、多くの事柄について汲めども尽きないヒントを与えてくれるはずだからである。
授業スケジュール	具体的にいかなる史料を扱うかについては受講生と相談のうえ、決める。但し本講では西欧諸国を対象とし、概して前近年をその範囲とする。また史料は翻訳に拠ることなく原典それ自体を読むこととしたい。なぜならば、翻訳は翻訳者の一定の見解を濾過したものである限り、それに依存することは我々自身の自由で、独創的な解釈を阻害する危険があるからである。 昨年度は9世紀初頭パリのサン＝ジェルマン＝デ＝プレ修道院の院長イルミノンによる所領明細帳の一部を読んだ。これは西洋中世における領主-農民関係を議論する場合の根拠とされる第一次史料である。授業のスケジュールとしては、前期に初歩のラテン語を学び、後期に史料を読んだ。本年度もこのようなスケジュールをとりたい。
準備学習	一次史料がいかなるものとなるかは未定ではあるものの、その史料で使われる言語がとりわけラテン語である場合には絶えず予習と復習を怠り無く行ってほしい。
履修上の留意点	歴史を原典史料に降り立って、じっくりと研究しようとする志を持つ、地道な姿勢が期待される。
成績評価の方法	演習形式で授業を進めるため、毎回授業に出席し、いかに積極的にして熱心に参加しているかが基本的な基準である。学期末にテストを実施し、決める。
教科書/テキスト	必要なテキスト、史料はプリントして配布する。 ラテン語の辞書は必ず用意して下さい。 Smith, William / Lockwood, John, Chambers Murray Latin - English Dictionary (PAP) REI SUB Edition - GB -
参考書	授業に合わせて、その都度指摘する。

履修コード	045221
科目名	西洋史文献史料講読IV
担当者名	佐々木 真

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	フランス語で文献を購読してみたい人のための授業。フランス語で書かれた文献を辞書を使用して正確に読むことができるようになる訓練をし、卒論執筆時などにフランス語文献を使用することができることを目標とする。
---------------------	--

授業スケジュール	フランスの絶対王政期から革命期にかけての文献をフランス語で講読する。同時に、テキストの背景となる歴史状況についての解説も行う。授業は履修者の輪読による演習形式で進める。進行方法については、受講者の数やレベルを考慮して授業を行うなかで決定する。 (1)ガイダンス、(2-30)文献の購読
----------	---

準備学習	毎回テキストの内容を必ず予習しておくこと。
------	-----------------------

履修上の留意点	外国語を講読する授業なので、フランス語の基礎的な知識は必要となる。また、フランス史についてのある程度の知識が必要となるので、授業中に紹介する参考文献や概説書を必要に応じて読むこと。テキストを精確に読むためには、内容を常に理解することが肝要であり、それには前後関係の理解が重要となる。そのため、欠席は原則として認めない。
---------	---

成績評価の方法	成績は授業への出席と、授業に対する各受講生の取り組みを中心に評価し、必要が認められた場合には学年末に試験を実施する。
---------	--

教科書/テキスト	テキストは授業開始時にコピーを配布する。
----------	----------------------

参考書	参考文献は必要に応じて授業の中で紹介する。
-----	-----------------------

履修コード	045241
科目名	西洋史文献史料講読VI
担当者名	大城 道則

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	古代エジプト史に関する外国語文献の講読を行う。文献の読み方を学び、外国語に慣れることが目標である。
---------------------	---

授業スケジュール	毎時間文献の講読を行う。
----------	--------------

準備学習	授業中はランダムに翻訳者を指名する。そのため、毎回の予習は不可欠である。予習ができていないものは、たとえ教場内にいたとしても欠席扱いとする。
------	--

履修上の留意点	予習は必須である。何らかのやむをえない事情で前回授業を欠席した場合も、同級生に訊くなどして、用意しておくこと。
---------	---

成績評価の方法	出席回数と小テスト、そして後期試験により総合的に評価する。
---------	-------------------------------

教科書/テキスト	テキストはコピーしてすべて配布する。
----------	--------------------

参考書	必要があれば適時紹介する。
-----	---------------

履修コード	045261
科目名	西洋史文献史料講読VIII
担当者名	井上 文則

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	古代ローマに関する英語文献を購読し、英文の読解能力向上を目指す。
---------------------	----------------------------------

授業スケジュール	所定の英語文献を前後期合計30回講読する。
----------	-----------------------

準備学習	出席者には毎回解答を求めするので、受講に際しては予習は不可欠である。
------	------------------------------------

履修上の留意点	英和辞典の携帯が必須である。
---------	----------------

成績評価の方法	期末試験 (40点) と出席点 (60点) の総合評価
---------	-----------------------------

教科書/テキスト	講義中に指示、配布する。
----------	--------------

参考書	講義中に随時指示する。
-----	-------------

履修コード	045281
科目名	西洋史文献史料講読X
担当者名	菊池 紘一
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	「歴史」という言葉が世に氾濫し、国際摩擦の元にさえなっている。この危険をも含む風潮の中で、あらためて「歴史とは何か」が問われなければならない。そもそも「歴史」がどのような意義また役割を持つのか真剣に考えたことがあるだろうか。そんな歴史的思考を深めていくべきとすれば、これにふさわしい文献として読まれるべき一冊は、依然としてE・H・カーの『歴史とは何か』であろう。しかし本講では、必ずしも読みやすいとは言えない日本語訳（岩波新書版『歴史とは何か』）は避け、新たな読解方法を目指す。改訳の上、これを原文と直接対比させながら読むという、二言語テキストによる読解指導が授業内容となる。
授業スケジュール	原文に沿って読み進めていく。
準備学習	本講は英語原文の訳し方を指導する部分もあるので、英語辞典（英和・和英）を用意すると、いっそう成果が上がると心得てもらいたい。
履修上の留意点	毎回プリントを配布するので、ファイル（A4判）を用意して整理の上で授業に参加してください。
成績評価の方法	出席状況を含め、授業への取り組みぶりを見た上で評価する。
教科書／テキスト	必要部分について日本語訳文と英語原文を併載した二言語テキストを編集・プリントして配布する。
参考書	授業の中で適宜紹介する。

履修コード	045291
科目名	西洋史文献史料講読XI
担当者名	高田 良太
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	西洋の歴史について書かれた、英語文献の輪読を行います。西洋の歴史についての理解を深めるとともに、英語力を養うことが目的です。
授業スケジュール	第1回： 前期ガイダンス 第2回～第14回： 輪読 第15回： 前期のまとめと定期試験 第16回： 後期ガイダンス 第17回～第29回： 輪読 第30回： 後期のまとめと定期試験
準備学習	受講者はあらかじめ、授業で輪読する範囲に訳がつけられる程度に目を通しておくこと。
履修上の留意点	英和辞書を携帯してください。
成績評価の方法	定期試験（30点×2）出席点（1点×30 + α（授業への取り組みを評価））
教科書／テキスト	開講時に発表します。
参考書	適宜に指示します。
その他	履修を希望する学生は、第1回目のガイダンスを必ず受講すること。

履修コード	045311
科目名	西洋史文献史料講読XII
担当者名	土方 史織
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	18～20世紀のイギリスを論じた英文テキストを読み、当時の社会状況や世界観を理解することを目的とします。
授業スケジュール	輪読形式で読み進めます。またこちらから解説を適宜加えていきます。前期は基礎編として簡単な概説書を読み、時代状況をイメージできるようにします。後期は応用編として近代イギリスに関する研究論文を読み、史料分析の手法を学びます。
準備学習	予備知識としてイギリス史及び近代ヨーロッパの時代状況を理解しておく必要があります。
履修上の留意点	毎回出来るだけ多くの受講生に発表してもらうため、予習は必ずしてきて下さい。遅刻、私語は厳禁。守れない人は履修しないで下さい。
成績評価の方法	授業中の発表+小テスト(60%)と課題(前期・夏期・後期)(30%)、授業への貢献度(10%)で決めます。受講生が多い場合は試験や追加課題を行うことも考えています。また発表者でなくとも授業への積極的な参加が認められれば、評価の対象になります。
教科書/テキスト	開講時に発表します。
参考書	松村昌家,川本静子,長島伸一,村岡健次編 『英国文化の世紀』全5巻 東京: 研究社出版, 1996年。 川北稔・木畑洋一編 『イギリスの歴史: 世界に出会う各国=地域史: 帝国=コモンウェルスのあゆみ』東京: 有斐閣アルマ, 2000年。 村岡健次,川北稔編 『イギリス近代史: 宗教改革から現代まで』(改訂版) 京都: ミネルヴァ書房, 2003年。 井野瀬久美恵著 『大英帝国という経験』(興亡の世界史: What is human history?) 東京: 講談社, 2007年。 武藤浩史ほか編 『愛と戦いのイギリス文化史: 1900-1950年』東京: 慶應義塾大学出版会, 2007年。 井野瀬久美恵編 『イギリス文化史』 京都: 昭和堂, 2010年。 川北稔 『イギリス近代史講義』 東京: 講談社現代新書, 2010年。
その他	・ 授業初回に詳細なガイダンスをおこなうので履修予定者は必ず出席して下さい。出席しないと履修できません。 ・ 報告担当者の無断欠席が多くみられます。履修放棄とみなしますのでご注意ください。

履修コード	046911 046912
科目名	西洋文化史
担当者名	田中 佳
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義では、ヨーロッパの歴史の中で文化にかかわるテーマを取り上げ、近年の文化史、社会史の成果に依りながら考察を加える。今年度、集中して扱うのは、美術館を中心とする美術と社会の問題である。ヨーロッパ史への多角的な理解を深めるばかりでなく、今日の社会・文化現象についての歴史的関心を養い、既存の概念やシステムを批判的に再検討するきっかけを提供することを目的とする。
授業スケジュール	(前期) (1)イントロダクション (2~3) 文化史の課題と方法 (4~6) アンシャン・レジームの美術と社会 (7) コレクションの形成・発展 (8) 展覧会見学 (9) 市場の確立と流通一競売会の発展 (10) 展覧会の誕生 (11) 「美術書」の誕生と複製の制作 (12) 「美術史」の形成 (13~14) 鑑賞者の拡大と「公衆」の台頭 (15) 中間試験 (後期) (16~18) 美術館の起源 (19~20) パリ・ルーヴル美術館 (21) 美術館見学 (22~26) ヨーロッパの美術館の創設 (27) アメリカの美術館の創設 (28~29) 日本への美術館の「輸入」 (30) 総括
準備学習	受講前に、美術館・博物館を最低一つは訪問しておいてほしい。
履修上の留意点	講義内容をふまえたうえで、自ら問題意識を持ち、考察を深めてほしい。
成績評価の方法	平常点(展覧会レポート等を含む): 20% 中間試験: 40% 期末試験: 40% により評価する。
教科書/テキスト	テキストはとくに指定しない。
参考書	授業内で随時紹介する。

履修コード	044201 044202
科目名	世界史概説
担当者名	井村 行子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>授業概要 古代から近現代までの世界史の概要を学ぶ。教員による講義形式ではなく、受講者全員による報告形式で授業を進める。</p> <p>到達目標 世界史全般について基本的な見方を身につけ、さらに将来、必要性が生じた場合に、その見方を深め、発展させることができるような能力を身につける。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. (10) 古代中国 (11) 諸子百家 (12) 秦・漢</li> <li>3. (13) 内陸アジア (14) 東アジア (15) 隋・唐</li> <li>4. (16) (17) 古代インド (18) 東南アジア</li> <li>5. (19) (20) 古代オリエント (21) 古代ギリシア</li> <li>6. (22) (23) 古代ローマ (24) イスラームの成立</li> <li>7. (25) (26) イスラーム世界の発展 (27) ビザンツ帝国</li> <li>8. (28) フランク王国 (29) 封建社会の都市と農村 (30) ヨーロッパ世界の拡大</li> <li>9. (31) (32) 宋代 (33) モンゴル帝国</li> <li>10. (34) 元代 (35) 明代 (36) 東南アジア</li> <li>11. (37) (38) 清代 (39) ティムール帝国とムガル帝国</li> <li>12. (40) 中央アジアとイラン (41) オスマン帝国の成立 (42) アフリカ</li> <li>13. (43) イスラーム世界の文化 (44) 大航海時代 (45) 宗教改革</li> <li>14. (46) 中・東欧 (47) 西ヨーロッパ (48) 近世ヨーロッパの文化</li> <li>15. 前期試験</li> <li>16. (49) アメリカ独立革命 (50) フランス革命 (51) 近代世界とは何か</li> <li>17. (52) 産業革命 (53) ナポレオン帝国 (54) ウィーン体制下の抵抗運動</li> <li>18. (55) 1848年革命 (56) ロシア・ドイツの近代化 (57) 産業社会の構造</li> <li>19. (58) アメリカ合衆国の発展 (59) 帝国主義 (60) アヘン戦争</li> <li>20. (61) 東アジアの近代化 (62) 辛亥革命 (63) 東南アジアの植民地化</li> <li>21. (64) インドの植民地化 (65) オスマン帝国の動揺 (66) イスラーム世界の民族運動</li> <li>22. (67) アジアの近代思想 (68) 中南米とオセアニア (69) 第1次世界大戦の原因</li> <li>23. (70) 第1次世界大戦 (71) ロシア革命 (72) ヴェルサイユ体制</li> <li>24. (73) ミソの発展 (74) 大衆社会 (75) 中国・朝鮮の民族運動</li> <li>25. (76) (77) 南・西アジアの民族運動 (78) 世界恐慌とファシズム</li> <li>26. (79) 日本の戦争 (80) 第2次世界大戦 (81) 戦後世界の構築</li> <li>27. (82) アジアの脱植民地化 (83) 冷戦の成立と拡大 (84) 冷戦下のアジア</li> <li>28. (85) 冷戦下の西欧 (86) アジア・アフリカの独立 (87) ベトナム戦争</li> <li>29. (88) 中東戦争 (89) アジアの新潮流 (90) 先進工業国の経済課題</li> <li>30. (91) 社会主義国の危機 (92) 地域紛争 (93) ソ連・東欧の革命</li> </ol>
----------	---

準備学習	毎回、報告者の報告のまとめと感想を書いてもらうので、最低限、教科書の該当箇所を読んでおくこと
------	--

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	前期・後期の筆記試験の成績50%、平常点30%、報告20%
---------	-------------------------------

教科書/テキスト	鶴間和幸『世界史B 改訂版 100テーマで視る世界の歴史』改訂版、清水書院、ISBN978-4-389-60014-3
----------	---

参考書	
-----	--

関連リンク	<a href="http://www.d1.dion.ne.jp/~yimura">http://www.d1.dion.ne.jp/~yimura</a>
-------	---

履修コード	056501 056502
科目名	世界史概説
担当者名	小林 惣八

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>当該科目は、教職科目と必修科目の二面性を持っている関係上専門的知識を要求しながらも基礎基本的な歴史の見方や考え方にも主眼を置く科目である。</p> <p>「中国王朝史の終焉」に目標を設定し、1912年清朝宣統帝溥儀が退位するまでを中国側とヨーロッパ側両面から解き明かすことを狙いとす。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	第1回：本講義の概要、第2回～3回：中国史概観、第4回～12回：中国王朝史の歩み、第13回～14回：ヨーロッパ古代史概観、第15回～16回：ヨーロッパ中世史概観、第17回～22回ヨーロッパ近代史概観、第23回～ヨーロッパ諸国のアジアへの進出。
----------	---

準備学習	講義終了後毎回レポート課題を課す。これは、課題処理によって歴史の歩みの前後関係をより的確に把握するためのものです。
------	---

履修上の留意点	「継続は力なり」根気強く取り組む姿勢を求める。
---------	-------------------------

成績評価の方法	前期・後期のレポート提出と試験・出欠状況の総合評価とする。
---------	-------------------------------

教科書/テキスト	特別定めないが、世界史の概説書や図表を座右に置いて聞くことを勧める。
----------	------------------------------------

参考書	
-----	--

その他	出席を重視する。
-----	----------

履修コード	016401 016402
科目名	中国文学 中国歴史文学
担当者名	田熊 信之

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	数千年にわたる中国の歴史の中で、政治や文化の中心的な担い手となった漢民族は、時には他の民族とも混濁を累ねながら、特異な漢字文化を生み育てて来ました。本講座では、こうした漢字文化の粹である各種の文学作品（新出遺文も含め）を選読し、中国の人々が築き上げた多様な文字表現の世界を省察しつつ、中国文学に対しての読解力と鑑賞力を養っていききたいと思えます。
---------------------	---

授業スケジュール	中国文学の世界には、例えば、歌謡や巫歌に由来する韻文の流れや、卜辞、告誓、記事などに始まる散文の流れがあり、このもとは、社会生活を営む人間それぞれの哀歓こもごもの姿が写し出されています。ここでは、各々の時代の思想、信仰等に彩られる、さまざまな形の文学のうち、歴史に関わる作品を適宜読み進めていきます。 〔前期〕 第1回：中国の風土と歴史、第2～3回：漢字の創造とその展開、第4～5回：文学の出現とその変遷、第6～8回：表現の歴史とその推移、第9～10回：『史記』巻九十七「陸賈列傳」（陸賈と劉邦）、第11～12回：『新語』抄文講読 同巻上「道基第一」、「述事第二」、第13回：同巻上「輔政第三」、第14～15回：同巻下「資質第七」、「本行第十」 〔後期〕 第16回：古都洛陽（雒邑から洛陽へ）、第17～18回：仏教東伝と白馬寺（『牟子』「理惑論」、『高僧傳』「譯經上」、『魏書』「釋老志」）、第19回：『洛陽伽藍記』と楊銜之、第20～22回：『洛陽伽藍記』講読（序）、第23～25回：同巻第一「城内」永寧寺条、第26～28回：同巻第一「城内」建中寺、長秋寺条、瑤光寺条等、第29回：同巻第三「城南」景明寺条等、第30回：同巻第四「城北」宋雲惠生使西域条
----------	--

準備学習	中国の地理、風土、歴史等については、各自概説書や関連著作などを参看して、基礎知識を得て下さい。
履修上の留意点	各種の辞書の用い方に慣れておくことともに、幅広い視野をもつことを心がけて下さい。
成績評価の方法	評価は、受講の状況を重視しながら、課題等への対応のさま、レポート或いは試験等の結果を勘案し、総合的に行ないます。
教科書/テキスト	プリントを配布して、これをテキストとして使用します。
参考書	参考書、資料等については、授業時に説明し、紹介します。
その他	授業は、講義及び演習の両方式を混じえて行ないます。
関連リンク	<a href="https://www.komazawa-u.ac.jp">https://www.komazawa-u.ac.jp</a>

履修コード	053201
科目名	哲学史
担当者名	山口 祐弘

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	ヨーロッパにおける近代哲学の展開を通して哲学とは何かを学び、思索する態度を養う。
---------------------	--

授業スケジュール	〈前期〉近代哲学の潮流 I 近代哲学の出発点と問題：デカルト 1 確実な学問の追求 2 方法的懐疑と帰結 3 心身問題 II 大陸合理論：二元論の調停 1 心身平行論-スピノザ 2 单子論-ライブニッツ 3 偶因論-マルブランシュ III イギリス経験論 1 人間知性の吟味-ロック 2 存在と知覚-パークリー 3 懐疑主義-ヒューム IV 啓蒙思想 1 感覚論-コンディヤック 2 唯物論-ラマルク、ドルバック 3 決定論-デイドロ 4 功利主義-エルベシウス 5 反主知主義-ルソー V 総括：近代知の抬頭と挫折-啓蒙の弁証法 〈後期〉近代哲学の潮：カント I カントの見た学問的状況 1 独断論 2 懐疑論 3 批判哲学の課題 II 形而上学への関心 1 諸学問の基礎 2 先天的総合判断 3 形而上学の危機と可能性 III 認識論の革命 1 コペルニクス革命と実験的方法 2 科学的認識の構造 3 観念論と実在論 IV 実践的形而上学 1 行為と自由 2 道徳と形而上学 3 実践と理論 V 総括：近代的人間の全体像
----------	--

準備学習	事前に近代哲学史を通読するように。
履修上の留意点	
成績評価の方法	学期毎に小論文を課す。
教科書/テキスト	久保・河谷編「原典による哲学の歴史」公論社 山口祐弘「カントにおける人間観の探究」勁草書房
参考書	

履修コード	043911
科目名	東洋史概説
担当者名	杉山 清彦

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	東洋史学が主な対象とする地域は、西北部（ヨーロッパ）を除くユーラシア大陸とその周縁の沿海・島嶼部である。そこは人類の歴史の主要な舞台でもあり、日本もその中に含まれる。本講義では、王朝交替をたどる中国史やアジアの諸地域・諸民族いずれかにスポットを当てる各国史の観点ではなく、海陸にまたがるユーラシア全体を見渡す視座から、アジア史の概観を提示する。前期はユーラシア東方を取り上げ、「中国」と呼ばれる政治的・文化的まとまりについて歴史の展開をたどりながら考察し、後期には中央ユーラシアに焦点を当てて、広域・多様なユーラシアの諸社会の構造と変遷を概観する。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>[前期] 「中国」の歴史  第1～2回：東洋史学とは何か  第3～5回：「東アジア」と「中国」  第6～9回：「中国」の形成  第10～12回：「中国」の再編  第13～14回：世界の中の「中国」  第15回：予備日</p> <p>[後期] 中央ユーラシア史の展開  第16～17回：中央ユーラシアの世界  第18～21回：遊牧国家の成立と展開  第22～24回：モンゴル時代  第25～27回：モンゴル継承国家と近世帝国  第28～29回：中央ユーラシアの「周縁化」と近現代  第30回：予備日</p>
----------	---

準備学習	高校世界史B程度の知識を前提として進めるので、講義中随時紹介する参考文献などを手がかりに、必要な知識は自分でフォローすること。
------	---

履修上の留意点	随時アンケート等を実施して受講生との疎通を図る。受講態度には厳しく臨む。
---------	--------------------------------------

成績評価の方法	前期末・後期末の試験成績（80％）を基本とし、講義中に随時課す小レポート・小テストなど（20％）を参考とする。
---------	---

教科書／テキスト	教科書は使用せず、プリントを配布して進める。
----------	------------------------

参考書	講義中適宜紹介する。全般にわたるものとして、松田寿男著『アジアの歴史』（岩波現代文庫、2006年、原著1971年）・岡田英弘著『中国文明の歴史』（岡田英弘著、講談社現代新書、2004年）を薦める。
-----	--

履修コード	054101
科目名	東洋史学演習I
担当者名	中村 淳

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	ねらいは、受講生各自が東洋史研究の基礎知識を修得し、より具体的な問題意識を持つきっかけを見いだしてもらうことにある。 なお今年度に関し、東洋史学演習Iはこの授業のみである。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>[前期]  第1回：ガイダンス  第2回～第6回：東洋史学史  第7回～第10回：文献解題  第11回～第14回：受講生による調査研究の発表  第15回：前期の総括</p> <p>[後期]  第16回：後期についてのガイダンス  第17回～第22回：受講生による「論文発表」  第23回～第27回：受講生による「一次文献発表」  第28回～第30回：卒論ガイダンス</p>
----------	---

準備学習	自身が担当する際は、少なくとも3週間前から準備を始めること。分からないこと等が生じた場合は、早め早めに相談すること。
------	--

履修上の留意点	出席を重視する。基本的に欠席は認めていない。初回から必ず出席すること。他の受講生の発表からも、積極的かつどん欲に学ぶこと。
---------	---

成績評価の方法	出席点と平常点にレポートの評価を加味し、総合的に評価する。
---------	-------------------------------

教科書／テキスト	必要な史料はプリントで配布。
----------	----------------

参考書	その都度、教示する。
-----	------------



履修コード	055611
科目名	東洋史学演習II
担当者名	杉山 清彦

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	アジア諸地域史を扱う卒業論文の作成を指導する。大学での4年間の学業の集大成である卒業論文とは、自分の問題意識と興味関心に基づいてテーマを設定し(問題設定)、それを解くための史資料を収集・検討し(史料読解・批判)、自分の検討結果・見解を論理的に他者に提示する(構想報告・論文執筆)という一連の過程である。受講生各人がこの過程を体験し、かつ朋輩の報告・討論に参加することによって、問題発見・解決の力とプレゼンテーションの力を養うことを目的とする。
---------------------	---

授業スケジュール	卒業論文へ向けての構想発表とそれに対する討論・指導を主として進め、受講生は輪番で研究報告する。並行してアジア史に関する秀れた研究論文を講読し、その過程において、史資料の調査・収集・読解の方法や論文の構想・執筆法を実地に指導する。具体的スケジュールについては、開講後受講者の人数・テーマを勘案して相談する。 第1回：ガイダンス 第2～15回：研究法指導・文献講読・研究発表 第16～29回：研究法指導・研究発表 第30回：予備日
----------	---

準備学習	卒業論文作成へ向けての演習であるので、研究発表や論文講読には周到な用意・予習が必要である。
------	---

履修上の留意点	演習であるので、発表・討論への積極的参加姿勢が求められる。
---------	-------------------------------

成績評価の方法	本人の研究発表(60%)および発表・講読・討論時の発言(40%)などを総合して評価する。
---------	--

教科書/テキスト	
----------	--

参考書	
-----	--

履修コード	055501
科目名	東洋史学演習II
担当者名	中村 淳

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	主として中央ユーラシア史を対象とする卒業論文の作成に対する指導を行なう。受講生がより精度の高い卒業論文を作成することがねらいになる。
---------------------	--

授業スケジュール	卒業論文の相談会・中間発表を随時行なう。以下にスケジュールの概略を示すが、実際に受講する学生の数によって調整を行なうことになる。
----------	--

- 〔前期〕
- 第1回：1年間ならびに前期のガイダンス
  - 第2回：文献の探し方(日本語篇)
  - 第3回：文献の探し方(外国語篇)
  - 第4回：卒業論文の手引き(前半)
  - 第5回～第8回：卒論テーマと研究史の発表
  - 第9回～第10回：卒論作成のためのスキル
  - 第11回～第14回：中間発表
- 〔後期〕
- 第15回：前期作業の確認と今後の作業の確認
  - 第16回～第20回：構想発表
  - 第21回～第24回：序文の作成
  - 第25回～第28回：本文の作成
  - 第29回：口頭試問等について
  - 第30回：論集作成に向けて

準備学習	発表担当の少なくとも3週間前から準備をすること。また、他の受講生の発表からもどんな姿勢をもって学ぶこと。
------	--

履修上の留意点	出席重視。
---------	-------

成績評価の方法	出席点と平常点とを総合して評価する。
---------	--------------------

教科書/テキスト	必要な史料はプリントで配布。
----------	----------------

参考書	
-----	--

履修コード	048511
科目名	東洋史各説I〔古代史〕
担当者名	山口 洋

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	中国王朝と周辺諸国との関係について、如何なる問題点が存在し、どの様に研究が進められているのかを知ると共に、自ら問題に取り組めるようになること。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>前漢王朝以来、中国王朝にとって北アジアの遊牧民族勢力との関係は非常に重要であった。遊牧勢力は時には中国世界の奥深く進入し、やがて王朝をうち立てることもあった。北魏や北朝諸王朝、隋、唐などもその王族は鮮卑系である。また、西域諸国と中国王朝との交流は、それ自体が中国王朝に様々な影響を与えたが、その過程では北アジア遊牧勢力との力関係が影響していた。本講義では、北アジア史や中央アジア史の視点から中国史を再検討する。また、後期は隋王朝を中心に東アジア史の視点から、高句麗・日本との関係も視野に入れたい。対象時代は、中国王朝で言えば秦から唐まで。以下の予定で進める。</p> <p>第1回：ガイダンス  第2回：アジアの地理と風土  第3回：中国人の世界観  第4回：冊封  第5回：先秦時代の西域関係  第6回：漢王朝と匈奴（冒頓）  第7回：匈奴に入った漢人  第8回：張騫の西域遣使  第9回：武帝時代の匈奴  第10回：後漢時代の匈奴  第11回：後漢時代の西域  第12回：鮮卑の台頭  第13回：柔然  第14回：遊牧民の中国侵入の要因  第15回：前期まとめ  第16回：五胡十六国から南北朝、隋朝へ  第17回：隋の統一（南北朝から隋成立まで）  第18回：隋の統一政策  第19回：突厥と隋：突厥の台頭  第20回：突厥と隋：北周から隋  第21回：突厥と隋：千金公主  第22回：高句麗と隋：朝鮮半島と中国のかかわり  第23回：高句麗と隋：高句麗遠征前夜  第24回：高句麗と隋：高句麗遠征とその意味  第25回：吐谷渾  第26回：隋王朝と西域  第27回：高昌国  第28回：日隋関係：古代日本と中国王朝  第29回：日隋関係：遣隋使  第30回：まとめ</p>
----------	---

準備学習	参考書に掲げた文献を中心に予習復習しましょう。 また受講後の復習は、配布プリントを中心に必ず行いましょう。
------	--

履修上の留意点	出席不良者には単位修得を認めない。課題は必ず提出すること。
---------	-------------------------------

成績評価の方法	出席が全授業回数の3分の2以上出席し、かつ夏季レポート、学年末レポートの双方を提出した上で、総合判定を行う。 配点比率は、100点満点中、夏季レポート30%、学年末レポート50%、平常点（出席など）20%とし、合計60点以上を合格とする。
---------	--

教科書/テキスト	プリント配布
----------	--------

参考書	<p>池田温〔ほか〕著『中国史』（山川出版社）1996.7（世界歴史大系）  森安孝夫著『シルクロードと唐帝国』（講談社）2007.2（興亡の世界史；05）  護雅夫著『古代遊牧帝国』（中央公論社）1976.7（中公新書；437）  護雅夫著『古代トルコ民族史研究』1-3 別冊（山川出版社）1967.3-1997  護雅夫著『李陵』（中央公論社）1974（中公叢書）  内田吟風著『北アジア史研究』鮮卑柔然突厥篇、匈奴篇（同朋舎）1975</p>
-----	--

履修コード	048711
科目名	東洋史各説III [中世史]
担当者名	石田 肇
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	〈唐宋変革期の諸問題〉と題して講義します。唐から宋にかけては唐宋変革期といわれ、中国史上の大きな転換期として、ひいては東アジア史上の転換期として認識されており、時代区分の問題とも絡んで重要な時期ですので、様々な議論がなされています。そこでこの変革に絡めて講義します。
授業スケジュール	前期では時代区分論について紹介し、ついで唐宋変革期を概説し、後期では前期をふまえてあるテーマについてお話しする予定です。現段階ではテーマは決まっていますが、思想史・士大夫論・史学史・科学論・金石学・書道史といった私の関心のある分野から選んで講義することになると思われます。前期の様子を見て受講者の関心になるべく対応するつもりです。
準備学習	特になし。
履修上の留意点	講義ではなるべく史料を示して解説してゆきますので、配布史料は必ず持参すること。
成績評価の方法	出席ならびに課題提出によります。
教科書/テキスト	
参考書	適宜、講義中に示します。
その他	講義を中心としますが、なるべく受講生に発言を求めます。

履修コード	048811
科目名	東洋史各説IV [近世史]
担当者名	宮崎 洋一
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	今日の中国経済は急激に発展して、世界第一の経済大国への道を突き進んでいる。その要因を歴史的に探ることが本講義の最大の目的である。このため今日につながる発展の最初の変動期を迎えた明王朝の後半から清王朝の前半期にかけて(16~18世紀)の中国の社会・経済の動向を把握すると同時に、文化・習俗を概観して中国が如何なる特質をもつ国であるかを理解する一助とする。 本授業では、①明・清王朝の歴史過程とその特質を理解し、自らの言葉でそれを説明できるようになること、②社会・文化・習俗を理解し、東アジア諸国のそれとの相違点・類似点を説明できるようにすること、を主たる到達目標とする。
授業スケジュール	第1回：序論：中国文明の中で、明・清王朝がどのように位置づけられるのかを考える。同時に、中国を対象として考える上で必要な地理状況や、現代中国の社会状況などを、簡単にレクチャーする。 第2~6回：明・清王朝の基礎知識：科挙・官と吏・賦税・佃戸・大運河など、明・清時代を考えていくために知っておくべき語句を取り上げ、解説していく。 第7~11回：明・清王朝史概観：14世紀から20世紀初頭にかけての明・清時代に起こった出来事を概観し、その背景を分析して今後の授業展開の基礎とする。 第12~15回：明清時代の農村：人口の大半を占める農民が、明清時代にどのような場所でのように生きていたのかを概観する。 第16~18回：明清時代の都市：明清時代に急速に発展する中国都市の姿を詳述し、都市を起点として生じる時代特有の問題点を取り上げて考察する。 第19~21回：国家と地域社会：皇帝による支配と現実の地域社会との姿がどのような形でリンクし、どのような形でズレをもっているのかを考えてみる。 第22~24回：中国の人的組織：中国社会で生きていく上で結合する人間関係は緻密であり複雑である。家族関係・商人集団・秘密結社など、中国の人的組織を考えてみる。 第25~27回：中国における生活のリズム：明清時代の人々の日常生活がどのように行なわれているか、その信仰や年中行事を通して考えてゆく。 第28~30回：伝統中国と中国の近代：19世紀に入り、ヨーロッパとの関係の中で中国は新しい時代を迎えるが、中国が作り上げてきた大伝統がヨーロッパの文物をどのように受け入れてきたかを考え、再度明清時代の位置づけをおこなう。
準備学習	明王朝・清王朝についての基本的知識を、高校世界史のレベルでかまわないので、教科書・参考書等を利用して再確認しておくこと。『中国の歴史』(講談社刊)などの概説書を読んでおくとなおよろしい。但し、ある程度の中国史概説は授業の中でも行います。
履修上の留意点	歴史研究の出発点は今日への関心にあります。日頃から新聞の経済面・国際面に目を通したり、テレビや雑誌等の中国・アジア関係の報道には注目しておいてください。
成績評価の方法	学期末試験(6割)と夏期休業後に提出してもらったレポート(4割)をもとに、総合的に評価します。
教科書/テキスト	教科書は使用しません。但し、毎時間参考資料をプリントの形で配布します。
参考書	講義中に適宜指示します。但し、下記の書は英文で読むの時間がかかるかと思しますのであらかじめ提示しておきます。 (1) S. Naquin&E. S. Rawski "Chinese Society in the Eighteenth Century" Yale U.P. 1987 (2) M. Elvin "Another History" Hawaii U.P. 1996
その他	特になし

履修コード 048911

科目名 東洋史各説V [近・現代史]

担当者名 長谷部 圭彦

授業概要/  
到達目標 (ねらい)

(授業概要)  
本授業では、イスラームが誕生した7世紀から現代までの「中東・イスラーム地域」の歴史を概観する。とくに、この地域の大部分を支配し、現在の同地域の直近の歴史的前提を形成したオスマン帝国 (ca. 1300-1922) に焦点をあてる。

(到達目標)  
本授業の目標は、受講生各人が、「中東・イスラーム地域」の歴史と、イスラームの教義に関する基礎的な知識を獲得し、それを各々の学術的営為に活かすことにある。歴史と宗教に関する体系的な知見は、現代の国際情勢を理解するうえでも有用であろう。なお、オスマン帝国は、周知のように、一般に「東欧」に分類されるバルカン半島も数百年にわたって支配していた。また、19世紀のオスマン帝国において推進された諸改革は、幕末から明治にかけての日本におけるそれとも多くの点で類似していた。「東洋史」に限らず、「西洋史」や「日本史」に関心のある受講生の積極的な参加を期待する。

授業スケジュール

前期は、イスラームの誕生から18世紀までを扱う。後期は、オスマン帝国の解体過程を中心に、19世紀以降を解説する。

第1回：現代の中東・イスラーム地域 第2回：イスラーム生誕 第3～5回：アラブ・イスラーム世界の形成と展開 第6～7回：イランとトルコ 第8回：サファヴィー朝の時代 第9回：中央ユーラシアとロシア 第10～12回：オスマン帝国の時代 第13回：オスマン帝国治下のアラブ地域 第14回：オスマン帝国治下のバルカン 第15回：前期のまとめ  
第16回：パワーバランスの変化 第17～19回：タンズイマート改革 第20回：憲法と専制 第21回：第二次立憲政の時代 第22回：第一次世界大戦と帝国の終焉 第23回：近代イランの社会 第24回：アラブ諸国の成立 第25回：ナショナリズムとバルカン諸国 第26回：トルコ共和国の成立 第27回：パレスチナ問題の展開 第28回：イスラーム復興運動 第29回：再び、現代の中東・イスラーム地域 第30回：後期のまとめ

準備学習

授業内容をより良く理解するために、授業で解説する歴史上の重要人物・事件や時代背景について、配布するレジュメや参考文献などで予習・復習をしてほしい。

履修上の留意点

より良い授業にするために、授業に関する質問・感想を、出席カード (毎回授業開始時に配布) に記入して提出してほしい。

成績評価の方法

平常点 (60%) と年2回のレポート (40%) による総合評価。

教科書/テキスト

使用しない。適宜レジュメと資料を配布する。

参考書

佐藤次高・鈴木董・坂本勉編『新書イスラームの世界史』全3巻、講談社 (講談社現代新書)、各650円、4-06-149162-8, 4-06-149166-0, 4-06-149175-X, 1993年。  
東長靖『イスラームのとらえ方』山川出版社 (世界史リブレット)、729円、4-634-34150-6、1996年。

その他

なし

履修コード	049611
科目名	東洋史特講II [中世史]
担当者名	中村 淳

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>モンゴル時代までのユーラシア東方世界の歴史について、中央ユーラシアすなわち「遊牧民」の存在に注目しながら論じてみたい。東洋史コースの開講科目においても、かなり特殊な内容になる。</p> <p>近代以前の「世界史」も、分断された歴史世界が並立した状態にはなく、またユーラシアの東方においても、単純に「中国」が中心にあったわけではない。さらには、ヨーロッパもアジアの境もない「世界」はあった。この事実に対する理解こそが、本講義の求めるものである。</p> <p>受講生には、単なる知識の習得のみならず、また既存の理解や価値観にとらわれることなく、「人々の営み」をありのままに捉えることの重要性を理解してもらいたい。</p> <p>国家、民族、王朝の滅亡など、歴史を理解する上において欠くことのできない基本的な概念についても、受講者各自が繰り返しその意味するところを考える機会を設けたい。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>おおむね以下のような授業内容を予定している。</p> <p>〔前期〕</p> <p>第1回：導入(1) —舞台となる中央ユーラシア世界</p> <p>第2回：導入(2) —文字の3つの源</p> <p>第3回：導入(3) —言語と「民族」</p> <p>第4回：小テスト</p> <p>第5回：長城を挟む戦国時代 —胡服騎射</p> <p>第6回：匈奴帝国と秦 —統一のあとさき</p> <p>第7回：匈奴帝国と漢 —創始者の勝ち負け</p> <p>第8回：前漢武帝の治世 —匈奴帝国との関係</p> <p>第9回：匈奴と漢の「共存」関係</p> <p>第10回：拓跋の時代へ —系図が語る世界</p> <p>第11回：ソグド人の手紙 —「匈奴・フン同族説」</p> <p>第12回：柔然と北魏 —ふたりのカガン</p> <p>第13回：突厥と拓跋王朝</p> <p>第14回：唐の「国際性」</p> <p>第15回：前期確認テスト</p> <p>〔後期〕</p> <p>第16回：ササン朝の滅亡とイスラームの台頭</p> <p>第17回：安祿山という人物 —ソグド系突厥人</p> <p>第18回：国際戦争としての「安史の乱」</p> <p>第19回：敦煌文書の世界 —唐・ウイグル・吐蕃</p> <p>第20回：キタイ帝国と沙陀突厥 —義兄弟の時代</p> <p>第21回：キタイ帝国と宋 —擬制的家族の時代</p> <p>第22回：三国時代 —金・西夏・宋</p> <p>第23回：小テスト</p> <p>第24回：モンゴル時代とは</p> <p>第25回：「オゴデイハン国」が消えた理由</p> <p>第26回：「ウルス」の理解</p> <p>第27回：誤解される「色目人」</p> <p>第28回：モンゴル時代の「国際性」</p> <p>第29回：モンゴル帝国と「大元」</p> <p>第30回：後期確認テスト</p>
----------	---

準備学習	<p>東洋史分野の中でもかなり特殊な話を講義する。本講義の内容を理解するためには、少なくとも高校「世界史B」の知識・理解が必要とされる。毎時間、しっかり準備して授業に臨むこと。</p> <p>また地理・言語・文字に関する理解も重要になる。初回から始まる導入は、講義全体を理解するための基礎となるので、かならず受講すること。</p> <p>漢文を中心とする一次史料を多用しながら講義を進めることになる。東洋史文献史料講読I～XIのうち1コマ以上を履修し、すでに漢文史料の基本的な扱い方を身に付けた状態で受講することが望ましい。</p>
------	--

履修上の留意点	<p>一次史料を多く用いて講義を進める。漢文については、句読点のあるもののほか、原史料そのまま(白文)を配布する場合もある。繰り返しになるが、東洋史文献史料講読I～XIのうち1コマ以上を履修した程度の理解力を望みたい。漢文以外の史料、チベット語、モンゴル語、トルコ語等のものについては、基本的に日本語訳を添える。</p>
---------	--

成績評価の方法	<p>毎回、リアクションペーパーで理解度を確認する。リアクションペーパーや受講態度等による平常点(20%)、2回の小テスト(20%)、前期・後期のペーパーテスト(60%)の結果を総合的に評価する予定である。</p>
---------	---

教科書/テキスト	<p>必要な史料はプリントで配布。</p>
----------	-----------------------

参考書	<p>参考書については授業時に随時紹介する。</p>
-----	----------------------------

履修コード	049711
科目名	東洋史特講III [近世史]
担当者名	上田 裕之

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	明清時代 (1368~1912年) の漢地 (中国本土) の経済・財政・貨幣をめぐる諸問題について考察し、華々しい政治史的事件の他にも様々な要因から複雑な影響を受けていた明清時代の漢地の歴史に対する理解の深化を目指します。
---------------------	---

授業スケジュール	[前期] 1. 明初の海禁・朝貢体制と里甲制/2. 明朝の北京遷都と銀財政/3. 明朝の北辺防衛と軍費増大/ 4. 日本・新大陸の銀と内外情勢の流動化 [後期] 5. 明清交替後の対外関係と交易/6. 清代中国と日本の交易と政治/7. 清朝の銅銭供給政策/8. 清代乾隆年間の好況とその後
----------	--

準備学習	経済・財政・貨幣に関する特定のトピックを深く掘り下げるので、明清時代の通史的理解 (高校世界史B程度) に関しては、受講学生各人の自主的な努力によってあらかじめ修得されていること (あるいは、最低でも、本講義の受講と並行して学習していくこと) が望まれます。本講義において論じる歴史の「多面性」や「意外性」は、まずもってオーソドックスな理解があってこそ、真に味わえるものだからです。
------	---

履修上の留意点	無断欠席の回数が全体の4分の1を超過した受講学生には、期末試験の受験を認めません。詳細は初回講義において通知しますので、初回講義には必ず出席してください。
---------	---

成績評価の方法	無断欠席の回数が全体の4分の1以下の受講学生を対象として期末試験を実施し、その点数によって評価を決定します。期末試験の内容は、①語句説明5問 (10個の選択肢から任意の5個を解答。各10点)、②論述問題2問 (特定のトピックについて、指定された語句を用いながら、その経緯や意義を説明。各25点) とします。暗記を要求するものではありませんので、ノート等の持ち込みは認めますが、その代わり、理路整然とした日本語で、聞かれたことに的確に答えられているかを、厳しく採点します。
---------	---

教科書/テキスト	特に指定しません。
----------	-----------

参考書	岸本美緒・宮嶋博史『明清と李朝の時代』中央公論新社、1700円、ISBN 9784122050549 その他の図書は、講義中に紹介します。
-----	--

履修コード	049811
科目名	東洋史特講IV [近・現代史]
担当者名	藤谷 浩悦

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	前期は、19世紀の半ば、中国の華南、華中地方で起きた太平天国運動を題材としながら、歴史をどのように考えていったらよいかについて、様々な角度から言及します。具体的には、文化摩擦と変容、理念と現実、パーソナリティと社会、或いは歴史評価の変遷といった問題を取り上げます。
---------------------	--

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	後期は、日本と中国の近代を中心としながら、文化需要の異同や、発想の違い、展開の特徴などを考えるものです。題材は、茶やアヘン、都市、留学生、翻訳語、服飾や髪型など、日常生活に密着したテーマです。また、日本の史跡も紹介しながら、歴史を考えることの魅力に触れたいと思います。
---------------------	--

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	講義で強調したい事柄は、物の考え方、見方にあります。従って、必ずしも世界史や中国史の基礎的な知識に不安のある学生でも、受講に差し障りはありません。興味さえあれば、結構です。
---------------------	--

授業スケジュール	前期：1. 民衆反乱の世界、2. 秘密結社と民衆、3. 民間宗教の系譜、4. 中国の試験地獄、5. 洪秀全の目覚め、6. 文化伝播と変容、7. 洪秀全と曾國藩、8. 太平天国の内紛、9. 理念と現実の差、10. 洪の死と曾國藩、11. 李秀成の供述書、12. 歴史評価の変遷、13. 歴史を学ぶ意味 後期：1. 茶の世界史、2. 茶の需要と地域差、3. 病気と茶、4. 茶とアヘン、5. アヘン戦争、6. 日本の開国、7. 横浜の歴史と中華街、8. 中華街：日本の論理と中国の論理、9. 上海と横浜、10. 留学生と日本、11. 翻訳語とアジア、12. 服飾と髪型、13. 日本と中国の近代
----------	--

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	講義が主体となります。毎回、授業に関する感想を書いていただき、次回以降の授業内容に反させたいと思います。
---------------------	--

準備学習	高校の世界史の授業における近代の項目を見直してください。 ただし、授業の受講にあたっては、必ずしも世界史の予備知識がなくとも大丈夫です。
------	---

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	評価は、テスト6割、出席率4割の比率で行います。テストは、二回行います。ノートは持ち込み可能ですが、コピーしたものは認めません。
---------	--

教科書/テキスト	教科書はありません。参考書は、授業中適宜指示します。
----------	----------------------------

参考書	
-----	--

履修コード	049911
科目名	東洋史特講V〔アジア諸民族史〕
担当者名	野田 仁

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	多様な民族で構成される中央アジアの歴史的展開を概観し、とくにモンゴル帝国時代以降の政治・社会・文化の諸相を考察します。なかでも、現代中央アジアの主要な信仰となっているイスラームに焦点を当てて、中央アジアの歴史の中での役割を含めてくわしく検討します。 前期では北方の遊牧世界と南方の農耕オアシス世界の違いを理解する事を主な目的とし、後期ではこの地域を取り囲む中国・ロシアなどのより大きな勢力との関係に注目しながら、近代の諸民族の活動について考察を進める予定です。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1: 授業計画の説明、中央アジアという地域の概略</li> <li>2: 草原の遊牧世界と農耕オアシス世界の歴史展開</li> <li>3: イスラームとは何か?</li> <li>4: 中央アジアの信仰生活</li> <li>5: 中央アジアのテュルク化</li> <li>6: 中央アジアのイスラーム化</li> <li>7: モンゴル帝国と中央アジア</li> <li>8: モンゴル帝国治下のイスラーム</li> <li>9: 他者から見たモンゴル帝国</li> <li>10: モンゴル帝国の継承政権 1</li> <li>11: モンゴル帝国の継承政権 2</li> <li>12: ティムール朝の崩壊とウズベクの国家</li> <li>13: イスラームの聖者と権力</li> <li>14: 前近代中央アジアのイスラーム文化</li> </ol> <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1: 前近代中央アジア史の概観 (前期の総復習)、近現代史の諸問題について</li> <li>2: ジューンガルの覇権と中央アジア</li> <li>3: 清朝による中央アジアの征服</li> <li>4: 清朝治下の中央アジア (新疆) (1)</li> <li>5: 清朝治下の中央アジア (新疆) (2) とグレートゲーム</li> <li>6: 辛亥革命以降の新疆</li> <li>7: 「3ハン国」の統治</li> <li>8: ロシアによる中央アジアの征服</li> <li>9: ロシア帝国治下の中央アジアと改革運動</li> <li>10: 近代中央アジアの知識人</li> <li>11: ロシア革命と中央アジア</li> <li>12: ソ連時代の中央アジア</li> <li>13: 現代中央アジアのイスラーム信仰</li> <li>14: 中央アジア諸民族の言語と文化</li> </ol>
----------	--

準備学習	地図帳などで地理・地名を確認しておくとう理解が深まります (地図は授業時にも配布します)。
履修上の留意点	中央アジア史だけでなく、ロシア史や中国史に関心を持つ人の履修も歓迎します。
成績評価の方法	レポート (授業期間中に計2回) に出席状況を合わせて総合的に評価します。
教科書/テキスト	テキストは、講義中に配布するレジュメやプリントを基本とします。その他の文献については適宜指示します。
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小松久男 (編) 『中央ユーラシア史』 (新版世界各国史) 山川出版社、2000年</li> <li>・梅村坦 『内陸アジア史の展開』 (世界史リブレット (11)) 山川出版社、1997年</li> <li>・間野英二ほか 『内陸アジア』 朝日新聞社、1992年</li> </ul>

履修コード	050011
科目名	東洋史特講VI〔アジア諸民族史〕
担当者名	四日市 康博

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>授業概要：          イスラーム教は成立以来、アフロ・ユーラシア世界に広まって世界宗教となり、各地域の歴史や文化に大きな影響を及ぼした。本講義はイスラームの基本的な宗教文化とアラブ世界・イラン世界・チュルク遊牧世界の3つの立脚点から歴史的な展開を概観したうえで、イスラーム世界の移動や周辺世界との交流によって互いの社会・文化にどのような影響を与えたのかという点を中心に講義をおこなう。</p>
---------------------	---

到達目標：

まず、従来から日本社会に根付いているイスラームに対する典型的イメージやバイアスがどのようなものであるか自覚し、イスラームの基本的な文化について理解することを目標とする。次に、イスラーム世界の歴史的展開を多角的な視点から概観し、イスラーム文化の持つ普遍性（共通性）と地域性（多様性）という両極性を認識することを目標とする。なお、可能であれば、イスラーム世界と周辺世界の関係・構造の比較を通じて、受講者自身をとりまく社会がイスラーム世界にどのように関わっているのか、両者の共通点・相違点はどこにあるのか、さらには、自己のアイデンティティを形成する核がどのような歴史認識・空間認識に基づいているのかという点まで自身で考えてみることでできれば、理想的である。

授業スケジュール	<p>前期：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イントロダクション ・イスラームとは何か(1)-(2)</li> <li>・ムハンマドとイスラームの成立(1)-(2) ・正統ハリーフアの時代</li> <li>・イスラーム帝国の出現と解体(1)-(2) ・アラブ世界とイラン世界(1)-(2)</li> <li>・チュルク遊牧世界とイスラーム(1)-(2) ・モンゴルの衝撃とその影響(1)-(2)</li> <li>・イスラーム西方世界 (マグリブ)</li> </ul> <p>後期：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イスラームの食文化(1)-(2) ・イスラーム都市論(1)-(2)</li> <li>・イスラームにおける商業倫理 ・イスラーム国際商業の展開</li> <li>・イスラームの巡礼 ・イスラームと海域世界</li> <li>・移動する人々：イブン=バットウータとマルコ=ポーロ(1)-(2)</li> <li>・知識人と学術ネットワーク ・アジアにおけるイスラームの展開</li> <li>・イスラームの美術と文化交流(1)-(2) ・イスラーム世界と現代社会</li> </ul> <p>(※ 授業の進度や状況によって内容を変更・順番を前後する場合がある)</p>
----------	---

準備学習	特にないが、新聞・ニュース・日常生活でイスラームに関わりのある事象に接した場合は、意識的に注意して観察してみる。
------	--

履修上の留意点	
成績評価の方法	定期試験50%、平常点50%で評価する。

教科書／テキスト	毎回授業時に担当教員が作成したプリントを配布する。また、適宜、映像資料などを使用する。
----------	---

参考書	
-----	--



履修コード	045021
科目名	東洋史文献史料講読IV
担当者名	中村 淳

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	モンゴル時代(モンゴル帝国・元朝の時代)の歴史に関わる漢文を、補助資料を用いながら輪読します。 漢字を普段から用いている日本人は、ややもすれば漢文を雰囲気を読んでしまうことがあります。本講読を通して、文字・文字を大切にしながら史料を読む習慣を身につけ、同時に、モンゴル時代を研究する際の基本的な知識や技術を修得して下さい。 また実際の担当や発表を通じて、スケジュール管理・目標管理、プレゼンテーションの基本を身に付けて下さい。
---------------------	---

授業スケジュール	事前に、輪読の中心となる担当者を決めます。具体的なスケジュールは、受講者の人数がわかって初めて決まるので、授業開始時に受講者と相談して決めます。 担当者は担当日に向け、担当箇所の漢文について、書き下しと日本語訳を作り、関連データを収集・整理し、レジュメを作成して授業に臨みます。 当日はそのレジュメに基づいて報告をすることになります。 また夏期レポートを課し、後期にそのレポートに基づいた研究発表を行なってもらいます。 レジュメの作成方法や発表・報告の仕方は、授業開始時にガイダンスを行なって説明します。
----------	--

なお後期は、漢文の他に英文で書かれた文章を講読する予定です。昨年度は後期に Christians in Asia before 1500の一部分を講読しました。今年度は“The Unity of the Mongol Empire and Continental Exchanges over Eurasia”か、もしくは“State Formation in the Inner Eurasian Steppes”を候補として考えています。

準備学習	「漢文」に関しては、中学・高校で何を習ったのかを思い返して初回の授業に臨んで下さい。 例えば、音読みと訓読み、漢和辞典の引き方や、返り点、再読文字、そのほか基本的な文法用語など。 「英文」に関しては、構文の把握と理解はもちろん、単語のひとつひとつを大切にしながら日本語として通じる訳を作成することが求められます。 毎回の授業については、自分が担当する場合以外においても、かならず予習した上で臨んで下さい。
------	---

履修上の留意点	出席を重視します。第1回から必ず出席すること。
成績評価の方法	出席点・平常点により総合的に判断します。
教科書/テキスト	必要な資料はコピーして配布します。
参考書	授業時に適宜紹介します。

履修コード	045041
科目名	東洋史文献史料講読VI
担当者名	豊岡 康史

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	中国広州での貿易に関する漢文史料『粵海関志』の輪読を行います。中国の古典語である漢文読解能力の習得とともに、清代中国の海外貿易に関する理解を深めることを目指します。
---------------------	--

授業スケジュール	梁廷樞(1796-1861)が編纂した『粵海関志』は、広東におかれた清朝の税関の記録です。17世紀からアヘン戦争直前の1833年までの約150年に関する広東における対外貿易管理体制が記されています。 第1回でガイダンスを行ったのち、第2回から第5回までは、対外交易を軸に明清時代史に関する概説を行います。以降は、受講者全員での史料講読を行います。講読に際しては、訓読および現代日本語訳を行います。
----------	---

準備学習	高度な予備知識は求めません。むしろ講義での積極的な質問や発言を求めます。ただし、漢文に関しては事前に入念な予習が必要です。
履修上の留意点	漢和辞典を持参してください。
成績評価の方法	出席状況を含む平常点をもとに評価します。
教科書/テキスト	梁廷樞編纂・袁鐘仁校注『粵海関志 校注本』(広東人民出版社、2002年)。講読箇所のコピーを配布します。
参考書	岡本隆司『近代中国と海関』(名古屋大学出版会、2000年)。そのほか、講義内で適宜紹介します。

履修コード	045061
科目名	東洋史文献史料講読VIII
担当者名	田中 靖彦
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本授業では、史書『三国志』をテキストとした講読演習を行います。諸葛亮・曹操・関羽・周瑜たちの活躍を原文で味わうことを通して、漢文の基礎と応用力を習得することを目指しましょう。
授業スケジュール	第1回：ガイダンス／第2回：第1課「黄巾の乱」／第3回：第2課「董卓の専横」／第4回：第3課「曹操の挙兵」／第5回：第4課「孫堅の活躍」／第6回：第5課「劉備と関張」／第7回：第6課「袁紹の覇権」／第8回：第7課「官渡の戦い」／第9回：第8課「江東を託す」／第10～11回：第9課「三顧の礼」／第12回：第10課「長阪の忠臣」／第13～14回：第11課「赤壁の戦い」／第15回：第12課「劉備の入蜀」／第16～17回：第13課「漢魏革命」／第18回：第14課「遺孤を託す」／第19～20回：第15課「出師の表」／第21回：第16課「泣いて馬謖を斬る」／第22～23回：第17課「秋風五丈原」／第24～25回：第18課「正始の政変」／第26～27回：第19課「蜀漢の滅亡」／第28～29回：第20課「三国の統一」／第30回：まとめ
準備学習	演習形式の授業ですので、予習を行うことを心がけて下さい。
履修上の留意点	三国志に関する予備知識は必須ではありません。三国志に限らず、中国史に関心をお持ちの方を広く歓迎します。演習形式の授業ですので、積極的に参加して下さい。
成績評価の方法	平常点によって評価します。試験は行いません。
教科書／テキスト	石井仁・渡邊義浩・津田資久・伊藤晋太郎・田中靖彦『漢文講読テキスト 三国志』白帝社、1700円、ISBN978-4-89174-891-3を使用します。
参考書	講義内で適宜指示します。

履修コード	045081
科目名	東洋史文献史料講読X
担当者名	石川 重雄
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 本講義は清の趙翼『廿二史劄記』を読みながら、史料学や史料批判などについて学ぶことを目的といたします。まず各自が関心のある項目をいくつか選択し、原文筆記、返り点、訓読、日本語訳をつくってもらいます。その過程で趙翼が引用した記事と正史の記事との校合、人物・地名・官職・歴史事項等の検討をおこない、簡単な「訳注」を完成させたいと思います。このほか講義の合間に、「正史のはなし」「暦のはなし」「年号のはなし」「諱を避ける」「用語・史料データベースのはなし」等の事項についても言及する予定です。 (到達目標) ①漢文史料の基礎的読解力を身につける。②漢和辞典やその他の工具書類の知識を得る。③基本史料である正史の内容や編纂過程を理解する④漢文史料から歴史事象の考察へとつながる思考方法を身につける。
授業スケジュール	【前期】 1) テキスト・辞書の説明 2) 担当者の輪読、発表 3) 正史のはなし 4) 用語・史料データベースのはなし 5) 訳注のレジュメの作成 【後期】 6) 担当者の輪読、発表 7) 年号のはなし 8) 諱を避ける 9) 訳注レジュメの作成、総括
準備学習	毎回、史料の予習をお願いします。質問事項等があれば各自整理しておいて下さい。
履修上の留意点	担当者を決めて発表形式です。各自予習が必要となります。講義の際には適当な漢和辞典を持参して下さい。
成績評価の方法	平常の発表内容(4割)、年2回の提出レポート(6割)によって行います。総合評価においては出席率も勘案いたします。
教科書／テキスト	テキストは、講義時にプリントを配布いたします。
参考書	必要に応じてそのつど紹介します。

履修コード	045111
科目名	東洋史文献史料講読XII
担当者名	上田 裕之

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義では、受講生全員による清代の漢文史料の輪読を行い、丹念な史料の読解に基づいて歴史理解を構築するための能力の修得を目指します。
---------------------	---

授業スケジュール	本講義では、19世紀中頃に清朝の官僚であった王慶雲の著作『石渠餘記』から、清朝(1636-1912)の財政に関する文章をピックアップして講読します。 財政とは、政府が民間から貨幣や現物を徴収し、それを統治の実現のために様々な用途に支出するという活動です。財政のありかたは、それぞれの時代・地域における国家と社会の結びつき方を如実に表現しています。本講義では、上記史料をテキストとして財政史的観点から清代中国の国家と社会の実像に迫るとともに、その作業を通じて、中国史の研究に不可欠な漢文読解能力の研鑽を図ります。 第1講では本講義の進め方についてのガイダンス、第2~4講では明清時代の流れを概観するとともに同時期の財政史に関する基本事項の説明を行い、第5~30講では受講者全員による史料輪読を行います。担当者には、レジュメを作成して発表してもらいます。
----------	---

準備学習	高度な予備知識は求めませんが、一度講義で解説された事柄については、質問や復習などの自主的な努力によって着実に自身の知識として定着させるよう励んで下さい。
------	--

履修上の留意点	漢和辞典を毎回必ず持参してください。
---------	--------------------

成績評価の方法	出席が一定水準に達した受講生について、①発表レジュメ、②発表内容、③期末レポート(①の訂正版を前期末および後期末に提出)に基づいて評価を行います。出席不良者は、①~③の内容如何にかかわらず評価の対象としませんので、心身の管理に努めて極力毎回出席するようにして下さい。
---------	---

教科書/テキスト	『石渠餘記』(北京古籍出版社刊の標点本)を使用します。講読箇所のコピーを配布します。
----------	--

参考書	
-----	--

履修コード	047511
科目名	日本近世史
担当者名	中野 達哉

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	近世の領主支配と社会について理解することを目的とする。具体的には、天正18年(1590)の関東転封から江戸幕府開幕までの徳川家康の領国整備の過程を中心としながら、享保期までを見通し、当該期にかかわる史料を取り上げて講義する。
---------------------	--

授業スケジュール	前期 (1) 授業についてのガイダンス。 (2・3) 序 北条氏の滅亡と徳川家康の関東転封①惣無事令と豊臣政権の小田原北条氏攻め。(4・5) ②徳川家康の江戸入府。(6) I. 江戸・江戸城の建設①近世初頭の江戸。(7・8) ②江戸城の建設。(9・10) ③家臣団への屋敷下賜と江戸の武家屋敷。(11・12) ④埋め立てと町の建設。(13・14) ⑤町の支配と住民。(15) ドン・ロドリゴの見た慶長期の江戸。 後期 (16) II. 家臣団の知行割と幕藩体制への展開①知行割の実施と基本方針。(17・18) ②知行割の実施過程。(19) ③拠点・要所への家臣配置。(20) ④蔵入地の設定。(21・22) ⑤知行宛行の実際。(23・24) III. 検地と在地支配①近世の検地と徳川初期検地の特徴。(25・26) ②武蔵国の検地実施過程。(27・28) ③検地と知行割・石高制。(29・30) ④代官頭と在地支配。
----------	--

準備学習	前回までに行った授業の復習をしておくこと。また、事前に配布したプリントは目を通しておくこと。
------	--

履修上の留意点	「知識としての日本史」を深めるために受講するのではなく、近世の社会を大局的に捉え、考えるための糧とすべく講義を受講して欲しい。
---------	---

成績評価の方法	基本的には、年度末の定期試験により評価する。試験では、史料の解説と論述問題を課す。なお、授業の出欠状況も若干参考とする。
---------	--

教科書/テキスト	教科書はなし。必要な資料は、適宜プリントして配布する。
----------	-----------------------------

参考書	授業中適宜指示する。
-----	------------

履修コード	047611
科目名	日本近代史
担当者名	熊本 史雄

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>いうまでもなく、歴史を学ぶにおいては「問」が存在します。近代史に限っていえば、アジア太平洋戦争はなぜ起こったのか、は大きな「問」のひとつに違いないでしょう。これと関連して、「国民国家」が如何にして建設されたのかという「問」もまた、近代史を学ぶ際の大きな「問」です。</p> <p>西欧文明との接触を契機として始まった日本の近代化は、憲法制定や帝国議会設置といった政治体制の整備にとどまらず、産業、経済、教育、芸術、さらには文化といった生活レベルにまで至るものでした。その過程は、伝統と変革と建設の三つ巴の混乱を伴いながら、西洋文明すなわち異文化をいかにして受容するかとの課題に対応し続けたものと言えるでしょう。そしてその先には、強靱な「国民国家」を建設する、という明治国家が掲げた大きな目的があったのです。</p> <p>そこで本講義では、「国民国家」建設における「内」と「外」、すなわち「国民」を創り出すべく展開された国内事業とりわけ教育政策と、対外関係のなかで「帝国日本」の位置を模索した外交につきそれぞれ史料を交えて講述し、先の「問」に答えていくための視座を提供していきたいと考えています。</p> <p>まず前期では、西洋文明の摂取とそれに対向すべく喧伝された日本の伝統文化のなかで模索を続けた近代日本の足跡を、「文学（自我の確立）」と「国語（ことば）」を切り口として考察します。とくに、「国語教育」が担った「国民」創出過程を繙くことによって、アジア進出を促した論理やナショナリズムの問題にも言及していきます。</p> <p>かわって後期では、「国民国家」建設作業と表裏一体でもあった、日本の外交につき論じていきます。とくに、キーとなる人物を探り上げてその外交思想を解明し、近代日本外交が抱え持った、多様で膨らみのある言説空間と足跡を、史料を交えて講述していきます。これらの検討を通じて、近代日本が対峙した対外関係の課題が浮かび上がってくるでしょう。それはすなわち、「なぜ、日本は無謀な戦争を起こさねばならなかったのか？」そして国民の多くは、なぜそれを支持したのか？」という問を解くヒントになるはずで。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>1回 授業の進め方、参考文献などについての説明</p> <p>2～4回 近代日本の西洋体験 ①～③</p> <p>5～8回 「国語」の創出と国民国家形成 ①～④</p> <p>9～12回 「国語」の海外進出と文化統治政策 ①～④</p> <p>13回 前期のまとめ</p> <p>14回 中間試験 《以上前期》</p> <p>15回 前期の総括（中間試験返却）／後期の授業計画について</p> <p>16回 山縣有朋の「外交政略論」</p> <p>17回 内藤湖南の「アジア主義」</p> <p>18回 内村鑑三の「非戦論」</p> <p>19回 宮崎滔天の「侠」と中国</p> <p>20回 牧野伸顯の「新外交」論</p> <p>21回 幣原喜重郎の「協調外交」</p> <p>22回 石橋湛山の「小日本主義」</p> <p>23回 矢内原忠雄の「植民地政策」論</p> <p>24回 佐藤尚武の「文化外交」論</p> <p>25回 石原莞爾の「最終戦争論」</p> <p>26回 吉田茂の戦後構想</p> <p>27回 まとめ ～国民国家形成と近代日本～</p>
----------	--

準備学習	特になし。
履修上の留意点	歴史には「問」がある。「暗記する歴史」ではなく「考える歴史」、「発見する歴史」を。
成績評価の方法	前・後期2回の試験成績（70%）、出席状況および授業への取り組み姿勢（30%）をもとに総合的に評価する。
教科書／テキスト	とくに指定しない。
参考書	<p>伊藤 隆『昭和史をさぐる』（朝日文庫）1991年</p> <p>中野自徹『書生と官員-明治思想史点景-』（汲古書院）2002年</p> <p>細谷千博『日本外交の軌跡』（NHKブックス）1993年</p> <p>三好行雄編『漱石文明論集』（岩波書店）1986年</p> <p>E. H. カー著 清水幾太郎訳『歴史とは何か』（岩波新書）1962年</p> <p>イ・ヨンスク『「国語」という思想』（岩波書店）1996年</p>
その他	講義形式で進め、レジュメと史料を毎回配布する。

履修コード	044301 044302
科目名	日本考古学概説
担当者名	酒井 清治

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この授業は、考古学とは何かを理解してもらうため、前半は考古学の歴史とどのような学問かを講義し、後半は日本考古学の時代史として旧石器時代、縄文時代、弥生時代、古墳時代について講義する。 日本の考古学は発掘も膨大にあり日々新しい資料も蓄積されている。その資料はどのような意味があるのか、資料からどのようなことが分かるのか、日本の考古学の中に位置づけ考古学とは何かを理解してもらう。
授業スケジュール	考古学の研究史、研究法および、遺跡・遺物を時代を追って取り上げ、日本考古学を時代史的に概観する。(1~2) 考古学とは何か、(3~6) 考古学の研究史、(7~10) 資料解釈の研究法、(11~14) 年代論、(15~18) 旧石器時代、(19~22) 縄文時代、(23~26) 弥生時代、(27~30) 古墳時代。前期は授業の初めに最新発掘資料の写真・図を見ながら考古学の理解を深めてもらう。
準備学習	博物館や図書館で考古学資料を見ることにより、考古学の時代的特色を把握することができ、講義の内容を理解しやすいので実施して欲しい。 授業時に資料を配付するので目を通しておいてほしい。
履修上の留意点	遅刻厳禁、私語厳禁。特に私語について、授業を受けている学生の迷惑になるのでやめること。
成績評価の方法	定期試験 (80%)、レポート (10%)、平常点 (10%)。
教科書/テキスト	教科書は特にないが、授業で逐次資料を配付する。
参考書	安藤雅雄『考古学キーワード』(有斐閣) 2100円 ISBN9784641058774 山岸良二『入門者のための考古学教室』(同成社) 1900円 ISBN9784886213723C1021 鈴木公雄『考古学入門』(東大出版社) 2940円 ISBN9784130230520 そのほか授業中に解説しながら紹介する。
その他	講義の中でOHPを使用し、図や写真あるいは実物資料を利用し理解を深める。

履修コード	047311
科目名	日本古代史
担当者名	瀧音 能之

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	原始~平安時代への理解を深めるとともに、古代に生きた人々の生活、風習、信仰などについて考え、各人の能力のアップをはかることを目的とします。
授業スケジュール	古代の歴史を単に通史的に追うのではなく、それぞれの時代の中の興味深いテーマを設定して、そこから古代史をみつめたいと思います。  (1) ガイダンス (2) ~ (14) 原始から奈良時代前期にかけての歴史 (15) 確認テスト (16) 確認テストの解説 (17) ~ (29) 奈良時代後期から平安時代にかけての歴史 (30) 確認テスト
準備学習	テキストの当日分について目を通し、あらかじめ内容の概略を理解しておいてください。
履修上の留意点	講義の日だけに古代史を勉強するというのではなく、日頃から新聞・雑誌・インターネット・TV番組などで報じられる古代史の新発見や情報に反応する習慣を養っておいて下さい。
成績評価の方法	2回おこなう確認テストを重視します。それに平常点(出席や発言など)を加味して評価します。その割合は、テスト85パーセントに平常点15パーセントくらいと考えて下さい。
教科書/テキスト	初回の講義のさいに指示しますので、受講希望者は、欠席しないようにして下さい。2000円くらいのものを予定しております。
参考書	瀧音能之『古代史の舞台裏』2007年刊(青春出版社) 1000円+税
その他	古代史を考えてみよう、という熱意と興味のある学生の受講を期待します。

履修コード	056401 056402
科目名	日本史概説
担当者名	小泉 雅弘

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	『高等学校学習指導要領解説』地理歴史編を念頭に置いて、近世から近代の日本の歴史について概説する。その際、政治・社会・文化・経済・外交などの関連性を重視したい。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>前期は、近世国家の形成過程と解体について講義する。後期は、主に明治維新を契機とする近代国民国家の成立、展開過程を取り扱う。</p> <p>[前期]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) ガイダンス</li> <li>(2) 時代区分の考え方、織田信長政権</li> <li>(3) 豊臣秀吉による天下統一</li> <li>(4) 江戸幕府の成立</li> <li>(5) 幕藩体制</li> <li>(6) 鎖国(海禁)政策①</li> <li>(7) 鎖国(海禁)政策②</li> <li>(8) 身分制社会と町・村①</li> <li>(9) 身分制社会と町・村②</li> <li>(10) 徳川の平和と秩序</li> <li>(11) 元禄時代</li> <li>(12) 享保の改革</li> <li>(13) 田沼時代</li> <li>(14) 寛政の改革</li> <li>(15) 欧米列強の接近</li> </ol> <p>[後期]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(16) 天保の改革</li> <li>(17) 諸藩の改革</li> <li>(18) 開国と日米修好通商条約の調印</li> <li>(19) 将軍継嗣問題と桜田門外の変</li> <li>(20) 文久期の政治状況</li> <li>(21) 倒幕運動の展開</li> <li>(22) 新政府の発足</li> <li>(23) 版籍奉還と廃藩置県</li> <li>(24) 明治の3大改革</li> <li>(25) 明治六年政変</li> <li>(26) 国境の画定</li> <li>(27) 土族反乱と自由民権運動</li> <li>(28) 帝国憲法と初期議会</li> <li>(29) 日清・日露戦争</li> <li>(30) まとめ</li> </ol>
----------	---

準備学習	高校のときに日本史Bを履修しなかった学生は、高校の教科書を熟読しておくこと。また、授業中に紹介する文献を読み、歴史的背景の把握につとめること。
------	---

履修上の留意点	歴史的事象を個別のものとして捉えるのではなく、広い視野で考える姿勢を身につけてほしい。
---------	---

成績評価の方法	定期試験で評価し、出席状況を加味する。
---------	---------------------

教科書/テキスト	
----------	--

参考書	講義内容にあわせて随時紹介する。
-----	------------------

履修コード	056301 056302
科目名	日本史概説
担当者名	野尻 かおる

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義は、考古学を始めとする人文科学の研究を志す学生、または将来教職につくことを希望する学生に対し、下記の事項を通して、歴史を研究すること、または日本史を教授することの意義を理解することが目的であり、いわゆる高校の教科書のような通史の講義は実施しない。講義に当たっては、古文書・記録・編纂物・金石文等の史料を中心に考古資料、絵画資料、民俗資料等を使用して進める。また、近世・近代を研究するに当たって必須の課題である身分差別の歴史もあわせて指導する。なお、数回、課題を与え、講義の内容に関するアンケートを実施する予定。
---------------------	--

授業スケジュール	一、空間から見た近世近代〔江戸・東京という都市及びその近郊を事例とする〕(1~6)。二、モノから見た近世近代〔石造物等を事例とする〕(7~10)。三、人から見た近世近代〔人生儀礼、特に生と死にまつわる歴史を事例とする〕(11~15)。四、近世身分社会の基礎知識(16~19)。五、絵画資料に現れた近世近代〔景観や習俗等を例に〕(20~24)。六、社会組織から見た近世近代〔祭礼・講等を事例に〕(25~30)。
----------	--

準備学習	特別に要しないが、課題を与えた際は、期限までに準備し提出すること。
履修上の留意点	質問等の発言は歓迎するが私語は慎む事。
成績評価の方法	定期試験及び出席状況。
教科書/テキスト	講義資料を配布する。
参考書	地方史研究協議会編『江戸・東京近郊の史的空間』2003年(雄山閣)、5,985円、ISBN 4-639-01825-8、メタ・アーケオロジー研究会『考古学リーダー3 近現代考古学の射程〜今なぜ近現代を語るのか〜』、2005年(六-書房)、ISBN4-947743-25-5、都市史研究会『年報 都市史研究』1〜、1993年〜2011年、山川出版、3,880円、ISBN 4-634-61910-5他、斎藤洋一・大石慎三郎講談社現代新書『身分差別社会の真実-新書・江戸時代(2)』1995年、(講談社)、735円、ISBN978-4-06-149258-5 ※その他、講義ごとに紹介する。
その他	講義資料は原則として講義毎に配布する。無断欠席した講義の資料は原則として用意しないので注意の事。

履修コード	043711
科目名	日本史概説
担当者名	松本 信道 菅野 洋介 岩崎 孝和 浅倉 直美

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	日本の古代〜近・現代の歴史的展開の過程を講述することにより、日本歴史への関心を高め、歴史学習の基礎を学び、次年度以降の専門科目をより深く理解するための一助とすることを目的とする。本講座では、それぞれの時代の政治・経済・文化などの諸様相について、関連史料の具体的な解釈を通じて概観したい。
---------------------	---

授業スケジュール	(1) ガイダンス (2) 日本国家の起源、(3) ヤマト政権の成立と展開、(4) 大化改新と古代国家の確立、(5) 律令国家の構造とその特質、(6) 奈良時代の政治と天平文化、(7) 平安王朝の成立とその文化、(8) 摂関政治の展開と貴族の生活(以上、松本信道担当) (9) 院政と平氏政権、(10) 鎌倉幕府の成立、(11) 執権政治と武士の社会、(12) 蒙古襲来と鎌倉幕府の滅亡、(13) 室町幕府の成立、(14) 惣村の形成と農業・手工業の発達、(15) 室町幕府の衰退と戦国大名(以上、浅倉直美担当) (16) 徳川政権の確立、(17) 近世の対外関係、(18) 近世村の世界①、(19) 近世村の世界②、(20) 近世の思想と文化、(21) 近世の都市世界、(22) 転換する近世社会(以上、菅野洋介担当) (23) 幕末の動乱と明治維新、(24) 自由民権運動と明治憲法体制の成立、(25) 日本資本主義の成立と発展、(26) 近代文化の形成と発展、(27) 大正デモクラシーと第一次世界大戦、(28) ファシズムの台頭と第二次世界大戦、(29) 東西冷戦体制と戦後日本(以上、岩崎孝和担当) (30) まとめ
----------	--

準備学習	高校卒業程度の日本史の基礎知識を身につけておくこと。
履修上の留意点	受動的でなく、主体的に学習してほしい。
成績評価の方法	各担当教員の授業期間内に小テストを4回実施し、それらの総合点と平常点とを加味して成績を評価する。
教科書/テキスト	
参考書	五味文彦・鳥海靖編『もういちど読む山川日本史』(山川出版社)。あるいは高校で使用した教科書でも可。
その他	授業の方法は講義形式で進める。

履修コード	054001
科目名	日本史学演習I
担当者名	久保田 昌希

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>本講座は、特定の史料の講読を受講者自身が分担し発表形式で行い、他の受講者との内容討論を行うことによって、受講者(発表者)自身はもちろん受講者全体の研究方法や問題意識の高揚を目的としている。積極的に取り組んでほしい。</p> <p>なお、「特定の史料」と強調したが、受講者の中には鎌倉・南北朝・室町時代の史料に挑戦して発表したいという方もいるであろう。その場合は、以下の「授業スケジュール」「準備学習」について自身の研究関心を対象に読みかえてほしい。</p> <p>また夏季には関する史料・史跡見学を実施します。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>本講座では数年来、戦国大名とくに東国戦国大名(今川・武田・北条・上杉氏)の史料を対象としている。その理由は発給文書の数も多く、内容も多岐にわたり、しかも研究史としての蓄積も比較的多いからである。発表者には一点の文書を中心に、関連史料や関連論文を通して、できるだけ調べてくることを課している。この過程は来るべき卒論への準備段階として、大きな意味をもつであろう。</p> <p>年間を通して、毎時間受講者による発表と討論が基本となる。順番を決めそれに従っての発表となる。(1・2)ガイダンス、(3~30)発表ならびに討論</p>
----------	---

準備学習	<p>とくに指定はしないが、戦国社会の概説や、古文書入門・講座などの「中世文書論」や「戦国大名文書論」などについて書かれているテキストを読み、事前に知識などを入れておいて下さい。また皆さんの住んでいる地域の公共図書館には、県史や市町村史などの関係自治体史が必ず配置されています。また興味のある地方や地域の自治体史は本学図書館に配置されていますものもありますので、積極的にそれらを探して読んでみてください。</p>
------	--

履修上の留意点	留意点は上述の「講義の内容」項目と重なる。なお場合により補講を実施する。
---------	--------------------------------------

成績評価の方法	定期試験は行わない。発表等の内容、提出レポート、出席状況などによる。
---------	------------------------------------

教科書/テキスト	本講座用に作成した翻刻史料として、『東国戦国大名文書』を配布する。これが年間を通して基本的なテキストとなる。
----------	--

参考書	適宜紹介する。大いに図書館を利用してほしい。
-----	------------------------

履修コード	053901
科目名	日本史学演習I
担当者名	熊本 史雄

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>昭和期を中心とする近代日本の政治と外交につき、配布史料や課題図書を読解、検証する作業を積み重ねることで、歴史像を自ら構築する力を養う。これら作業を、翌年に控えた卒業論文作成の準備に役立てたい。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>このゼミでは、4年生時に執筆する卒業論文の作成準備を目的として、ゼミ生による発表・報告を中心に進めていくこととする。</p> <p>ちなみに、過去のゼミ生による卒業論文では、近代日本の外交史、政治史にとどまらず、軍事史、経済史、思想史、文化史、社会史、メディア史(報道、宣伝、映画などを含む)、教育史、女性史など、バラエティーに富んでいる。ゼミ生自身の興味や関心を最大限に尊重するので、卒業論文執筆には真摯に取り組んでいただきたい。</p>
----------	---

準備学習	<p>本ゼミの年間計画は以下のとおり。</p> <p>前期は、まず前半で、担当教員より①ゼミの運営方針と計画、②日本近代史を学ぶための基礎的事項の説明(公文書の読み方の指南など)、③「工具書」、④図書館の利用方法、⑤レジュメの作り方などにつき説明する。後半では、『日本の時代史』(吉川弘文館)の近現代史相当分(第21~26巻)から、報告者が各自で希望する論文(1本)を選んで報告する。</p> <p>後期は、各自が興味をもつテーマにもとづき、当該分野の先行研究(論文3本)を読み、レジュメ(論点を独自に設け史料に基づきながら)を作成のうえ報告する。</p> <p>なお、夏休み中に、ゼミ合宿を行う。行き先(巡見先)については、ゼミ生の希望に応じて決定することにする。</p>
------	---

履修上の留意点	配布史料や課題図書の参照指定箇所には、必ず事前に目を通すように。授業冒頭には、配付史料・図書に対する感想や問題点、疑問などを、「1分間コメント」として参加者全員に手短かに述べてもらう。
---------	--

成績評価の方法	出席、報告内容、授業態度などを基に総合的に判断する。
---------	----------------------------

教科書/テキスト	適宜史料を配布する。
----------	------------

参考書	適宜紹介する。
-----	---------



履修コード	053701
科目名	日本史学演習Ⅰ
担当者名	小泉 雅弘

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	幕末から明治期を対象とし、受講者が当該期の研究方法を習得することを目的とする。さらに、討論を通じて日本近代史に関する理解を深める。
---------------------	---

授業スケジュール	前期(1~15)は、田中彰編『近代日本の軌跡1 明治維新』と『日本の時代史』20~23の中から各自が興味のあるテーマを選び、概説発表を行う。後期(16~30)は、各自が『幕末維新新論集』全12巻や『展望 日本歴史』17~20などに掲載されている論文を講読し、担当者による報告、受講者全員による討論を行う。これらを通じて、卒業論文作成の準備としたい。 なお、夏季にゼミ合宿を実施し、ゼミ合宿では上記の発表のほか、歴史に関する理解を深めるため、博物館等の文化施設の見学を行う。
----------	---

準備学習	なるべく多くの論文を自主的に講読すること。
------	-----------------------

履修上の留意点	報告・討論での積極的な発言を期待する。
---------	---------------------

成績評価の方法	出席状況、発表・発言内容、学習態度などにより総合的に評価する。
---------	---------------------------------

教科書/テキスト	該当資料をプリントして配布する。
----------	------------------

参考書	適宜紹介する。
-----	---------

履修コード	053601
科目名	日本史学演習Ⅰ
担当者名	瀧音 能之

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	古代史料を受講者に割りあてて、それについての報告を通して古代史への理解および報告のやり方を学ぶことを目的とします。あわせて次年度の卒業論文作成の足がかりとすることもねらいとします。
---------------------	--

授業スケジュール	『古事記』をテキストにして、各人の報告を中心とした内容を考えています。
----------	-------------------------------------

- (1) 『古事記』の内容について講義します
- (2~14) 各人もしくはグループによる割りあてられた部分の発表
- (15) 前期のまとめ
- (16) ビデオ教材による学習
- (17~29) 各人もしくはグループによる発表
- (30) 後期のまとめと次年度の卒業論文のテーマの仮報告

準備学習	テキストの当日分について、よく目を通しておいてください。 報告者は、もちろんのこと、そうでない学生も質疑応答が十分にできるように準備してきてください。
------	--

履修上の留意点	演習Ⅰは原則として、演習Ⅱへと連動していますので、古代史を卒業論文に選ぼうということを決して履習するようにして下さい。履修者は、初回の授業に必ず出席して下さい。
---------	--

成績評価の方法	演習は、学生が報告などを通して、より主体となって展開していく授業形式ですので、報告の内容を重視します。それと同時に他者の報告をどれくらいよく聞き、それに対して意見を述べることができるかという点も重視します。その割合は報告の内容70パーセントに他者の報告への対応力30パーセントと考えて下さい。
---------	--

教科書/テキスト	プリントを配布します。
----------	-------------

参考書	瀧音能之『神々と古代史の謎を解く古事記と日本書紀』2005年刊(青春出版社)750円+税
-----	--

その他	自分の意見をしっかり述べると共に他者の意見をききとりそれにコメントする熱意のある学生の参加を期待します。くれぐれも「お通夜」のような場にならないようにして下さい。
-----	---

履修コード	053401
科目名	日本史学演習Ⅰ
担当者名	中野 達哉

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	史料の解読・分析力、関連資料・文献の調べ方、先行研究の把握・批判力など、日本近世史(織豊政権期～幕末期)を研究する上で基礎となる知識や技術の習得を目的とする。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>日本近世史の史料は各地に所在し、しかも膨大な量があり、その多くは資料集などの形で刊行されていないのが現状である。そのため、私たちが研究を進めようとする時、史料調査(史料の発掘)や「くずし字」で記された未解読の古文書を読むことが必要となる。</p> <p>この点を踏まえ、前期にはくずし字で記された史料を取り上げて講読し、古文書に慣れるとともに、近世の社会についての基礎的な知識を身につける。講読は受講者が分担して解読し、関連資料・文献を調べ、授業で発表・討議する。後期は、各自が研究テーマを設け、研究史の整理と研究課題についてまとめ、授業で発表・討議する。なお、後期授業での発表の準備として夏期休暇中にレポートを課す。</p> <p>前期 (1) 授業についてのガイダンス。(2) テキスト『朝野旧聞哀藁』についての解説と解読担当部分の振り分け。(3～14) 受講者によるテキスト講読と発表・討議。(15) 夏期ゼミ合宿・古文書調査特別実習についての案内。</p> <p>後期 (16) 発表方法についてのガイダンスと発表順の決定。(17～29) 研究発表と討議。(30) 卒論発表ゼミ合宿についての案内。</p>
----------	--

準備学習	前期の講読については、担当でない者も必ず予習すること。
履修上の留意点	前期・後期とも積極的に議論に参加すること。
成績評価の方法	出席状況、発表内容、討議への参加度、受講態度、夏期レポートの内容をもとに総合的に評価する。定期試験は行わない。
教科書/テキスト	教科書は使わない。前期のテキストについてはプリントを配布する。
参考書	適宜紹介する予定。
その他	年度末、定期試験終了となる1月末に、3・4年生合同で卒業論文発表ゼミ合宿を行うので、必ず参加すること。夏期休暇中に大学内において2日程度古文書調査実習を実施する。希望者は参加すること。また、夏期のゼミ合宿などについては受講者と相談して考えたい。

履修コード	053501
科目名	日本史学演習Ⅰ
担当者名	廣瀬 良弘

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 中世史料の講読を通じて、中世の文化、すなわち戦乱の世をしたたかに生きた人びとの生活・文化・宗教等について考えます。人びとのものの考え方、慣習、禪と能・禪と食文化・禪と庭園、主従の関係、男女の関係、人びとの信仰と神や仏などについても考えたいと思います。例えば、中世の村々の寺院は文字通り駆込み寺化しておりましたが、どのような人物が駆込んで身の安全を図ろうとしたのでしょうか。敗戦者・殺人犯・離縁希望者・逆心者(反逆者)・博徒など様々です。また、「女房の密懐」(不倫)にプライド高い男たちはどのように対応したのでしょうか。戦国大名は家臣同士が争うような「困った」問題にいかに対応しようとしたのでしょうか。史料に基づく事実の究明はとても興味深いものです。少し難しいが、すぐにおもしろくなる授業にしたいと思います。</p> <p>(到達目標) 中世の史料から課題を見出し、それを解明する能力を養い卒業論文作成(4年次)に役立てることを目標とします。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	室町幕府法や戦国大名の分国法の中から不入・走入り(駆込)・無縁所・密懐(不倫)に関する文化・宗教・生活に関する法を読み説いて行きます(1～20)。戦国時代に嫁ぐ者に対して、求められる「嫁」像を説く『幻庵覚書』、弾丸が飛び交った乱世を生き抜いた「おあむ」「おきく」の物語などを読み進める(21～30)。
----------	--

準備学習	前回の授業をよく復習するようにして下さい。
履修上の留意点	最初は少し難しいが、すぐに興味深いものになります。探究心をもって史料に臨んでほしいと思います。
成績評価の方法	担当した史料に対する発表状況、他者の発表に対する質問等での積極的な参加などを考慮します。試験は行いません。
教科書/テキスト	随時、史料のコピーを配布します。
参考書	随時紹介してゆきますが、『くずし字解読辞典』(東京堂出版)2,200円などがあるとよいと思います。

履修コード	054701
科目名	日本史学演習I
担当者名	松本 信道

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	日本古代史の史料の輪読により、史料読解力の養成と史料を通して当該時代の歴史的状況を把握することを目的とする。
---------------------	--

授業スケジュール	前期の(1)～(15)回は、『日本後紀』をテキストとして用い、輪読しながら平安時代初期の政治・経済・文化の諸様相について再検討してみたい。後期の(16)～(30)回は、卒業論文作成の準備過程として正倉院文書・木簡・金石文・律令その他の性格の異なる史料を輪読し、史料読解力を養成するとともに、文献の検索・収集・読解の方法と研究の進め方などについても指導する。
----------	--

準備学習	漢文の基礎知識を身につけておくこと。
履修上の留意点	受講生は必ず予習して出席すること。
成績評価の方法	平常点と出席点の総合で行う。
教科書/テキスト	当該部分をコピーして配布します。
参考書	『新字源』(角川書店)
その他	授業の方法は輪読と討論のゼミ形式で行う。

履修コード	053801
科目名	日本史学演習I
担当者名	湯浅 隆

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	日本近世史のうち、都市・文化・宗教などのテーマを中心とした演習となります。具体的なテーマに基づいて、先行する研究成果の整理、検討すべき課題の探索、史料に接し文言の解釈、歴史像の構築などを行っていきます。
---------------------	---

授業スケジュール	前期(1～3)江戸時代社会のありようを復習します。(4～6)松代藩政史にかんする先行研究を検討します。(7～15)『日暮硯』を輪読しながら、江戸時代後半の社会のありようを大きく把握することをめざします。 後期(16～22)江戸町方にかんする文献史料を活字本で輪読し、近世史研究の実際に触れています。(23～30)各自の卒業論文作成を念頭におき、課題の絞り込みを行います。
----------	--

準備学習	授業の内容を見据えて、質問を必ず準備してから臨むようにしてください。
履修上の留意点	『日暮硯』(岩波文庫)は4月授業開始前に入手し、78ページまでは読んでおいてください。
成績評価の方法	授業中の発表・討論における発言に基づきます。
教科書/テキスト	前期は『日暮硯』(岩波文庫)。後期はプリントを配付します。
参考書	その都度、提示します。
その他	教場における授業に加えて、都内もしくは近郊の文書館・博物館などへ実踏に出かけます。

履修コード	055401
科目名	日本史学演習II
担当者名	久保田 昌希

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講座では、卒業論文作成にむけての指導を目的とする。中心は受講者各自の卒論テーマにもとづく発表で、討論を受講者相互で積み重ねつつ、各自が卒論内容の充実と発表・討論の「力」をそなえる「場」としたい。この過程で論題の検討・研究史の整理・研究視点の設定・史料収集・史料の検討と分析・論文叙述など、一つ一つの段階を辿ることになる。卒業論文の有意義な結実を期待する。
---------------------	--

授業スケジュール	(1) 卒論作成へのガイダンス、(2～4) 卒論テーマの検討、(5～9) 研究史の整理と関連史料の検討・論点の提示、(10) 卒論論題の決定、(11～15) 章節構成の内容検討、(16～20) 卒論作成の進捗による内容発表1、(21～22) 章節構成の再検討、(23～25) 卒論作成の進捗による内容発表11、(26) 卒論叙述への技術的な指導、(27～29) 卒論の添削から完成・提出、(30) 卒業論文を書き終えてのガイダンス
----------	---

準備学習	卒業論文執筆・提出に向けて、研究関心を高めておく。そのためには、日頃から関連論文を集めつつ、学ぶことや、関連資料の収集・分析など、自身で対応につとめてほしい。その成果は発表に現れる。頑張ってもらいたい。
履修上の留意点	卒業論文は、本学科に学んだ結果の最たるものでもある。大いに尽力してほしい。
成績評価の方法	定期試験は行わない。発表の内容、提出レポート、出席状況などを基本に、卒論作成への取り組み過程も見守っていく。
教科書/テキスト	各自のテーマによって異なる。不明な点については適宜紹介する。
参考書	同上
その他	講座の時間以外でも、必要に応じて指導を実施する。

履修コード	055301
科目名	日本史学演習Ⅱ
担当者名	熊本 史雄

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	卒業論文作成の指導を主として行う。 3年時の「演習Ⅰ」に引き続き、各自で卒論テーマを決め、レジュメ報告を行う。 前期は、章構成を提示した上で、報告する。 後期は、節構成を提示した上で、報告する。 これらを報告を通じて、討論するとともに、卒業論文作成の指導を行う。
授業スケジュール	前期の前半は上記についての解説と先行研究の確認を行う。前期の後半より後期にかけて、受講生各自が報告を行い、それに基づき参加者全員で討論を行う。 なお、夏休み中に、ゼミ合宿を行う。行き先(巡見先)については、ゼミ生の希望に応じて決定することにする。
準備学習	特になし。
履修上の留意点	各自の選んだ研究テーマに真摯に取り組んで欲しい。
成績評価の方法	報告、授業態度などを基に総合的に判断する。
教科書/テキスト	
参考書	

履修コード	055101
科目名	日本史学演習Ⅱ
担当者名	小泉 雅弘

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	卒業論文作成の指導を通じ、幕末～明治期における諸問題について検討する。
授業スケジュール	受講者各自が研究テーマに基づいた発表を行う。前期(1～15)は研究史の整理や史料紹介、後期(16～30)は卒業論文の内容を踏まえて発表し、受講者全員で討論を行う。 なお、夏季にゼミ合宿を実施し、ゼミ合宿では上記の発表のほか、歴史に関する理解を深めるため、博物館等の文化施設の見学を行う。
準備学習	なるべく多くの論文を自主的に講読すること。
履修上の留意点	卒業論文でオリジナルかつ説得力のある論文を書くということは、社会に出て必要とされる能力を身につけることである。常に問題意識を持つこと。
成績評価の方法	出席状況、発言内容、学習態度などにより総合的に評価する。
教科書/テキスト	指定しない。
参考書	適宜紹介する。

履修コード	055001
科目名	日本史学演習Ⅱ
担当者名	瀧音 能之

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	卒業論文の作成を目的とします。各人の卒業論文のテーマに基づいた報告を中心にして、あわせて発表・討論の方法の習得をはかります。
授業スケジュール	各々の受講生の卒業論文を素材にして、順次報告をおこなってもらい、古代史の諸テーマへの理解を深めるようにします。  (1) ガイダンス (2～4) 報告形式による各人の卒業論文の題目の決定 (5～14) 各人の卒論の章立てをめぐる報告 (15) 前期のまとめ (16～20) 各人の卒論の目次についての報告 (21～30) 各人の卒論の「はじめに」についての報告
準備学習	各々の卒業論文に沿って、テーマの決定・目次の作成について、十分に考えを練って授業にのぞんでください。
履修上の留意点	卒業論文の作成過程を素材とした演習をおこないますので、古代史の卒業論文を書く学生が履修して下さい。なお、全員の卒業論文は、ゼミ卒業論文集として1冊にまとめて卒業式に各人に配布する予定です。
成績評価の方法	各人の報告内容を重視します。それに他者の報告をどれくらいよく聞き、それに対してコメントを述べるができるかという点も重視します。その割合は、報告の内容70パーセントに他者の報告への対応力30パーセントと考えて下さい。
教科書/テキスト	各人ごとに対応します。
参考書	各人ごとに指導します。
その他	最後まであきらめないで努力する学生の参加を期待します。

履修コード	054801
科目名	日本史学演習II
担当者名	中野 達哉

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	大学生生活での最も大きな成果の一つとなる卒業論文の作成とともに、論理的に考察・論述する力を身につけることを目的とする。そして、それを歴史研究のみならず、社会生活においても役立てて欲しい。
---------------------	---

授業スケジュール	授業は受講者による卒業論文についての発表と質疑応答を中心に進めていく。 前期 (1) 授業についてのガイダンス、受講者の発表順の決定。(2~6) 準備発表と卒業論文のテーマ・論題の決定。(7) 卒業論文の章節構成についての指導。(8~15) 卒業論文中間発表I。 後期 (16) 卒業論文の書き方についての指導。(17~25) 卒業論文中間発表II。(26~28) 卒業論文執筆についての個別指導。(29・30) 卒業論文発表ゼミ合宿について。
----------	--

準備学習	他者が行う個人研究発表で掲げられたテーマについて調べ、予備知識を持って授業に出席すること。
------	---

履修上の留意点	本講座は日本近世史(織豊期〜幕末期)を対象とする。第1回目の授業において、確認の卒業論文の方向性について考え、あわせて発表順(日程)も決めるので、必ず出席すること。
---------	--

成績評価の方法	授業での発表と質疑応答、出席状況をあわせて総合的に評価する。定期試験はなし。
---------	--

教科書/テキスト	教科書はなし。
----------	---------

参考書	適宜紹介する。
-----	---------

その他	授業時間外にも必要に応じて、個別に卒業論文指導を行う。 年度末、定期試験終了となる1月末に、3・4年生合同で卒業論文発表ゼミ合宿を行うので、必ず参加すること。夏期休暇中に大学内において2日程度古文書調査実習を実施する。希望者は参加すること。また、夏期のゼミ合宿などについては受講者と相談して考えたい。
-----	---

履修コード	054901
科目名	日本史学演習II
担当者名	廣瀬 良弘

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	史料の読解・分析力を養い、より高い水準の卒業論文の完成をめざします。
---------------------	------------------------------------

授業スケジュール	受講者各自が提示した卒業論文テーマ・関連研究論文等に対して、受講生全員によるディスカッションを行い、卒業の論題を確定し、各自卒論の中心的史料・文献等の購読・分析を通じて、論点を明確にし、卒論の完成をめざしていきます。授業のスケジュールとしては、卒業論文のテーマの提示(1・2)(4月~)研究史の整理(3~6)(5月~)卒論論題の確定(7・8)(6月11日論題提出)研究史の整理と参考文献の検討(9・10)中心的史料等の分析と論点の明確化(11~13)卒論の章立に関する作業(14・15)卒論の概要に関する発表(16~18)(9月~)中間報告(19・20)卒論作成に関する技術的なアドバイス(21)最終報告(22・23)下書の提示に基づく指導と添削(24・25)清書・完成・提出(26~28)(12月10日提出)卒論をふりかえる。 の順で、論題提出日、卒論提出日等に合わせて進めていくが、全体として、発表・相互のディスカッション・指導という形式で進めていきます。
----------	---

準備学習	特になし。
------	-------

履修上の留意点	よりよい卒業論文を完成させる意欲を持って臨んでほしい。随時、発表を求めらるので早めに作業・研究を進めて授業に臨んでほしい。
---------	---

成績評価の方法	卒業論文の内容とともに、完成に至る過程も重視して評価します。
---------	--------------------------------

教科書/テキスト	各自の卒論のテーマに応じて随時示していきます。
----------	-------------------------

参考書	随時、示していきます。
-----	-------------

履修コード	056201
科目名	日本史学演習II
担当者名	松本 信道
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	日本古代史の史料の輪読により、史料読解力の習熟と史料解釈を通じての歴史的諸様相の把握を目的とし、必要に応じて卒業論文作成の指導を行う。
授業スケジュール	前期の(1)～(15)回は、『令義解』所収の「職員令」をテキストとして用い、輪読・討論しながら奈良時代の官僚組織について再検討してみたい。 後期の(16)～(30)回は、各自の卒業論文の研究テーマについての発表と討論を行い、それをもとに卒業論文を完成させる。
準備学習	漢文についての基礎知識と論文作成の予備知識を学習しておくこと。
履修上の留意点	受講生は必ず予習をして出席すること。
成績評価の方法	平常点と出席点の総合で行う。
教科書/テキスト	『令義解』の当該部分をコピーして配布します。
参考書	
その他	授業の方法は輪読・討論のゼミ形式で行う。

履修コード	055201
科目名	日本史学演習II
担当者名	湯浅 隆
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	日本近世史のうち都市・文化・宗教などをテーマとしてで卒業論文を作成しようとする学生を、主たる対象とした演習となります。 卒業論文を、大学4年間の生活が凝縮するものと捉え、それへむかってオリジナルの作品を悔いなく創りあげていくことをめざします。
授業スケジュール	各構成員は、以下の内容について研究発表をおこない、意見交換をとおして卒業論文の作成をおこなうものとします。 前期(1～6)卒業論文のテーマを確定し、先行する研究を把握します。(7～15)論点を明確にしたうえで、論文構成の章立てを確定させていきます。 後期(16～25)発表をとおし、内容に関する個々の論証を史料に基づいておこない、論文の精度を確たるものとしていきます。(26～30)それぞれの卒業論文の合評をおこないます。
準備学習	毎回の発表内容を想定し、有益な助言・発言ができるように心がけてください。
履修上の留意点	自己の卒業論文のみならず、ゼミ構成員全員のテーマ・方法に関心をもつことが必要です。
成績評価の方法	授業中の研究発表、討論時における発言に基づいて行います。
教科書/テキスト	
参考書	
その他	卒業論文作成の必要に応じ、文書館・博物館などへ出かけます。

履修コード	043311
科目名	日本史学基礎演習
担当者名	熊本 史雄

授業概要/  
到達目標 (ねらい) 大学で歴史学を専攻していくうえで基礎となる、「歴史を読み解く作法」を学んでいく。

授業スケジュール	前期：1回 授業の進め方などについての説明 / 講読資料について 2回 「歴史学」とは？ 3回 図書館ツアー〔予定〕(ビデオ鑑賞、文献の検索方法) 4回 歴史小説と歴史研究 5回 「史料」とは？～「史料」と「資料」の間～ 6回 出来事と事実と真実 7回 史料批判の方法①～「外的批判」とその方法～ 8回 史料批判の方法②～「内的批判」とその方法～ 9回 科学と実証 / 道徳と主義 / 戦争問題を考える 10回 「工具書」について～参考文献ガイダンス～ 11回 研究対象の見つけ方・探し方～問題の所在と論点の提示方法～ 12～14回 史料講読 15回 論文・レポートの書き方 / レジユメの作り方
----------	--

後期：夏期休暇中の課題(レポート)に基づく「ミニ発表」(レジユメを用いて)を全員で順番に行う。

準備学習	課題が出たときには、事前に調査・準備してから授業に臨むこと。
履修上の留意点	歴史には「間」がある。「暗記する歴史」ではなく、「考える歴史」、「発見する歴史」を身につけるきっかけをつかんで欲しい。
成績評価の方法	夏期休暇中に課すレポートと後期の報告内容、さらには出席状況、授業態度を総合的に勘案して判断する。
教科書/テキスト	とくに指定しない(教師側で準備する)。
参考書	適宜紹介する。
その他	前期は講義形式で進め、後期は演習形式で行う。解説・補足説明などは随時織り交ぜていく。

履修コード	043411
科目名	日本史学基礎演習
担当者名	小泉 雅弘

授業概要/  
到達目標 (ねらい) 歴史研究を行うための基礎的方法を習得するため、史料批判・史料解釈・史料操作について、具体的な例をあげながら学び、日本史研究の方法論を学習する。あわせて、社会における歴史学の活用について理解を深める。

授業スケジュール	(1)ガイダンス、(2・3)図書館ガイダンス、(4)禅文化歴史博物館見学、(5)日本史研究入門、(6)歴史研究のための手引-文献等の紹介、(7)論文の調べ方、(8～15)論文講読-日本史研究の方法を学ぶ、(16)絵画資料の活用、(17)「伝説」と「史実」のあいだ、(18～26)地域文化財から歴史を探る、(27)国会図書館・史料保存機関の活用、(28)幕末維新と「維新回天帖」、(29)「維新回天帖」の見学、(30)レポート提出
----------	--

準備学習	指定された論文を熟読しておくこと。
履修上の留意点	歴史資料は情報やデータと言ひ換えることが可能である。そのような資料を基にしてどのような結論を導き出していくのか。歴史研究を学ぶということは考え方を学ぶことであり、この点に留意して授業にのぞんでほしい。
成績評価の方法	出席状況とレポートによって評価する。遅刻は減点。
教科書/テキスト	特になし。必要に応じてプリントを配布する。
参考書	小泉雅弘『下町の学芸員奮闘記-文化財行政と生涯学習の最前線-』(芸芸社)1,400円。その他適宜紹介する。

履修コード	043541
科目名	日本史学基礎演習
担当者名	中野 達哉

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	歴史研究の現状について紹介し、大学で学び研究する「歴史学」がいかなる学問であるのか、各自が認識し、考えることを目的とする。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>前期</p> <p>(1) 授業の進め方、新入生研修旅行についてのガイダンス。(2~5) 高校教科書にみる歴史叙述の変化~変わる歴史像~。(6) 図書館の使い方についてのガイダンス。(7・8) 歴史と歴史研究・歴史学。(9) 学内学会への参加とレポートの作成について。(10・11) 歴史研究と成果の公表~どこで歴史は創られるのか~。(12・13) 日本人の歴史観—東洋・西洋・日本—。(14) レポートの返却とレポートの書き方について。(15) 夏期休暇中の課題レポート「生まれ育った地域の歴史を調べよう」の作成について。</p> <p>後期</p> <p>(16~18) 地域と歴史研究。(19) 個人研究ミニ発表の方法と班分けについて。(20) 禅文化歴史博物館見学研修。(21~26) 個人研究ミニ発表。(27~29) 史料の保存・利用と文書館~戦後の史料保存利用運動と現在~。(30) 年度末課題レポートについて。</p>
----------	---

準備学習	前回までの内容を咀嚼しておくこと。
履修上の留意点	授業は必ず出席すること。遅刻をしない。
成績評価の方法	レポートの内容および出席状況と受講態度、後期に実施する個人研究ミニ発表の発表内容と質疑応答、ミニ発表中に他者の発表に対して記すコメントの内容。
教科書/テキスト	教科書はなし。適宜必要に応じてプリントを配付する。
参考書	その都度に示す。

履修コード	045301
科目名	日本史学史
担当者名	湯浅 隆

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	歴史の捉え方は、時代によって変わってきました。この科目では、江戸時代以前については主な史書をとおり、明治時代以降は歴史にたいする捉え方の変化をとおり、現在にいたる歴史認識の変遷を説いていきます。この講義をとおり、歴史学の現状を理解して下さい。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>前期 (1) 記憶の保存と継承、(2) 中国の正史、(3~4) 8世紀以前の修史、(5~6) 朝廷の修史事業、(7) 古代における私撰の修史、(8~9) 中世の史書とその背景、(10~14) 近世における修史、(15) 前期のまとめ。</p> <p>後期 (16~17) 近代歴史学、(18~20) 19世紀後半における歴史学界の諸潮流、(21~23) 20世紀前半、唯物史観と皇国史観、(24~26) 20世紀後半の日本史学、(27~29) 現代の日本史学、(30) 後期のまとめ。</p>
----------	---

準備学習	授業内容を記したプリントを事前に配付します。それをしっかり読んで、授業には復習・確認のつもりで臨んでください。
履修上の留意点	歴史学の変遷への理解は、自らの歴史像を構築していくための必須要件です。この科目は、日本史学を専攻するための基礎科目と認識してください。日本における歴史学の変遷を、知識としてではなく理解として記憶するように心懸けてください。
成績評価の方法	いくつかの事項については、授業中に各自の理解を尋ねます。前期末には江戸時代まで、後期中間には1945年まで、年度末には20世紀後半以降、をそれぞれ対象とする論述試験をします。評価は、すべてを合算して算出します。
教科書/テキスト	特定のものを使用せず、プリントを配付します。
参考書	その都度、提示します。
その他	授業は講義形式となります。



履修コード	044501
科目名	日本史史料講読I
担当者名	瀧音 能之
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	古代の史料を読解することによって、史料の理解力を養成すると共に、古代史へのアプローチ法を学ぶことを目標とします。
授業スケジュール	古代に編纂された史料のうち、『常陸国風土記』を具体的にとりあげ、冒頭の部分から読み下し解説を加えていきます。  (1) 『常陸国風土記』の史料的価値 (2～14) 『常陸国風土記』の講読 (15) 確認テスト (16) 確認テストの返却および解説 (17～29) 『常陸国風土記』の講読 (30) 確認テスト
準備学習	テキストの当日分に目を通し、あらかじめその概略を把握しておいてください。
履修上の留意点	『常陸国風土記』を解説していきますが、ただ授業に出るだけでは、史料読解の力も『常陸国風土記』の理解力もつきません。必ず予習・復習をする習慣をつけて下さい。特に復習は忘れずにして下さい。
成績評価の方法	前期と後期におこなう確認テストを重視します。それに出席など平常点を加味して評価します。割合は、テスト85パーセントに平常点15パーセントと考えて下さい。
教科書／テキスト	最初の講義のときに指示します。1000円程度のもを予定しています。受講希望者は初回の講義には必ず出席して下さい。
参考書	瀧音能之『文献でたどる日本史の見取り図』2004年刊(青春出版社)730円+税
その他	古代史に興味と熱意のある学生の受講を待っています。

履修コード	044601
科目名	日本史史料講読II
担当者名	小松 寿治
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	言うまでもないが歴史研究には史料が必要である。それ故に歴史(日本史)研究の出発点(基本は史料を読むこと)と解釈にあるとよい。それによって、各自が歴史像を構築していくのである。そうした積み重ねが大事である。その過程で各自が新たな発見を通して、楽しさや意義を見出すことができるだろう。 本講座では中世史分野に関する基礎史料を対象とする。
授業スケジュール	(1～2) 中世史料入門、(3～10) 吾妻鏡を読む、(11～14) 御成敗式目・建武式目を読む、(15～19) 天皇の日記を読む、(20～23) 公家日記を読む、(24～27) 僧侶の日記を読む、(28～30) 棟札・金石文を読む
準備学習	配布された史料について、読んでみて言葉の意味を調べておくことが望ましい。
履修上の留意点	歴史の研究をするうえで、まず手をとるのは、図書館にある史料を活字化した刊行物だと思ふ。それらの史料を読む術を学ぶ機会としたい。出席して仲間の読んでいる史料に耳を傾けることも上達の道を早めることにつながるの、出席を怠ることのないようにしていただきたい。
成績評価の方法	定期試験の結果、提出レポート、出席状況などによる。
教科書／テキスト	とくに指定はしない。適宜必要に応じて史・資料を配布する。
参考書	

履修コード	044701
科目名	日本史史料講読III
担当者名	中野 達哉

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>歴史の研究は、いかに理論を組み立て、それを実証していくかにある。そして、そのためには、先人たちの足跡として残された史料を読み解くことが必要である。本講義では、日本近世の史料を正確に読み込み、判断する力をつけることを目的とする。</p> <p>織豊期～幕末期にかけてのさまざまな史料を取り上げて読み、分析していく。いうまでもなく、近世については、武家文書・町方文書・村方文書・寺社文書など多様な分野にわたり膨大な量の史料が伝えられている。授業では、いくつかのテーマを設けて行っていくが、読むための基礎的な力をつけるだけでなく、その史料の背景にある社会情勢などについても考えていく。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>・前期  (1) 授業の進め方について。(2) 近世史料の特徴。(3～5) 武家文書①知行宛行。  (6～10) 武家文書②法度と触書。(11～15) 武家文書③江戸の藩邸と藩日記。</p> <p>・後期  (16～19) 村方文書①村議定・村の取り決め。(20～22) 村方文書②村の事件と訴訟。  (24～28) 宿場文書①事件と宿場の構造・交通制度。(29～30) 史料の所在と調査方法。</p>
----------	--

準備学習	講義において次週以降使用のプリントを事前に随時配布する。各自、プリントを予習すること。
------	---

履修上の留意点	難解なものとは怖がらず、親しみをもって史料を読んでほしい。
---------	-------------------------------

成績評価の方法	基本的には、年度末の定期試験により評価する。なお、授業の出欠状況も参考とする。
---------	---

教科書／テキスト	教科書はなし、必要な資料は適宜プリントして配布する。
----------	----------------------------

参考書	適宜紹介する。
-----	---------

その他	夏期休暇中に大学内において古文書調査実習を2日程度行う。希望者は参加すること。
-----	---

履修コード	044801
科目名	日本史史料講読Ⅳ
担当者名	小泉 雅弘

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	歴史研究が空想や妄想でないことは言うまでもない。実証に裏づけされた歴史研究を行うために、その基礎となる日本近代史史料の読解力と分析力を養成する。史料を解読する方法を身につけることによって、各自が選んだ近代史の多様なテーマに向きあうことができるだろう。講義では、時代背景を明らかにしながら、史料から読み取れる歴史的意義についても考えたい。
---------------------	--

授業スケジュール	(2～19)は、「東京遷都の政治過程」をテーマとし、活字史料(公文書・書簡・日記など)を教材として、史料の読み方、解釈、内容分析などを行う。また(20～30)は、「鎮台府一件」(東京都公文書館所蔵)や「江藤新平関係文書」(佐賀県立図書館所蔵)を使用して、くずし字の読解力を養う。
----------	---

- 【前期】
- (1) ガイダンス
  - (2) 王政復古の沙汰書①
  - (3) 王政復古の沙汰書②
  - (4) 大坂遷都の建白書①
  - (5) 大坂遷都の建白書②
  - (6) 大坂遷都の建白書③
  - (7) 大坂遷都の建白書④
  - (8) 江藤新平・大木喬任意見書①
  - (9) 江藤新平・大木喬任意見書②
  - (10) 江藤新平・大木喬任意見書③
  - (11) 三条実美書簡①
  - (12) 三条実美書簡②
  - (13) 三条実美書簡③
  - (14) 三条実美書簡④
  - (15) 三条実美書簡⑤
- 【後期】
- (16) 大久保利通日記①
  - (17) 大久保利通日記②
  - (18) 詔書①
  - (19) 詔書②
  - (20) くずし字を読むために
  - (21) 「鎮台府一件」の解読①
  - (22) 「鎮台府一件」の解読②
  - (23) 「鎮台府一件」の解読③
  - (24) 「鎮台府一件」の解読④
  - (25) 「鎮台府一件」の解読⑤
  - (26) 「鎮台府一件」の解読⑥
  - (27) 「鎮台府一件」の解読⑦
  - (28) 「江藤新平関係文書」の解読①
  - (29) 「江藤新平関係文書」の解読②
  - (30) 「江藤新平関係文書」の解読③

準備学習	事前に史料コピーを配布するので、調べておくこと。
履修上の留意点	必ず予習すること。
成績評価の方法	定期試験によって評価し、出席状況を加味する。
教科書/テキスト	史料をプリントして配布する。
参考書	児玉幸多編『くずし字解読辞典(普及版)』(東京堂出版)2,200円

履修コード	047701
科目名	日本史特講Ⅰ〔古代〕
担当者名	宇佐美 正利

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	日本古代の仏教史の流れを理解させる。六世紀中頃に百濟から伝えられた仏教がどの様に見えるか、その後の様に展開していったか、またそれが現在の我々にどのような影響を与えているかなどが理解出来るようにする。
---------------------	---

授業スケジュール	第1回：講義全体のガイダンス、第2～4回：仏教伝来、聖徳太子の仏教信仰、第5回：白鳳仏教、第6～9回：奈良仏教、第10～15回：平安仏教、第16～20回：『日本霊異記』の世界、第21～24回：浄土教の発達、第25～28回：神仏習合、第29～30回：修験道の成立
----------	--

準備学習	最初の講義の時に翌週以降の資料を配布するから、それを読んでくる。また参考文献を提示するので、講義内容に関する部分を読んでくるように。
履修上の留意点	講義の時に配布する資料だけでなく、それに関する事項を積極的に調べてくるように。
成績評価の方法	学期末試験(7割)、レポート(3割)を基本に評価する。その際には、出席状況も勘案する。
教科書/テキスト	適宜資料を配布する。
参考書	末木文美士『日本仏教史』(新潮文庫)

履修コード	047801
科目名	日本史特講II [古代]
担当者名	古谷 紋子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>授業概要 六国史や律令などの歴史・法制史料、貴族の日記である古記録などを必要に応じて読み、通説や学説の説明も行なうことにより、歴史学とはどのような学問であるかを知ってもらう。</p> <p>到達目標 日本古代のなかの平安時代は社会の変質期であり、中世社会へ移行する重要な時期にあたる。平安時代の貴族社会について理解を深めることを目的とし、律令国家の政治の仕組みと摂関政治、院政の政治・文化についての講義をすすめる。おもに10世紀から12世紀末の日本社会の特質を、なかでも藤原氏が摂関家として成立するに至る過程を軸に考察する。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス</li> <li>2 古代国家の仕組みと官職</li> <li>3 古代の政治制度</li> <li>4 平城天皇</li> <li>5 平城太上天皇の変</li> <li>6 嵯峨天皇</li> <li>7 承和の変</li> <li>8 災害と国家の施策</li> <li>9 応天門の変と摂政藤原良房</li> <li>10 三代の天皇と藤原基経</li> <li>11 寛平の治一宇多天皇の親政</li> <li>12 東アジア世界との交流</li> <li>13 寛平の遣唐使派遣問題</li> <li>14 蔵人所の成立と展開</li> <li>15 古代の年中行事</li> <li>16 即位儀礼と三種の神器</li> <li>17 律令官人制</li> <li>18 年労働階制と受領功過</li> <li>19 律令裁判制度と検非違使</li> <li>20 平将門の乱 1</li> <li>21 平将門の乱 2</li> <li>22 安和の変</li> <li>23 内裏焼亡</li> <li>24 長徳の変</li> <li>25 藤原道長とその家族</li> <li>26 藤原頼通とその時代</li> <li>27 後二条師通</li> <li>28 後三条天皇の即位と院政</li> <li>29 保元・平治の乱と平清盛</li> <li>30 理解度の確認</li> </ol>
----------	---

準備学習	特になし
履修上の留意点	毎回プリントを配布するので、板書や授業内容を聴きながら内容を書き取る姿勢が必要である。史料についてもできるだけ読み下しを付けるようにするが、読むことと同時に内容を理解する努力をしてほしい。
成績評価の方法	試験の成績80%、平常点20%
教科書/テキスト	
参考書	

履修コード	047901
科目名	日本史特講III [中世]
担当者名	今野 慶信

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	鎌倉時代の社会について考える。特に鎌倉幕府政治史、東国御家人たちの存在形態、地頭の村落支配等について考える。本講義の受講生には、鎌倉時代の歴史や文化に対して興味と問題関心を持って自ら研究する態度を養ってもらいたいと考えている。
---------------------	---

授業スケジュール	時代を下りながら講義していく。スケジュール予定は次の通り。(1)～(3)治承・寿永の内乱、(4)～(6)鎌倉幕府の成立、(7)～(9)将軍独裁と北条氏の台頭、(10)～(12)御家人制、(13)～(15)承久の乱、(16)～(18)執権政治の展開、(19)～(21)蒙古襲来、(22)～(24)得宗専制政治、(25)～(27)両統問題と幕府、(28)～(30)鎌倉幕府の倒壊。
----------	--

準備学習	図書館や書店などに通い、授業内容に関連した図書等に、日常的に眼を配り、自らの興味や問題関心を発見し、持続してもらいたい。
履修上の留意点	遅刻・途中退席は一切認めない。授業で配布する資料を貼り込むなど、ノート作りには工夫してもらいたい。
成績評価の方法	定期試験の結果、提出レポート、受講態度などによる。
教科書/テキスト	なし。随時コピーを配布する。
参考書	随時紹介する。

履修コード	048101
科目名	日本史特講Ⅳ [中世]
担当者名	吉田 政博

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義は、近年の中世史研究の動向とその進展を踏まえ、近世へと移行する戦国期の権力のあり方と社会情勢などについて、その特性を検証しながら、理解を深めることを目的としている。特に東国社会を中心として、領国支配の実態や地域社会の状況を明らかにすることを目的とするが、その際に、政治・経済史の視点のみならず、当時の人びとの生活や信仰、さらには文化的活動など、多方面からのアプローチを行いながら、その特性を考察していくこととする。具体的には、授業の中で、各分野の研究をリードし、またキーポイントとなっている研究論考を取り上げながら、その論を実証していく上で重要な関連史料の解釈などを丁寧に言いながら、検討をすすめていくこととする。
---------------------	--

授業スケジュール	(1)～(5) 近年における中世史研究の成果とその課題—研究史の把握とその検討—、(6)～(10) 戦国時代とは一時代的特色と社会情勢—、(11)～(20) 史料の分析とその理解—史料の考察と史料の多様性・可能性の検討—、(21)～(30) 戦国期の支配のあり方と地域社会の状況—大名領国の仕組みと人びとの生活の検討—
----------	---

準備学習	とくに後期は、次回の授業で使用するプリントも事前に配布するので、予習をすることがのぞましい。
------	--

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	年度末の定期試験の結果を基礎とし、授業の出席状況を加味する。
---------	--------------------------------

教科書／テキスト	教科書の指定はない。必要に応じたプリントを配布する。
----------	----------------------------

参考書	必要に応じて講義中に紹介する。
-----	-----------------

履修コード	048201
科目名	日本史特講Ⅴ [近世]
担当者名	滝口 正哉

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 本講義では、江戸時代の都市社会とそこから生み出される文化について考えていく。具体的には、近年の研究動向をふまえつつ、近世都市江戸を武家地・町人地・寺社地に分け、それぞれの社会構造や特質を述べるとともに、さらに近世後期の文化現象についてその実態と意義を捉えていく。
---------------------	---

(到達目標)	近世都市江戸のインフラと社会構造にたいする理解を深め、江戸で起こった文化現象をその社会的背景から理解していく。そして江戸の都市性や江戸文化が近代以降どのように受け継がれていったのかについても理解を深めていきたい。また、適宜これらを理解するうえで必要な史資料を読み解く力を養っていきたい。
--------	---

授業スケジュール	(1) ガイダンス、(2)～(5) 江戸城と武家屋敷、(6)～(11) 江戸町方のしくみ、(12)～(15) 江戸の寺社と信仰、(16)～(18) 『耳袋』の世界、(19)～(22) 町名主斎藤月岑、(23)～(27) 寺社の文化史、(28)～(30) 江戸の継承
----------	--

準備学習	それまでの講義内容をふまえて話を進めていくので、復習をしっかりとしておくことがのぞまれる。
------	---

履修上の留意点	授業中の私語・途中退去を慎むこと。一度配布したプリントは再配布しないので、きちんと管理すること。
---------	--

成績評価の方法	定期試験50%、平常点50%。
---------	-----------------

教科書／テキスト	随時プリントを配布する。
----------	--------------

参考書	随時紹介する。
-----	---------

履修コード	048301
科目名	日本史特講VI [近世]
担当者名	出口 宏幸
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	江戸時代の村・町の社会構造とその変容について見ていく。戦国時代を受けて成立した江戸時代は、農業以外の生産（漁業・林業など）が産業化し、多様な商品生産・商品流通が展開した。その結果、土地を基盤として成立した村落社会は、次第に変容していった。時の流れは、村落をどのように変容させたのか。この授業では、その具体像を海付村落（漁村）に求め、一般的な農業村落に対して、漁業に進出した村落がどのような展開を遂げたのか見ていく。あわせて、江戸時代における漁場利用の実態にも目を向ける。後期は、江戸近郊に展開した獵師町（深川・芝金杉・品川・羽田ほか）を取り上げる。獵師町の研究は、近年、その基本的性格、あるいは幕府との関わりなどから進展が見られるとはいえ、いまだ途上にある。授業では、獵師町が存在形態やこれまでに明らかになった点を紹介しつつ、一般漁村と獵師町の比較検討も含め、「獵師町とは何か」というテーマをもって進めていく。 土地（陸-おか）ではなく、海を舞台に生産を展開した人々。その世界に触れ、理解することは、当時の社会における多様性の一端を知る機会となる。
授業スケジュール	(1) ガイダンス (2) 戦国期から江戸時代へⅠ (3) 戦国期から江戸時代へⅡ (4) 中世末～近世前期の漁業社会 (5) 関西からの技術伝播 (6) 江戸幕府の成立Ⅰ (7) 江戸幕府の成立Ⅱ (8) 江戸時代の村と町 (9) 農業と漁業 (10) 海付村落〈漁村〉の展開 (11) 海付村落の形態 (12) 漁場利用の実態 (13) 領主の漁業支配 (14) 漁業権の確立 (15) 日本橋肴問屋 (16) 問屋による漁村支配 (17) 漁村的流通システムの確立 (18) 都市江戸と内湾漁業 (19) 江戸近郊獵師町とは (20) 深川獵師町 (21) 芝金杉町 (22) 獵師町の村と町 (23) 羽田獵師町 (24) 品川獵師町 (25) 佃島 (26) その他の獵師町 (27) 芝金杉町の魚市場Ⅰ (28) 芝金杉町の魚市場Ⅱ (29) 近世社会における漁業の位置づけ (30) 江戸内湾の風景
準備学習	授業を受講するにあたって、近世社会の基礎的な知識をもっているとよい。たとえば、近世の領主が土地を基本とした支配を展開し、年貢を徴収したこと。財政収入の場である村を治めるため、村方三役（名主・組頭・百姓代）を設置したことなど。授業でも基本的事項の確認を含め、解説を行うが、それら農村社会の知識を基礎にして、海上を生産の場とする漁業社会について学ぶ。農業と漁業は全く異なった「世界」であるが、海付の村という場に両者が併存する「漁村」という社会は、とても興味深いといえる。
履修上の留意点	積極的に授業に取り組むことで、江戸時代の社会を理解すること。ただ記憶するのではなく、社会のしくみやその時代を生きた人々について考え、そこから何かを得る機会としてほしい。
成績評価の方法	基本的には、年度末の定期試験が成績評価の対象となる。ただし、授業の出欠状況も参考とする。
教科書／テキスト	教科書は使用しない。授業に必要な資料は、そのつどプリントして配布する。
参考書	必要な場合は、授業中に指示する。

履修コード	048401
科目名	日本史特講VII [近代]
担当者名	熊本 史雄

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>本講義では、日清・日露戦争期から第一次大戦、第二次大戦を経て、戦後のサンフランシスコ平和条約・日米安全保障条約締結に至るまでの日本外交につき、史料を交えて講述する。</p> <p>前期では、朝鮮・満洲地域進出の足がかりとなった日清・日露戦争期の日本外交政策を起点に、第一次大戦後の「転換期」に「新外交」を模索したはずの日本が、満洲事変を経て日中戦争、アジア・太平洋戦争へと突入していく過程を検証しつつ、その根底に潜む「外交思想」の解明を試みる。</p> <p>後期には、終戦工作を経て、敗戦後の日本が独立に向けて再生していく過程を、占領期GHQとの折衝交渉をつうじて検証する。</p> <p>こうした検証と解明をもとに、近代日本の歴史像の一面の提示を併せ行いたい。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>第1回 前期の授業計画、参考文献などの説明</p> <p>第2回 アジア進出の端緒①</p> <p>第3回 アジア進出の端緒②</p> <p>第4回 第一次大戦と東アジア社会</p> <p>第5回 パリ講和会議と「ウィルソン主義」</p> <p>第6回 「新外交」の実践とワシントン会議</p> <p>第7回 「幣原外交」と「田中外交」</p> <p>第8回 若槻礼次郎とロンドン海軍軍縮会議</p> <p>第9回 満洲事変とその拡大過程 ①</p> <p>第10回 満洲事変とその拡大過程 ②</p> <p>第11回 松岡洋右と国際連盟脱退をめぐる動向</p> <p>第12回 「広田外交」と「佐藤外交」</p> <p>第13回 日中戦争への道</p> <p>第14回 日中戦争とその拡大</p> <p>第15回 中間試験</p> <p>《以上前期》</p> <p>第16回 前期の総括 (中間試験返却) / 後期の授業計画</p> <p>第17回 日独伊三国同盟と日ソ中立条約 ①</p> <p>第18回 日独伊三国同盟と日ソ中立条約 ②</p> <p>第19回 南進政策と日米関係</p> <p>第20回 日米交渉から日米開戦へ</p> <p>第21回 総力戦体制と戦後の世界</p> <p>第22回 終戦工作と戦後構想</p> <p>第23回 敗戦と占領の開始 ①</p> <p>第24回 敗戦と占領の開始 ②</p> <p>第25回 「自衛外交」の模索</p> <p>第26回 サンフランシスコ講和会議の準備作業 ①</p> <p>第27回 サンフランシスコ講和会議の準備作業 ②</p> <p>第28回 吉田茂の安全保障構想</p> <p>第29回 サンフランシスコ講和条約の締結</p> <p>第30回 日米安全保障条約と行政協定の締結</p>
----------	--

準備学習	特になし。
履修上の留意点	史料の講読を通じて外交政策の決定過程を追体験して欲しい。外交指導者が下した決断の理由は何か、その根底にある主張とは何か、といった問題意識を常に持つことが重要。
成績評価の方法	前・後期2回の試験の成績 (70%)、および出席状況と授業態度 (30%) で評価する。
教科書/テキスト	とくに指定しない。
参考書	適宜紹介する。
その他	講義形式で進め、レジュメと史料を毎回配布する。

履修コード	047411
科目名	日本中世史
担当者名	久保田 昌希

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講座は中世社会の構造を概観し、日本史上に占める位置を考えることを目的とする。はたして中世という社会は、古代から近世社会の間でいかなる構造をもち、いかなる展開を遂げたのかという、いわば中世社会の「枠組み」を紹介する。日本史概説は大きく前近代史と近代史に分けられるが、本講座はいわば「時代史」として展開する。なお特講は時代史のなかの個別研究として位置づけられる。近年の中世史研究の動向も紹介しつつ進めていきたい。
---------------------	---

授業スケジュール	(1~5) 古代から中世へ、(6~11) 鎌倉幕府と朝廷、(12・13) 武家と公家の法秩序、(14~18) 鎌倉中・後期の幕府と朝廷、(19) 建武政権をめぐって、(20~23) 室町幕府と守護体制、(24・25) 惣的結合と一揆の時代、(26~28) 戦国大名領国の形成、(29) 豊臣政権、(30) 近世(幕藩制)社会へ
----------	---

準備学習	とくに指定はしないが、小学館や集英社、講談社、中央公論社などから出版されている、一般向けの「日本の歴史」シリーズの中世部分や吉川弘文館の「日本中世の歴史」、東京堂出版の「展望日本歴史」の中世部分など、要は日本中世史の概説書を読むことを進めます。これらの図書は皆さんの住んでいる地域の公共図書館にも必ず配置されていますから是非読み進めていってください。
------	---

履修上の留意点	細かな政治史、事件等の経緯についてはあまり紹介しない。各自で中世史関係の論文や図書を読んでほしい。また講義内容で関心をもった事項は自分で積極的に調べてほしい。もちろん質問も歓迎する。なお、とくに授業内容をまとめたプリントは配布しない。板書事項や講義内容を書き取る事も含めて、自分のノートを充実することを期待している。
---------	--

成績評価の方法	定期試験の結果、提出レポート、出席状況などによる。
---------	---------------------------

教科書/テキスト	とくに指定はしない。適宜史料コピーを配布する。
----------	-------------------------

参考書	適宜紹介する。
-----	---------

履修コード	046601 046602
科目名	日本仏教史
担当者名	松本 信道

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講座は、「仏教の日本的受容」というテーマを中心として、日本の古代史を再検討してみようというのがねらいである。仏教が日本に受容された背景を、政治的・社会的・思想的・宗教的環境の中で有機的にとらえていくということを基本的姿勢として講義を進める。とくに、インド・中国・朝鮮半島などの動向も視野に入れた国際的視点と、日本古代社会の皇族・貴族・豪族のみでなく、一般民衆の「苦悩」と「祈り」と「救済」をも視野に入れた民衆史的視点からもアプローチしてみたい。
---------------------	---

授業スケジュール	(1) ガイダンス、(2)~(3) インド・中国・朝鮮仏教の成立、(4)~(7) 日本への仏教伝来と受容、(8)~(12) 飛鳥仏教の成立と展開、(13)~(20) 奈良仏教の成立と展開、(21)~(25) 平安仏教の成立と展開、(26)~(30) 鎌倉仏教の成立と展開
----------	---

準備学習	仏教に関する基礎知識を学習しておくこと。
------	----------------------

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	前期・後期2回のレポートと出席点を総合して評価する。
---------	----------------------------

教科書/テキスト	随時、プリントにて配布します。
----------	-----------------

参考書	速水侑『日本仏教史 古代編』(吉川弘文館)
-----	-----------------------



履修コード	047111 047112
科目名	日本文化史
担当者名	廣瀬 良弘
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 日本文化の歴史が、当時の社会の生産の仕組みや政治・経済・宗教などと深く関わりあっていたことに留意しながら、朝廷・公家・武家のみならず民衆が文化の創造に大きな役割を果たしていたことを明らかにしていきたいと思います。そして、この日本文化は現代においても、多くは底流として、また、ときには、「日本の代表的な文化」として、存在しています。現代の文化と対比しながら、検討していきたいと思います。 (到達目標) 日本の文化・歴史に関する知識を社会との関係から深めることを目標とします。
授業スケジュール	日本文化の流れを概観し、民衆の躍動やその文化が顕著になってくる中世の文化を中心にその前後の文化にも注目しながら、文化の様相と特色について見ていきます。 ・日本文化史概観 ・中世文化史研究の動向 (1, 2) ・鎌倉仏教と文化 (3~5) ・禅宗と五山文化 (6, 7) ・南北朝から室町期の文化 (8, 9) ・北山文化の展開 (10, 11) ・東山文化とその基盤 (12~15) ・中世の職能民 (16, 17) ・連歌師の旅 (18, 19) ・戦国社会と宗教 (18, 19) ・戦国社会の駆込寺 (20~22) ・大名領国の文化 (23, 24) ・統一政権とその文化 (25, 26) ・近世文化史研究の動向と寛永文化 (27~30)
準備学習	日頃から日本の芸能や工芸品等に強い関心を示し、博物館等によく出かけて下さい。
履修上の留意点	講義の中に出てきた事項について、図書館の蔵書や辞書などで調べ直してみたり、現地に行ってみたりすることが必要です。また、日本文化や歴史、宗教などをテーマとする博物館・美術館などの展示会を積極的に観覧し、できるかぎり「実物」に接する機会を持って下さい。受講する上では図書館所蔵の文化史・美術史に関する資料・ビデオ等を大いに活用することをすすめます。なお、本学の禅文化歴史博物館での文化史関連展示会の見学と学芸員による説明会を実施します。
成績評価の方法	定期試験の結果と授業の出欠を重視します。定期試験では一般論を回答しても正解とならないことが多いので注意して下さい。つまり授業に出席し、しっかりとしたノートができていないと合格点は取れません。
教科書/テキスト	とくに指定しません。必要な資料は随時コピーを配布します。
参考書	講義内容に関する博物館・研究所などを随時提示して行きます。

履修コード	017101 017102 017103
科目名	日本民俗学
担当者名	谷口 貢
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	日本民俗学は世代をこえて伝承されてきた習俗・慣習の調査・研究を通して、日本社会に展開する生活文化を追究する学問である。地域社会に伝承されてきた民俗文化に焦点をあてながら、生活文化において何が変化し、何が持続しているのかを検証し、われわれの現在の生活のありようを再考していきたい。
授業スケジュール	(1~2) 民俗学とは (3~5) 民俗学の流れと現在 (6~7) 家族生活と住まい (8~10) 食をめぐる民俗 (11~12) 村と町のなりたち (13~15) 若者と一人前 (16~18) 婚姻と出産・子育ての民俗 (19~21) 女性・子ども・老人の民俗 (22~24) 葬送儀礼と先祖祭祀 (25~27) 里と海・山のなりわい (28~29) 祭りと年中行事 (30) 民俗宗教の諸相
準備学習	教科書の該当箇所を事前に目を通しておくことが望ましい。
履修上の留意点	夏期レポート及び小レポートを実施する予定。
成績評価の方法	学年末に実施する筆記試験、それに夏期レポートと小レポートの合計をもって評価を行う。出席を重視する。
教科書/テキスト	谷口貢・松崎憲三編著『民俗学講義-生活文化へのアプローチ』2006年刊(八千代出版) 2,100円(税込)、ISBN 4-8429-1405-X
参考書	講義内容を発展させるための参考文献は講義の中で紹介していきたい。

履修コード	017801 017802 017803
科目名	美術史概説
担当者名	北野 良枝

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 日本絵画の流れを主要なジャンルや流派ごとに概観する。絵画の歴史を理解するにあたって、作品を参照する必要があるため、授業では毎回、作品の画像を映写する。 (到達目標) 日頃接する機会の少ない日本の近世以前の絵画に対する理解を深めることを目標とする。
---------------------	---

授業スケジュール	前期 平安時代から室町時代の絵画 (1) ガイダンス (2) 絵画に関する基礎知識 (3) ~ (5) 仏教絵画 (6) ~ (8) 絵巻物 (9) ~ (10) 肖像画 (11) ~ (15) 室町時代の水墨画 後期 室町末から江戸時代の絵画 (16) ~ (20) 狩野派 (21) ~ (24) 琳派 (25) ~ (26) 浮世絵 (27) ~ (28) 南蘋派と洋風画 (29) ~ (30) 江戸から明治へ
----------	---

準備学習	授業で使用する資料をYeStudyに掲載するので、各自ダウンロードして持参すること。
履修上の留意点	授業中の私語は厳禁。
成績評価の方法	学年末に試験を実施し、その得点によって評価する。
教科書/テキスト	
参考書	
その他	YeStudyを活用する。

履修コード	006201 006202
科目名	仏教美術
担当者名	村松 哲文

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	仏像の歴史について、信仰的な背景と照らし合わせながら概観する。本年度は、奈良と京都の寺院ごとに仏像を考察する。6世紀、我が国に伝来した仏教は瞬間に日本に根付き、絢爛たる仏教文化を構築した。こうした中で、仏像の制作は時代を経るごとに発展していくが、様々な要因から仏像の表現は変化する。この変化の過程を各寺院で所蔵されている仏像を概観しながら、その特徴を把握していくことが本講義の目標である。 古代寺院の代表である法隆寺の仏像は、中国や朝鮮半島の影響を大きく受けて制作されている。その後平安時代になると平等院に代表される仏像のように日本独自の表現が確立する。こうした仏像表現の相違点について、スライドやDVDなどを用いて講義する。 また本講義では、仏像から制作者の心情に迫り、芸術という側面だけではなく、信仰という側面に留意して話を進める。なおインド・中国・朝鮮半島の仏教美術については「総合」(3) 仏教と芸術」で講義し、鎌倉時代以降の絵画については「禅美術」で講義する。
---------------------	---

授業スケジュール	〔前期〕 仏像鑑賞の基礎 (1~3) , 飛鳥時代 (4~8) , 白鳳時代 (9~11) , 天平時代 (12~15) 〔後期〕 平安前期 (16~18) , 平安中期 (19~21) , 平安後期 (22~24) , 鎌倉時代 (25~27) , 仏像制作の技法 (28~30) 以上は予定であり、関連する他の仏像について適時解説する。
----------	--

準備学習	都内近郊の博物館・美術館に行き、多くの仏像を鑑賞すること。
履修上の留意点	美術館・博物館・寺院に行き、多くの仏像を観察するように努めてもらいたい。仏教美術関連の展覧会には、必ず足を運ぶこと。
成績評価の方法	定期試験と出席率、レポートなどで総合評価する。
教科書/テキスト	プリントを配布する。
参考書	『かわいい、キレイ、カッコいい、たのしい仏像のみかた』(日本文芸社)、その他については講義中に紹介する。

履修コード	016501
科目名	有職故実
担当者名	近藤 好和

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	10世紀後半以降の平安貴族社会で、和様化した公事(朝廷の儀式・政務)のマニュアルとして、令・格・式・儀式などを基礎に成立したのが有職故実である。従って、その扱う範囲は本来多岐にわたり、前近代では、有職故実研究はそのまま歴史研究でもあった。ところが、明治以降、有職故実が扱う範囲は、服飾・武具・調度・乗用具などの限定されたものになってしまった。しかし、これらが有職故実が扱う重要な分野であることは確かである。特にかかる「モノ」を実用の道具として即物的に扱うのが有職故実の特徴であり、「モノ」を現在の歴史学に取り込むためには、有職故実的な手法が不可欠と考える。また、それらの「モノ」を正しく理解することで、古典文学の理解もより深まる。そうしたなかで、本講義では、公家・武家の装束と中世の武具について講義する。
---------------------	--

授業スケジュール	前期から後期前半にかけて、公家男子装束・公家女子装束・武家装束を講義する。続いて後期後半は、中世の甲冑・弓箭・刀剣について講義する。
----------	--

準備学習	特になし
------	------

履修上の留意点	出席などは一切取らないが、授業は体系的に進めていくので、毎時間まじめに出席しなければ、単位取得は難しいであろう。また、毎時間、プリントを配布するが、それ以外の板書も多いので、ノートは必ず必要である。
---------	---

成績評価の方法	前・後期各一回の試験で判定する。具体的には、両試験の合計点を2で割り、60点以上を合格とする。なお、前期試験の成績不良者のうち、呼び出しに応じた学生に対しては、警告のうえ適切な救済処置を取る。
---------	--

教科書/テキスト	特になし。毎時間、プリント(文章と図版)を配布する。
----------	----------------------------

参考書	近藤好和『装束の日本史』平凡社新書 2007年 近藤好和『武具の日本史』平凡社新書 2010年
-----	--

履修コード	028101
科目名	ラテン語
担当者名	上野 勝広
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	ラテン語は、古典ギリシャ語と共に、ヨーロッパ文化の基礎を形成しています。ラテン語についての知識は、ヨーロッパ諸文化の理解にきわめて重要です。本授業では、ラテン語の基礎文法を概説します。自ら単語集と語尾変化表を活用しながら、平易なラテン文を理解できるようにします。
授業スケジュール	下記のテキストを用いて、基礎文法の要点を順次説明してゆきます。必要に応じてテキストにならない文例も補充し、各課末にあるラ文和訳の練習問題に取り組みます。  前期は序論から第12課まで、後期は第13課から第24課までを学習します。  前期 1. 導入、ラテン語とは 2. 文字と発音、アクセント 3. 動詞の直説法現在、第1変格名詞 4. 直説法未完了、第2変格男性名詞 5. 直説法未来、第2変格中性名詞 6. 接頭辞+sum、形容詞 bonus, bona, bonum 7. 直説法完了、第2変格男性名詞 puer, ager 8. 語順、直説法過去完了、直説法未完了 9. 前置詞、場所を示す副詞、4種の動詞活用、現在語幹、完了語幹 10. 第3変格名詞 第I型 auris, cubile 11. 直説法現在、直説法未完了、第3変格名詞 第II型 dux 12. 直説法未来、第3変格名詞 第II型の続き、直説法現在受動態 13. 第4変格名詞、第5変格名詞、直説法未完了受動態、直説法未来受動態 14. 形容詞の比較法、受動態完了・過去完了・未来完了 15. 前回までの要点の整理、理解度の確認  後期 16. 命令法現在（能動態・受動態）、指示代名詞・形容詞、接続詞 17. 指示代名詞・形容詞の続き 18. 人称代名詞、所有代名詞・形容詞 19. 関係代名詞、副詞の比較法 20. 疑問代名詞・形容詞、不定法の用法、possum 21. 数詞、不定法の続き 22. 形式受動動詞、不定代名詞・形容詞 23. 分詞、未来不定法 24. 絶対的奪格 25. 接続法（現在・未完了・完了・過去完了）、独立文中の接続法 26. 動名詞、目的分詞、動形容詞 27. 不規則動詞、不完全動詞 28. 非人称動詞、間接疑問文 29. 様々な従属文 30. 前回までの要点の整理、理解度の確認
準備学習	特に必要ありませんが、ラテン語がどんな言語かについて調べておきましょう。
履修上の留意点	練習問題については、毎回出席者に指名し和訳例を発表してもらいます。受身でなく、自ら学び取る姿勢をもって授業に臨みましょう。 1回でも欠席してしまうと追いつくのが容易ではありません。授業そのものに加え、自習の負担が大きい科目であることを認識しておいてください。
成績評価の方法	年間2回（前期末・後期末）のテストの結果（80%）に平常点（20%）を加味して評価します。
教科書／テキスト	松本悦治『ラテン語入門』（駿河台出版社）1,500円
参考書	辞書と共に授業の進行に合わせて紹介します。

履修コード	033001
科目名	歴史地理学
担当者名	小田 匡保

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 主に日本の村落と都市の歴史地理について講義を行う。歴史地理学の範囲は非常に広いので、「浅く広く」を基本に授業を進める。</p> <p>(到達目標) 歴史時代の事柄も地理学的に扱えることを理解できるようにする。歴史学科学生には、歴史学とは違う地理学的なものの方の見方に慣れてほしい。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義内容等の概要説明</li> <li>2～3. 歴史地理学の概要</li> <li>4～5. 先史時代の村落</li> <li>6～7. 古代の村落と地方行政区画</li> <li>8～10. 中近世の村落と地方行政区画</li> <li>11～13. 近現代の村落と地方行政区画</li> <li>14～15. 前期のまとめと理解度の確認</li> <li>16. 東京都の地方行政区画の変遷</li> <li>17～23. 古代の都市</li> <li>24. 近世の都市</li> <li>25～26. 歴史地理学の資料</li> <li>27. 歴史的町並み・景観保存</li> <li>28～29. 後期のまとめと理解度の確認</li> <li>30. 大学周辺のミニ巡検</li> </ol>
----------	---

準備学習	毎回の授業の後、ノートやプリントを見直して、話の筋をつかむことを薦める。
------	--------------------------------------

履修上の留意点	この科目は、地理学科・歴史学科両方の専門科目であるが、教員は地理学の間人であるので、地理学的な見方や内容が中心になる。しかし、高校の地理を履修していなければ理解できない内容ではない。むしろ、ある程度の日本史の知識を持っていることが望まれる。ただし、史料講読ではないので、古文書が読める必要はない。
---------	--

成績評価の方法	成績評価は、試験（前期・後期の2回。持込不可）の点数が基本で、これに夏休みの調査レポートの点数を加味して行なう。出席回数が半分に達しない場合や、夏休みレポートが受理されない場合は、単位は認定できない。
---------	--

教科書/テキスト	使用しないが、図表類のプリントを授業で配布する。
----------	--------------------------

参考書	授業中に紹介する。
-----	-----------

# 專 門 教 育 科 目

## (5) 社 会 学 科

### 社 会 学 專 攻



履修コード	058281
科目名	外書講読演習
担当者名	山田 信行

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	英語文献の輪読を通じて、社会学に関する理論的・経験的な学識を深めることを目的としている。
授業スケジュール	とりあげる文献については、開講時に指示する。授業はゼミ形式で行う。スケジュールの概要は、以下の通り。

- 第1回 ガイダンスと文献の確定
- 第2回 担当箇所と分担の決定
- 第3回～第6回 分担に基づく輪読
- 第7回 中間テスト(テキストの和約)
- 第8回～第14回 分担に基づく輪読
- 第15回 期末テストとディスカッション

準備学習	社会学および社会問題への関心を日ごろから培っておくこと。
履修上の留意点	英語の購読授業とは一線を画するものにしたいが、あくまでテキストの理解を徹底することが目的達成のための第一歩なので、丁寧に英文を読み取ることが心掛けていくようにしたい。
成績評価の方法	平常点、中間試験、および学期末試験を総合して評価する。
教科書/テキスト	参加者と相談して決める。
参考書	適宜、指示する。
その他	英語の学力については、とくに問題にしないものの、まとまった文献を読みとおすだけの意欲は必要である。

履修コード	058451
科目名	家族とジェンダーの社会学A
担当者名	松信 ひろみ

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義のテーマは、現代の結婚と家族にかかわる諸現象や問題を、社会的な観点から考察することである。統計的なデータから、さまざまな現象や問題についての現状を読み取り、その現状を社会的な観点から把握できる能力を養うことが目標となる。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>まず初めに、家族社会学の基本的な考え方を解説し、近代家族から現代家族への変遷の過程について説明する。続いて、現代家族をめぐる具体的な現象や問題を取り上げ、各々について統計的なデータなども用いて、現状の解説と社会的な観点・理論からの分析・検討を行う。具体的には、結婚の変容、ワーク・ライフ・バランス、子どもの社会化と子育て事情、共働き夫婦の家族関係、家族と地域における高齢者、離婚とひとり親家族、家族と暴力などである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第1回 イントロダクション</li> <li>第2回～3回 社会変動と家族変動</li> <li>第4回 家族規範の変化と結婚の変容</li> <li>第5回 家族の生活時間とワーク・ライフ・バランス</li> <li>第6回 共働き夫婦の家族関係</li> <li>第7回 子どもの社会化と家族</li> <li>第8回 現代家族の子育て事情</li> <li>第9回 中年期から高齢期への移行と家族</li> <li>第10回 高齢者と地域</li> <li>第11回 離婚、ひとり親家族とステップ・ファミリー</li> <li>第12回 家族と暴力</li> <li>第13回～14回 これからの家族と家族政策</li> <li>第15回 まとめ</li> </ul>
----------	--

準備学習	現代家族にかかわる問題や現象で気になることがあったら、日ごろからチェックして、その問題・現象の構造について、自分なりに検討しておいてほしい。
履修上の留意点	
成績評価の方法	平常点(出席・コメントペーパー)30%、レポート70%
教科書/テキスト	使用するが、開講時に指示する
参考書	適宜紹介する



履修コード	058751
科目名	環境社会学
担当者名	品田 知美

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	人間活動の領域が広がった現代社会では、環境や資源の制約にともない発生する問題の重要性が認識されている。社会学はこの問題領域をどのように扱うことができるのだろうか。この講義では、日常生活とのつながりを意識しながら問題領域に関する基礎的な知識を学び、実践的な対処へと応用できる社会的な思考法を身につける。
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) イントロダクション</li> <li>2) 鉱物資源と公害から考える</li> <li>3) リサイクルとごみ問題から考える</li> <li>4) 野生生物の保護から考える</li> <li>5) 森林の保全と水から考える</li> <li>6) 暮らしとエネルギーから考える</li> <li>7) 気候変動から考える</li> <li>8) 中間まとめ</li> <li>9) 社会学の理論と環境</li> <li>10) 社会調査でみる環境意識と行動</li> <li>11) 環境リスクとメディア</li> <li>12) 環境の倫理と公正</li> <li>13) 地球環境と自然の制約</li> <li>14) 持続可能な社会と公平性</li> <li>15) まとめ</li> </ol>
----------	--

準備学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境問題に限らず、各種のメディアから得られる情報に日常的に接し、その内容を批判的に取り入れていること。</li> <li>・授業内で紹介された書籍やウェブサイトなどに日頃から目を通すことが望ましい。</li> </ul>
------	--

履修上の留意点	<p>ディスカッションなどを取り入れることがあります。</p> <p>講義を受動的に聞くにとどまらず、意見を述べるなど積極的な参加が期待されます。</p>
---------	---

成績評価の方法	<p>平常点 (授業中に記述するコメントペーパーの内容による) 40%</p> <p>学期末レポート 60%</p>
---------	--

教科書/テキスト	指定しない。プリントを配布する。
----------	------------------

参考書	授業中に適宜紹介する。
-----	-------------

その他	
-----	--

履修コード	073401
科目名	環境心理学
担当者名	林 久美

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	私たちをとりまく「環境」とは？
---------------------	-----------------

実にさまざまな要素からなる「環境」。  
人間が存在し、その周囲にある空間一室内、建築、都市…すなわち「環境」はいろいろな尺度で捉えることができる。そのなかで私たちの生活は存在し、人間と環境は常に相互に影響を与え合っている。

人間がより豊かで多様な関わりを持てる環境を作るために、人間が環境をどのように知覚・認知しているか、あるいは環境における人間行動・生態など、人間が本来的に持つ性質を実証的に明らかにする観察・実験例（環境行動研究：Environment-Behavior Studies）をもとに、それを基盤とした人間の観点に基づく環境デザインの理論的背景を得ることを目的とする。

授業スケジュール	<p>1) 環境心理学の概観・問題意識 ・環境行動デザインの意義・建築計画学と環境心理学</p> <p>2) 人間の心理・行動とそのデザインへの応用 ・人間のスケール、人間の周りの空間・環境と行動・環境のアフォーダンス・プロクセミクス・パーソナルスペース・テリトリー・ディフェンシブルスペース・空間の知覚/認知・ウェイファインディング</p> <p>3) 建築計画学における環境心理研究・実践 ・住まいと環境心理学・都市と環境心理学・こどもの発達と環境心理学・老いと環境心理学</p>
----------	--

準備学習	身の回りの出来事を客観視する習慣をつけることが望ましい。 「あたりまえ」と思っていることを改めて見つめ直す、等。
------	---

履修上の留意点	日常生活に関連する事柄が多いので、日頃から自身の行動、周辺環境との関わりについて興味を持っていること。
---------	---

成績評価の方法	レポートによる。
---------	----------

教科書/テキスト	
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本建築学会編：人間環境学、朝倉書店、1998</li> <li>・高橋鷹志、長澤泰、西出和彦編：シリーズ＜人間と建築＞1 環境と空間、朝倉書店、1997</li> <li>・ジョン・ラング著、高橋鷹志監訳「建築理論の創造 建築デザインにおける行動科学の役割」鹿島出版会（1992）</li> <li>・高橋鷹志＋チームEBS編著：環境行動のデータファイル-空間デザインのための道具箱-、彰国社、2003</li> </ul>

履修コード	058091
科目名	基礎文献講読演習
担当者名	片岡 栄美
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	社会学の基礎的な概念や社会学的思考法を、文献を購読することによって学ぶ。履修者全員が参加し、内容についての理解を討論によって深める。文献の読み方、文献のまとめ方、報告（プレゼンテーション）の方法を学び、研究の基礎的な能力とスキルを習得することを目的とする。
授業スケジュール	<p>毎回、テキストの章にそって文献購読、発表、討論を行う。 初回時に詳しい説明を行うので、必ず出席すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第1回 オリエンテーション</li> <li>第2回 親密性と公共性</li> <li>第3回 相互行為と自己</li> <li>第4回 社会秩序と権力</li> <li>第5回 組織とネットワーク</li> <li>第6回 メディアとコミュニケーション</li> <li>第7回 歴史と記憶／空間と場所</li> <li>第8回 環境と技術</li> <li>第9回 医療・福祉と自己決定</li> <li>第10回 国家とグローバリゼーション</li> <li>第11回 家族とライフコース</li> <li>第12回 ジェンダーとセクシュアリティ</li> <li>第13回 エスニシティと境界</li> <li>第14回 格差と階層化/文化と再生産</li> <li>第15回 社会運動と社会構想</li> </ul>
準備学習	毎回の授業で予定されるテキストを事前によく読み、質問・疑問点などを前もって確認して、授業に参加してほしい。
履修上の留意点	主体的な授業への参加を促すために、グループにごとに内容についての討論を行う。出席を重視する。理由のない遅刻、早退、欠席は厳禁とする。
成績評価の方法	出席30%、平常点（発言、報告内容など）20%、レポート50%で総合的に評価する。
教科書／テキスト	長谷川公一、浜日出夫、藤村正之、町村敬志／著 『社会学』有斐閣、2007年
参考書	適宜、指示する

履修コード	058061
科目名	基礎文献講読演習
担当者名	深澤 弘樹

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 本演習では、社会学の基礎的知識を網羅したテキストの輪読によって、社会学の基礎概念や方法論を学ぶ。授業はゼミ形式で行い、各自の報告に基づいて議論するとともに、補足説明を加えながら進めていく。  (到達目標) 本演習では、これまで学んだ社会学の基礎知識をさらに深め、卒論のテーマ選択や卒論作成に必要な応用力を身につけることを目的とする。また、プレゼンテーションなどの発表の方法、議論の手法なども身につけてほしい。
---------------------	---

授業スケジュール	あらかじめ指定されたテキストをゼミ形式で輪読し、全員で議論する。ゼミの実施にあたっては、報告者や司会者を毎回決めて行い、ディスカッションの仕方も練習する。 スケジュールは、以下を考えているが、詳細は受講生と相談のうえ決めたい。
----------	--

1. ガイダンス
2. 分担の決定、序章
3. 第1章 親密性と公共性
4. 第2章 相互行為と自己
5. 第3章 社会秩序と権力
6. 第4章 組織とネットワーク
7. 第5章 メディアとコミュニケーション
8. 第6章 歴史と記憶
9. 第7章 空間と場所
10. 第10章 国家とグローバリゼーション
11. 第11章 家族とライフコース
12. 第12章 ジェンダーとセクシュアリティ
13. 第14章 格差と階層化
14. 第15章 文化と再生産
15. まとめ

準備学習	これまで学んだ社会学の基礎知識を復習したうえで授業に臨んでほしい。なお、報告者は担当部分を簡潔にまとめたレジュメを作成する。それ以外の学生は事前にテキストを必ず読んでおき、準備学習を怠らないこと。
------	--

履修上の留意点	少人数のゼミ形式の授業なので、無断欠席・遅刻は厳禁である。積極的な参加を期待している。
---------	---

成績評価の方法	平常点と学期末レポートによって評価する。レポートの詳細については、追って指示する。
---------	---

教科書/テキスト	長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志 『社会学』有斐閣、3500円、ISBN978-4-641-05370-0
----------	---

参考書	適宜、指示する。
-----	----------

その他	あらかじめ、指定された学生番号の学生のみ履修できる。
-----	----------------------------

履修コード	058081
科目名	基礎文献講読演習
担当者名	松信 ひろみ

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義では、社会学の基礎的知識を網羅したテキストを講読することによって、社会学の基本的な考え方を習得することを目的とする。とりわけ、自己と他者、相互行為、コミュニケーション、メディアなど、人と人との関係性についての基礎概念を学び、現代社会が抱える様々な問題を社会的にとらえる力を身につける。なお、講義は演習方式を採用し、受講者の報告に対して、受講者同士で議論したり補足説明を加えながら進めていく。
---------------------	--

授業スケジュール	第1回：講義のガイダンス、第2回：社会学的考え方とは、第3～4回：親密性と公共性、第5～6回：相互行為と自己、第7～8回：社会秩序と権力、第9～11回：メディアとコミュニケーション、第12回：歴史と記憶 第13回：国家とグローバリゼーション、第14～15回：講義のまとめ
----------	---

準備学習	毎回、報告者はテキストをまとめたレジュメを作成し、ポイントや疑問点を自分なりにまとめた上で、他の学生にわかりやすく伝える努力をしてほしい。それ以外の学生は、予習を心がけ、受け身ではなく積極的な姿勢で授業に臨んでほしい。
------	---

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	学期末試験（7割）に出席状況、報告などの平常点（3割）を加味して総合的に判断する。
---------	---

教科書/テキスト	長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志『社会学』有斐閣、3500円、ISBN978-4-641-05370-0
----------	--

参考書	随時、授業中に指示する。
-----	--------------

履修コード	058071
科目名	基礎文献講読演習
担当者名	山田 信行
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本演習では、1年生で学んできた社会学的な視点を深め、さらに応用力を身につけることを目的として、社会学の基礎的な文献をゼミ形式で輪読して行く。多様な社会学の分野を総合的に扱っているテキストの読破を目指し、毎回、各章についての報告とその内容についての討論を行う。この一連の作業を通じて、各章の中心的なテーマと概要の理解を深めることがねらいである。 本演習において、社会的応用力を身につけ、3年次以降のゼミ選択と卒業論文のテーマ選択
授業スケジュール	演習は、クラスをいくつかのグループに分けた上で、以下のような順番でテキストの輪読と発表、討論を行う。  第1回 イントロダクション 第2回 親密性と公共性 第3回 相互行為と自己 第4回 社会秩序と権力 第5回 組織とネットワーク 第6回 メディアとコミュニケーション 第7回 空間と場所 第8回 環境と技術 第9回 医療・福祉と自己決定 第10回 家族とライフコース 第11回 ジェンダーとセクシュアリティ 第12回 エスニシティと境界 第13回 格差と階層化 第14回 文化と再生産 第15回 まとめ
準備学習	基本的な準備学習は、1年次に学んだ社会学の基礎知識を復習しておくことである。 さらに、演習に参加するにあたっては、報告担当になった章について、その章の概要をレジュメにまとめ、討論のポイントについて整理すること、そして、理解をより深めるために、テキストを超えて、関連する事柄を調べることも必要になる。 また、報告にあたっていない場合でも、テキストを読み、討論に向けての準備を行うことが求められる。
履修上の留意点	ゼミ形式の演習であるため、出席と報告、討論での発言が重視される。報告担当になった章の発表をきちんと行うばかりでなく、報告にあたっていない場合でも予習をし、活発な討論ができるように心掛けて欲しい。
成績評価の方法	平常点（出席、報告、討論の様子など）50%、レポート（4000字以上）50%
教科書／テキスト	長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志『社会学』有斐閣、2007
参考書	必要に応じて紹介する

履修コード	058501
科目名	行政法
担当者名	鷓徳 啓登
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	現代国家は、一般に福祉国家と言われるようになったが、我国も憲法制定後60年経過して、国内的・国内的に、社会情勢の変化に伴う新しい問題が生じてきている。国内的には戦後の経済政策の下になされた約1万件に上る規制の緩和がなされる一方で、国民の高齢化問題に対処すべく消費税率の引き上げ、宗教法人法の改正による宗教団体の規制問題など枚挙に暇がない。 本講義は、種々の行政作用を中心に行政法の輪郭を理解することをねらいとする。
授業スケジュール	1回～3回 : 行政法の意義について（法令の種類と法の解釈を含む）。 4回～6回 : 行政作用と行政行為について。 7回～15回 : 行政行為（特許や許可等）の意義、内容、効力について。 16回～20回 : 行政上の強制手段と行政上の処罰について。 21回～25回 : 国家による賠償と補償について。 26回～30回 : 行政上の不服申し立てと行政事件訴訟について。
準備学習	本講義は、実定法を中心に行うので、常時六法には目を通すこと。
履修上の留意点	
成績評価の方法	成績評価は出席状況と試験またはレポートによる。
教科書／テキスト	原田尚彦著 『行政法要論』（学陽書房）3,000円：ISBN4-313-31222-6 『小六法』 出版社・定価各種
参考書	塩野宏著『行政法I・II』（有斐閣）4,000円 その他、教場にて説明。

履修コード	117501
科目名	経済原論
担当者名	福田 慎

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義では、基本的なミクロ経済学とマクロ経済学について扱う。特に、公務員試験の他国家試験に対応できる知識を得ることを目的としている。こうした試験では、それ相応の問題が設定されているため、それに対応できる知識が得られる。また、実際の経済への応用を念頭に置きながら講義を進めていく。
---------------------	---

授業スケジュール	(前期) 1. ガイダンスと成績評価 2. 消費者理論：最適消費点と無差別曲線 3. 消費者理論：代替効果と所得効果 4. 消費者理論：効用関数の計算と需要曲線 5. 消費者理論：需要の価格弾力性 6. 生産者理論：利潤最大化と費用関数 7. 生産者理論：損益分岐点と操業停止点 8. 生産者理論：長期均衡、課税と費用曲線 9. 生産者理論：特定の生産関数の扱い 10. 不完全競争の生産者理論：独占と寡占 11. 不完全競争の生産者理論：独占的競争 12. 余剰分析 (1) 13. 余剰分析 (2) 14. 余剰分析 (3) 15. 前期の復習
----------	---

- (後期)
1. 国民所得の決定 (1)
  2. 国民所得の決定 (2)
  3. IS-LM分析
  4. 為替レート考慮したIS-LM分析
  5. 消費関数と投資関数
  6. 貨幣理論
  7. 乗数理論 (1)
  8. 乗数理論 (2)
  9. 総需要・総供給分析 (1)
  10. 総需要・総供給分析 (2)
  11. 総需要・総供給分析 (3)
  12. 総需要・総供給分析 (4)
  13. 経済成長の理論 (1)
  14. 経済成長の理論 (2)
  15. 後期の復習

準備学習	教科書に目を通しておいください。
履修上の留意点	ミクロ経済学ではある程度の数学の知識を要しますが、その都度説明していくので、数学初心者でも履修は可能です。
成績評価の方法	試験60%、レポート40%で評価する。
教科書/テキスト	伊藤元重(2003)『ミクロ経済学』日本評論社 伊藤元重(2002)『マクロ経済学』日本評論社
参考書	中谷巖(2000)『入門マクロ経済学』日本評論社 奥野正寛(2008)『ミクロ経済学』東京大学出版会
その他	事前に配布する資料と板書による講義形式です。

履修コード	058881
科目名	現代社会学理論研究
担当者名	岩瀬 庸理

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	社会学理論は社会学が社会を説明する基本的概念の体系です。それは、単独の個人の行動の説明でなく、社会現象を説明しようとするものです。社会学的な説明の仕方の特徴を学ぶために、社会変動に関する主要なマクロ理論をとりあげます。マクロ社会学理論は、社会的行為および社会構造の原理と変動を説明するための方法、枠組、仮説、命題、思想などを含む体系化された社会学的知識の総体です。その基本的テーマは「個人と社会」の関係の解明および「近代社会の特徴」の解明です。本講義は現代社会への関心を深め、それを社会学的に理解するためのマクロ社会学理論の概要を紹介しします。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>第一回 インTRODククション</p> <p>第二回 社会学と現代社会：社会学的想像力の課題</p> <p>第三回 社会学における理論と実証：『自殺論』の場合</p> <p>第四回 社会的行為論の世界</p> <p>第五回 社会構造論の展開</p> <p>第六回 近代社会と現代社会：『プロ倫』が描く近代社会</p> <p>第七回 日本社会の伝統と近代：『菊と刀』が見た日本</p> <p>第八回 現代社会の理論（1）：大衆社会論</p> <p>第九回 現代社会の理論（2）：脱産業社会論</p> <p>第十回 現代社会の理論（3）：グローバリズム論</p> <p>第十一回 社会変動（1）：多様化する家族</p> <p>第十二回 社会変動（2）：変容する都市</p> <p>第十三回 社会病理：逸脱と犯罪</p> <p>第十四回 現代社会の課題：人口転換と超高齢社会</p> <p>第十五回 まとめと試験</p>
----------	--

準備学習	社会学の基礎概念をきちんと身につけるために社会学事典・辞典を活用すること。
履修上の留意点	ノートをきちんととってください。また、配布する資料は保存しておいてください。
成績評価の方法	学期末試験と授業内に提出を求める課題を基本に評価します（70%）。出席状況も評価します（30%）。
教科書／テキスト	特定の教科書は使用しません。
参考書	参考書や講読文献は教室で適宜指示します。
その他	必要に応じてリアクション・ペーパーを求めます。

履修コード	058671
科目名	国際社会論
担当者名	山田 信行

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	グローバル化のもとで、国際的な社会認識を高めることを目標にして、諸外国の社会事象や世界的な社会問題に言及する。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>グローバル化が現代社会における基本的な趨勢であることが指摘されてから久しい。この講義では、社会学においてグローバルな認識枠組を提供してくれる世界システム論の基本的な構成を解説したうえで、それに依拠して世界の問題について検討する。</p> <p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 世界システムの基本構成 (1) 中核一周辺関係と不平等</p> <p>第3回 世界システムの基本構成 (2) 国家とイデオロギー</p> <p>第4回 開発と発展途上国</p> <p>第5回 資本主義のシステムとしての世界システム (1) 資本主義とはなにか</p> <p>第6回 資本主義のシステムとしての世界システム (2) 資本主義をめぐる論争</p> <p>第7回 新国際分業 (1) 国際分業の変容</p> <p>第8回 新国際分業 (2) 中核一周辺関係と新国際分業</p> <p>第9回 グローバル化とポスト新国際分業 (1) グローバル化という趨勢</p> <p>第10回 グローバル化とポスト新国際分業 (2) 国際分業の変容とグローバル化の帰結</p> <p>第11回 反グローバル化の社会運動 (1) 反システム運動とはなにか</p> <p>第12回 反グローバル化の社会運動 (2) 世界社会フォーラム運動</p> <p>第13回 世界システムと地球環境問題 (1) 世界システムにおける環境問題</p> <p>第14回 世界システムと地球環境問題 (2) 世界エコロジーの構想</p> <p>第15回 まとめ</p>
----------	---

準備学習	日ごろから、グローバルな問題について関心を持ち、そうした視野で思考する習慣をつけておくことが望ましい。
履修上の留意点	講義の理解を深めるためには、継続的に出席することが重要である。
成績評価の方法	授業内で実施する小テスト（5回）によって、成績を評価する予定。継続的な出席と講義内容の復習が重要となる。
教科書／テキスト	山田信行 2012『世界システムという考え方—社会学的入門』世界思想社
参考書	講義のなかで、適宜支持する。
その他	関連科目として、異文化コミュニケーション論がある。

履修コード	058741
科目名	災害社会学
担当者名	小嶋 直子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	自然災害研究には、自然科学と社会科学の双方からのアプローチがあるが、本講義では社会学、社会心理学および都市科学を含めた社会科学的観点から講義する。地震、風水害といった自然災害に関する災害時の情報と人間行動、災害後の復興計画などの諸問題について概説する。
---------------------	--

授業スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーション</li> <li>・「災害社会学」概説</li> <li>・災害史(天災～都市災害) 災害研究史</li> <li>・災害の持つ諸次元</li> <li>・災害文化と災害観</li> <li>・災害と大衆行動</li> <li>・災害と流言飛語</li> <li>・災害と報道</li> <li>・災害と地域特性</li> <li>・ボランティア</li> <li>・災害の社会文化に対する長期的影響</li> </ul> <p>過去の災害研究を踏まえ、災害に関わる様々なトピックを挙げながら講義を進める。また、2011年に起こった東日本大震災や風水害を事例として災害時における諸問題を明らかにする。必要に応じてビデオの使用や資料配布を行う。</p>
----------	---

準備学習	国内はもとより世界中で近年多発している自然災害についての情報、報道に関心を持って触れる
履修上の留意点	
成績評価の方法	出席率を含む平常点と定期試験により評価する
教科書/テキスト	使用せず
参考書	授業中に指示する

履修コード	073601
科目名	産業心理学
担当者名	大谷 華

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	産業心理学では、組織で働く人々の行動や意識を心理学的に考えます。会社は何を考えて人を雇うのか？どのような組織経営が働き手の意欲を高め、生産性につながるか？安全に働くためになすべき工夫とは？みなさんが社会人となったときに、幸せなワークライフを送り、健全な組織経営を促すための知識と視点を学びましょう。
---------------------	---

授業スケジュール	1. ガイダンス、2. 産業・組織心理学の歴史と研究、3. 組織行動(ワークモチベーション、組織のコミュニケーション、リーダーシップ)、4. 人的資源管理(採用・面接、人事評価、キャリア発達)、5. 職場の安全衛生(能率と安全、ヒューマンエラー、人間工学とデザイン)、6. まとめ、テスト、フィードバック。受講生の関心・要望に応じて、授業内容を変更する場合があります。
----------	--

準備学習	なし。
履修上の留意点	
成績評価の方法	前後期に授業内試験、およびレポート課題を行います。授業中に随時、ミニレポートとリアクションペーパーを課します。試験・レポート成績とリアクションペーパーの提出・内容を総合的に評価します。
教科書/テキスト	『よくわかる産業・組織心理学』山口裕幸・金井篤子(編)、ミネルヴァ書房
参考書	



履修コード	058371
科目名	産業と変動の社会学
担当者名	山田 信行

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	社会学の観点から産業と社会変動に関する基本的な理解を深めるとともに、労使関係、企業戦略、生産システム、およびグローバル化などの現代的な問題への認識を深める。
---------------------	--

授業スケジュール	この講義では、労使関係の変化とそれに対する雇主の対応と企業戦略の変化に照準して、生産システムの変遷をたどり、その過程に多国籍企業の展開と日本的なシステムの意義を位置づける。さらに、現代社会の基本的な変動趨勢としてのグローバル化の原因とその影響についても考察する。授業の内容は、以下のとおり。暫定的なスケジュールも同様。
----------	---

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 近代化・産業化・資本主義ー労使関係の成立
- 第3回 労使関係と生産システム (1) テーラー主義とその限界
- 第4回 労使関係と生産システム (2) フォード主義とその意味
- 第5回 ポスト・フォード主義 (1) 労使関係の変容とフォード主義の限界
- 第6回 ポスト・フォード主義 (2) 雇主の戦略と新国際分業
- 第7回 ポスト・フォード主義 (3) 多国籍企業の戦略と周辺社会の工業化
- 第8回 ポスト・フォード主義 (4) 日本的生産システム
- 第9回 グローバル化と日本的生産システム (1) グローバル化の原因と日本企業
- 第10回 グローバル化と日本的生産システム (2) 国際移転と普遍性
- 第11回 グローバル化とサービス経済化 (1) ポスト新国際分業と産業構成の変化
- 第12回 グローバル化とサービス経済化 (2) 世界都市と移民労働者の流入
- 第13回 インフォーマル化の進展 (1) インフォーマル・セクターの拡大
- 第14回 インフォーマル化の進展 (2) インフォーマル化の概念と意味
- 第15回 まとめ

準備学習	日ごろから、新聞その他のメディアを通じて、授業で扱う問題についての知識を吸収しておくことが望ましい。
------	--

履修上の留意点	継続的に出席することが、講義内容を理解するうえで重要である。
---------	--------------------------------

成績評価の方法	授業内で実施する小テスト (5回実施) によって、成績を評価する予定。出席はとらないが、小テストの成績は出席率と強い相関があることはいままでの間でないので、その点留意すること。
---------	--

教科書/テキスト	特になし。
----------	-------

参考書	山田信行 1998『階級・国家・世界システムー産業と変動のマクロ社会学』ミネルヴァ書房
-----	---

その他	後期に隔年開講している雇用と労働の社会学もあわせて履修することが望ましい。
-----	---------------------------------------

履修コード	058241
科目名	質的調査法演習
担当者名	深澤 弘樹

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 本講義では、社会調査の方法のなかで、とりわけ、質的調査に関する方法論について検討していく。具体的には、質的調査法の歴史的経緯ならびに特徴を整理した上で、参与観察法やインタビュー、会話分析、内容分析などについて、質的データの集め方や分析技法を学ぶ。
---------------------	---

(到達目標)	本講義の目的は、質的調査法に関する理解を深めるとともに、実際に現地調査を実施するのに必要な知識を習得していくことにある。
--------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 質的調査とは何か：質的調査の系譜</li> <li>3. フィールドワークとは何か (1)：フィールドワークの定義、意義</li> <li>4. フィールドワークとは何か (2)：フィールドワークの技法</li> <li>5. 参与観察法：意義と手法、実践の注意点</li> <li>6. インタビュー法 (1)：インタビューの技法と区分</li> <li>7. インタビュー法 (2)：アクティヴ・インタビューの手法</li> <li>8. インタビュー法 (3)：インタビューの実践方法</li> <li>9. ライフヒストリー分析：意義と手法</li> <li>10. 会話分析 (1)：概観</li> <li>11. 会話分析 (2)：会話分析の実践法</li> <li>12. 内容分析 (1)：内容分析とは何か</li> <li>13. 内容分析 (2)：内容分析のアプローチと手法</li> <li>14. 質的調査の実際：質的調査の応用方法</li> <li>15. まとめ</li> </ol>
----------	--

準備学習	社会調査の基礎知識をよく復習したうえで授業に臨むこと。
------	-----------------------------

履修上の留意点	遅刻、私語は厳禁。グループワークも行う予定なので積極的に参加すること。
---------	-------------------------------------

成績評価の方法	平常点 (出席状況、作業への参加度合い) や定期試験 (レポート) により総合的に判断する。評価の割合は平常点30%、レポート70%とする。
---------	--

教科書/テキスト	特に使用しない。毎回プリントを配って進める。
----------	------------------------

参考書	必要に応じて複数の参考書を使用する予定。なお、基本的な参考書として以下の文献を挙げておく。
-----	---

谷富夫・芦田徹郎編著『よくわかる質的社会調査：技法編』ミネルヴァ書房、2500円、ISBN978-4-623-05273-8  
 谷富夫・山田努編著『よくわかる質的社会調査：プロセス編』ミネルヴァ書房、2500円、ISBN978-4-623-05844-0  
 工藤保則・寺岡伸悟・宮垣元編『質的調査の方法：都市・文化・メディアの感じ方』法律文化社、2400円、ISBN978-4-589-03223-2

履修コード	073501
科目名	児童心理学
担当者名	澤田 匡人
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	小学校入学前後から思春期までを中心とした子どもについて、その心理的特徴に関する基礎的な知識の習得を目的とします。
授業スケジュール	毎週、児童心理学に関係したさまざまなテーマを取り上げながら、1つのテーマにつき1～3週をかけて無理なく進めていきます。認知や性格の「発達段階」のような定番のテーマ（#02～#11）から、「感情」や「愛着」といった対人関係の発達（#12～#21）、「いじめ」や「非行」に代表される不適応の問題（#22～#30）に至るまで、子どもの心とその発達の変化を理解する上で欠かせない内容を、スライドを用いながら丁寧に解説していきます。
準備学習	特に指定しませんが、心理学科の受講生は、過去に（または現在）受講した心理学関係の授業内容とリンクさせながら理解を深めていただければ幸いです。
履修上の留意点	1: 初回の授業で説明する「受講契約」（受講する上での基本的なルール）を確認してから、この授業を履修するか否かを慎重に判断してください。そのため、履修を希望する学生は、初回（もしくは、最低でも第二回から）の授業に必ず出席するようにしてください。 2: 簡単な感想を毎回提出してもらうことになります。そして、次回の授業の冒頭にて、その一部を紹介しながら、受講生からの質問に答えたり、受講生の意見を直接伺ったりします。 3: 感想紹介や授業中のやり取りを通じて、受講生全員の顔と名前を一致させるように努めております。児童心理学に興味があり、かつ一定回数の出席が見込める学生の受講を期待します。
成績評価の方法	授業で取り扱った内容全般に関する理解度を確認するために、授業時間内に実施する特別な課題から評価します。ガイダンスで説明を納得された上で履修登録してください。履修登録だけでも出席が十分でない場合は評価対象外となりますのでご注意ください。
教科書/テキスト	使用しません。なお、スライド画面を印刷して配布することはありませんので、あらかじめご了承ください。
参考書	特にありません。
その他	講義は全回に渡って「スライド」を用いて行われます。テキストやプリントの類は一切使用しませんから、投映された画面が頼りとなります。とはいえ、ノートテイクはあくまで「任意」です。スライドで呈示する内容を最小限に抑えてある上に、見やすい配色やアニメーションにも留意しておりますので、回数を重ねることにノートテイクのコツがつかめていくものと思われま

履修コード	058311
科目名	市民社会論
担当者名	李 妍炎
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この授業では市民社会に関する議論、そして市民社会の実践について学ぶことによって、市民社会の論理を理解していくことと、日本における市民社会の展開の特徴と可能性について考えていくことをテーマとする。
授業スケジュール	まず市民社会のイメージと定義を明確にした上で、市民社会論における社会学的アプローチの主要な議論を概説し、さらに市民社会の様々な実践について学んでいく。最後に理論と実践両方の学習を踏まえつつ、日本における市民社会の発展の特徴と可能性を探っていく。 授業計画 第1回：ガイダンス——市民社会に対するあなたのイメージは？ 第2回：市民社会の具体像をつかもう（1） 第3回：市民社会の具体像をつかもう（2） 第4回：市民社会の具体像をつかもう（3） 第5回：市民社会の定義と概念を整理してみよう 第6回：市民社会への社会学的アプローチ（古典その1） 第7回：市民社会への社会学的アプローチ（古典その2） 第8回：市民社会への社会学的アプローチ（現代その1） 第9回：市民社会への社会学的アプローチ（現代その2） 第10回：市民社会の実践（世界編その1） 第11回：市民社会の実践（世界編その2） 第12回：市民社会の実践（日本編その1） 第13回：市民社会の実践（日本編その2） 第14回：市民社会の論理と日本における市民社会の特徴 第15回：まとめと討論：日本における市民社会の可能性
準備学習	普段からNPOや市民活動に関するニュースなどに留意し、それらはどのような性質の団体で、どのような役割を果たそうとしているのかについて把握しておくこと。
履修上の留意点	李の社会学演習Ⅰの受講者は、合わせてこの授業を取るのが望ましい。
成績評価の方法	主にレポートで評価するが、平常点（リアクションペーパーと出席率）も加味して総合的に判断する。
教科書/テキスト	
参考書	秋元律郎『市民社会と社会学的思考の系譜』（お茶の水書房、1997年） マイケル・ウォルツァー『グローバルな市民社会に向けて』（日本経済評論社、2001年） 佐藤慶幸ほか編『市民社会と批判的公共性』（文真堂、2003年） 佐藤慶幸『人間社会回復のために——現代市民社会論』（学文社、2008年）

履修コード	058621
科目名	社会階層論
担当者名	片岡 栄美

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	かつて「一億総中流」とされた日本社会は、今日では社会のさまざまな領域において不平等の拡大が報告されており、「格差社会」と呼ばれている。本講義では、さまざまな社会・経済的・文化的な不平等を読み解き、現代の日本社会について理解を深めていくことを目的とする。できる限り国際比較データを用いることで、日本を相対化する。また各種資料を批判的に読むことを通じて、論理的な思考法を身につけることを副次的な目的とする。
---------------------	---

授業スケジュール	第1回 導入：日本は一億総中流だったのか？ 第2回 社会階層論の基礎概念 (1) 不平等とは 第3回 社会階層論の基礎概念 (2) 階級・階層とは何か 第4回 所得の不平等 第5回 教育と社会階層：教育機会の格差 第6回 教育と社会階層：教育費の不平等 第7回 階層の固定化：世代間社会移動 第8回 格差社会論まとめ 第9回 子育ての不平等 第10回 文化による不平等形成：文化資本 第11回 学校の中の不平等 第12回 世代間の不平等：若者は損をしているのか？ 第13回 女性の就業と不平等 第14回 貧困と社会的排除 第15回 格差社会の帰結
----------	---

準備学習	授業に関連する資料やデータ、論文についてはYeStudyに掲載するので、授業までに事前に読んで予習しておくことが望ましい。
------	---

履修上の留意点	データや図表の読み方を学ぶとともに、資料を批判的に読むことも学習目的のひとつである。中間の小レポートを作成してもらい、平常点とする。また授業時にリアクション・ペーパーを書いてもらい、質問や意見を集約し、授業に還元する。
---------	---

成績評価の方法	出席(15%)、平常点(15%)、期末試験(70%)で総合評価する。
---------	------------------------------------

教科書/テキスト	使用しない(適宜資料を配布、もしくはYeStudyに掲載する)
----------	---------------------------------

参考書	適宜、紹介する。
-----	----------

履修コード	061501
科目名	社会学演習I
担当者名	牛島 千尋

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	1、2年で学んだ社会学の知識と方法に磨きをかけ、社会的関心事を自分の研究テーマとして結実させるための方向を定めていくことが演習Iの目標である。
---------------------	---

授業スケジュール	前期から後期にかけて、社会学の知識と方法の習得を一層深めるため、共通のテーマを設定し、協力して研究を進め、発表していく。後期の後半は各自のテーマを絞り込み、洗練させ、文献検索と資料収集をし、発表を重ねていく。
----------	--

準備学習	日頃から、世の中の動きに関心を持ち、わからないことは調べてゼミに臨むようにしてください。
------	--

履修上の留意点	履修者は、年に3回以上の発表を行う。
---------	--------------------

成績評価の方法	出席回数、発表内容、演習中の発言、課題を総合して評価します。
---------	--------------------------------

教科書/テキスト	特になし。
----------	-------

参考書	その都度紹介します。
-----	------------

履修コード	060801
科目名	社会学演習I
担当者名	片岡 栄美

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本演習では、現代の文化および教育に関わる現象、諸問題をテーマとして取り上げ、文化や教育が私たちの社会や生活、人生にとってどのような意味や関連性をもっているかを学ぶ。基礎文献の購読、グループでの討論、報告、フィールドワークなどを行う。一連の作業を通して、社会的な実証研究の方法と論文作成のスキルを身につけることを目的とする。学生それぞれの興味関心から発した問題意識を明確化し、卒業論文へとつなげていく。
---------------------	--

授業スケジュール	1 前期ガイダンス 2 研究テーマの設定方法 3~4 研究資料とは何か、資料変換の方法によるデータ作成 5 図書館ツアー 6~13 文献購読と討論 14 研究対象によるグループ分け 15 夏休みの課題説明と研究グループごとの討論 16 後期ガイダンス 17~20 文献購読、討論 21 論文の書き方 22 報告書作成の手順 23~24 文献購読、討論 25~26 研究報告 27~30 報告書作成
----------	---

準備学習	授業では、次回までの課題が与えられるので、必ず予習や準備が必要となる。研究テーマに関連するニュースや文献、資料を日ごろから注意して読むようにすること。
------	---

履修上の留意点	ゼミナールは講義と異なり、参加者の相互作用のなかから学ぶ形式であるので、毎回の出席を重視する。主体的に考え、自分の意見を言うようになることが大事である。理由のない遅刻や早退、無断欠席は厳禁とする。ゼミの中での議論や共同作業を通して、「研究する」ことの楽しさや達成感を体験してもらいたい。
---------	---

成績評価の方法	出席と平常点を総合的に評価する。
---------	------------------

教科書/テキスト	使用しない(適宜、配布する)。
----------	-----------------

参考書	適宜、紹介する。
-----	----------

その他	夏休み期間に合宿を行う予定である。夏休み中の課題をこなし、その報告会となる。
-----	--

履修コード	061301
科目名	社会学演習I
担当者名	坪井 健

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	このゼミでは、社会学・社会心理学に関する教室での座学より実際の行動学習を通して、社会的能力を開発し、社会の中で自己を活かす能力の育成をめざす。具体的には、教師中心の教える授業より、個々の学生の自主性を尊重し、学生集団の自己教育力を大切にすると共に、学生個人の能力に応じて丁寧な個別指導を通して、学生自身の潜在的な能力の開花をめざし、自信力を育てることを目的とする。ゼミ生は、良好な人間関係を築くこと、そのチームワークによる教育効果を期待する。
---------------------	---

授業スケジュール	具体的な共同研究テーマは、地域と大学・大学と学生・地域とボランティア・学生集団・異文化理解・国際交流・高齢者文化・スポーツ文化・ジェンダー論など領域から、具体的な共同研究テーマを設定して、フィールドワークを中心にして、①野外研究、②対人交流、③野外実験、④実践報告まで、グループ実践とグループ学習を通して実際の研究をする。 具体的な共同研究テーマは、毎年変わるが、昨年、一昨年と二度にわたって実施して大きな話題になったヒューマンライブラリーに関する実践的取り組みを、どう発展させていくかについても考える。 ＜坪井ゼミの年間行事予定＞ 「新歓コンパ」(4月)／「ゼミ08/06会」(7月)／「研究発表夏合宿」(9月)／オータム研究発表(11月)／「4年生卒論発表会」(12月)／「ゼミ送別会」(1月)／「卒論構想発表春合宿」(3月)
----------	--

準備学習	授業・行事計画で指示された事柄は事前に用意しておくこと。
------	------------------------------

履修上の留意点	このゼミは、教師による知識伝授型の学習ではなく、学生自身の問題発見型の学習を基本とする。従って、ゼミ学習の主体は、学生自身である。また、学習の場は教室に限らない。地域社会や街頭や国内・国外を含む。ゼミ活動を通じて積極的な行動力を養ってもらいたい。また、ゼミでは自分の学習目標を持つこと。仲間との良好な人間関係を築くこと。ゼミの望ましい集団文化育成に協力することを期待する。
---------	--

成績評価の方法	①ゼミ活動への参加度、②レポートや報告などの課題達成度により総合的に評価する。
---------	---

教科書/テキスト	特に、事前に指示しない。必要に応じて指示する。
----------	-------------------------

参考書	授業時間中に指示する。
-----	-------------

その他	ゼミは、少人数授業ですすので、全員参加が前提です。遅刻・欠席は教師に直接事前連絡すること。ゼミ行事も多彩ですが、ゼミ生が相互啓発しつつ自分の可能性に挑戦する楽しい学生活動の場になってください。
-----	--

履修コード	061101
科目名	社会学演習I
担当者名	深澤 弘樹

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 現代はメディア社会である。私たちの生活は、新聞、テレビ、インターネットなどのメディアに囲まれて成り立っている。この演習ではそういったメディア社会の諸相を学ぶ。また、メディア研究にはさまざまなアプローチが存在する。制度や産業としてのメディア組織の分析(送り手研究)、内容分析を通じたメッセージ分析、受け手研究などである。この演習では、メディア・コミュニケーションの基礎的知識を学んだうえで、メディア分析のさまざまなアプローチについても理解する。</p>
---------------------	---

	<p>(到達目標) この演習は、4年次の卒業論文作成に向けた準備を行うためのものであり、論文作成のために必要なスキルを身につけることを目的とする。文献の講読やゼミ生同士の議論を通して前述のメディアコミュニケーションの基礎知識や分析の多様な手法を学びながら、各自の問題意識をはっきりさせて卒業論文のテーマを決定する。</p>
--	---

授業スケジュール	<p>おおよそのスケジュールは以下のとおりである。</p> <p>前期は、メディア・コミュニケーション論の基礎的な文献を読み、卒業論文の方向性を確定するためのメディア分析の基本的視点を学ぶ。 8月下旬から9月上旬にかけては夏合宿を行い、各自の関心に沿った研究報告をしてもらう。 後期は、内容分析を中心としたメディア分析の手法を学ぶ。各自が取り組むテーマの絞り込みをすると同時に、各自の研究報告を行い、ゼミ生相互の議論を深めながら分析に必要な方法を検討する。ゼミ生の関心によっては共同研究も考えてみたい。 具体的な進め方については、第1回の授業で学生と相談して決めるつもりである。</p>
----------	---

準備学習	<p>日頃から新聞やテレビニュースに問題意識を持って接し、メディアが抱える課題に対して自分なりの見解をもって臨むこと。</p>
------	---

履修上の留意点	<p>各自が積極的に参加しないとゼミ活動は活性化しない。ゼミ生相互で切磋琢磨するという意識を持ち、自身の発表時に力を注ぐことはもちろん、他のゼミ生の報告の際には進んで議論に参加すること。</p>
---------	---

成績評価の方法	<p>出席状況や報告、議論への参加度合いなどによって総合的に評価する。</p>
---------	---

教科書/テキスト	<p>受講者と相談の上、決めるつもりだが、近年のメディア研究の文献として以下の書物を挙げておく。</p>
----------	--

	<p>藤田真文・岡井崇之編『プロセスが見えるメディア分析入門』世界思想社、2300円、ISBN978-4-7907-1405-7  藤田真文編著『メディアの卒論』ミネルヴァ書房、3000円、ISBN978-4-623-05953-9  伊藤守編著『よくわかるメディア・スタディーズ』ミネルヴァ書房、2500円、ISBN978-4-623-05206-6  小玉美意子編『テレビニュースの解剖学』新曜社、1900円、ISBN978-4-7885-1093-7</p>
--	--

参考書	<p>ゼミ生の興味関心に沿って適宜指示する。</p>
-----	----------------------------

履修コード	061511
科目名	社会学演習Ⅰ
担当者名	松信 ひろみ
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本演習では、現代家族やジェンダーにかかわる諸現象・諸問題に焦点を置き、基礎文献の講読、グループでのフィールドワークや報告と討論、報告書の作成などを行う。一連の作業を通じて、卒業論文に向けての研究手法を習得するとともに、卒業論文のテーマの絞込みと研究の基礎固めを行うことが目的となる。
授業スケジュール	前期は、夏季休暇中のフィールドワーク（プライド・パレードでの参与観察とインタビュー、および保育園での参与観察とインタビュー）に向けての基礎知識習得を行う。第1回目のイントロダクションの後、いくつかのグループに分かれ、セクシュアリティについての基礎文献の輪読（第2回～5回）、育児支援と保育制度についての基礎文献の輪読（第6回～9回）、フィールドワークについての基礎文献の輪読（第10回～13回）を行う。さらに、フィールドワークの準備（第14、15回）で前期は終了する。 後期は、夏季休暇中に行ったフィールドワークについての報告を順次行い（第16回～20回）、その後、報告書の作成を行う（第21回～25回）。さらに、翌年度の卒業論文に向けてのテーマ検討も行う（第26回～30回）。 なお、夏季休暇中に4年生と合同で合宿を実施し、4年生の卒業論文についての中間報告を聞くとともに、フィールドワークの結果について中間報告を行う。
準備学習	家族とジェンダーの社会学A、Bで学んだことを復習し、定着させておくこと。
履修上の留意点	履修者は夏季休暇中のフィールドワークに参加することが求められる。さらに、前期、後期とも、グループ単位での報告、さらに、年度末には報告書の執筆を行うことになる。なお、本演習履修者は、家族とジェンダー社会学A・Bの講義を履修することが望ましい。
成績評価の方法	平常点（50%）、レポート（50%）
教科書／テキスト	輪読する文献は開講時に指示する。
参考書	必要に応じて紹介する。
その他	ゼミは、出席することはもちろん、参加しなければ意義がない。「恥はかき捨て」のつもりで積極的に自分の意見を発言し、フィールドワークにも自らの問題意識をもって参加して欲しい。

履修コード	060901
科目名	社会学演習Ⅰ
担当者名	山田 信行
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この演習では、主として雇用や就職の問題に焦点を当てながら、現代日本における若者が直面している様々な問題を社会的に考察する。参加者は、各自の問題意識を確立することを通じて、4年次の卒業論文執筆につながる研究を行うことが求められる。 演習の集団は、大学生活における基本的な活動単位であるため、参加者相互の親睦・交流が深まるように配慮したい。
授業スケジュール	夏休み前（前期）は、演習のテーマに関連した文献の輪読を行う。後期は、数人ずつグループを作って共同研究を行ってもらう。詳細については、参加者と相談して決める。暫定的なスケジュールは以下の通り。 前期 1. ガイダンス 2. 自己紹介と委員の選出 3～15. 文献購読 後期 1. ガイダンス 2～5. 共同研究の準備（グループ分け、テーマ決め、役割分担の決定） 6～13. 共同研究の中間報告 14～15. 卒業論文の構想発表
準備学習	日ごろから、ゼミのテーマに関連した問題関心を醸成しておくこと。
履修上の留意点	演習は講義形式の授業と異なり、あくまで参加する学生が主体的に学習・研究活動する場である。したがって、理由のない遅刻・欠席は厳禁である。
成績評価の方法	平常点による。
教科書／テキスト	参加者と相談して決める。
参考書	適宜指示する。
その他	なし。

履修コード	061401
科目名	社会学演習I
担当者名	李 妍炎

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	貧困と格差、雇用と保障、教育と子育て、まちづくりや環境、犯罪や災害、国際紛争、異文化間の葛藤、移民や外国人の問題…我々が直面する問題の多くは、政府と大企業に任せるだけでは解決できない。人々の生活を脅かすこれらの問題に対して、数多くのNPOやNGO、社会的企業、市民団体、地域組織、学生グループがそれぞれユニークな方法でアプローチしている。それらが、市民社会のもっともフレッシュで力強い動きを創り出している。この演習は、これらの動きを観察し、研究していく。分野と研究対象の選定、実際の観察、資料収集、報告と討論、報告書作りの諸作業を通して、市民社会の諸事象をより深く理解していただくだけでなく、特定の1つのテーマを中心に、完成度の高い研究を目指していくプロセスを全員に経験してもらうことも、目的としたい。
---------------------	---

授業スケジュール	市民社会に関する基本的な理論と現状の概要を全員で学んだ上で、ワールドカフェなどの討論技法を用いて、特定の社会問題の分野と研究対象を選び出す。その後グループ単位で観察と資料収集を行い、演習でプレゼンテーションと討論を行う。終了時までに、一冊の研究報告書をメンバー全員で作成する。スケジュールはメンバーと相談の上修正していくが、現段階での予定は以下のとおりである。 1. オリエンテーション (第1回) 2. 討論の技法を身につけよう (第2回、第3回、第4回) 3. 演習のテーマについての討論と情報の共有 (第5回～第7回) 4. 研究対象についての討論と選定およびグループ分け (第8回～第10回) 5. 研究対象について観察と資料収集を行い、プレゼンテーションを行う (第11回～第18回、夏休みに中間検討会として、合宿を行う) 6. 報告書作成 (第19回～第25回) 7. 報告書の修正と討論 (第26回～第30回)
----------	---

準備学習	市民社会について、ある程度の理解と把握が必要となる。
履修上の留意点	市民社会論を同時に履修することが望ましい。参加の意欲と仕事に対する責任感が要求される。
成績評価の方法	平常点で評価する。
教科書/テキスト	
参考書	その都度、指示する。

履修コード	062101
科目名	社会学演習II
担当者名	牛島 千尋

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	自分の研究を進め、最終的に卒業論文として完成させることが到達目標である。
---------------------	--------------------------------------

授業スケジュール	履修生の研究進行度を考慮しながら、個別指導とグループ指導を織り交ぜて柔軟に進めていく。各自の研究を、年に最低5回程度発表していく。
----------	---

準備学習	毎回のゼミには、何らかの報告ができるよう準備をしておくこと。
履修上の留意点	
成績評価の方法	出席状況、発表内容、レジュメの完成度などから、総合的に評価する。
教科書/テキスト	
参考書	



履修コード	062001
科目名	社会学演習Ⅱ
担当者名	坪井 健
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	このゼミでは、三年の「社会学演習Ⅰ」に引き続き、大学における社会学学習の総括として自分自身のオリジナルな社会学研究「卒業論文」作成のための指導を行うことを目的とする。
授業スケジュール	具体的には、3年次年度末3月の「卒論構想春合宿」で卒論構想を固め、4月以降、①文献研究、②調査の企画と実施などを行い、7月末各自の研究内容の確認、9月中旬「卒論中間報告」で主要研究結果を口頭発表する。10月以降下書き、11月原稿修正と清書、12月初旬に卒論を提出する。提出後、3年ゼミ生を対象に「卒論報告会」(12月)。最後に「坪井ゼミ卒業論文集」を作成。1月末の「口頭試問」で坪井ゼミを終了する。 〈坪井ゼミの年間行事予定〉 「新歓コンパ」(4月) / 「ゼミOB/OG会」(7月) / 「卒論中間報告ゼミ合宿」(9月) / 「卒論発表会」(12月) / 「新年会」(1月) / 「ゼミ送別会」(1月末) /
準備学習	授業計画・ゼミ行事スケジュールを確認して事前に準備しておくこと。
履修上の留意点	最終学年の4年次のこのゼミは、就職活動などと競合することもあるが、卒業論文は必修科目であり、書かなければ卒業できないことをしっかり認識し、卒論研究ノートを常に携帯して、空き時間等を上手に利用して、図書館等で自主的・計画的に研究を進めることが肝要です。坪井ゼミでは、基本的に3年次の3月卒論構想春合宿で、卒業論文の基礎研究が完了し、研究テーマと研究方法も明確になっているので、就職面接の際にも自信を持って自分の卒論研究を語ることができる利点がある。それを励みにして、しっかり取り組むこと。
成績評価の方法	①卒論への取り組み方、②中間報告などの課題達成度等により総合的に評価します。
教科書/テキスト	
参考書	その都度、適切な参考文献を指示する。
その他	疑問点や問題点などを日常的に教師に相談する積極性を厭わないことをお勧めします。

履修コード	061801
科目名	社会学演習Ⅱ
担当者名	深澤 弘樹
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) この演習では、社会学演習Ⅰで学んだメディアコミュニケーションに関する知識や分析手法を土台として卒業論文作成に取り組む。本演習では、各自が設定した論文テーマにおいて、報告を重ねながら論文の骨組みを固め、ゼミ生同士で議論を重ねながら論文を練り上げていく。  (到達目標) この演習では、大学における学習の集大成として、質の高い卒業論文を書き上げることを目標とする。
授業スケジュール	授業スケジュールは以下のとおりである。  前期は、各自のテーマに沿って論文の概略、章構成を報告してもらい、分析手法を検討したうえで論文の方向性を固める。内容分析やアンケートのデータは前期のうちに収集しておく。8月下旬から9月上旬にかけて夏合宿を行い、夏休み中に行ったデータの分析を報告してもらう。 後期は、各自の執筆と並行して、執筆部分の報告と討論を行って論文の完成度を高めたい。11月から12月にかけては個別指導も行い、より質の高い論文を仕上げたいと考えている。
準備学習	日頃から新聞やテレビニュースに問題意識を持って接し、メディアが抱える課題に対して自分なりの見解をもって臨むこと。
履修上の留意点	大学生活の総仕上げとなるのが卒業論文である。各自が主体的に論文作成に取り組むことはもちろん、他のゼミ生の報告についても積極的に意見を述べ、ゼミ生相互で切磋琢磨してほしい。
成績評価の方法	出席状況や順番に行う卒業論文執筆に向けた報告、議論への参加度合いなどによって総合的に評価する。
教科書/テキスト	メディア研究の卒論の手引きや論文の書き方について解説した文献を紹介しておく。  藤田真文・岡井崇之編『プロセスが見えるメディア分析入門』世界思想社、2300円、ISBN978-4-7907-1405-7 藤田真文編著『メディアの卒論』ミネルヴァ書房、3000円、ISBN978-4-623-05953-9 白石利明・高橋一郎『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房、2500円、ISBN978-4-623-05111-3
参考書	卒業論文のテーマによって適宜指示する。

履修コード	062311
科目名	社会学演習II
担当者名	松信 ひろみ
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本演習では、卒業論文の作成を目指し、個人研究の指導を行う。各々の学生のテーマに沿った研究に基づき、無事卒業論文を執筆できることが最終的な目的となる。
授業スケジュール	前期は、家族社会学・ジェンダー社会学の基本的な分析枠組みを教授するとともに、個々人の研究の進捗状況について報告してもらうことが中心となる。第1回のイントロダクションの後、第2回～5回までに、論文のタイトルを順次報告し、5月中にタイトルを決定する。第6回～15回までは、卒業論文の進捗状況を個々報告し、随時、関連論文の輪読を行う。 後期（第16回～28回）は、執筆中の論文についての個人指導が中心となるが、進捗状況を随時報告をしてもらい、その内容についてゼミ内で討論を行う。論文を提出後は、完成論文についての報告会（第29回、30回）を実施する。 なお、夏季休暇中には、3年生と合同で合宿を実施し、卒業研究の中間報告をしてもらう。
準備学習	卒論のテーマを決定するにも、執筆にとりかかってからも先行研究を十分に検討すること。
履修上の留意点	論文作成のためには、ゼミへの出席ばかりでなく、自発的な取り組みが要求される。文献・資料収集、調査など、自分の足を使い、積極的に論文作成に取り組んで欲しい。
成績評価の方法	平常点による。
教科書／テキスト	特に指定しない。
参考書	特に指定しない。
その他	大学生生活最後のゼミである。論文の作成はもちろんだが、飲み会や合宿を通じてゼミ生同士の交流も図り、有意義な時間として欲しい。

履修コード	062201
科目名	社会学演習II
担当者名	山田 信行
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	卒業論文の執筆指導を行う。
授業スケジュール	開講時に指示する。概ね、以下の通り。  前期 1. ガイダンス 2～15. タイトルの決定と論文構成の検討 後期 1. ガイダンス 2～7. 最終構成案の検討 8～15. 草稿の検討
準備学習	とくになし。
履修上の留意点	卒業論文は、単なる学生時代の勉学の集大成にととまらず、個々の学生が生まれおちてから身につけた知識・能力を総動員して執筆するものである。力作を期待している。
成績評価の方法	平常点による。卒論の提出が単位取得の条件となる。
教科書／テキスト	なし。
参考書	適宜指示する。

履修コード	062301
科目名	社会学演習II
担当者名	李 妍炎
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この演習は、受講生の卒業研究の指導とサポートを主たる目的とする。それぞれが研究意欲を抱くような研究テーマを見つけていき、研究手法の検討、基礎データの収集、先行研究のサーベイ、社会調査の企画と実施、調査データの整理と分析、卒業論文の作成、という一連の卒業研究のプロセスを、メンバー全員で発表と討論を重ねていくことによって、ともに経験していく。
授業スケジュール	演習の開始に先立ち、春に合宿を行い、卒論研究構想発表会を行う。学期開始後は、基本的には以下のスケジュールに従って進めていく。 1. (合宿での討論を受けて) 卒業研究構想修正案発表 (1-4回) 2. 先行研究のサーベイ結果に関する発表会 (5-10回) (発表終了後、順次補足と修正、その他の基礎データの補充作業に入る) 3. 卒業論文「序論」部分ドラフト発表会 (11-15回) (夏休みにドラフトを原稿にする) 4. 卒業研究に必要な調査作業を行い、中間報告を行う (16-21回) (調査作業を行いながら、データの整理と分析作業を進める) 5. 卒業論文「本論」部分ドラフト発表会 (22-25回) (発表終了後、順次原稿化していく) 6. 卒業論文「結論」部分及び参考文献、付録資料部分発表会 (26-30回) (卒業論文完成)
準備学習	学期開始前の春休みに、卒業研究のテーマの明確化に向けて、必要な各種準備作業を行っておく。
履修上の留意点	充実した卒業研究のためには、本当に研究意欲が感じられるようなテーマを見つけていかなければならない。また、各種発表のスケジュールをしっかりと守ることも、卒業研究の完成への道標となるため、怠ることなく、しっかりと一つ一つの締め切りを守りながら参加してほしい。
成績評価の方法	演習への参加の姿勢、卒業研究に取り組む姿勢、卒業研究の成果を踏まえて、総合的に評価する。
教科書/テキスト	
参考書	

履修コード	057501
科目名	社会学概論
担当者名	坪井 健

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この講義は、社会学を初めて学ぶ学生を対象に、社会学の見方・考え方の基礎を学ぶことを目的とする。具体的には、社会現象特有の性格の社会的分析例、社会学の基礎的概念の使い方、さらに現代社会の諸問題をトピックスとして取り上げ、さまざまな領域の社会的研究を具体的研究例を通じて理解する。そして、2年次以後の社会学研究の基礎づけと方向づけに資する内容の講義を行う。
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. はじめに -講義の方針と受講の仕方-</li> <li>2. 社会学とは何か -3つの方法-</li> <li>3. 私の社会学観 -人生と社会学の経験-</li> <li>4. 社会現象の不思議 1 -予言の自己成就①-</li> <li>5. 社会現象の不思議 1 -予言の自己成就②-</li> <li>6. 社会現象の不思議 2 -自殺的予言と潜在的機能-</li> <li>7. 社会現象の不思議 3 -社会的ジレンマ①-</li> <li>8. 社会現象の不思議 3 -社会的ジレンマ②-</li> <li>9. 社会現象の不思議 4 -歴史のパラドックス-</li> <li>10. 社会現象の不思議 5 -組織のパラドックス-</li> <li>11. 社会現象の不思議 6 -犯罪のパラドックス①-</li> <li>12. 社会現象の不思議 6 -犯罪のパラドックス②-</li> <li>13. 社会現象の不思議 7 -情報社会のパラドックス①-</li> <li>14. 社会現象の不思議 7 -情報社会のパラドックス②-</li> <li>15. 社会現象の不思議 8 -まとめ-</li> <li>16. 社会学の基礎概念 1 -社会的行為-</li> <li>17. 社会学の基礎概念 2 -相互作用-</li> <li>18. 社会学の基礎概念 3 -社会的地位-</li> <li>19. 社会学の基礎概念 4 -社会的役割-</li> <li>20. 社会学の基礎概念 5 -文化①-</li> <li>21. 社会学の基礎概念 5 -文化②-</li> <li>22. 社会学の基礎概念 6 -価値と規範-</li> <li>23. 社会学の基礎概念 7 -集団と組織-</li> <li>24. 社会学の基礎概念 8 -パーソナリティと社会化-</li> <li>25. 社会学の基礎概念 9 -社会的性格と消費社会論-</li> <li>26. 現代社会論 1 -グローバル化する世界-</li> <li>27. 現代社会論 2 -働くことの意味-</li> <li>28. 現代社会論 3 -情報社会の陥穽-</li> <li>29. 現代社会論 4 -社会参加戦略の社会学-</li> <li>30. まとめ -社会学の仕方-</li> </ol>
----------	---

準備学習	提示された資料・文献は事前に予習しておくこと。
------	-------------------------

履修上の留意点	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業時間中の私語は厳禁する。目に余る場合は、出席停止とし単位を与えない。</li> <li>2. 毎回、授業の感想や意見を記入するリアクションペーパーを配布する。積極的に記入すること。</li> <li>3. 随時、参加型授業を試みるので、積極的に参加してもらいたい。</li> <li>4. 各テーマは1時間で完結の予定である。内容や順序は変更することもある。なお、年数回ビデオ教材を使って、社会認識を深める工夫をする予定である。</li> <li>5. 学期中に何度か小テストを行い、習熟度を確認する。</li> <li>6. 授業中は配布プリントを参考にノートを取り、さらに深く研究する人は、紹介した文献を参考に自主的に学習することが望ましい。</li> </ol>
---------	--

成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 出席+毎時間の受講態度、感想、意見、参加度など (30%)</li> <li>2. 課題レポート・期末試験 (70%)</li> </ol> <p>なお、この授業は、出席は遅刻も含めて厳密にカウントしています。また、成績評価の具体的方法は、3回(初回講義時・夏休み前講義時・最終回講義時)説明し、受講生に公表しています。ご注意ください。</p>
---------	--

教科書/テキスト	教科書：坪井健編著『新しい社会学を学ぶ』学文社
----------	-------------------------

参考書	その都度、指示する。
-----	------------

履修コード	057701
科目名	社会学基礎研究
担当者名	山田 信行 坪井 健 深澤 弘樹 牛島 千尋 李 妍炎 松信 ひろみ 片岡 栄美

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	社会学的研究方法について、社会学研究の実際例と研究法の基礎をマスターすることを目的とする。
---------------------	---

授業スケジュール	前半は、全教員リレー方式で社会学研究例の講義をする。後期は、ゼミ形式で研究法（文献へのアクセス・レポートの書き方・プレゼンテーションの仕方など）を学ぶ。 前期 1. ガイダンス 2. 学外オリエンテーションの報告会 (1) 3. 学外オリエンテーションの報告会 (2) 4~15. リレー講義 後期 1. ガイダンスおよび自己紹介など 2~15. 社会学研究法に関するゼミ
----------	--

準備学習	少しでも、社会問題などに関心を持つ姿勢が望ましい。日ごろから、社会科学の文献に親しんでおくこと。
------	--

履修上の留意点	毎回出席が義務付けられている。また前期と後期に必ずレポート提出の義務がある。
---------	--

成績評価の方法	平常点と2回のレポートにより評価される。
---------	----------------------

教科書/テキスト	こちらで指定し配布する。
----------	--------------

参考書	安藤喜久雄編『わかりやすい論文レポートの書き方』（実業之日本社）1999年
-----	---------------------------------------

履修コード	060001 060002
科目名	社会学原論
担当者名	橋爪 敏

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義の対象は社会学科の2・3・4年生、ならびに「中学校社会科、高等学校地・歴史科、公民科」にかかわる教職科目の受講者である。したがって、「社会学」とは何か、いかなる学問かにはじまり、さらに「中学校社会科、高等学校地・歴史科、公民科」の基礎をなす学問としての、<社会科学としての「社会学」>とは何かにかかわる問題を取り上げたい。いずれにせよ、社会的なモノの見方、考え方を理解し、それを踏まえて、社会現象を理解し、説明する<社会科学>についての認識を深めたい。
---------------------	---

授業スケジュール	前期 1) ~ 8) 社会科学とは何か、社会科学の対象と方法、社会科学としての社会学 9) ~ 15) 歴史から見る社会学、総合社会学、百科全書的 sociology、マルクス主義の影響。後期は 16) ~ 20) フランスにおける現代社会学への歩み 21) ~ 25) ドイツにおける現代社会学への歩み 26) ~ 30) 現代社会学の展開を概観する事により、社会現象に対する科学的取り組みを理解し身に付ける事にしたい。
----------	---

準備学習	指定のテキストを、適宜読んでおくこと。
------	---------------------

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	学年末の定期試験で評価する。
---------	----------------

教科書/テキスト	安藤喜久雄ほか著『社会学概論』学文社
----------	--------------------

参考書	適宜指示する。
-----	---------

履修コード	058221
科目名	社会学古典研究
担当者名	山田 信行
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	なかなか、1人では通読することが難しい社会学の古典をグループで輪読することによって、社会学の基礎的な理論や概念の理解を深める。
授業スケジュール	社会学の古典を1冊とりあげて、できるだけ多く、その本文を購読し、社会学の考え方や基礎概念的な理解を目指す。具体的にとりあげる文献については、開講時に指示する。  第1回 ガイダンス 文献の決定 第2回 報告分担の決定と文献の位置づけの紹介 (講義) 第3回～第14回 分担に基づく輪読 第15回 まとめとディスカッション
準備学習	できるだけ、社会学の古典理論に親しんでおくことが望ましい。
履修上の留意点	ゼミ形式で授業を行うので、出席は極めて重要である。理由がない遅刻・欠席は厳禁である。
成績評価の方法	平常点および学期末レポートによる。
教科書/テキスト	開講時に指示する。
参考書	適宜、指示する。
その他	意欲的な学生の参加を期待する。

履修コード	058401
科目名	社会学史
担当者名	李 妍炎
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	社会学の学説を取り上げ、社会学の歴史と基本的な考え方について学習する。社会学という学問の概要を把握してもらうと同時に、単なる「歴史」にとどまらず、社会学の基本的発想法 (社会的想像力) についても理解してもらう。
授業スケジュール	前期は、社会学の構想期、形成期と展開期を中心に、20世紀半ばごろまでの学説を紹介する。後期は20世紀後半から現代に至る「現代社会学理論」を取り上げる。受講者の理解度に応じて進度を調整するが、以下を予定している。 ガイダンスと社会学の歴史の初段階 (第1回) 構想期のA. コント (第2回、第3回) 構想期のH. スペンサー (第4回、第5回) 形成期のM. ウェーバー (第6回、第7回) 形成期のE. デュルケム (第8回、第9回) 形成期のG. ジンメル (第10回、第11回) 形成期のC. H. クーリーとG. H. ミード (第12回) 形成期のシカゴ学派 (第13回) 展開期のT. パーソンズとR. K. マーティンの機能主義的社会学 (第14回、第15回) 中間考察 (第16回) パーソンズ批判の諸理論: 相互作用論を中心に (第17回、第18回) A. シュッツと現象学的社会学 (第19回) 大衆社会論 (第20回、第21回) M. フーコーと管理社会 (第22回、第23回) P. ブルデューと格差社会 (第24回) N. ルーマンとシステム論の刷新 (第25回、第26回) J. ハーバーマスの批判的社会理論 (第27回、第28回) A. ギデンズと再帰性の近代 (第29回) まとめと考察 (第30回)
準備学習	社会学理論の歴史について解説した書籍を一冊選び、一通り目を通した上で授業に臨むと、より効果的に内容を理解できるようになります。
履修上の留意点	「社会学」という名称は、シンプルな名前であるにもかかわらず、その正体を知るのには容易ではありません。本講義は、「社会学」とその歴史についての一定のイメージをもつことをめざしています。他学部、他学科の友人にあなたの専攻している学問 (社会学) について、説明できるようにしましょう。
成績評価の方法	原則として中間と最終の試験 (2回) が70%、リアクションペーパーや出席率を含む平常点が30%として評価する。
教科書/テキスト	新睦人編、『社会学のあゆみ』、有斐閣、1155円 (税込)、ISBN978-4641088573 新睦人編、『社会学のあゆみII』、有斐閣、1155円 (税込)、ISBN978-4641090460 新睦人編、『新しい社会学のあゆみ』、有斐閣、2205円 (税込)、ISBN978-4641123021
参考書	富永健一『思想としての社会学』、新曜社、8715円 (税込)、ISBN978-4788510814

履修コード	058851
科目名	社会学特殊講義C
担当者名	深澤 弘樹

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)</p> <p>この講義では、緊密度が増しているスポーツとメディアの関係性について学ぶ。今や両者は相互に依存する関係にある。講義では、従来、「する」ものであったスポーツがメディアの発達に後押しされて「みる」ものへと変容した過程を振り返るとともに、双方の相互作用を文化的、社会的な側面から考える。また、送り手がスポーツをどのように取り上げ番組として視聴者に提示しているか、また、そこにはいかなる価値観が埋め込まれているかを実際に放送された番組を通して考える。</p> <p>(到達目標)</p> <p>メディアは出来事をありのままに映すのではなく、送り手側の視点、意図が必ず入り込んでいる。また、メディアが産業として成り立っている以上、番組は受け手の関心を集めることを目的として制作されている。こうした点を踏まえメディアに接することが重要である。とりわけ、スポーツは高視聴率を稼ぐキラコンコンテンツであり、人々の意識を形作る役割を果たしている。主体的に情報を読み解く力であるメディア・リテラシーの重要性が叫ばれている現在、この講義を通して、スポーツにおけるメディア・リテラシーの確立を目標とする。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. メディア化するスポーツ：メディアとスポーツの相互依存</li> <li>3. メディアの発展とスポーツ（1）：印刷メディアとスポーツ</li> <li>4. メディアの発展とスポーツ（2）電波メディアとスポーツ</li> <li>5. 商業化するメディアスポーツ</li> <li>6. メディア・イベントとしてのスポーツ（1）：定義と特徴</li> <li>7. メディア・イベントとしてのスポーツ（2）：ナショナルイズム</li> <li>8. メディアスポーツにおける「物語」（1）：「物語」の特徴と構造</li> <li>9. メディアスポーツにおける「物語」（2）：ヒーロー・ヒロイン・ジェンダー</li> <li>10. スポーツドキュメンタリーとは何か</li> <li>11. 「物語」としてのスポーツ中継</li> <li>12. スポーツ中継の実際（1）：取材から放送まで</li> <li>13. スポーツ中継の実際（2）：事例研究</li> <li>14. ネット時代のメディアスポーツ</li> <li>15. まとめ</li> </ol>
----------	---

準備学習	日ごろからスポーツ中継やスポーツ関連番組を漠然と見るのではなく、文化的・社会的背景を考えながら視聴したうえで授業に臨んでほしい。
------	--

履修上の留意点	遅刻、私語は厳禁。
---------	-----------

成績評価の方法	定期試験（レポート）70%、平常点30%を基本とし、小テストなどの成績も加味して総合的に評価する。
---------	---

教科書／テキスト	特定の教科書は使用しない。毎回プリントを配布して授業を進める。
----------	---------------------------------

参考書	講義中にその都度提示するが、概説書として何点か挙げておく。
-----	-------------------------------

橋本純一編『スポーツ観戦学』世界思想社、2300円、ISBN978-4-7907-1454-5  
橋本純一編『メディアスポーツ論』世界思想社、2300円、ISBN4-7907-0968-X  
森田浩之『メディアスポーツ解体』日本放送出版協会、970円、ISBN978-4-14-091148-8

履修コード	058861
科目名	社会学特殊講義 D
担当者名	明戸 隆浩

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)</p> <p>「ナショナリズム」とは、自分が属する「ネーション」(日本語では「国民」あるいは「民族」、「日本(人)」、「アメリカ(人)」、「韓国(人)」、「中国(人)」などの総称)に対する愛着に基づいた思想や運動を指す。こうしたナショナリズムは、その社会に住む多くの人々(=マジョリティ)にとっては「当たり前」に近いものである一方で、そこに含まれない外国人や少数民族など(=マイノリティ)にとってはときに「圧力」にもなりうる。この授業ではこうしたことをふまえて、ナショナリズムとそこに現れる「マジョリティ/マイノリティ」の関係について、おまに現代の日本の事例をもとに考えていく。</p>
---------------------	---

到達目標	<p>(到達目標)</p> <p>ナショナリズムやマイノリティについての「正しい」知識を獲得し、それらをふまえた自分なりの立場を検索する作業を通して、①日常生活や将来の仕事などでそうしたことに関わる問題が生じた際、それにきちんと対応できるための「準備」をする。②ナショナリズムやマイノリティに関する問題を社会全体でどのようにとらえ、それに対してどのような政策や実践を行っていったらよいかについて、的確に判断できる力を身につける。</p> <p>授業は、基本的に次のような流れで行う。①関連する資料を読んだり、映像を見たりする。②資料や映像に対してみなさん自身が感じたことを書く。③背景となる基礎的な知識についての講義を聴く。④講義をふまえて、あらためてみなさん自身の考えを書く。なお、参加者の興味関心に応じて、授業計画に若干の変更を加える場合がある。</p>
------	---

授業スケジュール	<p>全体は3つのセクションに分かれる。第1部では、ナショナリズムをとくに「国籍」との関係から考える(1~3回)。第2部では、日本のさまざまなマイノリティの歴史と現状について学ぶ(4~10回)。第3部では、最近の排外主義的な動きなどもふまえた上で、「今後」について考える(11~15回)。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンスとイントロダクション</li> <li>2. 「国籍」について(前編)——ワールドカップサッカーを手がかりに</li> <li>3. 「国籍」について(後編)——「生地主義」と「血統主義」</li> <li>4. 映画『GO』から「在日」を考える(前編)</li> <li>5. 映画『GO』から「在日」を考える(後編)</li> <li>6. 在日コリアンの歴史と現在——映画『GO』解題</li> <li>7. 外国人と労働——ニューカマー外国人を中心に</li> <li>8. 外国人と教育——外国人学校と多文化教育</li> <li>9. 外国人と政治——外国人参政権をめぐる</li> <li>10. エスニック・マイノリティとしての「アイヌ」</li> <li>11. 排外主義——「外国人は出ていけ」という言説について</li> <li>12. 多文化社会日本?——その実現のために必要なこと(前編)</li> <li>13. 多文化社会日本?——その実現のために必要なこと(後編)</li> <li>14. 番外編1——EUのスカーフ論争を考える</li> <li>15. 番外編2——アメリカのアファーマティブ・アクションを考える</li> </ol>
----------	---

準備学習	とくに必要ないが、現在進行形かつ身近な問題を扱うので、メディアで報じられる関連情報には常に注意すること。ただし、テーマの特性上報道の仕方に偏りや無理解がある場合も多いので、そうしたことを念頭に置いて情報に接してほしい。また、たんに情報を集めるだけでなく、「自分の頭で考える」こともとても重要。
------	--

履修上の留意点	授業中の発言や小レポートなどを通して、積極的に自分の考えを表現してほしい。
---------	---------------------------------------

成績評価の方法	授業内の小レポート: 30/100点(2点×15回) 期末レポート: 70/100点
---------	---

教科書/テキスト	とくに指定せず、授業の際に資料を配布する。
----------	-----------------------

参考書	樽本英樹『よくわかる国際社会学』(ミネルヴァ書房) ¥2940 他の文献は授業であらためて指示する。
-----	---



履修コード	058261
科目名	社会参加実習
担当者名	李 妍炎

授業概要/  
到達目標 (ねらい)

参加型実践学習を通して、2つの目標を達成したい。1つは、特定の社会問題に関する理解を深めてもらうこと、もう一つの目標はより重要であり、それは受講生に、参加したい現場を自ら選んでもらい、いかなる問題意識を抱いて参加するのかについて考えてもらい、参加するための準備作業を行ってもらい、実際に参加し、さらに成果をまとめてもらうという一連のプロセスをすべて経験してもらうことである。それによって、受講生の各種実践能力を高めていきたい。

授業スケジュール

社会参加実習のキーワードは「参加」と「実習」である。実際に社会問題が起きている現場、その問題に取り組む実践の現場に身を置き、グループ単位で参加することによって実践的に学習する。具体的には、社会問題に携わるNPO/NGO、市民団体、住民組織、社会的企業での参加実習を想定している。以下のスケジュールで行う。第一部はさまざまな討論技法を用いて、参加したい現場選びと参加の問題意識の明確化、参加計画の制定などの準備作業を行う(第1回～第10回)。第二部は、各グループの参加計画に従って、グループ・ミーティングの手法で事前のデータ集めと参加交渉をしてもらう(第11回～第15回)。第三部は、主に夏休みを利用して、参加を実践する。なお、長期にわたるインターンシップについてもサポートする。第四部は、各グループが、順番に参加のプロセス、問題点についてプレゼンテーションを行い、討論を行う(第16回～第25回)。第五部は、実践の経過と成果、反省点について報告レポートおよび添付資料をグループ作業で作成してもらう(第26回～第30回)。

準備学習

受講希望者は、事前にNPO/NGO、市民団体と住民組織、社会的企業とはどのような組織なのかについて、基本的な知識を身につけておく必要がある。

履修上の留意点

参加型実習には、参加の意欲および責任感を必要とする。また、討論の技法を多く採用して進めていくため、それらにも留意し、身につけてもらいたい。

成績評価の方法

グループ内の相互評価が点数の50%、レポート、添付資料が残りの50%を占める。

教科書/テキスト

参考書

中野民夫, 2009, 『ファシリテーション革命』岩波アクティブ新書.  
堤公俊, 2009, 『ワークショップ入門』日経文庫(新書).

関連リンク

<http://www.npo-hiroba.or.jp/>

履修コード	058331 058332
科目名	社会心理学A
担当者名	坪井 健

授業概要/  
到達目標 (ねらい)

この授業は、われわれが日常的に出会うテーマについて、社会心理学の興味深い研究成果を紹介する。社会心理学は、元来社会学と心理学の境界科学であり、社会学の領域から見れば、かなり心理学的色彩の強い研究が含まれる。この社会心理学A(前期)では、対人関係、集団の影響などの具体的テーマを中心に、ビデオ教材を利用したり、小実験や心理テストなど多彩な方法を用いて、身近な日常テーマの役立つ授業を展開したいと考えている。

授業スケジュール

1. はじめに - 講義の方針と受講の仕方 -
2. 対人認知と印象形成 - 未知の人をどう認知するか -
3. 対人関係と自己開示 - オタクと日本人の自己開示 -
4. 親密性の社会心理学 - 若者の友人関係 -
5. 日本人の対人関係戦略 - 安心社会から信頼社会へ① -
6. 日本人の対人関係戦略 - 安心社会から信頼社会へ② -
7. 自信の社会心理学 - あなたは自分に自信がありますか -
8. 対人関係と対人魅力 - 対人魅力の条件とは何か -
9. 恋愛の社会心理学 - 恋愛と友情は違うのか -
10. 援助行動抑制要因の研究 - 何故、人は見て見ぬふりをするのか -
11. 社会的手抜きと社会的促進の研究 - みんなと一緒になら食事もはずむ -
12. 同調行動と集団的意志決定 - 集団の意志決定とその危険性 -
13. カウラ事件とその社会心理学的考察 - 集団脱走はなぜ起こったか -
14. 同調行動と頻度依存行動 - いじめの心理 -
15. まとめ

準備学習

前の週に提示された文献・資料は事前に学習しておくこと。

履修上の留意点

ビデオ視聴が追加されるので、上記予定は変更する場合がある。授業では資料を配布する。興味を持ったテーマは、紹介文献を参考に各自の関心を深めてもらいたい。リアクションペーパーを配布するので、しっかり記入すること。

成績評価の方法

平常点(出席+リアクションペーパーの内容+参加度)50%、課題レポート50%

教科書/テキスト

授業中、プリントを配布する。

参考書

その都度指示する。

履修コード	058341 058342
科目名	社会心理学B
担当者名	坪井 健

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この授業は、われわれが日常的に出会うテーマについて、社会心理学の興味深い研究成果を紹介する。社会心理学は、元来社会学と心理学の境界科学であり、社会学の領域から見れば、かなり心理学的色彩の強い研究が含まれる。この社会心理学B (後期) では、集団と社会の領域の実際のテーマを中心に、身近な生活に役立つ授業を展開したいと考えている。
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. はじめに - 講義の方針と受講の仕方-</li> <li>2. 社会的行動の基礎 - 欲求理論-</li> <li>3. 親和欲求の研究 - 人はなぜ他者を求めるか-</li> <li>4. 達成動機の研究 - やる気のある人はどんな人か-</li> <li>5. 労働環境と仕事意欲の研究 - 現代若者の労働観-</li> <li>6. 社会的勢力と権威への服従 - 何が人を鬼にさせるか-</li> <li>7. リーダーシップの研究 - 効果的リーダーシップとは-</li> <li>8. 態度変容の実際 - 説得的コミュニケーション-</li> <li>9. 態度変容の理論 - セールスマンのテクニック-</li> <li>10. 異文化コミュニケーションと異文化適応 - 異文化に生きる戦略-</li> <li>11. 学生文化の国際比較 - 世界の中の日本の学生-</li> <li>12. 国際化する大学と学生 - 世界の留学交流と在日留学生-</li> <li>13. 日本人とナショナリズム - 文化ナショナリズムの心理-</li> <li>14. 日常生活の中の社会心理学 - しろうと理論の陥穽-</li> <li>15. まとめ</li> </ol>
----------	--

準備学習	指示された資料・文献は事前に学習しておくこと。
------	-------------------------

履修上の留意点	ビデオ視聴が追加されるので、上記予定は変更する場合がある。授業では資料を配布する。興味を持ったテーマは、紹介文献を参考に各自の関心を深めてもらいたい。リアクションペーパーを配布するので、しっかり記入すること。
---------	--

成績評価の方法	平常点 (出席+リアクションペーパーの内容+参加度) 50%、課題レポート50%
---------	--

教科書/テキスト	授業中、プリントを配布する。
----------	----------------

参考書	その都度指示する。
-----	-----------

履修コード	091001
科目名	社会政策
担当者名	光岡 博美

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>社会政策という科目は、経済学のなかでも古い歴史をもっている。その詳細については最初の講義で解説する。この講義計画では、社会政策とは、資本主義社会の各々の時代において発生する社会問題の原因を学問的に究明し、その問題を解決するための政策を多面的に研究することを目的とする学問である、と定義しておきたい。そして、この場合、社会政策という学問のなかで特に重視されてきたのは、労働問題や社会保障・福祉etcといった社会問題である。経済学という研究の分野は、財・サービスの生産・分配・消費に関する研究としてイメージされるが、これにたいして社会政策は労働力と生命の再生産が、どのような社会・経済のシステムとの関連で展開されているのかを研究する学問であるといつてよい。</p> <p>このような大きな領域を全般的に講義することは不可能であるから、この講義では現代の日本社会を念頭に置き、そこで重要と思われるテーマを設定し、各々のテーマについて講義、解説する。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	年間の具体的な講義スケジュールは、(1) 現代日本の労働・雇用問題 (5回)、(2) 社会政策、労働関係、労働組合の理論 (5回)、(3) 戦後日本の労使関係史 (6回)、(4) 福祉国家の歴史と理論 (3回)、(5) 日本型福祉の現実 (3回)、(6) 現代日本の女性労働、フェミニズム論、(3回) を予定している。
----------	---

準備学習	特になし
------	------

履修上の留意点	受講者数が多いせいもあり、私語によって、授業が円滑に進行しないことがある。授業に支障が生ずる場合、厳しい措置を取る。
---------	--

成績評価の方法	期末試験で評価する。具体的な内容は授業時に詳しく説明する。
---------	-------------------------------

教科書/テキスト	
----------	--

参考書	講義の内容と関連して参考書を適時指示する。また、毎講義ごとにレジュメを配布する。
-----	--

履修コード	057601
科目名	社会調査
担当者名	牛島 千尋

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	社会調査とは、私たちの周囲に生起する社会的現象を解明することを目的として、データを収集し、記録・整理し、分析するという一連の過程を指す。本講義は社会学の重要な方法としての社会調査を学習していくが、しかし、単に技法の習得だけでは社会学の真の研究にはつながらない。本講義では、技法の講述に加えて、これまでに行われた実証的研究を紹介しながら、さらに、社会調査をする際の心構えについて理解を深めていきたい。
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会調査の意義と社会調査における倫理的配慮</li> <li>2. 社会調査の範囲と系譜1—行政目的の統計調査、社会福祉（事業）目的の調査—</li> <li>3. 日本における社会調査の始まりと発展—ビデオ—</li> <li>4. 社会調査の範囲と系譜2—市場調査、世論調査、研究目的のための調査—</li> <li>5. 理論化の道程—帰納法と演繹法、命題・仮説・検証—</li> <li>6. 社会調査の二つの方法1—量的方法と質的方法—</li> <li>7. 社会調査の二つの方法2—量的方法と質的方法—</li> <li>8. 量的方法を使用した実証的研究—デュルケームの「自殺論」—</li> <li>9. 質的方法を使用した実証的研究—デュルケームの「社会分業論」—</li> <li>10. 仮説の修正と新たな発見—メーヨーの「ホーソン実験」—</li> <li>11. 社会調査のさまざまな技法1—横断的調査と縦断的調査—</li> <li>12. 社会調査のさまざまな技法2—モレノのソシオメトリーとその応用—</li> <li>13. 社会調査のさまざまな技法3—ホワイトの「ストリート・コーナー・ソサエティ」と参与観察—</li> <li>14. 既存データ、既存資料の収集と使い方1—国勢調査データ、官公庁統計</li> <li>15. 既存データ、既存資料の収集と使い方2—各種民間調査データと公開個票データ—</li> <li>16. 調査実施過程と社会調査における倫理的配慮</li> <li>17. フィールド・ノート作成、調査票を使用した面接調査の手順—</li> <li>18. 資料の収集とリスト作成、作業仮説の設定と質問項目の作成</li> <li>19. 作業仮説の設定と質問項目の作成</li> <li>20. 調査方法の選定と準備1—非構成的技法と構成的技法—</li> <li>21. 調査方法の選定と準備2—全数調査と標本調査、母集団、標本数と誤差—</li> <li>22. 調査票の作成1—質問文作成の注意点—</li> <li>23. 調査票の作成2—選択肢作成の注意点—</li> <li>24. 調査票の作成3—回答形式の種類、コードブック作成の注意点—</li> <li>25. 質問文を使用した調査の方法—個人面接調査・留置き調査・郵送調査法・電話調査・集合調査・インターネット調査—</li> <li>26. 標本抽出の方法1—単純無作為抽出法、系統抽出法—</li> <li>27. 標本抽出の方法2—層化抽出法、多段抽出法、有意抽出法—</li> <li>28. データの整理と集計の準備1—データの整理、データ入力、データのクリーニング、論理チェック、アフター・コーディング—</li> <li>29. データの整理と集計の準備2—データの整理、データ入力、データのクリーニング、論理チェック、アフター・コーディング—</li> <li>30. まとめ</li> </ol>
----------	--

準備学習	授業の進行に合わせてテキストの関連箇所を指示するので、前もって読んでおいてください。
履修上の留意点	必修科目なので、オリエンテーションぬきで第一回から講義に入ります。
成績評価の方法	出席状況、授業中のレポート提出、後期試験（持ち込み不可）によって評価します。
教科書／テキスト	森岡清志編『ガイドブック 社会調査 第2版』日本評論社、2007年
参考書	

履修コード	060321
科目名	社会調査実習
担当者名	二方 龍紀

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)          学生が社会調査の全過程に主体的に関わることで、社会調査を企画・実施するために必要な能力を獲得することを目的とする。受講学生は先行研究の整理から仮説構築、調査票の設計を行い、授業内でサンプリング、調査実施、データ入力と集計までを経験する。あわせて、民間調査会社のインターネット調査（「日常生活一般調査」）および東北大学「教育と社会に対する高校生の意識調査」のデータを用いて詳細なデータ分析を行う。種類の異なる調査票とデータを比較することで、調査の企画に適切な調査方法や調査票の設計、コーディング方法、また、二次データ分析の利点と注意点を学ぶ。</p> <p>(到達目標)          この授業により、(1)社会調査を企画・遂行する力、(2)自らの問題意識をもとに先行研究をレビューし仮説を構築する力、(3)データ分析の技法、(4)結果の報告の仕方、さらに(5)社会調査者として必要な倫理観を身につけることを目指す。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>前期は、社会調査の企画から調査データの簡単な集計までを行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会調査の基本的知識の再確認と既存調査の設計の検討</li> <li>2. 調査テーマの設定と調査設計</li> <li>3. 先行研究の整理</li> <li>4. 仮説の構築(1)</li> <li>5. 仮説の構築(2)</li> <li>6. 調査票の作成(1) (質問項目の配置)</li> <li>7. 調査票の作成(2) (ワーディングの検討)</li> <li>8. 調査対象者への調査依頼文とあいさつ文の作成</li> <li>9. 大学の在校生名簿を利用したランダム・サンプリング</li> <li>10. 受講学生間での調査実施 (調査票配布・回収)</li> <li>11. 調査票のチェックとコーディング</li> <li>12. データ入力</li> <li>13. データ・クリーニング</li> <li>14. 調査データの単純集計</li> <li>15. 調査データの分析</li> </ol> <p>後期は、二次データを用いた分析から報告書作成までを行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>16. 前期の復習・確認</li> <li>17. 2次データの確認(1)</li> <li>18. 2次データの確認(2)</li> <li>19. 2次データの基本的な集計(1)</li> <li>20. 2次データの基本的な集計(2)</li> <li>21. 2次データのクロス集計(1)</li> <li>22. 2次データのクロス集計(2)</li> <li>23. 各自の仮説にもとづいたデータ分析(1)</li> <li>24. 各自の仮説にもとづいたデータ分析(2)</li> <li>25. データ分析中間報告会</li> <li>26. 報告書の書式の確認</li> <li>27. 報告書の作成(1)</li> <li>28. 報告書の作成(2)</li> <li>29. 報告書最終報告会</li> <li>30. まとめ</li> </ol> <p>データの分析から報告書の作成までの間に、随時、口頭報告の機会を設けて受講学生全員で内容を討議する。</p>
----------	---

準備学習	「統計学基礎演習A」などで扱った分析方法について、復習しておいて下さい。
履修上の留意点	この授業で後期に報告書をまとめるにあたっては、量的調査の方法を理解している必要がある。で、前期の「社会統計学演習」を同時に履修するか、または、昨年度までに履修済みであること。
成績評価の方法	平常点 (出席、討論・作業への取り組み) (5割) + 報告書レポート (5割)
教科書/テキスト	石村貞夫・劉晨・石村友二郎著『SPSSでやさしく学ぶアンケート処理第3版』東京図書、2625円、ISBN978-4-489-02114-5。
参考書	

履修コード	060301
科目名	社会調査実習
担当者名	松信 ひろみ

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	1,2年次で学んだ社会調査に関する知識を生かし、一連の社会調査のプロセスを体験することによって、現実の社会を分析する手法を会得することを目的とする。 参加者は、調査実習のクラス内で実施される調査を通して、問題意識の仮説化、調査の企画・設計から調査票の作成、サンプリング、データの収集と入力までを経験する。さらに、二次データ（東北大学の研究グループによって実施された高校生に対する意識調査、および民間の調査会社が実施したインターネットによる「日常生活一般調査」）を用いて、データの詳細な分析方法を学び、報告書の作成を行う。二種類の異なったデータを用いることで、調査企画に適した調査法や調査法の設計、コーディング方法を学ぶとともに、二次データの利点と注意点、社会調査を実施する上での倫理的観点をも身につけることを目指す。
---------------------	---

授業スケジュール	前期はまず受講生の討議に基づき、①調査テーマの決定と調査の設計（1～2回目）、②仮説の検討（3～5回目）、③調査票の作成（6～10回目）、を行う。調査票の作成においては、使用する二次データの調査設計と照らし合わせながら、項目の調整、配置、ワーディングなども検討する。さらに依頼文、あいさつ文の作成についても学ぶ。また、調査票の作成を進めながら、④駒澤大学の社会学科の在学生名簿からランダムサンプリングを実施し、標本抽出についても体験する（11回目）。社会調査実習のクラス内において、調査員を決め、⑤調査票の配布、回収を行い（12～13回目）、⑥回収した調査票のチェック、コーディング、データ入力を行う（14～15回目）。⑦データのクリーニングを実施し（16回目）、データを確定させら上で、単純集計などの簡単な集計を行う（17回目）。その後は、二次データを用いて、各自の仮説に基づいたデータの分析をSPSSを用いて行う（18～22回目）。さらに、それらの分析結果に基づき、⑧報告書の執筆、作成を行う（23～25回目）。報告書の作成にあたっては、各自で執筆した原稿について受講生全員で検討する（26～30回目）。
----------	--

準備学習	1,2年次までに学んできたwordやexcelの操作法、およびspssの操作法について復習しておくこと。
------	--

履修上の留意点	本実習を履修する学生は、「社会統計学演習」を既に履修済みか同時履修すること。
---------	--

成績評価の方法	平常点（出席、および調査への取り組み方）（50%）、報告書用のレポート（50%）
---------	--

教科書／テキスト	石村貞夫・劉辰ほか編著『s p s s でやさしく学ぶアンケート処理（第3版）』東京図書
----------	--

参考書	適宜指示する
-----	--------

その他	毎回の出席が基本であり、授業外の作業や課題も多いため、自ら積極的に取り組む姿勢を忘れないで欲しい。
-----	---

履修コード	060311
科目名	社会調査実習
担当者名	三田 知実

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>本実習は、質的調査（フィールドワーク）をつうじて、レポート・報告書を作成する技法を習得することを目的としている。とくに、以下の4つの項目を重点的に、実習を運営してゆく。(1) 研究の問いと仮説をたてる。(2) 先行研究を調べる。(3) フィールドワークをつうじて、データを収集する。そして(4) データと先行研究をもとに、レポート・報告書を執筆する。本実習を履修することにより、これまで習得してきた社会調査の基礎を、実践的に理解し、調査分析スキルの基礎強化を図ることができる。</p> <p>履修者は、自らの問いをもとに、質的調査を構成する主要な技法（インタビュー、参与観察や、非参与観察など）と第一次資料の収集を駆使しておこなうことが求められる。さらに、調査をつうじて得られたデータを、調査倫理を重視した記述と、社会学の先行研究と関連づけた考察により、研究を結実させることが求められる。</p> <p>担当者の専門領域は、東京都渋谷区・港区における若者向け消費施設（衣料店、カフェや雑貨店）および衣料デザインに特化した小規模文化生産企業の集積過程とその要因である。便宜上、本実習の主要調査対象は、上記施設・企業が集積する渋谷区神宮前地区と、港区南青山地区ととする。また、この調査対象の特質を考察するために、他の地域を対象とした比較調査をおこなうことも予定している。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>【前期】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス（実習の内容、方法、計画、調査対象地について説明する）</li> <li>2 研究企画(1)（履修者の研究関心に基づくグループ分けを行う）</li> <li>3 研究企画(2)（グループごとに、1年間の研究計画書を作成する）</li> <li>4 研究企画(3)（研究計画の発表と、ディスカッションをつうじ、計画を確定させる）</li> <li>5 調査企画(1)（グループごとに、調査対象地にかんする先行研究をレビューする）</li> <li>6 調査企画(2)（先行研究レビューの蓄積をもとに、具体的な問いと仮説をたてる）</li> <li>7 調査企画(3)（仮説を具体的に検証する調査方法を、詳細に検討し、確定させる）</li> <li>8 調査準備(1)（調査に使用するインタビュー質問票の枠組みをつくる）</li> <li>9 調査準備(2)（質問票のワーディングを調整する）</li> <li>10 調査準備(3)（調査対象者を選定し、依頼・交渉をおこなう）</li> <li>11 調査をおこなう(1)（調査対象地の非参与観察、フィールドノートの作成）</li> <li>12 調査をおこなう(2)（調査対象者へのインタビュー）</li> <li>13 調査をおこなう(3)（インタビューデータの記録）</li> <li>14 調査をおこなう(4)（データにかんする事実確認）</li> <li>15 中間研究報告会（これまでの調査にもとづく研究報告発表とディスカッション）</li> </ol>
----------	--

【夏休み】  
前期中に習得した技法を駆使し、各グループ毎に調査を継続的におこなう。  
必要に応じて、サブゼミをおこなう。

	<p>【後期】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>16 分析をおこなう(1)（データをもとづいた、カテゴリー化）</li> <li>17 分析をおこなう(2)（カテゴリー間の関係性の検討）</li> <li>18 分析をおこなう(3)（分析枠組みを構築する）</li> <li>19 分析をおこなう(4)（分析枠組みのオリジナリティについて考える）</li> <li>20 議論を深める(1)（分析枠組みについて社会的思考を駆使し、議論する）</li> <li>21 議論を深める(2)（議論をもとに、社会学の基礎文献をレビューする）</li> <li>22 議論を深める(3)（文献レビューに基づく、研究の意義づけをおこなう）</li> <li>23 報告書の執筆(1)（研究の背景と研究の目的）</li> <li>24 報告書の執筆(2)（調査方法と事例の記述）</li> <li>25 報告書の執筆(3)（考察にもとづく結論をまとめる）</li> <li>26 調査倫理の徹底(1)（執筆した報告書が調査倫理を遵守しているか確認する）</li> <li>27 調査倫理の徹底(2)（調査対象者に、文書を提示し、確認してもらう）</li> <li>28 研究報告発表会（報告書にもとづくグループ別発表とディスカッション）</li> <li>29 報告書の修正（ディスカッションで指摘された箇所の修正）</li> <li>30 報告書の提出（文字校正・様式の統一等の最終調整を行い、提出する）</li> </ol>
--	--

準備学習	<p>各回講義において、担当教員が指定した教材を用意する。 次週までの予習として、その教材を参照し、社会学/社会調査の基礎強化をはかること。 教材の内容は、ほとんどが都市社会学、社会調査法にかんする教材となる予定である。</p>
------	--

履修上の留意点	<p>調査グループを形成し、調査プロジェクトをたてながら、報告書を完成させることが本講義の目標である。とくに本講義においては、担当者および学生のチームワークが必要不可欠となる。このような理由から、積極的な参加意思をもった学生に履修してもらおうのが、担当者は望ましいと考えている。</p>
---------	---

成績評価の方法	<p>講義、フィールドワークへの積極的参加度、およびレポートや報告書の完成度による総合評価とする。</p>
---------	---

教科書/テキスト	<p>佐藤郁哉、『フィールドワーク 増訂版』新曜社、2,310円 ISBN:9784788510302</p>
----------	---

参考書	<p>使用しない。講義において、担当者オリジナルの講義レジュメと資料を配布する。また随時Power Point を駆使した授業をおこなう。</p>
-----	---

その他	<p>本実習は、社会調査士G科目申請該当科目です。G科目履修の方で、「質的調査」を履修希望する方向けの実習です。</p>
-----	--

最終回まで、原則毎回参加していただける方のみを募集します。  
それ以外の方の履修は控えてください。

第1回ガイダンスには、必ず出席してください。

正規の時間帯以外にも、フィールドワーク、インタビューや現地調査といった諸活動が開催されます（とりわけ休業期間中・休業日）。こうした時間外実習にも積極的に参加できる方に履修していただく方を、強く希望します。

（2011年度の）実習ですが、少人数のため、ゼミと同様の雰囲気です。

本年度も、仲良く楽しく、1年間実習をおこない、クオリティの高い成果物を完成させましょう。

履修コード	060201
科目名	社会統計学演習
担当者名	片岡 栄美
授業概要/ 到達目標（ねらい）	社会学的データ分析で用いる多変量解析法についての基本的な考え方について学ぶとともに、主要な計量モデルについての講義と実習を行なう。データから社会的に意味のある結果を導き出すための方法として、重回帰分析を中心に、因子分析、主成分分析、分散分析、クラスター分析などをとりあげ解説する。また、実際のデータを用いて統計処理ソフト（SPSS）による実践的手法を習得する。解析ソフトの使用法の習得だけではなく、各手法の考え方やその結果の意味を理解することに重点を置き、多変量解析を使用したレポートの書き方についても指導する。
授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 多変量解析の基礎 1：基本統計量の算出とその意味を確認するとともに、多変量解析に向けた基本的考え方を講義する。</li> <li>2 多変量解析の基礎 2：標準化、相関係数、相関行列、回帰についての基礎を復習し、データにより算出法を習得する。</li> <li>3 重回帰分析 1：重回帰式の意味の理解とその算出手続きの習得を目指す。</li> <li>4 重回帰分析 2：重回帰分析により得られる各種の係数（偏回帰係数、重相関係数、決定係数、標準偏回帰係数）について説明し、その意味の理解をする。</li> <li>5 重回帰分析 3：重回帰分析を使用して、調査データを分析した研究事例について検討し、重回帰分析の使い方を学ぶ。</li> <li>6 重回帰分析 4：重回帰分析を使用して、調査データを分析し、報告書を書く練習をする。</li> <li>7 パス解析：パス解析の意味と使用方法について学び、実際の調査データを使用して分析方法を習得する。</li> <li>8 主成分分析と因子分析：統計的な考え方の違いについて習得する。</li> <li>9 主成分分析：基本的分析法と各種の値（固有値、寄与率、因子負荷量、主成分得点）について学ぶ。</li> <li>10 因子分析：データ分析を行い、分析手法を習得する。</li> <li>11 分散分析：基本的な考え方を学び、データを分析することで理解を促す。</li> <li>12 多変量分散分析：手法を習得し、検定や結果の記述について学ぶ。</li> <li>13 クラスター分析 1：基礎的な考え方と手法について学ぶ。</li> <li>14 クラスター分析 2：デンドログラムについての解釈と意味を学ぶ。</li> <li>15 多変量解析についての理解に関する検証（まとめ）</li> </ol>
準備学習	SPSS統計パッケージの使用方法を復習しておくことが望ましい。
履修上の留意点	社会調査士資格のE科目に該当する。出席重視。 統計学基礎演習ABの履修を前提とする。
成績評価の方法	平常点、レポート
教科書／テキスト	使用しない（適宜プリントを配布する）
参考書	適宜、指示する

履修コード	075001 075002 075003
科目名	宗教人類学
担当者名	佐藤 憲昭

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) わが国には、イタコ、カミサマ、祈祷師、行者、ユタ、などの名で呼ばれている宗教的職能者が各地に数多く存在している。彼(彼女)らは、学術用語でシャーマン(巫者)と呼ばれるが、その特徴は、神霊と直接交流をしながら、予言、託宣、祭儀、治病行為などの役割を果たすところにある。これらのシャーマンを中心とする宗教形態は、シャーマニズムと呼ばれる。この講座では、日本及びアジアの諸地域で生起しているシャーマニズムを取り上げて考察し、宗教人類学の考え方を習得することを目指す。</p> <p>(到達目標) 受講生は、シャーマニズムの中心であるシャーマンが、神霊と直接交流をする仕方は決して一様ではなく、すこぶる多様性に富んでいる状況を説明することができる。さらに、シャーマニズムの基本的構図及びシャーマニズムと諸宗教との諸関係について解説をすることができる。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 はじめに</li> <li>2 宗教人類学の成立史</li> <li>3 宗教人類学の構成内容</li> <li>4 フィールド・ワーク</li> <li>5 宗教人類学的方法論的特色</li> <li>6 シャーマニズム研究と憑きもの研究</li> <li>7 シャーマニズム研究史</li> <li>8 エクスタシーの文化と憑霊の文化</li> <li>9 アニミズム</li> <li>10 マナイズム</li> <li>11 呪術・宗教的職能者の分類</li> <li>12 プリーストの特質</li> <li>13 シャーマンの特質</li> <li>14 マジシャンの特質</li> <li>15 前期の総括</li> <li>16 プリースト的シャーマンとシャーマン的プリースト</li> <li>17 シャーマンの憑霊と依頼者の憑霊</li> <li>18 憑霊の概念</li> <li>19 シャーマン化過程と聖性の獲得</li> <li>20 諸儀礼と憑霊との関係</li> <li>21 シャーマンと依頼者(信者)</li> <li>22 都市シャーマニズムの特色</li> <li>23 ネオ・シャーマニズム</li> <li>24 シャーマニズムと新宗教</li> <li>25 シャーマニズムと民俗仏教</li> <li>26 シャーマンとプリーストとの相互補完関係</li> <li>27 シャーマニズムと民俗仏教との互惠関係</li> <li>28 エリートのシャーマニズムとマスのシャーマニズム</li> <li>29 シャーマニズムから見た人間理解の可能性</li> <li>30 総括</li> </ol>
----------	---

準備学習	授業内容に関連する「文献」を紹介するので、熟読しておくこと。ここで「文献」というのは、「著書」「論文」「配布プリント」などを指しているが、具体的な指示は授業時に行う。
履修上の留意点	出席をとるので、欠席をする場合、または欠席をした場合には、欠席届(形式は任意)を提出することが望ましい。
成績評価の方法	レポート(2400字~2800字)試験の成績60%、平常点40%とする。なお、追試験は実施する。
教科書/テキスト	使用しない。
参考書	授業中に適宜紹介する。



履修コード	058641
科目名	宗教文化論A
担当者名	芳賀 学

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この講義では宗教という人間社会にかなり普遍的な現象を取り上げ、それが、個人の精神的な支えとなり、社会の安定 (および変化) に大きな役割を果たすことを社会的に概説する。具体的には、まず、セルフ・アイデンティティの維持 (または変更) とのかかわりで宗教を捉える視角を提示し、その上で、日本社会の近代化プロセスを事例として、ライフスタイルや人びとの意識の変化と新宗教の拡大との関係进行分析することによって、社会と宗教との密接な結びつきを明らかにする。このことを通じて、受講学生個々の「宗教を理解する力」の養成と向上を目指す。
---------------------	---

授業スケジュール	(1) イントロダクション (2~5) アイデンティティとその揺らぎ、認知的不協和の理論と不幸の神義論、アイデンティティの社会性、アイデンティティと宗教 (6~10) 新宗教とは何か: 教団ライフサイクル説、思想、組織、信者、活動 (11~15) 新宗教と近代化: 幕末維新期、代表的教団としての天理教、明治末から昭和初期、敗戦直後の状況、高度経済成長期、近代化の気密室としての新宗教
----------	--

準備学習	授業を受ける前に、特に準備しておいていただくことは特別ありませんが、この講義を理解するためには高校までの日本史や世界史で習う程度の宗教に関する知識が必要です。足りないと思う人は、事前に勉強しておいてください。また、授業中に事実面で理解しにくいことがあった人は、授業後に各種の辞典などを用いて適宜復習をしてください。授業の効果が一層上がります。
------	---

履修上の留意点	結論を急がない粘り強い思考と、物事の良い面と悪い面を同時に視野に収める複眼的視角を取るよう努めてください。
---------	---

成績評価の方法	学期末試験と授業期間内に提出を求めるミニレポートとの総合評定で行います。
---------	--------------------------------------

教科書/テキスト	使用しません。
----------	---------

参考書	・井上順孝『新宗教の解説』筑摩書房、1,155円、ISBN: 9784480082732 ・井上順孝ほか編『新宗教事典』弘文堂、25,200円、ISBN: 9784335160189
-----	--

履修コード	058651
科目名	宗教文化論B
担当者名	芳賀 学

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この講義においては、宗教という社会現象を取り上げ、それが現代の日本社会においてどのような変化・展開を遂げているかを社会的な観点から概説する。具体的には、1980年代以降の日本社会に時間空間を限定して、伝統宗教と新宗教をめぐる状況の変化 (カルト問題を含む) と、宗教を名乗らない広範な精神文化 (ニグレーゾーン) の拡大、という両面の現象群を取り上げ、それらが私たちのライフスタイルや価値意識と密接に連動して存在することを明らかにする。このことを通じて、受講学生個々の「現代社会と宗教とのかかわりを読み解く力」の養成と向上を目指す。
---------------------	--

授業スケジュール	(1) イントロダクション (2) 教団勢力の退潮とグレーゾーンの拡大 (3~4) 1980年代以降の新宗教: 「親密さ」と自己表出の欲求、3タイプの対応戦略 (5~11) グレーゾーンの諸現象: 自己啓発セミナー、背景としての消費社会、セルフ・ヘルプ・グループ、ネットワーク・ビジネス、エステ・サロン、占い、ヒーリング (12~13) オウム真理教とカルト問題: オウム真理教事件の概略、マインドコントロール説再考 (14~15) 現代日本人のライフスタイル: その変化と特徴、パラドクスとその対応
----------	--

準備学習	授業を受ける前に、特に準備しておいていただくことは特別ありませんが、この講義を理解するためには高校までの日本史や世界史で習う程度の宗教に関する知識が必要です。足りないと思う人は、事前に勉強しておいてください。また、授業中に事実面で理解しにくいことがあった人は、授業後に各種の辞典などを用いて適宜復習をしてください。授業の効果が一層上がります。
------	---

履修上の留意点	結論を急がない粘り強い思考と、物事の良い面と悪い面を同時に視覚に収める複眼的視角を取るよう努めてください。
---------	---

成績評価の方法	学期末試験と授業期間内に提出を求める課題との総合評定で行います。
---------	----------------------------------

教科書/テキスト	使用しません。
----------	---------

参考書	・井上順孝『新宗教の解説』筑摩書房、1,155円、ISBN: 9784480082732 ・伊藤雅之・櫻尾直樹・弓山達也編『スピリチュアリティの社会学』世界思想社、1,995円、ISBN: 9784790710936
-----	---

履修コード	057801
科目名	情報処理実習
担当者名	軽部 幸浩

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	現代社会においてコンピュータは必須の情報処理装置である。とりわけ、大学生にとってのコンピュータは、知的作業をおこなう上で最低限習得しなければならないツールである。すでに高校時代にコンピュータを利用した授業を経験したものも多いと思うが、本講義では大学で必要とされる知的生産を支援するためのコンピュータ利用法を徹底的に習得する。大学に入ってからコンピュータをはじめ本格的に利用する学生もまだいると思われるので、コンピュータについてまったくの初心者も独力でコンピュータを活用して社会学のレポート等を作成することができる能力を培う。また、自分の得た結果や事実、考えを表現するための方法を習得する。なお、パーソナルコンピュータを個人で所有することで理解の程度が飛躍的に向上するであろう。余裕があれば購入することを薦める。
---------------------	---

授業スケジュール	授業はすべて実習形式でおこなう。1つのテーマに数時間を当て、毎回授業内でおこなう課題と授業外でおこなう簡単な課題の提出を求める。具体的な内容は次のとおりである。 【前期】 [1] 情報処理の基礎 [2] Internet利用の実際と注意 (マナーやモラルについて) [3] 電子的コミュニケーション (電子メールの利用法) [4] タッチタイピングの完全習得 (タイピングソフトを利用) [5] 情報の検索 (WWWの利用法) [6~12] 大学生として必要なドキュメント処理能力の習得 (MS-Word) [13~15] プレゼンテーションの実際 (プレゼンテーションの基礎技術) 【後期】 [1~11] スプレッドシートの習得 (MS-Excelによる集計, グラフ, データベース) [12~15] 統計パッケージの習得 ([SPSS] [PASW Statistics, <a href="http://www.spss.co.jp/">http://www.spss.co.jp/</a> ])
----------	---

準備学習	特になし
履修上の留意点	原則的に遅刻、欠席は認めない。欠席を年間授業回数数の1/3以上おこなった時点で、期末試験の受験資格を失う。また、遅刻は2回で欠席1回とする。授業内容の性格上、授業時間内だけでは絶対的に実習時間が不足する。学校行事等との衝突がなくても年間約20数回程度の授業しかおこなうことができない。そのため、本格的にコンピュータを応用するためには絶対的に実習時間が不足する。したがって週あたり2~3回 (1回平均約2時間程度) の実習が必要となる (昨年度授業アンケートの結果では、週平均約2時間程度の実習をおこなっていたようである)。 また、Type Quick, MS-Word, MS-Excel, MS-PowerPoint, SPSSの習得は、単位取得のための必須条件である。

成績評価の方法	出席および課題の提出を前提とし、前期・後期末におこなう筆記試験と併せて総合的に評価する。経路則から連続2回欠席すると授業の進捗についていけなくなる。なお、遅刻は認めない。出席確認後の入室は認めるが、出席とはならないので注意する。連続3回以上欠席したものは、その時点で期末試験の受験資格はない。なお、この科目は1年次必修科目であるため単位の認定を受けられない者は、翌年度の履修となるが、機器の関係で実習装置を与えられない可能性がある。したがって1年次に履修を完了することを希望する。
---------	--

教科書/テキスト	授業中に適宜紹介する。教材は、授業の中で全て配布する。配布された資料は、授業に際して常に持参してくること。
----------	---

参考書	授業中に最新のものを指示する。
-----	-----------------

その他	年間20数回程度の講義時間しかないため絶対的な時間が不足する。従って、週あたり2回から3回 (1回2時間程度) の自習が必要となり、それに対応する課題が出される。自習には、4号館にある総合情報センタ1Fの自習室を利用する。独自に購入するのであれば、MS-Windows対応のパソコンでMS-WindowsとMS-Officeが導入されているものを購入するとよい。詳細については開講時に解説する。
-----	---

【授業Web】 <http://wwwint2.int.komazawa-u.ac.jp/~karube/>,  
<http://wwwint2.int.komazawa-u.ac.jp/~karube/>

【e-Learning】 <https://yestudy.komazawa-u.ac.jp/>, <https://yestudy.komazawa-u.ac.jp/>

履修コード	057901
科目名	情報処理実習
担当者名	軽部 幸浩

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	現代社会においてコンピュータは必須の情報処理装置である。とりわけ、大学生にとってのコンピュータは、知的作業をおこなう上で最低限習得しなければならないツールである。すでに高校時代にコンピュータを利用した授業を経験したのも多いと思うが、本講義では大学で必要とされる知的生産を支援するためのコンピュータ利用法を徹底的に習得する。大学に入ってからコンピュータをはじめ本格的に利用する学生もまだいると思われるので、コンピュータについてまったくの初心者も独力でコンピュータを活用して社会学のレポート等を作成することができる能力を培う。また、自分の得た結果や事実、考えを表現するための方法を習得する。なお、パーソナルコンピュータを個人で所有することで理解の程度が飛躍的に向上するであろう。余裕があれば購入することを薦める。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>授業はすべて実習形式でおこなう。1つのテーマに数時間を当て、毎回授業内でおこなう課題と授業外でおこなう簡単な課題の提出を求める。具体的な内容は次のとおりである。</p> <p>【前期】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[1] 情報処理の基礎</li> <li>[2] Internet利用の実際と注意 (マナーやモラルについて)</li> <li>[3] 電子的コミュニケーション (電子メールの利用法)</li> <li>[4] タッチタイピングの完全習得 (タイピングソフトを利用)</li> <li>[5] 情報の検索 (WWWの利用法)</li> <li>[6~12] 大学生として必要なドキュメント処理能力の習得 (MS-Word)</li> <li>[13~15] プレゼンテーションの実際 (プレゼンテーションの基礎技術)</li> </ul> <p>【後期】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[1~11] スプレッドシートの習得 (MS-Excelによる集計、グラフ、データベース)</li> <li>[12~15] 統計パッケージの習得 ([SPSS] [PASW Statistics, <a href="http://www.spss.co.jp/">http://www.spss.co.jp/</a>])</li> </ul>
----------	---

準備学習	特になし
------	------

履修上の留意点	<p>原則的に遅刻、欠席は認めない。欠席を年間授業回数のおよそ1/3以上おこなった時点で、期末試験の受験資格を失う。また、遅刻は2回で欠席1回とする。授業内容の性格上、授業時間内だけでは絶対的に実習時間が不足する。学校行事等との衝突がなくても年間約20数回程度の授業しかおこなうことができない。そのため、本格的にコンピュータを応用するためには絶対的に実習時間が不足する。したがって週あたり2~3回 (1回平均約2時間程度) の実習が必要となる (昨年度授業アンケートの結果では、週平均約2時間程度の実習をおこなっていたようである)。</p> <p>また、Type Quick, MS-Word, MS-Excel, MS-PowerPoint, SPSSの習得は、単位取得のための必須条件である。</p>
---------	--

成績評価の方法	<p>出席および課題の提出を前提とし、前期・後期末におこなう筆記試験と併せて総合的に評価する。経験則から連続2回欠席すると授業の進捗についていけなくなる。なお、遅刻は認めない。出席確認後の入室は認めるが、出席とはならないので注意する。連続3回以上欠席したものは、その時点で期末試験の受験資格はない。なお、この科目は1年次必修科目であるため単位の認定を受けられない者は、翌年度の履修となるが、機器の関係で実習装置を与えられない可能性がある。したがって1年次に履修を完了することを希望する。</p>
---------	---

教科書/テキスト	授業中に適宜紹介する。教材は、授業の中で全て配布する。配布された資料は、授業に際して常に持参してくること。
----------	---

参考書	授業中に最新のものを指示する。
-----	-----------------

その他	<p>年間20数回程度の講義時間しかないため絶対的な時間が不足する。従って、週あたり2回から3回 (1回2時間程度) の自習が必要となり、それに対応する課題が出される。自習には、4号館にある総合情報センタ1Fの自習室を利用する。独自に購入するのであれば、MS-Windows対応のパソコンでMS-WindowsとMS-Officeが導入されているものを購入するとよい。詳細については開講時に解説する。</p> <p>【授業Web】 [<a href="http://www.int2.int.komazawa-u.ac.jp/~karube/">http://www.int2.int.komazawa-u.ac.jp/~karube/</a>, <a href="http://www.int2.int.komazawa-u.ac.jp/~karube/">http://www.int2.int.komazawa-u.ac.jp/~karube/</a>]</p> <p>【e-Learning】 [<a href="https://yestudy.komazawa-u.ac.jp/">https://yestudy.komazawa-u.ac.jp/</a>, <a href="https://yestudy.komazawa-u.ac.jp/">https://yestudy.komazawa-u.ac.jp/</a>]</p>
-----	---

履修コード	058001
科目名	情報処理実習
担当者名	軽部 幸浩

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	現代社会においてコンピュータは必須の情報処理装置である。とりわけ、大学生にとってのコンピュータは、知的作業をおこなう上で最低限習得しなければならないツールである。すでに高校時代にコンピュータを利用した授業を経験したものも多いと思うが、本講義では大学で必要とされる知的生産を支援するためのコンピュータ利用法を徹底的に習得する。大学に入ってからコンピュータをはじめ本格的に利用する学生もまだいると思われるので、コンピュータについてまったくの初心者が独力でコンピュータを活用して社会学のレポート等を作成することができる能力を培う。また、自分の得た結果や事実、考えを表現するための方法を習得する。なお、パーソナルコンピュータを個人で所有することで理解の程度が飛躍的に向上するであろう。余裕があれば購入することを薦める。
---------------------	---

授業スケジュール	授業はすべて実習形式でおこなう。1つのテーマに数時間を当て、毎回授業内でおこなう課題と授業外でおこなう簡単な課題の提出を求める。具体的な内容は次のとおりである。
----------	--

- 【前期】
- [1] 情報処理の基礎
  - [2] Internet利用の実際と注意 (マナーやモラルについて)
  - [3] 電子的コミュニケーション (電子メールの利用法)
  - [4] タッチタイピングの完全習得 (タイピングソフトを利用)
  - [5] 情報の検索 (WWWの利用法)
  - [6~12] 大学生として必要なドキュメント処理能力の習得 (MS-Word)
  - [13~15] プレゼンテーションの実際 (プレゼンテーションの基礎技術)
- 【後期】
- [1~11] スプレッドシートの習得 (MS-Excelによる集計、グラフ、データベース)
  - [12~15] 統計パッケージの習得 ([SPSS] [PASW Statistics, <http://www.spss.co.jp/>])

準備学習	特になし
------	------

履修上の留意点	原則的に遅刻、欠席は認めない。欠席を年間授業回数 <sup>1</sup> の1/3以上おこなった時点で、期末試験の受験資格を失う。また、遅刻は2回で欠席1回とする。授業内容の性格上、授業時間内だけでは絶対的に実習時間が不足する。学校行事等との衝突がなくても年間約20数回程度の授業しかおこなうことができない。そのため、本格的にコンピュータを応用するためには絶対的に実習時間が不足する。したがって週あたり2~3回 (1回平均約2時間程度) の実習が必要となる (昨年度授業アンケートの結果では、週平均約2時間程度の実習をおこなっていたようである)。 また、Type Quick、MS-Word、MS-Excel、MS-PowerPoint、SPSSの習得は、単位取得のための必須条件である。
---------	--

成績評価の方法	出席および課題の提出を前提とし、前期・後期末におこなう筆記試験と併せて総合的に評価する。経験則から連続2回欠席すると授業の進度についていけなくなる。なお、遅刻は認めない。出席確認後の入室は認めるが、出席とはならないので注意する。連続3回以上欠席したものは、その時点で期末試験の受験資格はない。なお、この科目は1年次必修科目であるため単位の認定を受けられない者は、翌年度の履修となるが、機器の関係で実習装置を与えられない可能性がある。したがって1年次に履修を完了することを希望する。
---------	--

教科書/テキスト	授業中に適宜紹介する。教材は、授業の中で全て配布する。配布された資料は、授業に際して常に持参してくること。
----------	---

参考書	授業中に最新のものを指示する。
-----	-----------------

その他	年間20数回程度の講義時間しかないため絶対的な時間が不足する。従って、週あたり2回から3回 (1回2時間程度) の自習が必要となり、それに対応する課題が出される。自習には、4号館にある総合情報センタ1Fの自習室を利用する。独自に購入するのであれば、MS-Windows対応のパソコンでMS-WindowsとMS-Officeが導入されているものを購入するとよい。詳細については開講時に解説する。
-----	---

【授業Web】 {<http://wwwint2.int.komazawa-u.ac.jp/~karube/>,  
<http://wwwint2.int.komazawa-u.ac.jp/~karube/>}

【e-Learning】 {<https://yestudy.komazawa-u.ac.jp/>, <https://yestudy.komazawa-u.ac.jp/>}

履修コード	058611
科目名	政治社会論
担当者名	岩瀬 庸理

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	政治社会学の基礎的概念と理論の習得を目標とします。テーマは現代日本の政治参加の特徴を比較社会的に論じることです。社会学の理論と方法を用いて「市民社会」と「政治社会」との相互関係を理解し、説明する能力を獲得します。現代日本の政治社会の特徴を比較社会的に明らかにします。具体的な社会問題を取り上げながら、社会的説明力の有効性を学び、また、参加行動の理解を深めます。
---------------------	--

授業スケジュール	第1回 はじめに 第2回 政治社会学の対象と方法 第3回 政治参加の理論 第4回 地位政治と階級政治 第5回 投票行動の比較 第6回 支持政党なしの社会的機能 第7回 子どもの政治的社会化 第8回 政治的社会化のエージェント 第9回 成人の政治的社会化 第10回 大衆社会の権力構造：パワーエリートと大衆 第11回 権力構造の多元化 第12回 現代日本の権力構造 第13回 イデオロギー（1）：保守イデオロギーの変容 第14回 イデオロギー（2）：ナショナリズムとエスニシティ 第15回 まとめと試験
----------	--

準備学習	わからない用語などは社会学事典・辞典で調べておきます。また必要に応じてリーディング・アサインメントを課します。
------	---

履修上の留意点	きちんとノートをとるように心がけてください。また、配布する資料は保存しておいてください。
---------	--

成績評価の方法	学期末試験と授業内に提出をを求める課題を中心に評価します（70%）。 出席状況も評価します（30%）。 必要に応じてリアクションペーパーを使います。
---------	--

教科書／テキスト	特定の教科書は使用しません。
----------	----------------

参考書	S. M. リブセット『政治のなかの人間』（創元新社） 講読文献は教室で適宜指示します。
-----	---

履修コード	058021
科目名	統計学基礎演習 A
担当者名	池田 心豪

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	社会調査によって得たデータの分析法として統計学を学ぶ。社会統計学の基礎的な知識の習得と、統計を正しく用いる方法、統計データの読み方などを中心に、講義と演習形式で授業を行う。具体的には、記述統計データの読み方や計算方法、グラフの読み方、2変数間の関連についての測度などを中心に、統計の基礎を学ぶ。
---------------------	---

授業スケジュール	第1回 社会調査と統計：統計学とは何か、変数の種類 第2回 度数分布と統計図表 1：離散測度の度数分布と図示法 第3回 度数分布と統計図表 2：連続測度の度数分布と図示法 第4回 中心傾向の測度：代表値（平均値、中央値、最頻値とその比較） 第5回 得点の散布度 1：探索的データ解析と散布度、四分位数、箱ヒゲ図など 第6回 得点の散布度 2：分散と標準偏差 第7回 代表値、散布度の演習、統計資料の整理 第8回 正規分布と相対的位置の測度 1：正規分布、標準正規分布、正規分布表 第9回 正規分布と相対的位置の測度 2：Z得点、変動係数 第10回 クロス集計：2重クロス集計 第11回 クロス集計：確率と帰無仮説 第12回 カイ二乗検定 第13回 因果関係と相関関係の区別、擬似相関について 第14回 相関係数 1 第15回 相関係数 2
----------	---

準備学習	教科書を読んで授業に臨むこと
------	----------------

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	出席・レポート・試験
---------	------------

教科書／テキスト	鳥居泰彦著『はじめての統計学』（日本経済新聞社）
----------	--------------------------

参考書	
-----	--

履修コード	058011
科目名	統計学基礎演習A
担当者名	片岡 栄美
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	社会調査によって得たデータの分析法として、統計学を学ぶ。社会統計学の基礎的な知識の習得と、統計を正しく用いる方法、統計データの読み方を中心に、講義と演習形式で授業を行う。実際にデータを分析し、統計データの読み方や計算方法、グラフの読み方、変数間の関連などを中心に、統計の基礎を学ぶ。
授業スケジュール	第1回 社会調査と統計：統計学とは何か、変数の種類 第2回 度数分布と統計図表1：離散測度の度数分布と図示法 第3回 度数分布と統計図表2：連続測度の度数分布と図示法 第4回 中心傾向の測度：代表値（平均値、中央値、最頻値とその比較） 第5回 得点の散布度1：探索的データ解析と散布度、四分位数、箱ヒゲ図など 第6回 得点の散布度2：分散と標準偏差 第7回 代表値、散布度の演習、統計資料の整理 第8回 正規分布と相対的位置の測度1：正規分布、標準正規分布、正規分布表 第9回 正規分布と相対的位置の測度2：Z得点、変動係数 第10回 クロス集計：2重クロス集計 第11回 クロス集計：確率と帰無仮説 第12回 カイ二乗検定 第13回 因果関係と相関関係の区別、擬似相関について 第14回 相関係数1 第15回 相関係数2
準備学習	数式を用いた説明を行うことがあるので、和の記号 $\Sigma$ にあまりなじみのない学生は、高校までの教科書や参考書を復習するなど、和の記号 $\Sigma$ について理解しておくことが望ましい。また比率やパーセントについて理解していることが前提となるため、この点についても復習しておくこと。
履修上の留意点	遅刻や提出期限に遅れて課題を提出した場合は、減点の対象とします。
成績評価の方法	学期末試験(またはレポート) (50%)、出席回数 (30%)、演習課題の提出 (20%) を基本に評価します。
教科書/テキスト	鳥居泰彦『はじめての統計学』(日本経済新聞社 1994年)
参考書	岩井紀子・保田時男『調査データ分析の基礎』(有斐閣 2007年)
その他	社会調査士資格認定のC科目に該当する。 講義と演習とを並行して授業を進めていく。

履修コード	058031
科目名	統計学基礎演習A
担当者名	二方 龍紀
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 本授業の目的は統計学の基礎知識を身につけ、社会調査で得たデータの分析を実際に行えるようにすることである。講義および統計パッケージSPSSを用いた演習方式により授業を進める。 (到達目標) 記述統計データやグラフの読み方およびそれらの計算方法、2変数間の関連についての測度などを中心に、社会調査の結果を読んで理解するために必要な統計学の基礎知識の修得を目標とする。
授業スケジュール	1 社会調査と統計：統計学とは何か 2 度数分布と統計図表1：離散測度の度数分布と図表の読み方・作り方 3 度数分布と統計図表2：連続測度の度数分布と図表の読み方・作り方 4 標本分布の特性値1：平均値、中央値、最頻値 5 標本分布の特性値2：分散と標準偏差 6 統計図表と標本分布の特性値の演習 7 正規分布と相対的位置の測度1：正規分布、標準正規分布、正規分布表 8 正規分布と相対的位置の測度2：Z得点、変動係数 9 クロス集計：2重クロス集計 10 クロス集計：確率と帰無仮説 11 カイ二乗検定 12 因果関係と相関関係の区別、擬似相関について 13 相関係数1 14 相関係数2 15 まとめ
準備学習	毎回の授業は、内容がつながっているため、理解を深めるために、前回の授業の内容を次回の授業までに、プリントや教科書等を使って復習しておいて下さい。
履修上の留意点	実習・講義
成績評価の方法	筆記試験(8割)と平常点(2割)
教科書/テキスト	鳥居泰彦『はじめての統計学』日本経済新聞社、2,345円、978-4-532-13074-9。
参考書	授業内で適宜指示する。

履修コード	058121
科目名	統計学基礎演習B
担当者名	池田 心豪

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	社会調査によって得たデータの分析法として統計学を学ぶ。社会統計学の基礎的な知識の習得と、統計を正しく用いる方法、統計データの読み方などを中心に、講義と演習形式で授業を行う。具体的には、確率論の基礎と仮説検定・推定の理論とその応用、多重クロス集計や相関係数、回帰分析などを学ぶ。
---------------------	--

授業スケジュール	第1回 確率論の基礎 第2回 母集団と標本：抽出法の理論 第3回 確率分布と統計的仮説検定の考え方1：仮説検定の手順、推定とは 第4回 確率分布と統計的仮説検定の考え方2：正規分布、中心極限定理、標準誤差、有意確率など 第5回 確率分布と統計的仮説検定の考え方3：点推定と信頼区間 第6回 確率分布と統計的仮説検定の考え方4：仮説検定 第7回 平均の差の検定1：2つの平均の差の検定 第8回 平均の差の検定2：比率の差の検定 第9回 多重クロス集計とエラポレーション 第10回 属性相関係数 第11回 2つの連続変数間の関係：相関係数とその検定 第12回 単回帰分析1：線形回帰、決定係数と検定 第13回 単回帰分析2：非線形回帰 第14回 重回帰分析 第15回 まとめ
----------	---

準備学習	教科書を読んで授業に臨むこと
履修上の留意点	
成績評価の方法	出席・レポート・試験
教科書／テキスト	鳥居泰彦著『はじめての統計学』（日本経済新聞社）
参考書	

履修コード	058111
科目名	統計学基礎演習B
担当者名	片岡 栄美

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	社会調査によって得たデータの分析法として、統計学を学ぶ。データ分析の基礎をふまえ、(1)推測統計の基本的な考え方を習得し、(2)研究課題を解決するための道具として統計的手法を使いこなせるようになることを目的とする。講義と演習形式で授業を行う。統計的データの集計・分析に必要な基礎的な統計知識、すなわち確率論の基礎、標本抽出の理論、仮説検定・推定の理論、多重クロス集計、相関係数、偏相関係数、回帰分析などを学ぶ。
---------------------	---

授業スケジュール	第1回 確率論の基礎 第2回 母集団と標本：抽出法の理論 第3回 確率分布と統計的仮説検定の考え方1：仮説検定の手順、推定とは 第4回 確率分布と統計的仮説検定の考え方2：正規分布、中心極限定理、標準誤差、有意確率など 第5回 確率分布と統計的仮説検定の考え方3：点推定と信頼区間 第6回 確率分布と統計的仮説検定の考え方4：仮説検定 第7回 平均の差の検定1：2つの平均の差の検定 第8回 平均の差の検定2：比率の差の検定 第9回 多重クロス集計とエラポレーション 第10回 属性相関係数 第11回 2つの連続変数間の関係：相関係数とその検定 第12回 単回帰分析1：線形回帰、決定係数と検定 第13回 単回帰分析2：非線形回帰 第14回 重回帰分析 第15回 まとめ
----------	---

準備学習	平均、分散、標準偏差、共分散など社会統計の基礎的な知識は事前に修得していることを前提に授業を行うので、十分に復習しておくことが望ましい。
履修上の留意点	遅刻や提出期限に遅れて課題を提出した場合は、減点の対象とします。
成績評価の方法	学期末試験（またはレポート）、出席回数、演習課題の提出を総合的に評価します。
教科書／テキスト	鳥居泰彦『はじめての統計学』（日本経済新聞社 1994年）
参考書	岩井紀子・保田時男『調査データ分析の基礎』（有斐閣 2007年）
その他	社会調査士資格認定のD科目に該当する。講義と演習と並行して授業を進めていく。

履修コード	058131
科目名	統計学基礎演習B
担当者名	二方 龍紀

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 本授業の目的は、「統計学基礎演習A」に引き続き、統計学の基礎知識を身につけ、社会調査で得たデータの分析を実際に行えるようにすることである。講義および統計パッケージSPSSを用いた演習方式により授業を進める。 (到達目標) 確率論の基礎と仮説検定・推定の理論とその応用、相関係数、回帰分析などを学び、標本調査のデータ分析を行うための統計学的知識の修得を目標とする。
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 確率論の基礎</li> <li>2 母集団と標本：抽出法の理論</li> <li>3 母数の推定と中心極限定理</li> <li>4 標本から母集団を推定する1：母平均の推定</li> <li>5 標本から母集団を推定する2：母比率の推定</li> <li>6 標本から母集団を推定する3：母標準偏差の推定</li> <li>7 仮説の検定：仮説とは、2種類の過誤、検定の発想</li> <li>8 仮説検定1：母平均・母比率の差の検定</li> <li>9 仮説検定2：母分散に関する検定、独立性の検定</li> <li>10 相関分析1：分析の概要</li> <li>11 相関分析2：相関係数と検定</li> <li>12 回帰分析1：分析と回帰係数の読み方</li> <li>13 回帰分析2：検定</li> <li>14 回帰分析3：その他の回帰分析</li> <li>15 まとめ</li> </ol>
----------	--

準備学習	「統計学基礎演習A」と授業の内容がつながっているので、プリントや教科書等を使って復習しておいて下さい。
履修上の留意点	実習・講義
成績評価の方法	筆記試験(8割)と平常点(2割)
教科書/テキスト	鳥居泰彦『はじめての統計学』日本経済新聞社、2,345円、978-4-532-13074-9。
参考書	授業内で適宜指示する。

履修コード	058351
科目名	都市社会学A
担当者名	牛島 千尋

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義では、都市社会学の主要な理論を講述し、地域社会としての都市へアプローチするための基本的概念と分析方法について理解を深めていく。
---------------------	--

授業スケジュール	講義内容の概略は以下の通りである。 第1回：オリエンテーション 第2回：都市と農村に関する研究、第3～4回：シカゴ学派の遺産と人間生態学、第5～6回：都市の拡大と空間構造、第7～8回：アーバニズム論、第9～10回：前産業型都市と産業型都市、第11～12回：都市化とコミュニティの変容、第13～14回：都市問題と都市計画、第15回：まとめ
----------	---

準備学習	参考書の該当箇所を読んでおいて下さい。
履修上の留意点	
成績評価の方法	出席状況、小テスト、レポートによって評価します。
教科書/テキスト	
参考書	高橋勇悦監修、菊池美代志・江上渉編『改訂版 21世紀の都市社会学』学文社、2008年。
その他	ビデオやパワーポイントなどの電子教材を利用し、講義形式で行います。



履修コード	058361
科目名	都市社会学B
担当者名	牛島 千尋

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義は、都市社会学の理論にもとづき、ニューヨーク、ロンドン、パリと比較しながら、東京という具体的な都市をとりあげ、大都市の諸問題を理解していくことを目的とする
---------------------	--

授業スケジュール	第1回 オリエンテーション 第2回 世界の大都市の歴史の変容と空間構造(1) 第3回 世界の大都市の歴史の変容と空間構造(2) 第4回 大都市のインナーシティ問題(1) 第5回 大都市のインナーシティ問題(2) 第6回 東京の歴史の変容と人口変動 第7回 東京の歴史の変容と都市サイクル 第8回 東京の都市サイクルと空間構造の変化 第9回 東京の都市計画と住宅問題(1) 第10回 東京の都市計画と住宅問題(2) 第11回 東京の産業構造と地域社会(1) 第12回 東京の産業構造と地域社会(2) 第13回 グローバル化と東京圏の変容(1) 第14回 グローバル化と東京圏の変容(2) 第15回 試験
----------	--

準備学習	時には観察をしながら街を歩いて、新しい発見に努めてください。
------	--------------------------------

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	出席状況、小テスト、レポートによって評価します。
---------	--------------------------

教科書/テキスト	
----------	--

参考書	高橋勇悦監修、菊池美代志・江上渉編『改訂版 21世紀の都市社会学』学文社、2008年。
-----	---

その他	ビデオやパワーポイントなどの電子教材を利用し、講義形式で行います。
-----	-----------------------------------

履修コード	058711
科目名	犯罪と逸脱の社会学A
担当者名	作田 誠一郎

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	現代社会における犯罪と逸脱に対する基本的な研究方法について概観します。その後、具体的な犯罪と非行に関する諸理論を中心に紹介し、現代社会における犯罪や非行を理解するための社会学的なアプローチを身につけることが本講義のねらいです。
---------------------	---

授業スケジュール	(1) 逸脱社会学とは何か (2~4) 逸脱現象の研究手法 (5~8) 犯罪・非行の逸脱理論Ⅰ(社会解体論、アノミー論等) (9~11) 犯罪・非行の逸脱理論Ⅱ(レイベリング理論、コントロール理論等) (12~14) 犯罪・非行の逸脱理論Ⅲ(抑止理論、割れ窓理論等) (15) まとめ
----------	--

準備学習	今日の犯罪や非行に対する理解と関心を高めるために日ごろから新聞等に目を配り、問題意識をもつように心がけてください。また犯罪や非行に関する書籍(ルポルタージュや犯罪史など)に目を通しておくことは本講義を受講するための事前学習として有益です。
------	---

履修上の留意点	詳細は、初回の講義で説明します。
---------	------------------

成績評価の方法	期末試験(3割)、講義内の課題提出・出席(7割)により評価します。詳細は初回の講義で説明します。
---------	--

教科書/テキスト	適宜、授業中に資料を配布します。
----------	------------------

参考書	下記のほか、講義の中で随時紹介します。 鮎川潤、1994、『少年非行の社会学』世界思想社 佐藤郁哉、1984、『暴走族のエスノグラフィ—モードの叛乱と文化の呪縛』新曜社デュルクーム(宮島喬訳)『自殺論』(訳1985年刊、中央公論社) 土井隆義、2003、『〈非行少年〉の消滅—個性神話と少年犯罪』信山社 ベッカー(村上直之訳)『アウトサイダーズ—ラベリング理論とはなにか』(訳1978刊、新泉社) ショウ(玉井眞理子・池田寛訳)『ジャック・ローラー—ある非行少年自身の物語』(訳1998刊、東洋館出版社) コーエン(細井洋子訳)『逸脱と統制』(訳1968刊、至誠堂) マツア(上芝功博・榎本正也・辻本義男・西村春夫・村井敏邦・吉田弘之訳)『漂流する少年—現代の少年非行論』(訳1986刊、成文堂)
-----	---

その他	後期に開講される「犯罪と逸脱の社会学B」もあわせて履修することをおすすめします。
-----	--

履修コード	058721
科目名	犯罪と逸脱の社会学B
担当者名	作田 誠一郎

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	逸脱に対する社会的アプローチから官庁統計やメディア報道について考えていきます。また、犯罪・非行に関わる法執行機関と刑事司法の動向について説明します。その後、日本の犯罪や非行の近代化について明治期以降の歴史的観点から概観します。 後半では、犯罪・非行を中心とした社会問題について後期近代の特徴を踏まえながら論点を取りあげて検討を加えていきます。講義を通じて社会的な視点から逸脱に対する考察力を身につけ、高めることを目的とします。
---------------------	--

授業スケジュール	(1) 逸脱に対する社会的アプローチ (2) 官庁統計を読む (3・4) 犯罪報道の特徴と読み解き方 (5・6) 法執行機関と刑事司法のプロセス (7~9) 少年非行史 (10~14) 今日の逸脱研究 (精神医療化、高齢者犯罪、性の逸脱、ホワイトカラー犯罪、学校社会の逸脱等) (15) まとめ
----------	---

準備学習	今日の犯罪や非行に対する理解と関心を高めるために日ごろから新聞等に目を配り、問題意識をもつように心がけてください。また犯罪や非行に関する書籍 (ルポルタージュや犯罪史など) に目を通しておくことは本講義を受講するための事前学習として有益です。
------	---

履修上の留意点	詳細は、初回の講義で説明します。
---------	------------------

成績評価の方法	期末試験 (3割)、講義内の課題提出・出席 (7割) により評価します。詳細は初回の講義で説明します。
---------	---

教科書/テキスト	適宜、授業のなかで資料を配布します。
----------	--------------------

参考書	下記のほか、講義の中で随時紹介します。 河野義行ほか『報道は何を学んだのか——松本サリン事件以後のメディアと世論』 (2004年刊、岩波書店) 浜井浩一・芹沢一也『犯罪不安社会——誰もが「不審者」?』 (2006年刊、光文社、) 日本犯罪学会編『犯罪からの社会復帰とソーシャル・インクルージョン』 (2009年刊、現代人文社)
-----	--

その他	前期に開講される「犯罪と逸脱の社会学A」もあわせて履修することをおすすめします。
-----	--

履修コード	058321
科目名	比較社会学
担当者名	李 妍炎

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	比較とは、社会学の学習と研究を行っていく上で不可欠な、基本的な方法である。この講義では特に、異なる社会の近似領域を比較することによって、両方の社会について理解を深める方法を学んでもらう。なぜ比較が有効な方法なのか、比較するにはどんな前提条件が必要なのか、具体的にはどのように比較することが可能なのかについて、受講生に比較的に明白な理解をしてもらうことを目標とする。
---------------------	--

授業スケジュール	講義内容は、具体的には日本社会と中国社会を取り上げ、前半では既存の文化論的な比較検討を紹介した上で、後半は受講生の関心に応じて、日本社会と中国社会の近似分野をいくつか取り上げ、実際に比較を行ってみる。 1. ガイダンスと受講生の要望の受付 (第1回) 2. 社会科学における比較という手法 (第2回、第3回) 3. 日中比較文化論の紹介 (第4回、第5回) 4. 近似分野の比較 (受講生の要望に応じて、どの分野を取り上げるかを定める。映像を含めた各種資料、データを活用する予定) (第6回から第12回) 5. 比較を通して得たものに関する検討 (受講生参加型のワークショップ形式) (第13回から第15回)
----------	---

準備学習	中国社会の近年の変化 (改革開放後) について、基本的な知識を知っておく必要がある。
------	--

履修上の留意点	比較を通して、日本社会についてより深く考えてみたい意欲、中国社会についてある程度の知的好奇心を持っていることが、要求される。
---------	--

成績評価の方法	平常点30% (出席および授業後のリアクションペーパーで評価)、レポート70%。
---------	--

教科書/テキスト	
----------	--

参考書	陳舜臣, 1984, 『日本人と中国人』, 集英社
-----	---------------------------

その他	関連リンク 人民網日本語版 <a href="http://j.people.com.cn/">http://j.people.com.cn/</a> 中国ニュース通信社「レコードチャイナ」 <a href="http://www.recordchina.co.jp/group.php?groupid=35095&amp;type=">http://www.recordchina.co.jp/group.php?groupid=35095&amp;type=</a>
-----	--

履修コード	058431
科目名	文化社会学A
担当者名	片岡 栄美

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>文化は人々の行動にどのような影響を与えているのだろうか。私たちそれぞれが選択している行為や文化が、どのような社会的意味をもっているのかを読み解く。</p> <p>(1) 文化が、社会的な要因によって差異を示すことを理解する。  (2) われわれ個人は本当に「自由」に自らの好む文化を選択しているのだろうか？  (3) 無意識で選んでいる私たちの日常行動や文化的な嗜好は、人生のライフチャンスとどう関わるのだろうか。  (4) 現代日本人の文化消費やライフスタイル（趣味、文化活動、嗜好、食事）、選択行動（教育、子育て）、価値観に関わる具体的な行動を取り上げる。  (5) 文化を通じた社会的不平等の形成、同質化と排除、文化的再生産や文化資本について理解する。  (6) 持続可能な社会を生み出す可能性をもつ、新しい文化や価値の在り方についても考える。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>第1回 文化とは  第2回 差異への欲望、同調への欲望：人はなぜ差異を求めるのか  第3回 文化的平等神話の日本社会  第4回 文化消費1：富裕層のライフスタイル  第5回 文化消費2：中流階級・庶民階級  第6回 文化の階層性（正統趣味と大衆趣味）と日本文化の構造  第7回 文化資本の形成：文化と家庭教育  第8回 文化資本の効果：学校と文化  第9回 文化的寛容性か排他性か  第10回 象徴的境界とバウンダリー・ワーク  第11回 ジェンダーと文化1：おけいごとのジェンダー差と社会的意味  第12回 ジェンダーと文化2：結婚・就職に及ぼす文化の影響  第13回 寛容性と共存の社会的価値  第14回 持続可能な社会と文化  第15回 まとめ</p>
----------	--

準備学習	<p>授業に関連する文献などは、YeStudyで紹介するので、事前に読んでおくことが望ましい。  また中間小レポートでは、各自の体験を素材にした簡単なレポートを書いてもらう予定である。</p>
------	--

履修上の留意点	<p>(1) 社会学の立場から、文化と社会との関連性を読み解いていく。  それは同時に、各個人の行動を客観的に見直すきっかけになるはずである。  (2) 自分自身の階層的な位置や文化的な特徴についても、客観的に考えてもらうことになるので、それが困難な場合はおすすめしない。  (3) 毎回の授業時に、リアクション・ペーパーで質問や意見を書いて提出してもらうので、主体的に授業に参加してほしい。</p>
---------	--

成績評価の方法	<p>出席点15%、小レポート1回15%、期末試験（レポート形式）70%で、総合的に成績評価する。</p>
---------	---

教科書／テキスト	<p>適宜、指示する(YeStudy)。</p>
----------	--------------------------

参考書	<p>適宜、紹介する。</p>
-----	-----------------

履修コード	058411
科目名	マス・コミュニケーション論 A
担当者名	深澤 弘樹

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 現代を生きる私たちにとって、世の中の出来事を知る手段としてマス・メディアはなくてはならない存在となっている。一方、インターネットの発達により、マス・メディアを媒介とするマス・コミュニケーション活動は日々、変化している。こうした点を踏まえ、本講義では、マス・コミュニケーションの基本的概念や活字から電子メディアに至るメディアの変容過程を概観するとともに、その機能について学ぶ。
---------------------	---

(到達目標)  
この講義では、現在のメディア社会において、マス・メディアによる社会的現実の構築作用やジャーナリズムの役割についての理解を深め、メディアを読み解く力を養うことを目的とする。

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 私たちの暮らしとメディア</li> <li>3. マス・コミュニケーションの基礎概念</li> <li>4. マス・コミュニケーション発達史 (1) : 活字メディア</li> <li>5. マス・コミュニケーション発達史 (2) : ラジオの登場</li> <li>6. マス・コミュニケーション発達史 (3) : テレビの登場</li> <li>7. マス・コミュニケーション発達史 (4) : テレビの発展</li> <li>8. マス・コミュニケーションの理論 (1) : 強力効果論～限定効果論</li> <li>9. マス・コミュニケーションの理論 (2) : 新強力効果論の展開</li> <li>10. マス・コミュニケーションの理論 (3) : カルチュラル・スタディーズ</li> <li>11. メディアによる社会的現実の構築 (1) : メディア・イベント論</li> <li>12. メディアによる社会的現実の構築 (2) : メディアとナショナリズム</li> <li>13. ジャーナリズム (1) : ジャーナリズムの定義</li> <li>14. ジャーナリズム (2) : 日本的報道の特質</li> <li>15. まとめ</li> </ol>
----------	---

準備学習	日頃から新聞、テレビなどから発せられる情報を漠然と受け入れるのではなく、批判精神、問題意識を持って接した上で授業に臨んでほしい。
------	--

履修上の留意点	遅刻、私語は厳禁。
---------	-----------

成績評価の方法	定期試験の成績70%、平常点30%を基本とし、小テストなどの成績も加味して総合的に評価する。
---------	--

教科書/テキスト	特に使用しない。毎回レジュメを配布して授業を進める。
----------	----------------------------

参考書	メディア、マス・コミュニケーションの基礎的知識を網羅したテキストを何冊か挙げておく。
-----	--

早川善治郎編著『新版 概説マス・コミュニケーション』学文社、3300円、ISBN978-4-7620-2055-1  
 吉見俊哉『メディア文化論』有斐閣、1800円、ISBN4-641-12190-7  
 清水英夫・林伸郎・武市英雄・山田健太『新版マス・コミュニケーション概論』学陽書房、2600円、ISBN978-4-313-41052-7

履修コード	058551
科目名	民法
担当者名	大宮 隆

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	民法は、我々の日常生活の基本法として、財産と家族に関する事項を規律する法律である。本講義は編別でいうと親族、相続が対象である。出生、婚姻、離婚、扶養、相続という家庭生活の中で人の一生に生起するほとんどの事柄に係わる身近な法律である。学説・判例の到達点を理解する。家庭裁判所調査官補試験などを目指す人に受講を勧めます。
---------------------	--

授業スケジュール	親族—①婚姻、離婚 ②親子 ③親権、後見補佐補助 ④扶養 相続—①遺言 ②法定相続 ③遺留分
----------	--

準備学習	予習が必要である。
------	-----------

履修上の留意点	教科書、条文を読むこと。
---------	--------------

成績評価の方法	平常点と試験の成績を総合して、評価する。
---------	----------------------

教科書/テキスト	『新民法概説 (3) 親族・相続』(有斐閣) 1,800円 ISBN4-641-11265-7
----------	--

参考書	適宜紹介する。
-----	---------

履修コード	098801
科目名	労働法
担当者名	藤本 茂

授業概要/ 到達目標 (わらい)	<p>今日、雇用社会は、能力主義人事管理の導入に見られるように大きく変貌しています。労働法は、労働問題を平和的に解決する方法を検討する法領域です。この変動に無関係ではいられません。</p> <p>労働者に降りかかるさまざまな事象は、最近では雇用関係法領域において顕著です。たとえば、労働基準法改正（近くでは労働時間や年次有給休暇など）、男女雇用平等、労働契約法などです。</p> <p>本講義では雇用関係法領域を中心に、基礎的知識を身につけることを到達目標にしています。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>下記事項について、基礎的知識を学びつつ、現代的課題に言及します。</p> <p>1 回目の授業のときにプリントを配布してガイダンスをします。</p> <p>以下に、年間スケジュールを掲げます。ただし、重要な裁判などホット・ 이슈ーが出されればそれを中心にしたテーマに急きよ変更することもあります。また、授業中の理解の様子から変わることもあります。また、調整の回も設けました。したがって、以下のスケジュールは目安です。</p> <p>第1回 ガイダンスー労働法分野と授業で扱う分野  第2回 労働法の対象である雇用社会と労働運動と  第3回 労働法の基礎的考え方  第4回 労働関係の主人公ー労働者、使用者、労働組合  第5回 労働契約と労働契約法  第6回 労働条件の最低基準の法定① 労働の自主性の確保  第7回 労働条件の最低基準の法定② 最低基準の定立の意味  第8回 調整  第9回 雇用における平等① 労基法3条  第10回 雇用における平等② 男女賃金差別の禁止  第11回 雇用における平等③ 男女雇用機会均等法  第12回 労働条件の集団的決定① 労働契約と就業規則  第13回 労働条件の集団的決定② 就業規則について  第14回 労働条件の集団的決定③ 労働組合の役割  第15回 労働条件の集団的決定④ 団体交渉・労働協約  第16回 雇用の入口① 採用  第17回 雇用の入口② 内定制度・試用制度  第18回 人事異動 配転  第19回 雇用の終了① 個別労働関係の終了  第20回 雇用の終了② 法による解雇規制  第21回 雇用の終了③ 解雇権濫用  第22回 調整  第23回 賃金・賞与・退職金① 賃金支払いの原則など  第24回 賃金・賞与・退職金② 賞与・退職金  第25回 労働時間① 労働時間に対する規制  第26回 労働時間② 変形制度など  第27回 労働時間③ 労働時間の例外  第28回 年次有給休暇① 年休権の法的性質  第29回 年次有給休暇② 時季指定・時季変更、計画年休  第30回 調整</p>
----------	--

準備学習	テキストを読むこと（少なくとも該当単元のところは読んで授業に臨んでください）。新聞を読むことなどです。現代雇用問題に関する新書なども読んでください。
------	--

履修上の留意点	出席は義務。欠席はマイナス。私語はNo、携帯電話は0ff、内職はNo。そして無断で席を立つこともNo。いわゆる授業のマナーは守ってください。配布プリントは取り上げる項目を列挙したレジュメや資料です。教科書は予習や復習をする上で欠かせないアイテムでしょう。憲法、民法、社会保障法のほか、社会政策は特に履修してほしい科目です。
---------	---

成績評価の方法	成績は、学年末試験がメインで、受験しなければ評価が付きません。レポートや中間試験そして出欠も考慮して評価します。追試験は実施します。
---------	--

教科書／テキスト	教科書は、学修する上での必要アイテムです。学修に臨む自己の熱意によって各自で決めてください。よくわからないという方には、金子征史・藤本茂・高野敏春・大場敏彦共著『基礎から学ぶ労働法Ⅰ[第2版]』（エイデル研究所 2010）を参考までに。もとより、これ以外でもかまいませんが、予備校のテキストはその目的とするところが異なりますので、認めません。
----------	---

参考書	概説書・参考書をいくつか、第1回目の授業において紹介します。六法は最新のもの（法律改正や制定があるので特に注意）。そして、労基法施行規則の載っているものを用意してください。詳しくは、第1回授業で配布するプリントで。
-----	---

その他	各々の事項について法的にはどのように考えていくのか、イメージを描きやすいように、裁判例など具体的な例を掲げながら授業を進めます。
-----	--

履修コード	073701
科目名	老年心理学
担当者名	針金 まゆみ

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義では、生涯発達という観点を軸に、前半では、心身の加齢変化の特徴について学び、後半では、高齢者が直面する問題とそれに対する心理的援助・対応について学ぶ。特に、心理臨床の応用場面として、認知症や脳卒中の後遺症などによるコミュニケーション障害のある高齢者について、具体例を紹介しながら進める。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>前期</p> <p>第1回-2回：少子高齢社会の到来と高齢者の現状</p> <p>第3回-4回：加齢と生涯発達</p> <p>第5回-6回：身体に加齢変化</p> <p>第7回-9回：感覚・知覚・認知機能の加齢変化</p> <p>第10回-11回：高齢者のアセスメント技法</p> <p>第12回-14回：パーソナリティと適応</p> <p>第15回：まとめ</p> <p>後期</p> <p>第16回-17回：高齢者の暮らしと人間関係</p> <p>第18回-19回：老年期の精神病理（1）喪失体験、孤独、死</p> <p>第20回-21回：老年期の精神病理（2）自殺、うつ</p> <p>第22回-25回：老年期の精神病理（3）認知症</p> <p>第26回-27回：高齢者とのコミュニケーション</p> <p>第28回-29回：障害をもつ高齢者に対する心理的援助と対応</p> <p>第30回：まとめ</p>
----------	--

準備学習	講義の中で紹介する参考書を読むこと。
履修上の留意点	
成績評価の方法	期末試験（後期末）および小レポート（2回）。成績の配分は、試験8：小レポート2とする。
教科書／テキスト	指定しない
参考書	講義の中で随時紹介する。



# 專 門 教 育 科 目

## (6) 社 会 学 科

### 社 会 福 祉 学 專 攻





履修コード	066221
科目名	医学一般
担当者名	小林 臻

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	将来、社会福祉領域で働く専門職が心得ておくべき、医学一般に関する知識の体得を目的とする
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>①医学の歩みについて学びながら、臨床医学の発展を概観する (1回)</li> <li>②人体の構造と機能について学習し、生命現象に理解を深める (2~5回)</li> <li>③現代社会における主な疾病について、その成因と実態について学ぶ (6~7回)</li> <li>④老化現象と高齢者の病気について学び、理解を深める (8回)</li> <li>⑤精神障害と精神保健について概観し、社会福祉と関係の深い疾病について学習する (9~10回)</li> <li>⑥リハビリテーション医療の発展の背景と、保健・医療・福祉との相互関係や専門職の連携などについて学ぶ (11~12回)</li> <li>⑦最近の公衆衛生の現状を概観する (13回)</li> <li>⑧保健医療対策の現状を概観し、わが国の健康づくり対策の実際や、感染症・結核・難病及び認知症などの対策について学ぶ (14回)</li> <li>⑨医事法制の概要について学ぶ (15回)</li> </ol>
----------	--

準備学習	時間内に理解できなかった内容については必ず復習する
------	---------------------------

履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ テレビ、新聞などの関連ニュースや記事に関心を持つ</li> <li>・ 解剖・生理に関する内容については予習する</li> <li>・ 遅刻20分以上は欠席とみなす</li> </ul>
---------	--

成績評価の方法	試験：出席：課題＝5：3：2の比重で評価、追試も実施する
---------	------------------------------

教科書/テキスト	1) 社会福祉士養成講座編集委員会 2) 『人体の構造と機能及び疾病』 3) 中央法規 4) 2200円+税 5) ISBN 978-4-8058-3101-4
----------	--

参考書	1) 安藤幸夫 2) 人体の不思議 3) ナツメ社 4) 1500円+税 5) ISBN 978-4-8163-4017-8
-----	--

その他	なし
-----	----

履修コード	065821 065822
科目名	医療福祉論
担当者名	宮本 博司

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	保健医療サービスにおいて、生活相談・援助を行う社会福祉士を医療ソーシャルワーカーと定義している。医療福祉論では、医療ソーシャルワークの歴史、理論、技術について学び、医療ソーシャルワークのあり方について理解を深め、医療ソーシャルワーカーがどのような倫理観・価値観に基づいて、ソーシャルワーク実践を重ねているか。また、他専門職との連携・協働、保健医療サービスを支える制度・施設・資格、チームアプローチの理論と実践事例を学ぶことを目的としている。また、現場を目指す学生にとって、保健医療の現場における現実や課題を理解し、考察できるような授業を目指す。
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 保健医療サービス体系と施策 保健医療サービスの構成要素と推移、医療法の改正</li> <li>② 保健医療サービス体系と施策 医療法・保健医療政策における医療施設の機能・類型</li> <li>③ 保健医療サービス体系と施策 診療報酬における医療施設の機能・類型</li> <li>④ 保健医療サービス体系と施策 医療保険制度と診療報酬体系</li> <li>⑤ 保健医療サービス体系と政策の課題</li> <li>⑥ 医療ソーシャルワーク 医療ソーシャルワーカーの歴史と業務の枠組み</li> <li>⑦ 医療ソーシャルワーク 医療ソーシャルワーカーの業務内容</li> <li>⑧ 医療ソーシャルワークの課題</li> <li>⑨ 医療ソーシャルワーク実践事例 「急性期・回復期・維持期リハビリテーション」</li> <li>⑩ 医療ソーシャルワーク実践事例 「慢性疾患」</li> <li>⑪ 医療ソーシャルワーク実践事例 「難病疾患」</li> <li>⑫ 医療ソーシャルワーク実践事例 「ターミナルケア」</li> <li>⑬ 保健医療サービスの連携の理論と実践 「チームアプローチ」</li> <li>⑭ 保健医療サービスの連携の理論と実践 「地域連携とクリティカルパス」</li> <li>⑮ 保健医療サービスの連携の理論と実践 「ケアマネジメント」</li> </ol>
----------	--

準備学習	保健医療分野の課題をリサーチすることを目的として、ニュースや新聞記事から、保健医療分野に関連するテーマを見つけ出し、現状を分析し、課題について考察を深める。福祉の視点から、どのような支援や援助が考えられるか、レポートを作成する。
------	--

履修上の留意点	授業への主体的な参加を望む。
---------	----------------

成績評価の方法	定期試験、課題レポート、授業出欠等により評価。
---------	-------------------------

教科書/テキスト	新・社会福祉士養成講座17「保健医療サービス」 中央法規出版
----------	--------------------------------

参考書	開講時に指示する。
-----	-----------

履修コード	066301
科目名	介護概論
担当者名	金 美辰
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	介護の役割と福祉サービスの援助者に求められる倫理観を踏まえ、援助者としての基本的姿勢を理解する。
授業スケジュール	<p>介護とは何かについて考え、介護福祉の概念や福祉サービスの援助者に求められる倫理について法律や専門生の観点から学習し、利用者主体の介護とその具現化としての実践の技法について学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 介護とは何か：介護のイメージ</li> <li>3. 介護の歴史</li> <li>4. 利用者理解</li> <li>5. 利用者主体とは何か</li> <li>6. 介護福祉士に求められる倫理</li> <li>7. コミュニケーション技法等介護技術総論</li> <li>8. 認知症高齢者への理解</li> <li>9. 認知症高齢者への理解</li> <li>10. 施設介護・在宅介護</li> <li>11. 介護保険について</li> <li>12. 施設における危機管理・福祉用具</li> <li>13. チームアプローチ (1)</li> <li>14. 同上 (2)</li> <li>15. まとめ</li> </ol>
準備学習	特になし。
履修上の留意点	
成績評価の方法	出席状況：20% 課題達成度：20% 定期試験：60%
教科書／テキスト	授業中に紹介する。
参考書	介護福祉学 介護福祉学研究会 中央法規

履修コード	066311
科目名	介護概論
担当者名	金 美辰
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	介護の役割と福祉サービスの援助者に求められる倫理観を踏まえ、援助者としての基本的姿勢を理解する。
授業スケジュール	<p>介護とは何かについて考え、介護福祉の概念や福祉サービスの援助者に求められる倫理について法律や専門生の観点から学習し、利用者主体の介護とその具現化としての実践の技法について学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 介護とは何か：介護のイメージ</li> <li>3. 介護の歴史</li> <li>4. 利用者理解</li> <li>5. 利用者主体とは何か</li> <li>6. 介護福祉士に求められる倫理</li> <li>7. コミュニケーション技法等介護技術総論</li> <li>8. 認知症高齢者への理解</li> <li>9. 認知症高齢者への理解</li> <li>10. 施設介護・在宅介護</li> <li>11. 介護保険について</li> <li>12. 施設における危機管理・福祉用具</li> <li>13. チームアプローチ (1)</li> <li>14. 同上 (2)</li> <li>15. まとめ</li> </ol>
準備学習	特になし。
履修上の留意点	
成績評価の方法	出席状況：20% 課題達成度：20% 定期試験：60%
教科書／テキスト	授業中に紹介する。
参考書	介護福祉学 介護福祉学研究会 中央法規

履修コード	066401
科目名	介護技術
担当者名	金 美辰

授業概要/ 到達目標（ねらい）	高齢や障害によって阻害されている生活上のニーズや課題に対して利用者の個性を配慮し、自立支援の視点にたった援助方法を身につける。
--------------------	---

授業スケジュール	<p>介護技術の基礎知識や介助時の留意点についての講義やグループでの演習を通して、利用者の自立支援の視点にたった介護技術を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 援助に必要な技術：コミュニケーション・観察・アセスメント</li> <li>3. 環境整備：居住環境の安全</li> <li>4. 運動・移動の技法：ボディメカニクス・上方移動・水平移動</li> <li>5. 運動・移動の技法：体位変換</li> <li>6. 運動・移動の技法：移乗・移動介助</li> <li>7. 食事介助（講義）</li> <li>8. 食事介助（演習）</li> <li>9. 排泄介助</li> <li>10. 排泄介助</li> <li>11. 衣生活の支援</li> <li>12. 福祉機器と活用法(1)</li> <li>13. 同上(2)</li> <li>14. まとめ(1)</li> <li>15. まとめ(2)</li> </ol>
----------	---

準備学習	特になし。
履修上の留意点	グループでの演習授業であり、前後授業の関連性が高いので出席・授業態度を重視する。
成績評価の方法	出席状況：30% 授業態度：30% レポート：40%
教科書／テキスト	授業中に紹介する。
参考書	講義の中で紹介する。
その他	実技演習授業であるので動きやすい服装が望ましい。

履修コード	066411
科目名	介護技術
担当者名	金 美辰

授業概要/ 到達目標（ねらい）	高齢や障害によって阻害されている生活上のニーズや課題に対して利用者の個性を配慮し、自立支援の視点にたった援助方法を身につける。
--------------------	---

授業スケジュール	<p>介護技術の基礎知識や介助時の留意点についての講義やグループでの演習を通して、利用者の自立支援の視点にたった介護技術を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 援助に必要な技術：コミュニケーション・観察・アセスメント</li> <li>3. 環境整備：居住環境の安全</li> <li>4. 運動・移動の技法：ボディメカニクス・上方移動・水平移動</li> <li>5. 運動・移動の技法：体位変換</li> <li>6. 運動・移動の技法：移乗・移動介助</li> <li>7. 食事介助（講義）</li> <li>8. 食事介助（演習）</li> <li>9. 排泄介助</li> <li>10. 排泄介助</li> <li>11. 衣生活の支援</li> <li>12. 福祉機器と活用法(1)</li> <li>13. 同上(2)</li> <li>14. まとめ(1)</li> <li>15. まとめ(2)</li> </ol>
----------	---

準備学習	特になし。
履修上の留意点	グループでの演習授業であり、前後授業の関連性が高いので出席・授業態度を重視する。
成績評価の方法	出席状況：30% 授業態度：30% レポート：40%
教科書／テキスト	授業中に紹介する。
参考書	講義の中で紹介する。
その他	実技演習授業であるので動きやすい服装が望ましい。

履修コード	058451
科目名	家族とジェンダーの社会学A
担当者名	松信 ひろみ

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義のテーマは、現代の結婚と家族にかかわる諸現象や問題を、社会的な観点から考察することである。統計的なデータから、さまざまな現象や問題についての現状を読み取り、その現状を社会的な観点から把握できる能力を養うことが目標となる。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>まず初めに、家族社会学の基本的な考え方を解説し、近代家族から現代家族への変遷の過程について説明する。続いて、現代家族をめぐる具体的な現象や問題を取り上げ、各々について統計的なデータなども用いて、現状の解説と社会的な観点・理論からの分析・検討を行う。具体的には、結婚の変容、ワーク・ライフ・バランス、子どもの社会化と子育て事情、共働き夫婦の家族関係、家族と地域における高齢者、離婚とひとり親家族、家族と暴力などである。</p> <p>第1回 インTRODakション  第2回～3回 社会変動と家族変動  第4回 家族規範の変化と結婚の変容  第5回 家族の生活時間とワーク・ライフ・バランス  第6回 共働き夫婦の家族関係  第7回 子どもの社会化と家族  第8回 現代家族の子育て事情  第9回 中年期から高齢期への移行と家族  第10回 高齢者と地域  第11回 離婚、ひとり親家族とステップ・ファミリー  第12回 家族と暴力  第13回～14回 これからの家族と家族政策  第15回 まとめ</p>
----------	---

準備学習	現代家族にかかわる問題や現象で気になることがあったら、日ごろからチェックして、その問題・現象の構造について、自分なりに検討しておいてほしい。
------	--

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	平常点（出席・コメントペーパー）30%、レポート70%
---------	-----------------------------

教科書／テキスト	使用するが、開講時に指示する
----------	----------------

参考書	適宜紹介する
-----	--------

履修コード	064701
科目名	家族療法
担当者名	和田 のり恵

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	福祉の専門家は、人間と心についての深い理解が必要です。それには、心理療法の知識が役に立ちます。この講義では、家族全体を支援の対象とする家族療法という心理療法の一分野を切り口としながら、人間と心について具体的な形で理解を深められることを目指して授業を行います。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>教育目標（到達目標）は、次の2点です。（1）人間及び心について、心理学を中心とした科学的な考え方を理解し、自分の言葉で具体的に説明できること。（2）家族について、家族療法の基本概念を理解し、自分の言葉で具体的に説明できること。</p> <p>（1）INTRODUCTION / （2）心理学と心理療法について（福祉の専門家が心理療法を学ぶとどのようなよいことがあるのか） / （3～10）家族療法の考え方と特徴 / （11～15）事例をもとに、家族療法の考え方と技法を紹介 / （16～20）家族療法的心理臨床に役立つ諸技法の具体例 / （21～25）発達という視点について（特に家族の発達という考え方について） / （26～30）家族をめぐる今日の問題とその援助</p> <p>*以上の計画の中で、適宜、映像資料や新聞雑誌等の時事的資料に基づいた、人間や心についての考察・課題を行う。</p>
----------	--

準備学習	この科目は、授業の中で、いろいろなことを考えたり感じたりすることこそ重要なので、事前の準備は必要ありません。配布したプリントを読み直したり、自分の考えを整理したりする事後の学習に力を入れてください。
------	---

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	後期末に行うレポートまたは試験（履修学生の希望に合わせて決める）を中心とし、普段行う授業へのコメントカードや小課題の提出状況およびその質等を加味します。また、その学生の利益になる場合には、出席（これは興味・関心の反映としてとらえる）等の状況も考慮します。
---------	---

教科書／テキスト	使用しない。必要に応じ、プリントを配布する。
----------	------------------------

参考書	履修学生に合わせて、授業の中で、その時学生に役に立つと思われるものを適宜紹介します。
-----	--

履修コード	065101 065102
科目名	家庭福祉論
担当者名	武山 梅乗

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	日本の現代家族が抱える諸問題を女性、子ども、高齢者という切り口から概観した上で、〈家族福祉〉の限界を指摘し、〈家族〉という枠組みを超えて地域、行政、NPO、企業等を巻き込みながら展開される〈家庭福祉〉の可能性について受講生一人ひとりが模索できるようになることを目的としています。
---------------------	---

授業スケジュール	I. 家庭福祉の視点 第1回：家庭福祉の視点、第2回：世帯構造と核家族化、第3～4回：家族制度とは、第5回：核家族の機能と構造、第6回：家族周期とライフコース、第7回：イエ制度、第8回：〈近代家族〉とは II. 女性と家庭福祉 第9～11回：フェミニズムからみた家族-母性、専業主婦、中絶、第12～13回：女性労働と育児、第14回：一人親家庭の諸問題、第15回：夫婦別姓と婚姻の意義 III. 子どもと家庭福祉 第16～17回：児童福祉の体系にみる〈こども〉観、第18回：消費としての子育てと〈地域〉における子育て、第19～20回：児童虐待と家庭 IV. 高齢者と家庭福祉 第21回：ライフサイクルの変化にみる高齢者の諸問題、第22～23回：家族と高齢者介護、第24～25回：高齢者にとっての居住福祉、第26回：高齢者虐待 V. 国家・地域と家庭福祉 第27回：日本における家族政策と福祉国家論、第28回：在宅福祉と地域 VI. 民間社会福祉と家庭福祉 第29回：家庭福祉の市場性、第30回：非営利セクターと家庭福祉-配食サービスを事例として
----------	--

準備学習	講義に入る以前の学習としては、とにかく日本における現代家族に興味をもち、国勢調査や国民生活基礎調査といった統計で世帯構造等について調べておくことを望みます。講義開始以降は、配布する講義レジュメに掲載してある課題をできれば事前に学習しておくことを期待します。
------	--

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	出席状況を勘案した上で、講義期間中に数回提出を求める課題（2割）、夏休み明けに提出を求める小レポート（3割）、学年末の定期試験（5割）から総合的に評価します。
---------	---

教科書/テキスト	教科書は特に指定しません。随時配布するプリントに従って講義を進めます。
----------	-------------------------------------

参考書	参考書は講義期間中に随時紹介します。
-----	--------------------

履修コード	073401
科目名	環境心理学
担当者名	林 久美

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	私たちをとりまく「環境」とは？
---------------------	-----------------

実にさまざまな要素からなる「環境」。人間が存在し、その周囲にある空間-室内、建築、都市…すなわち「環境」はいろいろな尺度で捉えることができる。そのなかで私たちの生活は存在し、人間と環境は常に相互に影響を与え合っている。

人間がより豊かで多様な関わりを持てる環境を作るために、人間が環境をどのように知覚・認知しているか、あるいは環境における人間行動・生態など、人間が本来的に持つ性質を実証的に明らかにする観察・実験例（環境行動研究：Environment-Behavior Studies）をもとに、それを基盤とした人間の観点に基づく環境デザインの理論的背景を得ることを目的とする。

授業スケジュール	1) 環境心理学の概観・問題意識 ・環境行動デザインの意義・建築計画学と環境心理学
----------	--

2) 人間の心理・行動とそのデザインへの応用  
・人間のスケール、人間の周りの空間・環境と行動・環境のアフォーダンス・プロクセミクス・パーソナルスペース・テリトリー・ディフェンシブルスペース・空間の知覚/認知・ウェイファインディング

3) 建築計画学における環境心理研究・実践  
・住まいと環境心理学・都市と環境心理学・子どもの発達と環境心理学・老いと環境心理学

準備学習	身の回りの出来事を客観視する習慣をつけることが望ましい。「あたりまえ」と思っていることを改めて見つめ直す、等。
------	---

履修上の留意点	日常生活に関連する事柄が多いので、日頃から自身の行動、周辺環境との関わりについて興味を持っていること。
---------	---

成績評価の方法	レポートによる。
---------	----------

教科書/テキスト	
----------	--

参考書	・日本建築学会編：人間環境学、朝倉書店、1998 ・高橋鷹志、長澤泰、西出和彦編：シリーズ〈人間と建築〉1 環境と空間、朝倉書店、1997 ・ジョン・ラング著、高橋鷹志監訳「建築理論の創造 建築デザインにおける行動科学の役割」鹿島出版会（1992） ・高橋鷹志＋チームEBS編著：環境行動のデータファイル-空間デザインのための道具箱-、彰国社、2003
-----	---

履修コード	058501
科目名	行政法
担当者名	鶏徳 啓登

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	現代国家は、一般に福祉国家と言われるようになったが、我国も憲法制定後60年経過して、国内的・国内的に、社会情勢の変化に伴う新しい問題が生じてきている。国内的には戦後の経済政策の下になされた約1万件に上る規制の緩和がなされる一方で、国民の高齢化問題に対処すべく消費税率の引き上げ、宗教法人法の改正による宗教団体の規制問題など枚挙に暇がない。 本講義は、種々の行政作用を中心に行政法の輪郭を理解することをねらいとする。
---------------------	--

授業スケジュール	1回～3回 : 行政法の意義について(法令の種別と法の解釈を含む)。 4回～6回 : 行政作用と行政行為について。 7回～15回 : 行政行為(特許や許可等)の意義、内容、効力について。 16回～20回 : 行政上の強制手段と行政上の処罰について。 21回～25回 : 国家による賠償と補償について。 26回～30回 : 行政上の不服申し立てと行政事件訴訟について。
----------	--

準備学習	本講義は、実定法を中心に行うので、常時六法には目を通すこと。
------	--------------------------------

履修上の留意点

成績評価の方法	成績評価は出席状況と試験またはレポートによる。
---------	-------------------------

教科書/テキスト	原田尚彦著 『行政法要論』(学陽書房) 3,000円: ISBN4-313-31222-6 『小六法』 出版社・定価各種
----------	---

参考書	塩野宏著『行政法I・II』(有斐閣) 4,000円 その他、教場にて説明。
-----	---------------------------------------

履修コード	117501
科目名	経済原論
担当者名	福田 慎

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義では、基本的なミクロ経済学とマクロ経済学について扱う。特に、公務員試験の他国家試験に対応できる知識を得ることを目的としている。こうした試験では、それ相応の問題が設定されているため、それに対応できる知識が得られる。また、実際の経済への応用を念頭に置きながら講義を進めていく。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>(前期)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンスと成績評価</li> <li>2. 消費者理論：最適消費点と無差別曲線</li> <li>3. 消費者理論：代替効果と所得効果</li> <li>4. 消費者理論：効用関数の計算と需要曲線</li> <li>5. 消費者理論：需要の価格弾力性</li> <li>6. 生産者理論：利潤最大化と費用関数</li> <li>7. 生産者理論：損益分岐点と操業停止点</li> <li>8. 生産者理論：長期均衡、課税と費用曲線</li> <li>9. 生産者理論：特定の生産関数の扱い</li> <li>10. 不完全競争の生産者理論：独占と寡占</li> <li>11. 不完全競争の生産者理論：独占的競争</li> <li>12. 余剰分析 (1)</li> <li>13. 余剰分析 (2)</li> <li>14. 余剰分析 (3)</li> <li>15. 前期の復習</li> </ol> <p>(後期)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国民所得の決定 (1)</li> <li>2. 国民所得の決定 (2)</li> <li>3. IS-LM分析</li> <li>4. 為替レート考慮したIS-LM分析</li> <li>5. 消費関数と投資関数</li> <li>6. 貨幣理論</li> <li>7. 乗数理論 (1)</li> <li>8. 乗数理論 (2)</li> <li>9. 総需要・総供給分析 (1)</li> <li>10. 総需要・総供給分析 (2)</li> <li>11. 総需要・総供給分析 (3)</li> <li>12. 総需要・総供給分析 (4)</li> <li>13. 経済成長の理論 (1)</li> <li>14. 経済成長の理論 (2)</li> <li>15. 後期の復習</li> </ol>
----------	--

準備学習	教科書に目を通しておいください。
履修上の留意点	ミクロ経済学ではある程度の数学の知識を要しますが、その都度説明していくので、数学初心者でも履修は可能です。
成績評価の方法	試験60%、レポート40%で評価する。
教科書／テキスト	伊藤元重(2003)『ミクロ経済学』日本評論社 伊藤元重(2002)『マクロ経済学』日本評論社
参考書	中谷巖(2000)『入門マクロ経済学』日本評論社 奥野正寛(2008)『ミクロ経済学』東京大学出版会
その他	事前に配布する資料と板書による講義形式です。



履修コード	063421
科目名	権利擁護と成年後見制度
担当者名	徳田 暁

授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p>(授業概要) 本科目は、社会福祉士指定科目の1つであり、社会福祉士の相談援助活動に必要な法制度や権利擁護活動について具体的に学習していきます。</p> <p>(1) 相談援助活動と法制度との関わりについての理解 ・日本国憲法の基本原理、民法・行政法・その他関係法 ・成年後見制度の実際と後見人等の役割</p> <p>(2) 福祉分野における権利擁護活動の実際についての理解 ・社会的排除や虐待などの人権侵害と権利擁護活動 ・認知症等の日常生活支援が必要な人への権利擁護活動</p> <p>(到達目標) ともすれば難しく敬遠されがちな法律が、実は社会生活や福祉と密接にかかわっていることを理解するとともに、権利擁護というものを単に情緒的観点から見るに止まらず、法的な観点から分析検討し解決に導ける素養を身につけることを目標とします。</p>
授業スケジュール	<p>(1～4) 相談援助の活動と法 (5～9) 成年後見制度 (10) 日常生活自立支援事業 (11) 権利擁護にかかわる関係機関、専門職 (12～15) 成年後見制度の実際と権利擁護 (高齢者虐待、障害者虐待、介護事故、触法障害者の更生等。)(なお、授業スケジュールは、受講学生の理解度などに応じて、若干の調整を行います。)</p>
準備学習	日ごろから授業内容に関連した新聞報道等に関心を持つこと。
履修上の留意点	
成績評価の方法	レポート60% (夏休みに出題)、平常点40% (授業への参加姿勢、小テストの点数等) を目安として総合的に評価します。
教科書/テキスト	講師が作成したレジュメを使用して説明します。
参考書	<p>①大貫正男他編集「権利擁護と成年後見制度」(中央法規出版・新・社会福祉士養成講座第19巻)(国家試験の受験を考えている人は自習用に持っているとう便利です。)</p> <p>②社団法人成年後見センター・リーガルサポート「後見六法2010年版」(民事法研究会) (法的思考をするに当たって六法を見ることは必須の習慣です。授業中にも適宜参照してもらうことがあります。)</p>

履修コード	065321 065322
科目名	公的扶助論
担当者名	伊藤 秀一

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>わが国の憲法にみる生存権保障を根底から支え、その具現化された制度が公的扶助(生活保護)であり、社会保険と並んで社会保障の主要部門を構成するものである。公的扶助は公的責任に基づき貧困者に対して行われる所得保障の制度であり、その財源は租税によって賄われる。今日、近年の経済・雇用環境下で公的扶助のもつ国民生活のナショナル・ミニマムとセーフティネットという重要な機能が改めて問われ出している。</p> <p>本講の中心的テーマは、わが国の社会保障制度体系における生活保護制度をどのように位置づけ、どのように方向づけるかである。このような問題意識のもとに、慈恵的救済から権利的保障へと歩んできた公的扶助の歴史をはじめ、現行法の目的、原理、原則等の仕組みや制度内容、行政運営等を体系的に講述する。また、近年の生活保護に関する新たな争訟動向として注目されている、基本的人権を擁護し社会正義を実現する弁護士らの権利擁護活動・運動も取り上げたい。さらに、地域社会の変貌により人々の「つながり」が希薄化したなかで「関係性の貧困」とも称される社会的排除という概念についても言及する。</p> <p>到達目標としては①低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要とその実際について理解する。②相談援助活動において必要となる生活保護制度や生活保護制度に係る他の法制度について理解する。③自立支援プログラムの意義とその実際について理解する。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>第1回：開講に当たって</p> <p>第2回：貧困概念の変遷</p> <p>第3回：公的扶助の概念と社会保障制度下の位置と役割</p> <p>第4回：公的扶助制度の歴史的展開(イギリス)</p> <p>第5回：同上</p> <p>第6回：同上(日本)</p> <p>第7回：同上</p> <p>第8回：生活保護法の目的(最低生活保障と对人的自立支援)</p> <p>第9回：生活保護法の原理と原則</p> <p>第10回：生活保護制度の仕組みと内容</p> <p>第11回：生活保護制度の行政運営と他職種連携</p> <p>第12回：生活保護制度の争訟制度と日英の権利擁護活動</p> <p>第13回：生活保護における相談援助活動</p> <p>第14回：低所得者対策</p> <p>第15回：生活保護制度の諸課題</p>
----------	--

準備学習	授業の最後に、次回の講義で扱うテーマ・問題を指示するので、事前にテキストの該当箇所を目配りしておく。できれば、疑問点や質問事項をまとめておく。
履修上の留意点	指定されたテキスト以外の参考文献や新聞記事等を活用しながら学習を深め、「学生参加」型の授業を心がけたいと考えているので、貧困問題に対する関心をもってほしい。
成績評価の方法	評価は、期末試験(7割)と平常点(3割)による。
教科書/テキスト	伊藤秀一編著『低所得者に対する支援と生活保護制度(社会福祉士シリーズ16)』、弘文堂、2011年、2500円+税、ISBN978-4-335-61086-8
参考書	随時紹介する。
その他	視聴覚教材を活用したり、受講者による意見発表会等も行う。

履修コード	065621 065622
科目名	児童福祉論
担当者名	村田 一昭
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	1989年に国連で子どもの権利条約が採択されて以降、「子どもの最善の利益」の追求を基本とした子どもの権利擁護サービスが重視され、伝統的な児童福祉から新たな児童福祉へと制度や実践の変革が進められてきています。そこでこの授業では、子どもと家庭を取り巻く現状を踏まえながら、子どもと家庭のウェルビーイング(well-being)をめざす新たな児童福祉である子ども家庭福祉について、その基本的枠組とソーシャルワーク実践に関する理解を深めることを目標にしています。
授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子ども家庭福祉の理念 <ol style="list-style-type: none"> <li>①ウエルフェアからウェルビーイングへ (第1回)</li> <li>②子どもの権利条約 (第2回)</li> <li>③児童福祉法の基本原理 (第3回)</li> </ol> </li> <li>2. 子どもと家庭をめぐる最近の動向 <ol style="list-style-type: none"> <li>①少子化、子どもの貧困 (第4回)</li> <li>②子ども虐待、DV (第5回)</li> <li>③少年非行・少年犯罪、不登校 (第6回)</li> </ol> </li> <li>3. 子ども家庭福祉の法体系 <ol style="list-style-type: none"> <li>①児童福祉法 (第7回)</li> <li>②児童福祉六法 (第8回)</li> <li>③関連法 (第9回)</li> </ol> </li> <li>4. 子ども家庭福祉の実施体制 <ol style="list-style-type: none"> <li>①子ども家庭福祉行政の仕組み (第10回)</li> <li>②子ども家庭福祉の実施機関 (第11~12回)</li> </ol> </li> <li>5. 子ども家庭福祉への歩み (第13回)</li> <li>6. 子ども家庭福祉施策の現状と課題 (第14回)</li> <li>7. 子ども家庭福祉のソーシャルワーク実践の実際 (第15回)</li> </ol>
準備学習	<ol style="list-style-type: none"> <li>①各テーマ終了時に小テストを実施しますので、毎回の授業内容の復習を必ずしておいてください。</li> <li>②授業内容に関連した新聞記事、ネット記事を読んでください。</li> </ol>
履修上の留意点	可能な限り、受講生とのコミュニケーションを図りながら授業を進めたいので、質問や感想などをリアクションペーパーに積極的にコメントしてください。
成績評価の方法	小テストの累積点と課題レポートに平常点 (出席およびリアクションペーパー) を加味して評価します。
教科書/テキスト	高橋重宏・山縣文治・才村 純編「子ども家庭福祉とソーシャルワーク (第3版)」 (社会福祉基礎シリーズ⑥児童福祉論) 有斐閣 ¥2,000 ※授業内容により、プリントを配布します。
参考書	随時、紹介します。
その他	<ol style="list-style-type: none"> <li>①授業はパワーポイントを使用</li> <li>②各テーマ終了時に小テスト実施</li> <li>③YeStudy利用</li> </ol>

履修コード	063441
科目名	司法福祉論
担当者名	三澤 孝夫

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>司法福祉論として、社会福祉士の指定科目の1つである「更生保護制度」を中心に講義していく。あわせて、基礎となる司法制度や実際の相談援助活動における司法福祉分野の現状等も紹介していく。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 相談援助活動において必要となる更生保護制度について理解する。</li> <li>2. 更生保護を中心に、司法制度の基本部分、刑事司法・少年司法分野で活動する組織、団体及び専門職について理解する。</li> <li>3. 刑事司法・少年司法分野の他機関等との連携の在り方について理解する。</li> <li>4. 相談援助活動において必要となる医療観察制度の概要と対象者援助の状況を理解する。</li> </ol>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>更生保護と社会福祉[1]          更生保護制度の概要①(刑事司法の中の更生保護、保護観察)[2~3]          更生保護制度の概要②(犯罪の予防、被害者等の支援)[4]          更生保護制度の担い手[5~6]          更生保護制度における関係機関・団体との連携[7~8]          矯正施設と処遇[9~10]          医療観察制度の概要[11~12]          更生保護における近年の動向と課題[13~14]          相談援助活動における司法福祉分野の現状[15]          ※授業スケジュールは、受講学生の理解度などを確認しながら、若干の調整を行う場合もあります</p>
----------	--

準備学習	警察、検察、裁判所の違いや三審制など、日本の司法制度における一般的な常識部分については、一応、復習し、整理しておいてください。
------	---

履修上の留意点	授業については、静かに聴くことを受講の最低条件とするが、授業内容に関する疑問、意見は、気軽に積極的に出してください。
---------	--

成績評価の方法	出席、レポート、試験等により総合的に評価します。
---------	--------------------------

教科書/テキスト	パワーポイントと教科書を使用。
----------	-----------------

参考書	<p>講義は、基本的には、教科書の内容に沿って進めていきますが、講義においては、パワーポイントを使用し、教科書の図表等も表示しながら進めるため、教科書を必須にはいたしません。ただ、講義用のパワーポイントは、この教科書に準拠していますので、持参されると、より理解しやすいでしょう。また、社会福祉士の受験を考えている方は、講義中に国家資格試験について、教科書記載部分と照らして、ポイント等を話すときがありますので、持っている方がよいでしょう。</p> <p>◆森長秀 編「更生保護制度」(弘文堂 社会福祉士シリーズ 第20巻)</p>
-----	---

履修コード	066151 066152
科目名	社会学(福祉)
担当者名	武山 梅乗

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>社会福祉士(及び精神保健福祉士・社会福祉主事)を目指す学生を対象として、社会学の基礎的な知識(社会理論)を提示し、現代社会における今日的な諸問題や生活、及び人と社会との関係について理解することを通じて、より広い視点から(社会福祉)を展望する視点を養ってもらうことを目的としています。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>I 社会学の基礎概念(1~6回) 第1回:自我の社会性、第2回:アイデンティティと脱アイデンティティ、第3回:役割論、第4回:印象操作とドラマトゥルギー、第5回:集団と組織、第6回:官僚制の逆機能          II 現代社会論(7~10回) 第7回:ジェンダーとフェミニズム、第8回:女性らしさとダイエット、第9回:ラベリング理論とソーシャルインクルージョン、第10回:医療化と差別論          III 地域社会論(11~13回) 第11回:アーバンイズムとコミュニティ、第12回:国土計画と過疎過密、第13回:コミュニティからネットワークへー孤族を乗り越える途一          IV 社会変動論(14~15回) 第14回:近代化とは何か、第15回:消費社会と情報化社会</p>
----------	---

準備学習	教科書は講義開始前に一読しておいてください。また、試験までには講義期間中に随時指示する参考書等にも目を通しておけばより理解が深まります。
------	--

履修上の留意点	講義に入る前の事前学習としては教科書を一読しておくことを期待します。また、講義に入ってから、事前にYeS t u d y上にアップしておく資料等に目を通しておくこと、講義の各回終了時には教科書の課題等を用いて復習しておくこと希望します。
---------	--

成績評価の方法	出席状況を勘案した上で、学期末の試験(8割)と講義期間中に数回提出を求める課題(2割)から総合的に評価します。
---------	---

教科書/テキスト	武山梅乗・呉炳三『社会学の扉をノックする』学文社 ISBN 978-4-7620-1969-2
----------	---

参考書	参考書は講義期間中に随時紹介します。
-----	--------------------

履修コード	091001
科目名	社会政策
担当者名	光岡 博美

授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p>社会政策という科目は、経済学のなかでも古い歴史をもっている。その詳細については最初の講義で解説する。この講義計画では、社会政策とは、資本主義社会の各々の時代において発生する社会問題の原因を学問的に究明し、その問題を解決するための政策を多面的に研究することを目的とする学問である、と定義しておきたい。そして、この場合、社会政策という学問のなかで特に重視されてきたのは、労働問題や社会保障・福祉etcといった社会問題である。経済学という研究の分野は、財・サービスの生産・分配・消費に関する研究としてイメージされるが、これにたいして社会政策は労働力と生命の再生産が、どのような社会・経済のシステムとの関連で展開されているのかを研究する学問であるといつてよい。</p> <p>このような大きな領域を全般的に講義することは不可能であるから、この講義では現代の日本社会を念頭に置き、そこで重要と思われるテーマを設定し、各々のテーマについて講義、解説する。</p>
--------------------	--

授業スケジュール	<p>年間の具体的な講義スケジュールは、(1)現代日本の労働・雇用問題(5回)、(2)社会政策、労働関係、労働組合の理論(5回)、(3)戦後日本の労使関係史(6回)、(4)福祉国家の歴史と理論(3回)、(5)日本型福祉の現実(3回)、(6)現代日本の女性労働、フェミニズム論、(3回)を予定している。</p>
----------	--

準備学習	特になし
------	------

履修上の留意点	<p>受講者数が多いせいもあり、私語によって、授業が円滑に進行しないことがある。授業に支障が生ずる場合、厳しい措置を取る。</p>
---------	---

成績評価の方法	<p>期末試験で評価する。具体的な内容は授業時に詳しく説明する。</p>
---------	--------------------------------------

教科書／テキスト	
----------	--

参考書	<p>講義の内容と関連して参考書を適時指示する。また、毎講義ごとにレジュメを配布する。</p>
-----	---

履修コード	063461
科目名	社会調査の基礎
担当者名	東條 光雅

授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p>この授業では、社会調査を理解してもらうために、基本的事項、質的・量的調査法、基本統計や統計分析法に関して講義する。</p>
--------------------	--

授業スケジュール	<p>社会調査の意義・目的、質的調査法、量的調査法、調査法の種類、調査の手順、調査票の作り方、サンプリング法、基本統計、統計分析法、社会調査における倫理・個人情報保護、ITの活用方法等について論じていく。</p>
----------	--

準備学習	<p>教科書は、出来る限り事前に目を通しておくことが求められる。計算をしてもらう授業もあるので、安価な携帯用電卓を用意してもらう必要がある。</p>
------	--

履修上の留意点	<p>この授業は、内容的に積み上げてゆくので、出席を最重視する。</p>
---------	--------------------------------------

成績評価の方法	<p>原則的には、3分の2以上の出席がある場合に定期試験を受けることができ、定期試験の成績によって評価する。</p>
---------	--

教科書／テキスト	<p>『社会調査の基礎』、新社会福祉士養成講座第5巻、中央法規出版</p>
----------	---------------------------------------

参考書	<p>適宜紹介する。</p>
-----	----------------

その他	<p>講義はパワーポイントを使って行う予定</p>
-----	---------------------------

履修コード	067641
科目名	社会福祉援助技術演習Ⅰ
担当者名	荒井 浩道

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本学では、相談援助演習をソーシャルワーク演習及び社会福祉援助技術演習Ⅰ・社会福祉援助技術演習Ⅱの3科目に分けて指導することとしている。社会福祉援助技術演習Ⅰでは、社会福祉援助技術演習Ⅱと合わせ、ソーシャルワーク演習の様々な事例研究で学んだ相談援助技術について、主としてロールプレイによる実技指導の形式で体得することを授業の主な目的としている。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>〈相談援助の基本〉          (1～3) 自己覚知 (4～5) 基本的コミュニケーション技術 (6～8) 基本的面接技術          〈課題別相談援助演習の実技指導〉          (9～20) 様々なケースに関する相談援助演習 (児童虐待、障害者の自立、DV、ホームレス、危機状態にある利用者の権利擁護など、各種相談援助のロールプレイ)          〈集団援助技術の実技指導〉          (21～25) 集団援助技術の立案・実践・振り返り (ロールプレイ)          〈地域福祉の基盤整備と開発に関する実技指導〉          (26～29) 地域援助技術の実技指導 (ロールプレイ)          〈総まとめ〉          (30) 相談援助実習 (社会福祉援助技術現場実習Ⅲ) 後における各自の援助技術・知識に関する体験の交流</p>
----------	--

準備学習	特になし。
------	-------

履修上の留意点	<p>社会福祉援助技術演習ⅠとⅡは2時限連続の授業として開講している。したがって、日程・各回のテーマはⅠとⅡでは同一となり、それぞれのテーマについて、より深く実技指導を行う。なお受講の条件として、前期の「社会福祉援助技術現場実習Ⅰ」及び「ソーシャルワーク演習」の単位を修得し、かつ事前のスクリーニングにおいて配属実習の実施が許可されていることを原則とする。</p> <p>クラス分けは事前に提示するので、指定されたクラスで受講すること。</p>
---------	--

成績評価の方法	単位取得のためには、授業への出席が必須となる。また、ロールプレイ (実技指導) への参加状況、平常点、及び課題レポートを総合して評価する。
---------	---

教科書/テキスト	開講時に指示する。
----------	-----------

参考書	『社会福祉士実践事例集Ⅱ』 (社団法人日本社会福祉士会編・中央法規)
-----	------------------------------------

履修コード	067681
科目名	社会福祉援助技術演習Ⅰ
担当者名	川上 富雄

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本学では、相談援助演習をソーシャルワーク演習及び社会福祉援助技術演習Ⅰ・社会福祉援助技術演習Ⅱの3科目に分けて指導することとしている。社会福祉援助技術演習Ⅰでは、社会福祉援助技術演習Ⅱと合わせ、ソーシャルワーク演習の様々な事例研究で学んだ相談援助技術について、主としてロールプレイによる実技指導の形式で体得することを授業の主な目的としている。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>〈相談援助の基本〉          1～3 自己覚知          4～5 基本的コミュニケーション技術          6～8 基本的面接技術</p> <p>〈課題別相談援助技術の演習〉          9～20 様々なケースに関する相談援助技術の実技および事例検討</p> <p>〈集団援助技術の演習〉          21～25 集団援助技術の実技および事例検討</p> <p>〈地域援助技術の演習〉          26～29 地域援助技術の実技および事例検討</p> <p>〈総まとめ〉          30 現場実習後における各自の援助技術・知識に関する体験の交流</p>
----------	---

準備学習	事例等の事前通読。
------	-----------

履修上の留意点	<p>社会福祉援助技術演習ⅠとⅡは2時限連続の授業として開講している。したがって、日程・各回のテーマはⅠとⅡでは同一となり、それぞれのテーマについて、より深く実技指導を行う。なお受講の条件として、「社会福祉援助技術現場実習Ⅰ」及び「ソーシャルワーク演習」の単位を修得し、配属実習の実施が許可されていることを原則とする。</p> <p>クラス分けは事前に提示するので、指定されたクラスで受講すること。</p>
---------	---

成績評価の方法	単位取得のためには、授業への出席が必須となる。また、ロールプレイ (実技指導) への参加状況、平常点、及び課題レポートを総合して評価する。
---------	---

教科書/テキスト	開講時に指示する。
----------	-----------

参考書	『社会福祉士実践事例集Ⅱ』 (社団法人日本社会福祉士会編・中央法規)
-----	------------------------------------

履修コード	067671
科目名	社会福祉援助技術演習Ⅰ
担当者名	讃岐 真佐子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本学では、相談援助演習をソーシャルワーク演習及び社会福祉援助技術演習Ⅰ・社会福祉援助技術演習Ⅱの3科目に分けて指導することとしている。社会福祉援助技術演習Ⅰでは、社会福祉援助技術演習Ⅱと合わせ、ソーシャルワーク演習の様々な事例研究で学んだ相談援助技術について、主としてロールプレイによる実技指導の形式で体得することを授業の主な目的としている。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>〈相談援助の基本〉  (1～3) 自己覚知 (4～5) 基本的コミュニケーション技術 (6～8) 基本的面接技術  〈課題別相談援助演習の実技指導〉  (9～20) 様々なケースに関する相談援助演習 (児童虐待、障害者の自立、DV、ホームレス、危機状態にある利用者の権利擁護など、各種相談援助のロールプレイ)  〈集団援助技術の実技指導〉  (21～25) 集団援助技術の立案・実践・振り返り (ロールプレイ)  〈地域福祉の基盤整備と開発に関する実技指導〉  (26～29) 地域援助技術の実技指導 (ロールプレイ)  〈総まとめ〉  (30) 相談援助実習 (社会福祉援助技術現場実習Ⅲ) 後における各自の援助技術・知識に関する体験の交流</p>
----------	--

準備学習	他の「社会福祉援助技術演習Ⅰ」に準ずる
------	---------------------

履修上の留意点	<p>社会福祉援助技術演習ⅠとⅡは2時限連続の授業として開講している。したがって、日程・各回のテーマはⅠとⅡでは同一となり、それぞれのテーマについて、より深く実技指導を行う。なお受講の条件として、前期の「社会福祉援助技術現場実習Ⅰ」及び「ソーシャルワーク演習」の単位を修得し、かつ事前のスクリーニングにおいて配属実習の実施が許可されていることを原則とする。</p> <p>クラス分けは事前に提示するので、指定されたクラスで受講すること。</p>
---------	--

成績評価の方法	単位取得のためには、授業への出席が必須となる。また、ロールプレイ (実技指導) への参加状況、平常点、及び課題レポートを総合して評価する。
---------	---

教科書/テキスト	開講時に指示する。
----------	-----------

参考書	『社会福祉士実践事例集Ⅱ』 (社団法人日本社会福祉士会編・中央法規)
-----	------------------------------------

履修コード	067651
科目名	社会福祉援助技術演習Ⅰ
担当者名	長尾 譲治

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本学では、相談援助演習をソーシャルワーク演習及び社会福祉援助技術演習Ⅰ・社会福祉援助技術演習Ⅱの3科目に分けて指導することとしている。社会福祉援助技術演習Ⅰでは、社会福祉援助技術演習Ⅱと合わせ、ソーシャルワーク演習の様々な事例研究で学んだ相談援助技術について、主としてロールプレイによる実技指導の形式で体得することを授業の主な目的としている。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>〈相談援助の基本〉  (1～3) 自己覚知 (4～5) 基本的コミュニケーション技術 (6～8) 基本的面接技術  〈課題別相談援助演習の実技指導〉  (9～20) 様々なケースに関する相談援助演習 (児童虐待、障害者の自立、DV、ホームレス、危機状態にある利用者の権利擁護など、各種相談援助のロールプレイ)  〈集団援助技術の実技指導〉  (21～25) 集団援助技術の立案・実践・振り返り (ロールプレイ)  〈地域福祉の基盤整備と開発に関する実技指導〉  (26～29) 地域援助技術の実技指導 (ロールプレイ)  〈総まとめ〉  (30) 相談援助実習 (社会福祉援助技術現場実習Ⅲ) 後における各自の援助技術・知識に関する体験の交流</p>
----------	--

準備学習	2年次にソーシャルワーク演習の履修を済ませ、その内容を理解しておくこと。
------	--------------------------------------

履修上の留意点	<p>社会福祉援助技術演習ⅠとⅡは2時限連続の授業として開講している。したがって、日程・各回のテーマはⅠとⅡでは同一となり、それぞれのテーマについて、より深く実技指導を行う。なお受講の条件として、前期の「社会福祉援助技術現場実習Ⅰ」及び「ソーシャルワーク演習」の単位を修得し、かつ事前のスクリーニングにおいて配属実習の実施が許可されていることを原則とする。</p> <p>クラス分けは事前に提示するので、指定されたクラスで受講すること。</p>
---------	--

成績評価の方法	単位取得のためには、授業への出席が必須となる。また、ロールプレイ (実技指導) への参加状況、平常点、及び課題レポートを総合して評価する。
---------	---

教科書/テキスト	開講時に指示する。
----------	-----------

参考書	『社会福祉士実践事例集Ⅱ』 (社団法人日本社会福祉士会編・中央法規)
-----	------------------------------------

履修コード	067661
科目名	社会福祉援助技術演習Ⅰ
担当者名	村田 一昭

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本学では、相談援助演習をソーシャルワーク演習及び社会福祉援助技術演習Ⅰ・社会福祉援助技術演習Ⅱの3科目に分けて指導することとしている。社会福祉援助技術演習Ⅰでは、社会福祉援助技術演習Ⅱと合わせ、ソーシャルワーク演習の様々な事例研究で学んだ相談援助技術について、主としてロールプレイによる実技指導の形式で体得することを授業の主な目的としている。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>〈相談援助の基本〉          (1～3) 自己覚知 (4～5) 基本的コミュニケーション技術 (6～8) 基本的面接技術          〈課題別相談援助演習の実技指導〉          (9～20) 様々なケースに関する相談援助演習 (児童虐待、障害者の自立、DV、ホームレス、危機状態にある利用者の権利擁護など、各種相談援助のロールプレイ)          〈集団援助技術の実技指導〉          (21～25) 集団援助技術の立案・実践・振り返り (ロールプレイ)          〈地域福祉の基盤整備と開発に関する実技指導〉          (26～29) 地域援助技術の実技指導 (ロールプレイ)          〈総まとめ〉          (30) 相談援助実習 (社会福祉援助技術現場実習Ⅲ) 後における各自の援助技術・知識に関する体験の交流</p>
----------	--

準備学習	授業終了時の振り返りを丁寧に行ってください。
------	------------------------

履修上の留意点	<p>社会福祉援助技術演習ⅠとⅡは2時限連続の授業として開講している。したがって、日程・各回のテーマはⅠとⅡでは同一となり、それぞれのテーマについて、より深く実技指導を行う。なお受講の条件として、前期の「社会福祉援助技術現場実習Ⅰ」及び「ソーシャルワーク演習」の単位を修得し、かつ事前のスクリーニングにおいて配属実習の実施が許可されていることを原則とする。</p> <p>クラス分けは事前に提示するので、指定されたクラスで受講すること。</p>
---------	--

成績評価の方法	単位取得のためには、授業への出席が必須となる。また、ロールプレイ (実技指導) への参加状況、平常点、及び課題レポートを総合して評価する。
---------	---

教科書/テキスト	開講時に指示する。
----------	-----------

参考書	『社会福祉士実践事例集Ⅱ』 (社団法人日本社会福祉士会編・中央法規)
-----	------------------------------------

履修コード	068041
科目名	社会福祉援助技術演習Ⅱ
担当者名	荒井 浩道

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本学では、相談援助演習をソーシャルワーク演習及び社会福祉援助技術演習Ⅰ・社会福祉援助技術演習Ⅱの3科目に分けて指導することとしている。社会福祉援助技術演習Ⅱでは、社会福祉援助技術演習Ⅰと合わせ、ソーシャルワーク演習の様々な事例研究で学んだ相談援助技術について、主としてロールプレイによる実技指導の形式で体得することを授業の主な目的としている。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>〈相談援助の基本〉          (1～3) 自己覚知 (4～5) 基本的コミュニケーション技術 (6～8) 基本的面接技術          〈課題別相談援助演習の実技指導〉 (9～20) 様々なケースに関する相談援助演習 (児童虐待、障害者の自立、DV、ホームレス、危機状態にある利用者の権利擁護など、各種相談援助のロールプレイ)          〈集団援助技術の実技指導〉          (21～25) 集団援助技術の立案・実践・振り返り (ロールプレイ)          〈地域福祉の基盤整備と開発に関する実技指導〉          (26～29) 地域援助技術の実技指導 (ロールプレイ)          〈総まとめ〉          (30) 相談援助実習 (社会福祉援助技術現場実習Ⅲ) 後における各自の援助技術・知識に関する体験の交流</p>
----------	---

準備学習	特になし。
------	-------

履修上の留意点	<p>社会福祉援助技術演習ⅠとⅡは2時限連続の授業として開講している。したがって、日程・各回のテーマはⅠとⅡでは同一となり、それぞれのテーマについて、より深く実技指導を行う。なお受講の条件として、前期の「社会福祉援助技術現場実習Ⅰ」及び「ソーシャルワーク演習」の単位を修得し、かつ事前のスクリーニングにおいて配属実習の実施が許可されていることを原則とする。</p> <p>クラス分けは事前に提示するので、指定されたクラスで受講すること。</p>
---------	--

成績評価の方法	単位取得のためには、授業への出席が必須となる。また、ロールプレイ (実技指導) への参加状況、平常点、及び課題レポートを総合して評価する。
---------	---

教科書/テキスト	開講時に指示する。
----------	-----------

参考書	『社会福祉士実践事例集Ⅱ』 (社団法人日本社会福祉士会編・中央法規)
-----	------------------------------------



履修コード	068081
科目名	社会福祉援助技術演習Ⅱ
担当者名	川上 富雄

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本学では、相談援助演習をソーシャルワーク演習及び社会福祉援助技術演習Ⅰ・社会福祉援助技術演習Ⅱの3科目に分けて指導することとしている。社会福祉援助技術演習Ⅱでは、社会福祉援助技術演習Ⅰと合わせ、ソーシャルワーク演習の様々な事例研究で学んだ相談援助技術について、主としてロールプレイによる実技指導の形式で体得することを授業の主な目的としている。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>〈相談援助の基本〉 1～3 自己覚知 4～5 基本的コミュニケーション技術 6～8 基本的面接技術</p> <p>〈課題別相談援助技術の演習〉 9～20 様々なケースに関する相談援助技術の実技および事例検討</p> <p>〈集団援助技術の演習〉 21～25 集団援助技術の実技および事例検討</p> <p>〈地域援助技術の演習〉 26～29 地域援助技術の実技および事例検討</p> <p>〈総まとめ〉 30 現場実習後における各自の援助技術・知識に関する体験の交流</p>
----------	--

準備学習	事例等の事前通読。
履修上の留意点	社会福祉援助技術演習ⅠとⅡは2時限連続の授業として開講している。したがって、日程・各回のテーマはⅠとⅡでは同一となり、それぞれのテーマについて、より深く実技指導を行う。なお受講の条件として、「社会福祉援助技術現場実習Ⅰ」及び「ソーシャルワーク演習」の単位を修得し、配属実習の実施が許可されていることを原則とする。クラス分けは事前に提示するので、指定されたクラスで受講すること。
成績評価の方法	単位取得のためには、授業への出席が必須となる。また、ロールプレイ（実技指導）への参加状況、平常点、及び課題レポートを総合して評価する。
教科書／テキスト	開講時に指示する。
参考書	『社会福祉士実践事例集Ⅱ』（社団法人日本社会福祉士会編・中央法規）

履修コード	068071
科目名	社会福祉援助技術演習Ⅱ
担当者名	讃岐 真佐子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本学では、相談援助演習をソーシャルワーク演習及び社会福祉援助技術演習Ⅰ・社会福祉援助技術演習Ⅱの3科目に分けて指導することとしている。社会福祉援助技術演習Ⅱでは、社会福祉援助技術演習Ⅰと合わせ、ソーシャルワーク演習の様々な事例研究で学んだ相談援助技術について、主としてロールプレイによる実技指導の形式で体得することを授業の主な目的としている。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>〈相談援助の基本〉 (1～3) 自己覚知 (4～5) 基本的コミュニケーション技術 (6～8) 基本的面接技術 〈課題別相談援助演習の実技指導〉(9～20) 様々なケースに関する相談援助演習(児童虐待、障害者の自立、DV、ホームレス、危機状態にある利用者の権利擁護など、各種相談援助のロールプレイ)</p> <p>〈集団援助技術の実技指導〉 (21～25) 集団援助技術の立案・実践・振り返り(ロールプレイ)</p> <p>〈地域福祉の基盤整備と開発に関する実技指導〉 (26～29) 地域援助技術の実技指導(ロールプレイ)</p> <p>〈総まとめ〉 (30) 相談援助実習(社会福祉援助技術現場実習Ⅲ)後における各自の援助技術・知識に関する体験の交流</p>
----------	--

準備学習	他の「社会福祉援助技術演習Ⅱ」に準ずる
履修上の留意点	社会福祉援助技術演習ⅠとⅡは2時限連続の授業として開講している。したがって、日程・各回のテーマはⅠとⅡでは同一となり、それぞれのテーマについて、より深く実技指導を行う。なお受講の条件として、前期の「社会福祉援助技術現場実習Ⅰ」及び「ソーシャルワーク演習」の単位を修得し、かつ事前のスクリーニングにおいて配属実習の実施が許可されていることを原則とする。クラス分けは事前に提示するので、指定されたクラスで受講すること。
成績評価の方法	単位取得のためには、授業への出席が必須となる。また、ロールプレイ（実技指導）への参加状況、平常点、及び課題レポートを総合して評価する。
教科書／テキスト	開講時に指示する。
参考書	『社会福祉士実践事例集Ⅱ』（社団法人日本社会福祉士会編・中央法規）

履修コード	068051
科目名	社会福祉援助技術演習Ⅱ
担当者名	長尾 譲治

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本学では、相談援助演習をソーシャルワーク演習及び社会福祉援助技術演習Ⅰ・社会福祉援助技術演習Ⅱの3科目に分けて指導することとしている。社会福祉援助技術演習Ⅱでは、社会福祉援助技術演習Ⅰと合わせ、ソーシャルワーク演習の様々な事例研究で学んだ相談援助技術について、主としてロールプレイによる実技指導の形式で体得することを授業の主な目的としている。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>〈相談援助の基本〉  (1～3) 自己覚知 (4～5) 基本的コミュニケーション技術 (6～8) 基本的面接技術  〈課題別相談援助演習の実技指導〉 (9～20) 様々なケースに関する相談援助演習 (児童虐待、障害者の自立、DV、ホームレス、危機状態にある利用者の権利擁護など、各種相談援助のロールプレイ)  〈集団援助技術の実技指導〉  (21～25) 集団援助技術の立案・実践・振り返り (ロールプレイ)  〈地域福祉の基盤整備と開発に関する実技指導〉  (26～29) 地域援助技術の実技指導 (ロールプレイ)  〈総まとめ〉  (30) 相談援助実習 (社会福祉援助技術現場実習Ⅲ) 後における各自の援助技術・知識に関する体験の交流</p>
----------	---

準備学習	2年次にソーシャルワーク演習の履修を済ませ、その内容を理解しておくこと。
履修上の留意点	<p>社会福祉援助技術演習ⅠとⅡは2時限連続の授業として開講している。したがって、日程・各回のテーマはⅠとⅡでは同一となり、それぞれのテーマについて、より深く実技指導を行う。  なお受講の条件として、前期の「社会福祉援助技術現場実習Ⅰ」及び「ソーシャルワーク演習」の単位を修得し、かつ事前のスクリーニングにおいて配属実習の実施が許可されていることを原則とする。  クラス分けは事前に提示するので、指定されたクラスで受講すること。</p>
成績評価の方法	単位取得のためには、授業への出席が必須となる。また、ロールプレイ (実技指導) への参加状況、平常点、及び課題レポートを総合して評価する。
教科書/テキスト	開講時に指示する。
参考書	『社会福祉士実践事例集Ⅱ』 (社団法人日本社会福祉士会編・中央法規)

履修コード	068061
科目名	社会福祉援助技術演習Ⅱ
担当者名	村田 一昭

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本学では、相談援助演習をソーシャルワーク演習及び社会福祉援助技術演習Ⅰ・社会福祉援助技術演習Ⅱの3科目に分けて指導することとしている。社会福祉援助技術演習Ⅱでは、社会福祉援助技術演習Ⅰと合わせ、ソーシャルワーク演習の様々な事例研究で学んだ相談援助技術について、主としてロールプレイによる実技指導の形式で体得することを授業の主な目的としている。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>〈相談援助の基本〉  (1～3) 自己覚知 (4～5) 基本的コミュニケーション技術 (6～8) 基本的面接技術  〈課題別相談援助演習の実技指導〉 (9～20) 様々なケースに関する相談援助演習 (児童虐待、障害者の自立、DV、ホームレス、危機状態にある利用者の権利擁護など、各種相談援助のロールプレイ)  〈集団援助技術の実技指導〉  (21～25) 集団援助技術の立案・実践・振り返り (ロールプレイ)  〈地域福祉の基盤整備と開発に関する実技指導〉  (26～29) 地域援助技術の実技指導 (ロールプレイ)  〈総まとめ〉  (30) 相談援助実習 (社会福祉援助技術現場実習Ⅲ) 後における各自の援助技術・知識に関する体験の交流</p>
----------	---

準備学習	授業終了時の振り返りを丁寧に行なってください。
履修上の留意点	<p>社会福祉援助技術演習ⅠとⅡは2時限連続の授業として開講している。したがって、日程・各回のテーマはⅠとⅡでは同一となり、それぞれのテーマについて、より深く実技指導を行う。  なお受講の条件として、前期の「社会福祉援助技術現場実習Ⅰ」及び「ソーシャルワーク演習」の単位を修得し、かつ事前のスクリーニングにおいて配属実習の実施が許可されていることを原則とする。  クラス分けは事前に提示するので、指定されたクラスで受講すること。</p>
成績評価の方法	単位取得のためには、授業への出席が必須となる。また、ロールプレイ (実技指導) への参加状況、平常点、及び課題レポートを総合して評価する。
教科書/テキスト	開講時に指示する。
参考書	『社会福祉士実践事例集Ⅱ』 (社団法人日本社会福祉士会編・中央法規)

履修コード	063401
科目名	社会福祉援助技術各論ⅠA
担当者名	荒井 浩道
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	01. 相談援助における人と環境との交互作用に関する理論について理解する。 02. 相談援助の対象と様々な実践モデルについて理解する。
授業スケジュール	01. 相談援助の理論と方法の概要 02. 人と環境の交互作用 (システム理論) 03. 相談援助の対象 (相談援助の対象の概念と範囲) 04. 様々な実践モデルとアプローチ① (治療モデル) 05. 様々な実践モデルとアプローチ② (生活モデル) 06. 様々な実践モデルとアプローチ③ (ストレングスモデル) 07. 様々な実践モデルとアプローチ④ (問題解決アプローチ) 08. 様々な実践モデルとアプローチ⑤ (課題中心アプローチ) 09. 様々な実践モデルとアプローチ⑥ (危機介入アプローチ) 10. 様々な実践モデルとアプローチ⑦ (行動変容アプローチ) 11. 様々な実践モデルとアプローチ⑧ (ケースマネジメント/ケアマネジメント) 12. 様々な実践モデルとアプローチ⑨ (ジェネラリスト・アプローチ) 13. 様々な実践モデルとアプローチ⑩ (エンパワーメント・アプローチ) 14. 様々な実践モデルとアプローチ⑪ (社会構成主義、ナラティブ・アプローチ) 15. 相談援助の理論と方法のまとめ
準備学習	ソーシャルワーク実践理論の概要について理解しておくこと。
履修上の留意点	授業への主体的参加を期待します。
成績評価の方法	試験を中心に総合的に評価します。
教科書/テキスト	福祉士養成講座編集委員会編、相談援助の理論と方法Ⅰ (新・社会福祉士養成講座7) 第2版、中央法規出版、2,730円、ISBN-10:4805832541、ISBN-13: 978-4805832547 福祉士養成講座編集委員会編、相談援助の理論と方法Ⅱ (新・社会福祉士養成講座8) 第2版、中央法規出版、2,730円、ISBN-10:480583255X、ISBN-13:978-4805832554
参考書	授業のなかで随時指示します。

履修コード	063501
科目名	社会福祉援助技術各論ⅠB
担当者名	荒井 浩道
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	01. 相談援助の過程とそれに係る知識と技術について理解する。
授業スケジュール	01. 相談援助の理論と方法の概要 02. 相談援助の過程① (インテーク、アセスメント) 03. 相談援助の過程② (プランニング、インターベンション) 04. 相談援助の過程③ (モニタリング、エバリュエーション) 05. 相談援助の過程④ (ターミネーション、アフターケア) 06. 相談援助における援助関係① (意義) 07. 相談援助における援助関係② (目的) 08. 相談援助のための面接技術③ (方法) 09. 相談援助のための面接技術④ (留意点) 10. アウトリーチ① (意義、目的) 11. アウトリーチ② (方法、留意点) 12. 集団を活用した相談援助① (意義) 13. 集団を活用した相談援助② (目的) 14. 集団を活用した相談援助③ (方法、留意点) 15. 相談援助の理論と方法のまとめ
準備学習	ソーシャルワーク実践理論の概要について理解しておくこと。
履修上の留意点	授業への主体的参加を期待します。
成績評価の方法	試験を中心に総合的に評価します。
教科書/テキスト	福祉士養成講座編集委員会編、相談援助の理論と方法Ⅰ (新・社会福祉士養成講座7) 第2版、中央法規出版、2,730円、ISBN-10:4805832541、ISBN-13: 978-4805832547 福祉士養成講座編集委員会編、相談援助の理論と方法Ⅱ (新・社会福祉士養成講座8) 第2版、中央法規出版、2,730円、ISBN-10:480583255X、ISBN-13:978-4805832554
参考書	授業のなかで随時指示します。

履修コード	063601
科目名	社会福祉援助技術各論IIA
担当者名	川上 富雄
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	相談援助(ソーシャルワーク)過程と、それに係る知識と技術について理解する。とりわけ、本講義においては、ソーシャルワークの中核的技術であるアセスメントとケアマネジメント(介護保険法による介護予防サービス計画、居宅サービス計画や施設サービス計画及び障害者自立支援法によるサービス利用計画、児童分野における児童自立支援計画等)についての理解を含む)についての理解を深める。
授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. ソーシャルワークとケアマネジメント①</li> <li>3. ソーシャルワークとケアマネジメント②</li> <li>4. 高齢者分野における援助計画①</li> <li>5. 高齢者分野における援助計画②</li> <li>6. 高齢者分野における援助計画③</li> <li>7. 障害者分野における援助計画①</li> <li>8. 障害者分野における援助計画②</li> <li>9. 障害者分野における援助計画③</li> <li>10. 児童分野における援助計画①</li> <li>11. 児童分野における援助計画②</li> <li>12. その他の分野における援助計画①</li> <li>13. その他の分野における援助計画②</li> <li>14. その他の分野における援助計画③</li> <li>15. まとめ</li> </ol>
準備学習	テキストおよび参考図書の通読。
履修上の留意点	本科目で学ぶ内容は、3年次の現場実習において実際に取り組むものであるため、2年次までに履修することが望ましい。一方で、各分野における制度概要や対象者像、利用の仕組み、施設・在宅サービス等に関する一定の前提的知識も必要となるため、1年次に履修する学生は相当の準備をもって臨むこと。
成績評価の方法	期末試験の成績に、課題・レポート点等を加味して判定する。講義への出席は期末試験受験の要件とするが、試験による知識・技術獲得など実質的な側面を強く評価する。期末試験の評価が成績評価の過半を占める。
教科書/テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>●社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座⑧相談援助の理論と方法II』中央法規出版 2009</li> <li>●社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座⑦相談援助の理論と方法I』中央法規出版 2009</li> </ul>
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>●白澤政和・蛭江紀雄著『ケアマネジメント—在宅・施設のケアプランの考え方・つくり方』全国社会福祉協議会 2009</li> <li>●植田章『障害者福祉実践とケアマネジメント—個別支援計画作成と相談支援の手引』かがわ出版 2008</li> <li>●門田光司・柳沢享・平沢紀子著『知的障害・自閉症の方へのケアマネジメント入門』中央法規出版 2003</li> <li>●児童自立支援計画研究会編『子ども・家族への支援計画を立てるために—子ども自立支援計画ガイドライン』日本児童福祉協会 2005</li> <li>●安梅勲江編著『コミュニティ・エンパワメントの技法』医歯薬出版 2005</li> </ul> <p>その他、講義中に紹介する。</p>
その他	基本的には講義形式で行うが、一部グループ演習、課題発表などを盛り込む場合がある。

履修コード	063701
科目名	社会福祉援助技術各論ⅡB
担当者名	川上 富雄
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	相談援助（ソーシャルワーク）過程と、それに係る知識と技術について理解する。とりわけ、本講義においては、ケースカンファレンス、社会資源活用・調整・開発、コーディネーションとネットワーク、スーパービジョンとコンサルテーション、グループワーク、福祉情報とICT（情報通信技術）、個人情報保護、事例研究法等についての理解を深める。
授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 相談援助における社会資源活用・調整・開発の意義と方法①～概説</li> <li>3. 相談援助における社会資源活用・調整・開発の意義と方法②～地域アセスメント</li> <li>4. コーディネーションとネットワークの意義と方法</li> <li>5. コーディネーションとネットワークの意義と方法</li> <li>6. スーパービジョンとコンサルテーションの意義と方法</li> <li>7. スーパービジョンとコンサルテーションの意義と方法</li> <li>8. ケースカンファレンスの意義と方法</li> <li>9. グループワークの意義と方法</li> <li>10. サービスの質の向上と権利擁護システムへの取り組み</li> <li>11. 相談援助におけるICT（情報通信技術）の活用</li> <li>12. 相談援助における個人情報保護</li> <li>13. 事例分析・事例研究法</li> <li>14. 事例研究</li> <li>15. まとめ</li> </ol>
準備学習	テキストおよび参考図書の通読。
履修上の留意点	本科目で学ぶ内容は、3年次の現場実習において実際に取り組むものであるため、2年次までに履修することが望ましい。一方で、各分野における制度概要や対象者像、利用の仕組み、施設・在宅サービス、専門職の役割等に関する一定の前提的知識も必要となるため、1年次に履修する学生は相当の準備をもって臨むこと。
成績評価の方法	期末試験の成績に、課題・レポート点等を加味して判定する。講義への出席は期末試験受験の要件とするが、試験による知識・技術獲得など実質的な側面を強く評価する。期末試験の評価が成績評価の過半を占める。
教科書／テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>●社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座⑧相談援助の理論と方法Ⅱ』中央法規出版 2009</li> <li>●社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座⑦相談援助の理論と方法Ⅰ』中央法規出版 2009</li> </ul>
参考書	講義中に指示する。
その他	基本的には講義形式で行うが、一部グループ演習、課題発表などを盛り込む場合がある。

履修コード	067141
科目名	社会福祉援助技術現場実習Ⅰ
担当者名	川上 富雄

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉援助技術現場実習の意義の理解</li> <li>・社会福祉専門職業務の理解</li> <li>・社会福祉施設・機関の特徴・役割の理解</li> <li>・配属実習に向けた心構え／倫理観の形成</li> <li>・各自の配属実習希望分野の明確化</li> </ul>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>この授業では、社会福祉援助技術現場実習の意義を理解するとともに、社会福祉専門職の業務、社会福祉施設・機関の特徴・役割について理解を深めます。また、この授業は配属実習を含む社会福祉援助技術現場実習ⅡⅢの事前学習であるため、配属実習に向けた心構え／倫理観の形成を目指し、また各自の配属実習希望分野を明確にします。</p> <p>授業形態としては、講義、ビデオ教材の視聴、グループディスカッション、課題学習、プレゼンテーションなどを組み合わせて行います。また、この授業において、配属実習のスクリーニングが実施されます。なお、この授業は変則的な開講形態を採用しているため、詳しくは初回講義時に説明します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習の流れ／内容／心構え</li> <li>2. 行政機関の理解</li> <li>3. 高齢者分野の理解</li> <li>4. 障害者分野の理解</li> <li>5. 児童分野の理解</li> <li>6. 地域福祉分野の理解</li> <li>7. 医療分野の理解</li> <li>8. 精神保健福祉分野の理解</li> <li>9. スクリーニング</li> </ol>
----------	---

準備学習	テキストの通読。
履修上の留意点	授業への主体的参加を期待します。原則として、無断欠席は認められません。
成績評価の方法	必修科目の履修状況、レポート、授業への参加態度等により選抜試験（スクリーニングテスト）の受験資格を得、それに合格することが必要です。
教科書／テキスト	白澤・米本編／日本社会福祉士養成校協会監修『社会福祉士相談援助実習』中央法規 2009 その他必要な資料は随時配布します。
参考書	授業のなかで随時指示します。
その他	この授業は、社会福祉士国家試験受験資格取得に必要な指定科目のひとつです。この授業の単位未修得者は、後期のソーシャルワーク演習、翌年度の社会福祉援助技術現場実習Ⅱ・Ⅲ、精神保健福祉援助実習の履修は認められません。

履修コード	067241
科目名	社会福祉援助技術現場実習Ⅱ
担当者名	荒井 浩道

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>社会福祉援助技術現場実習Ⅱでは、社会福祉援助技術現場実習Ⅰでの学習内容を受け、相談援助実習を行うに際しての事前指導、実習中の巡回指導、実習終了後の継続指導（体験発表、実習レポート原稿作成等）を行う。これらの指導を通じ、次の諸点を体得することが教育目標及び達成課題となる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①個別指導及び集団指導を通じ、相談援助実習の体系及び意義を理解する。</li> <li>②実習事前指導（実習先で必要な介護・保育等の体験学習、相談援助技術及びその知識の再確認、現場体験プレ学習）を通じ、実習先で必要とされる相談援助の知識・技術・福祉倫理（個人情報保護法を含むプライバシー保護と守秘義務）について理解する。</li> <li>③各自が実習計画において実習課題として取り上げた内容について、現場体験を踏まえながら個別具体的に理解・解決し、自らの専門知識・技術の実践的再確認を行う。</li> </ol>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>(1) 実習事前オリエンテーション (2) 実習におけるプライバシー保護・守秘義務に関する説明と実例研究、実習記録ノートの書き方に関する説明と質疑応答、実例の提示 (3～6) 実習計画の作成 (7～9) 相談援助技術の再確認及び介護・保育等の体験実習（車いす・介護用ベッドを用いての実技指導） (10～11) 見学実習及び現場体験学習（実習先訪問） (12～21) 各自の実習体験発表 (22～25) テーマ別体験発表 (26～29) 実習体験個別フィードバック（実習評価の提示、課題の整理など） (30) 授業及び実習の評価全体総括会（実習科目の性格上、授業スケジュールは進度に応じて若干の調整を行う場合がある）</p> <p>※実習巡回指導は、各自の配属実習中に、実習先への個別訪問として行う。 ※実習総括レポート原稿作成は、実習終了者から順に、個別指導として行う。</p>
----------	--

準備学習	特になし。
履修上の留意点	<p>受講の条件として、前年の「社会福祉援助技術現場実習Ⅰ」及び「ソーシャルワーク演習」の単位を修得し、かつ事前のスクリーニングにおいて配属実習の実施が許可されていることを原則とする。</p> <p>クラス分けは事前に提示するので、指定されたクラスで受講すること。</p>
成績評価の方法	授業への出席状況・個別発表状況とレポート原稿提出、及び実習先での勤務状況・評価表等を総合的に評価する。
教科書／テキスト	開講時に指示する。
参考書	『社会福祉士実践事例集Ⅱ』（社団法人日本社会福祉士会編・中央法規）

履修コード	067251
科目名	社会福祉援助技術現場実習II
担当者名	伊藤 秀一
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>社会福祉援助技術現場実習IIでは、社会福祉援助技術現場実習Iでの学習内容を受け、相談援助実習を行うに際しての事前指導、実習中の巡回指導、実習終了後の継続指導（体験発表、実習レポート原稿作成等）を行う。これらの指導を通じ、次の諸点を体得することが教育目標及び達成課題となる。</p> <p>①個別指導及び集団指導を通じ、相談援助実習の体系及び意義を理解する。  ②実習事前指導（実習先で必要な介護・保育等の体験学習、相談援助技術及びその知識の再確認、現場体験プレ学習）を通じ、実習先で必要とされる相談援助の知識・技術・福祉倫理（個人情報保護法を含むプライバシー保護と守秘義務）について理解する。  ③各自が実習計画において実習課題として取り上げた内容について、現場体験を踏まえながら個別具体的に理解・解決し、自らの専門知識・技術の実践的再確認を行う。</p>
授業スケジュール	<p>(1) 実習事前オリエンテーション (2) 実習におけるプライバシー保護・守秘義務に関する説明と実例研究、実習記録ノートの書き方に関する説明と質疑応答、実例の提示 (3～6) 実習計画の作成 (7～9) 相談援助技術の再確認及び介護・保育等の体験実習（車いす・介護用ベッドを用いての実技指導） (10～11) 見学実習及び現場体験学習（実習先訪問） (12～21) 各自の実習体験発表 (22～25) テーマ別体験発表 (26～29) 実習体験個別フィードバック（実習評価の提示、課題の整理など） (30) 授業及び実習の評価全体総括会  （実習科目の性格上、授業スケジュールは進度に応じて若干の調整を行う場合がある）  ※実習巡回指導は、各自の配属実習中に、実習先への個別訪問として行う。  ※実習総括レポート原稿作成は、実習終了者から順に、個別指導として行う。</p>
準備学習	<p>実習時期は各自、異なるが、履修者全員に実習前に各自の実習先に関する概要、現場の現状・課題、社会福祉士業務について調べておくこと。また配属実習では職場、職種、ソーシャルワーク実習の各レベルでの内容を把握しておく必要がある。実習終了後は、報告順番を予め決定し、実習体験を個別に報告してもらうため、レジメを準備しなければならない。</p>
履修上の留意点	<p>受講の条件として、前年の「社会福祉援助技術現場実習I」及び「ソーシャルワーク演習」の単位を修得し、かつ事前のスクリーニングにおいて配属実習の実施が許可されていることを原則とする。  クラス分けは事前に提示するので、指定されたクラスで受講すること。</p>
成績評価の方法	<p>授業における個別発表状況とレポート原稿提出、及び実習先での勤務状況・評価表等を総合的に評価する。</p>
教科書／テキスト	<p>開講時に指示する。</p>
参考書	<p>『社会福祉士実践事例集II』（社団法人日本社会福祉士会編・中央法規）</p>

履修コード	067261
科目名	社会福祉援助技術現場実習II
担当者名	桐原 宏行

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>社会福祉援助技術現場実習IIでは、社会福祉援助技術現場実習Iでの学習内容を受け、相談援助実習を行うに際しての事前指導、実習中の巡回指導、実習終了後の継続指導(体験発表、実習リポート原稿作成等)を行う。これらの指導を通じ、次の諸点を体得することが教育目標及び達成課題となる。</p> <p>①個別指導及び集団指導を通じ、相談援助実習の体系及び意義を理解する。  ②実習事前指導(実習先で必要な介護・保育等の体験学習、相談援助技術及びその知識の再確認、現場体験プレ学習)を通じ、実習先で必要とされる相談援助の知識・技術・福祉倫理(個人情報保護法を含むプライバシー保護と守秘義務)について理解する。  ③各自が実習計画において実習課題として取り上げた内容について、現場体験を踏まえながら個別具体的に理解・解決し、自らの専門知識・技術の実践的再確認を行う。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>(1) 実習事前オリエンテーション (2) 実習におけるプライバシー保護・守秘義務に関する説明と実例研究、実習記録ノートの書き方に関する説明と質疑応答、実例の提示 (3~6) 実習計画の作成 (7~9) 相談援助技術の再確認及び介護・保育等の体験実習(車いす・介護用ベッドを用いての実技指導) (10~11) 見学実習及び現場体験学習(実習先訪問) (12~21) 各自の実習体験発表 (22~25) テーマ別体験発表 (26~29) 実習体験個別フィードバック(実習評価の提示、課題の整理など) (30) 授業及び実習の評価全体総括会(実習科目の性格上、授業スケジュールは進度に応じて若干の調整を行う場合がある)</p> <p>※配属実習期間中は帰校日を週1日設け、個別指導を行う。  ※実習巡回指導は、各自の配属実習中に、実習先への個別訪問として行う。  ※実習総括リポート原稿作成は、実習終了者から順に、個別指導として行う。</p>
----------	--

準備学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「社会福祉援助技術現場実習I」及び「ソーシャルワーク演習」で学んだ事項を復習しておくこと。</li> <li>・配属された施設等に関する資料を集めておくこと。</li> <li>・配属された施設の種類に応じた対象者特性に関する資料、関連する法制度等について十分復習しておくこと。</li> </ul>
------	--

履修上の留意点	<p>受講の条件として、前年の「社会福祉援助技術現場実習I」及び「ソーシャルワーク演習」の単位を修得し、かつ事前のスクリーニングにおいて配属実習の実施が許可されていることを原則とする。</p> <p>クラス分けは事前に提示するので、指定されたクラスで受講すること。</p>
---------	--

成績評価の方法	<p>授業への出席状況・個別発表状況とリポート原稿提出、及び実習先での勤務状況・評価等を総合的に評価する。</p>
---------	---

教科書/テキスト	<p>必要に応じて指示する。</p>
----------	--------------------

参考書	<p>『社会福祉士実践事例集II』(社団法人日本社会福祉士会編・中央法規)</p>
-----	---



履修コード	067271
科目名	社会福祉援助技術現場実習II
担当者名	東條 光雅

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>社会福祉援助技術現場実習IIでは、社会福祉援助技術現場実習Iでの学習内容を受け、相談援助実習を行うに際しての事前指導、実習中の巡回指導、実習終了後の継続指導（体験発表、実習レポート原稿作成等）を行う。これらの指導を通じ、次の諸点を体得することが教育目標及び達成課題となる。</p> <p>①個別指導及び集団指導を通じ、相談援助実習の体系及び意義を理解する。          ②実習事前指導（実習先で必要な介護・保育等の体験学習、相談援助技術及びその知識の再確認、現場体験プレ学習）を通じ、実習先で必要とされる相談援助の知識・技術・福祉倫理（個人情報保護法を含むプライバシー保護と守秘義務）について理解する。          ③各自が実習計画において実習課題として取り上げた内容について、現場体験を踏まえながら個別具体的に理解・解決し、自らの専門知識・技術の実践的再確認を行う。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>(1) 実習事前オリエンテーション (2) 実習におけるプライバシー保護・守秘義務に関する説明と実例研究、実習記録ノートの書き方に関する説明と質疑応答、実例の提示 (3~6) 実習計画の作成 (7~9) 相談援助技術の再確認及び介護・保育等の体験実習（車いす・介護用ベッドを用いての実技指導） (10~11) 見学実習及び現場体験学習（実習先訪問） (12~21) 各自の実習体験発表 (22~25) テーマ別体験発表 (26~29) 実習体験個別フィードバック（実習評価の提示、課題の整理など） (30) 授業及び実習の評価全体総括会</p> <p>※実習巡回指導は、各自の配属実習中に、実習先への個別訪問として行う。          ※実習総括レポート原稿作成は、実習終了者から順に、個別指導として行う。</p>
----------	--

準備学習	自分が実習する施設や機関に関する根拠法や設置基準、対象者に関する福祉法等に一応目を通しておくこと。
------	---

履修上の留意点	<p>受講の条件として、前年の「社会福祉援助技術現場実習I」及び「ソーシャルワーク演習」の単位を修得し、かつ事前のスクリーニングにおいて配属実習の実施が許可されていることを原則とする。</p> <p>クラス分けは事前に提示するので、指定されたクラスで受講すること。</p>
---------	--

成績評価の方法	授業への出席状況・個別発表状況とレポート原稿提出、及び実習先での勤務状況・評価表等を総合的に評価する。
---------	---

教科書／テキスト	開講時に指示する。
----------	-----------

参考書	『社会福祉士実践事例集II』（社団法人日本社会福祉士会編・中央法規）
-----	------------------------------------

履修コード	067281
科目名	社会福祉援助技術現場実習II
担当者名	長尾 譲治

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>社会福祉援助技術現場実習IIでは、社会福祉援助技術現場実習Iでの学習内容を受け、相談援助実習を行うに際しての事前指導、実習中の巡回指導、実習終了後の継続指導（体験発表、実習レポート原稿作成等）を行う。これらの指導を通じ、次の諸点を体得することが教育目標及び達成課題となる。</p> <p>①個別指導及び集団指導を通じ、相談援助実習の体系及び意義を理解する。          ②実習事前指導（実習先で必要な介護・保育等の体験学習、相談援助技術及びその知識の再確認、現場体験プレ学習）を通じ、実習先で必要とされる相談援助の知識・技術・福祉倫理（個人情報保護法を含むプライバシー保護と守秘義務）について理解する。          ③各自が実習計画において実習課題として取り上げた内容について、現場体験を踏まえながら個別具体的に理解・解決し、自らの専門知識・技術の実践的再確認を行う。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>(1) 実習事前オリエンテーション (2) 実習におけるプライバシー保護・守秘義務に関する説明と実例研究、実習記録ノートの書き方に関する説明と質疑応答、実例の提示 (3~6) 実習計画の作成 (7~9) 相談援助技術の再確認及び介護・保育等の体験実習（車いす・介護用ベッドを用いての実技指導） (10~11) 見学実習及び現場体験学習（実習先訪問） (12~21) 各自の実習体験発表 (22~25) テーマ別体験発表 (26~29) 実習体験個別フィードバック（実習評価の提示、課題の整理など） (30) 授業及び実習の評価全体総括会</p> <p>※実習巡回指導は、各自の配属実習中に、実習先への個別訪問として行う。          ※実習総括レポート原稿作成は、実習終了者から順に、個別指導として行う。</p>
----------	--

準備学習	2年次にソーシャルワーク演習の履修を済ませ、その内容を理解しておくこと。
------	--------------------------------------

履修上の留意点	<p>受講の条件として、前年の「社会福祉援助技術現場実習I」及び「ソーシャルワーク演習」の単位を修得し、かつ事前のスクリーニングにおいて配属実習の実施が許可されていることを原則とする。</p> <p>クラス分けは事前に提示するので、指定されたクラスで受講すること。</p>
---------	--

成績評価の方法	授業への出席状況・個別発表状況とレポート原稿提出、及び実習先での勤務状況・評価表等を総合的に評価する。
---------	---

教科書／テキスト	開講時に指示する。
----------	-----------

参考書	『社会福祉士実践事例集II』（社団法人日本社会福祉士会編・中央法規）
-----	------------------------------------

履修コード	067621
科目名	社会福祉援助技術現場実習III
担当者名	長尾 讓治 東條 光雅 伊藤 秀一 桐原 宏行 荒井 浩道 川上 富雄
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>社会福祉援助技術現場実習IIIでは、福祉現場において、実習指導者および実習担当教員のもとで、次の諸点を体験的かつ実践的に習得することが教育目標及び達成課題となる。</p> <p>①社会福祉援助技術の実際や具体的内容、福祉現場の抱える課題・各専門職の職務・福祉倫理等について、福祉現場における直接経験学習に基づいて総合的に把握する。</p> <p>②社会福祉士としての資質と職業倫理、他の専門職との連携のあり方、自己に求められる今後の学習課題等を実践的に把握する。福祉現場において、実習指導者のもとで、相談援助の知識及び技術について具体的に指導を受けるとともに、社会福祉士としての資質と職業倫理、他の専門職との連携のあり方、自己に求められる今後の学習課題等を実践的に把握する。</p>
授業スケジュール	<p>本科目は福祉現場における体験学習であり、各実習先での180時間以上にわたる実習の中で実習指導者による指導を受け、主として次のような内容・方法で、社会福祉士に求められる知識・技術を習得していくことになる。</p> <p>(1) 利用者とその関係者・施設・職員・地域住民やボランティアとのコミュニケーション技術の習得 (2) 利用者のニーズの理解と需要の把握、個別支援計画の作成実習 (3) 相談援助面接への同席等による個別援助技術の実践的理解 (4) 実習先における集団援助技術の取り組みに関する実践的理解 (5) 実習先における地域社会への働きかけに関する実践的理解 (6) 他職種の業務内容や管理運営面・職員就業規則等に関する実務の把握・他職種連携(チームアプローチ)の実際の把握、チームの一員としての役割・責務の自覚的理解 (7) 実習巡回指導による学生の課題達成状況の確認及び実習先との指導上の連絡調整 (8) 帰校日指導による学生の実習状況の確認、個別指導</p>
準備学習	2年次に社会福祉援助技術現場実習Iの履修を済ませ、その内容を理解しておくこと。
履修上の留意点	<p>受講の条件として、前年の「社会福祉援助技術現場実習I」及び「ソーシャルワーク演習」の単位を修得し、かつ事前のスクリーニングにおいて配属実習の実施が許可されていることを原則とする。</p> <p>クラス分けは事前に提示するので、指定されたクラスで受講すること。</p>
成績評価の方法	実習への出席状況、実習巡回指導時の実習指導者からの所見、帰校日指導への出席状況、実習評価表の評価内容を総合的に評価する。
教科書/テキスト	開講時に指示する。
参考書	『新・社会福祉施設現場実習指導マニュアル』(全国社会福祉協議会)

履修コード	063301
科目名	社会福祉援助技術総論
担当者名	荒井 浩道

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	01. 社会福祉士の役割と意義について理解する。 02. 精神保健福祉士の役割と意義について理解する。 03. 相談援助の概念と範囲について理解する。 04. 相談援助の理念について理解する。 05. 相談援助における権利擁護の意義と範囲について理解する。 06. 相談援助に係る専門職の概念と範囲及び専門職倫理について理解する。 07. 総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容について理解する。
---------------------	--

授業スケジュール	01. 相談援助の基盤と専門職の概要 02. 社会福祉士の役割と意義① (社会福祉士及び介護福祉士法) 03. 社会福祉士の役割と意義② (社会福祉士の専門性) 04. 精神保健福祉士の役割と意義① (精神保健福祉士法) 05. 精神保健福祉士の役割と意義① (精神保健福祉士の専門性) 06. 相談援助の概念と範囲① (ソーシャルワークに係る各種の国際定義) 07. 相談援助の概念と範囲② (ソーシャルワークの形成過程) 08. 相談援助の理念① (人権尊重) 09. 相談援助の理念② (社会正義) 10. 相談援助の理念③ (利用者本位) 11. 相談援助の理念④ (尊厳の保持) 12. 相談援助の理念⑤ (権利擁護) 13. 相談援助の理念⑥ (自立支援) 14. 相談援助の理念⑦ (社会的包摂) 15. 相談援助の理念⑧ (ノーマライゼーション) 16. 相談援助における権利擁護の意義 (相談援助における権利擁護の概念と範囲) 17. 相談援助に係る専門職の概念と範囲① (相談援助専門職の概念と範囲) 18. 相談援助に係る専門職の概念と範囲② (福祉行政等における専門職) 19. 相談援助に係る専門職の概念と範囲③ (民間の施設・組織における専門職) 20. 相談援助に係る専門職の概念と範囲④ (諸外国の動向) 21. 専門職倫理と倫理的ジレンマ① (専門職倫理の概念) 22. 専門職倫理と倫理的ジレンマ② (倫理綱領) 23. 専門職倫理と倫理的ジレンマ③ (倫理的ジレンマ) 24. 総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容① (多機関による包括的支援体制) 25. 総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容② (社会資源との協働体制) 26. 総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容③ (サポートネットワーク) 27. 総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容④ (機関間相互関係) 28. 総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容⑤ (利用者・家族の参画) 29. 総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容⑥ (機関・団体間同士の合意形成) 30. 相談援助の基盤と専門職のまとめ
----------	--

準備学習	ソーシャルワーク専門職の資格制度の概要について理解しておくこと。
履修上の留意点	授業への主体的参加を期待します。
成績評価の方法	試験を中心に総合的に評価します。
教科書/テキスト	福祉士養成講座編集委員会、相談援助の基盤と専門職 (新・社会福祉士養成講座6) 第2版、中央法規出版、2,730円、ISBN-10:4805832533、ISBN-13:978-4805832530
参考書	授業のなかで随時指示します。

履修コード	064101
科目名	社会福祉学特講I〔児童〕
担当者名	山本 哲也

授業概要/ 到達目標（ねらい）	近年、子どもを取り巻く諸問題は、複雑化、多様化し、深刻化してきている。本講では、子どもを取り巻く諸問題を整理、理解すること、支援を必要とする子どもを理解することをねらいとする。
--------------------	--

授業スケジュール	<p>&lt;前期&gt;</p> <p>子どもを取り巻く諸問題について、新聞記事をもとに、グループごとにレポートを作成し、ディスカッションを織り交ぜながら、問題の理解を深めていく。</p> <p>第1回 オリエンテーション 第2回 出生観  第3回 トピックス（1） 第4回 トピックス（2）  第5回 トピックス（3） 第6回 トピックス（4）  第7回 新聞記事データベースの使い方  第8回 新聞記事によるレポート作成（1）  第9回 新聞記事によるレポート作成（2）  第10回 新聞記事によるレポート作成（3）  第11回 新聞記事によるレポート作成（4）  第12回 発表（1） 第13回 発表（2）  第14回 発表（3） 第15回 まとめ</p>
----------	--

	<p>&lt;後期&gt;</p> <p>受講生の作成したレポートをもとに、ディスカッションを織り交ぜながら、子どもを取り巻く諸問題について問題の理解を深めていく。</p> <p>第16回 学生発表（1） 第17回 学生発表（2）  第18回 学生発表（3） 第19回 学生発表（4）  第20回 学生発表（5） 第21回 トピックス（5）  第22回 学生発表（6） 第23回 学生発表（7）  第24回 学生発表（8） 第25回 学生発表（9）  第26回 学生発表（10） 第27回 学生発表（10）  第28回 トピックス（6） 第29回 トピックス（7）  第30回 まとめ</p>
--	--

準備学習	毎時間、次の時間の準備のための課題を課す。
------	-----------------------

履修上の留意点	具体的な講義内容は、受講生の興味にあわせて決定していく。なお、受講生によるレポートをもとに、受講生とともに、「考えること」を重視した授業とするので、受講生は主体的・積極的に参加することを望む。
---------	--

成績評価の方法	出席状況と課題レポートに加えて、ディスカッションへの参加状況など受講姿勢・意欲によって、総合的に評価する。
---------	---

教科書／テキスト	初回授業で指定する。
----------	------------

参考書	必要に応じ、その都度指示する。
-----	-----------------

その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・30分以上の遅刻は入室を認めないので、そのつもりで受講すること。</li> <li>・4年次生で、就職活動により欠席する場合も、特別な配慮はしないので、そのつもりで受講すること。</li> </ul>
-----	--

履修コード	064301
科目名	社会福祉学特講III [障害児・者]
担当者名	佐藤 将朗
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本授業では障害の概念を学ぶことから始め、障害者(児)が社会の中でよりよく生きていくためにどのようなことが問題となるかを中心に学習していきます。具体的には身体障害、知的・発達障害、精神障害、認知症の各定義、心理的影響などを整理し、これらを土台として、ノーマライゼーションという人権思想のもと、障害者(児)が社会の中でよりよく生きていくとはどのような意味をもつか、また障害者(児)と健常者(児)の関わりはどのようにあるべきかなどについて、履修者自身の見解を深めていくことを目標とします。
授業スケジュール	前期は、障害の概念(1-2)、ノーマライゼーションなどの人権思想(3-4)、身体障害者(児)の理解と社会生活における問題点(5-7)、知的・発達障害者(児)の理解と社会生活における問題点(8-10)、精神障害者(児)の理解と社会生活における問題点(11-12)、認知症高齢者の理解と社会生活における問題点(13-14)、前期のまとめとしての課題作業(15)とする。 後期はメディアの取り上げる障害者(児)問題(1-6)、障害者(児)へのケースワークの事例(7-8)、障害者(児)へのグループワークの事例(9)、障害者(児)の属する環境へのコミュニティーワークの事例(10)、履修者の興味・関心に応じた障害者(児)問題の今日的話題に関する討議(11-12)、本授業のまとめとしての課題作業(13-15)とする。
準備学習	障害者問題、高齢者問題、社会福祉がキーワードとなる各種メディア情報(新聞、書籍、テレビ番組や映画などの作品、インターネットなどで公表されているものなど)を自分なりに整理しておくことが望ましい。
履修上の留意点	「人に優しくするとはどのようなことか」、「人を支援するとはどのような意味があるか」、「人の道とは何か」といったいわゆる人道的視点と、「社会の中でより良く生きるとはどのようなことか」、「生活を豊かにするとはどのような意味があるか」など、いわゆる社会福祉的視点の両方について考えていきたい人に最適の授業だと考えます。
成績評価の方法	前期はまとめとして提出する課題(50%)、授業時の小課題(40%)、授業への参加意欲及び出席(10%)とする。 後期は最終的に提出する課題(80%)、授業時の小課題(10%)、授業への参加意欲及び出席(10%)とする。 これらによって得られた前・後期の成績を総合的に判断したものを全体の成績とする。
教科書/テキスト	特に指定しない。
参考書	講義中に随時指定する。
その他	基本的に講義形式で進める。学習する内容によっては、履修者による発表や討論を行ってもらう。またビデオ、DVD等の視聴を随時行う予定です。

履修コード	064401
科目名	社会福祉学特講Ⅳ〔相談・援護〕
担当者名	青山 宗雄

授業概要/ 到達目標(ねらい)	人間関係の難しさが、常に課題であり続ける背景には、自覚することの難しい“こころの構造”があると思われる。ある意味で、時代が人のこころをつくるとも言われるなかで、その時代が、いま何を求め、どこに向かおうとしているのかを洞察しつつ、人間心理と社会の関係を探る。
--------------------	--

福祉の仕事に関わらず、人間関係において「自分」という人間を知り、かつ相手をも理解することの重要性はいうまでもないが、しかし、「自分」について知るといことは意外に簡単なことではない。それは、すでにプログラム化されているこころ自身が、自らのこころを吟味することの難しさに基づいている。ゆえに、禅の世界などでは、無意識のうちに形成されてしまった先入観や固定観念を打ち砕き、あらゆる規制、束縛から解放された自由の境地を体得するものとされる。とりわけ、現代社会は、そうしたこころの垣根を越えた“つながり”が求められている。よって本稿では、機関の性格如何を問わず、相談・援護のあるべき姿を学習する。

授業スケジュール	<p>【前期】          昨今、こころの病や社会不適応などの問題が報道されることもある。その背景として、時代の趨勢や家族のあり方の変化、あるいは、きちんと向き合うことを要しない情報ツールの氾濫などもその一因として挙げられる。このことは、人間のもつ五感機能の健全な働きを鈍化させるのみならず、自らの内面と触れ合う機会をも低下させ、強いては、コトバのもつ重みを単純化させてしまう危険性をはらんでいる。よって本講においては、そうしたコミュニケーション能力を阻害しているさまざまな要因を分析し、しっかりと“向き合う”ことの意義について考察する。          ①～⑤コトバを習い覚えることの意味とその文化的規制力の影響。          ⑥～⑩コミュニケーションの阻害要因と自己吟味のトレーニング法。          ⑪～⑮人間の発達過程における諸課題とその対処法。</p>
----------	---

【後期】  
 相談・援護というものは、ごく日常的なものではあるが、しかし、私的、公的なものを問わず、あるいは、機関の性格如何に関わらず、そこには、一定の人間性が問われるのは当然である。しかし昨今は、ややもするとテクニク的なものが先走り、人間性に裏打ちされた相談や援助観が薄れつつある傾向も否めない。さらには、からだを使い汗を流すことが敬遠され、効率性だけが尊ばれるような状況にあって、“手間ひまをかける”ということの大切さが見落とされがちになっている感もある。よって、「手間ひま」をかけるということの大切さを改めて問い直してみる。  
 ①～⑤現代社会における児童問題と、その援助機関の現状と課題。  
 ⑥～⑩児童虐待等、根深いこころの傷と抑圧された感情の修正体験の意義。  
 ⑪～⑮手間ひまをかけ、じっくり向き合うことの意義と時代が求める臨床家像について。

準備学習	時事問題に常に関心を持ち、興味や疑問を感じるようなニュースや記事があったら、メモや切抜きをし、授業などで積極的に発言してもらいたい。また、授業に関連する事項について、あらかじめ、簡単なレポートを提出してもらいたい。
------	---

履修上の留意点	関心のある福祉施設の見学等を希望する場合は、相手先の施設との打合せや必要書類を提出しなければならないことがあるので、事前に期日等を申し出てもらいたい。
---------	---

成績評価の方法	授業内での発表、発言、討論等 30% 定期試験意外のレポート 30% 定期試験 40%
---------	---

教科書/テキスト	特に指定しない。
----------	----------

参考書	必要に応じて紹介する。
-----	-------------

履修コード	064501
科目名	社会福祉学特講V [福祉事務所]
担当者名	船水 浩行
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	社会福祉法に規定される「福祉に関する事務所」(福祉事務所)を巡る諸課題を考察する。昭和26年に発足した福祉事務所は、戦後、生活保護法等のいわゆる福祉六法をはじめとする諸法の現業機関として、国民の最低限度の生活確保等に一定の貢献をしてきた。しかし、最近の社会保障、社会福祉の諸制度の改革、地方分権の推進等の中で、そのあり方は大きな転換期を迎えている。また、一方では生活保護受給層の拡大等に対応すべき機関として、そのあり方が改めて問われている。この授業では、以上のような視点から、今後の福祉事務所とその運営のあり方を考察していく。
授業スケジュール	福祉事務所とは、現代社会と福祉事務所の運営 (第1~2回) 福祉事務所の成立と歴史的展開 (第3~7回) 福祉事務所を巡る法制度 (第8~9回) 福祉事務所の業務と組織 (第10~11回) 福祉事務所と関連社会資源との連携 (第12~13回) 福祉事務所の専門職員とその役割 (第14~15回) 社会福祉主事の専門性と倫理 (第16~17回) 社会福祉主事の業務と社会福祉援助技術の展開 (第18~19回) 福祉事務所における自立支援の事例と現状 (第20~26回) 福祉事務所の運営をめぐる課題と動向 (第27回以降)
準備学習	特に必要としない。
履修上の留意点	
成績評価の方法	最終レポート(定期試験期間に提出)80%、その他(出席等)20%
教科書/テキスト	宇山勝儀、船水浩行編著『福祉事務所運営論(第3版)』(ミネルヴァ書房)
参考書	随時紹介する

履修コード	069001
科目名	社会福祉基礎演習
担当者名	伊藤 秀一
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本演習は、社会福祉学専攻2年生が、3年次以降の専門演習で行う研究の前段階として位置づけられる科目であり、社会福祉領域の様々なテーマを研究していくための入門的、基礎的学習を中心とする。到達目標は各自が3年次以降の専門演習で論文を執筆する上で必要となる、文献の収集方法をはじめ、文献の講読方、レジメの作成、報告のしかた等を体験的に理解できるようにすることである。
授業スケジュール	学生のテーマ、関心に応じて、クラスをいくつかのグループに分け、それぞれ報告し、討論を行ったり、個別報告を行う。その過程において、プレゼンテーションやディスカッションの指導も含め、資料・新聞記事・文献の収集方法、先行研究論文等のレビューの仕方など、研究を進めていくうえで必要となる一連の予備的作業を体験的に学んでいく。 【前期】第1回：ガイダンス、第2~9回：資料・文献等の収集方法、研究テーマの選定・設定、レジメの書き方、プレゼンテーションなど研究を進めていく上で必要となる基礎的事項の学習、第10から15回：グループ報告 【後期】第1~13回：夏休み期間の課題をもとに提出されたレポートに即して個別報告とグループでのディスカッション、第14・15回：反省会と総括
準備学習	授業時に、次回用いるプリント等が配布される場合には、必ず目を通し、不明な点等を調べたり、質問をまとめておく。
履修上の留意点	3・4年次に作成する卒業論文を念頭に置いた学習であることを強く意識して受講されたい。
成績評価の方法	授業への取り組み状況や提出されたレジメの内容、報告のあり方などを踏まえて総合的に評価する。
教科書/テキスト	配布プリント等を用いて行う。
参考書	授業時に指示する。

履修コード	069101
科目名	社会福祉基礎演習
担当者名	桐原 宏行

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) この演習は、社会福祉学専攻の学生が研究を行っていく上で必要不可欠となる基礎的知識・技術の獲得及び問題意識の形成をはかることを目的とするものである。具体的には、履修者が取り組みたい研究課題の検討を行い、指示された資料集方法に基づき資料を集め、整理して、第1回目のプレゼンテーションを行う。プレゼンテーションで今後の研究の展開に向けた指導を受け、個別に課題の検討をすすめる。その結果を発表資料としてまとめ、第2回目のプレゼンテーションを行い、その指導結果を社会福祉専門演習Ⅰにつなげる。</p> <p>(到達目標) ・次年度以降の専門演習で深める研究課題が発見できること。 ・専門演習で取り扱う課題のアウトラインが整理できること。 ・プレゼンテーション技術を獲得すること。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>[前期] 演習の意義とすすめ方(1回目)、文献検索の方法をはじめとした資料収集方法(2回目)、論文の構成(3回目)、代表的研究方法(文献研究、調査研究、事例研究等)等の理解(4回目)、資料収集と研究テーマの選択(5~8回目)前期プレゼンテーション(9~15回目)</p> <p>[後期] 前期に学習した知識・技術を踏まえて、各自が研究課題を設定し、レジュメを作成する。個別にプレゼンテーションを行いつつ、議論していく(1~15回目)。</p>
----------	--

準備学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーションではパワーポイントを使用するため、各自資料の制作方法及び操作方法を復習しておくこと。</li> <li>・文献検索等でインターネットを利用するため、基本的操作を復習しておくこと。</li> </ul>
------	---

履修上の留意点	<p>本演習での取り組みは、後の専門演習、卒業論文へのステップに多大な影響を持つものである。積極的に取り組むことはもちろんのことであるが、学習事項を確実に成果に結びつけることが重要である。</p> <p>なお、演習ではパワーポイントを使用したプレゼンテーションを実施するため、各自がその作成と操作ができることが必要となる。</p>
---------	---

成績評価の方法	平常点(40%)、前期・後期2回のプレゼンテーション(60%)により評価する。
教科書/テキスト	特に指定しない。
参考書	演習の中で随時紹介する。

履修コード	068901
科目名	社会福祉基礎演習
担当者名	東條 光雅

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本演習は、専門演習へ入る前の導入的位置付けであり、資料収集の仕方、資料のまとめ方、分析の仕方、発表の仕方等を実際に体験しながら体得してもらう。
---------------------	---

授業スケジュール	履修学生の研究関心によりクラスを小グループ(3~4名)に分け、グループ研究課題を設定してもらう。前期終了時点と後期終了時点の2回、グループ毎の研究報告をしてもらう。演習であり、グループ活動でもあるので、出席は非常に重視する。こうした作業の過程で、研究課題の設定の仕方、文献検索の仕方、研究のまとめ方、各種機器の使い方、発表の仕方等の指導を行う。
----------	--

準備学習	1年間或るテーマを設定してもらって研究活動をしてもらう。第2回の授業時にはグループ作りをするので、それまでに自分が関心のある、あるいは関心を持てる領域・課題について考えておくこと。
------	--

履修上の留意点	出席は勿論、演習であるから自主的・主体的・積極的な参加を重視する。研究報告会では、エクセルやパワーポイントを使うことになるので、1年次の「情報処理論」の授業でしっかりと会得しておくこと。
---------	---

成績評価の方法	評価は、クラスワークへの出席率、討議への参加度・貢献度、年2回の研究報告会の発表内容等により、総合的に行なう。
教科書/テキスト	特に指定しない。
参考書	適宜紹介する。



履修コード	062801 062802
科目名	社会福祉原論
担当者名	伊藤 秀一

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>社会福祉は、かつて、慈善事業、社会事業と呼ばれていたものが、今日では、社会を構成する「社会制度」のひとつになったものである。そして、その制度の内容は、今日的貧困をかかえながら、人間性を回復するために他からの援助を必要とする人に対し、対人関係を媒介として、有形無形のサービスを提供することである。</p> <p>本講では、社会福祉の理念、概念、歴史、制度等広く概観する。また、社会福祉の基礎知識を整理するとともに、下記の到達目標についての内容と制度的改革の続く社会福祉の今日的な動向と課題についても把握する。</p> <p>本講における到達目標は下記のとおりである。①現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。②福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解する。③福祉政策におけるニーズと資源について理解する。④福祉政策の課題について理解する。⑤福祉政策の構成要素や関連施策について理解する。⑥相談援助活動と福祉政策との関係について理解する。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>〔前期〕</p> <p>第1回：ガイダンス  第2回：社会福祉の理念と概念  第3回：同上  第4回：同上  第5回：現代社会における社会福祉の意義と役割  第6回：同上  第7回：現代社会における福祉制度と福祉政策  第8回：同上  第9回：福祉の原理をめぐる理論と哲学  第10回：同上  第11回：福祉制度の発達条件(イギリスにおける福祉制度の発達過程)  第12回：同上  第13回：同上  第14回：福祉制度の発達条件(日本における福祉制度の発達過程)  第15回：同上  第16回：同上  第17回：福祉政策におけるニーズと資源(需要とニーズの概念)  第18回：同上(地域福祉と資源)  第19回：福祉政策の課題(貧困者の政策課題)  第20回：同上(高齢者の政策課題)  第21回：同上(障害者の政策課題)  第22回：同上(児童関連の政策課題)  第23回：同上(福祉政策の国際比較)  第24回：福祉政策の構成要素  第25回：同上  第26回：福祉政策と関連政策  第27回：同上  第28回：相談援助活動と福祉政策の関係  第29回：同上  第30回：これからの社会福祉</p>
----------	--

準備学習	授業の最後に、次回の講義で取り上げるテーマ及びテキストでの該当箇所を指定するので、事前に目配りしておく。できれば疑問点や質問事項を用意されたい。
履修上の留意点	講義の内容は極めて広範囲にわたるので、指定されたテキスト以外の参考文献等を活用しながら各自学習を深めてほしい。
成績評価の方法	評価は前期及び後期に行う試験(7割)と平常点(3割)による。
教科書／テキスト	塩野敬祐・福田幸夫編著『現代社会と福祉(社会福祉士シリーズ4)』弘文堂、2011年、2500円+税、ISBN978-4-335-61074-5
参考書	随時紹介する。
その他	ビデオ教材を活用したり、受講者による意見発表会等も行う。

履修コード	070011
科目名	社会福祉専門演習I
担当者名	荒井 浩道
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この授業では、研究テーマの選定、研究計画の立案、研究計画書作成等の一連の研究方法の習得を目指し、次年度の卒業論文に繋がります。
授業スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・導入 (第1回)</li> <li>・研究テーマの選定 (第2回-第5回)</li> <li>・研究計画の立案 (第6回-第11回)</li> <li>・研究計画書作成 (第12回-第15回)</li> <li>・研究経過の報告 (第16回-第29回)</li> <li>・総括 (第30回)</li> </ul>
準備学習	特になし。
履修上の留意点	授業への主体的参加を期待します。
成績評価の方法	出席、研究発表、研究計画書等により総合的に評価します。
教科書/テキスト	特になし。
参考書	授業のなかで随時指示します。

履修コード	069501
科目名	社会福祉専門演習I
担当者名	伊藤 秀一
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	卒業論文で扱いたいテーマを選定する際の留意事項を学習するとともに、報告・討論をとおして各自の問題意識の深化を図ることを目的とする。到達目標としては①卒論で取り上げる研究テーマの決定、②執筆時に必要となる引用・参考文献の収集、資料の収集、③論旨を明確にした章立て、までをゼミ生全員が終了できるようにサポートする。
授業スケジュール	狭い意味の社会保障の分野だけでなく、社会福祉を広く解して、その中から、各自のテーマを自己の意志で選択し、それぞれの考究を進めることとしたい。前期は、討議のための共通基盤をつくっていくために適当なテキスト・文献以外にも福祉新聞などの記事等を使用し、これを共同で解読する。その後、後期において、具体的な卒論テーマを設定し、卒論作成への準備に入っていく。
準備学習	授業時に、次回討議するためのプリントやレジメが配布される場合には必ず目を通し、疑問点、意見、質問等をまとめておく。
履修上の留意点	ゼミを「出る杭を育てる」という方針で考えたいので、学生には主体的・積極的な学習への取り組みが要求される。
成績評価の方法	授業への取り組み状況をはじめ、報告、討論への参加等、クラスワークのあり方をもとに総合的に評価する。
教科書/テキスト	授業開始時にゼミ生と協議して決定する。
参考書	ゼミ生のテーマ等により随時紹介する。
その他	3・4年生合同のゼミ合宿を年2回(夏と春)実施する。

履修コード	070001
科目名	社会福祉専門演習I
担当者名	川上 富雄
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この授業では社会福祉研究を実施していくうえで求められる、研究テーマの選定、研究計画の立案、文献研究、調査研究、実践研究、研究計画書作成等の一連の研究方法の習得を目指し、次年度の卒業論文に繋がります。
授業スケジュール	この授業では、各自の研究テーマの選定から、研究計画書作成まで指導します。各自の研究計画に沿って、年間数回のプレゼンテーションやディスカッション、個別指導を通して問題関心を深めていきます〔通年〕。年度末に提出を求める研究計画書作成を目指し、次年度の卒業論文に繋がります。また、ゼミ合宿において、研究の途中経過の報告を行います。
準備学習	発表準備など
履修上の留意点	授業への主体的参加を期待します。
成績評価の方法	出席、プレゼンテーション、ディスカッション、研究計画書等により総合的に評価します。
教科書/テキスト	特に指定しません。必要に応じてプリントを配布します。
参考書	授業のなかで随時指示します。
その他	3・4年生合同のゼミ合宿を実施します。

履修コード	069801
科目名	社会福祉専門演習Ⅰ
担当者名	桐原 宏行
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	卒業論文を作成するために必要とされる基礎的事項（文献研究、調査研究、事例研究、実験研究等の研究方法）の習得を目指す。演習では各自が研究課題を決定し、年間研究スケジュールを設定して、それに沿って成果を数回に分けて発表し、議論を通して問題意識を深めていく。
授業スケジュール	演習では、障害者及び特別なニーズのある子どもの福祉（子どもの発達保障の問題も含む）に関する諸問題を中心に取扱いしていく。具体的には「障害児・者の福祉サービス」「所得保障」「QOL」「家族支援」「地域支援」「バリアフリー」「福祉教育」などの問題の中から、各自が研究課題を選択、決定し、研究を進めていくこととなる。 具体的スケジュールは、研究テーマの設定（1～2回目）、論文構成について（3～4回目）、課題の作成とプレゼンテーション（5～15回目）。後期は個別の研究内容のプレゼンテーション（1～15回目）を行い、指導を受ける。
準備学習	・プレゼンテーション後指導を受けた事項に関しては、必ず次のプレゼンテーションまでに追加、修正を行っておくこと。
履修上の留意点	
成績評価の方法	平常点（50%）、レポートの作成と年間数回のプレゼンテーション（50%）により評価する。
教科書／テキスト	
参考書	随時、指示する。

履修コード	069701
科目名	社会福祉専門演習Ⅰ
担当者名	佐藤 光正
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この演習では、学生それぞれの卒論“関心テーマ”が“研究テーマ”へと進化し、いくつかのプロセス（ゆれ）を経て、次年度に「卒業論文（成果）」としてまとまる一連の思考過程（考え方）と技術習得（問題解決法）のための基礎指導を中心に行う。 年度末に、絞り込んだ各自のテーマを論文形式でA4用紙10枚程度に仕上げるのが目標。
授業スケジュール	前期は、各自の関心領域からテーマを絞り込むための各演習および論文作成の基礎（1）を演習する。後期は、各自のテーマを深めるために必要な演習および論文作成の基礎（2）を行う。 中間報告、ゼミ合宿（9月と3月を予定）では各自の成果のプレゼンテーション等を行う。 (1)オリエンテーション (2)～(4)各自の卒論関心テーマ報告 (5)～(14)関心から卒論テーマへの絞り込み方・論文作成の基礎（1） (15)中間報告会 (16)～(30)卒論テーマの深め方・論文作成の基礎（2）
準備学習	各自の卒論関心テーマ領域に関する基礎知識について、事前に学習しておくこと。
履修上の留意点	個別の指導と平行してグループでのディスカッションを中心にゼミを展開するため、主体的な参加が必須である。また各自の卒論関心テーマへの熱い思いと地道な作業を軸に、教員や文献等を有効に活用してほしい。
成績評価の方法	授業内での発表等30%、課題提出等30%、平常点（年間をとおしたプロセスの中で“ほう（報告）れん（連絡）そう（相談）”をしながら卒論作成の準備が行われたか、またゼミ運営への貢献度も含む）40%とする。
教科書／テキスト	特に指定しない。
参考書	必要に応じて随時紹介する。
その他	最新の福祉状況を知るために、毎月発行される「切り抜き速報 福祉ニュース（障害福祉編）」、「切り抜き速報 福祉ニュース（高齢福祉編）」を活用する。

履修コード	069601
科目名	社会福祉専門演習I
担当者名	東條 光雅
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本演習では、福祉関連雑誌、新聞記事、インターネット等を活用しながら、高齢者保健福祉の制度・サービス・処遇に関する基礎的な知識の修得を目指す一方、研究報告会や集団討議等を通して、自己表現能力を磨いてもらう。
授業スケジュール	高齢者福祉ならびに処遇方法論を主テーマとするゼミではあるが、4月にゼミ履修学生の意向を確認した上で、1年間の進め方等を決定する。基本的には、演習であるので、学生の主体的な研究活動が中心となる。したがって、主体的・積極的な姿勢が求められる。夏と春にそれぞれゼミ合宿を行い、各自の研究報告を行ってもらう。 なお、12月10日までに、各自の研究テーマで400字×30枚のゼミ論文を提出してもらう。
準備学習	2年間に亘って研究活動をしてゆくので、自分なりに何に研究関心があるのかを明確にできるよう、授業開始時までに良く考えておくこと。途中で研究テーマを変更することはできるが、しっかりと、じっくりと考えておくことが求められる。
履修上の留意点	出席ならびに積極的なコミットメントを重視する。なお、年2回（9月と3月頃）の合宿研修を実施している。
成績評価の方法	評価は、クラスワークやゼミ合宿への出席率、討議への参加度・貢献度、ゼミ論文の内容等により、総合的に行なう。
教科書／テキスト	特には指定しない。
参考書	適宜紹介する。

履修コード	069901
科目名	社会福祉専門演習I
担当者名	長尾 譲治
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この演習では、保健や福祉に関する身近で興味深いテーマを題材として、ゼミを展開してゆく。いのちと生活に関連した社会問題に関心を深めるとともに、これらの問題の検討を通して客観的な思考方法とコミュニケーション能力、わかりやすい文章の書き方を身につけていく。具体的には、ディベートやディスカッションを通していろいろなテーマと一緒に考えながら、ゼミ論・卒論に向けての準備を行っていくことになる。ゼミの運営は、学生の意見・希望を反映させながら、皆の合意の上で進めていく。このような「グループワーク」としての運営の性格上、授業への出席と作業への主体的参加が何より求められる。
授業スケジュール	①オリエンテーション（1回目）②ディベート（2～10回目）③週間福祉ニュース（11～15回目）④就職面接ロールプレイ（16～18回目）⑤先輩からの就職活動体験談（19～20回目）⑥履歴書・小論文添削指導（21～25回目）⑦ゼミ論個別面談（26～30回目）
準備学習	その都度指示する。
履修上の留意点	本ゼミは、グループ作業が中心となる。上述のように、出席と各自の主体的参加がゼミの成否を左右する。楽しく充実したゼミにするために、協力的に行動してほしい。
成績評価の方法	毎回の授業への参加が前提となる（出席点が基本。※配属実習中は公欠扱い）。出席点に、作業への参加状況とゼミ論の内容を加味して評価する。
教科書／テキスト	特に指定しない。必要な資料を随時配布する。
参考書	「週刊 福祉新聞」（福祉新聞社） 「地域福祉情報」（ジャパン通信情報センター）

履修コード	061911
科目名	社会福祉専門演習II
担当者名	荒井 浩道
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この授業では、研究計画書に基づいた卒業論文の作成を目指します。
授業スケジュール	・導入（第1回） ・先行研究レビュー（第2回-第5回） ・調査研究法（第6回-第11回） ・論文構成法（第12回-第15回） ・研究経過の報告（第16回-第29回） ・総括（第30回）
準備学習	特になし。
履修上の留意点	授業への主体的参加を期待します。
成績評価の方法	出席、研究発表、卒業論文等により総合的に評価します。
教科書／テキスト	特になし。
参考書	授業のなかで随時指示します。

履修コード	070401
科目名	社会福祉専門演習II
担当者名	伊藤 秀一
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	3年次の専門演習Iの学習成果を踏まえ、各自のテーマにもとづき、報告と討論をとおして卒業論文作成の指導を行う。
授業スケジュール	各自のテーマにそった報告をもとに、ゼミメンバー間での討議をとおして考察を深めていく。なお、全員参加を前提とする年2回のゼミ合宿においても卒業論文作成のための集団討議および個別指導を行う。なお、福祉新聞などの新聞記事等も活用し最新の情報収集にも努めながら指導したい。
準備学習	報告と討論を主体とした授業となるため、先行研究論文の読解やプレゼンテーションのあり方に留意して準備されたい。
履修上の留意点	授業への積極的・主体的参加が要請される。
成績評価の方法	授業への取り組み状況をはじめ、報告、討論への参加等、クラスワークのあり方をもとに総合的に評価する。
教科書/テキスト	特に指定しない。
参考書	個々のゼミ生に応じ随時紹介する。

履修コード	070201
科目名	社会福祉専門演習II
担当者名	川上 富雄
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	「地域ケアシステム構築と地域を基盤としたソーシャルワーク」「社会的な援助が必要な人々への社会福祉・ソーシャルワークの役割」をゼミ共通の問題意識としながら、分野論や制度論にこだわらず、横断的・俯瞰的(ふかんでき)・隙間的(すきまてき)視点で各自テーマを見つけ、それへの支援のあり方やシステムを発送豊にかつ利用者・住民の立場で考察し、報告と討論を通して問題意識を深め、卒業論文の作成に結びつけていきます。
授業スケジュール	ノーマライゼーション、ICF、地域自立生活支援、権利擁護、社会福祉協議会、NPO、民生委員・児童委員、地域ケアシステム、地域福祉計画、セルフヘルプグループ(当事者組織)、住民参加・住民福祉活動、ボランティア活動、施設の社会化、福祉情報、地域福祉援助技術(コミュニティ・ソーシャルワーク)、地域包括支援センター、といったキーワードに関連づけながら広範な社会問題に関心を向けてテーマ設定を行い、各自の選んだ研究テーマにそった報告と討論を通して問題意識を深め、卒業論文の作成に取り組みます。また、ゼミ合宿において、研究の途中経過の報告を行います。
準備学習	発表準備など
履修上の留意点	授業への主体的参加を期待します。
成績評価の方法	出席、プレゼンテーション、ディスカッション、研究計画の進捗等により総合的に評価します。
教科書/テキスト	特に指定しません。必要に応じてプリントを配布します。
参考書	授業のなかで随時指示します。

履修コード	070601
科目名	社会福祉専門演習II
担当者名	桐原 宏行
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この演習では、前年度の「社会福祉専門演習I」での各自の成果を基礎として、卒業論文の作成・提出に向け必要となる事項に関して学習をすすめるものである。具体的には、それぞれの設定している課題に沿って、文献・資料分析、調査や事例のデータ分析を行い、その結果に関して議論を重ねつつ展開していく。
授業スケジュール	卒業論文作成のための個別指導、及び研究内容のプレゼンテーション(前期・後期ともに1~15回目)。
準備学習	・課題への取り組み方により、個人間で進捗状況に差異があるため、スムーズに研究を進行させるために、指導を受けた事項に関してはすぐに修正して、再指導を受けること。
履修上の留意点	・社会福祉専門演習Iの単位を取得していること。
成績評価の方法	研究への取り組み状況、研究進行過程での数回のプレゼンテーションを総合して評価する。
教科書/テキスト	
参考書	研究の進行に応じて、随時指示する。

履修コード	070301
科目名	社会福祉専門演習II
担当者名	佐藤 光正

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	必修科目である卒業論文の個別指導が中心となる。「社会福祉専門演習I」で土台を固めた各自のテーマが、卒業論文としてより完成するよう、またその過程で良質ないろいろな気づきやスキル習得ができるよう必要な指導を行う。
---------------------	--

授業スケジュール	前期・後期ともに各自の卒論進行状況に合わせた個別指導を中心に行う。また全体での卒論中間報告会(随時)、提出後の発表、ゼミ合宿(予定)などを行う。 (1)オリエンテーション (2)各自の卒論進行状況報告 (3)～(10)個別指導 (11)中間報告会 (12)～(20)個別指導 (21)中間報告会 (22)～(29)個別指導 (30)発表会
----------	---

準備学習	各自の卒論テーマ領域に関する専門知識について、事前に学習しておくこと。
------	-------------------------------------

履修上の留意点	各自の卒論関心テーマへの熱い思いと地道な作業を軸に、教員や文献等を有効に活用してほしい。
---------	--

成績評価の方法	授業内での発表等20%、課題提出等30%、平常点(年間をとおしたプロセスの中で“ほう(報告)れん(連絡)そう(相談)”をしながら卒論作成が行われたか、またゼミ運営への貢献度も含む)50%とする。
---------	---

教科書/テキスト	特に指定しない。
----------	----------

参考書	各自の研究テーマに合わせて随時紹介する。
-----	----------------------

その他	最新の福祉状況を知るために、毎月発行される「切り抜き速報 福祉ニュース(障害福祉編)」、「切り抜き速報 福祉ニュース(高齢福祉編)」を活用する。
-----	--

履修コード	070101
科目名	社会福祉専門演習II
担当者名	東條 光雅

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本演習は、3年次の社会福祉専門演習Iの持ち上がりであり、“講義のねらい”に関しては、専門演習Iの内容の延長上にある。
---------------------	--

授業スケジュール	必修科目である卒業論文の個別指導が主な内容となるが、学生の要望があれば卒業論文の指導とは別に、テーマを設けてクラスワークを行なうこともある。夏と春にそれぞれゼミ合宿を行ない、各自の研究報告を行なってもらう。
----------	---

準備学習	いよいよ卒業論文として纏めに掛かることになるので、調査やインタビューの内容や段取りについて考えておくこと。
------	---

履修上の留意点	原則的に、出席状況と積極性を重視する。
---------	---------------------

成績評価の方法	評価は、クラスワークやゼミ合宿への出席率、討議への参加度・貢献度等により、総合的に行なう。
---------	---

教科書/テキスト	特に指定しない。
----------	----------

参考書	必要に応じて紹介する。
-----	-------------

履修コード	070501
科目名	社会福祉専門演習Ⅱ
担当者名	長尾 譲治

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この演習は、専門演習Ⅱに引き続いて4年次に開講される。3年次終了時に各自が設定した卒業論文のテーマに沿って、個別指導を行う。同時に、福祉士の国家試験合格を目指した徹底指導を並行して行っていく。4年次のゼミは、3年間の学習の総仕上げである。文章力・自己表現力(発言力)をしっかりと身につけて、社会に適用する自己を形成することをめざしている。自己の成長の場として、授業を大いに活用してほしい。
---------------------	--

授業スケジュール	①オリエンテーション(1回目)②個別面談&国試対策講座(同時並行)(2~27回目)③卒業論文発表会(28~30回目)
----------	--

準備学習	その都度指示する。
------	-----------

履修上の留意点	本ゼミは、3年次のゼミと同じメンバーで構成される。仲間関係を有効に生かし、積極的かつ協力的に参加してほしい。
---------	--

成績評価の方法	毎回の授業への参加が評価の前提となる(出席点が基本。※配属実習中は欠扱い)。出席点に、作業への参加状況を加味して評価する。
---------	---

教科書/テキスト	特に指定しない。必要な資料を随時配布する。
----------	-----------------------

参考書	「週刊 福祉新聞」(福祉新聞社) 「地域福祉情報」(ジャパン通信情報センター)
-----	--

履修コード	063901 063902
科目名	社会福祉発達史
担当者名	堀 千鶴子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	我が国における、近代以降の社会事業・社会福祉の生成、発展について学ぶ。特に、社会事業・社会福祉事業に貢献した人物史の足跡をたどることから、社会福祉の歴史を理解する。
---------------------	--

授業スケジュール	<table border="0"> <tr> <td>1</td> <td>社会福祉の歴史と人物史</td> <td>16</td> <td>5</td> <td>野口幽香</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>慈善・救済の時代的背景</td> <td>17</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>"</td> <td>18</td> <td>1</td> <td>社会事業・社会福祉の時代的背景</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>"</td> <td>19</td> <td>2</td> <td>"</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>人物史</td> <td>20</td> <td>3</td> <td>"</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>"</td> <td>21</td> <td>1</td> <td>人物史</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>2 石井十次</td> <td>22</td> <td>6</td> <td>久布白落実</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>"</td> <td>23</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>"</td> <td>24</td> <td>7</td> <td>小河滋次郎</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>3 矢島楯子</td> <td>25</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>"</td> <td>26</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>"</td> <td>27</td> <td>8</td> <td>山田わか</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>人物史</td> <td>28</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>"</td> <td>29</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>"</td> <td>30</td> <td></td> <td>まとめ</td> </tr> </table>	1	社会福祉の歴史と人物史	16	5	野口幽香	2	慈善・救済の時代的背景	17			3	"	18	1	社会事業・社会福祉の時代的背景	4	"	19	2	"	5	人物史	20	3	"	6	"	21	1	人物史	7	2 石井十次	22	6	久布白落実	8	"	23			9	"	24	7	小河滋次郎	10	3 矢島楯子	25			11	"	26			12	"	27	8	山田わか	13	人物史	28			14	"	29			15	"	30		まとめ
1	社会福祉の歴史と人物史	16	5	野口幽香																																																																								
2	慈善・救済の時代的背景	17																																																																										
3	"	18	1	社会事業・社会福祉の時代的背景																																																																								
4	"	19	2	"																																																																								
5	人物史	20	3	"																																																																								
6	"	21	1	人物史																																																																								
7	2 石井十次	22	6	久布白落実																																																																								
8	"	23																																																																										
9	"	24	7	小河滋次郎																																																																								
10	3 矢島楯子	25																																																																										
11	"	26																																																																										
12	"	27	8	山田わか																																																																								
13	人物史	28																																																																										
14	"	29																																																																										
15	"	30		まとめ																																																																								

準備学習	・テキストを準備し、指定された章について、あらかじめ目を通しておくこと。 ・文中内で、わからない項目・事象については、調べておくこと。
------	--

履修上の留意点	出席を重視する。テキスト必ず持参。
---------	-------------------

成績評価の方法	授業内レポート(10%)、授業内試験(30%)、夏期課題(20%)、学期末レポート(40%)にて総合的に評価を行う。
---------	--

教科書/テキスト	室田保夫「人物で読む近代社会福祉のあゆみ」ミネルヴァ書房2800円 ISBN4-623-04519-6
----------	---

参考書	授業内にて指示する。
-----	------------

履修コード	065001 065002
科目名	社会保障論
担当者名	長尾 譲治

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>本科目は、社会福祉学専攻における社会福祉士指定科目の1つであり、ソーシャルワーカーを目指す皆さんにとって必要で十分な社会保障制度に関する実践的知識を習得すること、及びソーシャルワークの現場においてその知識を生かす応用能力を身につけることを第一の目標としている。同時に、授業を通じ、少子高齢化社会における社会保障制度のあり方や、雇用・労働と社会保障の充実、男女共同参画、国民生活と福祉、国際化と各国の社会保障など、社会保障を取り巻くさまざまな問題の現状と課題について考察を深めていく。</p> <p>授業では、身近な家族の実例や、マンガ・ドラマに出てくるおなじみの登場人物とその生活場面などに当てはめながら、具体的に社会保障の内容についてイメージできるように授業を展開していく。社会保障を自分自身の問題として捉え、皆さんの今後の人生に役立てて頂きたい。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>第1回：社会保障とは（憲法第25条と社会保障、少子高齢化と日本の社会保障など）</p> <p>第2回：医療保険制度①（職業の種類ごとの医療保険の制度、保険料の支払い方）</p> <p>第3回：医療保険制度②（医療保険の給付その1）</p> <p>第4回：医療保険制度③（医療保険の給付その2）</p> <p>第5回：医療保険制度④（後期高齢者医療制度の概要、医療保険制度の今後の展望）</p> <p>第6回：年金保険制度①（年金保険制度の種類、保険料の支払い方）</p> <p>第7回：年金保険制度②（高齢者と年金）</p> <p>第8回：年金保険制度③（障害者と年金）</p> <p>第9回：年金保険制度④（遺族と年金）</p> <p>第10回：年金保険制度⑤（年金保険制度の今後の展望）</p> <p>第11回：雇用保険制度①（制度の概要と保険料の支払い方）</p> <p>第12回：雇用保険制度②（雇用保険の給付）</p> <p>第13回：労災保険制度①（制度の概要と保険料の支払い方）</p> <p>第14回：労災保険制度②（労災保険の給付）</p> <p>第15回：雇用保険・労災保険制度の今後の展望</p> <p>第16回：介護保険制度①（介護保険への加入と保険料の支払い方）</p> <p>第17回：介護保険制度②（介護保険の給付）</p> <p>第18回：介護保険制度③（介護保険制度の今後の展望）</p> <p>第19回：ライフサイクルと社会保障①就職したら（労働基準法の概要、加入する制度と税金・社会保障料の重要性）</p> <p>第20回：ライフサイクルと社会保障②女性と労働（男女雇用機会均等法とワークライフバランス）</p> <p>第21回：ライフサイクルと社会保障③結婚したら（妊娠・出産・育児とその支援）</p> <p>第22回：ライフサイクルと社会保障④子育て（少子化時代への対応を考える）</p> <p>第23回：ライフサイクルと社会保障⑤身体障害を受けたら（障害者自立支援制度の概要）</p> <p>第24回：ライフサイクルと社会保障⑥精神的不調に陥ったら（精神保健福祉制度と障害者自立支援制度）</p> <p>第25回：ライフサイクルと社会保障⑦離婚することになったら（ひとり親家庭への支援）</p> <p>第26回：ライフサイクルと社会保障⑧リストラされたら（労働経済の実情と再就職支援、生活保護制度）</p> <p>第27回：ライフサイクルと社会保障⑨親が寝たきりや認知症になったら（高齢者福祉と利用者・消費者の保護）</p> <p>第28回：ライフサイクルと社会保障⑩末期がんと告げられたら（ターミナル・ケアとQOL）</p> <p>第29回：国際化への対応と各国の社会保障制度</p> <p>第30回：社会保障制度の現状と課題</p> <p>定期試験：授業の全範囲から出題する。</p>
----------	---

準備学習	中学校の「社会」、高等学校の「公民」の教科書等で、社会保障・福祉や労働などに該当する部分を復習しておく、授業がより理解しやすくなると思われる。
------	---

履修上の留意点	学年末試験・出席状況による総合評価とする。
---------	-----------------------

成績評価の方法	特に指定しないが、必要に応じて参考書等を紹介する（授業は毎回の詳説プリントを通じて行う）。
---------	---

教科書／テキスト	
----------	--

参考書	週刊社会保障編集部編『社会保障便利事典』（法研） その他、随時紹介する。
-----	---



履修コード	065441
科目名	就労支援サービス
担当者名	桐原 宏行

授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p>(授業概要) この授業は、わが国の就労支援を必要とする人々の実態や社会背景などを踏まえて、それらの人々に対する福祉施策、及び雇用施策に基づく多様な支援に関する法制度ならびにそれに関わる専門職と実務について理解を深めるものである。</p> <p>(到達目標) ・相談援助活動において必要となる各種の就労支援制度について理解する ・就労支援に係る組織、団体、及び専門職の役割について理解する ・就労支援分野における連携方法について理解する</p>
--------------------	--

授業スケジュール	<p>第1回：就労支援を学ぶことの意義と授業の展開 第2回：労働の意義・動機づけの諸理論 第3回：キャリア発達と就労支援「キャリア発達の理論と発達課題」 第4回：雇用・就労の動向「労働市場の動向」「就労支援対象者の雇用実態」 第5回：労働法規①「基本的労働法規の概要」 第6回：労働法規②「就労支援に関連する諸法律の概要」 第7回：就労支援制度の概要①「低所得者の就労支援」 第8回：就労支援分野の実務①「ハローワークを中心とした機関連携方法」 第9回：就労支援制度の概要②「障害者福祉施策における就労支援」 第10回：就労支援分野の実務②「障害者雇用施策における機関連携方法」 第11回：就労支援制度の概要③「障害者雇用施策における就労支援」 第12回：就労支援分野の実務③「障害者福祉施策における機関連携方法」 第13回：就労支援サービスの実施体制①「組織及び団体の役割と実際」 第14回：就労支援サービスの実施体制②「専門職の役割と実際」 第15回：授業内確認テスト</p>
----------	--

準備学習	<p>・1年次に「社会福祉原論」及び「社会福祉援助技術総論」を履修しておく必要があり、さらには2年次前期に履修した「障害者福祉論」「公的扶助論」の復習をしておくこと。 ・毎時の授業内容は、YeStudyでアップロードするため、その内容と教科書の該当部分を読んでおくことが望ましい。</p>
------	--

履修上の留意点	<p>本科目は、社会福祉士法の改正により新設された科目である。平成21年度以降の入学で社会福祉士受験資格取得予定者は履修しなければならない。また、平成20年度以前入学者については、履修の必要はないものの、国家試験科目であるため履修することが望ましい。 本科目の履修に当たっては、「障害者福祉論」「公的扶助論」の単位を取得していることが望ましい。</p>
---------	--

成績評価の方法	授業内確認テスト又はレポートの提出70%、平常点30%
---------	-----------------------------

教科書／テキスト	福祉臨床シリーズ編集委員会編、桐原宏行責任編集『社会福祉士シリーズ18 就労支援サービス』、弘文堂2,625円 ISBN978-4-335-61088-2
----------	---

参考書	
-----	--

その他	YeStudyを活用する。
-----	---------------

履修コード	065421 065422
科目名	障害者福祉論
担当者名	桐原 宏行

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 本講義は、障害者福祉の現在に至る経過をたどりながら、障害に関する基本的な理解を基礎として、障害者の実態や生活ニーズ、権利、法律や諸制度などの事項に関する理解を深めるものである。 (到達目標) ・障害の本質及び障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢について理解する ・障害者福祉制度の発達過程について理解する ・相談援助活動において必要となる障害者福祉に係る法制度について理解する ・ノーマライゼーションの実現方法について考察する
---------------------	--

授業スケジュール	第1回：障害者福祉を学ぶこととは 第2回：障害とは何か①（身体障害の理解） 第3回：障害とは何か②（知的障害・発達障害の理解） 第4回：障害者福祉の理念 第5回：障害の概念と定義 第6回：障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢 第7回：障害者福祉制度の発達過程 第8回：障害者基本法 第9回：障害者自立支援法①（制度移行） 第10回：障害者自立支援法②（制度解説1） 第11回：障害者自立支援法③（制度解説2） 第12回：障害者自立支援法④（制度解説3） 第13回：障害者福祉関連法の概要①（身体障害者福祉法、知的障害者福祉法） 第14回：障害者福祉関連法の概要②（精神保健及び精神障害者福祉に関する法律、発達障害者支援法） 第15回：障害者福祉に関する諸知識の確認
----------	--

準備学習	・分野論の学習になるため、1次に「社会福祉原論」及び「社会福祉援助技術総論」を履修しておく必要がある、その復習をしておくこと。 ・毎時の授業内容は、YeStudyでアップロードするため、その内容と教科書の該当部分を読んでおくことが望ましい。
------	---

履修上の留意点	本科目は、社会福祉士法の改正により変更された科目である。平成21年度以降入学者（平成20年度以降の入学者で単位未修得者も含む）で社会福祉士受験資格取得予定者は履修しなければならない。なお、平成20年度以前の履修者で、同一名称科目「障害者福祉論（4単位科目）」をすでに履修し単位を取得した者は再履修できないが、法改正で科目内容が改正されており、本年度の社会福祉士国家試験から「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」の科目で試験が実施されるため、その対策には十分注意する必要がある。 履修者はできるだけ、「社会福祉原論」及び「社会福祉援助技術総論」の単位を取得していること。
---------	---

成績評価の方法	授業内確認テスト又はレポートの提出70%、平常点30%
教科書／テキスト	福祉臨床シリーズ編集委員会編 日比野清, 大熊信成, 建部久美子責任編集、『社会福祉士シリーズ14 障害者に対する支援と障害者自立支援制度』、弘文堂、2,625円 ISBN978-4-335-61084-4 C3347

参考書

その他

YeStudyを活用する。

履修コード	063001
科目名	情報処理論
担当者名	軽部 幸浩

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	現代社会においてコンピュータは必須の情報処理装置である。とりわけ、大学生にとってのコンピュータは、知的作業をおこなう上で最低限習得しなければならないツールである。すでに高校時代にコンピュータを利用した授業を経験したのも多いと思うが、本講義では大学で必要とされる知的生産を支援するためのコンピュータ利用法を徹底的に習得する。大学に入ってからコンピュータをはじめ本格的に利用する学生もまだいると思われるので、コンピュータについてまったくの初心者の方が独力でコンピュータを活用して社会福祉学のレポート等を作成することができる能力を培う。また、自分の得た結果や事実、考えを表現するための方法を習得する。なお、パーソナルコンピュータを個人で所有することで理解の程度が飛躍的に向上するであろう。余裕があれば購入することを薦める。
---------------------	--

授業スケジュール	授業はすべて実習形式でおこなう。1つのテーマに数時間を当て、毎回授業内でおこなう課題と授業外でおこなう簡単な課題の提出を求める。具体的な内容は次のとおりである。 【前期】 [1] 情報処理の基礎 [2] Internet利用の実際と注意 (マナーやモラルについて) [3] 電子的コミュニケーション (電子メールの利用法) [4] タッチタイピングの完全習得 (タイピングソフトを利用) [5] 情報の検索 (WWWの利用法) [6~12] 大学生として必要なドキュメント処理能力の習得 (MS-Word) [13~15] プレゼンテーションの実際 (プレゼンテーションの基礎技術) 【後期】 [1] 大学生として必要なドキュメント処理能力の習得 (MS-Word) [2~15] スプレッドシートの習得 (MS-Excelによる集計、グラフ、データベース)
----------	--

準備学習	特になし
------	------

履修上の留意点	原則的に遅刻、欠席は認めない。欠席を年間授業回数の1/3以上おこなった時点で、期末試験の受験資格を失う。また、遅刻は2回で欠席1回とする。授業内容の性格上、授業時間内だけでは絶対的に実習時間が不足する。学校行事等との衝突がなくても年間約20数回程度の授業しかおこなうことができない。そのため、本格的にコンピュータを応用するためには絶対的に実習時間が不足する。したがって週あたり2~3回 (1回平均約2時間程度) の実習が必要となる (昨年度授業アンケートの結果では、週平均約2時間程度の実習をおこなっていたようである)。 また、Type Quick、MS-Word、MS-Excel、MS-PowerPoint、SPSSの習得は、単位取得のための必須条件である。
---------	--

成績評価の方法	出席および課題の提出を前提とし、前期・後期末におこなう筆記試験と併せて総合的に評価する。経験則から連続2回欠席すると授業の進捗についていけなくなる。なお、遅刻は認めない。出席確認後の入室は認めるが、出席とはならないので注意する。連続3回以上欠席したものは、その時点で期末試験の受験資格はない。なお、この科目は1年次必修科目であるため単位の認定を受けられない者は、翌年度の履修となるが、機器の関係で実習装置を与えられない可能性がある。したがって1年次に履修を完了することを希望する。
---------	--

教科書/テキスト	授業中に適宜紹介する。教材は、授業の中で全て配布する。配布された資料は、授業に際して常に持参してくること。
----------	---

参考書	授業中に最新のものを指示する。
-----	-----------------

その他	年間20数回程度の講義時間しかないため絶対的な時間が不足する。従って、週あたり2回から3回 (1回1時間程度) の自習が必要となり、それに対応する課題が出される。自習には、4号館にある総合情報センタ1Fの自習室を利用する。独自に購入するのであれば、MS-Windows対応のパソコンでMS-WindowsとMS-Officeが導入されているものを購入するとよい。詳細については開講時に解説する。 【授業Web】 [ <a href="http://wwwint2.int.komazawa-u.ac.jp/~karube/">http://wwwint2.int.komazawa-u.ac.jp/~karube/</a> ] <a href="http://wwwint2.int.komazawa-u.ac.jp/~karube/">http://wwwint2.int.komazawa-u.ac.jp/~karube/</a> 【e-Learning】 [ <a href="https://yestudy.komazawa-u.ac.jp/">https://yestudy.komazawa-u.ac.jp/</a> ], <a href="https://yestudy.komazawa-u.ac.jp/">https://yestudy.komazawa-u.ac.jp/</a> ]
-----	--

履修コード	063101
科目名	情報処理論
担当者名	軽部 幸浩

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	現代社会においてコンピュータは必須の情報処理装置である。とりわけ、大学生にとってのコンピュータは、知的作業をおこなう上で最低限習得しなければならないツールである。すでに高校時代にコンピュータを利用した授業を経験したのも多いと思うが、本講義では大学で必要とされる知的生産を支援するためのコンピュータ利用法を徹底的に習得する。大学に入ってからコンピュータをはじめ本格的に利用する学生もまだいると思われるので、コンピュータについてまったくの初心者が独力でコンピュータを活用して社会福祉学のレポート等を作成することができる能力を培う。また、自分の得た結果や事実、考えを表現するための方法を習得する。なお、パーソナルコンピュータを個人で所有することで理解の程度が飛躍的に向上するであろう。余裕があれば購入することを薦める。
---------------------	--

授業スケジュール	授業はすべて実習形式でおこなう。1つのテーマに数時間を当て、毎回授業内でおこなう課題と授業外でおこなう簡単な課題の提出を求める。具体的な内容は次のとおりである。
----------	--

【前期】

- [1] 情報処理の基礎
- [2] Internet利用の実際と注意 (マナーやモラルについて)
- [3] 電子的コミュニケーション (電子メールの利用法)
- [4] タッチタイピングの完全習得 (タイピングソフトを利用)
- [5] 情報の検索 (WWWの利用法)
- [6~12] 大学生として必要なドキュメント処理能力の習得 (MS-Word)
- [13~15] プレゼンテーションの実際 (プレゼンテーションの基礎技術)

【後期】

- [1] 大学生として必要なドキュメント処理能力の習得 (MS-Word)
- [2~15] スプレッドシートの習得 (MS-Excelによる集計、グラフ、データベース)

準備学習	特になし
------	------

履修上の留意点	原則的に遅刻、欠席は認めない。欠席を年間授業回数の1/3以上おこなった時点で、期末試験の受験資格を失う。また、遅刻は2回で欠席1回とする。授業内容の性格上、授業時間内だけでは絶対的に実習時間が不足する。学校行事等との衝突がなくても年間約20数回程度の授業しかおこなうことができない。そのため、本格的にコンピュータを応用するためには絶対的に実習時間が不足する。したがって週あたり2~3回 (1回平均約2時間程度) の実習が必要となる (昨年度授業アンケートの結果では、週平均約2時間程度の実習をおこなっていたようである)。 また、Type Quick、MS-Word、MS-Excel、MS-PowerPoint、SPSSの習得は、単位取得のための必須条件である。
---------	--

成績評価の方法	出席および課題の提出を前提とし、前期・後期末におこなう筆記試験と併せて総合的に評価する。経験則から連続2回欠席すると授業の進度についていけなくなる。なお、遅刻は認めない。出席確認後の入室は認めるが、出席とはならないので注意する。連続3回以上欠席したものは、その時点で期末試験の受験資格はない。なお、この科目は1年次必修科目であるため単位の認定を受けられない者は、翌年度の履修となるが、機器の関係で実習装置を与えられない可能性がある。したがって1年次に履修を完了することを希望する。
---------	--

教科書/テキスト	授業中に適宜紹介する。教材は、授業の中で全て配布する。配布された資料は、授業に際して常に持参してくること。
----------	---

参考書	授業中に最新のものを指示する。
-----	-----------------

その他	年間20数回程度の講義時間しかないため絶対的な時間が不足する。従って、週あたり2回から3回 (1回1時間程度) の自習が必要となり、それに対応する課題が出される。自習には、4号館にある総合情報センタ1Fの自習室を利用する。独自に購入するのであれば、MS-Windows対応のパソコンでMS-WindowsとMS-Officeが導入されているものを購入するとよい。詳細については開講時に解説する。
-----	---

【授業Web】 {<http://wwwint2.int.komazawa-u.ac.jp/~karube/>,  
<http://wwwint2.int.komazawa-u.ac.jp/~karube/>}

【e-Learning】 {<https://yestudy.komazawa-u.ac.jp/>, <https://yestudy.komazawa-u.ac.jp/>}

履修コード	063201
科目名	情報処理論
担当者名	軽部 幸浩

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	現代社会においてコンピュータは必須の情報処理装置である。とりわけ、大学生にとってのコンピュータは、知的作業をおこなう上で最低限習得しなければならないツールである。すでに高校時代にコンピュータを利用した授業を経験したものも多いと思うが、本講義では大学で必要とされる知的生産を支援するためのコンピュータ利用法を徹底的に習得する。大学に入ってからコンピュータをはじめ本格的に利用する学生もまだいると思われるので、コンピュータについてまったくの初心者が独力でコンピュータを活用して社会福祉学のレポート等を作成することができる能力を培う。また、自分の得た結果や事実、考えを表現するための方法を習得する。なお、パーソナルコンピュータを個人で所有することで理解の程度が飛躍的に向上するであろう。余裕があれば購入することを薦める。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>授業はすべて実習形式でおこなう。1つのテーマに数時間を当て、毎回授業内でおこなう課題と授業外でおこなう簡単な課題の提出を求める。具体的な内容は次のとおりである。</p> <p>【前期】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>[1] 情報処理の基礎</li> <li>[2] Internet利用の実際と注意 (マナーやモラルについて)</li> <li>[3] 電子的コミュニケーション (電子メールの利用法)</li> <li>[4] タッチタイピングの完全習得 (タイピングソフトを利用)</li> <li>[5] 情報の検索 (WWWの利用法)</li> </ol> <p>[6~12] 大学生として必要なドキュメント処理能力の習得 (MS-Word)  [13~15] プレゼンテーションの実際 (プレゼンテーションの基礎技術)</p> <p>【後期】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>[1] 大学生として必要なドキュメント処理能力の習得 (MS-Word)</li> <li>[2~15] スプレッドシートの習得 (MS-Excelによる集計、グラフ、データベース)</li> </ol>
----------	---

準備学習	特になし
履修上の留意点	<p>原則的に遅刻、欠席は認めない。欠席を年間授業回数の1/3以上おこなった時点で、期末試験の受験資格を失う。また、遅刻は2回で欠席1回とする。授業内容の性格上、授業時間内だけでは絶対に実習時間が不足する。学校行事等との衝突がなくても年間約20数回程度の授業しかおこなうことができない。そのため、本格的にコンピュータを応用するためには絶対的に実習時間が不足する。したがって週あたり2~3回 (1回平均約2時間程度) の実習が必要となる (昨年度授業アンケートの結果では、週平均約2時間程度の実習をおこなっていたようである)。</p> <p>また、Type Quick、MS-Word、MS-Excel、MS-PowerPoint、SPSSの習得は、単位取得のための必須条件である。</p>

成績評価の方法	<p>出席および課題の提出を前提とし、前期・後期末におこなう筆記試験と併せて総合的に評価する。経験則から連続2回欠席すると授業の進捗についていけなくなる。なお、遅刻は認めない。出席確認後の入室は認めるが、出席とはならないので注意する。連続3回以上欠席したものは、その時点で期末試験の受験資格はない。なお、この科目は1年次必修科目であるため単位の認定を受けられない者は、翌年度の履修となるが、機器の関係で実習装置を与えられない可能性がある。したがって1年次に履修を完了することを希望する。</p>
---------	---

教科書/テキスト	授業中に適宜紹介する。教材は、授業の中で全て配布する。配布された資料は、授業に際して常に持参してくること。
----------	---

参考書	授業中に最新のものを指示する。
-----	-----------------

その他	<p>年間20数回程度の講義時間しかないため絶対的な時間が不足する。従って、週あたり2回から3回 (1回1時間程度) の自習が必要となり、それに対応する課題が出される。自習には、4号館にある総合情報センタ1Fの自習室を利用する。独自に購入するのであれば、MS-Windows対応のパソコンでMS-WindowsとMS-Officeが導入されているものを購入するとよい。詳細については開講時に解説する。</p>
-----	--

【授業Web】 {<http://wwwint2.int.komazawa-u.ac.jp/~karube/>,  
<http://wwwint2.int.komazawa-u.ac.jp/~karube/>}

【e-Learning】 {<https://yestudy.komazawa-u.ac.jp/>, <https://yestudy.komazawa-u.ac.jp/>}

履修コード	065701 065702
科目名	女性福祉論
担当者名	堀 千鶴子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 社会福祉学科目の一環として、看過されがちな女性の福祉ニーズや、女性たちが置かれている社会構造を理解し、社会福祉領域における女性支援の現状と課題を学ぶことから、女性福祉を考える。
---------------------	--

- (到達目標)
- 1 女性問題の背景に存在している性差別的な社会構造についての理解
  - 2 婦人保護事業など女性を対象とした社会福祉施策の理科い
  - 3 社会福祉分野をジェンダー視点から見直す力の養成

授業スケジュール	1 序 女性たちが置かれている状況について理解する 1 世界女性会議	
	2 " " 2	
	3 女性福祉の視点を理解する	
	4 女性福祉の定義	
	5 対象理解	
	6 「女性に対する暴力」とは 1	
	7 " " 2	
	8 ドメスティック・バイオレンス 1	
	9 " " 2	
	10 " " 3	
	11 " " 4	
	12 " " 5	
	13 婦人保護事業の歴史的展開 1	
	14 " " 2	
	15 " " 3	
	16 " " 4	
	17 " " 5	
	18 婦人保護事業の現状と課題 1	
	19 " " 2	
	20 " " 3	
	21 " " 4	
	22 人身取引被害者支援 1	
	23 " " 2	
	24 " " 3	
	25 性暴力被害者支援	
	26 母子福祉事業	
	27 " "	
	28 " "	
	29 " "	
	30 まとめ	

準備学習	・ 前回の授業内容を復習すること。 ・ 配布資料を整理し、テキストともに目を通すこと。
------	--

履修上の留意点	・ 出席を重視する。 ・ テキスト、配布資料を忘れず持参のこと。
---------	-------------------------------------

成績評価の方法	授業内レポート (10%)、授業内試験 (30%)、夏期課題 (20%)、期末レポート (40%) により総合的に評価を行う。
---------	---

教科書/テキスト	林千代編著『女性福祉とは何か』(ミネルヴァ書房) 2004年
----------	--------------------------------

参考書	講義内に紹介する。
-----	-----------

履修コード	066521 066522
科目名	心理学(福祉)
担当者名	高橋 良博
授業概要/ 到達目標(ねらい)	本講義のねらいとして以下の項目を目標としている。 1. 心理学の基本概念をふまえ、人間理解のための基本的知識の理解と習得、および日常生活と心の健康についての理解。 2. 乳幼児期・児童期・青年期・壮年期・高齢期など人間の発達段階のそれぞれの時期に特有な身体的、心理的特徴についての理解。 3. 援助を要する人々とかわって行くための心理的援助技術の概要の理解と習得をはかり、援助者としての資質を高めるための自己理解をもとめる。
授業スケジュール	1. 講義についてのオリエンテーション 2. 心理学の定義・心理学の領域・心理学研究法 3. 欲求・動機づけ 4. 感情・情動 5. 感覚・知覚・認知 6. 学習・記憶・思考 7. 知能・創造性 8. 人格 9. 適応と不適応 10. 発達段階と障害発達 11. 発達課題と高齢期 12. 発達の障害と発達援助 13. 心理的援助技術の概要(1) 14. 心理的援助技術の概要(2) 15. 心理的援助とは・まとめ (上記の講義スケジュールは、受講学生の理解度などを確認しながら、若干の調整を行う場合もある。)
準備学習	心理学概論に出てくるような基本的専門用語の理解を前提とする。とくに学習した章の重要語句(テキストで青字表示)については良く調べ理解しておくこと。
履修上の留意点	履修者は、講義中は私語をつつしみ静粛を保つこと。講義中、私語などの迷惑行為が目立つ場合、教場への退出をもとめることもある。講義中、教室での携帯電話、パソコン、オーディオ・プレイヤーを使用する者は欠席扱いとする。事前の申し出や特別の許可がない限り、講義終了間際に教室に入室するもの、出席票配布時に席を離れているものは、出席と見なされない。
成績評価の方法	筆記試験・レポートなどの提出物、その他、平常点(講義への参加状況)などを得点化して総合的に評価を行う。評価される講義への出席回数は全講義回数の3分の2以上を前提とする(ただし、福祉実習等の公欠期間は届出により出席と同等のものとして扱う)。
教科書/テキスト	1)社会福祉士養成講座編集委員会編 2)新・社会福祉士養成講座2『心理学理論と心理学的支援—心理学』3)中央法 4)¥2,200(税別) 5)ISBN978-4-8058-3102-1 C3036
参考書	講義中、適宜指示する。

履修コード	066601
科目名	心理検査法
担当者名	稲富 正治
授業概要/ 到達目標(ねらい)	多くの心理検査(性格傾向を見る検査、ストレスを観る検査、人間関係を観る検査など)の体験を通して、その結果から自分を知り、また人を知り、そして臨床において人への関わりとはどういうことかなどを学ぶことを目的としている。
授業スケジュール	心理検査には「質問紙法」「投影法」「作業検査法」などがありますが、最初は、広く使われており、施行も簡単な質問紙法の中で「Y-G性格検査」や「TEG(人間関係のパターンを知る検査)」などから始まり、性格傾向だけでなく、自分のストレス状況などを知る検査(CMI)などを通し、自己理解を深め、同時に人を知ることとはどういうことかなどを考える材料にしてもらいたい。後半には知能検査(「ウェクスラー式知能検査」)を学生同士取り合います。ただ机に向かって質問に答えるだけの検査から、人と向き合いながら取り合う検査の難しさ、重要性などを学んで欲しいと思っています。検査用紙以外にも、絵画を用いた絵の分析や自己紹介の文章などから自分の傾向を知ったり、いろんな角度から自分を観察していきたいと思います。1年を通して、全部で7~8種類の心理検査を行いますが、コミュニケーショントレーニングの一環としてのエクササイズ(ゲーム的な要素を持つもの)の体験を通してコミュニケーションも大事にしていきたいと思っています。
準備学習	心理検査全般が書かれている本に目を通しておくこと。
履修上の留意点	基本的に出席を大事にします。実習などは別として、なるべく出席してもらい、一緒に臨床を考えて行きたいと思っています。また、心理検査代として、1年間で実費1500円ほどかかりますので、ご了承下さい。
成績評価の方法	後期テストの成績と出席日数を点数化し、合計して成績を出します。基本的には、授業での心理検査を体験し、結果を出しておけば、答えられる問題です。
教科書/テキスト	特にありません。必要なものは適時配りたいと思います。
参考書	

履修コード	063481
科目名	精神医学（福祉）
担当者名	浅野 誠

授業概要/ 到達目標（ねらい）	精神医療が対象とする疾病は決して少なくない。また精神科関連の疾病は近年ますます増加している。それは、家庭においても、学校においても、そして、社会生活においても、精神科の疾病を避けて通ることが、だれにもできないことを意味している。しかし、精神医学の分野において、ICDとかDSMといった国際標準の診断分類が使用されるようになってから、診断が細部に厳密になり、細分化し網羅的となり、初心者や、一般の人々に疾病のイメージがよりつかみづらくなっている。本授業において、具体的事例を提示するなどして基本的疾病について、イメージできる力を身につけ、疾病についての理解を深め、さらに、かかる疾病に遭遇したときに適切な対応ができるようになることを学習の目的とする。
--------------------	--

授業スケジュール	<p>1 精神の疾病について総論 生物学的説明（脳科学的な説明）</p> <p>2 精神症状について</p> <p>3 疾病各論 統合失調症について 感情病について（躁うつ病、うつ病） 神経症（パニック障害、強迫性障害、解離性障害 PTSDなど）について 薬物性精神病（アルコール、覚せい剤 など）について 認知症について その他（脳炎 梅毒 エイズなどによる）精神の疾病について 児童青年期の障害について</p> <p>4 精神科の治療について 薬物療法について 心理社会的治療について その他治療法について</p> <p>5 人はなぜ精神を病むのか（文明論的歴史論的な考察）</p> <p>6 精神保健福祉法について、その他関連法規とその運用について</p>
----------	---

準備学習	毎回資料を渡しますので、あらかじめ読んで授業に臨んでください
------	--------------------------------

履修上の留意点	脳神経の構造についてある程度把握しておくこと 参考図書いくつかを読んでおくこと
---------	--

成績評価の方法	前期の最後の時間に試験を行います。成績評価は2割。 学期末にも試験を行います（成績評価6割）と および出席状況2割で評価します。
---------	---

教科書／テキスト	新・精神保健福祉士養成講座 「精神医学」 中央法規出版
----------	-----------------------------

参考書	<p>「海馬」池谷裕二 糸井重里 著：朝日出版 刊</p> <p>「もやしもん」 石川雅之 著</p> <p>「モンスター」 浦沢直樹 著</p> <p>「デトロイトメタルシティ」 若杉公徳 著</p> <p>「メゾン一刻」 高橋留美子 著</p> <p>「芥川龍之介全集」 芥川龍之介 著：新潮社 ほか 刊</p> <p>「六号室（チエーホフ短編集の一つ）」 アントン チエーホフ 著：新潮社 刊</p> <p>「精神科臨床ベストアドヴァイス」 浅野誠 編集：診断と治療者 刊</p> <p>「素朴に生きる人が残る」 遠山高史 著：大和書房 刊</p>
-----	---



履修コード	064921
科目名	精神科ソーシャルワーク論
担当者名	佐藤 光正

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	精神保健福祉領域の専門科目を履修する学生の入門となる科目である。現在、5大疾患の一つとなった精神疾患をとりまく精神保健福祉の福祉は身近なものであり、さまざまな領域とつながっている。この科目では、精神保健福祉領域の全体像を概観しながら、相談援助に係わる精神保健福祉士や関係専門職の活動等をおして相談援助・権利擁護・多職種連携等について学ぶ。
---------------------	---

授業スケジュール	この科目では、精神保健福祉領域の全体像を概観しながら、相談援助に係わる精神保健福祉士や関係専門職の活動等をおして相談援助・権利擁護・多職種連携について学ぶ。 (1)オリエンテーション (2)～(5)精神保健福祉領域の概観 *精神保健福祉関係の現状 *精神障害者 *精神障害者の相談援助に係わる専門職 (6)～(7)精神保健福祉関係の制度 (8)～(10)精神疾患と精神科医療 (11)～(12)地域精神医療 *多職種連携(チームアプローチ) (13)(14)精神保健福祉士と相談援助 (15)まとめ
----------	--

準備学習	身近な日常生活や社会生活の中で精神保健福祉関連とつながる情報に関心を持ち、新聞記事やHPなどのメディアに目を通しておくこと。
------	--

履修上の留意点	精神保健福祉領域の科目を履修する学生の入門となる科目である。精神保健福祉士をめざす学生だけでなく、社会福祉士をめざす学生にも履修が望ましい。
---------	--

成績評価の方法	課題提出等70%、平常点30%とする。
---------	---------------------

教科書/テキスト	配布資料で対応
----------	---------

参考書	『新・精神保健福祉士養成講座 第3巻 精神保健福祉相談援助の基盤(基礎・専門)』 中央法規出版。その他、必要に応じて随時紹介する。
-----	---

その他	YeStudyを活用予定。
-----	---------------

関連リンク	<a href="http://www.mhlw.go.jp/index.shtml">http://www.mhlw.go.jp/index.shtml</a>
-------	---

履修コード	068501
科目名	精神科リハビリテーション学
担当者名	城田 晴夫

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この授業では、通年を通して精神科リハビリテーションに必要な視点、精神科医療保険リハビリテーションのサービスを利用する方々に専門家はどうか関わっていったら良いのか、精神科リハビリテーションでは、精神疾患をどのように捉えているのか、そして精神科リハビリテーションとは何かを講義していきます。
---------------------	---

授業スケジュール	精神科で働いていけるように、臨床現場の経験を活かして、知識を覚える授業というよりも、実際に「わかる」授業を展開していきたい。その為、当事者の方の体験記も読んでもらうことになりませう。 前期(2～10)は、精神医学の歴史からスタートして、精神科リハビリテーションでは精神疾患をどのように捉えているかを扱い、その為どのような基本的なアプローチをとるのかを説明する。(11～15)は、臨床心理学的な視点を扱って、いかに信頼関係を築いていくのかを扱う。 後期は、(16～22)で、関係の築き方を扱い、(23～30)で、障害について、精神科リハビリテーションとは何かを扱っていく。特に通年で「心理社会的リハビリテーション」を理解します。
----------	---

準備学習	講義で扱った内容に関連する書籍は積極的に各自読んでいってほしい。 また参考図書は授業中に紹介するので、それも読んでいくと一層の理解が深まります。
------	---

履修上の留意点	実習等で授業を止むを得ず欠席した場合は必ず出席した学生より尋ねて講義内容を空白にしないようにしてもらいたい。毎回どれも重要な内容ばかりで、講義は連続ものなので出来る限り休まないように心懸けてほしい。 実習で授業を長期的に休む場合は特に配布プリントの手配を出席している友人に依頼し確保しておくこと。間が空いて配布プリントがないと理解は進まない。 また比較的配布プリントが多いので各自ファイリングをきちんとして整理していくことをお願いしたい。
---------	---

成績評価の方法	出席重視とレポート提出そして、学期末試験の3本立てで評価します。
---------	----------------------------------

教科書/テキスト	国家試験を受験する学生は「精神科リハビリテーション学(中央法規)」を必ず買うこと。教科書については、講義の初日で説明します。但し、中心は授業で配布するプリントが中心になると思います。
----------	---

参考書	「精神障害リハビリテーション」野中猛 中央法規
-----	-------------------------

履修コード	066701
科目名	精神保健学
担当者名	坂村 雄

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	精神保健とは精神の健康に関する公衆衛生活動の総称であり、狭義には精神疾患の予防と治療、リハビリテーション、広義には精神的健康の保持と増進を目的とする諸活動である。精神医学、心理学等、精神保健に関するバックグラウンドは広いので、精神障害、異常心理などの解説をしながら、理解を深められる様に講義する。単に精神保健福祉士を目指している場合だけではなく、日常生活で遭遇するであろう、様々な局面に役立つような、実践的、臨床的な内容とし、講義自体が精神保健的な1次予防となることを「ねらい」とする。
---------------------	---

授業スケジュール	前期は精神的健康とはどのようなことか、精神保健を学んでいく上で必要な精神症状、精神疾患の要点、精神保健的対応の現状について主に学び、後期は、ライフサイクルあるいは家庭、学校、職場等様々な環境において問題となっているテーマにつき具体的に検討する。
----------	--

準備学習	事前に指示したテキストの該当項目を予習しておくこと。
------	----------------------------

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	出席、レポート、試験などを総合的に評価する。
---------	------------------------

教科書/テキスト	1) 鈴木英鷹 2) 精神保健学 3) 清風堂書店 4) ¥2667 5) ISBN978-4-88313-639-1
----------	---

参考書	
-----	--

その他	今年度から、統計データが比較的新しいため、テキストを変更しているので注意。
-----	---------------------------------------

履修コード	068601
科目名	精神保健福祉援助演習
担当者名	佐藤 光正

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る専門的な援助の知識と技術について少人数のグループで演習を行う。 (1) 総合的かつ包括的な相談援助、医療と協働・連携する相談援助を具体的な事例から習得する (2) 個別指導並びに集団指導を通して、援助場面を想定した実技演習から精神保健福祉士に求められる援助を習得する
---------------------	--

授業スケジュール	精神保健福祉援助実習も考慮して、必要な演習を行う。 (1) オリエンテーション <ロールプレイ演習> (2)～(3) 利用者理解 (4)～(7) コミュニケーション技術 (8)～(11) ケースワーク援助 (12)～(14) グループワーク援助 (15) 前期まとめ <事例検討・個別指導> (16)～(19) コミュニティワーク援助 (20)～(26) ケアマネジメント援助 (27)～(29) 自己点検と自己理解 (30) 後期まとめ
----------	---

準備学習	1～3年次までの精神障害者に関する専門知識、精神保健関係の専門知識を復習しておくこと。
------	---

履修上の留意点	授業への主体的な参加が必須である。なお履修にあたっては、予め許可された者(前年度に「精神保健福祉援助実習」履修のスクリーニングを受けて許可された者)のみとなる。
---------	--

成績評価の方法	授業内での発表等50%、課題提出等20%、および平常点30%とする。
---------	------------------------------------

教科書/テキスト	特に指定しない。
----------	----------

参考書	必要に応じて随時紹介する。
-----	---------------

履修コード	067001
科目名	精神保健福祉援助技術各論
担当者名	上野 容子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	精神保健福祉援助技術の具体的な方法やそのあり方、倫理観について学ぶ。
---------------------	------------------------------------

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) オリエンテーション</li> <li>(2) 精神病と障害理解</li> <li>(3) 地域生活支援に関する制度の復習</li> <li>(4) ケースワーク相談援助場面について (DVD) 具体的な事例</li> <li>(5) 具体的な事例 事例に付随する制度・資源の復習</li> <li>(6) 小テスト ケースワーク演習</li> <li>(7) グループワークとは? テイケア</li> <li>(8) 地域における集団活動</li> <li>(9) ピアカウンセリング</li> <li>(10) アカウンセリング体験 課題レポート</li> <li>(11) STについて (DVD)</li> <li>(12) 実際の事例検討: 就労支援</li> <li>(13) 実際の事例検討: 地域移行支援</li> <li>(14) 実際の事例検討: 当事者活動</li> <li>(15) 前期振り返り 課題レポート</li> <li>(16) コミュニティワーク</li> <li>(17) コミュニティワーク事例</li> <li>(18) ボランティア活動やNPO活動</li> <li>(19) コミュニティソーシャルワーク</li> <li>(20) 小テスト ストレngthsアセスメントについて</li> <li>(21) ストレngths視点に基づいた事例検討</li> <li>(22) ケアマネジメントの歴史的背景・ケアマネジメントの定義と構成要素</li> <li>(23) 精神障害者に対する福祉サービスとしてのケアマネジメント</li> <li>(24) ケアマネジメント演習 具体的な事例をとおして 課題レポート</li> <li>(25) ACTとは?</li> <li>(26) チームアプローチと連携・チームアプローチにおける精神保健福祉士の役割</li> <li>(27) ネットワークの意味</li> <li>(28) 精神保健福祉士のコンサルテーション</li> <li>(29) 地域諸計画作成における精神保健福祉士の役割</li> <li>(30) まとめ</li> </ol>
----------	--

準備学習	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 精神の病気や障害に関する本を一冊必ず読んでおくこと</li> <li>② 精神保健福祉法等の制度の復習をしておくこと</li> </ol>
------	--

履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神保健福祉論、精神医学を履修済みの前提で授業を進めます。</li> <li>・グループでの演習をとり入れるので、話し合い、発表、レポートがあります。</li> </ul>
---------	--

成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演習毎のレポート、平常点 (出席状況)</li> </ul>
---------	--

教科書/テキスト	一回目の授業で提示する。
----------	--------------

参考書	
-----	--

履修コード	068701
科目名	精神保健福祉援助実習
担当者名	佐藤 光正

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目等で習得した知識や技術等の理解をさらに実践的にするために、配属実習先での180時間以上の現場実習を行う。</p> <p>なお配属実習は、学生1人に対して2つの機能の異なる施設（精神科医療機関等を90時間必修、障害福祉サービスを行う施設等90時間）を組み合わせる。</p> <p>(1) 精神保健福祉援助実習を通して、精神保健福祉援助並びに障害者等の相談援助に係る専門的知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。</p> <p>(2) 精神保健福祉援助実習を通して、精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活実態や生活上の課題について把握する。</p> <p>(3) 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。</p> <p>(4) 総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>実習の事前準備、配属実習先への巡回指導、および実習の振り返りをおして学びを深める。</p> <p>(1) オリエンテーション</p> <p>(2) ～(4) 実習計画書作成</p> <p>&lt;精神科医療機関等の病院実習&gt;</p> <p>患者への個別支援を経験するとともに、以下の事項について指導を受ける</p> <p>①入院時又は急性期の患者及びその家族への相談援助</p> <p>②退院又は地域移行・地域定着支援に向けた、患者及びその家族への相談援助</p> <p>③多職種や病院外の関係機関との連携を通じた援助</p> <p>&lt;地域の障害福祉サービス施設等実習&gt; (医療機関も含む)</p> <p>以下の事項について、できる限り経験をして実習先の指導者から指導を受けること</p> <p>①利用者やその関係者、施設・機関・事業者・団体住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人とのつきあい方などの円滑な人間関係の形成</p> <p>②利用者理解と支援計画の作成</p> <p>③利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との支援関係の形成</p> <p>④利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護及び支援とその評価</p> <p>⑤精神医療・保健・福祉に係る多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際</p> <p>⑥精神保健福祉士としての職業倫理と法的義務への理解</p> <p>⑦施設・機関・事業所・団体等の職員の就業などにする規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解</p> <p>⑧施設・機関・事業所・団体等の経営やサービスの管理運営の実際</p> <p>⑨当該実習先が地域社会の中の機関・事業所・団体等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワークング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解</p> <p>(5) ～(29) 実習報告と振り返り</p> <p>精神障害者と精神医療の理解、OPSW業務の理解、○援助関係のあり方についての洞察</p> <p>(30) まとめ</p>
----------	--

準備学習	1～3年次までの精神障害者に関する専門知識、精神保健関係の専門知識を復習しておくこと。
------	---

履修上の留意点	社会福祉全般の科目及び精神保健福祉に関する基礎的な科目を修めていることを前提とする。なお履修にあたっては、前年度のスクリーニングにおいて配属実習が許可されていることを原則とする。また授業および実習への主体的な参加と体調管理が必須であることはいうまでもない。
---------	--

成績評価の方法	配属実習評価50%、授業内での発表等20%、平常点（年間をととしたプロセスの中で“ほう（報告）、れん（連絡）そう（相談）”をしながらの実習）30%とする。
---------	---

教科書／テキスト	特に指定しない。
----------	----------

参考書	必要に応じて随時紹介する。
-----	---------------

履修コード	066801
科目名	精神保健福祉論I
担当者名	佐藤 光正
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	近年、こころの問題は広く国民的問題となっている。ここでは障害者福祉の理念と施策の理解等を踏まえながら、精神障害者の障害特性(疾病と障害の共存)、処遇、特に偏見や差別の歴史を学び現状認識を深め、精神障害者と福祉サービスについて学ぶ。さらに行政・司法・教育・労働など広範に求められる精神保健福祉についても理解を深める。 またそれらの理解をとらえて精神障害者を生活の視点で支える精神保健福祉士の専門性と役割について学ぶ。
授業スケジュール	現在、精神保健福祉領域の状況はめまぐるしく変化している。テキストに加え、配布資料も活用し最新の情報で授業を進める。必要に応じてビデオ教材等も併用する。 (1)オリエンテーション (2)～(4)精神保健福祉法の意義と内容 (5)～(8)精神障害者の福祉制度の概要と福祉サービス (9)～(12)精神障害者に関連する社会保障制度の概要 (13)～(14)相談援助に係わる組織、団体、関係機関及び専門職や地域住民との協働 (15)前期まとめ (16)～(18)更生保護制度の概要 (19)～(21)医療観察法の概要 (22)～(24)精神保健福祉士法 (25)～(28)社会資源の調整・開発、社会調査 (29)後期のまとめ (30)通年まとめ
準備学習	身近な日常生活や社会生活の中で精神保健福祉関連とつながる情報に関心を持ち、新聞記事やHPなどのメディアに目を通しておくこと。
履修上の留意点	障害ごとの縦割りの援助ではもはや現場では対応できない時代になった今、精神保健福祉士をめざす学生だけではなく、社会福祉士をめざす学生にも履修が望ましい。なお「精神保健福祉論I」とはセットであるため併せての履修が効果的である。
成績評価の方法	課題提出等30%、平常点20%、また授業最終日に1年間のまとめとして実施する「理解度の確認」50%で評価する。
教科書/テキスト	『新・精神保健福祉士養成講座 第6巻 精神保健福祉に関する制度とサービス』 中央法規出版
参考書	必要に応じて随時紹介する。
その他	YeStudyを活用予定。
関連リンク	<a href="http://www.mhlw.go.jp/">http://www.mhlw.go.jp/</a>

履修コード	066901
科目名	精神保健福祉論II
担当者名	進藤 義夫
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	「精神保健福祉論I」とのセット科目である。ここでは地域において、精神障害者の生活支援がどのように行われているかを、居住支援・就労支援、また行政機関における相談援助活動について理解し、それらの意義と特徴に等について理解する。
授業スケジュール	(1)オリエンテーション (2)精神障害者の概念 (3)～(5)精神障害者の生活の実際 (6)精神障害者の生活と人権 (7)精神障害者の居住支援 (8)～(9)精神障害者の就労支援 (10)～(12)精神障害者の生活支援システム (13)市町村における相談援助 (14)その他の行政機関における相談援助 (15)まとめ
準備学習	身近な日常生活や社会生活の中で精神保健福祉関連とつながる情報に関心を持ち、新聞記事やHPなどのメディアに目を通しておくこと。
履修上の留意点	障害ごとの縦割りの援助ではもはや現場では対応できない時代になった今、精神保健福祉士をめざす学生だけではなく、社会福祉士をめざす学生にも履修が望ましい。なお「精神保健福祉論I」とはセット科目であるため併せての履修が効果的である。
成績評価の方法	課題提出等70%、平常点30%とする。
教科書/テキスト	『新・精神保健福祉士養成講座 第7巻 精神障害者の生活支援システム』 中央法規出版
参考書	必要に応じて随時紹介する。

履修コード	067121
科目名	ソーシャルワーク演習
担当者名	川上 富雄
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>本学では、「相談援助演習」を「ソーシャルワーク演習」及び「社会福祉援助技術演習Ⅰ」「社会福祉援助技術演習Ⅱ」の3科目に分けて指導することとしています。</p> <p>ソーシャルワーク演習では、福祉現場の専門従事者からの話題提供、配属実習修了者との意見交換等を踏まえ、実習を想定した具体的な課題別相談援助事例を取り上げて学び、社会福祉士に求められる総合的・包括的な援助について実践的に習得します。</p>
授業スケジュール	<p>1. オリエンテーション</p> <p>2～13. 事例研究 (知的障害者、社会的排除、児童虐待、高齢者虐待、DV、低所得者、ホームレス、がん告知患者、HIV感染者、危機状態にある利用者の権利擁護活動、施設福祉の相談援助事例、地域福祉の基盤整備と開発に関する相談援助事例などを、現場実践者からの話題提供等により基づき学ぶ)</p> <p>14. 総まとめ1 (社会福祉士として必要な倫理とは何か)</p> <p>15. 総まとめ2 (今後の学習において体得すべき知識・技術は何か)</p> <p>なお、この授業は変則的な開講形態を採用しています。詳しくは初回の授業で説明します。</p>
準備学習	<p>授業と並行して、実習先配属のための個別面接を数回実施します。将来のキャリアプランと突き合わせながら、資格取得および実習の必要性判断、実習目的の明確化、実習分野の絞り込み、などを夏期休業中にしておくこと。</p> <p>また、初回講義において実習希望分野に関するレポート、および夏期休業中のボランティア活動体験レポートの提出を課す。</p>
履修上の留意点	<p>受講の条件として、前期の「社会福祉援助技術現場実習Ⅰ」の単位を修得し、かつ事前のスクリーニングにおいて配属実習の実施が許可されていることを原則とする。</p>
成績評価の方法	<p>全授業への出席を必須とする。評価は、課題レポートの提出、指定された発表などを総合して行う。</p>
教科書/テキスト	<p>白澤・米本編/日本社会福祉士養成校協会監修『社会福祉士相談援助実習』中央法規 2009</p> <p>その他、必要な資料は随時配布します。</p>
参考書	<p>社団法人日本社会福祉士会編『社会福祉士実践事例集Ⅱ』中央法規 2004</p> <p>その他、授業のなかで随時指示します。</p>
その他	<p>この授業は、社会福祉士国家試験受験資格取得に必要な指定科目のひとつです。この授業の単位未修得者は、翌年度の社会福祉援助技術現場実習Ⅱ・Ⅲ、精神保健福祉援助実習の履修は認められません。</p>

履修コード	065901 065902
科目名	地域福祉論
担当者名	川上 富雄

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>本講義では、今日的な福祉理念の理解、およびそれを具現化した制度・事業・実践等に関する知識の獲得をはかり、地域福祉時代のソーシャルワーカーに求められるセンスの涵養をねらいとする。講義の到達目標は以下の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 今日的な福祉理念と地域福祉の考え方に関する理解を深める。</li> <li>(2) 様々な地域福祉活動およびその推進方法に関する理解を深める。</li> <li>(3) 地域自立生活を支える様々な制度に関する理解を深める。</li> <li>(4) 地域福祉を推進する様々な機関・施設・団体に関する理解を深める。</li> </ol> <p>なお、講義は高度かつ実践的内容になるので、テキスト等の事前通読を必須とする。各自充分な予習をして講義に臨むこと。併せて、本科目は社会福祉士国家試験指定科目ということもあり、国家試験も考慮した水準の講義を行う。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国民生活と地域福祉</li> <li>2. 地域福祉の理念・概念</li> <li>3. 地域福祉の歴史</li> <li>4. 地域社会の変容とコミュニティ</li> <li>5. コミュニティ政策・対策</li> <li>6. 住民・利用者参加の意義と課題</li> <li>7. 住民・利用者参加活動の形態と組織①～コミュニティ型</li> <li>8. 住民・利用者参加活動の形態と組織②～アソシエーション型</li> <li>9. 住民・利用者参加活動の形態と組織③～NPO/コミュニティビジネス/社会的企業</li> <li>10. 公私協働・分担と「新しい公共」</li> <li>11. NPO・ボランティア活動とその支援 (ボランティアセンターの役割)</li> <li>12. 社会福祉協議会の歴史・使命・活動・経営①</li> <li>13. 社会福祉協議会の歴史・使命・活動・経営②</li> <li>14. 社会福祉協議会の実践～地域を基盤としたソーシャルワーク①</li> <li>15. 社会福祉協議会の実践～地域を基盤としたソーシャルワーク②</li> <li>16. 在宅福祉サービスの歴史と現状および地域包括支援センターの誕生</li> <li>17. 福祉情報化と福祉教育の推進</li> <li>18. 地域福祉推進における国・地方自治体の役割・関係</li> <li>19. 地域自立生活を支える仕組みⅠ～成年後見制度①</li> <li>20. 地域自立生活を支える仕組みⅠ～成年後見制度②</li> <li>21. 地域自立生活を支える仕組みⅡ～日常生活自立支援事業①</li> <li>22. 地域自立生活を支える仕組みⅡ～日常生活自立支援事業②</li> <li>23. 苦情解決システムと第三者評価事業</li> <li>24. 福祉計画の系譜と地域福祉計画・地域福祉活動計画</li> <li>25. 民生委員制度と民生委員活動①</li> <li>26. 民生委員制度と民生委員活動②</li> <li>27. 地域福祉における社会福祉施設の役割 (施設の社会化)</li> <li>28. 地域福祉を支える財源～公費・財団・共同募金</li> <li>29. 利用者主体・地域自立生活を支える供給システムのあり方 (トータルケアシステム)</li> <li>30. まとめ</li> </ol>
----------	--

準備学習	テキストおよび参考図書の通読
------	----------------

履修上の留意点	<p>地域福祉論は、他の分野論・各論系科目の横断科目的な性格が強い。児童・障害・高齢者・社会保険・生活保護分野等の制度や対象者像、利用の仕組み、施設やサービス等についての知識を前提として講義を進めるので、少なくとも2年次以降の履修が望ましい(できれば3年次履修を勧める)。他学部・他学科生で履修する学生は、『国民の福祉の動向』(厚生統計協会)や『厚生白書』などを熟読し、今日の社会問題や社会保障の枠組みに関する一定の理解を持って臨むこと。</p>
---------	---

成績評価の方法	<p>前・後期末試験の成績に、研究発表・課題・レポート点等を加味して判定する。講義への出席は期末試験受験の要件とするが、試験による知識・技術獲得など実質的な側面を強く評価する。期末試験の評価が成績評価の過半を占める。</p>
---------	--

教科書/テキスト	<p>●社会福祉士養成講座編集委員会編『〔改訂〕新・社会福祉士養成講座⑨地域福祉の理論と方法』中央法規出版 2010 ●山本主税・川上富雄『地域福祉新時代の社会福祉協議会』中央法規出版 2003</p>
----------	---

参考書	<p>岡村重夫『地域福祉論』光生館 1974/復刻版2009 日本社会福祉士会編『新・社会福祉援助の共通基盤(下)』中央法規出版 2009 井岡勉監修/牧里・山本編『住民主体の地域福祉論』法律文化社 2008 大橋謙策・原田正樹編『地域福祉計画と地域福祉実践』万葉舎 2000 小林雅彦編『社会福祉の新潮流⑤地域福祉論』学文社 2010 その他、講義中に紹介する。</p>
-----	--

その他	<p>基本的には講義形式で行うが、一部、グループ研究発表などを盛り込む。</p>
-----	--

履修コード	058711
科目名	犯罪と逸脱の社会学A
担当者名	作田 誠一郎
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	現代社会における犯罪と逸脱に対する基本的な研究方法について概観します。その後、具体的な犯罪と非行に関する諸理論を中心に紹介し、現代社会における犯罪や非行を理解するための社会的なアプローチを身につけることが本講義のねらいです。
授業スケジュール	(1) 逸脱社会学とは何か (2~4) 逸脱現象の研究手法 (5~8) 犯罪・非行の逸脱理論Ⅰ (社会解体論、アノミー論等) (9~11) 犯罪・非行の逸脱理論Ⅱ (レイベリング理論、コントロール理論等) (12~14) 犯罪・非行の逸脱理論Ⅲ (抑止理論、割れ窓理論等) (15) まとめ
準備学習	今日の犯罪や非行に対する理解と関心を高めるために日ごろから新聞等に目を配り、問題意識をもつように心がけてください。また犯罪や非行に関する書籍 (ルポルタージュや犯罪史など) に目を通しておくことは本講義を受講するための事前学習として有益です。
履修上の留意点	詳細は、初回の講義で説明します。
成績評価の方法	期末試験 (3割)、講義内の課題提出・出席 (7割) により評価します。詳細は初回の講義で説明します。
教科書/テキスト	適宜、授業中に資料を配布します。
参考書	下記のほか、講義の中で随時紹介します。 鮎川潤, 1994, 『少年非行の社会学』世界思想社 佐藤郁哉, 1984, 『暴走族のエスノグラフィ—モードの叛乱と文化の呪縛』新曜社デュルクーム (宮島喬訳) 『自殺論』 (訳1985年刊, 中央公論社) 土井隆義, 2003, 『「非行少年」の消滅—個性神話と少年犯罪』信山社 ベッカー (村上直之訳) 『アウトサイダーズ—ラベリング理論とはなにか』 (訳1978刊, 新泉社) ショウ (玉井真理子・池田寛訳) 『ジャック・ローラー—ある非行少年自身の物語』 (訳1998刊, 東洋館出版社) コーエン (細井洋子訳) 『逸脱と統制』 (訳1968刊, 至誠堂) マッツァ (上芝功博・榎本正也・辻本義男・西村春夫・村井敏邦・吉田弘之訳) 『漂流する少年—現代の少年非行論』 (訳1986刊, 成文堂)
その他	後期に開講される「犯罪と逸脱の社会学B」もあわせて履修することをおすすめします。

履修コード	058721
科目名	犯罪と逸脱の社会学B
担当者名	作田 誠一郎
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	逸脱に対する社会的アプローチから官庁統計やメディア報道について考えていきます。また、犯罪・非行に関わる法執行機関と刑事司法の動向について説明します。その後、日本の犯罪や非行の近代化について明治期以降の歴史的観点から概観します。 後半では、犯罪・非行を中心とした社会問題について後期近代の特徴を踏まえながら論点をとりあげて検討を加えていきます。講義を通じて社会的な視点から逸脱に対する考察力を身につけ、高めることを目的とします。
授業スケジュール	(1) 逸脱に対する社会的アプローチ (2) 官庁統計を読む (3・4) 犯罪報道の特徴と読み解き方 (5・6) 法執行機関と刑事司法のプロセス (7~9) 少年非行史 (10~14) 今日の逸脱研究 (精神医療化、高齢者犯罪、性の逸脱、ホワイトカラー犯罪、学校社会の逸脱等) (15) まとめ
準備学習	今日の犯罪や非行に対する理解と関心を高めるために日ごろから新聞等に目を配り、問題意識をもつように心がけてください。また犯罪や非行に関する書籍 (ルポルタージュや犯罪史など) に目を通しておくことは本講義を受講するための事前学習として有益です。
履修上の留意点	詳細は、初回の講義で説明します。
成績評価の方法	期末試験 (3割)、講義内の課題提出・出席 (7割) により評価します。詳細は初回の講義で説明します。
教科書/テキスト	適宜、授業のなかで資料を配布します。
参考書	下記のほか、講義の中で随時紹介します。 河野義行ほか『報道は何を学んだのか—松本サリン事件以後のメディアと世論』 (2004年刊, 岩波書店) 浜井浩一・芹沢一也『犯罪不安社会—誰もが「不審者」?』 (2006年刊, 光文社、) 日本犯罪学会編『犯罪からの社会復帰とソーシャル・インクルージョン』 (2009年刊, 現代人文社)
その他	前期に開講される「犯罪と逸脱の社会学A」もあわせて履修することをおすすめします。



履修コード	064821
科目名	福祉行財政と福祉計画
担当者名	笹部 昭博

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	社会福祉行財政は、法律に基づいて運営されています。したがって、福祉行政の枠組みを決める法制度、法制度を計画的に実施する行政の組織と実務。行政の方向を決める福祉計画とその財源の税や財政制度を理解することが必要になります。本講義は以上のことを、わかりやすく理解するために構成実施されます。
---------------------	--

本科目は、社会福祉士指定科目の一つであり、社会福祉士としての基本的な知識を学ぶため、次の2点に沿って学習を進め、知識とその仕組みの理解を目標とします。

- (1) 福祉行財政の基本
  - ①福祉行財政の実施体制 (国・都道府県・市町村の役割、国と地方自治体の関係、福祉行政の法制度・財源、福祉行政と団体・専門職など)
  - ②福祉行財政の実際 (自治体における福祉組織と予算、施策・事業の展開など)
- (2) 福祉計画の立案と実施
 

福祉の各計画の意義・目的、主体、立案のプロセス、住民参加と協働など

福祉制度は、戦後につくられ人口構成や社会情勢・ニーズに応じて大きく変化しています。そこで福祉制度の基本的な枠組みと背景、今日ダイナミックに変化する今の福祉制度を理解することで福祉にかかる学習や研究を向上させることを期待します。

授業スケジュール	第1回 事業の概要、第2回～3回 法制度 (法令概要、行政関連法、福祉関連法、地方自治関連法)、第4回～6回 実施体制 (国、都道府県、市町村)、第7回～8回 (財政と予算の仕組み)、第9回 (専門職)、第10回～11回 (福祉計画の役割と分類、意義、策定の方法)、第12回～15回 復習を予定。 但し、受講スケジュールは、受講学生の理解を確認しながら調整する場合があります。
----------	---

準備学習	特になし
履修上の留意点	毎回の講義の冒頭で配布するプリントを理解し、新聞、雑誌などの福祉制度に関する報道や地元自治体の福祉施策などに関心を払い講義にのぞんで下さい。
成績評価の方法	試験 (評価全体の5割)、レポート・平常点 (5割) により総合的に評価します。
教科書/テキスト	指定しません。講義の中でプリントを配布・活用します。
参考書	社会福祉小6法、厚生労働白書など、必要に応じて講義の中で紹介します。
その他	講義の後に、福祉行政に関する質問や研究などの相談にもお答えします。 講師は地方自治体での福祉事務所や計画担当の実務経験を基本に、福祉行政や計画の実際を説き、知識だけでなく、その構造や仕組みの理解を深めます。

第1回の講義において講義全体の流れを説明します (重要)

履修コード	064841
科目名	福祉サービスの組織と経営
担当者名	波多野 実

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本科目は、社会福祉士指定科目の一つであり、福祉サービスを提供する組織の管理運営や経営の実際について学びます。
---------------------	--

- (1) 福祉サービスに関わる組織・団体についての理解
  - ・社会福祉法人、医療法人、特定非営利活動法人、営利法人、市民団体、自治会など
- (2) 福祉サービスの組織と経営についての理解
  - ・組織と経営の理論、経営と管理運営の実際

授業スケジュール	(1～2) 福祉サービスと提供組織 (3～9) 福祉サービス提供組織の管理と運営 (10～13) 福祉サービス提供組織・団体の経営 (14～15) 福祉サービス組織の経営理論 (授業スケジュールは、受講学生の理解度などを確認しながら、若干の調整を行う場合があります)
----------	---

準備学習	新聞等での福祉に関する報道に留意しておいてください。
履修上の留意点	
成績評価の方法	出席、レポート、試験等により総合的に評価します。
教科書/テキスト	
参考書	新・社会福祉士養成講座 1 1 福祉サービスの組織と経営 (中央法規出版) 入門 社会福祉の法制度 第3版 ミネルヴァ書房

履修コード	062901
科目名	法学 (福祉)
担当者名	鶏徳 啓登
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	日本の社会は高齢化現象が進行中である。高齢者層の増加および平均寿命の上昇というこの現象は、善きにつけ悪しきにつけ高齢者の日常生活にもさまざまな影響を与えている。このような高齢化社会において、憲法が規定している「生存権」の一内容である「社会福祉」にしぼって、法制度面から検討し、「社会福祉行政」の各種の法令の意義内容を理解することを目標とする（小林弘人著「高齢化社会における社会福祉の法」はしがきより）。
授業スケジュール	社会福祉の組織、活動、財政、争訟に関する法令の解説をなるべく平易に説明する。 1回～3回：社会生活における法の作用や役割についての解説。 4回～6回：憲法、民法および行政法の基礎的知識を深める。 7回～15回：日本国憲法について、とくに基本的人権を中心にした解説である。 16回～20回：民法における基礎的概念の説明が中心となる。 21回～30回：行政法の原理および各領域における基本的概念の解説を行う。
準備学習	本講義は、実定法を中心に行うので、六法には十分に目を通しておくこと。
履修上の留意点	
成績評価の方法	出席状況と試験を勘案して、評価する。
教科書／テキスト	小林弘人著『高齢化社会における社会福祉の法』創成社刊（2400円）を使用する。 ISBN4-7944-4050-2
参考書	授業時間中に適宜指示する。

履修コード	065201 065202
科目名	保健福祉論
担当者名	山本 哲也

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義では、地域保健、地域福祉の実践に欠かすことのできない、保健・福祉の連携システムの概要と、同システムにおける保健・福祉従事者の役割を学び、そこでの福祉従事者の活動内容について理解することをねらいとする。
---------------------	---

授業スケジュール	本講義では、保健・福祉の連携システムの実際について、事例をとおして学習していく。具体的には、まず、保健・福祉が連携して関わる必要のある事例を呈示する。次に、その事例の中に登場する用語等について概説する。また、事例に登場する対象者を理解する事、事例に関わる制度について知る事を目的に講義を行う。最後に、その事例対象者を支える保健・福祉の連携システムについて概説する。
----------	--

- |      |               |            |         |
|------|---------------|------------|---------|
| 第1回  | オリエンテーション     | 第2回        | 保健・福祉とは |
| 第3回  | 小児保健・福祉 (1)   | 低出生体重児の誕生① |         |
| 第4回  | 小児保健・福祉 (1)   | 低出生体重児の誕生② |         |
| 第5回  | 小児保健・福祉 (1)   | 低出生体重児の誕生③ |         |
| 第6回  | 小児保健・福祉 (1)   | 低出生体重児の誕生④ |         |
| 第7回  | 小児保健・福祉 (1)   | 低出生体重児の誕生⑤ |         |
| 第8回  | トピックス1 育児ストレス |            |         |
| 第9回  | 小児保健・福祉 (2)   | 障害児への支援①   |         |
| 第10回 | 小児保健・福祉 (2)   | 障害児への支援②   |         |
| 第11回 | 小児保健・福祉 (2)   | 障害児への支援③   |         |
| 第12回 | 小児保健・福祉 (2)   | 障害児への支援④   |         |
| 第13回 | 小児保健・福祉 (2)   | 障害児への支援⑤   |         |
| 第14回 | トピックス2 子育て支援  |            |         |
| 第15回 | まとめ           |            |         |
| 第16回 | 老年期の保健・福祉 (1) | 介護予防①      |         |
| 第17回 | 老年期の保健・福祉 (1) | 介護予防②      |         |
| 第18回 | 老年期の保健・福祉 (1) | 介護予防③      |         |
| 第19回 | 老年期の保健・福祉 (1) | 介護予防④      |         |
| 第20回 | 老年期の保健・福祉 (1) | 介護予防⑤      |         |
| 第21回 | 老年期の保健・福祉 (2) | 介護①        |         |
| 第22回 | 老年期の保健・福祉 (2) | 介護②        |         |
| 第23回 | 老年期の保健・福祉 (2) | 介護③        |         |
| 第24回 | 老年期の保健・福祉 (2) | 介護④        |         |
| 第25回 | 老年期の保健・福祉 (2) | 介護⑤        |         |
| 第26回 | 老年期の保健・福祉 (2) | 介護⑥        |         |
| 第27回 | 終末期の保健・福祉 (3) | 緩和ケア①      |         |
| 第28回 | 終末期の保健・福祉 (1) | 緩和ケア②      |         |
| 第29回 | 終末期の保健・福祉 (1) | 緩和ケア③      |         |
| 第30回 | まとめ           |            |         |

準備学習	毎時間、次の時間の準備のための課題を課す。
履修上の留意点	講義のみでなく、各自が考え、学び、理解できるように、各自の意見を問う内容を含む授業を行うので、そのつもりで受講すること。
成績評価の方法	出席状況、授業中のミニレポート、課題レポート及び試験の結果により総合的に評価する。
教科書／テキスト	必要に応じ、授業時に指定する。
参考書	必要に応じ、その都度指示する。
その他	・30分以上の遅刻は入室を認めないので、そのつもりで受講すること。 ・4年次生で、就職活動により欠席する場合も、特別な配慮はしないので、そのつもりで受講すること。

履修コード	058551
科目名	民法
担当者名	大宮 隆

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	民法は、我々の日常生活の基本法として、財産と家族に関する事項を規律する法律である。本講義は編別でいうと親族、相続が対象である。出生、婚姻、離婚、扶養、相続という家庭生活の中で人の一生に生起するほとんどの事柄に係わる身近な法律である。学説・判例の到達点を理解する。家庭裁判所調査官補試験などを目指す人に受講を勧めます。
---------------------	--

授業スケジュール	親族—①婚姻、離婚 ②親子 ③親権、後見補佐補助 ④扶養 相続—①遺言 ②法定相続 ③遺留分
----------	--

準備学習	予習が必要である。
------	-----------

履修上の留意点	教科書、条文を読むこと。
---------	--------------

成績評価の方法	平常点と試験の成績を総合して、評価する。
---------	----------------------

教科書／テキスト	『新民法概説(3)親族・相続』(有斐閣)1,800円 ISBN4-641-11265-7
----------	---

参考書	適宜紹介する。
-----	---------

履修コード	064901 064902
科目名	リハビリテーション論
担当者名	佐藤 将朗

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	リハビリテーション(rehabilitation)という言葉は「再び〇〇にふさわしい能力を身につける」という意味で用いられます。怪我や病氣、障害などのために日常生活だけでなく、学習、スポーツ、職業生活が機能していない場合、また精神的安定が得られていない場合に、これらを回復していくことの総称と言えます。社会の中で生きる全ての人々の権利や名誉が自分の意志に反して侵害されている場合に、これらを回復していくこととも考えられます。本講義では、まずリハビリテーションを医学的リハと社会的リハに大別して整理することからはじめ、リハビリの対象となる人々の個人的能力とこれらの人々を取り巻く環境との関連性について理解していきます。そして、最終的には本講義で学んだ知識を土台として、「リハビリテーションの哲学」というタイトルのもと、自分なりの考えをまとめていくことにします。
---------------------	---

授業スケジュール	前期はリハビリテーションの定義(1)、障害及び加齢の概念(2-3)、医学的リハ(4)、社会的リハ(5-7)、障害の種類・程度別のリハビリテーション(8-12)、高齢者のリハビリテーション(13-14)、前期のまとめとしての課題作業(15)とする。 後期はメディアの取り上げるリハビリテーション(1-3)、教育的リハの仕組みとその成功要因(4-5)、職業的リハの仕組みとその成功要因(6-7)、心理的リハの仕組みとその成功要因(8-9)、履修者の興味・関心に応じたリハビリテーションの今日的话题に関する討議(10-12)、「リハビリテーションの哲学」についての課題の整理(13-15)とする。
----------	--

準備学習	障害者問題、高齢者問題、リハビリテーションがキーワードとなる各種メディア情報(新聞、書籍、テレビ番組や映画などの作品、インターネットで公表されているものなど)を自分なりに整理しておくことが望ましい。
------	---

履修上の留意点	リハビリテーションという言葉を自身の専攻に照らし合わせて、主体的に考えていきたい人に最適な授業だと考えます。
---------	--

成績評価の方法	前期はまとめとして提出する課題(50%)、授業時の小課題(40%)、授業への参加意欲及び出席(10%)とする。 後期は最終的に提出する課題(80%)、授業時の小課題(10%)、授業への参加意欲及び出席(10%)とする。
---------	--

これらによって得られた前・後期の成績を総合的に判断したものを全体の成績とする。

教科書／テキスト	特に指定しない。
----------	----------

参考書	講義中に随時指定する。
-----	-------------

その他	基本的に講義形式で進める。学習する内容によっては、履修者による発表や討論を行ってもらう。またビデオ、DVD等の視聴を随時行う。
-----	---

履修コード	065521 065522
科目名	老人福祉論
担当者名	東條 光雅

授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p>少子高齢化社会の進展に伴い後期老年期人口が増加し、要介護高齢者の急増、家族介護の深刻化、高齢者虐待の多発など、高齢者やその家族に関わる様々な社会的問題が発生し、医療・年金・介護などの社会保険制度のあり方が大きな政治課題となっている。</p> <p>本講義では、わが国における高齢化の現状と動向、高齢者や家族を取り巻く状況、これまでの高齢者対策や高齢者福祉制度の変遷、現行の高齢者保健福祉制度等について理解を深めてもらうとともに、今後の高齢者支援のあり方について論じてゆく。</p>
--------------------	---

授業スケジュール	<p>第1回 高齢者の心理・精神的理解</p> <p>第2回 高齢者の身体的理解</p> <p>第3回 高齢者の社会的理解</p> <p>第4回 高齢化・高齢社会の定義とわが国における高齢化の現状</p> <p>第5回 諸外国における高齢化の状況と少子高齢化の要因</p> <p>第6回 高齢者を取り巻く諸問題</p> <p>第7回 高齢者保健福祉の発展過程</p> <p>第8回 高齢者保健福祉の現行法体系</p> <p>第9回 老人福祉法</p> <p>第10回 高齢者医療確保法</p> <p>第11回 高齢者虐待防止法</p> <p>第12回 高齢者を支援する組織と役割（1）</p> <p>第13回 高齢者を支援する組織と役割（2）</p> <p>第14回 高齢者を支援する組織と役割（3）</p> <p>第15回 これからの高齢者支援</p>
----------	---

準備学習	特に準備学習する事柄は無く、授業時に集中すること。
------	---------------------------

履修上の留意点	この授業は講義形式で進めてゆくが、適宜受講生に対して講義内容に関する質問をしたり、意見発表をしてもらう。近年、受講生の私語や居眠りが目立つので、授業態度に問題がある場合には退室してもらう。履修学生は、気を引き締めて授業に臨んでもらいたい。
---------	---

成績評価の方法	原則的には、3分の2以上の出席があれば定期試験を受けることができ、定期試験の成績によって評価する。
---------	---

教科書／テキスト	『高齢者に対する支援と介護保険制度』、新社会福祉士養成講座第13巻、中央法規出版、最新版。
----------	---

参考書	『社会福祉小六法』、『厚生労働白書』、『国民の福祉の動向』など
-----	---------------------------------

その他	講義はパワーポイントを使って行う
-----	------------------

履修コード	098801
科目名	労働法
担当者名	藤本 茂

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>今日、雇用社会は、能力主義人事管理の導入に見られるように大きく変貌しています。労働法は、労働問題を平和的に解決する方法を検討する法領域です。この変動に無関係ではありません。労働者に降りかかるさまざまな事象は、最近では雇用関係法領域において顕著です。たとえば、労働基準法改正（近くでは労働時間や年次有給休暇など）、男女雇用平等、労働契約法などで、本講義では雇用関係法領域を中心に、基礎的知識を身につけることを到達目標においています。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>下記事項について、基礎的知識を学びつつ、現代的課題に言及します。</p> <p>1回目の授業のときにプリントを配布してガイダンスをします。</p> <p>以下に、年間スケジュールを掲げます。ただし、重要な裁判などホット・イシューが出されればそれを中心としたテーマに急きょ変更することもあります。また、授業中の理解の様子から変わることもあります。また、調整の回も設けました。したがって、以下のスケジュールは目安です。</p> <p>第1回 ガイダンスー労働法分野と授業で扱う分野  第2回 労働法の対象である雇用社会と労働運動と  第3回 労働法の基礎的考え方  第4回 労働関係の主人公ー労働者、使用者、労働組合  第5回 労働契約と労働契約法  第6回 労働条件の最低基準の法定① 労働の自主性の確保  第7回 労働条件の最低基準の法定② 最低基準の定立の意味  第8回 調整  第9回 雇用における平等① 労基法3条  第10回 雇用における平等② 男女賃金差別の禁止  第11回 雇用における平等③ 男女雇用機会均等法  第12回 労働条件の集団的決定① 労働契約と就業規則  第13回 労働条件の集団的決定② 就業規則について  第14回 労働条件の集団的決定③ 労働組合の役割  第15回 労働条件の集団的決定④ 団体交渉・労働協約  第16回 雇用の入口① 採用  第17回 雇用の入口② 内定制度・試用制度  第18回 人事異動 配転  第19回 雇用の終了① 個別労働関係の終了  第20回 雇用の終了② 法による解雇規制  第21回 雇用の終了③ 解雇権濫用  第22回 調整  第23回 賃金・賞与・退職金① 賃金支払いの原則など  第24回 賃金・賞与・退職金② 賞与・退職金  第25回 労働時間① 労働時間に対する規制  第26回 労働時間② 変形制度など  第27回 労働時間③ 労働時間の例外  第28回 年次有給休暇① 年休権の法的性質  第29回 年次有給休暇② 時季指定・時季変更、計画年休  第30回 調整</p>
----------	---

準備学習	テキストを読むこと（少なくとも該当単元のところは読んで授業に臨んでください）。新聞を読むことなどです。現代雇用問題に関する新書なども読んでください。
------	--

履修上の留意点	出席は義務。欠席はマイナス。私語はNo、携帯電話はOff、内職はNo。そして無断で席を立つこともNo。いわゆる授業のマナーは守ってください。配布プリントは取り上げる項目を列挙したレジュメや資料です。教科書は予習や復習をする上で欠かせないアイテムでしょう。憲法、民法、社会保障法のほか、社会政策は特に履修してほしい科目です。
---------	---

成績評価の方法	成績は、学年末試験がメインで、受験しなければ評価が付きません。レポートや中間試験そして出欠も考慮して評価します。追試験は実施します。
---------	--

教科書／テキスト	教科書は、学修する上での必要アイテムです。学修に臨む自己の熱意によって各自で決めてください。よくわからないという方には、金子征史・藤本茂・高野敏春・大場敏彦共著『基礎から学ぶ労働法Ⅰ【第2版】』（エイデル研究所 2010）を参考までに。もとより、これ以外でもかまいませんが、予備校のテキストはその目的とするところが異なりますので、認めません。
----------	---

参考書	概説書・参考書をいくつか、第1回目の授業において紹介します。六法は最新のもの（法律改正や制定があるので特に注意）。そして、労基法施行規則の載っているものを用意してください。詳しくは、第1回授業で配布するプリントで。
-----	---

その他	各々の事項について法的にはどのように考えていくのか、イメージを描きやすいように、裁判例など具体的な例を掲げながら授業を進めます。
-----	--



# 專 門 教 育 科 目

## (7) 心 理 學 科





履修コード	076611
科目名	演習
担当者名	有光 興記

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	臨床心理学(認知行動療法、応用行動分析)、社会心理学領域の研究を実施し、卒業論文の完成を目的とする。
---------------------	--

授業スケジュール	1. テーマ設定、2. 文献の収集、3. 研究計画の立案、4. 研究の実施、5. 研究結果の分析、6. 研究結果の報告および考察、7. 卒業論文の作成、8. 口頭発表を順に行う。そのために、演習中の指導および個別指導を行っていく。すべての段階で、発表を行い、質疑応答を通じて問題点、改善点を明確にして、より良い研究を目指す。 前期では、テーマ設定(1-2回)、発表会での計画発表を経て、卒業論文関連論文の発表(3-8回)、実験、調査の準備および実施(9-14回)を行う。後期では、結果の分析(15-17回)、卒業論文本文作成の指導(18-25回)、口頭試問の準備(26-28回)を行う。
----------	--

準備学習	3年次までに学んだ心理学の基礎知識、情報処理、心理統計の技法は必須である。常に予習、復習を怠らないこと。 また、個別の研究テーマとなるため、課題を1人でこなす必要が出てくる。課題を行う時間を確保し、自力で前に進めていくように努力してほしい。
------	---

履修上の留意点	演習時間外に、論文の読み方、テーマ設定などについて面接時間をとることがある。合宿や発表会での研究発表が義務付けられる。
---------	---

成績評価の方法	課題への取り組み、発表内容、研究への姿勢によって総合的に評価する。
---------	-----------------------------------

教科書/テキスト	
----------	--

参考書	適宜、紹介する。
-----	----------

履修コード	075901
科目名	演習
担当者名	茨木 博子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本演習では、各受講生の卒業論文のテーマに即した個別および演習形式による指導を行い、論文を完成させることを目的とする。その他、グループワークとして集団精神療法の一つであるサイコドラマを実施し、日頃の対人関係やより良い人間関係について考え、討議する。
---------------------	---

授業スケジュール	(1~14) 卒業論文の構想発表(研究のテーマ設定、研究計画など)および研究計画の実行に関する指導、助言。グループワークによる対人関係の学習(15) 卒業論文の中間発表(16~30) 論文の完成へ向け、結果(データの整理と分析)、考察、論文の書き方の留意点などを指導、助言。グループワークによる対人関係の学習
----------	--

準備学習	研究するテーマに関する先行研究や文献に目を通し、必要に応じて検討資料を作成しておくこと。また研究方法(調査、実験など)を考え、尺度を使用する場合は使用尺度を調べておくこと。さらに分析方法についても予習しておくこと。
------	---

履修上の留意点	自分の研究に協力して下さる機関や人々に対して、感謝の気持ちを忘れないことが論文作成に大切である。
---------	--

成績評価の方法	卒業論文作成に取り組む態度(出席も含む)によって評価する。
---------	-------------------------------

教科書/テキスト	
----------	--

参考書	随時紹介する。
-----	---------

履修コード	076301
科目名	演習
担当者名	小野 浩一

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	行動分析学はスキナーによって始められたオペラント条件づけの研究に端を発するが、現在では基礎研究のみならず、応用行動分析として人間社会のさまざまな問題に取り組んでいる。本演習では、実験的行動分析学に関する基礎的文献を題材に、諸問題について各自が考え討論することで、人間行動の特徴と機能について深い理解を得ることを目標とする。
---------------------	---

授業スケジュール	正規の時間は演習形式の授業を行う。卒論についての指導は、各受講生の研究の進展に合わせて個別面接形式で行う。 第1回～15回 Skinner (1990) Can Psychology Be a Science of Mind? をテキストとして人間の進化、行動の変容と障害、モデリング・模倣・教育等社会性の発達、言語の生成・理解、人間の自由と尊厳などについて考える。第16回～30回 行動分析学の日常場面への応用、実践について文献および具体的事例を参考にしながら学ぶ。
----------	---

準備学習	各授業日に次回演習の内容を確認するので、その内容について事前に調べてくること。
------	---

履修上の留意点	
成績評価の方法	授業への積極的な参加と授業内容の理解度によって評価する。

教科書/テキスト	
参考書	以下の学術雑誌を参照のこと 行動分析学研究 Journal of the Experimental Analysis of Behavior Journal of Applied Behavior Analysis

履修コード	076621
科目名	演習
担当者名	鈴木 常元

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<b>授業概要</b> 受講生が各自の関心のあるテーマについて、卒業論文を作成する。そのために、受講生は、研究の進行状況について定期的に発表を行い、指導を受けることになる。研究テーマを決定し、それに関する文献を収集・整理し、研究計画を立てる。それに基づいて、実験あるいは調査をおこない、収集したデータを分析する。これらの成果をまとめ、卒業論文を作成する。
---------------------	--

到達目標	卒業論文の作成を通して、客観的なものの考え方を身につける。また資料収集・統計ソフトの使い方、プレゼンテーションの方法を身につける。
------	---

授業スケジュール	受講生が、各々の卒業研究の進行状況について毎回発表し、全体で討論する。 第1～30回 卒業研究についての発表と討論
----------	--

準備学習	心理学に関する基本的な知識・技能を習得しておくこと。そのために、心理学に関する3年次までの必修科目について復習しておくこと。
------	--

履修上の留意点	授業時間以外にも、研究指導がおこなわれることがある。
成績評価の方法	授業内での発表、他の受講生の発表への発言等、総合的に評価する。

教科書/テキスト	
参考書	

履修コード	076401
科目名	演習
担当者名	谷口 泰富

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講は、主として卒業論文に関する実践的研究、データの解析方法やその解釈、及び研究の位置づけなどについて学びます。そして最終的には科学的論文の初歩としての卒業論文を実際に完成させることを目的としています。
---------------------	---

授業スケジュール	『卒業論文作成カルテ』に従い、学生一人一人の研究テーマに沿った形で計画的な指導を行います。そのためには当該時間内だけの指導のみでは不十分ですので、学生と相談の上、別の時間を編成しそこで個別指導を行います。 (1) オリエンテーション、(2～4) 資料の分析と解釈及び個人面談、(5～6) 結果の表記法及び個人面談、(7～9) 第1回卒業論文点検、(10～11) 文献研究のまとめ方及び個人面談、(12～14) 第2回卒業論文点検、(15～16) 研究結果と考察及び個人面談、(17～19) 第3回卒業論文点検、(20) 引用文献の書き方、(21～23) 第4回卒業論文点検、(24～30) 卒業論文最終点検(個人指導)
----------	--

準備学習	既に配布してある『卒業論文作成カルテ』の全てを精読しておいてください。
履修上の留意点	研究テーマにより個別指導が中心となります。従って、週2回以上の指導を受けることが義務となります。学生の人数によっては、早朝や深夜の指導もあり得ますので留意してください。遅刻や欠席については厳しく指導します。
成績評価の方法	課題報告やレポート及び卒業論文の質的側面から評価します。
教科書/テキスト	『卒業論文作成カルテ』を配布します。
参考書	随時紹介します。

履修コード	076001
科目名	演習
担当者名	茅原 正

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	卒業論文の作成指導を中心におこなう。各人のテーマに関わる問題点の指摘や研究のすすめ方、論文の書き方など、具体的な指導をおこなう。
---------------------	--

授業スケジュール	前期は、テーマの決定・参考文献・資料の収集・分析、実験・調査の計画、論文の構成など、文献研究を中心に、問題点を整理して構想を練る。 後期は、実験・調査のデータ整理、結果の報告、論文構成の決定、執筆というスケジュールで、各自が研究の成果を検討・考察して中間報告をおこない、発表・討論を経て論文の完成を目指す。(スケジュール) 1～2 ガイダンス 3～5 卒論構想発表 6～8 論題決定 9～11 データの収集分析 12～13 中間報告 14～18 論文指導・中間報告 19～23 論文指導 24～28 まとめ。
----------	---

準備学習	特になし
履修上の留意点	前期は、卒業論文の構想について文献の研究中心の中間発表。 後期は、随時、関連する論文の内容の紹介や、実験・調査の結果報告や卒論の具体的な内容について発表・議論してもらう。
成績評価の方法	課題、研究および発表・討論に対する積極性を重視し、評価する。
教科書/テキスト	
参考書	

履修コード	076201
科目名	演習
担当者名	永田 陽子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本演習は、卒業論文を完成させることを最終目標としています。従って、各受講者が卒業論文作成のための文献研究、実験・調査の計画とその実施、結果と考察のまとめ方、論文の書き方、さらに口頭発表の仕方を習得することが本演習の目的です。
---------------------	--

授業スケジュール	各受講者の論文テーマに即した実質的・具体的な指導を個別かつ演習形式で遂行していきます。受講者は各自のテーマについて、個別に指導をうけると同時に、演習時にその研究経過を発表し、他の受講者からの意見や討論などを通じて、論文の完成を高めていくこととなります。
----------	--

準備学習	特にありません。
履修上の留意点	各受講者の卒業論文の研究に基づく面接を随時行います。
成績評価の方法	演習時における年間を通じた研究姿勢によって評価します。
教科書/テキスト	
参考書	必要な参考図書および文献を演習時に随時提示します。

履修コード	076501
科目名	演習
担当者名	間島 英俊

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本演習は卒業論文の作成を最終目的としています。したがって、論題(卒論テーマの決定)、問題(文献研究)、目的・方法(研究計画とその実施)、結果・考察(研究結果の分析、議論)のスケジュールにそって、指導がなされます。
---------------------	--

授業スケジュール	基本的には受講者各自の研究テーマに基づいて、上述のスケジュールにそった具体的指導がなされず。演習という性格から、受講者は、1. 卒論テーマの設定 2. 文献研究法 3. 研究計画および実施 4. 研究結果の考察、議論についてゼミでの発表、意見、討論をとおしてお互いの研究向上を目指すこととなります。なお、当ゼミの性格上、必ずゼミ生同士の活発な意見交換を前提にゼミ運営がなされます。個人的指導は10月中旬ぐらいから開始しますが、あくまでも卒論作成の補助的なものです。
----------	--

準備学習	1,2年次にて履修した基本的心理統計法を理解するよう再復習してください。また、心理学研究法などで学んだ文献収集法、問題史のまとめ並びに仮説の立案を理解しておいてください。また後半の卒論に結び付ける個人研究の素地となる基本文献での統計法については熟知しといてください。ゼミでの発表時は紙媒体並びに電子媒体両方の準備をし、発表時にはスライド、紙媒体の準備を済ませておくこと。
------	---

履修上の留意点	演習時間内では、上述の1~4の発表、意見、討論ならびに個別指導がなされますが、個人の研究の進捗状況によっては演習時間外も指導します。
---------	--

成績評価の方法	卒業論文口頭試問における発表内容、方法などの工夫、質疑応答にたいして評価されます。出席はもとより演習における真摯な研究態度、さらにゼミ合宿における後輩指導に対しても評価がなされます。
---------	---

教科書/テキスト	主として各自の研究テーマに即した本は購入します。
----------	--------------------------

参考書	各自の研究テーマに即した文献が主となります。正当な手続きにより入手された資料については、手続きにより公費から支払われます。
-----	---

その他	特にありません。
-----	----------

履修コード	076601
科目名	演習
担当者名	八巻 秀

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	卒論の作成に向けて、そのテーマに関連している臨床心理学関連の文献について学ぶ機会を提供します。それらの臨床心理学に関する文献を読みまとめるという作業を通して、卒論作成のためのスキルも獲得することを目標とします。
---------------------	---

授業スケジュール	(1) オリエンテーション、(2~4) 卒論研究の計画の確認、(5~7) 中間報告、(8~13) 個別研究指導面接①ならびに全体会、(14~18) 予備実験あるいは調査に関する報告と討議、(19~23) 個別研究指導面接②ならびに全体会、(24~28) 本実験・調査の計画と実施に関する報告と討議、(29~30) 卒業論文最終報告会
----------	--

準備学習	4年生から所属する学生は、ゼミ所属決定後はできる限り3年次の特殊演習の授業に参加すること。
------	---

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	出席・授業への取り組む姿勢などを総合的に評価します。
---------	----------------------------

教科書/テキスト	必要に応じて授業中に指示します。
----------	------------------

参考書	必要に応じて授業中に指示します。
-----	------------------

履修コード	074701
科目名	カウンセリング
担当者名	茨木 博子

授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p>カウンセリングとは、とすれば悩みや苦しみから目をそむけようとする人が、その悩みや苦しみに立ち向かい、自ら立ち直っていけるよう援助する心理面接である。しかし一般的には、カウンセリングとは何か、その本来の定義が理解されているとは言えない。</p> <p>そこで本講義では、カウンセリング心理学、マイクロカウンセリングに基づき、カウンセリングおよびカウンセラーとは何かを学び、カウンセリングの基本的技法を修得することを目的とする。</p>
--------------------	---

授業スケジュール	<p>〈1～4〉カウンセリングについて、討議 〈5～8〉カウンセリング心理学の発達史、討議 〈9～11〉カウンセリング心理学の独自性、討議 〈12～15〉多様化するカウンセラーの機能と働き方、討議 〈16～22〉カウンセラーに必要な基本的態度と能力、マイクロカウンセリング、討議 〈23～30〉ビデオ学習とロールプレイングによる体験学習、討議</p>
----------	---

準備学習	内容ごとに小グループに分かれて討議するため、学習内容を復習しておくこと。
------	--------------------------------------

履修上の留意点	原則として、内容ごとに小グループに分かれ、討議するので、欠席を慎しむこと。
---------	---------------------------------------

成績評価の方法	出席、授業態度、定期試験、レポートで総合的に評価する。
---------	-----------------------------

教科書／テキスト	必要に応じてプリントを配布する。
----------	------------------

参考書	<p>渡辺三枝子『カウンセリング心理学』（ナカニシヤ出版）2,100円 河合隼雄『カウンセリングの実際問題』（誠信書房）2,000円</p>
-----	--

履修コード	072001
科目名	学習心理学
担当者名	久保 尚也

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p><b>【授業概要】</b> わたしたちの行動は経験により、行動を変化させる。たとえば、練習を繰り返すことでシュートがうまくなったり、英会話を習うことにより、流暢に英語が話せるようになったりする。このような“経験による比較的永続的な行動の変化”が心理学における学習である。学習心理学は、このような“生体が経験を通して行動を変容させていく過程”を研究する領域であり、さまざまな行動の原理・原則を明らかにしてきた。この学習に関する研究の成果は、今日では教育、臨床、福祉、産業などにも貢献しており、ヒューマンサービスの仕事を将来的に目指す人にとっても行動について知ることは有益であるといえる。</p> <p>本講義では、学習心理学で明らかにされた行動の原理や諸現象について、できるだけ身近な事例をまじえ、紹介する。また、動物実験のデモやビデオなどの映像資料等なども使用する予定である。</p>
---------------------	---

**【到達目標】**  
学習心理学で明らかにされた行動の原理・原則などの専門的な知識を身につけ、ヒトを含めた生体の行動について理解を深めることを目的とする。

授業スケジュール	オリエンテーション (1回目)
----------	-----------------

- 【I. 行動についての基礎知識 (2~4回)】**  
 ①行動とは? ②3種類の環境変化  
 ③2種類の行動—レスポナント行動とオペラント行動—
- 【II. レスポナント行動 (5~10回)】**  
 ①レスポナント条件づけの仕組み ②レスポナント条件づけの諸現象  
 ③レスポナント条件づけの新しい考え方
- 【III. オペラント行動 (11~22回)】**  
 ①オペラント条件づけの仕組み ②行動の獲得と維持・消去  
 ③複雑な強化スケジュール ④負の強化—逃避行動と回避行動 ⑤弱化  
 ⑥先行刺激によるオペラント行動の制御
- 【IV. 言語行動 (23~26回)】**  
 ①言語行動の種類 ②言語行動の獲得と働き ③言語刺激による行動の制御
- 【V. オペラント行動研究の展開 (27~30回)】**  
 ①選択行動 ②迷信行動 ③社会的行動 ④研究と実践の統合

準備学習	理解度を確認するテストを授業開始時に行うので、よく復習をしておくこと
履修上の留意点	・出席2/3以上は必須 ・他の履修生の迷惑になるので授業中の私語および離席は慎むこと
成績評価の方法	定期試験 (60%) および平常点 (40%) とする
教科書/テキスト	小野浩一 (2005) 行動の基礎—豊かな人間理解のために— 培風館 2400円+税 ISBN978-4-563-05696-4
参考書	

履修コード	058451
科目名	家族とジェンダーの社会学A
担当者名	松信 ひろみ

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義のテーマは、現代の結婚と家族にかかわる諸現象や問題を、社会学的な観点から考察することである。統計的なデータから、さまざまな現象や問題についての現状を読み取り、その現状を社会学的な観点から把握できる能力を養うことが目標となる。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>まず初めに、家族社会学の基本的な考え方を解説し、近代家族から現代家族への変遷の過程について説明する。続いて、現代家族をめぐる具体的な現象や問題を取り上げ、各々について統計的なデータなども用いて、現状の解説と社会学的な観点・理論からの分析・検討を行う。具体的には、結婚の変容、ワーク・ライフ・バランス、子どもの社会化と子育て事情、共働き夫婦の家族関係、家族と地域における高齢者、離婚とひとり親家族、家族と暴力などである。</p> <p>第1回 イントロダクション  第2回～3回 社会変動と家族変動  第4回 家族規範の変化と結婚の変容  第5回 家族の生活時間とワーク・ライフ・バランス  第6回 共働き夫婦の家族関係  第7回 子どもの社会化と家族  第8回 現代家族の子育て事情  第9回 中年期から高齢期への移行と家族  第10回 高齢者と地域  第11回 離婚、ひとり親家族とステップ・ファミリー  第12回 家族と暴力  第13回～14回 これからの家族と家族政策  第15回 まとめ</p>
----------	--

準備学習	現代家族にかかわる問題や現象で気になることがあったら、日ごろからチェックして、その問題・現象の構造について、自分なりに検討しておいてほしい。
------	--

履修上の留意点	
成績評価の方法	平常点（出席・コメントペーパー）30%、レポート70%
教科書/テキスト	使用するが、開講時に指示する
参考書	適宜紹介する

履修コード	073401
科目名	環境心理学
担当者名	林 久美

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>私たちをとりまく「環境」とは？</p> <p>実にさまざまな要素からなる「環境」。人間が存在し、その周囲にある空間一室内、建築、都市…すなわち「環境」はいろいろな尺度で捉えることができる。そのなかで私たちの生活は存在し、人間と環境は常に相互に影響を与え合っている。</p>
---------------------	---

人間がより豊かで多様な関わりを持てる環境を作るために、人間が環境をどのように知覚・認知しているか、あるいは環境における人間行動・生態など、人間が本来的に持つ性質を実証的に明らかにする観察・実験例（環境行動研究：Environment-Behavior Studies）をもとに、それを基盤とした人間の観点に基づく環境デザインの理論的背景を得ることを目的とする。

授業スケジュール	<p>1) 環境心理学の概観・問題意識  ・環境行動デザインの意義・建築計画学と環境心理学</p> <p>2) 人間の心理・行動とそのデザインへの応用  ・人間のスケール、人間の周りの空間・環境と行動・環境のアフォーダンス・プロクセミクス・パーソナルスペース・テリトリー・ディフェンシブルスペース・空間の知覚/認知・ウェイファインディング</p> <p>3) 建築計画学における環境心理研究・実践  ・住まいと環境心理学・都市と環境心理学・子どもの発達と環境心理学・老いと環境心理学</p>
----------	---

準備学習	身の回りの出来事を客観視する習慣をつけることが望ましい。「あたりまえ」と思っていることを改めて見つめ直す、等。
------	---

履修上の留意点	日常生活に関連する事柄が多いので、日頃から自身の行動、周辺環境との関わりについて興味を持ってのこと。
---------	--

成績評価の方法	レポートによる。
---------	----------

教科書/テキスト	
参考書	

- ・日本建築学会編：人間環境学、朝倉書店、1998
- ・高橋鷹志、長澤泰、西出和彦編：シリーズ<人間と建築> 1 環境と空間、朝倉書店、1997
- ・ジョン・ラング著、高橋鷹志監訳「建築理論の創造 建築デザインにおける行動科学の役割」鹿島出版会（1992）
- ・高橋鷹志＋チームEBS編著：環境行動のデータファイル-空間デザインのための道具箱-、彰国社、2003



履修コード	070971
科目名	キャリア教育入門
担当者名	長谷川 茂

授業概要/  
到達目標 (ねらい)

(授業概要)  
キャリアとは個々人が生涯にわたって形成するものであり、自己の在り方・生き方と社会との関係を考える必要がある。授業では、自己理解および将来の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる社会人基礎能力、態度について、体験的(自己分析、グループ演習)に学ぶ。  
(到達目標)  
自己分析やグループワークによる共同作業を通じて、自分を見つめ直し、自分を知るための手法や考え方を身に付けること。また将来の社会的・職業的自立および社会・職業への円滑な移行に必要な基礎的・基本的知識・スキルや能力・態度などを習得するとともに、企業が求める人材像や企業の実像についてのケーススタディを行い、職業意識(モチベーション)を高めることにより、自分と社会について考え、自身のキャリアプランニングをできるようにすること。

授業スケジュール

1. キャリアとは～キャリアルーツについて(講義・演習)
2. 自己理解について(講義・演習)
3. コミュニケーション(1)(演習)
4. コミュニケーション(2)(演習)
5. ストレスマネジメント(メンタルヘルス)(講義)
6. 傾聴トレーニング(演習)
7. 社会人基礎力、態度について(講義)
8. 日本語力講座(1)(講義・演習)
9. 日本語力講座(2)(講義・演習)
10. 企業解剖(1)(講義)
11. 企業解剖(2)(講義・演習)
12. 企業が求める人材とは(1)(講義)
13. 企業が求める人材とは(2)(講義)
14. キャリアビジョンについて(講義・演習)
15. キャリアデザインについて(講義)

準備学習

特になし

履修上の留意点

・一人ひとりが将来に向けた「自らのキャリア形成」を主体的に考え、取り組む授業です。  
・このため演習(個人およびグループ)が多く組み込まれていますので、必ず出席して体験的に学ぶようにすること。

成績評価の方法

試験およびレポート60%、平常点40%とする。

教科書/テキスト

適宜プリントと資料を配布する。

参考書

使用しない。

その他

YeStudyを活用します。

履修コード 058501

科目名 行政法

担当者名 鶏徳 啓登

授業概要/  
到達目標 (ねらい)

現代国家は、一般に福祉国家と言われるようになったが、我国も憲法制定後60年経過して、国内的・国内的に、社会情勢の変化に伴う新しい問題が生じてきている。国内的には戦後の経済政策の下になされた約1万件に上る規制の緩和がなされる一方で、国民の高齢化問題に対処すべく消費税率の引き上げ、宗教法人法の改正による宗教団体の規制問題など枚挙に暇がない。  
本講義は、種々の行政作用を中心に行政法の輪郭を理解することをねらいとする。

授業スケジュール

- 1回～3回 : 行政法の意義について(法令の種類と法の解釈を含む)。
- 4回～6回 : 行政作用と行政行為について。
- 7回～15回 : 行政行為(特許や許可等)の意義、内容、効力について。
- 16回～20回 : 行政上の強制手段と行政上の処罰について。
- 21回～25回 : 国家による賠償と補償について。
- 26回～30回 : 行政上の不服申し立てと行政事件訴訟について。

準備学習

本講義は、実定法を中心に行うので、常時六法には目を通すこと。

履修上の留意点

成績評価の方法

成績評価は出席状況と試験またはレポートによる。

教科書/テキスト

原田尚彦著 『行政法要論』(学陽書房)3,000円:ISBN4-313-31222-6  
『小六法』 出版社・定価各種

参考書

塩野宏著 『行政法1・11』(有斐閣)4,000円 その他、教場にて説明。

履修コード	117501
科目名	経済原論
担当者名	福田 慎

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義では、基本的なミクロ経済学とマクロ経済学について扱う。特に、公務員試験の他国家試験に対応できる知識を得ることを目的としている。こうした試験では、それ相応の問題が設定されているため、それに対応できる知識が得られる。また、実際の経済への応用を念頭に置きながら講義を進めていく。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>(前期)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンスと成績評価</li> <li>2. 消費者理論：最適消費点と無差別曲線</li> <li>3. 消費者理論：代替効果と所得効果</li> <li>4. 消費者理論：効用関数の計算と需要曲線</li> <li>5. 消費者理論：需要の価格弾力性</li> <li>6. 生産者理論：利潤最大化と費用関数</li> <li>7. 生産者理論：損益分岐点と操業停止点</li> <li>8. 生産者理論：長期均衡、課税と費用曲線</li> <li>9. 生産者理論：特定の生産関数の扱い</li> <li>10. 不完全競争の生産者理論：独占と寡占</li> <li>11. 不完全競争の生産者理論：独占的競争</li> <li>12. 余剰分析 (1)</li> <li>13. 余剰分析 (2)</li> <li>14. 余剰分析 (3)</li> <li>15. 前期の復習</li> </ol> <p>(後期)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国民所得の決定 (1)</li> <li>2. 国民所得の決定 (2)</li> <li>3. IS-LM分析</li> <li>4. 為替レート考慮したIS-LM分析</li> <li>5. 消費関数と投資関数</li> <li>6. 貨幣理論</li> <li>7. 乗数理論 (1)</li> <li>8. 乗数理論 (2)</li> <li>9. 総需要・総供給分析 (1)</li> <li>10. 総需要・総供給分析 (2)</li> <li>11. 総需要・総供給分析 (3)</li> <li>12. 総需要・総供給分析 (4)</li> <li>13. 経済成長の理論 (1)</li> <li>14. 経済成長の理論 (2)</li> <li>15. 後期の復習</li> </ol>
----------	--

準備学習	教科書に目を通しておいてください。
履修上の留意点	ミクロ経済学ではある程度の数学の知識を要しますが、その都度説明していくので、数学初心者でも履修は可能です。
成績評価の方法	試験60%、レポート40%で評価する。
教科書／テキスト	伊藤元重(2003)『ミクロ経済学』日本評論社 伊藤元重(2002)『マクロ経済学』日本評論社
参考書	中谷巖(2000)『入門マクロ経済学』日本評論社 奥野正寛(2008)『ミクロ経済学』東京大学出版会
その他	事前に配布する資料と板書による講義形式です。

履修コード	073901
科目名	健康心理学
担当者名	稲松 信雄

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	従来からの生理学的ストレス理論を出発として生理心理学の基礎、神経系の概略を学び、W. B. Cannon & H. Selyeの学説を理解し、内分泌、免疫系に多少言及する。Psychological Stressを中心にStressor Agentsの認知、評価の問題を扱い、それと精神神経免疫学 (Psychoneuroimmunology) やホリスティック医学 (Holistic Medicine) を関係づけて、健康は心身相関を表現しており、特にプラス思考こそ健康維持にとって重要な役割を果たしていることを学ぶ。プラス思考は積極的感情や情動と密接な関係にあることも学習する。後期は動機の階層と牛田や、気と健康の関係、さらにV. E. FranklやNorman Cousinsの著作からPositive Thinkingはどのような哲学を持つことによって形成されるかを学ぶ。終わりに長寿高齢者の良き具体的適応例を学び、健康心理学は、机上の知識獲得ではなく、良き先達の人生哲学を習得することにある。そのことを学習する。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>講義内容は以下のような項目となる</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 序：健康心理学について精神活動と心の重要性</li> <li>② 精神活動と身体反応との関係</li> <li>③ 心理学的ストレスと生理学的ストレス</li> <li>④ ストレスと情緒反応</li> <li>⑤ 情緒の生理学的機構</li> <li>⑥ 情緒の分類と感情の統御</li> <li>⑦ 情緒と精神神経免疫学</li> <li>⑧ 情緒と欲求との関係</li> <li>⑨ 感情&amp;ストレスと健康の総括</li> <li>⑩ 積極思考の涵養</li> <li>⑪ 健康問題を扱っている著名な精神科医やジャーナリストの思考を学ぶ</li> <li>⑫ 気と健康、霊性 (spirituality) と健康との関係を考察する</li> <li>⑬ 長寿高齢者の良き適応を学習</li> </ol>
----------	--

準備学習	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 講義時間内で終了しない項目については、きちんとその点を指摘するので、次回までに予習しておくこと。</li> <li>2 後期は補助プリントを使用するが、当日の講義前に配布する場合は多いので次回までにきちんと読んでおくこと。</li> </ol>
------	---

履修上の留意点	外国語を英語で受験した人が望ましい、英文の補助プリントを使用する時がある。
---------	---------------------------------------

成績評価の方法	成績は前期は試験を実施、後期はレポート提出その両方の成績に、出席を加味する。 (但：履修者が40名を超えた場合には授業時間の前期・後期の最終日に試験を実施する。)
---------	--

教科書/テキスト	教科書として「健康心理学：資料集」(東邦大学医学部心理学研究室編)を使用する(授業開始時に配布：実費徴収)。
----------	--

参考書	参考書は特に必要としない。随時補助プリントを準備します。
-----	------------------------------

その他	講義を中心とするが、ビデオ、カセット、Power Pointを必要に応じて使用する。
-----	--

履修コード	071201
科目名	コンピュータ実習
担当者名	小野 洋平

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	現代社会においてコンピュータは必須の情報処理装置である。とりわけ、心理学を専攻する大学生にとってのコンピュータの活用技術は今後の実験や実習等を行う上で最低限習得しなければならない重要なスキルである。すでに高校時代にコンピュータを利用した授業を経験していると思うが、本科目では心理学を学ぶ大学生に求められるコンピュータの利用法を徹底的に習得することを目標とする。従って、コンピュータ操作に関して高校卒業レベルの者が、独力でコンピュータを活用して心理学実験レポート等を作成する能力を養う内容となる。さらに、実習を通じて自分の得た結果や事実、考えをまとめて発表するための方法を習得する。
---------------------	--

授業スケジュール	授業は全て実習形式で行う。前期は主に各ソフトウェアの基本操作、後期はそれらを組み合わせた利用法の実践を学習する。概要はおおむね以下の通りである。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・パソコンの基本操作 (ファイル管理、キーボードによる文字入力など)</li> <li>・文書作成の基本、レポート形式の文書作成 (MS-Word)</li> <li>・表計算ソフトによるデータ分析 (MS-Excel)</li> <li>・パソコンを用いた口頭発表 (MS-PowerPoint)</li> <li>・Internet利用の実際と注意 (電子メール、文献検索、マナーやモラルについて)</li> <li>・基礎的な統計処理 (PASW Statistics)</li> <li>・情報処理の基礎知識</li> </ul>
----------	--

詳細スケジュール

- 01回目 : オリエンテーション 教材、資料の配布
- 02回目 : コンピュータの基本操作 タッチタイプ練習
- 03~04回目 : 日本語入力、ワープロによる文書作成
- 05回目 : インターネットの仕組みと注意・電子メールの利用法と注意
- 06回目 : 表計算ソフトの基本操作
- 07~08回目 : プレゼンテーションの技術
- 09回目 : プレゼンテーション演習 課題説明
- 10回目 : コンピュータの基本原則 (ファイル構造とデータの内部表現など)
- 11~14回目 : プレゼンテーション演習 発表
- 15回目 : 図書館蔵書、学術論文の検索
- 16回目 : 統計パッケージの基本操作
- 17~21回目 : 実験データの分析1 ( $\chi^2$ 検定, t検定)
- 22~25回目 : 総合課題解説
- 26~29回目 : 実験データの分析2 (1要因の分散分析)
- 30回目 : 総合演習課題提出

準備学習	特になし
------	------

履修上の留意点	年間30回の授業時間では学習時間が不足するため、本科目では授業内容に対応する課題が出される。課題を行うには、総合情報センター自習室を利用するとよい (個人で所有しているパソコンでも、ほとんどの課題は可能である)。詳細は開講時に説明する。総合情報センターの利用資格が必須となるので、入学時のオリエンテーションで必ず利用資格の交付を受けること。
---------	--

成績評価の方法	課題提出の状況、プレゼンテーション演習、総合課題の成績および平常点を評価の対象とする。なおこの科目は必修科目であるため単位の1年次に単位を取得しておかなければ上級学年で履修できる科目が制限される場合がある。1年次に取得できるように努力されたい。
---------	--

教科書/テキスト	資料、データなどは、基本的にコンピュータのファイル形式で配布する。従って初回に配布する記憶メディアを毎回持参すること。
----------	---

参考書	授業中に最新のものを指示する。
-----	-----------------

その他	パソコンを独自に購入するのであれば、Windows7およびMicrosoftOfficeが導入されているものを購入するとよい。詳細や注意事項については開講時に解説する。なお、実習に必要な記憶メディアは心理学科が用意し、開講時に配布するので各自が事前に用意するものは無い。
-----	---

履修コード	071301
科目名	コンピュータ実習
担当者名	深堀 友覚

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	現代社会においてコンピュータは必須の情報処理装置である。とりわけ、心理学を専攻する大学生にとってのコンピュータの活用技術は今後の実験や実習等を行う上で最低限習得しなければならない重要なスキルである。すでに高校時代にコンピュータを利用した授業を経験していると思うが、本科目では心理学を学ぶ大学生に求められるコンピュータの利用法を習得することを目標とする。従って、コンピュータ操作に関して高校卒業レベルの者が、独力でコンピュータを活用して心理学実験レポート等を作成する能力を養う内容となる。さらに、実習を通じて自分の得た結果や事実、考えをまとめて発表するための方法を習得する。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>授業は全て実習形式で行う。前期は主に各ソフトウェアの基本操作、後期はそれらを組み合わせた利用法の実践を学習する。概要はおおむね以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パソコンの基本操作 (ファイル管理、キーボードによる文字入力など)</li> <li>・文書作成の基本、レポート形式の文書作成 (MS-Word)</li> <li>・表計算ソフトによるデータ分析 (MS-Excel)</li> <li>・パソコンを用いた口頭発表 (MS-PowerPoint)</li> <li>・Internet利用の実際と注意 (電子メール、文献検索、マナーやモラルについて)</li> <li>・基礎的な統計処理 (PASW Statistics)</li> <li>・情報処理の基礎知識</li> </ul> <p>詳細スケジュール</p> <p>01回目: オリエンテーション 教材、資料の配布  02回目: コンピュータの基本操作 タッチタイプ練習  03~04回目: 日本語入力、ワープロによる文書作成  05回目: インターネットの仕組みと注意・電子メールの利用法と注意  06回目: 表計算ソフトの基本操作  07~08回目: プレゼンテーションの技術  09回目: プレゼンテーション演習 課題説明  10回目: コンピュータの基本原理 (ファイル構造とデータの内部表現など)  11~14回目: プレゼンテーション演習 発表  15回目: 図書館蔵書、学術論文の検索  16回目: 統計パッケージの基本操作  17~21回目: 実験データの分析1 (<math>\chi^2</math>検定, t検定)  22~25回目: 総合課題解説  26~29回目: 実験データの分析2 (1要因の分散分析)  30回目: 総合課題提出</p>
----------	---

準備学習	特になし
履修上の留意点	授業時間だけでは学習時間が不足するため、本科目では授業内容に対応する課題が出される。課題を行うには、総合情報センター自習室を利用するとよい (個人で所有しているパソコンでも、ほとんどの課題は可能である)。詳細は開講時に説明する。総合情報センターの利用資格が必須となるので、入学時のオリエンテーションで必ず利用資格の交付を受けること。
成績評価の方法	課題提出の状況、プレゼンテーション演習、総合課題の成績および平常点を評価の対象とする。なおこの科目は必修科目であるため、1年次に単位を取得しておかなければ上級学年で履修できる科目が制限される場合がある。1年次に取得できるように努力されたい。
教科書/テキスト	資料、データなどは、基本的にコンピュータのファイル形式で配布する。従って初回に配布する記憶メディアを毎回持参すること。
参考書	授業中に最新のものを指示する。
その他	パソコンを独自に購入するのであれば、Windows7およびMicrosoftOfficeが導入されているものを購入するとよい。詳細や注意事項については開講時に解説する。なお、実習に必要な記憶メディアは心理学科が用意し、開講時に配布するので各自が事前に用意するものは無い。

履修コード	071101
科目名	コンピュータ実習
担当者名	堀 直人

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	現代社会においてコンピュータは必須の情報処理装置である。とりわけ、心理学を専攻する大学生にとってのコンピュータの活用技術は今後の実験や実習等を行う上で最低限習得しなければならない重要なスキルである。すでに高校時代にコンピュータを利用した授業を経験していると思うが、本科目では心理学を学ぶ大学生に求められるコンピュータの利用法を習得することを目指す。従って、コンピュータ操作に関して高校卒業レベルの者が、独力でコンピュータを活用して心理学実験レポート等を作成する能力を養う内容となる。さらに、実習を通じて自分の得た結果や事実、考えをまとめて発表するための方法を習得する。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>授業は全て実習形式で行う。前期は主に各ソフトウェアの基本操作、後期はそれらを組み合わせた利用法の実践を学習する。概要はおおむね以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パソコンの基本操作 (ファイル管理, キーボードによる文字入力など)</li> <li>・文書作成の基本, レポート形式の文書作成 (MS-Word)</li> <li>・表計算ソフトによるデータ分析 (MS-Excel)</li> <li>・パソコンを用いた口頭発表 (MS-PowerPoint)</li> <li>・Internet利用の実際と注意 (電子メール, 文献検索, マナーやモラルについて)</li> <li>・基礎的な統計処理 (PASW Statistics)</li> <li>・情報処理の基礎知識</li> </ul> <p>詳細スケジュール</p> <p>01回目: オリエンテーション 教材, 資料の配布  02回目: コンピュータの基本操作 タッチタイプ練習  03~04回目: 日本語入力, ワードプロによる文書作成  05回目: インターネットの仕組みと注意・電子メールの利用法と注意  06回目: 表計算ソフトの基本操作  07~08回目: プレゼンテーションの技術  09回目: プレゼンテーション演習 課題説明  10回目: コンピュータの基本原理 (ファイル構造とデータの内部表現など)  11~14回目: プレゼンテーション演習 発表  15回目: 図書館蔵書, 学術論文の検索  16回目: 統計パッケージの基本操作  17~21回目: 実験データの分析1 (<math>\chi^2</math>検定, t検定)  22~25回目: 総合課題解説  26~29回目: 実験データの分析2 (1要因の分散分析)  30回目: 総合課題提出</p>
----------	---

準備学習	特になし
------	------

履修上の留意点	授業時間だけでは学習時間が不足するため、本科目では授業内容に対応する課題が出される。課題を行うには、総合情報センター自習室を利用するとよい (個人で所有しているパソコンでも、ほとんどの課題は可能である)。詳細は開講時に説明する。総合情報センターの利用資格が必須となるので、入学時のオリエンテーションで必ず利用資格の交付を受けること。
---------	--

成績評価の方法	課題提出の状況、プレゼンテーション演習、総合課題の成績および平常点を評価の対象とする。なおこの科目は必修科目であるため、1年次に単位を取得しておかなければ上級学年で履修できる科目が制限される場合がある。1年次に取得できるように努力されたい。
---------	--

教科書/テキスト	資料、データなどは、基本的にコンピュータのファイル形式で配布する。従って初回に配布する記憶メディアを毎回持参すること。
----------	---

参考書	授業中に最新のものを指示する。
-----	-----------------

その他	パソコンを独自に購入するのであれば、Windows7およびMicrosoftOfficeが導入されているものを購入するとよい。詳細や注意事項については開講時に解説する。なお、実習に必要な記憶メディアは心理学科が用意し、開講時に配布するので各自が事前に用意するものは無い。
-----	---

履修コード	073801
科目名	宗教心理学
担当者名	加藤 博己

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>宗教心理学は、特定の宗教教義や価値観にとらわれることなく、宗教を客観的にとらえようとするもので、「宗教心理」の学問的研究と、「宗教」の心理学的研究との学際的研究領域にある学問として捉えることができる。</p> <p>本講義では、特に後者に重点を置き、本年度は、宗教心理学、ならびに、その下位分野として位置づけられる(心理学的アプローチによる)仏教心理学と禅心理学を概観する。特に、これらの研究領域における知識の獲得にとどまらず、心理学的な視点(クリティカル・シンキング)による事象の把握、理解といった態度を身につけることで、宗教心理学的事象を読み解く力を涵養することを旨とする。</p>
---------------------	--

こ人を  
こめに  
よ組織

ンヨ  
員評  
デザイ  
変更す

授業スケジュール	<p>前期： 0.オリエンテーション(講義のねらい、形式、内容、進め方、評価方法、注意事項等の確認) 1. 宗教とは、2. 心理学とは、3. 宗教と宗教学、心理学との同異、4. 宗教心理学、5. 心理学的アプローチによる宗教心理学(人格心理学、青年心理学、社会心理学、発達心理学、臨床心理学的アプローチや瞑想研究など)</p> <p>後期： 1. 禅とは、2. 禅心理学(これまでの研究成果、問題点、課題)、3. 仏教とは・初期仏教、4. 仏教心理学</p>
----------	---

J/Aク  
総合的

準備学習	<p>心理学科2年～4年生を対象とした選択授業の1つとしての配当科目となるので、心理学の基礎知識を有していることを前提とする。1年時必修科目「心理学概論」における内容を復習し、心理学とはどのような学問であるのかを確認しておくこと。</p> <p>授業内で参考文献を多数紹介するので、各自でそれらの論文のコピーや図書を入手し、短期間で目を通すことが求められる。</p>
------	---

履修上の留意点	<p>履修希望者は、初回授業のオリエンテーションに必ず出席し、講義のねらい、形式、内容、進め方、評価方法等をよく理解した上で受講すること。</p> <p>本授業は講義形式であるが、一方的な講義とならないよう、授業内において、挙手や指名による積極的な発言を促したり、場合によって、アンケートを行ったり、学生同士が2人ペアやグループになり討論を行ったりすることで、授業内容の理解度を確保するとともに、心理学的な視点・態度を涵養し、宗教心理学への理解を深めたい。</p>
---------	--

企業戦

生産  
づけ  
ても考

成績評価の方法	<p>前期(7月)に授業内試験を、定期試験期間内に、定期試験を行う。その他、授業参加点等を含めた総合評価を行う。詳細は、初回授業のオリエンテーションで述べる。</p>
---------	---

教科書/テキスト	<p>授業内で紹介する。参考書・論文についても、授業内で紹介する。</p>
----------	---------------------------------------

参考書	<p>島蘭 進・葛西賢太・福嶋信吉・藤原聖子(編) 2006年『宗教学キーワード』有斐閣 1,995円(本体1,900円+税) ISBN 4-641-05883-0 葛西賢太 2010年『現代瞑想論—変性意識がひらく世界』春秋社 2,940円(本体2800円+税) ISBN 978-4-393-36511-3 井上ウィマラ 2010年『看護と生老病死 仏教心理で困難な事例を読み解く』三輪書店 2,520円(本体2,400円+税) ISBN 978-4-89590-367-7 橋本泰子(編) 2010年『ありがとう療法 入門編 幸せになる自己カウンセリング』 おうふう 1,680円(本体1,600円+税) ISBN978-4-273-03627-0 実践編、体験談編(1,260円)もあり。</p>
-----	--

はくこ

が、小

履修コード	075001 075002 075003
科目名	宗教人類学
担当者名	佐藤 憲昭

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)</p> <p>わが国には、イタコ、カミサマ、祈禱師、行者、ユタ、などの名で呼ばれている宗教的職能者が各地に数多く存在している。彼(彼女)らは、学術用語でシャーマン(巫者)と呼ばれるが、その特徴は、神霊と直接交流をしながら、予言、託宣、祭儀、治病行為などの役割を果たすところにある。これらのシャーマンを中心とする宗教形態は、シャーマニズムと呼ばれる。この講座では、日本及びアジアの諸地域で生起しているシャーマニズムを取り上げて考察し、宗教人類学の考え方を習得することを目指す。</p> <p>(到達目標)</p> <p>受講生は、シャーマニズムの中心であるシャーマンが、神霊と直接交流をする仕方は決して一様ではなく、すこぶる多様性に富んでいる状況を説明することができる。さらに、シャーマニズムの基本的構図及びシャーマニズムと諸宗教との諸関係について解説をすることができる。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 はじめに</li> <li>2 宗教人類学の成立史</li> <li>3 宗教人類学の構成内容</li> <li>4 フィールド・ワーク</li> <li>5 宗教人類学の方法論的特色</li> <li>6 シャーマニズム研究と憑きもの研究</li> <li>7 シャーマニズム研究史</li> <li>8 エクスタシーの文化と憑霊の文化</li> <li>9 アニミズム</li> <li>10 マナイズム</li> <li>11 呪術・宗教的職能者の分類</li> <li>12 プリーストの特質</li> <li>13 シャーマンの特質</li> <li>14 マジシャンの特質</li> <li>15 前期の総括</li> <li>16 プリースト的シャーマンとシャーマン的プリースト</li> <li>17 シャーマンの憑霊と依頼者の憑霊</li> <li>18 憑霊の概念</li> <li>19 シャーマン化過程と聖性の獲得</li> <li>20 諸儀礼と憑霊との関係</li> <li>21 シャーマンと依頼者(信者)</li> <li>22 都市シャーマニズムの特色</li> <li>23 ネオ・シャーマニズム</li> <li>24 シャーマニズムと新宗教</li> <li>25 シャーマニズムと民俗仏教</li> <li>26 シャーマンとプリーストとの相互補完関係</li> <li>27 シャーマニズムと民俗仏教との互惠関係</li> <li>28 エリートのシャーマニズムとマスのシャーマニズム</li> <li>29 シャーマニズムから見た人間理解の可能性</li> <li>30 総括</li> </ol>
----------	---

準備学習	授業内容に関連する「文献」を紹介するので、熟読しておくこと。ここで「文献」というのは、「著書」「論文」「配布プリント」などを指しているが、具体的な指示は授業時に行う。
履修上の留意点	出席をとるので、欠席をする場合、または欠席をした場合には、欠席届(形式は任意)を提出することが望ましい。
成績評価の方法	レポート(2400字~2800字)試験の成績60%、平常点40%とする。なお、追試験は実施する。
教科書/テキスト	使用しない。
参考書	授業中に適宜紹介する。



履修コード	058641
科目名	宗教文化論A
担当者名	芳賀 学
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この講義では宗教という人間社会にかなり普遍的な現象を取り上げ、それが、個人の精神的な支えとなり、社会の安定 (および変化) に大きな役割を果たすことを社会的に概説する。具体的には、まず、セルフ・アイデンティティの維持 (または変更) とのかかわりで宗教を捉える視角を提示し、その上で、日本社会の近代化プロセスを事例として、ライフスタイルや人びとの意識の変化と新宗教の拡大との関係を分析することによって、社会と宗教との密接な結びつきを明らかにする。このことを通じて、受講学生個々の「宗教を理解する力」の養成と向上を目指す。
授業スケジュール	(1) イントロダクション (2~5) アイデンティティとその揺らぎ、認知的不協和の理論と不幸の神義論、アイデンティティの社会性、アイデンティティと宗教 (6~10) 新宗教とは何か: 教団ライフサイクル説、思想、組織、信者、活動 (11~15) 新宗教と近代化: 幕末維新期、代表的教団としての天理教、明治末から昭和初期、敗戦直後の状況、高度経済成長期、近代化の気密室としての新宗教
準備学習	授業を受ける前に、特に準備しておいていただくことは特別ありませんが、この講義を理解するためには高校までの日本史や世界史で習う程度の宗教に関する知識は必要です。足りないと思う人は、事前に勉強しておいてください。また、授業中に事実面で理解しにくいことがあった人は、授業後に各種の辞典などを用いて適宜復習をしてください。授業の効果が一層上がります。
履修上の留意点	結論を急がない粘り強い思考と、物事の良い面と悪い面を同時に視野に収める複眼的視角を取るよう努めてください。
成績評価の方法	学期末試験と授業期間内に提出を求めるミニレポートとの総合評定で行います。
教科書/テキスト	使用しません。
参考書	・井上順孝『新宗教の解読』筑摩書房、1,155円、ISBN: 9784480082732 ・井上順孝ほか編『新宗教事典』弘文堂、25,200円、ISBN: 9784335160189

履修コード	058651
科目名	宗教文化論B
担当者名	芳賀 学
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この講義においては、宗教という社会現象を取り上げ、それが現代の日本社会においてどのような変化・展開を遂げているかを社会的な観点から概説する。具体的には、1980年代以降の日本社会に時間空間を限定して、伝統宗教と新宗教をめぐる状況の変化 (カルト問題を含む) と、宗教を名乗らない広範な精神文化 (= グレーゾーン) の拡大、という両面の現象群を取り上げ、それらが私たちのライフスタイルや価値意識と密接に連動して存在することを明らかにする。このことを通じて、受講学生個々の「現代社会と宗教とのかかわりを読み解く力」の養成と向上を目指す。
授業スケジュール	(1) イントロダクション (2) 教団勢力の退潮とグレーゾーンの拡大 (3~4) 1980年代以降の新宗教: 「親密さ」と自己表出の欲求、3タイプの対応戦略 (5~11) グレーゾーンの諸現象: 自己啓発セミナー、背景としての消費社会、セルフ・ヘルプ・グループ、ネットワーク・ビジネス、エステ・サロン、占い、ヒーリング (12~13) オウム真理教とカルト問題: オウム真理教事件の概略、マインドコントロール説再考 (14~15) 現代日本人のライフスタイル: その変化と特徴、パラドクスとその対応
準備学習	授業を受ける前に、特に準備しておいていただくことは特別ありませんが、この講義を理解するためには高校までの日本史や世界史で習う程度の宗教に関する知識は必要です。足りないと思う人は、事前に勉強しておいてください。また、授業中に事実面で理解しにくいことがあった人は、授業後に各種の辞典などを用いて適宜復習をしてください。授業の効果が一層上がります。
履修上の留意点	結論を急がない粘り強い思考と、物事の良い面と悪い面を同時に視覚に収める複眼的視角を取るよう努めてください。
成績評価の方法	学期末試験と授業期間内に提出を求める課題との総合評定で行います。
教科書/テキスト	使用しません。
参考書	・井上順孝『新宗教の解読』筑摩書房、1,155円、ISBN: 9784480082732 ・伊藤雅之・樫尾直樹・弓山達也編『スピリチュアリティの社会学』世界思想社、1,995円、ISBN: 9784790710936

履修コード	065421 065422
科目名	障害者福祉論
担当者名	桐原 宏行

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 本講義は、障害者福祉の現在に至る経過をたどりながら、障害に関する基本的な理解を基礎として、障害者の実態や生活ニーズ、権利、法律や諸制度などの事項に関する理解を深めるものである。
---------------------	--

- (到達目標)
- ・障害の本質及び障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢について理解する
  - ・障害者福祉制度の発達過程について理解する
  - ・相談援助活動において必要となる障害者福祉に係る法制度について理解する
  - ・ノーマライゼーションの実現方法について考察する

授業スケジュール	<p>第1回：障害者福祉を学ぶこととは</p> <p>第2回：障害とは何か①（身体障害の理解）</p> <p>第3回：障害とは何か②（知的障害・発達障害の理解）</p> <p>第4回：障害者福祉の理念</p> <p>第5回：障害の概念と定義</p> <p>第6回：障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢</p> <p>第7回：障害者福祉制度の発達過程</p> <p>第8回：障害者基本法</p> <p>第9回：障害者自立支援法①（制度移行）</p> <p>第10回：障害者自立支援法②（制度解説1）</p> <p>第11回：障害者自立支援法③（制度解説2）</p> <p>第12回：障害者自立支援法④（制度解説3）</p> <p>第13回：障害者福祉関連法の概要①（身体障害者福祉法、知的障害者福祉法）</p> <p>第14回：障害者福祉関連法の概要②（精神保健及び精神障害者福祉に関する法律、発達障害者支援法）</p> <p>第15回：障害者福祉に関する諸知識の確認</p>
----------	---

準備学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分野論の学習になるため、1年次に「社会福祉原論」及び「社会福祉援助技術総論」を履修しておく必要があり、その復習をしておくこと。</li> <li>・毎時の授業内容は、YeStudyでアップロードするため、その内容と教科書の該当部分を読んでおくことが望ましい。</li> </ul>
------	--

履修上の留意点	<p>本科目は、社会福祉士法の改正により変更された科目である。平成21年度以降入学者（平成20年度以降の入学者で単位未修得者も含む）で社会福祉士受験資格取得予定者は履修しなければならない。なお、平成20年度以前の履修者で、同一名称科目「障害者福祉論（4単位科目）」をすでに履修し単位を取得した者は再履修できないが、法改正で科目内容が改正されており、本年度の社会福祉士国家試験から「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」の科目で試験が実施されるため、その対策には十分注意する必要がある。</p> <p>履修者はできるだけ、「社会福祉原論」及び「社会福祉援助技術総論」の単位を取得していること。</p>
---------	--

成績評価の方法	授業内確認テスト又はレポートの提出70%、平常点30%
---------	-----------------------------

教科書／テキスト	福祉臨床シリーズ編集委員会編 日比野清, 大熊信成, 建部久美子責任編集、『社会福祉士シリーズ14 障害者に対する支援と障害者自立支援制度』、弘文堂、2,625円   ISBN978-4-335-61084-4 C3347
----------	---

参考書	
-----	--

その他	YeStudyを活用する。
-----	---------------

履修コード	074801
科目名	情報処理I
担当者名	久保 尚也
授業概要/ 到達目標(ねらい)	<p>【授業概要】 本講義では、初心者でも容易にプログラミングを行うことができるVisual Basic (以下、VB)の基礎技術および、心理学実験制御用プログラム作成への応用方法について学習する。また、Visual Basic for Applications (以下、VBA) を用いたデータ処理マクロの作成についても併せて学習する。</p> <p>【到達目標】 プログラムで必要となるコードの書き方や構文などの基礎的な知識の習得および、それらの基礎知識をもとに実際に心理学実験用プログラムを作成できるようになることを到達目標とする。</p>
授業スケジュール	<p>【前期】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーション (1回目)</li> <li>・VBの基礎技術 (2~15) <ul style="list-style-type: none"> <li>① VBの基本操作とフォームデザイン, ② イベントプロシージャの作成,</li> <li>③ 時間制御, ④ 条件分岐の設定, ⑤ ループ処理, ⑥ ランダムイズ,</li> <li>⑦ データ保存方法 等</li> </ul> </li> </ul> <p>【後期】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実験制御用プログラム作成への応用 (16~21)</li> <li>・VBAの基礎技術およびマクロの作成 (22~30) <ul style="list-style-type: none"> <li>① マクロの記録・マクロの保存, ② 複数マクロの組み合わせ</li> <li>③ Subプロシージャの作成 ④ セル操作, ⑤ グラフ作成マクロ 等</li> </ul> </li> </ul>
準備学習	・毎時間とも前の時間で取り扱った事項が必要となるのでよく復習を行うこと
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・USBフラッシュメモリーを持参すること</li> <li>・欠席をした場合はYeStudyのサンプルプログラムと資料をもとに各自で学習をしておくこと</li> <li>・出席2/3以上は必須</li> </ul>
成績評価の方法	平常点50%, 小テスト(年4回)20%, プログラム作成課題30%とする
教科書/テキスト	適宜, 資料を配布する
参考書	随時紹介する
その他	YeStudyを使用する

履修コード	074901
科目名	情報処理Ⅱ
担当者名	軽部 幸浩 堀内 正彦

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義では、コンピュータ実習などを通じて身に付けたコンピュータ・リテラシーを十分に活用し、情報処理に関するより深い理解とより高度な技術の習得を目的とする。コンピュータを使ったデータ解析を中心におこない、コンピュータを用いて卒業論文レベルの実験データの分析が独力で可能となることをめざす。単に統計パッケージの使い方をマスターするのではなく、統計的手法の基本を含めて学習する。
---------------------	--

授業スケジュール	授業は講義形式に加え、主に実習形式でおこなう。1つのテーマに1から5時限をあて、毎回課題の提出を求める。 今年度の具体的な内容については以下に記す。なお、履修生の習熟度に応じて適時授業内容の変更もおこなおうと考えている。
----------	---

- =====【前期】=====
- ◆主にSPSSを利用した分散分析などの統計処理および分析方法の理解
    - ・データ解析と統計的手法の基礎 (基本統計量, t検定, 分散分析,  $\chi^2$ 乗検定)
    - ・SPSSの操作方法の理解
    - ・データ取得から分析までの総合演習
- =====【後期】=====
- ◆主に[SAS, <http://www.sas.com/offices/asiapacific/japan/>]を利用しての統計処理および分析方法の理解
    - ・データ解析と統計的手法の基礎 (基本統計量, 相関と回帰, 仮説検定, 多変量解析の基礎)
    - ・SASの操作方法の理解
    - ・SASプログラムの書き方
    - ・他のアプリケーションとの連携 (データハンドリング)
    - ・データ取得から分析までの総合演習
  - ◆成果の発表や公開に関すること (時間的に可能な場合に実施予定)
    - ・コンピュータを使ったプレゼンテーション

準備学習	◆予習よりも復習である。 ◆過去におこなった授業内容を忘れないようにする。
------	--

履修上の留意点	コンピュータ実習の単位を習得している、またはそれと同等もしくはそれ以上の知識を有していること。 本講義は、実習形式でおこなうことが多いので、2回以上続けて欠席すると授業の内容が理解できなくなるので注意を要する。 授業時間内だけでは絶対的に実習時間が不足するので、自習室等を利用した自習が必要となる場合もある。
---------	--

成績評価の方法	出席および課題の提出を前提とし、学期末におこなう筆記試験と合わせて総合的に評価する。ただし、講義の理解の程度、履修人数、実習での応用力の程度によっては定期試験期間での期末試験を免除する場合もある。
---------	--

教科書/テキスト	◆授業中に配布するプリント教材
----------	-----------------

参考書	◆参考書については、授業中に適宜紹介する ◇コンピュータ実習で使用した教材 ◇心理統計学で使用した教科書や教材 =====【SPSS 関係】===== ・石村貞夫 『SPSSによる分散分析と多重比較の手順 [第3版]』 東京図書, ¥2,940, ISBN: 978-4489007293 ・竹原卓真 『SPSSのすすめ (1) 2要因の分散分析をすべてカバー』 北大路書房, ¥3,360, ISBN: 978-4762825514 ・山内光哉 『心理・教育のための分散分析と多重比較 —エクセル・SPSS解説付き—』 サイエンス社, ¥3,465, ISBN: 978-4781911878 =====【SAS 関係】===== ・竹内啓監修, 市川伸一・大橋靖雄・岸本淳司・浜田知久馬 著 『SASで学ぶ統計的データ解析 (1) SASによるデータ解析入門 [第2版]』 東京大学出版会, ¥3,570, ISBN: 4-13-064048-8
-----	--

その他	【e-Learning】 [ <a href="https://yestudy.komazawa-u.ac.jp/">https://yestudy.komazawa-u.ac.jp/</a> , <a href="https://yestudy.komazawa-u.ac.jp/">https://yestudy.komazawa-u.ac.jp/</a> ]
-----	--

履修コード	071901
科目名	人格心理学
担当者名	鈴木 常元

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>授業概要 人格心理学の理論とその背景について総合的に学ぶ。前期は、人格心理学の歴史的背景について解説した後、人格心理学のさまざまな理論を紹介していく。すなわち、精神分析的アプローチ、行動主義的アプローチ、現象学的アプローチである。後期には、人格形成に重点をおいた発達心理学的な立場を紹介し、最後に、人格の問題を異常心理学の観点から考える。</p> <p>到達目標 人格理論の基本的な考え方、さまざまな理論についての理解を深めること。その際に、それぞれの考え方・理論を孤立したものではなく、相互に関連し合ったものとして理解すること。その上で、その背景となる思想を理解し、現代の人格理論について批判的に考察する能力を身につけること。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス 第2回 人格の定義 第3回 人格研究の研究史 第4回 人格研究の方法 第5回 精神分析的アプローチ 第6回 行動主義的アプローチ 第7回 現象学的アプローチ 第8回 比較文化的アプローチ 第9回 日本人の心理 第10回 類型論と特性論—類型論 第11回 類型論と特性論—特性論 第12回 実験人格心理学 第13回 人格心理学と臨床現場 第14回 理解度の確認 第15回 前期のまとめ 第16回 発達と人格—総論 第17回 発達と人格—乳幼児期 第18回 発達と人格—青年期 第19回 発達と人格—成人期・老人期 第20回 発達と人格—家族 第21回 人格の正常・異常—総論 第22回 人格の正常・異常—統合失調症 第23回 人格の正常・異常—躁うつ病 第24回 人格の正常・異常—神経症 第25回 人格の正常・異常—人格障害 第26回 人格の正常・異常—多重人格 第27回 人格とストレス 第28回 人格のアセスメント 第29回 理解度の確認 第30回 全体のまとめ</p>
----------	--

準備学習	心理学は、さまざまな学問領域と隣接し、それらを基礎とする学問である。生物学、思想・哲学、日本語、外国語、文化等さまざまな知識をある程度持っていることが望ましい。
------	--

履修上の留意点	
成績評価の方法	テスト7割 レポート・感想・実験参加3割

教科書／テキスト

参考書	<p>人格心理学—パーソナリティと心の構造 鈴木乙史・佐々木正宏 河出書房新社 入門人格心理学 加藤義明・中里至正 (編) 八千代出版 性格心理学への招待 詫摩武俊ら サイエンス社</p>
-----	--

履修コード	070901
科目名	心理学概論
担当者名	間島 英俊

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	心理学は人間の心の理解を科学的に究明する学問のひとつである。研究方法はさまざまであるが、その目的は同じである。この講義では、諸君らがその目的を考えるために、心理学の各領域の基本的事実を、わたしたちの日常生活の中から説明していきます。 この科目は1年生の必須科目であるので、1、2年次履修可能な専門の選択科目並びに2年次必須の心理学研究法への基礎知識の習得を到達目標とする。
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 心理学概論を学ぶこと全般について</li> <li>2 ひととなりを考える：パーソナリティ心理学 <ol style="list-style-type: none"> <li>2-1 パーソナリティの定義、アクティビティ1, 2</li> <li>2-2 パーソナリティ・テストの実施・解釈：アクティビティ3, 4</li> <li>2-3 パーソナリティ理論 アクティビティ5, 6, 7, 8</li> <li>2-4 人物評価：プロファイリング 自己評価・理解 アクティビティ9</li> </ol> </li> <li>3 自己へのタイムトラベリング：発達心理学 <ol style="list-style-type: none"> <li>3-1 発達の定義 アクティビティ1, 2, 3</li> <li>3-2 発達段階 アクティビティ4、ピアジェの認知発達段階、エリクソンのライフサイクル</li> <li>3-3 遺伝か環境か：成長、成熟、学習(経験)</li> <li>3-4 知能 知能の定義 知能の測定・解釈 アクティビティ5</li> </ol> </li> <li>4 “こころ”のゆきづまり：臨床心理学 <ol style="list-style-type: none"> <li>4-1 正常と異常について アクティビティ1 シャイな私って？</li> <li>4-2 青年期の適応 成熟した人格とは</li> <li>4-3 対人恐怖意識 対人不安 孤独感</li> <li>4-4 青年期の精神障害と自己体験</li> </ol> </li> <li>5 ものをものとする：知覚心理学 <ol style="list-style-type: none"> <li>5-1 みること・きくこと アクティビティ1, 2, 3, 4</li> <li>5-2 みるためのメカニズム ものがみえるための神経システム</li> <li>5-3 きくためのメカニズム ものがきこえるための神経システム</li> <li>5-4 みるための処理モデル(1)－「データ駆動モデル」、 「概念駆動型モデル」 アクティビティ6</li> </ol> </li> <li>6 学ぶこと・考えること・覚えること：学習心理学。認知心理学 <ol style="list-style-type: none"> <li>6-1 学ぶことは ひとの行動・種類</li> <li>6-2 学習に関する諸学説：連合理論(刺激－反応理論；Stimulus－Response理論)</li> <li>6-3 学習に関する諸学説：認知理論(記号－意味理論；Sign－Significate理論)</li> <li>6-4 社会的学習(social learning)</li> <li>6-5 覚えることとは 記憶の3段階説 アクティビティ1, 2, 3</li> <li>6-6 忘れることとは</li> <li>6-7 記憶を測るもの アクティビティ4</li> <li>6-8 考えることとは 言語発達</li> <li>6-9 推理と問題解決 創造性 アクティビティ5</li> </ol> </li> </ol>
----------	---

準備学習	教科書は下記に指定したものを使用しますが、学問的つながりからすべて教科書通りには講義をしません。基本は講義前に配布する講義内容を骨子としますので、事前にその日の講義予定項目については教科書にて十分な予習をしてください。また教える的確さならびに理解度を確認するため、抜き打ち的に単元途中または終了後に小テストを実施しますので復習もまたしてください。
------	---

履修上の留意点	毎年、朝1講時から講義開始をしています。講義はもとよりシラバスにも記載しているように、講義内にてアクティビティや実験・調査が実施されている場合があるので、不参加にならぬよう遅刻はないように願います。 この講義は卒論、修論のデータ収集に講義の震度や時間数を調整しながら率先して協力をしていきますので理解願いたい。 調査・実験協力者となることにより、次に諸君らの卒論における実施者としての姿勢に備えるためです。それと同時に「実験参加カード」を配布し、その参加ポイント数により成績評価に反映されます。
---------	---

成績評価の方法	3分の2以上の出席は必須です。基本的には最終講義時間にて実施される授業時間内試験(定期試験と同価値)にて8割、残り2割は実験・調査参加(1割)並びに課題(1割)により評価される。
---------	---

教科書/テキスト	根本和雄・小島康次編著「理解とふれあいの心理学」ミネルヴァ書房 ¥2500
----------	---------------------------------------

参考書	参考書は特に指定しないが、講義に参考になる書物については、都度紹介します。
-----	---------------------------------------

その他	講義内容、資料はその都度配布しますが、配布当日欠席した者への後日配布はしないので、休んだ分は友人に依頼してもらるかコピーにて補充のこと。
-----	--

履修コード	071401
科目名	心理学基礎実験
担当者名	谷口 泰富 深堀 友覚 桑原 正修 小野 洋平 堀 直人
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	現代心理学は実験という方法を取り入れることにより、飛躍的に発展してきた。言葉をかえて言えば、現代心理学の主要な部分は実験によって得られた知識によって成り立っているといっても過言ではない。従って、心理学を学ぶものは、どのような領域に関心があるものでも、必ず実験について十分習熟していることが求められる。 本実習は、5つの代表的実験を選び、実験デザイン、実施方法、結果の処理方法を実習を通して身につけることを目的とする。さらに、実験レポートの作成方法について詳しく指導する。
授業スケジュール	「心理学基礎実験テキスト」に従って実習を行う。なお、各課題に共通して、分析には統計解析ソフトを用いる。また、詳細についてはオリエンテーションの時間に説明するので、必ず出席すること。
準備学習	1年次で履修した心理統計学の復習をしておくこと。また、オリエンテーション時に配布するテキストを熟読しておくこと。
履修上の留意点	実習はグループ単位で実施するので、遅刻・欠席をしないこと。
成績評価の方法	成績は出席状況（遅刻は2回で1回分の欠席扱い）、全課題の実験レポート、実験参加回数から総合的に評価する。なお、詳細はオリエンテーションの時間に説明する。
教科書／テキスト	心理学研究室編の『心理学基礎実験テキスト』を配布する。
参考書	日本心理学会編『執筆・投稿の手びき2005』を配布する。

履修コード	071501
科目名	心理学基礎実験
担当者名	谷口 泰富 深堀 友覚 桑原 正修 小野 洋平 堀 直人
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	現代心理学は実験という方法を取り入れることにより、飛躍的に発展してきた。言葉をかえて言えば、現代心理学の主要な部分は実験によって得られた知識によって成り立っているといっても過言ではない。従って、心理学を学ぶものは、どのような領域に関心があるものでも、必ず実験について十分習熟していることが求められる。 本実習は、5つの代表的実験を選び、実験デザイン、実施方法、結果の処理方法を実習を通して身につけることを目的とする。さらに、実験レポートの作成方法について詳しく指導する。
授業スケジュール	「心理学基礎実験テキスト」に従って実習を行う。なお、各課題に共通して、分析には統計解析ソフトを用いる。また、詳細についてはオリエンテーションの時間に説明するので、必ず出席すること。
準備学習	1年次で履修した心理統計学の復習をしておくこと。また、オリエンテーション時に配布するテキストを熟読しておくこと。
履修上の留意点	実習はグループ単位で実施するので、遅刻・欠席をしないこと。
成績評価の方法	成績は出席状況（遅刻は2回で1回分の欠席扱い）、全課題の実験レポート、実験参加回数から総合的に評価する。なお、詳細はオリエンテーションの時間に説明する。
教科書／テキスト	心理学研究室編の『心理学基礎実験テキスト』を配布する。
参考書	日本心理学会編『執筆・投稿の手びき2005』を配布する。

履修コード	071601
科目名	心理学基礎実験
担当者名	谷口 泰富 深堀 友覚 桑原 正修 小野 洋平 堀 直人
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	現代心理学は実験という方法を取り入れることにより、飛躍的に発展してきた。言葉をかえて言えば、現代心理学の主要な部分は実験によって得られた知識によって成り立っているといっても過言ではない。従って、心理学を学ぶものは、どのような領域に関心があるものでも、必ず実験について十分習熟していることが求められる。 本実習は、5つの代表的実験を選び、実験デザイン、実施方法、結果の処理方法を実習を通して身につけることを目的とする。さらに、実験レポートの作成方法について詳しく指導する。
授業スケジュール	「心理学基礎実験テキスト」に従って実習を行う。なお、各課題に共通して、分析には統計解析ソフトを用いる。また、詳細についてはオリエンテーションの時間に説明するので、必ず出席すること。
準備学習	1年次で履修した心理統計学の復習をしておくこと。また、オリエンテーション時に配布するテキストを熟読しておくこと。
履修上の留意点	実習はグループ単位で実施するので、遅刻・欠席をしないこと。
成績評価の方法	成績は出席状況（遅刻は2回で1回分の欠席扱い）、全課題の実験レポート、実験参加回数から総合的に評価する。なお、詳細はオリエンテーションの時間に説明する。
教科書／テキスト	心理学研究室編の『心理学基礎実験テキスト』を配布する。
参考書	日本心理学会編『執筆・投稿の手びき2005』を配布する。

履修コード	071701
科目名	心理学研究法
担当者名	堀 耕治

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 現代心理学は科学の一分野である。したがって心理学における研究法の論理も科学一般の考え方で理解できる部分が多い。しかし「こころ」と行動を研究対象とすることから、他の科学分野における研究とは異なる性格もあわせ持っている。この授業はこうした心理学の普遍性と特殊性の両方のできるだけ目配りしながら、主要な心理学研究法の考え方と実際を解説する。</p> <p>(到達目標) 心理学の研究法を理解し、卒業論文その他において、自分自身で研究をおこなう際に実際に役立つ方法論の基礎を身につけることがこの授業の目標である。したがって研究の着想から研究の実施を経て論文文化に至る一連の作業について、一通り基本的な知識を習得することを目指す。ただし個々の技法に関する個別の知識よりは、各技法の意味や必然性についての原理的理解に重きを置く。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 序論</li> <li>2 科学史としての心理学史1</li> <li>3 科学史としての心理学史2</li> <li>4 科学方法論1</li> <li>5 科学方法論2</li> <li>6 心理学的問題の発見法</li> <li>7 先行研究の探索 (データベース利用)</li> <li>8 先行研究の理解 (論文読解の基本)</li> <li>9 研究の準備</li> <li>10 心理学におけるデータ</li> <li>11 観察法1 (観察法序論)</li> <li>12 観察法2 (観察法の分類)</li> <li>13 観察法3 (観察法の実際)</li> <li>14 観察法4 (記録法と信頼性係数)</li> <li>15 実験法1 (実験法序論)</li> <li>16 実験法2 (独立変数・従属変数・剰余変数)</li> <li>17 実験法3 (剰余変数の統制1)</li> <li>18 実験法4 (剰余変数の統制2)</li> <li>19 実験法5 (内的妥当性と実験デザイン)</li> <li>20 実験法6 (グループデザイン1)</li> <li>21 実験法7 (グループデザイン2)</li> <li>22 実験法8 (単一被験体法1)</li> <li>23 実験法9 (単一被験体法2)</li> <li>24 実験法10 (外的妥当性と追試)</li> <li>25 質問紙調査</li> <li>26 検査法と面接法</li> <li>27 データの分析とまとめ方</li> <li>28 作文の技術</li> <li>29 研究の公表・研究倫理</li> <li>30 心理学研究の実際</li> </ol>
----------	---

準備学習	特になし
履修上の留意点	
成績評価の方法	期末試験 [50%] と授業時に随時おこなうクイズ (小テスト) [50%] により評価する。
教科書/テキスト	使用しない。毎回、資料を配付する。
参考書	随時紹介する。



履修コード	072601
科目名	心理学実験演習I
担当者名	小室 央允

授業概要/ 到達目標(ねらい)	(授業概要) 行動の科学としての心理学の研究法を実験および調査を通して実践的に学び、さらに研究の成果を報告するための方法を学ぶ。 (到達目標) 4年次の卒業論文に取り組めるよう、心理学的研究の実験および調査において必要とされる基礎的な技術を習得する。
--------------------	--

授業スケジュール	実験2回と調査2回を実施し、各課題終了後にレポートを提出する。
----------	---------------------------------

前期：実験Ⅰ EEGバイオフィードバック(t検定等)  
実験Ⅱ 呼吸活動(分散分析等)

後期：調査Ⅰ 質問紙の作成(因子分析等)  
調査Ⅱ 作成した質問紙と別の構成概念との関連性(相関分析等)

準備学習	1年次必修科目の「心理統計学」と2年次必修科目の「心理学基礎実験」が履修済みであることを前提として授業を進めるので、復習しておくこと。ただし、この点に関して編入生は考慮しません。
------	---

履修上の留意点	調べる・考えるといった自助努力が必要となります。 演習なので積極的な姿勢で臨んでください。
---------	--

成績評価の方法	レポート(計4回)および実験参加者カード50%、平常点50%
---------	--------------------------------

教科書/テキスト	資料を配布する。
----------	----------

参考書	
-----	--

履修コード	072701
科目名	心理学実験演習II
担当者名	久保 尚也

授業概要/ 到達目標(ねらい)	【授業概要】 本講義では、実験・調査の実習をそれぞれ2回ずつ行い、通年で計4種の課題に取り組んでもらう。これらの課題を通じて、心理学研究において必要とされる実験・調査の手法および、取得データの分析方法を学ぶ。実験・調査は、学習心理学に関連するトピックを中心に扱い、各課題終了時にレポート提出を課す。
--------------------	--

【到達目標】  
実験計画の立案、結果の分析、実験結果の報告といった研究に必要なスキルをさらに高めることを到達目標とする。

授業スケジュール	【前期】 ・オリエンテーション(1回目) ・実験1：評価条件づけ(2~8回) ・調査1：学習性無力感(9~15回)
----------	--

【後期】  
・実験2：概念弁別(16~22回)  
・調査2：価値割引(23~30回)

準備学習	・心理学基礎実験で学んだレポートの作成方法や書式について復習をしておくこと
------	---------------------------------------

履修上の留意点	・USBフラッシュメモリーを持参すること ・実習科目なので、できる限り欠席はしないようにすること(出席2/3は必須)
---------	---

成績評価の方法	レポート(年4回)60%、平常点40%とする
---------	------------------------

教科書/テキスト	適宜、資料を配布する
----------	------------

参考書	随時紹介する
-----	--------

履修コード	072801
科目名	心理学実験演習III
担当者名	中澤 世都子 深堀 友覚
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義では、2年次に履修した「心理学基礎実験」の内容をさらに拡充し、卒業論文作成に必要なとされる基本的な手続きの習得を目的に、実験及び調査法を用いて論文作成へのプロセスを学ぶ。
授業スケジュール	前期に実験2回、後期に調査2回の計4課題の実習を実施し、各課題の終了時にレポートを課す。前期では心理的時間に関する実験計画の作成、SPSS(PASW)を用いた統計学的処理の方法とその解釈、論文(レポート)の書き方について、計14回の講義を行う。後期では、性格や対人関係をテーマにした調査を実施し、質問紙法を用いて論文執筆する際の留意点を踏まえた全行程を体験する。
準備学習	履修する上で、エクセルを用いてデータ入力ができることを受講の最低要件とする。
履修上の留意点	実験及び調査はグループワークで行うので欠席はできる限りしないように留意すること。欠席することによってグループワークに支障をきたすということを肝に銘じておくように。
成績評価の方法	3分の2以上の出席、授業態度及び傾聴姿勢、各実験・調査終了後のレポート(計4回)により総合的に評価する。なお実験参加者カードに記載される実験協力回数も加点項目として考慮する。
教科書/テキスト	特に指定しない。
参考書	山田剛史・村井潤一郎 「よくわかる心理統計」 ミネルヴァ書房 2,800円+税 ISBN4-623-03999-4

履修コード	072901
科目名	心理学実験演習IV
担当者名	堀 直人
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	知覚実験、調査に必要な技術(刺激の作成、統計パッケージソフトの使用方法など)の習得を目的とする。
授業スケジュール	実験と調査を各2回実施する。それぞれの実験(調査)において、手続きや統計処理の結果等について中間発表を行い、終了時にレポートを課す。  実験1: 運動刺激に対するフラッシュラグ効果(t検定、分散分析) 調査1: 心像鮮明性と認知課題成績の関連(t検定) 実験2: 視覚探索(分散分析) 調査2: SD法による感覚刺激の印象評価(因子分析)
準備学習	年間4回のレポート作成が必須となるため、レポートの書き方に関して、2年次必修科目「心理学基礎実験」の内容を復習しておくこと。
履修上の留意点	コンピュータを利用する作業が多いので、バックアップ用メディア(USBフラッシュメモリなど)を毎回持参すること。実験の刺激作成にはSuperLab等、統計処理にはSPSSを使用する予定だが、予備知識は不要である。
成績評価の方法	レポート(4回)、平常点および心理学実験演習以外の実験への参加回数を評価の対象とする。
教科書/テキスト	なし(資料は授業時間内に配布する)
参考書	授業時間内に紹介する。

履修コード	073001
科目名	心理学実験演習V
担当者名	堀内 正彦

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	心理学における研究、ならびにその方法論について、実習を通して経験的に理解し、研究を行う上で必要なスキルを習得する。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>前期に実験2回、後期に調査2回の計4課題の演習を行い、各課題終了時にレポートを課す。また、心理学基礎実験と同様にグループに分かれて授業を進める。各課題は次のように進行する予定である。</p> <p>a) 課題の説明 b) 実験・調査手続きの決定と準備 c) 分析方法の説明 d) データの整理と分析 e) レポートの作成・発表</p>
----------	--

年間スケジュールは次の通りである。

- (第1回)オリエンテーション、班分け
- (第2～8回)実験1：帰納的推論についての実験。分析には、分散分析を用いる予定。
- (第9～15回)実験2：意思決定についての実験。分析には、 $\chi^2$ 乗検定を用いる予定。
- (第16～23回)調査1：SD法によるリスク・イメージの調査。分析には、因子分析を用いる予定。
- (第24～30回)調査2：対人感情と対人動機の関連についての調査。分析には、重回帰分析を用いる予定。

なお、実験は、思考分野の課題であり、理論的な解があります。そのため、受講生同士で実験を行うことが不適當になります。また、調査では、受講生だけでは、標本の大きさが不十分であると予想されます。そのため、実験、調査ともに、実験参加者・調査回答者を自分で探して授業時間外に実施してもらいます。

準備学習	情報処理IIを履修済みである、もしくは、同時に履修していることが望ましい。
履修上の留意点	
成績評価の方法	出席状況(2/3以上が必須)、各課題終了時のレポート(計4回)、授業態度により総合的に評価する。
教科書/テキスト	適宜、資料を配布する。
参考書	適宜、紹介する。

履修コード	073101
科目名	心理学実験演習VI
担当者名	軽部 幸浩

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義は、生理心理学的測定の技法、機器の操作方法および資料の分析方法等についての学習を目的とする。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>機器等はかなり整備されているが、受講生の数によっては、内容を一部変更することがあり得る。したがって、受講者が決定した後に、年間実習計画予定表を決定する。生理測定(2回)、調査実習(2回)を予定している。</p> <p>【前期】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内容の説明とYeStudyの登録 (1)</li> <li>1) 開閉眼条件における脳波を測定 (2~12) <ul style="list-style-type: none"> <li>・測定機器：脳波計</li> <li>・指標：脳波</li> <li>・内容：開閉眼状態での脳波測定</li> <li>・分析：二元配置分散分析</li> </ul> </li> <li>2) 脳波と性格特性 (13~15) <ul style="list-style-type: none"> <li>・内容：MPI得点と脳波出現率の関係</li> <li>・分析：相関分析, MPIの多変量解析</li> </ul> </li> </ul> <p>【後期】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>3) 慣れと脱慣れ (1~11) <ul style="list-style-type: none"> <li>・測定機器：ポリグラフ</li> <li>・指標：皮膚電気活動, 呼吸, 心電図</li> <li>・内容：異なる刺激による慣れと脱慣れを測定</li> <li>・分析：t検定</li> </ul> </li> <li>4) 慣れと不安 (12~15) <ul style="list-style-type: none"> <li>・内容：STAIと自律神経系活動の関係</li> <li>・分析：相関分析, 重回帰分析</li> </ul> </li> </ul>
----------	--

準備学習	なお、内容は主として生理心理学的測定であるので、2年次までに生理心理学を受講した学生の履修が望ましい(編入学生、3年次への転部・転科生は除く)。
------	--

履修上の留意点	<p>精密機器を扱うことが多く、危険防止のためにも細心の注意を持って実習に臨むこと。また、生理学的測定のためだけに特別に用意されている実験室へ入室するので、機器の破損、危険回避の観点から、服装についてもきちんとした装いで受講することが望ましい。</p> <p>受講生をいくつかのグループに分け、各グループが異なる実験をおこなう。したがって、グループ編成のためにも初回の説明会には必ず出席すること。遅刻や欠席については厳しく指導する。</p>
---------	--

成績評価の方法	提出されたレポート、出席回数、授業および実験への参加状態、実習態度、服装などから総合的に評価する。
---------	---

教科書/テキスト	随時、最新のものを紹介する。
----------	----------------

参考書	随時、最新のものを紹介する。
-----	----------------

その他	<p>実験データの分析・統計処理は、「MS-Excel」と「Excel統計」または、「SAS」、「SPSS」等の統計パッケージを使用しておこなう。そのため、数回程度は、実験室を離れコンピュータ教場で授業をおこなうことがある。</p> <p>また、卒業論文等で生理心理学的指標を用いての実験を考えている学生は、測定機器の操作方法を習得するための授業なので必ず履修すること。</p> <p>【授業Web】 {<a href="http://wwint2.int.komazawa-u.ac.jp/~karube/">http://wwint2.int.komazawa-u.ac.jp/~karube/</a>, <a href="http://wwint2.int.komazawa-u.ac.jp/~karube/">http://wwint2.int.komazawa-u.ac.jp/~karube/</a>}</p> <p>【e-Learning】 {<a href="https://yestudy.komazawa-u.ac.jp/">https://yestudy.komazawa-u.ac.jp/</a>, <a href="https://yestudy.komazawa-u.ac.jp/">https://yestudy.komazawa-u.ac.jp/</a>}</p>
-----	--

履修コード	075811
科目名	心理学特殊演習
担当者名	有光 興記

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	臨床心理学 (認知行動療法、応用行動分析)、社会心理学に関する重要文献を読み、実験、調査を行うことで、卒業論文への準備を進める。その過程で、論文の書式、統計手法、最新の知見、発表の仕方について学ぶ。最終目標は、卒業論文のテーマ設定を行い、研究計画を立てることである。テーマが共通している人で、グループを組むこともあり得る。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>以下のような授業内容を予定している。</p> <p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回～第4回 研究室テーマの紹介 (「あたり」など社会的感情、認知行動療法)</p> <p>第5回～第8回 重要文献の論文発表 1人1回ずつ 45分制限</p> <p>第9回～第14回 質問紙調査実習 (2グループによる作業となる。テーマ設定と質問項目の作成、調査実施 (社会心理学の授業と関連)、データ入力、データ分析、レポート作成を行う)</p> <p>第15回～第20回 感情心理学、認知行動療法の実験実習 (2グループによる作業となる。実験材料の収集、教示、刺激、質問紙の作成、実験の実施 (臨床現場での行動観察を含む)、データ入力、データ分析、レポート作成を行う)</p> <p>第21回～第22回 卒論関連の文献検索</p> <p>第23回～第26回 卒論関連の文献発表 1人1回ずつ 45分制限</p> <p>第27回～第28回 研究計画の発表 1人1回ずつ</p>
----------	---

準備学習	2年次までに学んだ心理学の基礎知識、情報処理、心理統計の技法は必須である。常に予習、復習を怠らないこと。
履修上の留意点	演習時間外に、論文の読み方、テーマ設定などについて面接時間をとることがある。合宿や発表会での研究発表が義務付けられる。
成績評価の方法	課題の達成度、レポートの内容、発表内容から総合的に評価する。
教科書/テキスト	
参考書	適宜、紹介する。

履修コード	075101
科目名	心理学特殊演習
担当者名	茨木 博子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本演習では、卒業論文作成の準備段階として、受講生の興味、関心のあるテーマについて文献を読み、発表、討議する中で実現可能な研究テーマを明確にし、研究計画を立てることを目的としている。またグループワーク (集団精神療法) を適宜導入し、臨床心理学の重要課題の一つである「より良い人間関係」について実践的に考える。
---------------------	--

授業スケジュール	(1) 自己紹介とオリエンテーション (2～14) 事前に文献を読み、調べた興味、関心のある研究テーマについて発表し、討論する。その過程で、研究可能なテーマかどうか検討し、指導、助言する。グループワーク (15) 4年次生の卒業論文中間発表会出席 (16～30) 研究可能なテーマを明確化し、そのテーマに即した研究計画および方法を具体化するために、演習形式を主とした指導を行う。またその過程において、論文の書き方、研究の進め方について指導、助言する。グループワーク
----------	--

準備学習	これまで履修した専門科目の授業等から、どのようなテーマで研究したいかを考え、テーマに関する文献に目を通しておくこと。それに基づき、授業で発表し検討する資料を作成しておくこと。
履修上の留意点	卒業論文は、受講生にとって初めての研究であり、「私は、このテーマで研究したい」と思うことが大切である。しかし、研究したいテーマが実際に研究できるとは限らないので、最初から無理と思われるテーマは避けること。
成績評価の方法	出席、授業態度、発表内容などによって総合的に評価する。
教科書/テキスト	
参考書	随時紹介する。

履修コード	075821
科目名	心理学特殊演習
担当者名	鈴木 常元

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>授業概要 本特殊演習の課題は以下の3つである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. リラクゼーションの方法(催眠・自律訓練法・音楽等)について学ぶ。</li> <li>2. イメージの表現(描画や粘土細工)を通して、それをどのように捉え(心理アセスメント)、心理面接にどのように生かしていくか(心理療法)を学びながら、臨床心理学の基本的な考え方を身につける。</li> <li>3. 卒業研究の準備を行いながら、研究の進め方やプレゼンテーションの方法について学ぶ。</li> </ol> <p>到達目標 卒業研究を進める上での、問題意識を養い、また卒業論文作成のための基本的な技術を身につける。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス 第2～3回 臨床心理学研究法 第4～6回 リラクゼーションの方法(催眠・自律訓練法・音楽)を学ぶ 第7～11回 催眠・自律訓練法・イメージに関する文献購読と基礎的な実習 第12～14回 卒業論文構想発表 第15回 前期のまとめ</p> <p>第16～17回 臨床心理学研究法 第18～24回 描画・粘土等を用いたイメージ療法の体験学習 第25回 イメージ療法体験のまとめ 第26～29回 卒業論文構想発表 第30回 全体のまとめ</p>
----------	---

準備学習	心理学の基礎的な知識を身につけておくこと。特に、心理学に関する2年次までの必修科目についての知識・技能を確かなものとしておくこと。
------	---

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	授業内での発表の内容、他の受講生の発表に対する発言などを総合的に評価する。
---------	---------------------------------------

教科書/テキスト	
----------	--

参考書	催眠面接の臨床 栗山一八 九州大学出版会 自律訓練法の実践 佐々木雄二 創元社
-----	--

履修コード	075601
科目名	心理学特殊演習
担当者名	谷口 泰富

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	4年次の卒業論文が必修となっていますが、実証的研究の時間としては1年間では必ずしも十分ではありません。そこで本講では、将来の卒業論文作成に関する問題(テーマの決定、文献検索、研究の心理学的位置づけ、研究方法、資料分析方法、研究のまとめ方)について学習することを目的とします。
---------------------	---

授業スケジュール	『卒業論文作成カルテ』に従い、計画的な指導を行います。(1)オリエンテーション、(2～4)テーマの決め方と卒業論文の書き方について、(5～7)個人別テーマ及び研究法の相談、(8～9)文献検索指導、(10～15)研究計画と文献研究の発表、(16～17)研究計画再点検、(18～21)予備研究、(22～23)予備研究資料の分析と研究計画の調整、(24～30)本研究指導
----------	--

準備学習	既に配布してある『卒業論文作成カルテ』の、「テーマの決定について」を読んでおいてください。
------	---

履修上の留意点	これまでに学んできた心理学の授業のみならず、その他の参考書などにに基づき、自分の興味のある分野について大まかにでも考えておくことが望ましいです。授業は講義形式のみならず演習形式になりますので、遅刻や欠席は厳禁です。課題やレポートの提出が多くなります。そのためには、十分な準備の時間が必要となります。
---------	---

成績評価の方法	研究報告書やレポートにより評価しますが、出席状況も考慮します。
---------	---------------------------------

教科書/テキスト	『卒業論文作成カルテ』を配布します。
----------	--------------------

参考書	随時紹介します。
-----	----------

履修コード	075401
科目名	心理学特殊演習
担当者名	永田 陽子
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本演習は4年次に提出する卒業論文を、2年間かけて作成することを希望する、3年次の学生を対象としてもうけられた演習であると位置づけています。従って、各受講者が卒業論文の主題を明確にするともに、その基礎的技法や方法を獲得することが本演習の目的となります。
授業スケジュール	前期は、卒業論文に必須となる心理統計およびSPSSによるデータ解析の実質的指導を行います。後期は、受講者各自の論文テーマを明確にするために、受講者の興味のある文献検討を行います。受講者は各自のテーマについて個別に指導をうけると同時に、演習時にその研究経過を発表し、他の受講者からの意見・討論などを通じて、4年次の卒業論文に備えます。
準備学習	特にありません。
履修上の留意点	各受講者の卒業論文の研究に基づく面接を随時行います。
成績評価の方法	課題の取り組み方や授業への姿勢などから総合的に評価します。
教科書/テキスト	
参考書	必要な参考図書および文献を演習時に随時提示します。

履修コード	075701
科目名	心理学特殊演習
担当者名	間島 英俊
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本演習は、4年次の卒業論文作成を2年間かけてじっくり構想を練り、より質的に高い研究を目指す演習ゼミです。そのために、4年次の演習の「講義のねらい」に準拠します。前半は上述の共通テーマ・共同研究により、仮説の立て方、目的、研究方法、統計処理による分析、レポート作成そして発表をする。後半は各自の興味に基づいた研究テーマにて、資料収集、仮説の立案、研究方法、予備実験・調査の実施、結果・考察をゼミ合宿にて発表し、4年次の卒論作成に結び付ける。
授業スケジュール	前期スケジュール (4月~7月) 「余暇活動の変化と世代性について」という共通テーマにて 1. シニア世代の余暇活動について 2. 時代的变化とその実態把握 3. その活動特徴について (分類化、QOL、GHQ) 4. 都市と地方について 5. 余暇活動の今後のあり方 を中心に模擬研究計画の立案、実施、データ収集、処理、分析そして考察を行う。 後期スケジュール (8月~2月) 4年次の「演習」の講義のねらい、講義内容・授業スケジュールをそのまま当てはめることができます。ただし、時間的には余裕がありますので、この演習では、研究テーマの設定、研究計画および予備実験・調査実施を2月のゼミ合宿までに辿り着きたいと思えます。
準備学習	1,2年次にて履修した基本的心理統計法を理解するよう再復習してください。 また、心理学研究法などで学んだ文献収集法、問題史のまとめ並びに仮説の立案を理解しておいてください。 また後半の卒論に結びつける個人研究の素地となる基本文献での統計法については熟知しといてください。 ゼミでの発表時は紙媒体並びに電子媒体両方の準備をし、発表時にはスライド、紙媒体の準備を済ませておくこと。
履修上の留意点	基本的には上述のように4年次の演習に結びつくことがねらいですが、ゼミ選考届けの前に、一応どんなことに興味をもって卒論として取りくみたいかを話し合いたいと思えます。その上で、本演習を希望するのであれば履修していただきたいと思えます。
成績評価の方法	出席、レポート、発表、討論等演習における真摯な研究態度に対して評価がなされます。
教科書/テキスト	特に指定はしません。
参考書	参考書、文献等については随時紹介します。
その他	特にありません。

履修コード	075831
科目名	心理学特殊演習
担当者名	八巻 秀

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>本演習は、卒論作成の2年間のコースを希望する学生のための3年次の演習(ゼミ)です。この演習において、前半は各自が興味のあるテーマについて報告・討議しながら、卒論テーマの方向性を決定します。後半は、そのテーマについて文献研究ならびに学習を行っていきます。さらに可能であれば、具体的なデータ収集(予備実験や予備調査)を行っていくことも目標とします。</p> <p>授業形態としては、基本的にメンバー全員参加による討議形式やグループでの作業で行っていきます。必要に応じて、個別の直接的な研究指導も行っていきます。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	(1) オリエンテーション、(2~6) ゼミの基本方針・計画の決定、(7~15) 興味あるテーマについての発表・討論、(16~17) 個別研究指導、(18~27) 卒論テーマに関する文献研究発表、(28~30) 中間報告会
----------	---

準備学習	特に必要ありません。
------	------------

履修上の留意点	
成績評価の方法	出席・課題への取り組みなどにより総合的に評価します。

教科書/テキスト	必要に応じて授業中に紹介します。
----------	------------------

参考書	必要に応じて授業中に紹介します。
-----	------------------

履修コード	074201
科目名	心理学特講I
担当者名	永房 典之

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	「犯罪心理学」を学ぶ。
---------------------	-------------

【授業概要】  
この授業では、犯罪と非行に関わる心理学的知見について学びます。犯罪について体系的に学ぶには、国際的には「犯罪学」としての枠組みを知る必要があるのですが、わが国では、法学・医学・社会学・心理学といった各分野での多様な研究アプローチがみられます。

本講義では、総論として主要な犯罪や非行理論を学び、各論として罪種別の各種犯罪について学びます。そのほか、犯罪捜査、防犯の心理、犯罪とメディア、少年非行と発達、犯罪と性格など犯罪に関わるさまざまな「心理学的研究」について紹介します。

【到達目標】  
犯罪の概念理解ができ、犯罪への研究アプローチにはさまざまな分野があることがわかり、犯罪心理学の理論と応用への深い理解と洞察力が獲得できることを目標とします。

授業スケジュール	<p>前期(1-15)では、犯罪とは何か、犯罪における多様な研究アプローチ(心理学、生物学、医学、法学、人類学、社会学)の概要、犯罪理論(個体要因、社会・文化的要因など)、犯罪者の分類(財産犯、粗暴犯、性犯、凶悪犯など)、攻撃性の心理、犯罪にかかわる心理特性について講義します。</p> <p>後期(16-30)は、犯罪・非行者に対する心理査定(アセスメント)、犯罪捜査(犯罪者・地理的プロファイリング)、防犯心理(防犯環境や活動、テロ対策)、犯罪とメディア(犯罪被害への態度、犯罪不安・リスク認知)、少年非行と発達(遺伝・環境、児童虐待、発達障害)、犯罪と性格(パーソナリティ)、犯罪の性差など、可能な範囲で古典から最新の犯罪にかかわる心理学的研究について幅広く取り上げる予定です。</p>
----------	--

準備学習	日本の戦後から現代までの犯罪発生件数と時代別特徴、犯罪にはどのような種類(罪種)があるのかを各種統計資料で調べておくことが望ましいです。
------	--

履修上の留意点	授業にて指示します。
---------	------------

成績評価の方法	筆記試験、課題提出を総合して成績評価をします。
---------	-------------------------

教科書/テキスト	特にありません。参考書は適時紹介します。
----------	----------------------

参考書	<p>小俣謙二・島田貴仁編著『犯罪と市民の心理』(北大路書房)</p> <p>大淵憲一著『犯罪心理学—犯罪の原因をどこに求めるのか』(培風館)</p> <p>藤岡淳子著『犯罪・非行の心理学』(有斐閣ブックス)</p> <p>水田恵三編著『犯罪・非行の社会心理学』(ブレーン出版)</p> <p>安香宏・麦島文夫著『犯罪心理学—犯罪行動の現代的理解』(有斐閣)</p> <p>各種統計資料</p> <p>「犯罪白書」、「警察白書」、「子ども白書」</p>
-----	--

その他	<p>授業の方法は講義とします。できるだけ犯罪に関わるさまざまな心理学的知見を紹介したいと思っています。メディアで大きく取り上げられる凶悪犯罪ばかりでなく、私たちの生活で身近な犯罪(窃盗である万引きなど)、犯罪にかかわる心理特性(攻撃性など)、犯罪する心理だけでなく犯罪しない心理(規範意識など)についても興味・関心をもって授業に取り組んでください。</p>
-----	---



履修コード	074301
科目名	心理学特講II
担当者名	坂入 洋右 中塚 健太郎 谷木 龍男
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	心身の相互作用のメカニズムを基礎として、スポーツや身体活動を通して自己の心身の状態を良好に調節する「身心のセルフコントロール」の理論と実際を理解し、心身の不調の回復およびストレスマネジメント、そして健康増進、さらにはスポーツや仕事におけるパフォーマンスの向上に役立つ理論と方法の基礎を身につける。
授業スケジュール	スポーツや身体活動と心の健康の関係性を基礎として、身体活動を活用して自己の心身の状態を良好に調整する身心のセルフコントロールと、スポーツや仕事や試験などでミスを防ぎ実力発揮するための心理的スキルトレーニングに関する理論と方法を実践的に解説する。 1～5回：スポーツ健康心理学の概説 6～10回：身心のセルフコントロールの理論と実際 11～15回：スポーツとポジティブな体験、フロー・ゾーン・至高体験 16～20回：心理的スキルトレーニングの理論と技法 21～25回：スポーツにおける身体的ケア、ライフセービング・救急法 26～30回：スポーツにおける心理的ケア、カウンセリング・コーチング
準備学習	自分のスポーツや運動の経験について簡単にまとめてくること。
履修上の留意点	
成績評価の方法	授業における提出課題の評価と出席状況を総合的に評価する。
教科書／テキスト	指定教科書はありません。
参考書	春木豊（編）「身体心理学」川島書店 日本スポーツ心理学会（編）「スポーツメンタルトレーニング教本」大修館書店 日本ライフセービング協会（編）「サーフライフセービング教本」大修館書店
その他	授業日程：7月31日（火）～8月7日（火） （土・日曜日除く）の1～5時限。

履修コード	074401
科目名	心理学特講III
担当者名	萩原 滋
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	心理学関係の英語の文献の読解力を高めるために英文のテキストの購読を行う。まずは英語の文章を読むことに慣れることから出発し、それが習慣化することを目指す。
授業スケジュール	昨年度に引き続き、Elliot Aronson 「The social animal」(10th edition) をテキストに英文購読を行う。今年度は、第4章 Social cognition から開始する予定。基本的には、演習形式で各自に割り当てをして発表をしてもらうことになるが、必要に応じて、講師が各章の内容の解説を行う。
準備学習	各自、事前に指定された文献を読んだうえで授業に出席すること。
履修上の留意点	基本的に演習形式の授業になるので、無断欠席をしないこと。
成績評価の方法	平常点での採点を基本とする予定。
教科書／テキスト	Elliot Aronson (2008) The social animal (10th edition). NY: Worth Publishers.
参考書	
その他	履修者数に応じて授業の進め方を調整する。

履修コード	070951
科目名	心理学入門
担当者名	永田 陽子 小野 浩一 谷口 泰富 茅原 正 間島 英俊 有光 興記 鈴木 常元 八巻 秀 茨木 博子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義は、心理学科の専任教員がリレー方式で、それぞれの専門的立場から「心理学を学ぶことの意味」や「心理学の魅力」について講義します。また、社会で活躍している心理学科卒業生を招き、心理学と職業の関わりについて話してもらいます。この講義の目標は次の3点です。まず、新生に、高校までの「受動的勉強」から「自主的、自発的、積極的な学び」によって心理学という学問に取り組んでもらうこと、キャリア意識を持って心理学を4年間学習してもらうこと、より広い視野で心理学を学ぶ姿勢を培ってもらうことです。
---------------------	--

授業スケジュール	第1回 間島英俊 専任教員 「心理学はヒトの心のメカニズムを長い間解明してきました。本講を始めるにあたり、その歴史を旅します」
	第2回 有光興記 専任教員 「社会心理学入門 社会心理学の基本的な考え方を、コミュニケーションの取り方のワークから学ぶ」
	第3回 茨木博子 専任教員 「人間関係を考えるー自己理解、他者理解のための触れ合いコミュニケーション」
	第4回 八巻 秀 専任教員 「いろいろな心理学がある中で「臨床心理学」はどんな位置にあるのか？その地図のようなものを解説します」
	第5回 谷口泰富 専任教員 「『いいえ、違います。ウソではありません！』嘘の科学的検出についてお話します」
	第6回 茅原 正 専任教員 「『色即是空』の心理学についてお話します」
	第7回 永田陽子 専任教員 「錯覚から上下・左右逆転の世界へ。正直で知的だけどおつちよこちよいな私達の脳の話」
	第8回 鈴木常元 専任教員 「心理療法とは？言語・思想・文化から考える」
	第9回 小野浩一 専任教員 「実験は冒険・探検。いざやってみたら大失敗だった実験の話」
	第10回 石丸 剛 会社員 「採用担当者のホンネ」
	第11回 渡邊浩司 カウンセラー 「大学生のメンタルヘルスー学生相談室の仕事についてー」
	第12回 福島圭子 公務員 「少年非行について」
	第13回 堀越陽子 児童心理司 「児童相談所について」
	第14回 金馬尚満 カウンセラー 「大学生のメンタルヘルスーその背景と今後の対処法について、一緒に考えましょうー」
	第15回 第1回から第14回のみまとめ

準備学習	特にありません。
履修上の留意点	この科目は1年次のみ履修可能であり、1年次全員履修科目となります。
成績評価の方法	出席状況および受講シートの提出により総合的に評価いたします。
教科書／テキスト	特にありません。
参考書	講義担当者によって、授業中に資料の配布および参考書の紹介があります。

履修コード	074501
科目名	心理検査法I
担当者名	丸居 飛鳥 佐藤 尚代

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)</p> <p>本講義では、心理検査法のうち、前期には投影法心理検査を、後期には知能検査と発達検査を学ぶ。</p> <p>前期は、投影法心理検査に関する基礎知識と基本的心構えを学ぶ講義となる。知識と体験とをしっかりと繋げて身につけることを重視する。心理検査につきものの煩雑な施行手続きや難解ともいわれる解釈プロセスには、それぞれに意味があり、それらの意味をきちんと汲みとることで(習得した知識を活かして)、被検者に利益をもたらす検査施行の心構えを体得したい。</p> <p>後期は、知能検査と発達検査に関する基礎知識と検査の実施方法や手順について学ぶ。また、得られた検査結果から、どのようなことが読み取れるのかについても触れる。これらの検査を理解するために、検査の基礎となる知能や発達観について理解を深め、検査の基礎的な流れに触れることを重視する。その上で、検査の有用性と限界、利用の注意点など各検査の特徴と共に被検者の立場についても学ぶ機会とする。</p>
---------------------	--

(到達目標)

- 前期 ①投影法心理検査の基礎知識を習得する  
 ②主だった投影法心理検査の一部を体験する  
 ③投影法心理検査の手法で、なぜ人格アセスメントが可能となるのか理解する  
 ④心理検査施行における心構えを身につける
- 後期 ①知能検査と発達検査の基礎的な流れを理解する  
 ②主だった知能検査と発達検査の一部を体験する  
 ③知能検査や発達検査を実施することで、なぜ心理的アセスメントが可能となるかを理解する  
 ④知能検査や発達検査の有用性と限界、実施の注意点を理解する

授業スケジュール

(前期)

1. 心理アセスメントとは何か
2. 心理アセスメントの基本と投影法心理検査
3. P-Fスタディ その1
4. P-Fスタディ その2
5. P-Fスタディ その3
6. SCT その1
7. SCT その2
8. TAT その1
9. TAT その2
10. 描画テスト (学生によるプレゼンテーション講義)
11. これまでの補足と全体討議
12. ロールシャッハ・テスト その1
13. ロールシャッハ・テスト その2
14. 検査レポートと検査フィードバック
15. 講義全体を振り返って (まとめ)

(後期)

1. 心理アセスメントについて、知能・発達検査の概要
2. 知能検査・知能指数
3. ウェクスラー式知能検査 (WAIS) について
4. WAIS-IIIの検査内容、実施方法
5. WAIS-IIIの体験学習
6. WAIS-IIIの換算方法・解釈
7. WISC-IV・WPPSIについて
8. 田中ビネー式知能検査について
9. 田中ビネー式知能検査Vの体験学習
10. 田中ビネー式知能検査Vの換算方法・解釈
11. 発達のアセスメントと発達検査
12. 乳幼児の発達検査
13. 乳幼児の発達検査の体験学習①
14. その他の発達検査の体験学習②
15. まとめ

準備学習

(前期)

毎回講義の初めに、記述回答QUIZを出題し、回答を出席カードに記入してもらう。QUIZの正誤は成績の評価には含まないが、前回までの講義の理解を測りその日の学習を助ける内容となるので、前回までの内容を復習して講義に参加することが望ましい。また、回によってグループ討議やプレゼンテーション、心理検査デモンストレーション体験などがあるので、個々が真剣に取り組むことでクラス全体の学びにも貢献してほしい。

(後期)

この講義は、検査の体験学習が主となる。そのため、講義では実施手順や方法について説明を行うが、検査を体験する際は事前に検査の実施手順や方法について、学生各自で予習しておくことが望ましい。

履修上の留意点

履修希望者は各期の初日に必ず出席のこと。用具の準備は勿論のこと、受講生同士が検査者＝被検査者の役割を交換して行う事も多く、時間を遵守し休まずに出席することを前提とする。やむなく欠席した場合は、教員に相談の上個人の責任において実習や提出物に関するフォローを各自が行なうこと。また、検査法に対して幅広い基礎知識を身につけたい者は、「心理検査法II」の授業も併せて履修することが望ましい。(両講義を同時に履修しても可。異なる年度にどちらから履修しても可。)

成績評価の方法

(前期)

50点満点で採点。平常点 (3割)、ミニレポート2種 (2割×2種)、試験 (3割) が評価対象。

(後期)  
50点満点で採点。平常点(4割)、ミニレポート(3割)、試験(3割)が評価対象。

教科書/テキスト	必要に応じて指示する。
参考書	必要に応じて指示する。

履修コード	074601
科目名	心理検査法II
担当者名	稲富 正治 中澤 世都子

授業概要/ 到達目標(ねらい)	臨床心理学の中で重要な位置を占める「心理検査」の対象は、人の性格、情緒性、精神発達状態、知能、人間関係、病理性など様々で、各々の検査の理論的背景や実施方法は異なる。本講義では、心理検査法のうち、前期には神経心理学的検査、作業検査、質問紙法検査の一部を、後期には、職業興味検査、質問紙法検査を体験し、各検査の理論的背景の理解と、実施、採点、解釈の仕方を学ぶ。 また、臨床現場での心理検査実施上の心構え、心理検査とは何か、心理検査の妥当性、信頼性、標準化、実用性などについても可能な範囲で取り扱う。
--------------------	--

授業スケジュール	(前期) MMPI、STAI、NEO、VPI、内田クレペリン精神作業検査法、Y-G、 (後期) TEG、CMI、GHQ、MAS、MPI、バンダーゲシュタルトテスト、ベントン視知覚検査 などを学ぶ。 講師の都合により、検査の内容や時期は変更になる場合がありますのでご了承ください。
----------	--

準備学習	心理検査全般が書かれている本に目を通しておくこと。
------	---------------------------

履修上の留意点	(学生が受講する前に踏まえておくべき点) 前期、後期の授業初日に、授業の進め方や注意事項、成績評価についての説明を行う。履修希望者は各期の初日に必ず出席のこと。 授業では、受講生同士が検査者、被検査者の役割を交換して行うので、休まずに出席することを前提とする。やむなく欠席した場合には、個人の責任において、実習や提出物に関するフォローを行うこと。 また、本講義では、各領域にわたる心理検査全般を扱っていない。検査法に対して幅広い基礎知識を身につけたい者は、「心理検査法I」の授業も履修することが望ましい(両講義を同時に履修しても可。異なる年度にどちらから履修しても可)。
---------	--

成績評価の方法	出席、授業態度、発表、定期試験により評価を行う。
---------	--------------------------

教科書/テキスト	講義において指示する。
----------	-------------

参考書	必要に応じて紹介する。
-----	-------------

その他	(授業方法-講義形式、ゼミ形式、プリント配布、レジュメ配布等)：心理検査の理論的背景、実施、採点、解釈を発表形式で学び、場合により、グループ討議を行う予定である。
-----	---

履修コード	071001
科目名	心理統計学
担当者名	倉住 友恵

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>心理学では、しばしば調査や実験を行い、データを収集する。したがって、心理学を学ぶ者には、こうして得られたデータを適切に分析・処理し、データの持つ特徴を正しく読み取ることが必要とされる。また一方で、他者のまとめた統計データを正しく理解することも同様に重要である。本講義では、これらのスキルを身に付けることを目的とする。</p> <p>講義では主に、統計学の基本的な考え方と概念、分析法を紹介する。時には、実際に手を動かして統計的指標の計算練習も行う。ただし、統計法を学ぶことが目標であって「数学」の授業ではないため、難しい数式の意味や暗記は求めない。今後自分で論文を読んだり、データの収集をおこなった際に、「道具」として統計を使えるようになることが目標となる。</p>
---------------------	--

授業スケジュール

- (前期)
- 第1講 心理学と統計学 (ガイダンス)
  - 第2講 「変数とデータ」「尺度水準」
  - 第3講 「度数分布」「表と図」「代表値」
  - 第4講 「散布度」
  - 第5講 第1回小テスト「正規分布」
  - 第6講 「歪度・尖度」「標準化と偏差値」
  - 第7講 「散布図」「相関」
  - 第8講 「回帰」
  - 第9講 「質的変数とクロス集計表」
  - 第10講 第2回小テスト「連関」
  - 第11講 「母集団と標本」「統計的仮説検定①」
  - 第12講 「統計的仮説検定②」「両側検定・片側検定」
  - 第13講 「標準正規分布表」
  - 第14講 総括
  - 第15講 理解度の確認

- (後期)
- 第1講 前期の復習
  - 第2講 「一つの平均値に関する検定」
  - 第3講 「無相関係数」
  - 第4講 「カイ2乗検定」
  - 第5講 「独立変数と従属変数」「対応の有無」「差を見る分析」
  - 第6講 第1回小テスト「対応のないt検定」
  - 第7講 「対応のあるt検定」
  - 第8講 「1要因の被験者間分散分析」「多重比較」
  - 第9講 「1要因の被験者内分散分析」
  - 第10講 「2要因の分散分析」「交互作用」
  - 第11講 第2回小テスト「重回帰分析」
  - 第12講 「因子分析」
  - 第13講 「その他の多変量解析」
  - 第14講 総括
  - 第15講 理解度の確認

準備学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 数学的な知識は基本的に必要ありませんが、割合 (%)、平方根 (ルート) については各自確認しておいてください。</li> <li>・ 予習は必ずしも必要としませんが、復習は必ず行うようにしてください。</li> </ul>
------	---

履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出席重視の授業です。そのため、原則として全講義に出席してください。</li> <li>・ 本講義では、電卓を使用します。携帯電話等での代用は不可ですので、各自用意してください。</li> </ul>
---------	--

成績評価の方法	出席状況 40%、小テスト 20%、期末試験の成績 40%によって評価する。
---------	--

教科書/テキスト	山田剛史・村井潤一郎 『よくわかる心理統計』 ミネルヴァ書房 2800円 4-623-039999-4
----------	--

参考書	<p>その他の推薦書 (難度 易)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 向後千春・富永敦子 『統計学がわかる—ハンバーガーショップでむりなく学ぶ、やさしく楽しい統計学』 技術評論社 1764円 978-4-7741-3190-0</li> </ul> <p>その他の推薦書 (難度 中)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 吉田寿夫 『本当にわかりやすいすぐ大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本』 北大路書房 2625円 4-7628-2125</li> <li>・ 小塩真司 『SPSSとAmosによる心理・調査データ解析第2版—因子分析・共分散構造分析まで』 東京図書 2940円 978-4-489-02100-8</li> </ul> <p>より詳しく理解できる本 (難度 高)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 南風原朝和 『心理統計学の基礎』 有斐閣アルマ 2310円 978-4641121607</li> </ul>
-----	--

その他	なし
-----	----

履修コード	074101
科目名	精神医学
担当者名	吉川 麻衣子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	精神医学は医師だけに必要な知識ではありません。本講義では、将来、臨床心理・精神保健福祉・介護・社会福祉・作業療法などの分野に進む人にとって必要となる知識に重点を置き、精神医学を幅広く理解することを目的とします。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>【前期】(1)イントロダクション・講義全体の概要(2)脳についての話(3-9)主に内因による精神障害(統合失調症・躁うつ病)についての話、及び神経伝達物質と薬物治療についての話、抑うつと自殺行動についての話(10-15)主に外因による精神障害(認知症、ヘルペス性脳炎後遺症等)についての話</p> <p>【後期】(1)イントロダクション・講義全体の概要(2-6)主に心因による精神障害(不安と恐怖、いわゆる神経症、PTSD、不眠症等)についての話(7-9)児童・青年期精神医学(発達障害など)についての話(10)性格のかたより(人格障害など)についての話(11-15)薬物依存、アルコール依存、病院精神医療、司法精神医療などについての話</p>
----------	---

準備学習	特に必要ありません
履修上の留意点	できるだけ出席し、ノートなどをとるよう心がけてください。
成績評価の方法	出席状況とレポートで評価します。
教科書/テキスト	特別指定しません。推薦書物は授業の中で紹介します。
参考書	

履修コード	072301
科目名	生理心理学
担当者名	谷口 泰富

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	生理心理学は行動の心理的機能と生理的機能の対応関係を研究する科学である。本講は、統合的有機体としての人間の行動を解明するための生物学的基礎について学ぶことを目的とする。
---------------------	--

授業スケジュール	(1)精神身体観とその歴史、(2)神経系の構造と機能、(3~5)中枢神経系と末梢神経系、(6~9)大脳皮質の構造と機能、(10~11)大脳辺縁系の機能、(12)下位脳幹の主たる機能、(13~15)自律神経系と体性神経系、(16~18)感情・情動と生体反応、(19~30)生理心理学的測定(脳波、呼吸運動、心臓・血管運動、皮膚電気活動)とその心理学的活用(実習を含む)
----------	---

準備学習	中学、高校で使用した理科のテキストに目を通しておいて下さい。
履修上の留意点	(1)視聴覚教材を使用した授業や、実習形式の授業があるので、遅刻や欠席をしないでください。 (2)オリエンテーションは第1回目の時間に行います。正規の講義は2回目より始めますが、講義内容は連続しており、中途からの受講では理解が難しくなるので、履修する人は遅くとも2回目からは必ず出席してください。
成績評価の方法	出席、レポート及び定期試験により総合的に評価します。なお、レポート未提出の場合及び実習に出席していない場合は成績評価をしません。
教科書/テキスト	教科書は使用しませんが、参考資料(プリント)を配布します。
参考書	講義の内容に応じて随時参考書等を紹介합니다。

履修コード	071801
科目名	禅心理学
担当者名	茅原 正

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>複雑で、ストレスに満ちた現代、瞑想に関する科学的研究がさかに行われ、身心に及ぼす良好なる効果が数多く発表されている。本学における「禅の心理学的研究」の成果は、国内のみならず国際的にも高く評価されている。心理学科の3年次必修専門科目としての「禅心理学」は、建学の精神を活かすものであり、禅の精神によって培われた、心豊かな「行学一如」の人材の育成を目指す、他大学には例をみない本学の特色である。</p> <p>本講義では、坐禅を主とする禅の心理生理学的研究の歴史、および研究の成果について概観するとともに、実験的課題と展望、禅の心理論理、唯識の心理学などについても考察する。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>本年度は、以下のようなテーマにそって、授業を進めるつもりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 東洋の心理学の特質</li> <li>2. 禅と心理学</li> <li>3. 東洋的行法の研究-日本・外国-</li> <li>4. 禅瞑想の心理・生理学的研究</li> <li>5. 調身・調息・調心</li> <li>6. 「普勧坐禅儀」考</li> <li>7. 禅とコトバ、心理論理</li> <li>8. 「空」の立場</li> <li>9. 「有時」-存在と時間-</li> <li>10. 華嚴の世界観</li> <li>11. 唯識の心理学</li> </ol> <p>4, 5, 6, 7, 9, 10, 11, 12月に、月に一度坐禅の実習を行なう。</p>
----------	--

準備学習	特になし
履修上の留意点	本講義は3年次の必修専門科目であるため、出席を重視する。
成績評価の方法	年度末の定期試験 (70%) , 平常点 (30%)
教科書/テキスト	特に指定しない。
参考書	<p>秋重義治『禅の心理学』(法政大学出版社)</p> <p>春木・清水・水沼(監訳)『瞑想の心理学』(川島書店)</p> <p>児玉和夫(監訳)『瞑想の生理学』(日経サイエンス社)</p> <p>その他、参考文献、資料等については、講義の際、詳しく紹介する。</p>
その他	<p>授業は主として講義の形式で進めるが、OHP、プリント等により、理解しやすいように努めるつもりである。また、坐禅堂の使用が可能であれば、禅の精神を体得するという意味で、月に一度ぐらい坐禅の実習を行う予定である。</p>

履修コード	072401
科目名	認知心理学
担当者名	永田 陽子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>心理学においては心理学的事象をどのような立場で捉えるかという研究上の視点の問題がある。この立場にはいろいろあるが、本講義では、認知という側面に焦点をあてて考察しようとする立場をとる。認知とは生体の能動的な情報収集・処理の活動であり、このような観点から心理学的事象を捉えようとする心理学は認知心理学とよばれる。本講義では、基礎心理学において重要な視点のひとつである認知心理学に対する基本的知識を習得することを目的とする。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>本講義では、認知心理学の歴史を概観した上で、環境からの情報取得(感覚・知覚)と保持(記憶、知識の表象)について、これらの発達過程や障害についての認知科学の研究動向を解説するとともに、授業内で紹介する実験デモンストレーションを体験することにより理解を深める。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 認知とは何か(第1回)</li> <li>2. 認知心理学の歴史的背景(第2~3回)</li> <li>3. 視覚システム(第4~7回)</li> <li>4. パターン認知(第8~10回)</li> <li>5. 物体認知(第11~13回)</li> <li>6. 顔の認知(第14~15回)</li> <li>7. 注意(第16~19回)</li> <li>8. 意識(第20~22回)</li> <li>9. 心的表象(第23~26回)</li> </ol>
----------	--

準備学習	特にありません。
履修上の留意点	
成績評価の方法	筆記試験、出席状況、実験参加状況などを考慮し、総合的に評価します。
教科書/テキスト	
参考書	特定の教科書を使用することはありませんが、適宜、必要な参考図書および文献を紹介いたします。

履修コード	072501
科目名	発達心理学
担当者名	間島 英俊

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義は、エリクソン、E.H.の発達理論を中心に展開する。エリクソンのアイデンティティ理論は、諸君等の年齢が青年期後期に相当するこの時期に、自己の確立すなわちアイデンティティの確立を発達課題となす。彼は、人間の一生を誕生から死に至るまでのライフサイクル理論、ならびにそれに対応する心理・社会的危機論にて説明をしている。ライフサイクルを概観することにより、諸君は「自己」についての過去-現在-未来へのかかわり方の理解が可能になるのである。講義では、各ライフサイクル上にて起こるライフイベント、発達課題、心理社会的危機論ならびにトピックスを紹介し、昨今のエピソードを取り入れながら展開していく予定である。エリクソンのライフサイクルを概観することにより、今後の発達段階をふくめ「自己」について過去-現在-未来へのかかわり方が理解可能になり、アイデンティティ確立をより目指すこととする。
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 発達とは、発達理論Ⅰ) (認知発達、社会的学習理論) DVD視聴覚教材提示</li> <li>2. 発達理論Ⅱ) (精神分析理論、現象学派理論) DVD視聴覚教材提示</li> <li>3. 4. エリクソン、E.H.の発達理論 DVD視聴覚教材提示</li> <li>5. 胎児期：(受精、発生、遺伝) DVD視聴覚教材提示</li> <li>6. 7. 乳児期：発達課題 心理社会的危機 (信頼VS不信) トピック DVD視聴覚教材提示</li> <li>8. 9. 10. 歩行期：発達課題 心理社会的危機 (自律VS恥・疑惑) トピック DVD視聴覚教材提示</li> <li>11. 12. 13. 学童前期：発達課題 心理社会的危機 (積極性VS罪悪感) トピック DVD視聴覚教材提示</li> <li>14. 15. 16. 学童中期：発達課題 心理社会的危機 (勤勉性VS劣等感) トピック DVD視聴覚教材提示</li> <li>17. 18. 19. 青年前期：発達課題 心理社会的危機 (集団同一性VS疎外) トピック DVD視聴覚教材提示</li> <li>20. 21. 22. 青年後期：発達課題 心理社会的危機 (個人的同一性VS役割拡散) トピック DVD視聴覚教材提示</li> <li>23. 24. 25. 成人前期：発達課題 心理社会的危機 (親密生VS孤立) DVD視聴覚教材提示</li> <li>26. 27. 28. 成人中期：発達課題 心理社会的危機 (生殖性VS停滞) DVD視聴覚教材提示</li> <li>29. 30. 成人後期：発達課題 心理社会的危機 (統合VS絶望) DVD視聴覚教材提示</li> </ol>
----------	--

以上のスケジュールにそって1テーマ2～3時間位のペースにて講義を進めていきます。

準備学習	各単元開始前に配布される講義内容をよく読み、その中の課題や問題について事前に予習して準備のこと。また各単元終了後にDVDによる視聴覚教材の提示があるので、そこでは基本的事項を補足するよう復習のこと。
履修上の留意点	講義前半は生物学的知識、特に生殖、胎芽発生や遺伝の知識並びに諸君が他の過去への回顧が必要ですから、しっかり自分と向き合ってください。後半の青年後期は現在、それ以降の発達段階は近い将来のことなので、この講義が終了したときには諸君自身の自己について何らかの理解が示せるよう真摯に受講してほしい。
成績評価の方法	3分の2以上の出席を必須とします。成績は最終講義にて行う授業時間内試験(定期試験と同価値)にて評価します(8割)。後の評価は出席を含む平常点(1割)そして提出物(1割)にて評価します。
教科書/テキスト	教科書は指定しません。
参考書	参考書は資料としてプリントされたものの中で紹介します。なお配布されたプリントは後日再配布しませんので、休む場合は、友人に頼むなり各自でコピーなどして補うこと。
その他	授業中に配布される各単元の講義内容は当日配布以外は配布されませんので、各自工夫のうえ入手されたい。また講義内容、資料等かなりの枚数が配布されるので各自フォルダーを準備して、散逸しないよう保管願います。



履修コード	058711
科目名	犯罪と逸脱の社会学A
担当者名	作田 誠一郎
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	現代社会における犯罪と逸脱に対する基本的な研究方法について概観します。その後、具体的な犯罪と非行に関する諸理論を中心に紹介し、現代社会における犯罪や非行を理解するための社会的なアプローチを身につけることが本講義のねらいです。
授業スケジュール	(1) 逸脱社会学とは何か (2~4) 逸脱現象の研究手法 (5~8) 犯罪・非行の逸脱理論Ⅰ (社会解体論、アノミー論等) (9~11) 犯罪・非行の逸脱理論Ⅱ (レイベリング理論、コントロール理論等) (12~14) 犯罪・非行の逸脱理論Ⅲ (抑止理論、割れ窓理論等) (15) まとめ
準備学習	今日の犯罪や非行に対する理解と関心を高めるために日ごろから新聞等に目を配り、問題意識をもつように心がけてください。また犯罪や非行に関する書籍 (ルポルタージュや犯罪史など) に目を通しておくことは本講義を受講するための事前学習として有益です。
履修上の留意点	詳細は、初回の講義で説明します。
成績評価の方法	期末試験 (3割)、講義内の課題提出・出席 (7割) により評価します。詳細は初回の講義で説明します。
教科書/テキスト	適宜、授業中に資料を配布します。
参考書	下記のほか、講義の中で随時紹介します。 鮎川潤, 1994, 『少年非行の社会学』世界思想社 佐藤郁哉, 1984, 『暴走族のエスノグラフィ—モードの叛乱と文化の呪縛』新曜社デュルクーム (宮島喬訳) 『自殺論』 (訳1985年刊, 中央公論社) 土井隆義, 2003, 『〈非行少年〉の消滅—個性神話と少年犯罪』信山社 ベッカー (村上直之訳) 『アウトサイダーズ—ラベリング理論とはなにか』 (訳1978年刊, 新泉社) ショウ (玉井真理子・池田寛訳) 『ジャック・ローラー—ある非行少年自身の物語』 (訳1998年刊, 東洋館出版社) コーエン (細井洋子訳) 『逸脱と統制』 (訳1968年刊, 至誠堂) マツア (上芝功博・榎本正也・辻本義男・西村春夫・村井敏邦・吉田弘之訳) 『漂流する少年—現代の少年非行論』 (訳1986年刊, 成文堂)
その他	後期に開講される「犯罪と逸脱の社会学B」もあわせて履修することをおすすめします。

履修コード	058721
科目名	犯罪と逸脱の社会学B
担当者名	作田 誠一郎
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	逸脱に対する社会的アプローチから官庁統計やメディア報道について考えていきます。また、犯罪・非行に関わる法執行機関と刑事司法の動向について説明します。その後、日本の犯罪や非行の近代化について明治期以降の歴史的観点から概観します。 後半では、犯罪・非行を中心とした社会問題について後期近代の特徴を踏まえながら論点を取りあげて検討を加えていきます。講義を通じて社会的な視点から逸脱に対する考察力を身につけ、高めることを目的とします。
授業スケジュール	(1) 逸脱に対する社会的アプローチ (2) 官庁統計を読む (3・4) 犯罪報道の特徴と読み解き方 (5・6) 法執行機関と刑事司法のプロセス (7~9) 少年非行史 (10~14) 今日の逸脱研究 (精神医療化、高齢者犯罪、性の逸脱、ホワイトカラー犯罪、学校社会の逸脱等) (15) まとめ
準備学習	今日の犯罪や非行に対する理解と関心を高めるために日ごろから新聞等に目を配り、問題意識をもつように心がけてください。また犯罪や非行に関する書籍 (ルポルタージュや犯罪史など) に目を通しておくことは本講義を受講するための事前学習として有益です。
履修上の留意点	詳細は、初回の講義で説明します。
成績評価の方法	期末試験 (3割)、講義内の課題提出・出席 (7割) により評価します。詳細は初回の講義で説明します。
教科書/テキスト	適宜、授業のなかで資料を配布します。
参考書	下記のほか、講義の中で随時紹介します。 河野義行ほか『報道は何を学んだのか—松本サリン事件以後のメディアと世論』 (2004年刊, 岩波書店) 浜井浩一・芹沢一也『犯罪不安社会—誰もが「不審者」?』 (2006年刊, 光文社、) 日本犯罪学会編『犯罪からの社会復帰とソーシャル・インクルージョン』 (2009年刊, 現代人文社)
その他	前期に開講される「犯罪と逸脱の社会学A」もあわせて履修することをおすすめします。

履修コード	074001
科目名	比較行動学
担当者名	入江 尚子

授業概要/ 到達目標（ねらい）	進化生物学の基礎と、生物の行動理解に対する進化的なアプローチの有効性を理解する。微生物から昆虫、哺乳類といった多様な生物のありようを明らかにするのに共通に用いることができる理論体系であり、ヒトもその対象として例外ではないことを実例を通して学ぶ。さらに、最新の知見に基づきヒトの進化史を再構築し、ヒトを他の動物と異ならせているユニークな特徴とは何かについて検討する。
--------------------	--

授業スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然淘汰による進化という考え方の基礎</li> <li>・群淘汰説に対する批判と包括適度</li> <li>・血縁淘汰と親の投資理論</li> <li>・性淘汰</li> <li>・ヒトの配偶システム</li> <li>・心の進化</li> <li>・大型類人猿とヒトの比較</li> <li>・脳の進化</li> <li>・言語の起源</li> <li>・親と子の対立の理論</li> <li>・親の投資理論と性淘汰</li> <li>・ヒトの進化</li> <li>・ヒトの社会現象の分析</li> </ul>
----------	---

準備学習	授業内で紹介した関連書籍を読むことをはじめ、生物の生態や進化、ヒトの行動の生物学的な基盤について情報を収集し、関心を養う。
------	---

履修上の留意点

成績評価の方法	前期：レポート 後期：レポート・期末レポート
---------	---------------------------

出席

教科書／テキスト	内田亮子『人類はどのように進化したか—生物人類学の現在』勁草書房 シリーズ認知と文化、2,800円、978-4326199426
----------	--

参考書	リチャード・ドーキンス『利己的な遺伝子：増補新装版』紀伊國屋書店、2,940円、978-4314010030 長谷川寿一・長谷川真理子『進化と人間行動』東京大学出版会、2,625円、978-4130120326
-----	--

履修コード	058411
科目名	マス・コミュニケーション論A
担当者名	深澤 弘樹

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 現代を生きる私たちにとって、世の中の出来事を知る手段としてマス・メディアはなくてはならない存在となっている。一方、インターネットの発達により、マス・メディアを媒介とするマス・コミュニケーション活動は日々、変化している。こうした点を踏まえ、本講義では、マス・コミュニケーションの基本的概念や活字から電子メディアに至るメディアの変容過程を概観するとともに、その機能について学ぶ。</p> <p>(到達目標) この講義では、現在のメディア社会において、マス・メディアによる社会的現実の構築作用やジャーナリズムの役割についての理解を深め、メディアを読み解く力を養うことを目的とする。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 私たちの暮らしとメディア</li> <li>3. マス・コミュニケーションの基礎概念</li> <li>4. マス・コミュニケーション発達史 (1) : 活字メディア</li> <li>5. マス・コミュニケーション発達史 (2) : ラジオの登場</li> <li>6. マス・コミュニケーション発達史 (3) : テレビの登場</li> <li>7. マス・コミュニケーション発達史 (4) : テレビの発展</li> <li>8. マス・コミュニケーションの理論 (1) : 強力効果論～限定効果論</li> <li>9. マス・コミュニケーションの理論 (2) : 新強力効果論の展開</li> <li>10. マス・コミュニケーションの理論 (3) : カルチュラル・スタディーズ</li> <li>11. メディアによる社会的現実の構築 (1) : メディア・イベント論</li> <li>12. メディアによる社会的現実の構築 (2) : メディアとナショナリズム</li> <li>13. ジャーナリズム (1) : ジャーナリズムの定義</li> <li>14. ジャーナリズム (2) : 日本的報道の特質</li> <li>15. まとめ</li> </ol>
----------	---

準備学習	日頃から新聞、テレビなどから発せられる情報を漠然と受け入れるのではなく、批判精神、問題意識を持って接した上で授業に臨んでほしい。
------	--

履修上の留意点	遅刻、私語は厳禁。
---------	-----------

成績評価の方法	定期試験の成績70%、平常点30%を基本とし、小テストなどの成績も加味して総合的に評価する。
---------	--

教科書/テキスト	特に使用しない。毎回レジュメを配布して授業を進める。
----------	----------------------------

参考書	<p>メディア、マス・コミュニケーションの基礎的知識を網羅したテキストを何冊か挙げておく。</p> <p>早川善治郎編著『新版 概説マス・コミュニケーション』学文社、3300円、ISBN978-4-7620-2055-1      吉見俊哉『メディア文化論』有斐閣、1800円、ISBN4-641-12190-7      清水英夫・林伸郎・武市英雄・山田健太『新版マス・コミュニケーション概論』学陽書房、2600円、ISBN978-4-313-41052-7</p>
-----	--

履修コード	058551
科目名	民法
担当者名	大宮 隆

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>民法は、我々の日常生活の基本法として、財産と家族に関する事項を規律する法律である。本講義は編別でいうと親族、相続が対象である。出生、婚姻、離婚、扶養、相続という家庭生活の中で人の一生に生起するほとんどの事柄に係わる身近な法律である。学説・判例の到達点を理解する。家庭裁判所調査官補試験などを目指す人に受講を勧めます。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>親族—①婚姻、離婚                ②親子                ③親権、後見補佐補助                ④扶養</p> <p>相続—①遺言                ②法定相続                ③遺留分</p>
----------	---

準備学習	予習が必要である。
------	-----------

履修上の留意点	教科書、条文を読むこと。
---------	--------------

成績評価の方法	平常点と試験の成績を総合して、評価する。
---------	----------------------

教科書/テキスト	『新民法概説 (3) 親族・相続』(有斐閣) 1,800円 ISBN4-641-11265-7
----------	---

参考書	適宜紹介する。
-----	---------

履修コード	072201
科目名	臨床心理学
担当者名	八巻 秀

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	臨床心理学は、様々な臨床現場における心理臨床・心理援助活動を通して生まれてきた学問であり、現在も発展し続けています。つまり「心理臨床の実践による実践のための学問」と言っても過言ではないでしょう。 本講義では、このような臨床心理学とは、どのようなものなのか、どのようにして誕生し、どのように発展してきたのか、現在どのような現場で実際に活かされているのか、などという点について概観していきます。
---------------------	--

授業スケジュール	(1) オリエンテーション、(2~5) 臨床心理学の全体像：臨床心理学とは何か・臨床心理士について、(6~8) 臨床心理学の学問的背景：臨床心理学の誕生と発展・心理臨床学と臨床心理学・日本の臨床心理学の現状、(9~16) 臨床心理学の様々な理論：精神分析学・分析心理学・個人心理学・家族療法・フリーゼラビーなど、(17~27) 心理臨床活動の実際：学校における心理臨床・医療における心理臨床・福祉領域における心理臨床・司法領域における心理臨床、(28~30) 臨床心理学の展開：心のケア活動・社会における心理臨床・これからの心理臨床
----------	--

準備学習	特に必要はありません
履修上の留意点	本来、授業とは、教員から学生への一方的通行では、成立しえないもので、学生と教員との相互作用・やりとりが起ることが大切です。そのためには、ぜひ、積極的・主体的に授業に参加しようとするだけでなく、教員と一緒に授業を作っていくという心構えを持って臨んでください。

成績評価の方法	授業中にほぼ毎回実施するミニレポートと定期試験により、総合的に評価します。
教科書／テキスト	必要に応じて授業中に紹介していきます。
参考書	必要に応じて授業中に紹介していきます。

履修コード	065521 065522
科目名	老人福祉論
担当者名	東條 光雅

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	少子高齢化社会の進展に伴い後期老年期人口が増加し、要介護高齢者の急増、家族介護の深刻化、高齢者虐待の多発など、高齢者やその家族に関わる様々な社会的問題が発生し、医療・年金・介護などの社会保険制度のあり方が大きな政治課題となっている。 本講義では、わが国における高齢化の現状と動向、高齢者や家族を取り巻く状況、これまでの高齢者対策や高齢者福祉制度の変遷、現行の高齢者保健福祉制度等について理解を深めてもらうとともに、今後の高齢者支援のあり方について論じてゆく。
---------------------	--

授業スケジュール	第1回 高齢者の心理・精神的理解 第2回 高齢者の身体的理解 第3回 高齢者の社会的理解 第4回 高齢化・高齢社会の定義とわが国における高齢化の現状 第5回 諸外国における高齢化の状況と少子高齢化の要因 第6回 高齢者を取り巻く諸問題 第7回 高齢者保健福祉の発展過程 第8回 高齢者保健福祉の現行法体系 第9回 老人福祉法 第10回 高齢者医療確保法 第11回 高齢者虐待防止法 第12回 高齢者を支援する組織と役割 (1) 第13回 高齢者を支援する組織と役割 (2) 第14回 高齢者を支援する組織と役割 (3) 第15回 これからの高齢者支援
----------	---

準備学習	特に準備学習する事柄は無く、授業時に集中すること。
履修上の留意点	この授業は講義形式で進めてゆくが、適宜受講生に対して講義内容に関する質問をしたり、意見発表をしてもらう。近年、受講生の私語や居眠りが目立つので、授業態度に問題がある場合には退室してもらう。履修学生は、気を引き締めて授業に臨んでほしい。

成績評価の方法	原則的には、3分の2以上の出席があれば定期試験を受けることができ、定期試験の成績によって評価する。
教科書／テキスト	『高齢者に対する支援と介護保険制度』、新社会福祉士養成講座第13巻、中央法規出版、最新版。

参考書	『社会福祉小六法』、『厚生労働白書』、『国民の福祉の動向』など
その他	講義はパワーポイントを使って行う

履修コード	098801
科目名	労働法
担当者名	藤本 茂

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>今日、雇用社会は、能力主義人事管理の導入に見られるように大きく変貌しています。労働法は、労働問題を平和的に解決する方法を検討する法領域です。この変動に無関係ではありません。</p> <p>労働者に降りかかるさまざまな事象は、最近では雇用関係法領域において顕著です。たとえば、労働基準法改正（近くでは労働時間や年次有給休暇など）、男女雇用平等、労働契約法などです。</p> <p>本講義では雇用関係法領域を中心に、基礎的知識を身につけることを到達目標においています。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>下記事項について、基礎的知識を学びつつ、現代的課題に言及します。</p> <p>1回目の授業のときにプリントを配布してガイダンスをします。</p> <p>以下に、年間スケジュールを掲げます。ただし、重要な裁判などホット・イシューが出されればそれを中心にしたテーマに急ぎよ変更することもあります。また、授業中の理解の様子から変わることもあります。また、調整の回も設けました。したがって、以下のスケジュールは目安です。</p> <p>第1回 ガイダンスー労働法分野と授業で扱う分野  第2回 労働法の対象である雇用社会と労働運動と  第3回 労働法の基礎的考え方  第4回 労働関係の主人公ー労働者、使用者、労働組合  第5回 労働契約と労働契約法  第6回 労働条件の最低基準の法定① 労働の自主性の確保  第7回 労働条件の最低基準の法定② 最低基準の定立の意味  第8回 調整  第9回 雇用における平等① 労基法3条  第10回 雇用における平等② 男女賃金差別の禁止  第11回 雇用における平等③ 男女雇用機会均等法  第12回 労働条件の集团的決定① 労働契約と就業規則  第13回 労働条件の集团的決定② 就業規則について  第14回 労働条件の集团的決定③ 労働組合の役割  第15回 労働条件の集团的決定④ 団体交渉・労働協約  第16回 雇用の入口① 採用  第17回 雇用の入口② 内定制度・試用制度  第18回 人事異動 配転  第19回 雇用の終了① 個別労働関係の終了  第20回 雇用の終了② 法による解雇規制  第21回 雇用の終了③ 解雇権濫用  第22回 調整  第23回 賃金・賞与・退職金① 賃金支払いの原則など  第24回 賃金・賞与・退職金② 賞与・退職金  第25回 労働時間① 労働時間に対する規制  第26回 労働時間② 変形制度など  第27回 労働時間③ 労働時間の例外  第28回 年次有給休暇① 年休権の法的性質  第29回 年次有給休暇② 時季指定・時季変更、計画年休  第30回 調整</p>
----------	---

準備学習	テキストを読むこと（少なくとも該当単元のところは読んで授業に臨んでください）。新聞を読むことなどです。現代雇用問題に関する新書なども読んでください。
------	--

履修上の留意点	出席は義務。欠席はマイナス。私語はNo、携帯電話はOff、内職はNo。そして無断で席を立つこともNo。いわゆる授業のマナーは守ってください。配布プリントは取り上げる項目を列挙したレジュメや資料です。教科書は予習や復習をする上で欠かせないアイテムでしょう。憲法、民法、社会保障法のほか、社会政策は特に履修してほしい科目です。
---------	---

成績評価の方法	成績は、学年末試験がメインで、受験しなければ評価がつきません。レポートや中間試験そして出欠も考慮して評価します。追試験は実施します。
---------	--

教科書／テキスト	教科書は、学修する上での必要アイテムです。学修に臨む自己の熱意によって各自で決めてください。よくわからないという方には、金子征史・藤本茂・高野敏春・大場敏彦共著『基礎から学ぶ労働法Ⅰ[第2版]』（エイデル研究所 2010）を参考までに。もとより、これ以外でもかまいませんが、予備校のテキストはその目的とするところが異なりますので、認めません。
----------	---

参考書	概説書・参考書をいくつか、第1回目の授業において紹介します。六法は最新のもの（法律改正や制定があるので特に注意）。そして、労基法施行規則の載っているものを用意してください。詳しくは、第1回授業で配布するプリントで。
-----	---

その他	各々の事項について法的にはどのように考えていくのか、イメージを描きやすいように、裁判例など具体的な例を掲げながら授業を進めます。
-----	--

履修コード	073701
科目名	老年心理学
担当者名	針金 まゆみ

授業概要/ 到達目標（ねらい）	本講義では、生涯発達という観点を軸に、前半では、心身の加齢変化の特徴について学び、後半では、高齢者が直面する問題とそれに対する心理的援助・対応について学ぶ。特に、心理臨床の応用場面として、認知症や脳卒中の後遺症などによるコミュニケーション障害のある高齢者について、具体例を紹介しながら進める。
--------------------	--

授業スケジュール	<p>前期</p> <p>第1回-2回：少子高齢社会の到来と高齢者の現状</p> <p>第3回-4回：加齢と生涯発達</p> <p>第5回-6回：身体に加齢変化</p> <p>第7回-9回：感覚・知覚・認知機能の加齢変化</p> <p>第10回-11回：高齢者のアセスメント技法</p> <p>第12回-14回：パーソナリティと適応</p> <p>第15回：まとめ</p> <p>後期</p> <p>第16回-17回：高齢者の暮らしと人間関係</p> <p>第18回-19回：老年期の精神病理（1）喪失体験、孤独、死</p> <p>第20回-21回：老年期の精神病理（2）自殺、うつ</p> <p>第22回-25回：老年期の精神病理（3）認知症</p> <p>第26回-27回：高齢者とのコミュニケーション</p> <p>第28回-29回：障害をもつ高齢者に対する心理的援助と対応</p> <p>第30回：まとめ</p>
----------	--

準備学習	講義の中で紹介する参考書を読むこと。
履修上の留意点	
成績評価の方法	期末試験（後期末）および小レポート（2回）。成績の配分は、試験8：小レポート2とする。
教科書／テキスト	指定しない
参考書	講義の中で随時紹介する。

